

坪ノ内遺跡Ⅱ

四国横断自動車道（須崎～窪川間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2008.3

高知県教育委員会
（助）高知県文化財団埋蔵文化財センター

坪ノ内遺跡Ⅱ

四国横断自動車道（須崎～窪川間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2008.3

高知県教育委員会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



調査C区を北から



調査C区を南から

巻頭図版2



調査D区を東から



調査D区を上空から



調査B区とE区を東から

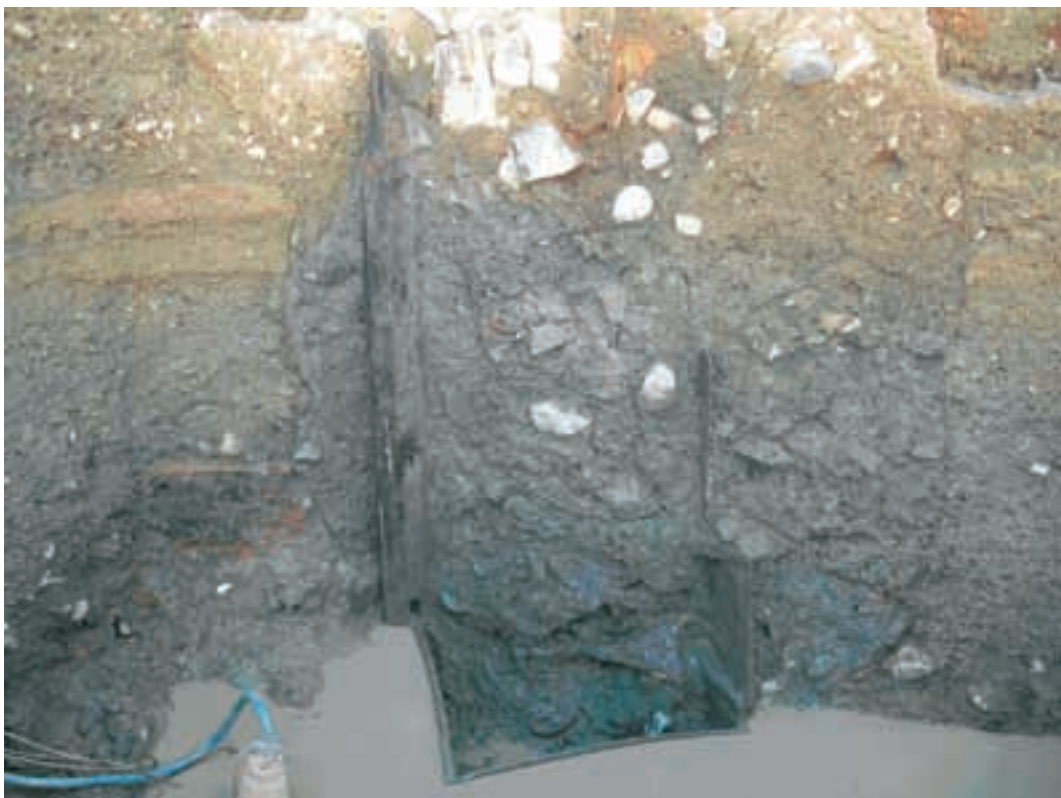


調査B区とE区を北から

巻頭図版4



D区SE1の半裁状態



D区SE1の半裁状態

序

四国地方は多くが険しい山々と谷で遮られた印象が強い土地柄です。海岸線も長く、北の瀬戸内側と南の太平洋側では海の色から景色、気候まで多種多様です。高知県は概ね太平洋に面した東西に長い海岸線を持っています。嘗て柳田国男は『海上の道』の冒頭で、不明な部分が多いこの長い海岸線を持った土佐について、嘆きともつかないように語っています。海に関わる研究では、自然科学の分野で先鞭がつけられ、優れたものが多く見受けられます。そして、海を生産や交通の手段、生業として利用した多くの民についての研究はまだまた途に着いたばかりといった印象が拭えないように思えます。今回の坪ノ内遺跡の調査は道路建設にかかわるものです。今の暮らしの中で、海とのかかわりは希薄で海そのものを意識することがやや難しくなってきました。古、ここに暮らしていた人々は、今よりも深く海と関わり、海からの影響を強く受けていたものと思われれます。未だ明らかにされていないその間隙を少しでも埋めるものであればと考えます。

終りに、今調査で協力いただいた地元中土佐町や周辺住民の方々、教育委員会等の各機関、及び国土交通省四国整備局、株式会社西日本高速の各担当者に感謝いたします。

平成 20 年 3 月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 汲田 幸一

例 言

1. 本書は四国横断自動車道（須崎～窪川間）建設に伴う、坪ノ内遺跡の発掘調査報告書であり、2006年に刊行された「坪ノ内遺跡」に続く第2集である。本書には調査B区、C区、D区、E区の調査成果、ならびに関連する付編を所収する。
2. 坪ノ内遺跡の所在地は、高知県中土佐町久礼である。
3. 調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	(調査期間)	(調査面積)
試掘調査	平成17年6月13日～平成17年6月30日	約630㎡
本調査	平成17年7月27日～平成18年4月30日	約5,200㎡

4. 発掘調査及び整理事業は、高知県教育委員会が日本道路公団四国支社（西日本高速道路）及び国土交通省四国整備局土佐国道事務所と委託契約を締結し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	川村寿雄	(財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・所長)	平成17年度
同	川島博海	(財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・所長)	平成18年度
同	汲田幸一	(財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・所長)	平成19年度
同	湯浅文彦	(同 上)	・次長兼総務課長) 平成17年度
同	森田尚宏	(同 上)	・次長・調査課長)
同	廣田佳久	(同 上)	・調査課長) 平成18・19年度
同	藤方正治	(同 上)	・調査第2班長)
同	久家隆芳	(同 上)	・主任調査員)
同	岩本繁樹	(同 上)	・専門調査員)
調査事務	戸梶友昭	(同 上)	・総務課長) 平成18・19年度
同	池野かおり	(同 上)	・総務課主任) 平成17・18年度
同	長谷川明生	(同 上)	・総務課主幹) 平成17年度
同	谷真理子	(同 上)	・総務課主幹) 平成19年度

技術補助員 武吉眞裕

5. 本書の編集・執筆は武吉と藤方が行った。尚、付編は株式会社吉田生物研究所によるものである。
6. 遺構等の名称については、SE（井戸跡）、SB（掘立柱建物跡）、SA（柵列）、SK（土坑）、SD（水路）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用する。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。
7. 遺物実測図の縮尺は土器・土製品、石器・石製品が1/3、木器・木製品が1/3から1/4である。遺物番号は各調査区での通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号と遺物番号は一致している。
8. 土層ならびに出土遺物の色調については『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
9. 遺跡の測量は、世界測地系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また、挿図中の標高は海拔高を示す。
10. 発掘調査に際しては、地元中土佐町久礼地区をはじめとした周辺地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに暖かい御支援を賜り、調査を円滑に進めることができました。記して衷心より謝意を表します。
11. 発掘調査に際しては、中土佐町教育委員会の御協力を得た。また、発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。

特に、現地での測量に際しては同時に調査を行っていた西山城跡担当の同センター前田憲志主任調査員と矢野雅子技術補助員に協力を得た。衷心より謝意を表します。

12. 発掘調査は道路建設工事と併行して行われたことから、工事に従事して頂いた多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表します。
13. 発掘調査に於ける土砂等の掘削に関しては鍋島建設株式会社の尽力により調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表します。
14. 発掘調査に伴う測量基準点設置は有限会社新日本設計に、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、株式会社四航コンサルタントに委託して実施した。
15. 木器・木製品の保存処理及び樹種同定は、平成18年度と平成19年度にそれぞれ株式会社吉田生物研究所と株式会社京都科学に委託して実施した。
付編には委託して行った分析等の結果、そのうち今回の報告に係わるものを掲載した。
16. 整理作業に際しては、次の方々にご尽力頂いた。御芳名を記して衷心より謝意を表します。
宮本幸子 橋田美紀 入野三千子 門脇菜乃花 竹村延子
17. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記にはこれを使用した。
2005年度…「05-6NTU」 2006年度…「06-6NTU」
18. 出土遺物は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

1. 遺物観察表に使用した省略記号については、以下の特徴が傾向として認められる場合、特に調査に際して多く発見された瓦器と土師器について用いた。

《瓦器》

- A ... 壁、胎土が固く締まりがある。
- B ... 器壁は厚く、胎土が軟質である。
B1...やや硬質、B2...やや軟質
- C ... 口縁外面を強くココナデする。
- D ... 外面にナデが施され、口縁下に段を持たない。
- E ... 口縁は直線的に外上方に向かう。
- F ... 口縁は外反して立ち上がる。
- G ... 口縁は内湾する。
- H ... 底部は平底である。
- I ... 輪高台で、低い断面三角形や台形の高台が付く。
- J ... 平底、押しつぶした平底を呈する。
- K ... 還元的環境による焼成が施される。
- L ... 酸化雰囲気による焼成が施される。
- M ... 炭素吸着が成される。
M1...内面のみ吸着、M2...外面のみ吸着
- N ... 炭素吸着が認められない。

《土師器》

- O ... 胎土が硬質で締まりを持つ。
- P ... 胎土は肌理の細かな粘土で構成される。
P1...やや硬質、P2...やや軟質
- Q ... 胎土中に砂や小礫を多く含む。

- R ... 白色系の胎土を有する。
- S ... 内面にロクロ目を残す。
- T ... 外面にロクロ目を残す。
- U ... ナデが卓越する。
- V ... 口縁は直線的に立ち上がる。
- W ... 口縁は外反する。
- X ... 口縁は内湾する。

《特徴》

- c ... 口縁端部を丸く修める。
- c1...細く仕上げる。c2...太く丸味を持つ
- g ... 主に指頭による押圧痕を残す。
- l ... 底部に糸切痕を残す。
- k ... 底部に圧痕を残す。
- h1... 底部端で屈折する。
- h2... 底部端は丸味を持つ。
- h3... 底部端は緩く曲がる。
- i1... 底部端で明瞭な段を持つ。
- i2... 底部端で緩い段を持つ。
- j ... 底部端は突出する。
- n ... ナデを施す。
- m ... ミガキを施す。

2. 観察表の記載時に参考文献として、中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1955年と、『日本出土の貿易陶磁 西日本 I』国立歴史民族博物館 1993年を使用した。

本文目次

第Ⅰ章 環境.....	2
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査概要.....	5
第Ⅲ章 調査の成果	
第1節 坪ノ内遺跡の地質と基本層序.....	11
第2節 C区の調査	
1. C区検出遺構.....	14
第3節 D区の調査	
1. D区検出遺構	109
第4節 B区の調査	
1. B区検出遺構.....	209
第5節 E区.....	265
考察1 掘立柱建物跡データと木組井戸跡遺存資料の関係.....	283
	武吉眞裕
考察2 B区弥生文化層の堆積上の性格について.....	285
	武吉眞裕
付 編 坪ノ内遺跡出土木製品の樹種調査結果.....	287
	株式会社 吉田生物研究所

挿図目次

Fig. 1	坪ノ内遺跡と周辺の遺跡 (S:1/25,000)	1
Fig. 2	調査区の位置図 (S:1/1,000)	6
Fig. 3	坪ノ内遺跡C区全体図 (S:1/200)	7~8
Fig. 4	C区第1トレンチ東断面・確認トレンチ北断面 (S:1/40)	9~10
Fig. 5	C区SB3掘立柱建物跡 (S:1/80)	17~18
Fig. 6	C区SB16・SB17・SB18掘立柱建物跡 (S:1/80)	19~20
Fig. 7	C区第2トレンチ東断面第1部 (S:1/40)	21
Fig. 8	C区第2トレンチ東断面第2部・C区西端中世文化層 (S:1/40)	22
Fig. 9	C区・D区の掘立柱建物跡・柵列群検出図 第1部 (S:1/500)	23
Fig. 10	C区・D区の掘立柱建物跡・柵列群検出図 第2部 (S:1/500)	24
Fig. 11	C区SB4掘立柱建物跡 (S:1/80)	25
Fig. 12	C区SB5掘立柱建物跡 (S:1/80)	26
Fig. 13	C区SB7掘立柱建物跡 (S:1/80)	27
Fig. 14	C区SB8掘立柱建物跡 (S:1/80)	28
Fig. 15	C区SB9掘立柱建物跡 (S:1/80)	29
Fig. 16	C区SB11掘立柱建物跡 (S:1/80)	30
Fig. 17	C区SB12掘立柱建物跡 (S:1/80)	31
Fig. 18	C区SB13掘立柱建物跡 (S:1/80)	32
Fig. 19	C区掘立柱建物跡SB3・SB4の柱穴 (S:1/20)	33
Fig. 20	C区掘立柱建物跡SB5の柱穴 (S:1/20)	34
Fig. 21	C区掘立柱建物跡SB5・SB7の柱穴 (S:1/20)	35
Fig. 22	C区掘立柱建物跡SB8・SB10・SB11・SB12の柱穴 (S:1/20)	36
Fig. 23	C区掘立柱建物跡SB13・SB16の柱穴 (S:1/20)	37
Fig. 24	C区SA2・SA3柵列 (S:1/80)	38
Fig. 25	C区SA4・SA5柵列 (S:1/80)	39
Fig. 26	C区柵列SA2・SA3・SA5の柱穴 (S:1/20)	40
Fig. 27	C区SE1素掘り井戸跡 (S:1/40)	41
Fig. 28	C区SK1土坑 (S:1/20)	42
Fig. 29	C区SK16土坑 (S:1/20)	44
Fig. 30	C区出土遺物1 (S:1/3)	46
Fig. 31	C区出土遺物2 (S:1/3)	47
Fig. 32	C区出土遺物3 (S:1/3)	48
Fig. 33	C区出土遺物4 (S:1/3)	49
Fig. 34	C区出土遺物5 (S:1/3)	50
Fig. 35	C区出土遺物6 (S:1/3)	51
Fig. 36	C区出土遺物7 (S:1/3)	52
Fig. 37	C区出土遺物8 (S:1/3)	53
Fig. 38	C区出土遺物9 (S:1/3)	54
Fig. 39	C区出土遺物10 (S:1/3)	55

Fig. 40	C区出土遺物 11 (S:1/3)	56
Fig. 41	C区出土遺物 12 (S:1/3)	57
Fig. 42	C区出土遺物 13 (S:1/3)	58
Fig. 43	C区出土遺物 14 (S:1/3)	59
Fig. 44	C区出土遺物 15 (S:1/3)	60
Fig. 45	C区出土遺物 16 (S:1/3)	61
Fig. 46	C区出土遺物 17 (S:1/3)	62
Fig. 47	C区出土遺物 18 (S:1/3)	63
Fig. 48	C区出土遺物 19 (S:1/3)	64
Fig. 49	坪ノ内遺跡D区全体図 (S:1/200)	107 ~108
Fig. 50	D区SB 1掘立柱建物跡 (S:1/80)	112
Fig. 51	D区SB 2掘立柱建物跡 (S:1/80)	113
Fig. 52	D区SB 6掘立柱建物跡 (S:1/80)	114
Fig. 53	D区SB10・SB14掘立柱建物跡 (S:1/80)	115
Fig. 54	D区SB19掘立柱建物跡 (S:1/80)	116
Fig. 55	D区SB20掘立柱建物跡 (S:1/80)	117
Fig. 56	D区掘立柱建物跡SB 1・SB 2の柱穴 (S:1/20)	118
Fig. 57	D区掘立柱建物跡SB 2・SB 6の柱穴 (S:1/20)	119
Fig. 58	D区掘立柱建物跡SB 6・SB 7・SB14の柱穴 (S:1/20)	120
Fig. 59	D区掘立柱建物跡SB14の柱穴 (S:1/20)	121
Fig. 60	D区掘立柱建物跡SB14・SB19・SB20の柱穴 (S:1/20)	122
Fig. 61	D区掘立柱建物跡SB20・柵列SA 1の柱穴 (S:1/20)	123
Fig. 62	D区SA 1柵列とその周辺 (S:1/80・S:1/40)	124
Fig. 63	D区SE 1木組井戸跡 平面図	125 ~126
Fig. 64	D区SE 1木組井戸跡 断面図 (S:1/20)	127
Fig. 65	D区SE 1井戸跡 木組検出正面図 (S:1/20)	128
Fig. 66	D区SE 1井戸跡 木組第1面 復元正面図 (S:1/20)	129
Fig. 67	D区SE 1井戸跡 木組第2面 復元正面図 (S:1/20)	130
Fig. 68	D区SE 1井戸跡 木組第3面 復元正面図 (S:1/20)	131
Fig. 69	D区SE 1井戸跡 木組第4面 復元正面図 (S:1/20)	132
Fig. 70	D区SE 1井戸跡 木組の復元俯瞰図 (S:1/20)	133
Fig. 71	D区SE 3素掘り井戸跡 (S:1/40)	134
Fig. 72	D区SE 1木組井戸・SK16・SK17土坑の切合平面図 (S:1/80)SK17土坑の縦断面図 (S:1/20)	135 ~136
Fig. 73	D区SK17土坑の横断ベルト両断面図 (S:1/20)	137
Fig. 74	D区SK16土坑縦断面・SD-A溝跡横断面図 (連続図S:1/20)	139 ~140
Fig. 75	D区SK16土坑横断面- 1・2・3 (S:1/20)	141
Fig. 76	D区SK16土坑横断面- 4・5・6 (S:1/20)	142
Fig. 77	D区SK 3・SK 5・SK 6・SK 8土坑 (S:1/20)	143
Fig. 78	D区出土遺物 1 (S:1/3)	145
Fig. 79	D区出土遺物 2 (S:1/3)	146

Fig. 80	D区出土遺物 3 (S:1/3)	147
Fig. 81	D区出土遺物 4 (S:1/3)	148
Fig. 82	D区出土遺物 5 (S:1/3)	149
Fig. 83	D区出土遺物 6 (S:1/3)	150
Fig. 84	D区出土遺物 7 (S:1/3)	151
Fig. 85	D区出土遺物 8 (S:1/3)	152
Fig. 86	D区出土遺物 9 (S:1/3)	153
Fig. 87	D区出土遺物 10 (S:1/3)	154
Fig. 88	D区出土遺物 11 (S:1/3)	155
Fig. 89	D区出土遺物 12 (S:1/3)	156
Fig. 90	D区出土遺物 13 (S:1/3)	157
Fig. 91	D区出土遺物 14 (S:1/3)	158
Fig. 92	D区出土遺物 15 (S:1/3)	159
Fig. 93	D区出土遺物 16 (S:1/3)	160
Fig. 94	D区出土遺物 17 (S:1/3)	161
Fig. 95	D区出土遺物 18 (S:1/3)	162
Fig. 96	D区出土遺物 19 (S:1/3)	163
Fig. 97	D区出土遺物 20 (S:1/3)	164
Fig. 98	D区出土遺物 21 (S:1/3)	165
Fig. 99	D区出土遺物 22 (S:1/3)	166
Fig. 100	D区出土遺物 23 (S:1/3)	167
Fig. 101	D区出土遺物 24 (S:1/3)	168
Fig. 102	D区出土遺物 25 (S:1/3)	169
Fig. 103	D区出土遺物 26 (S:1/3)	170
Fig. 104	D区出土遺物 27 (S:1/3)	171
Fig. 105	D区出土遺物 28 (S:1/3)	172
Fig. 106	D区出土遺物 29 (S:1/3)	173 ~ 174
Fig. 107	坪ノ内遺跡 B区全体図 (S:1/200)	207 ~ 208
Fig. 108	B区 北部東境の地層 (S:1/40)	211 ~ 212
Fig. 109	B区 南境の地層・第4トレンチの地層 (S:1/40)	213 ~ 214
Fig. 110	B区北西部斜堆層 (中世・弥生文化層 ;S:1/40)	215 ~ 216
Fig. 111	B区掘立柱建物跡検出図 (S:1/500)	217
Fig. 112	B区 SB15 掘立柱建物跡 (S:1/80)	218
Fig. 113	B区 SB21 掘立柱建物跡 (S:1/80)	219
Fig. 114	B区 掘立柱建物跡SB15の柱穴 (S:1/20)	220
Fig. 115	B区 掘立柱建物跡SB15・SB21の柱穴 (S:1/20)	221
Fig. 116	B区柱穴 (S:1/20)	222
Fig. 117	B区柱穴 (S:1/20)	223
Fig. 118	B区柱穴 (S:1/20)	224
Fig. 119	B区 SK31 土坑 (S:1/20)	225
Fig. 120	B区 P813・SK42 土師器出土状況図 (S:1/20)	226

Fig. 121	B区 SK34・SK35 土坑 (S:1/20).....	227
Fig. 122	B区 SK36 土坑 (S:1/20).....	228
Fig. 123	B区 SX1 性格不明遺構 (S:1/20).....	229
Fig. 124	B区 斜堆部弥生文化面検出全図 (S:1/100).....	230
Fig. 125	B区 斜堆部SK32 土坑跡 (S:1/20).....	231
Fig. 126	B区 斜堆層検出の弥生遺物高度分布 (S:1/100).....	232
Fig. 127	B区出土遺物 1 (S:1/3).....	233
Fig. 128	B区出土遺物 2 (S:1/3).....	234
Fig. 129	B区出土遺物 3 (S:1/3).....	235
Fig. 130	B区出土遺物 4 (S:1/3).....	236
Fig. 131	B区出土遺物 5 (S:1/3).....	237
Fig. 132	B区出土遺物 6 (S:1/3).....	238
Fig. 133	B区出土遺物 7 (S:1/3).....	239 ~240
Fig. 134	坪ノ内遺跡E区全体図 (S:1/200).....	265
Fig. 135	E区出土遺物 1 (S:1/3).....	266
Fig. 136	E区出土遺物 2 (S:1/3).....	267
付図 1	D区 SE 1 井戸枠 (柱1・柱2)	
付図 2	D区 SE 1 井戸枠 (柱3・柱4)	
付図 3	D区 SE 1 井戸枠 (1面)	
付図 4	D区 SE 1 井戸枠 (2面)	
付図 5	D区 SE 1 井戸枠 (3面)	
付図 6	D区 SE 1 井戸枠 (4面)	
付図 7	D区 SE 1 井戸枠	

表目次

表 1	坪ノ内遺跡沖積層の概要.....	9~10
表 2	C区SB 3 柱筋計測表.....	17~18
表 3	C区SB 4 柱筋計測表.....	25
表 4	C区SB 7 柱筋計測表.....	27
表 5	C区SB 8 柱筋計測表.....	28
表 6	C区SB 9 柱筋計測表.....	29
表 7	C区SB11柱筋計測表.....	30
表 8	C区SB12柱筋計測表.....	31
表 9	C区遺構計測表 1	66
表 10	C区遺構計測表 2	67
表 11	C区遺構計測表 3	68
表 12	C区遺構計測表 4	69
表 13	C区遺構計測表 5	70
表 14	C区遺構計測表 6	71
表 15	C区遺構計測表 7	72
表 16	C区遺構計測表 8	73
表 17	C区遺構計測表 9	74
表 18	C区遺構計測表 10.....	75
表 19	C区遺構計測表 11.....	76
表 20	C区遺構計測表 12.....	77
表 21	C区遺物観察表 1	78
表 22	C区遺物観察表 2	79
表 23	C区遺物観察表 3	80
表 24	C区遺物観察表 4	81
表 25	C区遺物観察表 5	82
表 26	C区遺物観察表 6	83
表 27	C区遺物観察表 7	84
表 28	C区遺物観察表 8	85
表 29	C区遺物観察表 9	86
表 30	C区遺物観察表 10.....	87
表 31	C区遺物観察表 11.....	88
表 32	C区遺物観察表 12.....	89
表 33	C区遺物観察表 13.....	90
表 34	C区遺物観察表 14.....	91
表 35	C区遺物観察表 15.....	92
表 36	C区遺物観察表 16.....	93
表 37	C区遺物観察表 17.....	94
表 38	C区遺物観察表 18.....	95
表 39	C区遺物観察表 19.....	96

表 40	C区遺物觀察表 20.....	97
表 41	C区遺物觀察表 21.....	98
表 42	C区遺物觀察表 22.....	99
表 43	C区遺物觀察表 23.....	100
表 44	C区遺物觀察表 24.....	101
表 45	C区遺物觀察表 25.....	102
表 46	C区遺物觀察表 26.....	103
表 47	C区遺物觀察表 27.....	104
表 48	C区遺物觀察表 28.....	105
表 49	C区遺物觀察表 29.....	106
表 50	D区SB 1 柱筋計測表.....	112
表 51	D区SB 6 柱筋計測表.....	114
表 52	D区遺構計測表 1.....	176
表 53	D区遺構計測表 2.....	177
表 54	D区遺構計測表 3.....	178
表 55	D区遺構計測表 4.....	179
表 56	D区遺構計測表 5.....	180
表 57	D区遺構計測表 6.....	181
表 58	D区遺構計測表 7.....	182
表 59	D区遺物觀察表 1.....	183
表 60	D区遺物觀察表 2.....	184
表 61	D区遺物觀察表 3.....	185
表 62	D区遺物觀察表 4.....	186
表 63	D区遺物觀察表 5.....	187
表 64	D区遺物觀察表 6.....	188
表 65	D区遺物觀察表 7.....	189
表 66	D区遺物觀察表 8.....	190
表 67	D区遺物觀察表 9.....	191
表 68	D区遺物觀察表 10.....	192
表 69	D区遺物觀察表 11.....	193
表 70	D区遺物觀察表 12.....	194
表 71	D区遺物觀察表 13.....	195
表 72	D区遺物觀察表 14.....	196
表 73	D区遺物觀察表 15.....	197
表 74	D区遺物觀察表 16.....	198
表 75	D区遺物觀察表 17.....	199
表 76	D区遺物觀察表 18.....	200
表 77	D区遺物觀察表 19.....	201
表 78	D区遺物觀察表 20.....	202
表 79	D区遺物觀察表 21.....	203
表 80	D区遺物觀察表 22.....	204

表 81	D区遺物観察表 23 (木器・木製品)	204
表 82	D区遺物観察表 24 (木器・木製品)	205
表 83	D区遺物観察表 25 (木器・木製品)	206
表 84	B区SB21柱筋計測表	219
表 85	B区遺構計測表 1	242
表 86	B区遺構計測表 2	243
表 87	B区遺構計測表 3	244
表 88	B区遺構計測表 4	245
表 89	B区遺構計測表 5	246
表 90	B区遺構計測表 6	247
表 91	B区遺構計測表 7	248
表 92	B区遺構計測表 8	249
表 93	B区遺構計測表 9	250
表 94	B区遺構計測表 10	251
表 95	B区遺構計測表 11	252
表 96	B区遺構計測表 12	253
表 97	B区遺構計測表 13	254
表 98	B区遺構計測表 14	255
表 99	B区遺構計測表 15	256
表100	B区遺物観察表 1	257
表101	B区遺物観察表 2	258
表102	B区遺物観察表 3	259
表103	B区遺物観察表 4	260
表104	B区遺物観察表 5	261
表105	B区遺物観察表 6	262
表106	B区遺物観察表 7	263
表107	B区遺物観察表 8	264
表108	B区遺物観察表 9 (木製品)	264
表109	E区遺構計測表 1	268
表110	E区遺構計測表 2	269
表111	E区遺構計測表 3	270
表112	E区遺構計測表 4	271
表113	E区遺構計測表 5	272
表114	E区遺構計測表 6	273
表115	E区遺物観察表 1	274
表116	E区遺物観察表 2	275
表117	D区 SE1 木組井戸跡の地層 D区 SE1 断面 (図Fig.64) 対照	276~277
表118	D区 SB2 柱筋計測表	278
表119	C区 SB5 柱筋計測表	278
表120	D区 SB10柱筋計測表	278
表121	C区 SB13柱筋計測表	279

表122	D区 SB14柱筋計測表.....	279
表123	B区 SB15柱筋計測表.....	280
表124	C区 SB16柱筋計測表.....	280
表125	C区 SB17柱筋計測表.....	281
表126	C区 SB18柱筋計測表.....	281
表127	D区 SB19柱筋計測表.....	282
表128	D区 SB20柱筋計測表.....	282

写真図版目次

- 巻頭図版 1 上 : 調査C 区を北から
下 : 調査C 区を南から
- 巻頭図版 2 上 : 調査D 区を東から
下 : 調査D 区を上空から
- 巻頭図版 3 上 : 調査B 区とE 区を東から
下 : 調査B 区とE 区を北から
- 巻頭図版 4 上 : D 区SE1 の半裁状態
下 : D 区SE1 の半裁状態
- PL. 1 上 : C 区の北半を東から
下 : C 区を南東から
- PL. 2 上 : C 区の西北部を北から
下 : C 区の中央部を北から
- PL. 3 上 : C 区の東部遺構検出状態を東から
下 : C 区の東部遺構検出状態を北から
- PL. 4 上 : C 区の西南部を北から
下 : SE 1 を西から
- PL. 5 C 区遺構 5
重機による掘削開始, 東壁の南東部, 東壁,
D7-21, D8-1 グリッドの検出状態, C7-24・25 グ
リッドの検出状態, SK1 の検出状態
- PL. 6 C 区遺構 6
SK1 の検出状態, SK1 の遺物出土状態, SK1 の半
裁状態, SK1, SK2 の半裁状態
- PL. 7 C 区遺構 7
SK7 の半裁状態(北東から), SK7 の半裁状態(北
半を西から), SK7 の半裁状態(南半を西から),
SK11 の半裁状態(北東から), SK11 の半裁状態
(南から), SK12 の半裁状態(北西から), SK17
の半裁状態(北東から), SK17 の半裁状態(東
から)
- PL. 8 C 区遺構 8
SK17 の半裁状態(南東から), SE1 の半裁状態
(東半を北から), SE1 の半裁状態(北半を西か
ら), SE1 の半裁状態(東半を南から), SE1 の半
裁状態(西半を南から), SD3 (西から), 遺物出
土状態(677), 遺物出土状態(678)
- PL. 9 C 区遺構 9
遺物出土状態(左:679, 右:680), 遺物出土状態
(684), 遺物出土状態(687), 遺物出土状態(690),
遺物出土状態(691), 遺物出土状態(693), 遺物
出土状態(700), 遺物出土状態(701)
- PL. 10 C 区遺構 10
遺物出土状態(704), 遺物出土状態(669), 鉄滓
の出土状態, 遺物出土状態(707), P1 の半裁状態,
P4 の半裁状態, P15 の遺物出土状態
- PL. 11 C 区遺構 11
右:P14, 左:P15, P19, P20 の半裁状態, 左:P22,
右:P23 の半裁状態, P30 の半裁状態, P37 の柱痕,
P43 の半裁状態, P49 の半裁状態
- PL. 12 C 区遺構 12
P79 の遺物出土状態, P80 の半裁状態, P81 の遺
物出土状態, 右:90, 左:102 の半裁状態, P104 の
遺物出土状態(383), P106 の半裁状態, P107 の
半裁状態, P120 の出土状態
- PL. 13 C 区遺構 13
P132 の検出状態, P143 の半裁状態, P143 の出土
状態, P144 の半裁状態, P145 の半裁状態, P146
の遺物出土状態, P147 の半裁状態, P168 の半裁
状態
- PL. 14 C 区遺構 14
P171 の半裁状態, P180 の半裁状態, P185 の半
裁状態, P188 の半裁状態, P189 の出土状態, P190
の半裁状態, P201 の半裁状態, P212 の半裁状態
- PL. 15 C 区遺構 15
P237 の半裁状態, 右:P238, 左:P239 の半裁状態,
P240 の半裁状態, P250 の半裁状態, P251 の半裁
状態, P255 の半裁状態, P257 の半裁状態, P312
の半裁状態
- PL. 16 C 区遺構 16
P391 の半裁状態, P393 の柱痕, P398 の半裁状
態, P401 の半裁状態, P402 の半裁状態, P403 の
半裁状態, P404 の半裁状態, P437 の半裁状態
- PL. 17 C 区遺構 17
P438 の半裁状態, P444 の半裁状態, P448 の半裁
状態, P462 の半裁状態, P476 の半裁状態, P477
の半裁状態, 左:P479, 右:P480 の半裁状態,
P479 の半裁状態
- PL. 18 C 区遺構 18
P480 の半裁状態, P481, P482, P484, P485, P486,
P487 の遺物出土状態(665), P500
- PL. 19 C 区遺構 19
P502, P509 の半裁状態, P509, P533 の半裁状態,
P540 の半裁状態, P589 の半裁状態, P662, P694
の半裁状態
- PL. 20 上 : D 区を南から
下 : D 区を北から
- PL. 21 上 : D 区の南半を東から
下 : D 区の南半を西から
- PL. 22 上 : D 区SE 1 を北から
下 : D 区SE 1 を南から

- PL. 23 上 :D 区SE2を東から
下 :D 区SE2を西から
- PL. 24 上 :D 区SK16・17を北東から
下 :D 区SK17を南西から
- PL. 25 D 区遺構 6
調査区より南側を望む, D 区東壁を北から, D 区東壁北側を西から, D 区東壁中北を西から, D 区東壁中央を西から, 包含層の遺物出土状態 (D7-11), 包含層の遺物出土状態 (C7-8), 包含層の遺物出土状態 (C6-23)
- PL. 26 D 区遺構 7
包含層の遺物出土状態 (C6-19), 包含層の遺物出土状態 (鉄刀), 包含層の遺物出土状態 (D6-23), SD-C の遺物出土状態, SD-C の遺物出土状態 (31), SD1 遺物出土状態, SD2 半裁状態, SE1 遺物出土状態
- PL. 27 D 区遺構 8
SE1 の井戸枳出土状態 (縦板), SE1 の井戸枳出土状態, SE1 の半裁状態, SE1 の井戸枳出土状態, SE1 の井戸枳出土状態 (横板), SE1 の井戸枳出土状態 (柱・横板)
- PL. 28 D 区遺構 9
SE1 の井戸枳出土状態 (柱・横板), SE1 の井戸枳出土状態, SE1 の井戸枳出土状態 (横板), SE1 の井戸枳出土状態 (横板), SE2 の半裁状態, SE2 の遺物出土状態 (556), SK1 の半裁状態, SK2 の半裁状態
- PL. 29 D 区遺構 10
SK4 の半裁状態, SK5 の半裁状態, SK6 の半裁状態, SK8 の半裁状態, SK9 の半裁状態, SK13 の半裁状態, SK15 の半裁状態, SK16 の遺物出土状態
- PL. 30 D 区遺構 11
SK16 の遺物出土状態, SK16 の遺物出土状態, SK17 の遺物出土状態, P1 の半裁状態, P3 の検出状態, P4 の半裁状態, P5 の半裁状態, P6 の半裁状態
- PL. 31 D 区遺構 12
P7 の半裁状態, P12 の半裁状態, P15 の半裁状態, P16 の半裁状態, P18 の半裁状態, P21 の半裁状態, P22 の半裁状態, P24 の半裁状態
- PL. 32 D 区遺構 13
P27 の半裁状態, P28 の半裁状態, P32 の半裁状態, P36 の半裁状態, P39 の半裁状態, P45 の半裁状態, P46 の半裁状態, P51 の半裁状態
- PL. 33 D 区遺構 14
P58 の半裁状態, P62 の半裁状態, P65 の半裁状態, P70 の半裁状態, P76 の半裁状態, P77 の半裁状態, P78 の半裁状態, P80 の半裁状態
- PL. 34 D 区遺構 15
P82 の半裁状態, P84 の半裁状態, P87 の半裁状態, P88 の半裁状態, P114 の半裁状態, P115 の半裁状態, P135 の半裁状態, P139 の半裁状態
- PL. 35 D 区遺構 16
P144 の半裁状態, P145 の半裁状態, P146 の半裁状態, P147 の半裁状態, P148 の半裁状態, P149 の半裁状態, P150 の半裁状態, P154 の半裁状態
- PL. 36 D 区遺構 17
P159 の半裁状態, P161 の半裁状態, P163 の半裁状態, P167 の半裁状態, P169 の半裁状態, P230 の出土状態, P231 の半裁状態, P240 の半裁状態
- PL. 37 D 区遺構 18
P257 の半裁状態, P260 の半裁状態, P261 の半裁状態, P294 の半裁状態, P295 の半裁状態, P331 の半裁状態, P331 の出土状態, P332 の半裁状態
- PL. 38 D 区遺構 19
P341 の半裁状態, P344 の半裁状態, P351 の半裁状態, P352 の半裁状態, P355 の半裁状態, P356 の半裁状態, P357 の半裁状態, P359 の半裁状態
- PL. 39 上 :B 区の西南部を南から
下 :B 区の東南部を南から
- PL. 40 上 :B 区の北半を東から
下 :B 区とE 区を南から
- PL. 41 上 :B 区の南半を北から
下 :B 区の北半を南から
- PL. 42 B 区遺構 4
SD4 の半裁状態, SD4 北半の半裁状態, SK5 の半裁状態, SK5, SK6 の半裁状態, SK7 の半裁状態, SK8 の半裁状態, SK8
- PL. 43 B 区遺構 5
SK10 の半裁状態, SK11 の半裁状態, SK20 の半裁状態, SK24 の半裁状態, SK25 の半裁状態, SK25, SK26 の半裁状態, SK27 の半裁状態
- PL. 44 B 区遺構 6
SK28, SK29 の半裁状態, SK31, SK38 の半裁状態, SK40 の半裁状態, SX1 の半裁状態 (北西から), SX1 の半裁状態 (南東から), SX1 の半裁状態 (南から)
- PL. 45 B 区遺構 7
左 :P12, 右 :P13 の半裁状態, 右 :P24, 左 :P33 の半裁状態, P41 の半裁状態, P50 の半裁状態, P51 の半裁状態, P61 の半裁状態, P62 の半裁状態, P90 の半裁状態
- PL. 46 B 区遺構 8
P91 の半裁状態, P92 の半裁状態, P93 の半裁状態, P96 の半裁状態, P98 の半裁状態, P104 の半裁状態, P105 の半裁状態, P107 の半裁状態

- PL. 47 B区遺構 9
P108の半裁状態, P111の半裁状態, P122の半裁状態, P123の半裁状態, P159の半裁状態, P168の半裁状態, P170の半裁状態, P171の半裁状態
- PL. 48 B区遺構 10
P178の半裁状態, P184の半裁状態, P189の半裁状態, P190の半裁状態, P193の半裁状態, P196の半裁状態, P199の半裁状態, P205の半裁状態
- PL. 49 B区遺構 11
右:P208, 左:P211の半裁状態, P220の半裁状態, P223の半裁状態, P238の半裁状態, P239の半裁状態, 左:P245, 右:P246の半裁状態, P249の半裁状態, P251の半裁状態
- PL. 50 B区遺構 12
P258の半裁状態, P259の半裁状態, P263の半裁状態, P265の半裁状態, P266の半裁状態, P267の半裁状態, P276の半裁状態, P286の半裁状態
- PL. 51 B区遺構 13
P288の半裁状態, P290の半裁状態, P291の半裁状態, P296の半裁状態, P297の半裁状態, P307の半裁状態, P308の半裁状態, P309の半裁状態
- PL. 52 B区遺構 14
P311の半裁状態, P319の半裁状態, P323の半裁状態, P324の半裁状態, P329の半裁状態, P332の半裁状態, P333の半裁状態, P335の半裁状態
- PL. 53 B区遺構 15
P337の半裁状態, P340の半裁状態, P341の半裁状態, P344の半裁状態, P345の半裁状態, P351の半裁状態, P352の半裁状態, P354の半裁状態
- PL. 54 B区遺構 16
P355の半裁状態, P362の半裁状態, P368の半裁状態, P369の半裁状態, P371の半裁状態, P376の半裁状態, P381の半裁状態, P383の半裁状態
- PL. 55 B区遺構 17
P384の半裁状態, P386の半裁状態, P387の半裁状態, P388の半裁状態, P389の半裁状態, P394の半裁状態, P405の半裁状態, P406の半裁状態,
- PL. 56 B区遺構 18
P407の半裁状態, P411の半裁状態, P412の半裁状態, P420の半裁状態, P431の半裁状態, P435の半裁状態, P436の半裁状態, P437の半裁状態
- PL. 57 B区遺構 19
P439の半裁状態, P441の半裁状態, P448の半裁状態, P449の半裁状態, P451の半裁状態, P457の半裁状態, P461の半裁状態, P462の半裁状態
- PL. 58 B区遺構 20
P468の半裁状態, P469の半裁状態, P470の半裁状態, P471の半裁状態, P475の半裁状態, P476の半裁状態, P477の半裁状態, P491の半裁状態
- PL. 59 B区遺構 21
P491の半裁状態, P496の半裁状態, P504の半裁状態, P505の半裁状態, P515の半裁状態, P551の検出状態, P551の半裁状態, P552の半裁状態
- PL. 60 B区遺構 22
P553の半裁状態, P558の半裁状態, P569の半裁状態, P595の半裁状態, P610の半裁状態, P669の半裁状態, P670の半裁状態, P671の検出状態
- PL. 61 上:E区を南から
下:E区を南から
- PL. 62 上:E区の北半を北東から
下:E区の北半を北東から
- PL. 63 上:E区SE1を南東から
下:E区のSE1を北東から
- PL. 64 E区遺構 4
E区の調査風景, E区の西半, SK1の検出状態, SK1, SK2の半裁状態, SK3の検出状態, SK4の検出状態, SK5の半裁状態
- PL. 65 E区遺構 5
SK6の半裁状態, SK7の検出状態, SK7の半裁状態, SK9の検出状態, SK11の検出状態, SE1の遺物出土状態 (4), SE1の半裁状態 (南から), SE1 (南から)
- PL. 66 E区遺構 6
P1の半裁状態, P2の半裁状態, P3の半裁状態, P4の半裁状態, P5の半裁状態, P7の半裁状態, P9の半裁状態, P11, P12, P18の検出状態
- PL. 67 E区遺構 7
P11の半裁状態, P11, P15の半裁状態, P16の半裁状態, P24の半裁状態, P26の検出状態, P27の検出状態, P29の半裁状態
- PL. 68 E区遺構 8
P30の半裁状態, P33の検出状態, P33の半裁状態, 左:P40, 右:P41の検出状態, P44の半裁状態, P71, P73の半裁状態, P79の検出状態
- PL. 69 E区遺構 9
P84の検出状態, P85の検出状態, P85の半裁状態, P88の検出状態, P96の検出状態, P105の検出状態, P106の検出状態, P134の検出状態
- PL. 70 E区遺構 10
P168の検出状態, P168の出土状態, P173の半裁状態, P177の検出状態, P177の半裁状態, 左:P179, 右:P180の検出状態, 左:P179, 右:P180の半裁状態, P181の半裁状態
- PL. 71 E区遺構 11
P202の半裁状態, P210の遺物出土状態, P211の検出状態, P246の半裁状態, P252の半裁状態,

- P256の半裁状態, P257の半裁状態, P267の半裁状態
- PL. 72 E区遺構 12
P269の検出状態, P270の検出状態, P272の検出状態, P274の検出状態, P275の遺物出土状態(24), P283の検出状態, P285の検出状態, P285の半裁状態
- PL. 73 E区遺構 13
P287の検出状態, P307の検出状態, P312の検出状態, P313の検出状態, P313の遺物出土状態(25), P313, P314の半裁状態, P315の検出状態
- PL. 74 E区遺構 14
P316の半裁状態, P322の検出状態, P323の検出状態, P326の半裁状態, P327の半裁状態, P328の検出状態, P329の検出状態, P331の検出状態
- PL. 75 E区遺構 15
P332の検出状態, P333の検出状態, P336の検出状態, P339の検出状態, P351の検出状態, P352の検出状態, P353の検出状態, P357の検出状態
- PL. 76 E区遺構 16
P358の検出状態, P359の検出状態, P359の半裁状態, P362の検出状態, P363の検出状態, P368の遺物出土状態, P371の検出状態, P374の検出状態
- PL. 77 E区遺構 17
P375の検出状態, P378の検出状態, P381の検出状態, P382の検出状態, P385の検出状態, P386の検出状態, P388の検出状態, P389の検出状態
- PL. 78 出土遺物 1 (C区 :2, 19, 27, 28, 30, 31, 32, 34)
- PL. 79 出土遺物 2 (C区 :36, 38, 39, 41, 44, 45, 46, 53)
- PL. 80 出土遺物 3 (C区 :55, 58, 59, 66, 95, 96, 102, 103)
- PL. 81 出土遺物 4 (C区 :109, 152, 175, 183, 184, 185, 187, 192)
- PL. 82 出土遺物 5 (C区 :195, 202, 218, 306, 314, 315, 323, 325)
- PL. 83 出土遺物 6 (C区 :326, 377, 429, 484, 519, 553, 589, 600)
- PL. 84 出土遺物 7 (C区 :615, 638, 654, 657, 663, 665, 675, 678)
- PL. 85 出土遺物 8 (C区 :684, 696, 697, 698, 700, 701・D区 :7, 48)
- PL. 86 出土遺物 9 (D区 :49, 52, 53, 54, 56, 57, 58, 59)
- PL. 87 出土遺物 10 (D区 :60, 61, 63, 65, 66, 67, 69, 70)
- PL. 88 出土遺物 11 (D区 :72, 135, 220, 231, 236, 235, 294, 304)
- PL. 89 出土遺物 12 (D区 :318, 319, 336, 345, 346, 391, 396, 410)
- PL. 90 出土遺物 13 (D区 :413, 419ほか)
- PL. 91 出土遺物 14 (D区SE1 井戸枠 柱1 558, 柱2 559)
- PL. 92 出土遺物 15 (D区SE1 井戸枠 柱3 560, 柱4 561)
- PL. 93 出土遺物 16 (D区SE1 井戸枠 縦板564, 565, 574, 575)
- PL. 94 出土遺物 17 (D区SE1 井戸枠 縦板573, 578, 580)
- PL. 95 出土遺物 18 (D区SE1 井戸枠 横板562, 567, 572, 577)
- PL. 96 出土遺物 19 (D区SE1 井戸枠 横棧566, 571, 576, 581, 583, 585, 586)
- PL. 97 出土遺物 20 (D区SE1 井戸枠 横棧582, 589, 588, 587, 縦板584)
- PL. 98 出土遺物 21 (D区SE1 出土木製品 :537, 539, 540, 542, 543, 547, 548, 549, 550, 551)
- PL. 99 出土遺物 22 (D区出土木器・木製品 :552, 553, 554, 555, 556)
- PL.100 出土遺物 23 (D区・B区の出土木器・木製品 :D区 545, 546, 557 他, B区174, 176)
- PL.101 出土遺物 24 (C区 :588, 616, 496, 16, 424, 137, 542, 643, 706, 253, 682, 558)
- PL.102 出土遺物 25 (C区 :699, 466, 353, 573, 127, 671, 691, 677, 669, 686, 670)
- PL.103 出土遺物 26 (C区 :494, 637, 269, 488, 689, 664)
- PL.104 出土遺物 27 (C区 :171, 380)
- PL.105 出土遺物 28 (C区 :17, 581, 683, 170, 18, 487, 382, 687, 259)
- PL.106 出土遺物 29 (D区 :211, 132, 214, 525, 205, 502, 514, 519, 516, 529, 530)
- PL.107 出土遺物 30 (D区 :209, 522, 511, 506, 510, 508, 505, 526, 507)
- PL.108 出土遺物 31 (D区 :207, 131, 509, 512, 504, 35, 213, 503, 210)
- PL.109 出土遺物 32 (D区 :472, 392, 527, 379, 471, 335, 487, 129, 130, 127, 480, 521)
- PL.110 出土遺物 33 (D区 :140, 476, 478, 204, 497, 491, 203, 486, 481, 489)
- PL.111 出土遺物 34 (D区 :475, 494, 479, 474, 483, 212, 477, 482, 206, 470, 202, 490)
- PL.112 出土遺物 35 (D区 :310, 493, 500, 488, 498, 496, 201, 495, 501, 492, 499)
- PL.113 出土遺物 36 (D区 :520, 473, 133, 528, 515, 518, 208, 523, 517, 524)
- PL.114 出土遺物 37 (D区 :464, 532, 2, 531, 484, 533, 466, 457, 485, 513, 465, 534)
- PL.115 出土遺物 38 (D区 :431, 452, 1, 449, 461, 463)
- PL.116 出土遺物 39 (D区 :194, 34, 144, 217, 215, 218, 216, 253)
- PL.117 出土遺物 40 (D区 :425, 426)
- PL.118 出土遺物 41 (D区 :394, 445, 196, 439, 440, 358, 438,

- 442, 441, 444, 126, 443)
- PL.119 出土遺物 42 (D区 :423, 428, 433, 430, 468, 276, 460, 437, 436, 434)
- PL.120 出土遺物 43 (D区 :193, 200, 199, 3, 469, 124)
- PL.121 出土遺物 44 (D区 :259, 429, 427, 386)
- PL.122 出土遺物 45 (B区 :150, 67, 90, 144, 121, 151, 82, 139, 115, 160, 86, 85)
- PL.123 出土遺物 46 (B区 :140, 157)
- PL.124 出土遺物 47 (B区 :70, 84, 83, 129)
- PL.125 出土遺物 48 (B区 :158, 125, 124, 162, 88, 120)
- PL.126 出土遺物 49 (E区 :5, 11, 19, 21, 2, 3, 4, 25)
- PL.127 出土遺物 50 (E区 :7, 6, 14)
- PL.128 D区SE 1の調査 1
- PL.129 D区SE 1の調査 2
- PL.130 D区SE 1の調査 3
- PL.131 C区柱穴の検出
- PL.132 D区柱穴の検出
- PL.133 C区・D区の遺構
- PL.134 調査風景 1
- PL.135 調査風景 2
- PL.136 調査風景 3

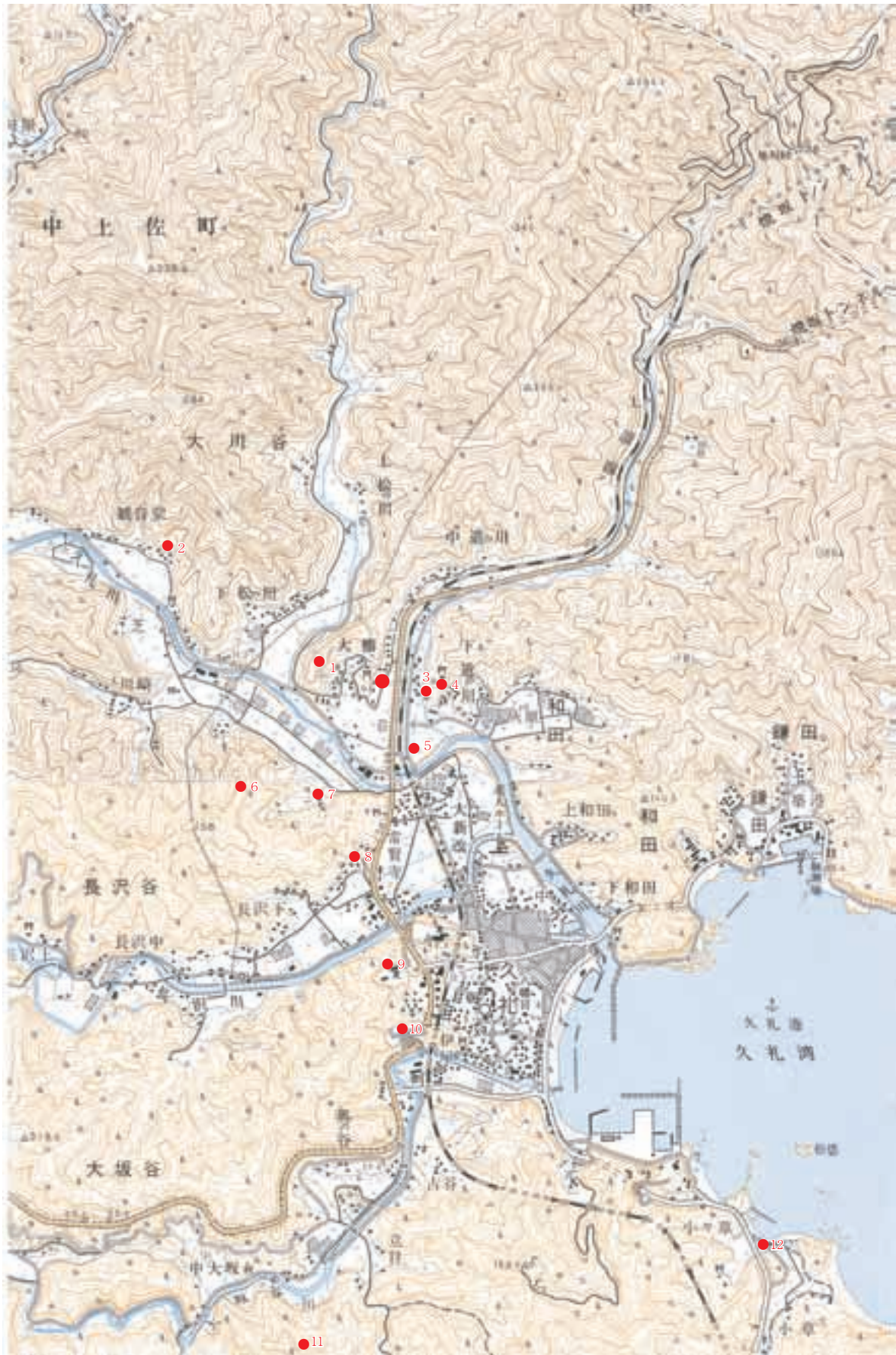


Fig.1 坪ノ内遺跡と周辺の遺跡 (S : 1/25,000)

第 I 章 環境

地形

中土佐町久礼は、高知市内から四万十市（中村）方面行きの列車で約 1 時間余りかかります。須崎市辺りから車窓には海が見え始めます。久礼の手前、安和に至って列車やそれとほぼ平行して走る車の窓全体に南側に大きく広がる太平洋を見ることができます。一気に光の量が増えるのです。ここから以西、景色そのものが高知県中央部と変化するように思われます。この辺りまで、列車は四国山地を成す東西に連なる険しい山々や深い谷を埋めて発達した地溝



調査区西隣の五輪塔

平野を縫うように走ってきましたが、ここから先は海と高さをやや低くした山々が明るさを増した印象を与えるのかもしれませんが。古の幡多国の入口はこの辺りにあるように思われます。この辺りは、地質的に太平洋プレートの移動によりもたらされた岩屑物で形成された付加帯の一つである四万十帯に属します。久礼地区を流れる河川は小規模なものが多いのですが、比較的大きなものとして大坂谷川、久礼川、長沢川の 3 本の河川が見られます。南部の七子峠、奥大坂を源とする大坂谷川、長沢谷を流れる長沢川、黒石野（くれしの）など久礼地区北部の谷からの流れを集めた久礼川などがあります。高知県内を流れる河川には複数の地質帯を突切っているものがあり、河川堆積物には比較的色彩が多いのですが、四万十帯のみをその流域に持つ中土佐町内を流れる河川は、河原に砂岩や泥岩を中心とした比較的地味な色合いを呈しています。丁度四万十川の河原によく似ているのです。現在、久礼の市街地は南東側に開いた弧状の久礼湾奥にあり、先に挙げた 3 河川の河口に発達しました。嘗て更新世の末に後退した海岸線により、深く削り込まれた谷は完新世になってからの堆積作用で現在のような平地が発達し始めたと考えられます。河川堆積物と海流により現在久礼八幡宮などが立地する海岸堤防が南から発達しはじめ、双名島などの陸繋島を含めた弧状の久礼湾が形成されます。海岸堤防の裏側に取り残された希水域はそれ自体も生産域となるものの、外洋から遮られた静かな入江として後世の人々の行き来や生業を担ったことでしょう。久礼地区は背後に 300m から 500m の屏風のごとく連なる山々を持ち、海岸線も南北で尾根や丘陵部に隔てられており、一部には破碎帯が存在し交通の難所を形作っています。交易や四国遍路など人の行き来が頻繁で、本蚯蚓や添蚯蚓、七子峠、焼坂などの山道や安和に至る海岸沿いの道などの陸路は決して安易なものではなかったと考えられます。背後と左右に山と尾根を持ち、前面の一方向のみを海に開いたこの土地は“蔵風碍水”的な土地であると云えましょう。13 世紀当時の中心的都市である鎌倉の立地要件と共通するところがあるのかもしれませんが。また、この



調査区西側の曾我神社

ことは久礼川や長沢川の河口に良港を得たこの土地の発達、海から始められ、海路が非常に重要なものであったことを物語るのでしょう。

立地

坪ノ内遺跡は久礼川の下流部で合流するその支流のひとつ、道の川が形成する谷に存在しています。遺跡域の下層でも洪水性の堆積物が顕著に認められています。一部ではそれによる生活痕の破壊もあったでしょう。久礼川の直接的な影響は遺跡域の南端部に残されていました。現在の河道より北側に遷移した時期のものと考えられます。道の川は現在河道を谷の東寄りに置いています。乾期であれば顕著な流れを認めません。ところが調査中に気づくこととなりますが、纏まった降雨が続く時期には遺跡域が標高 4m から 5m であることも相まって地下水位が上昇し、排水がままならない状態に陥ることがしばしば発生しました。比較的新しい段階まで遺跡周辺の陸化が遅れたのかもしれませんが。道の川は北の山間から比較的近距离で海へ至っています。山々からもたらされる十分な伏流水は嘗ての河口部分で人の移動を助け、平野部にすむ人々の生命の源となり、生業として海に良好な漁場を形成しているのでしょう。

周辺の遺跡

坪ノ内遺跡では平成 16 年に A 地点で調査が行われています。鎌倉時代から江戸時代の遺物が発見されており、15 世紀代の総柱の掘立柱建物跡が見つかっています。今回の調査地点は長宗我部地検帳の記載で“ツホノ内”と見られる場所に相当すると考えられます。地検帳の段階では現在の山裾に沿って連なる集落の形態を成していたものと思われ



久礼八幡宮

れます。遺跡の西隣の尾根上には曾我神社があります。(現在、この神社の管理は、社が正面する灰原集落が担当している。) この谷は北村古戦場とされており、谷の東側の尾根には灰原五輪塔群⁽³⁾が存在しています。また、東側の尾根末端には宗善寺跡⁽⁴⁾があったとされています。この谷の開口部分は久礼川の影響も受ける箇所です。小字名として“大門”などの名が見られます、時期はやや先行しますがこの辺りに大門遺跡⁽⁵⁾が確認されています。曾我神社の西、大棚の尾根には西山城⁽¹⁾があり、地検帳にも“西山ノ子”との記載が見られます。久礼川の上流には観音堂跡⁽²⁾、南面する尾根状には岡の谷城跡⁽⁶⁾が存在しています。この他に中土佐町久礼地区には、市街地近くに池ノ谷遺跡⁽⁷⁾や常賢寺跡⁽⁸⁾、中世佐竹氏の居城とされる久礼城跡⁽⁹⁾があり、青木城跡⁽¹⁰⁾、尼伽森城跡⁽¹¹⁾、小草五輪塔⁽¹²⁾などが残されています。佐竹氏が久礼に現れるのは 13 世紀中頃とされています。佐竹氏は元々常陸の国、今の茨城県北部を治領としていましたが、平安時代末に源頼朝の挙兵の際に一旦滅ぼされています。この時期関東でも復興していますので、久礼の荘園経営に関わる九条家を通じて派生するのかもしれませんが。何れにしても、西国の東国諸氏による支配の一つと見ることもできるでしょう。

背景

坪ノ内遺跡を含めた列島の中央部には、荘園などの私有財産制を基調として 12 世紀末に鎌倉幕府が成立しています。この時期、楠葉など京都周辺部や畿内には瓦器の生産で特徴的な場所があり

ますが、各地でも瓦器を在地で生産していたものと考えられています。当時ここで暮らしていた人々の食事には、回転台を用いた土師器や瓦器、漆器などが供膳具として使われていたのでしょう。魚住窯や神出窯のこね鉢、備前産の播鉢や甕、太平洋沿岸を中心に流通したとされる常滑の甕などが、貯蔵や調理具として利用されていたものと考えられます。奄美大島産のカムイ焼や長崎県西彼杵産の石鍋、結物・曲物などの木製容器の流通からは、南西諸島沿いに発達していた航路など東シナ海を通じての活発な交易や博多などの中心的な港を主とした一元的な流通から各荘園を単位とした交易形態への時間的な変化が伺えます。東アジアでは既に大陸で10世紀(960年)に趙匡胤を太祖として宋が興ります。庶民を中心とした文化が盛行した時代で、現在に連なる身近な時代として捉えられています。“中世”文化の発祥が中原ではこの時期にあたるのでしょうか。浙江省や福建省で焼かれた青磁が流通し始めるのもこの頃のことです。江南は元々自由主義的な考え方が広く受け入れられる土地柄で、中央とやや考え方に隔たりがあったものとされていますが、北宋末にはこの江南出身の王安石が宰相となり改革を進めます。やがて北方に台頭してきた金に駆逐され南宋となってからも合理的なものの考え方のもとに、人の移動も活発になったと考えられています。中国文化の中心からやや離れた江南地方、このうち海に面した地方のいわゆる海民集団も流通の担い手として海上にあったものと考えられます。東アジアではこういった背景のもとに東シナ海を倭人と呼ばれる集団?が活発に往来し、一部は交易に、また一部は今で云えば国籍不定の輩として各地に出没していたことでしょう。当然、この中には次の時代に見られるような地球規模の交易を私的な欲求の中で始めた人々がいて、それが顕在化してくる時期とも云えるでしょう。当時半島にあった高麗はその末期に“倭寇”と呼ばれるこれら集団に悩まされ続けています。この倭寇を駆逐した李成桂によって朝鮮王朝が起てられます。朝鮮王朝は交易の場を制限し、国の管理の下に置こうとします。この時期は、やがて15世紀以降に見られる国家による強い支配や統一的思想を伴った交易に取って代わられる前の、人々の意志が沸騰し爛熟した時期であったと考えられます。



久礼川から西山城を望む

参考文献

- | | |
|---|---|
| 『日本の地質 四国地方』共立出版 | 家島彦一 『イブン・バツータの世界大旅行』平凡社新書 |
| 『角川地名大辞典』角川書店 | 増田義郎 『太平洋—開かれた海の歴史』集英社新書 |
| 出原恵三 「第V章まとめ」『坪ノ内遺跡』高知県文化財団
埋蔵文化財センター2006年 | 五味文彦 『体系日本の歴史5 鎌倉と京』 |
| 武吉真裕 『広報 なかとさ』2006年 | 鈴木康之 「滑石製石鍋の流通と消費」『鎌倉時代の考古学』高志書院 2006年 |
| 貝塚茂樹 『中国の歴史』岩波新書 | 鈴木康之 「桶樽の流通」考古学研究2006年 |
| 陳舜臣 『中国の歴史5』講談社文庫 | 池田榮史 「カムイヤキ(類須恵器)」『鎌倉時代の考古学』高志書院 2006年 |
| 金両基 『物語 韓国史』中公文庫 | 梅津一朗 「元寇、倭寇、日本国王」『日本史講座4 中世社会の構造』東京大学出版会2004年 |
| 村井章介 『中世倭人伝』岩波新書 | |
| 網野善彦 『日本中世の民衆像』岩波新書 | |
| 樋口忠彦 『日本の景観』ちくま学芸文庫 | |

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査概要

四国横断道路は、高松市から高知市を經由して四国地方西南部に至る高速道路であり、国土交通省四国整備局、日本道路公団及び株式会社西日本高速が主体となって敷設計画、工事を進めている。坪ノ内遺跡に関わる部分は須崎から窪川に至る工事区間の中頃で、中土佐 IC の設置箇所に相当している。平成 15 年に日本道路公団から高知県教育委員会に調査の要請があり、確認調査の結果、山裾部分を中心として遺構が検出された。また、周辺でも土器等の遺物が発見されている。このことから、坪ノ内遺跡の一部（A 区）が調査委託を受けた財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターによって平成 16 年度に発掘された。続く平成 17 年に約 50m 南へ離れた B 区と C 区での確認調査でも遺構等が検出された。このことから、平成 17 年 7 月から翌年 4 月まで本調査を行った。

調査は町道を挟んで西側の部分から行った。ここを既に開始していた仮説道路工事との兼ね合いから、便宜上北側の D 区と南側の C 区とに二分し、調査は南側の C 区から開始した。この調査区は既に用地の買収が完了した時点で表土の搬出が行われており、その際に遺物包含層と遺構の一部が失われてしまっていた。にもかかわらず、遺構の残存は良好であった。調査を進めるに従い、遺構の重複が明らかになると、調査を担当するものにとっては感動ともとれるやや乾いた喜びを覚えた。遺構は山裾を中心として密度濃く分布し、道の川の影響を受けやすかったと考えられる現在国道 56 号線が敷設されている土手の近くまで及んでいる。また、南へは今回の調査区外へも延びてゆくものと考えられた。B 区、E 区を含めた今回の調査では約 3,000 個のピットが検出されている。調査は夏の間比較的晴天に恵まれたが、秋になって台風等の纏まった雨水により地下水位が上昇し調査区内からの排水が儘ならない状態が続いた。晩秋になってようやく調査は D 区に移行する。ここでは、区画溝と考えられる溝状遺構（SD-C）を挟んで南側に遺構が集中することが確認された。また、当時のものと考えられる木組井戸跡（SE1）を良好に発見するに至ったのは幸運であった。平成 18 年の 1 月から調査は B 区を主として行い、北隣する E 区でも並行して行った。B 区北側と E 区の大部分は礫質の土層で遺構の検出と掘削にやや難行した。B 区の中央部分は C 区・D 区と同様に遺構の濃い分布が良好に残されていた。また、山裾の斜面には弥生前期末の土器破片を含んだ土層を発見することができた。この包含層部分の調査については 3 月末に至って四国整備局土佐国道事務所との協議の上、地元の中土佐町や工事関係者の協力を得て平成 18 年 4 月の 1 ヶ月間発掘調査を延長して実施することができた。精査にも関わらず、残念ながら生活の中心と考えられる住居跡等は発見できなかったが、周辺に於いても先人の痕跡を見いだすことは決して不可能ではないだろう。

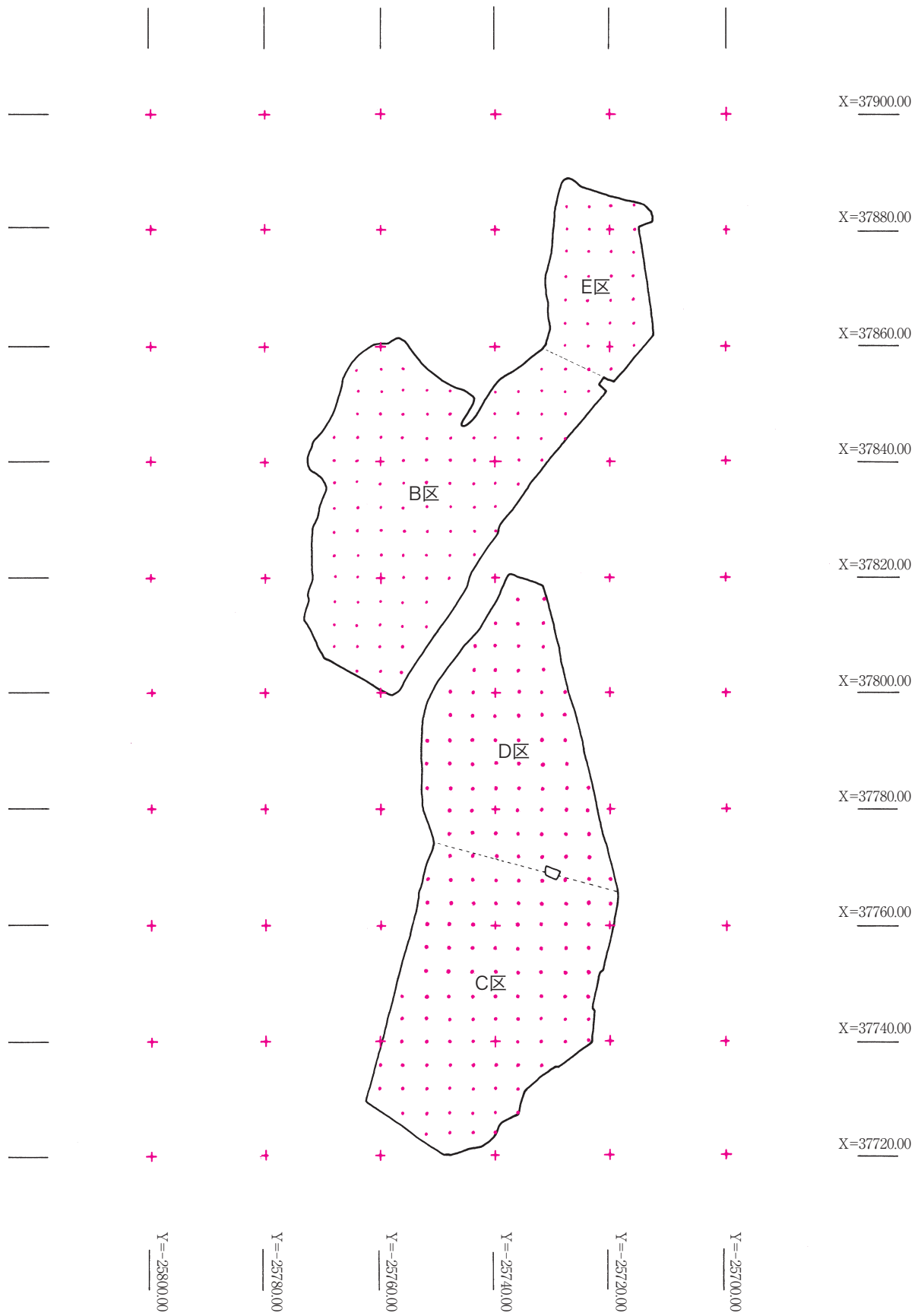


Fig.2 調査区の位置図 (S : 1/1,000)



Fig.3 坪ノ内遺跡C区全体図 (S:1/200)

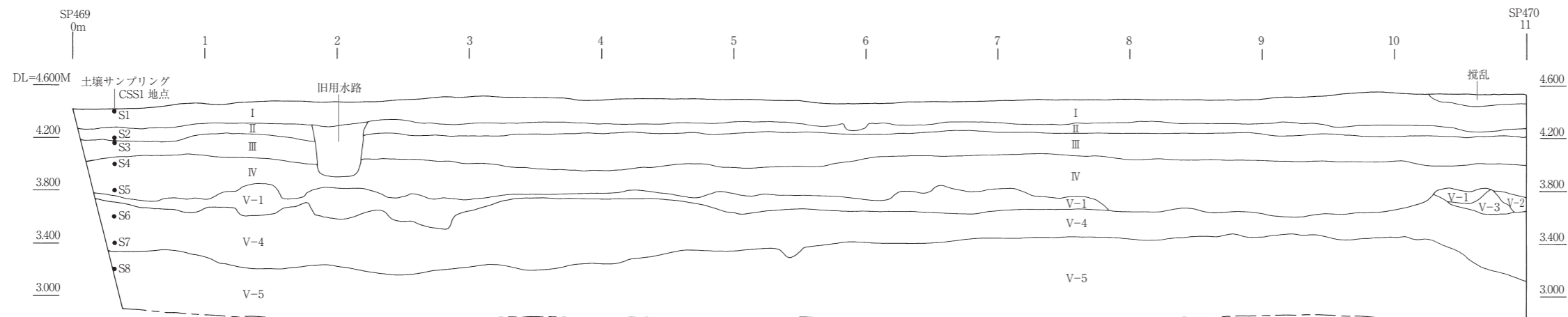


図1 C区第1トレンチ東断面

層位	土性	土色	性格	鬼界アカホヤ K - Ah	水酸化鉄集積	二酸化マンガン 集積	遺物	土壌の締り	CSS1 地点 堆積物の基質 (細礫以下の粒子)			
									サンプル番号	細礫%	砂%	泥質物%
第I層	砂混じり粘土質 シルト	灰色 N6/	水田型の現耕作土	微含			ビニール製品・近 世以後の陶磁器等	やや弱	S1 - SL4.40M	0	17.42	82.58
第II層	砂混じりシルト質 粘土	明黄褐色 10YR6/6	鋤床	微含	全体に水酸化 鉄が集積			特に強	S1 - SL4.20M	0.85	18.26	80.89
第III層	砂礫混じり粘土質 シルト	褐灰色 7.5YR5/1	中世の文化層	微含		点状斑が顕著	土師器・瓦器・須 恵器・青磁・白磁・ 石鍋・鉄等	やや強	S1 - SL4.16M	7.73	20.23	72.04
第IV層	砂混じりシルト質 粘土	にぶい黄褐色 10YR6/3	上位層からの掘り 方が貫入	微含		密度の低い点状 斑が分布	土器または土師器 の微片を稀に見る	強	S1 - SL4.00M S1 - SL3.80M	2.09 5.25	18.91 31.84	79.00 62.91
第V-1層	粘土混じり砂利	褐灰色 10YR6/1	河成層	—					—	—	—	—
第V-2層	シルト混じり砂利	褐灰色 7.5YR5/1	河成層	—					—	—	—	—
第V-3層	砂質シルト	にぶい黄褐色 10YR6/3	河成層	—					—	—	—	—
第V-4層	砂利混じり粘土	にぶい黄褐色 10YR5/3	河成層	微含				やや強	S1 - SL3.60M S1 - SL3.40M	15.61 8.77	32.79 33.88	51.60 57.35
第V-5層	砂利	褐灰色 10YR5/1	河成層	微含				やや弱	S1 - SL3.20M	62.7	31.53	5.77

表1-1 坪ノ内遺跡沖積層の概要表 (基本層序) Fig.4-図1付表

遺構	埋積層位	土性	土色	性格	備考	地震痕跡補足
SD-A	1	砂利混じりシルト	褐灰色 10YR5/1	溝跡 SDA の 埋積土	砂利粒子φ 20mm 以下	
SD-A	2	砂混じりシルト質 粘土	にぶい黄褐色 10YR6/3	溝跡 SDA の 埋積土		
SD-A	3	砂質シルト	褐灰色 10YR5/1	溝跡 SDA の 埋積土	少量の砂利φ 40mm 以下を含む	
SD-A	4	粘土	黄灰色 2.5Y6/1	溝跡 SDA の 埋積土	SD-A 基底層；砂利φ 10mm 以下を少含	
第III層	砂礫混じり粘土質 シルト	褐灰色 7.5YR5/1	中世の文化層	文化層掘削調査の残存部分		
第IV層	砂混じりシルト質 粘土	にぶい黄褐色 10YR6/3	滞水域水成層	SD-A の東側では噴砂層を覆うと推定するが、その層界は識別 し得なかった；柱穴 CP. の西側掘り方に沿って西側の層準が陥没 したように見える。		
第V-1層	砂利	灰色 N6/	河成層	砂利粒子はφ 20mm 以下、水磨の度合いが低く、垂円～角粒； SD-A の東側で直下砂層の液状化による砂脈が貫通する (SM1・ SM4)；柱穴 CP. の下方で最大幅20cmの地割れ (AZ) を生じている。	砂脈 SM1 は、直下層由来の円礫φ 20mm も含む；多の砂 脈と同様にIV層の水準に上昇するが、IV層基底で消失する のか、IV層直下に噴砂層を形成するのかわかりとしない。	
第V-2層	粘土	灰白色 2.5Y7/1	河成層	薄層		
第V-3層	砂利	灰色 N6/	河成層	薄層		
第V-4層	シルト混じり砂	にぶい黄褐色 10YR5/3	河成層	少量の円礫φ 20mm 以下が混じる；水酸化鉄が軽度集積；層準 に液状化の形跡が鮮明に見られる；SD-A の東側では砂脈を上 昇させ、柱穴 CP. の下方では断層と亀裂の一端を見る。	大地震によると見られる地割れ (AZ) の底は、このIV- 4層に至るが、その延長は逆断層のように見えた。	

表1-2 C区確認トレンチ北断面地層 Fig.4-図2付表

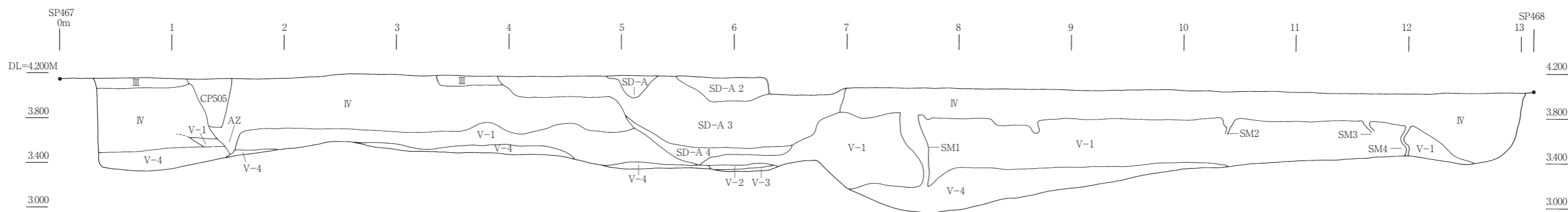


図2 C区確認トレンチ北断面



Fig.4 C区第1トレンチ東断面・確認トレンチ北断面 (S:1/40)

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 坪ノ内遺跡の地質と基本層序

坪ノ内遺跡の当該年次調査区（以下、坪ノ内遺跡と略称）は、中土佐町北限の焼坂峠から南西に延びる山丘の東端直下に所在する。この地点の前面すなわち東側を焼坂峠に分水する「道の川」が流れ、久礼川に合した後、遺跡南方約 2km の久礼港に注ぐ。この自然地勢と歴史過程の人為がゆえに、発掘調査は「道の川」沖積層に止まらず、山際の部分では森林土を主成分とする崖垂性堆積末端のほか、一部岩盤表面までを対象とした。

この経緯にしたがい、坪ノ内遺跡と周辺の地質を基盤岩層と崖垂性堆積末端および沖積層に三分して述べると、およそ次のようになる。

1. 基盤岩地質

この附近の基盤岩地質は四万十帯北帯の下津井層（甲藤次郎、1980 命名；模式地 = 幡多郡大正町下津井、津賀ダム周辺）に属し、砂岩と泥岩のタービダイト性互層〔注1〕からなる。調査以前から坪ノ内遺跡内の山寄りに一部露出していた基盤岩および発掘過程で表われた基盤岩は、泥岩勝の砂岩・泥岩互層であり、下津井層分布地域南部について指摘される傾向と一致する。また、円礫岩の露出箇所も見られた点は、タービダイトの特徴の一つに挙げられる。遺跡内で見られた砂岩層は細粒～中粒で概ね固く、表面は酸化によって褐色を呈するが、内部は灰色である。泥岩は硬度の面で振幅が大きく、触ると泥質粒子の粉末がそのまま付着する状態、つまり非固結の層も挟む。これら泥岩層は、概ね橙色～灰白色の範囲におさまる。

2. 崖垂性堆積末端の地質

崖垂性の堆積層は、B 区北西部の山丘裾斜面にのみ遺存しており、大部分は第二次大戦以前の屋敷地造成によって、岩盤もろとも切り取られたものと見られる。その工事によって垂直に切り立つ岩盤むき出しの北崖には、戦時防空壕の横穴が残されていた。この屋敷地跡の標高は約 7.2m であり、その南縁から 13°程度の勾配で沖積面を下る比高 2.0m 前後の区間に、黄橙色系の泥質土を挟む褐色森林土層が斜堆する (Fig.110)。挟在する黄橙色系泥質土は、短い層状および不定形のブロック状を呈し、炭質物が不顕著ながら極微量の植物珪酸体と鬼界（喜界）アカホヤ火山灰を含む。これらの状況から、主として周辺上位の非固結泥岩層に由来し、短期かつ軽度の懸濁を経て森林土層に封入された二次堆積土の断片と見られる。この斜堆層の上部には、江戸後期から近・現代の陶磁器や燻瓦およびガラス製品などを含む大小の浅い攪乱坑が分布する。これらを除去した斜堆層内部では、まず中世期の土師器や陶磁器類とともに、ピットと土坑からなる遺構群がほぼ地層の傾斜に沿って検出された。これら層準の直下では、検出遺物は総数 110 点あまりの弥生土器片と 3 点の叩き石に取って替わるが、それらの分布も地層の傾斜に従う。また、同じ層準では、弥生期と見られる大型の土坑一基を検出している。これらのうち、相互に一千数百年を隔てる中世期および弥生期の遺構が山丘斜面に存在する点自体、既に両期における開発行為の一端を見るものと言える。加え

て、この崖垂性斜堆層の標高約 7.2m 以上の部分が第二次大戦以前に切断されたばかりか、その断崖上に江戸期にさかのぼる五輪塔が削地建立されて現存する点など、重層的な開発と文化層を内在する斜堆層遺存との間には、分析整理すべき隔壁が存在する。全調査区を通じ地質と文化層の両面で性格付けが最も困難な部分であり、後章の考察で更に検討を加える。

3. 沖積層の地質

本調査着手と並行して、道の川（調査区から現流への最短距離は東約 200m）を北東山間の源流方向にさかのぼり、人家が絶えて最奥の砂防ダムを過ぎた地点で小谷の表面砂を採取した。その後、下流にくだり、道の川が久礼川に注ぐ地点の対岸（大新改地区）侵食崖で、河成堆積の表部砂質シルトを採取し、両サンプルに微量ながら磨耗の少ない鬼界アカホヤ火山灰（以下 K-Ah 記号）が含まれることを確認した。この火山灰は、鹿児島南西沖の鬼界（喜界）カルデラがかつてマグマ水蒸気爆発を起こした際、偏西風によって運ばれ降下したもので、その噴出年代は約 7,000 年前と推定されている。両サンプルの結果は、かつてこの地域も K-Ah 降下の例外ではなく、その後、水成を主因とするこれら粒子の運搬・再堆積が現在まで継続している事実を端的に示す。それゆえ、堆積層における K-Ah 粒子の混在は、それらの成層年代が少なくとも鬼界カルデラ噴火以後であると識別する指標として有用となる。

まず上記した点に関連して結論を先取りすれば、坪ノ内遺跡内のサンプル土壤は、掘削調査の及んだ全堆積層が鬼界カルデラ噴火以後の成層であることを示す。当遺跡の文化層は、B 区北西部の崖垂性斜堆層において中世期の直下に弥生期が重なる局所や山丘際で岩盤内部に達する若干の遺構（中世または中世以後）の散在を除くほかは、おおむね中世期を主体とし、すべて水成ないし河成の沖積層（狭義）が下支えの基盤をなしている。この沖積面における文化層の層準と地質環境は、大枠において全調査区に連続・共通すると言えるが、C 区で表部耕作層と文化層の一部が消滅、B 区で表部耕作層の大部分が碎石の盛土に置換するなど、上位の部分には断絶が存在する。この現状に対して沖積面層序の一元的把握を担保するため、表部耕作層を「I 層」としてローマ数字による層位記号の起点とし、これを覆う地層には「盛土」の表記を冠するものとした。

沖積面の層序は、C 区東縁沿いに開削した探査トレンチ TR1 の東側断面（SP469-SP470 区間；Fig.4- 図 1. CSS1 地点）を模式とする。各層位の詳細は Tab.1 の表にまとめており、本文ではその層序にしたがって各層位の要素を略記する。

第 I 層：砂混じり粘土質シルト（灰色 N6/）；現耕作土であり層厚約 20cm、地表面の標高は 4.50m を前後する。土壤型は水田耕作土に属し還元状態にあるが、畑作に転用されて来たと言われる。微量の K-Ah を含む。

第 II 層：砂混じりシルト質粘土（明黄褐色 10YR6/6）；層厚約 10cm で、基底の標高は 4.20m を前後する。鋤床層に該当し、土壤の圧密度が特に高い。層準の全体に水酸化鉄が集積し、微量の K-Ah を含む。

第 III 層：砂礫混じり粘土質シルト（褐灰色 7.5YR5/1）；TR1 の模式断面では、層厚 15～30cm を測り、層準中位の標高は、約 4.10m 附近である。山丘寄りの西側に向かって、きわめて緩やかに

微高する。中世期主体の遺物（土師器・瓦器・須恵器・青磁・白磁・石鍋・鉄等）を包含するほか、ときに弥生土器片が混在する。二酸化マンガンの点状斑が顕著であり、微量の炭化物およびK-Ahを含む。中世期遺構の掘り込みの多くは、この第Ⅲ層の内部において上部を切削された不整合面を見せる点から、実際には複数の生活面あるいは侵食面が重なるものと十分に推察し得る。この典型的な状況は、Fig.8- 図2に示すC区西縁の地層図（SP501～SP510区間）に表われており、遺構の面からも同期文化層の核心部分と言える。しかし、事実上平面を対象とした実際の遺構検出工程では、一括検出しているため、地層断面の記録に痕跡を留めた遺構以外は、それらの上下すら論じ得ない。この事情から内部に複数の時代面が潜伏する状況を強く肯定しつつも、中世期主体の文化層全体をこの第Ⅲ層に一括した。

第Ⅳ層：砂混じりシルト質粘土 [にぶい黄橙色 10YR6/3]；層厚約20～35cm程度、層準中位の標高は3.90m附近である。直上の中世文化層との関係では、その土台をなした地層であり、多くの遺構の掘り込みがこの第Ⅳ層に深く貫入する点からは、遺構基盤層と言える。層準内部に細かい級化は存在するが、全体としては均質かつ一様に見える。密度の低い二酸化マンガンの点状斑が分布する。炭化物に乏しいが、稀に土器または土師器の微片を目にする。主として滞水域に近い水理環境下での水成堆積と見られるが、小礫～細礫級の砂利粒子も散見する点から、最大径1cm程度の遺物の微片類は、増水時などに道の川の上流域や周辺の山丘寄り微高地から流入した可能性が考えられる。調査時の地層は弱還元～弱酸化の状態にあり、還元を加えると灰色に傾き、酸化を加えるとやや褐色化する。この地層が次位の河成層を覆うとともに上位文化層の基盤をなすことから、当層の形成によってこの沖積面を居住圏に転じる立地環境がクリアされたものと推察される。なお、この層準を形成する土壤自体の可塑性は、単味の土器製作が可能な水準にあり、水簸によって粗砂を除去したものは土師器の製作にも耐え得る。

第Ⅴ層：砂利層主体の河成層が上記Ⅳ層の下位に厚く堆積しており、粘土・シルト・砂などが優勢な挟在層も一括してⅤ層として扱う。必要な場合にのみ、層理の中で土性が大きく変化する層準ごとにアラビア数字の枝記号を設けるが、相互に断絶する区間では、枝記号の一致と層準の同定は無関係とする。

第Ⅴ-1層：粘土混じり砂利 [褐灰色 10YR6/1]；河成層

第Ⅴ-2層：シルト混じり砂利 [褐灰色 7.5YR5/1]；河成層

第Ⅴ-3層：砂質シルト [にぶい黄橙色 10YR6/3]；河成層

第Ⅴ-4層：砂利混じり粘土 [にぶい黄褐色 10YR5/3]；河成層

第Ⅴ-5層：砂利 [褐灰色 10YR5/1]；河成層。

地震痕跡の検出：地震痕跡は、C区の確認トレンチ北断面（Fig.4- 図2，SP467-SP468区間）および第2トレンチ東断面（Fig.7～Fig.8- 図1，SP471-SP474区間）で検出している。大部分は第Ⅴ層（河成）内部の複数期液状化に起因するものであり、図では砂脈=SM；噴砂=FS；地割れ=AZ；噴砂か地割れ=SZ；地層の変形=AQで示す。過去の地震と検出遺構の関係は、考察1で若干の言及を行なう。

[注1]「日本の地質8.四国地方」日本の地質『四国地方』編集委員会編；共立出版株式会社
1991年

第2節 C区の調査

調査区全域が沖積面に立地するC区・D区の両調査区は、幅0.5m程度の小水路1条を隔てるのみであり、地形のうえで顕著な差異は見られず、一連の耕作地といえる。掘削調査はC区が先行し、前述の小水路から南に向けてバックホーによる表土除去を行った。その結果、耕作土の鋤床に相当する第Ⅱ層の直下（標高4.3～4.1m前後）の水準において近世以降の形跡がすでに断絶し、密度の高い掘り込み跡と、土師器や瓦器を主とする遺物の分布が見られる点から、試掘の認定と同様、すでにこの水準が中世面であることを確認する。この状況により、手作業による遺構検出は表土除去を追尾する形で進行した。本章ではこの調査工程で得た記録成果を、検出した遺構・遺物の順で以下にまとめる。

1 C区検出遺構

C区の検出遺構全体は、柱穴(P)750基・素掘り井戸(SE)1基・土坑(SK)19基・溝(SD)4条で構成される。特に柱穴の分布は、D区との境界に近い本調査区北半で密度が極まる。これら柱穴群の中から検出された掘立柱建物跡と柵列跡は、隣接するD区南半とならんで今回の坪ノ内遺跡発掘調査で確認した中世遺構総体の中核を占めるといえる。本項では、まず掘立柱建物跡と柵列跡、ついで素掘り井戸・土坑・溝跡の順に述べる。

1. 掘立柱建物跡 (Fig.9-Fig.24)

C区で検出した掘立柱建物跡は12基であり、総柱型7基(SB3・SB4・SB5・SB7・SB8・SB12・SB13)・形式不明1基(SB9)・二面庇型1基(SB16)および梁間一間型3基からなる。中世の同種建物跡の傾向に照らすと柱筋の通りは全般に整然としており、とりわけSB3やSB9・SB16など大～中規模の遺構においては、特記に値する。建物跡の桁行または梁間、もしくは長辺側または短辺側は、いずれも北偏東の方位に沿うが、SB3・SB4・SB5・SB7・SB8・SB9・SB11の7基では、北偏東14.5°～16.0°(N14.5°E～N16.0°E)の狭い範囲での方位分布を示しており、D区と同方位建物群とともに、方位設計面での連続性保持を示唆している。これらの掘立柱建物跡から順次個別の摘要を行い、詳細なデータは、各々の図表にゆずる。

1) SB3掘立柱建物跡 (Fig.5)：SB3は長辺側6間・短辺側5間の大型建物であり、柱間平均値は2.43443mを測る。この数値の見当尺は明らかに8尺であり、その1尺の逆算平均値は0.30452mと算出される。3面の側柱筋はその8尺の間隔で完備するが、残る南側柱筋の1箇所ほか、内部の4箇所に検出を欠く。遺構検出面における各柱穴の平面サイズは、およそ0.3～0.7mの範囲に長径値をもち、延べ13の柱筋間にそれら柱穴サイズの顕著な偏りは存在しない。この点から、各筋の柱穴は大規模な1棟の総柱型建物を支えたものと判断している。この建物の側面形が左右対称で

あったと仮定した場合、梁間は偶数6間7筋の東西（平均 W15.27° N）を指し、その桁行は、南北を向く奇数5間6筋の短辺側で、北偏東 15.27°（N15.29° E）を指す。ここから算出される両者平均交角は 90.02°であり、柱心位置を図上推定する際の誤差や地盤微動を念頭に置くなら、むしろ正確な直交による柱の配置が実施された可能性が高いと思われる。いずれにしろ、長辺側 14.64m × 短辺側 12.15m を測るこの建物跡の柱間総和は、延べ 170.37m にも及ぶため、建築時設計仕様尺を知るうえでも信頼度の高い実例を示すものといえる。

2) SB4 掘立柱建物跡 (Fig.11) : SB4 は本調査区の西境際で検出しており、実際には調査区外に継続する可能性がある。検出範囲では、桁行 3 間 × 梁間 2 間の建物跡であり総柱型に類する。桁行 3 間は、東西（平均 W14.5° N）に柱穴が並び、西から 2 間が各 6 尺見当（平均 1.89m・等値 1.76m）、残る東の 1 間が 9 尺見当（等値 2.79m）を測る。この桁行と平均 89.77°で交わる梁間 2 間は、各 6 尺見当（平均 1.88m）であり、12 基の柱穴を完備する。SB4 の立地するこの区域では、遺構基盤といえる IV 層の大部分を既に削失するが、検出した柱穴群は、それらの掘り方が IV 層下の砂利層に達していたものである。遺存する柱穴は概ね掘り方の底部付近で不整形ながら、なお 0.4m 程度の長径を保つ。

3) SB5 掘立柱建物跡 (Fig.12) : SB5 は本調査区の東境付近で検出した建物跡であり、やはり調査区の東外部に継続する可能性がある。検出した範囲では、東西（平均 W13.83° N）に桁行 4 間、南北に梁間 3 間を数える。総柱型を想定した場合、隅柱の柱穴は揃うが、内部の 2 穴と東側 1 穴の検出を欠く。また、北側の柱筋では、柱穴 5 基の規模がいずれも矮小であるうえ、梁間の柱間 6 尺見当（平均 1.794m）が、それらより南の 2 間における 1 間あたり 6 尺 5 寸の見当値（平均 1.974m）に対して若干狭い。この矮小な柱筋を庇と見なせば、北面にのみ庇の付加する形状となり、不自然の感を免れ得ない。基本的には、総柱型に類すると考えるが、なお検討を要する。検出範囲の桁行・梁間は、隅柱間で各々平均 8.20m・5.70m と計算される。また、柱筋の平均交角は、90.63°の値を得る。

4) SB7 掘立柱建物跡 (Fig.13) : SB7 は本調査区西境寄りでは検出した総柱型建物であり、調査区外に継続する可能性がある。長辺側は南北方位（N14.6° E）をとり、東から 2 筋が 9 尺 5 寸見当 1 間（2.91m）・6 尺見当 2 間（平均 1.89m・1.83m）の柱間を数える。西端の 1 筋では 9 尺 5 寸見当の柱間に 1 柱を挟み、4 尺 + 5 尺 5 寸に分断される。短辺側は 7 尺見当 2 間（1 間平均 2.1125m）が検出範囲にある。見当 1 尺の逆算値は、0.30415m であり、柱筋交角の平均値は、89.30°となっている。

5) SB8 掘立柱建物跡 (Fig.14) : SB8 は南北方位（平均 N15.55° E）3 間の桁行に対し、梁間 2 間の小型建物跡である。総柱型に類し、12 基の柱穴を全て検出している。柱間は、桁行 7 尺見当（平均 2.215m）、梁間 9 尺（平均 2.767m）を測る。隅柱間距離の平均は、桁行 6.585m・梁間 5.533m であり、それらの交角平均値は、89.82°と算出される。

6) SB9 掘立柱建物跡 (Fig.15) : SB9 は本調査区西境付近で柱穴の底部のみ削失を免れた建物であり、その北側柱筋が SB4 の南側桁行に密接する。SB4 と同様に調査区外で継続する可能性が強い。SB5 の検出範囲では、その短辺が SB4 の桁行と完全に平行するうえ、それらの柱間寸法 6 尺 2 間 + 9 尺 1 間も一致するが、SB5 の各柱穴とも SB4 に対して平均 15cm ほど東にずれる。南北方位の長辺側は、7 尺見当（平均 2.153m）5 間を数え、その 1 尺の逆算値は、0.30757m である。

柱配置の平面は、東付加の一面庇型建物の形になっているが、北接するSB4との柱間一致箇所や、地層削失の事情を考慮すれば、依然としてSB4に似る総柱建物の可能性が強い。

7) SB11 掘立柱建物跡 (Fig.16) : SB11は、1丈(10尺)1間×7尺5間の建物であり、5間の桁行が東西方位(平均W16.15°N)を取る。見当1尺の算出平均値には、桁行で0.30329m、梁間で0.29600mと約7mm余りの差が存在する。柱筋の交角平均値は、89.02°となっている。

8) SB12 掘立柱建物跡 (Fig.17) : SB12は、梁間見当6尺5寸(平均2.033m)+9尺(平均2.693m)の2間に対し、桁行見当8尺(平均2.44056m)3間の総柱型建物跡である。1尺の逆算平均値は0.30536mであり、桁行が東西方位(W11.87°N)を取る。柱筋間の平均交角は、90.71°をなす。南東隅柱の1穴は土坑SK16によって削失したと見られる。また、内部の柱穴CP446の北半が素掘井戸SE1に掘削される点から、CP446の北隣の空白も、同じ原因による消滅と見てよい。

9) SB13 掘立柱建物跡 (Fig.18) : SB13は本調査区の西境寄りで検出した総柱型の建物跡であり、検出範囲の長辺側は平均北偏東(NE)の方位を指し4間を数える。間数から見て実際には梁間に当る確立は高く、これと平均90.57°で交わる検出3間の短辺側は、更に調査区西外に延続して桁行きをなす可能性が強い。また、この短辺側方位は、上項のSB12と平行関係にある。

10) SB16 掘立柱建物跡 (Fig.6- 図1) : SB16は、今次の坪ノ内遺跡発掘調査で検出した掘立柱建物跡群の中では、方位上最も偏東度の低い(南北方位に近い)桁行N10.4°Eの遺構である。遺構検出面は平坦ながら、柱穴遺存は全般に矮小であるとともに深度の浅い傾向が目立つ。この点から、元来は他の周辺建物跡よりも若干高い水準から掘りこまれた可能性が考えられる。不検出または既消失の箇所が多いが、検出し得た柱穴群の配置は、見当4尺1間(平均1.23m)の短い庇が東西に付加する二面庇の形状となっている。主屋部分は見当7尺5寸2間、全長4.50mの梁間に対して、見当7尺5寸8間、全長18.40mの長い桁行を測る。両筋の交角平均値は90.07°であり、1尺の逆算平均値は0.30643m(主屋のみ)と算出される。なお、南側梁間筋は主屋2間分の柱穴3基と両端庇分の柱穴2基を完備するが、北側の梁間筋では柱穴2基を確認したのみで、この並びなら存在すべき中央の柱穴が検出されていない。それゆえ、この建物の北辺は、より北に存在した可能性がある。また、桁行中央の柱筋では、主屋内部の位置に柱穴2基CP663・CP734を並んで検出している。非検出部分の多いこの建物跡の状況に照らすなら、主屋部分を総柱としていた可能性も、十分に考えられる。

11) SB17 掘立柱建物跡 (Fig.6- 図2) : SB17は、調査区南部で検出した梁間1間の建物跡である。その梁間柱穴は見込11尺半~12尺程度の間隔で掘られる。5間の検出に止まった桁行側柱穴は1間平均2.014mを測り、見込6尺半程度の間隔で掘られている。長辺2つの柱筋は、西側が北偏東12.0°(N12.0°E)、東側が同10.3°(N10.3°E)を指す。

12) SB18 掘立柱建物跡 (Fig.6- 図3) : SB18は仮小屋跡と見られる1間×2間の柱穴遺存である。梁間1間の平均長2.083mに対し、北偏東13.6°前後を指す桁行では、1間平均2.183mを測る。およそ1間7尺程度の見込でにわか建てしたものと推定される。この遺構もSB17と同様に完掘に至っていない。

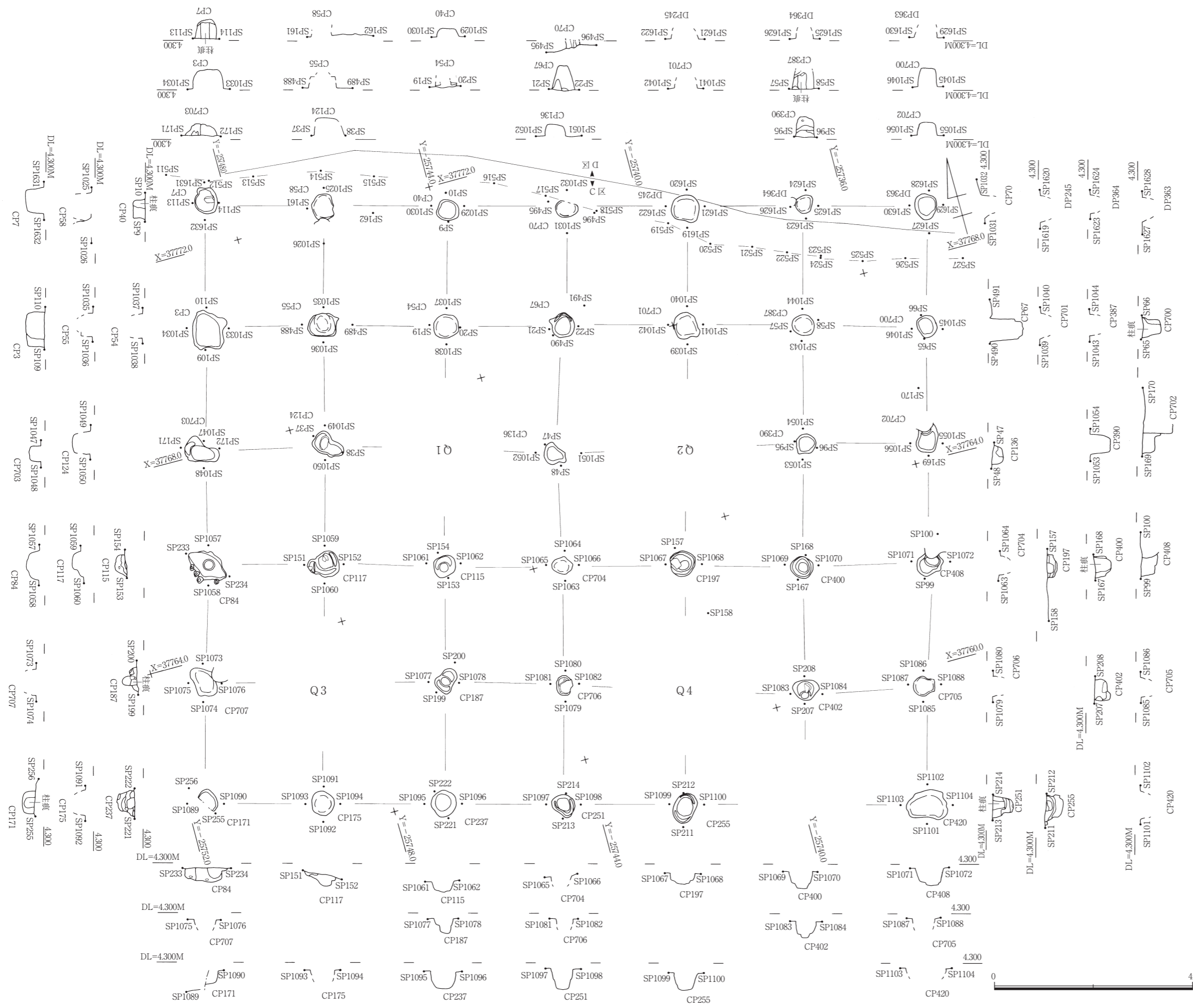


Fig.5 C区 SB3 掘立柱建物跡 (S:1/80)

柱筋柱間	桁行第1筋	桁行第2筋	桁行第3筋	桁行第4筋	桁行第5筋	桁行第6筋	M:見当尺	桁行第7筋	柱筋直線長	長出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
C区SB3	柱の痕跡	柱の痕跡	柱の痕跡	柱の痕跡	柱の痕跡	柱の痕跡	2.52	柱の痕跡	14.66	全6間	2.443m	8尺	0.30542	W15.4° N
梁間第1筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.52	柱筋有り	14.58	全6間	2.430m	8尺	0.30375	W15.3° N
計測m 見当尺	2.50	2.42	2.48	2.46	2.44	2.42	2.54	2.48	14.66	全6間換算	2.443m	8尺	0.30542	W14.8° N
梁間第2筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.52	柱筋有り	14.64	全6間	2.440m	8尺	0.30500	W15.3° N
計測m 見当尺	2.42	2.42	2.32	2.46	2.48	2.48	2.52	2.52	14.54	全6間換算	2.423m	8尺	0.30292	W15.4° N
梁間第3筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.44	柱筋有り	14.62	全6間換算	2.437m	8尺	0.30458	W15.4° N
計測m 見当尺	2.44	2.44	2.48	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	14.62	全6間換算	2.437m	8尺	0.30458	W15.4° N
梁間第4筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.44	柱筋有り	12.14	計36間	平均	1尺平均逆算	柱筋	
計測m 見当尺	2.40	2.40	2.32	2.46	2.48	2.48	2.48	2.48	12.14	計34間	2.43600m	8尺単一	平均	
梁間第5筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.48	柱筋有り	2.428m	2.43443m	2.43443m	8尺×8尺	0.30452m	—
計測m 見当尺	2.50	2.42	2.48	2.46	2.44	2.42	2.48	2.48	2.428m	2.43286m	2.43286m	8尺×8尺	0.30452m	—
梁間第6筋	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.44	柱筋有り	0.31000m	0.30850	0.30411m	8尺×8尺	0.30432m	—
計測m 見当尺	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	0.31000m	0.30850	0.30411m	8尺×8尺	0.30432m	—
柱筋直線長	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	柱筋有り	2.44	柱筋有り	14.62	全6間換算	2.437m	8尺	0.30458	W15.4° N
1間平均値	2.434m	2.422m	2.430m	2.414m	2.422m	2.414m	2.44	2.42	14.62	全6間換算	2.437m	8尺	0.30458	W15.4° N
1尺逆算値	0.30425m	0.30275m	0.30375m	0.30175m	0.30275m	0.30175m	0.30275m	0.30275m	0.30411m	1尺平均逆算値	0.30411m	8尺×8尺	0.30432m	—
柱筋方位	N15.3° E	N15.3° E	N15.3° E	N15.5° E	N15.2° E	N15.2° E	N15.2° E	N15.2° E	柱筋	平均方位	—	N15.29° E	平均交角	90.02°

表2 C区 SB3柱筋測定表

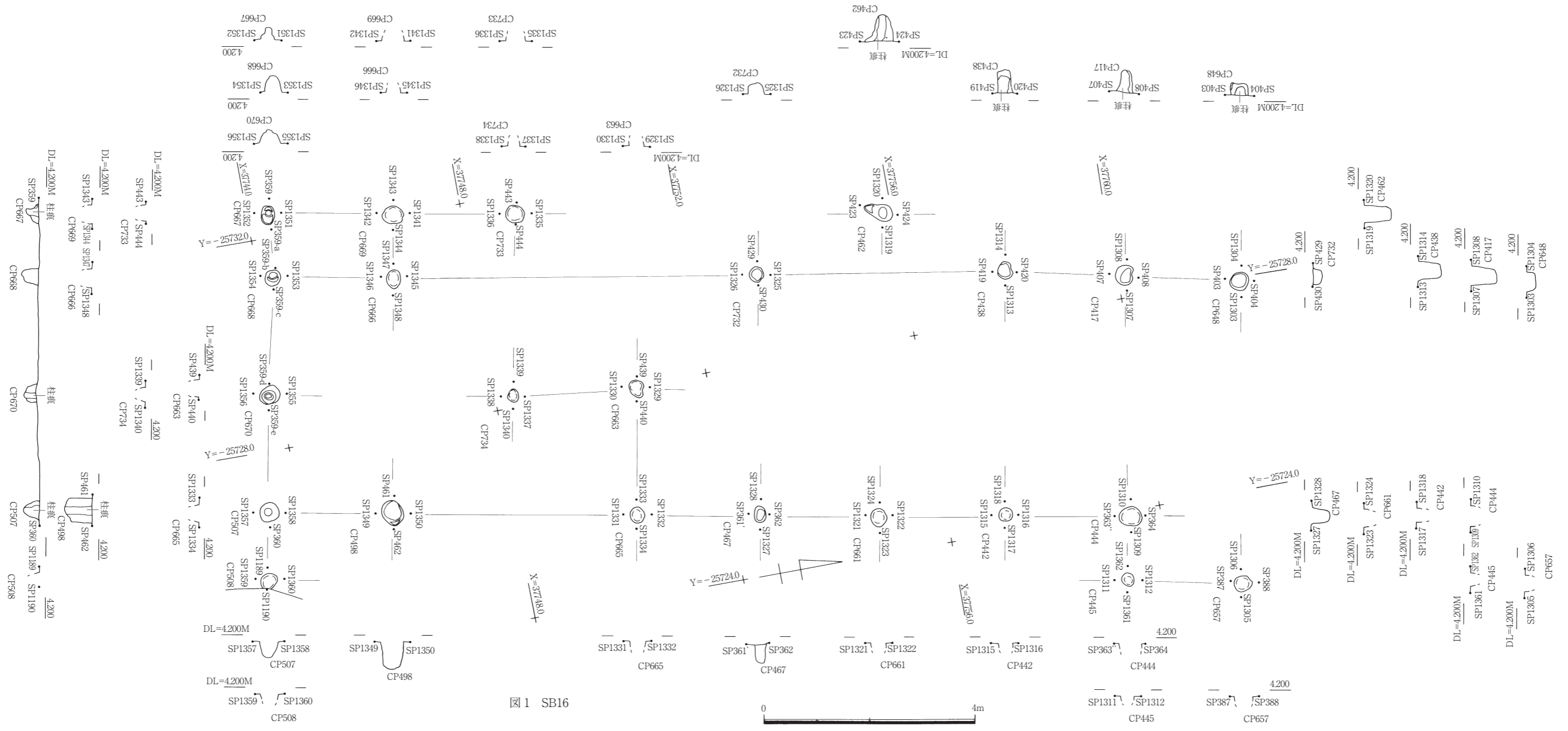


图 1 SB16

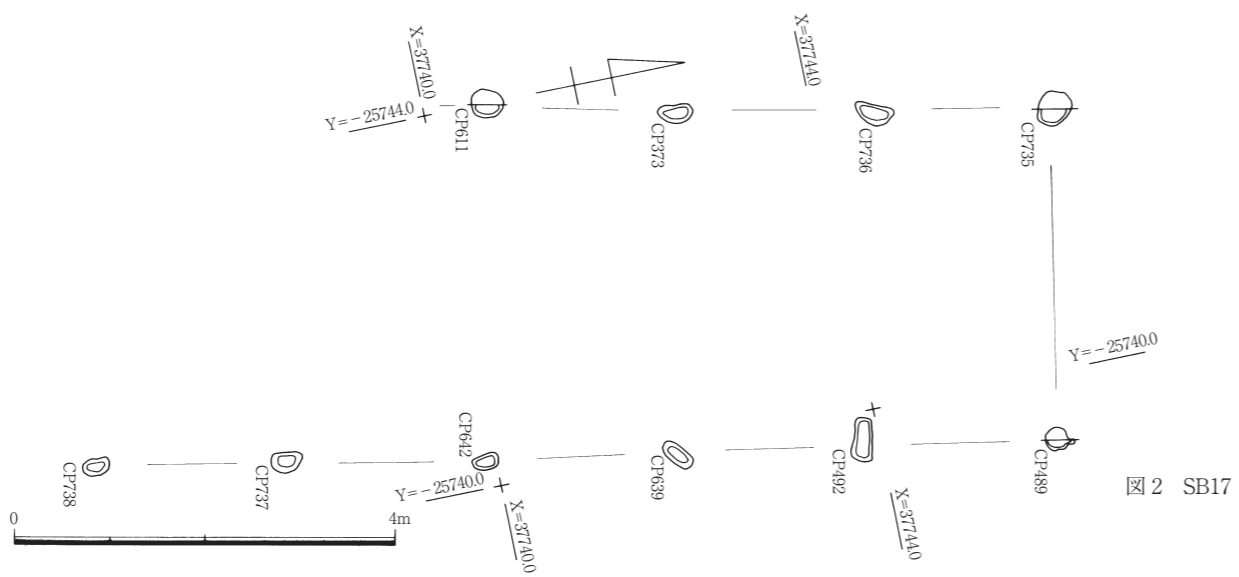


图 2 SB17

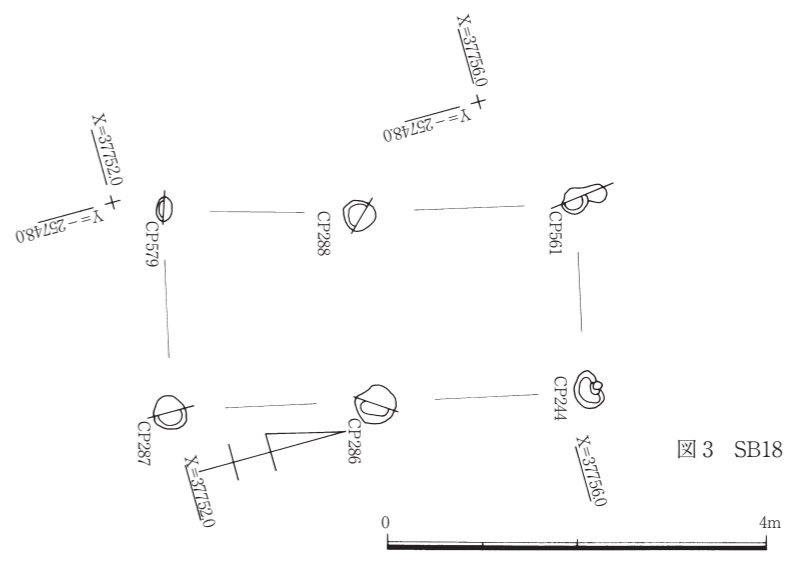


图 3 SB18

Fig.6 C区 SB16·SB17·SB18 掘立柱建物跡 (S:1/80)

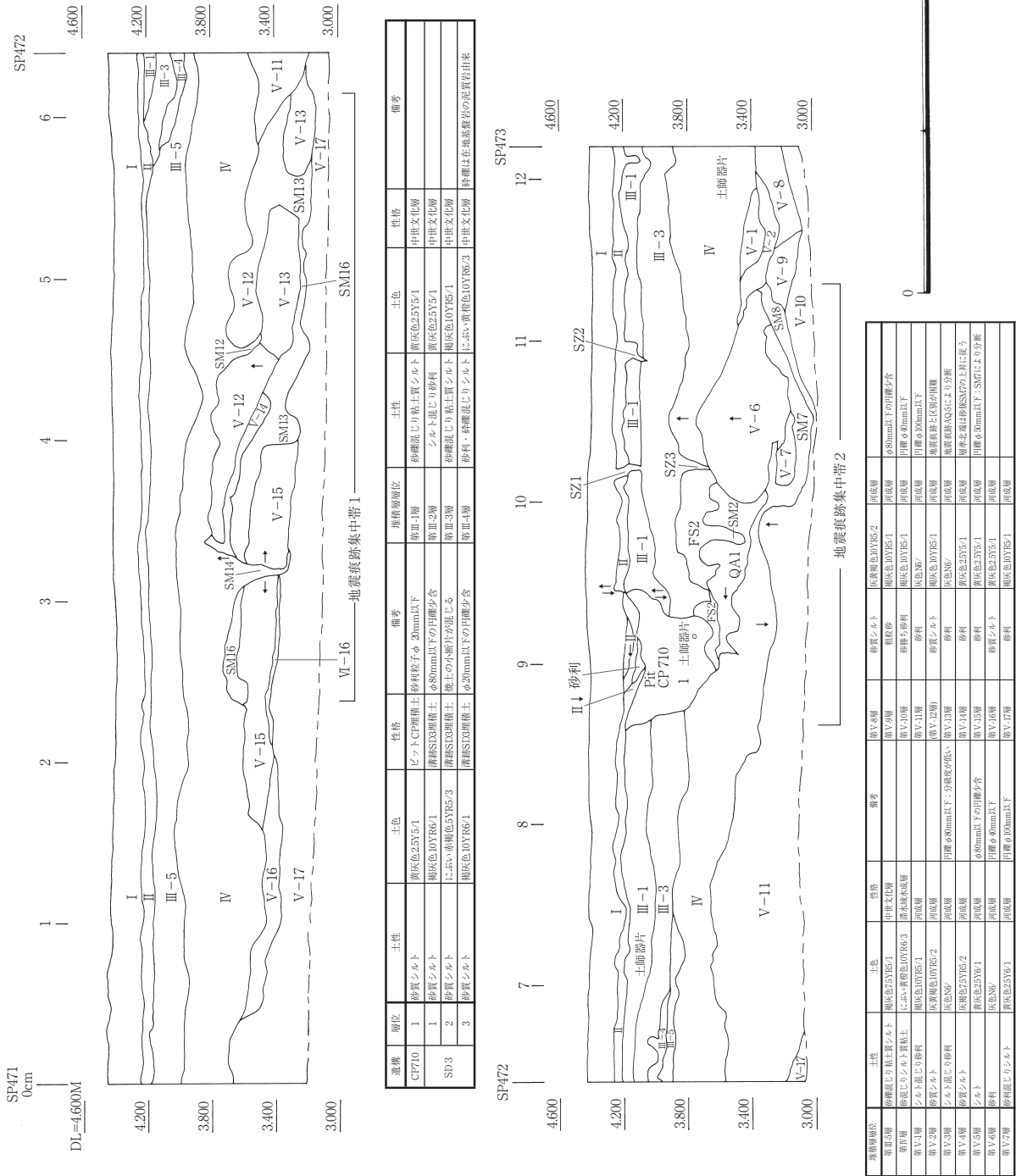


Fig. 7 C区第2トレンチ東断面第1部 (S : 1/40)

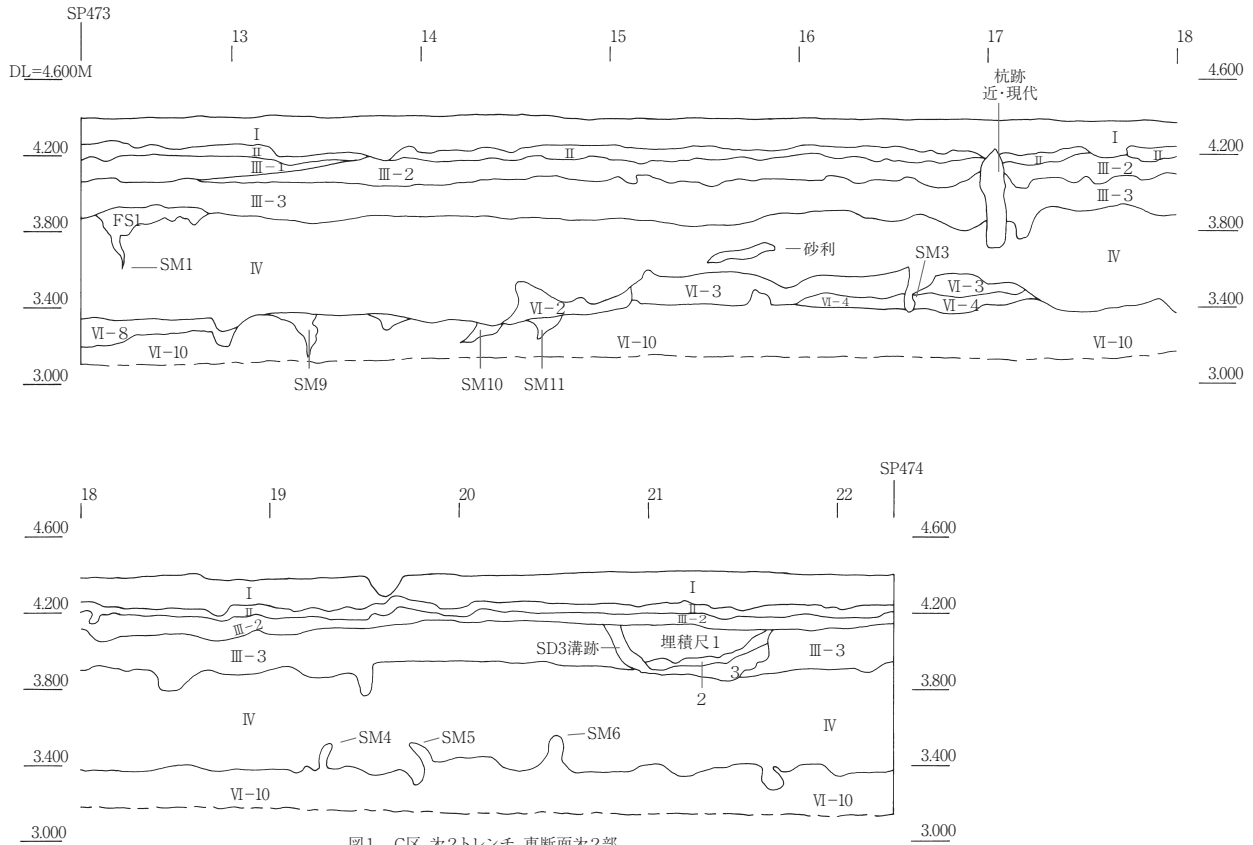


図1 C区 オ2トレンチ 東断面オ2部

地震痕跡	類型	断面での出現層準	末端の状態	地震痕跡	類型	断面での出現層準	末端の状態
FS-1	噴砂	Ⅲ-3基底	Ⅲ-3基底で侵食消滅	SM7	砂脈	V-6⇒Ⅳ層内	横走；上位層微隆起；Ⅳ層に侵入
SZ1	砂脈か地割	Ⅲ-3⇒Ⅰ	耕作土Ⅰ層達して痕跡不明	SM8	砂脈	V-11⇒V-5基底	V-5基底で侵食消滅
SZ2	砂脈か地割	Ⅲ-3⇒Ⅱ	礫床Ⅱ層に達して痕跡不明	SM9	砂脈	V-10⇒Ⅳ基底	Ⅳ基底で侵食消滅
SZ3	砂脈か地割	V⇒Ⅲ-3	中世層Ⅲ-3に達して痕跡不明	SM10	砂脈	V-10⇒Ⅳ基底	Ⅳ基底で侵食消滅
SM1	砂脈	V⇒Ⅲ-3基底	中世層Ⅲ-3基底で噴砂FS1	SM11	砂脈	V-10⇒V-3基底	V-3基底で侵食消滅
SM2	砂脈	AQ1⇒FS2	中世層Ⅲ-3基底で噴砂	SM12	砂脈	V-13⇒Ⅳ	Ⅳ層に達して痕跡不明
SM3	砂脈	V-10⇒Ⅳ	Ⅳ層に達して痕跡不明	SM13	砂脈	V-17⇒Ⅳ基底	横走・上昇して砂利層を分断
SM4	砂脈	V-10⇒Ⅳ	Ⅳ層内で痕跡を絶つ	SM14	砂脈	V-17⇒Ⅳ基底	先登のSM13を分断
SM5	砂脈	V-10⇒Ⅳ	Ⅳ層内で痕跡を絶つ	AQ-1	地層の変形	V層（河成）	砂脈圧や地盤のズレで変位
SM6	砂脈	V-10⇒Ⅳ	Ⅳ層内で痕跡を絶つ	—	—	—	—

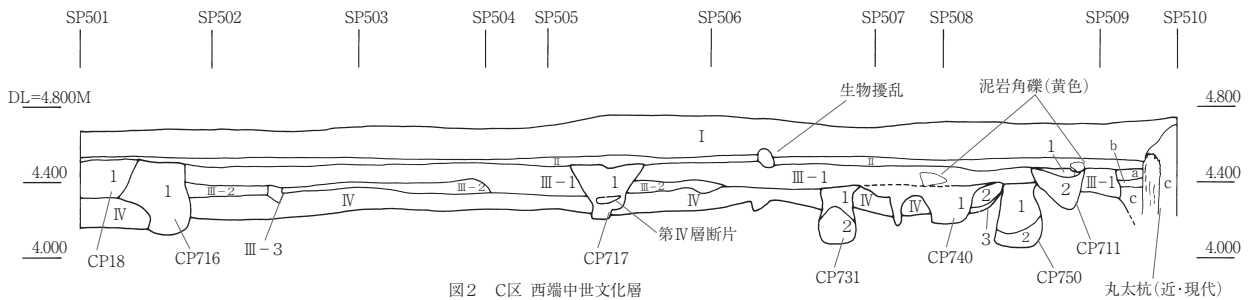


図2 C区 西端中世文化層

—堆積層—

- 第Ⅰ層. 砂混じり粘土質シルト (灰オリブ色 7.5Y5/2)：耕作土。
- 第Ⅱ層. 砂混じりシルト質粘土 (にぶい黄橙色 10YR7/2)：礫床。
- 第Ⅲ-1層. 砂混じり粘土質シルト (暗灰黄色 2.5Y5/2)：中世文化層。
- 第Ⅲ-2層. 砂混じり粘土質シルト (灰白色 2.5Y7/1)：中世文化層。
- 第Ⅲ-3層. 砂混じり粘土質シルト (黄灰色 2.5Y5/1)：中世文化層。
- 第Ⅳ層. 砂混じりシルト質粘土 (灰黄色 2.5Y6/2)
- ピット埋積層—
- CP18-1. 砂混じり (黒褐色 7.5YR3/1)：泥岩砕礫・炭化物多含。
- CP711-1. 砂混じりシルト質粘土 (灰白色 2.5Y7/1)：泥岩砕礫多含。
- CP711-2. 砂混じり粘土質シルト (暗灰黄色 2.5Y4/2)：円礫φ20～30mm・泥岩砕礫や炭化物を含む。
- CP716-1. 砂混じりシルト質粘土 (褐灰色 10YR5/1)：円礫φ20～30mm 泥岩砕礫を多含し、炭化物を含む。
- CP717-1. 砂混じりシルト質粘土 (黒褐色 10YR3/1)：泥岩砕礫・炭化物・土器片を多含。

- CP731-1. 砂混じりシルト質粘土 (暗灰黄色 2.5Y4/2)：泥岩砕礫・炭化物を含む。
- CP731-2. 砂混じり粘土質シルト (黒色 2.5Y2/1)
- CP740-1. 砂混じり粘土質シルト (黄灰色 2.5Y4/1)：泥岩砕礫・炭化物を多含。
- CP740-2. 砂混じり粘土質シルト (褐灰色 10YR5/1)：泥岩砕礫を含む。
- CP740-3. 砂混じり粘土質シルト (黄灰色 2.5Y5/1)：泥岩砕礫を多含。
- CP750-1. 砂混じりシルト (暗灰黄色 2.5Y4/2)：Ⅳ層断片・泥岩砕礫・炭化物を含む。
- CP750-2. 砂混じりシルト (黄灰色 2.5Y4/1)：泥岩砕礫・炭化物・土器片を含む。
- 旧耕作層または土留杭の込土層—
- a. シルト質粘土 (灰白色 2.5Y7/1)：泥岩砕礫を少含。
- b. シルト質粘土 (灰黄色 2.5Y6/2)：泥岩砕礫を少含。
- c. 粘土 (暗灰黄色 2.5Y5/2)：泥岩砕礫を少含；径9cm級の丸太立杭 (樹皮のみ半炭化) が残る。



Fig. 8 C区第2トレンチ東断面第2部・C区西端中世文化層 (S：1/40)

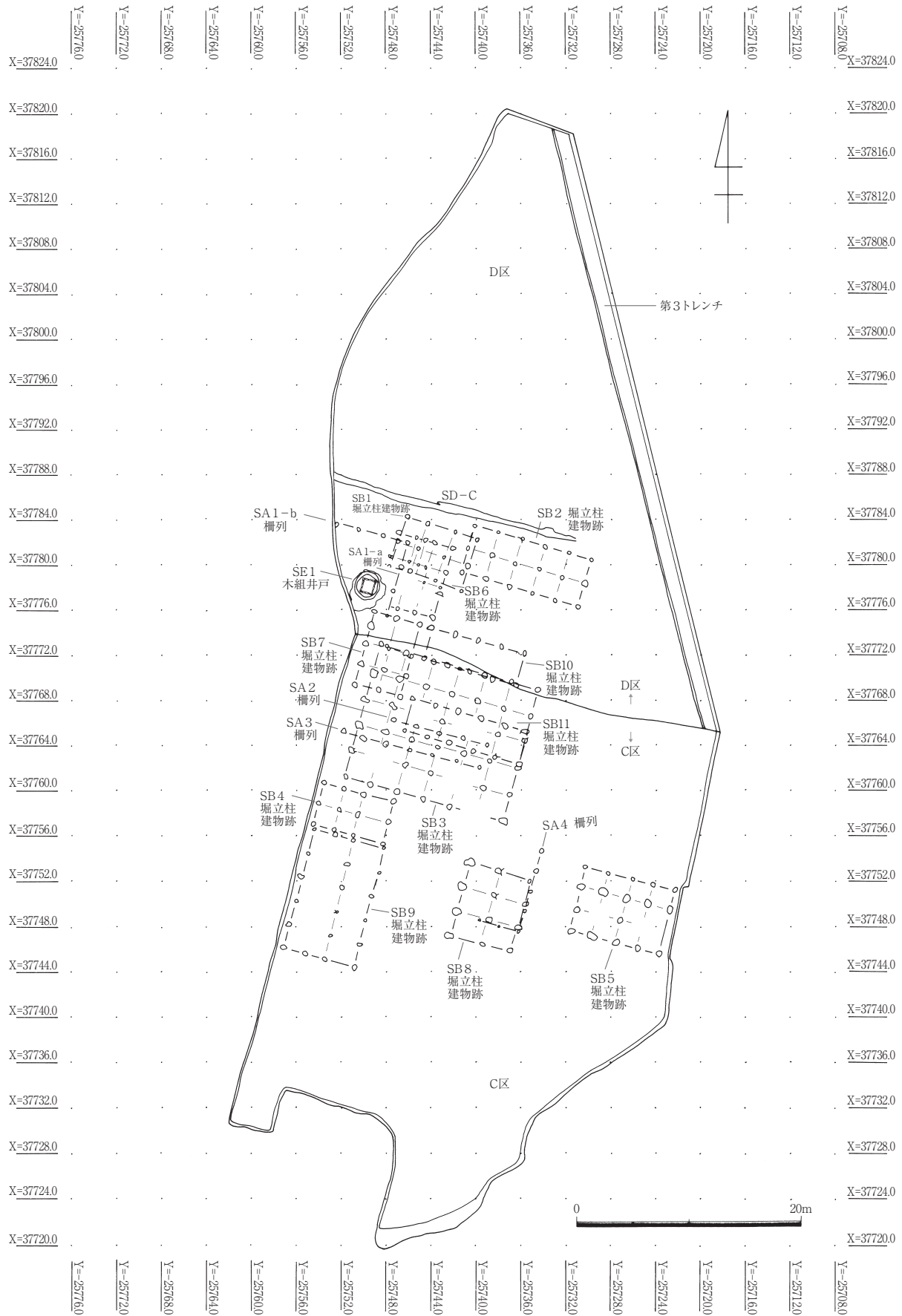


Fig. 9 C区・D区の掘立柱建物跡・柵列群検出図 第1部 (S : 1/500)



Fig. 10 C区・D区の堀立柱建物跡・柵列群検出図 第2部 (S : 1/500)

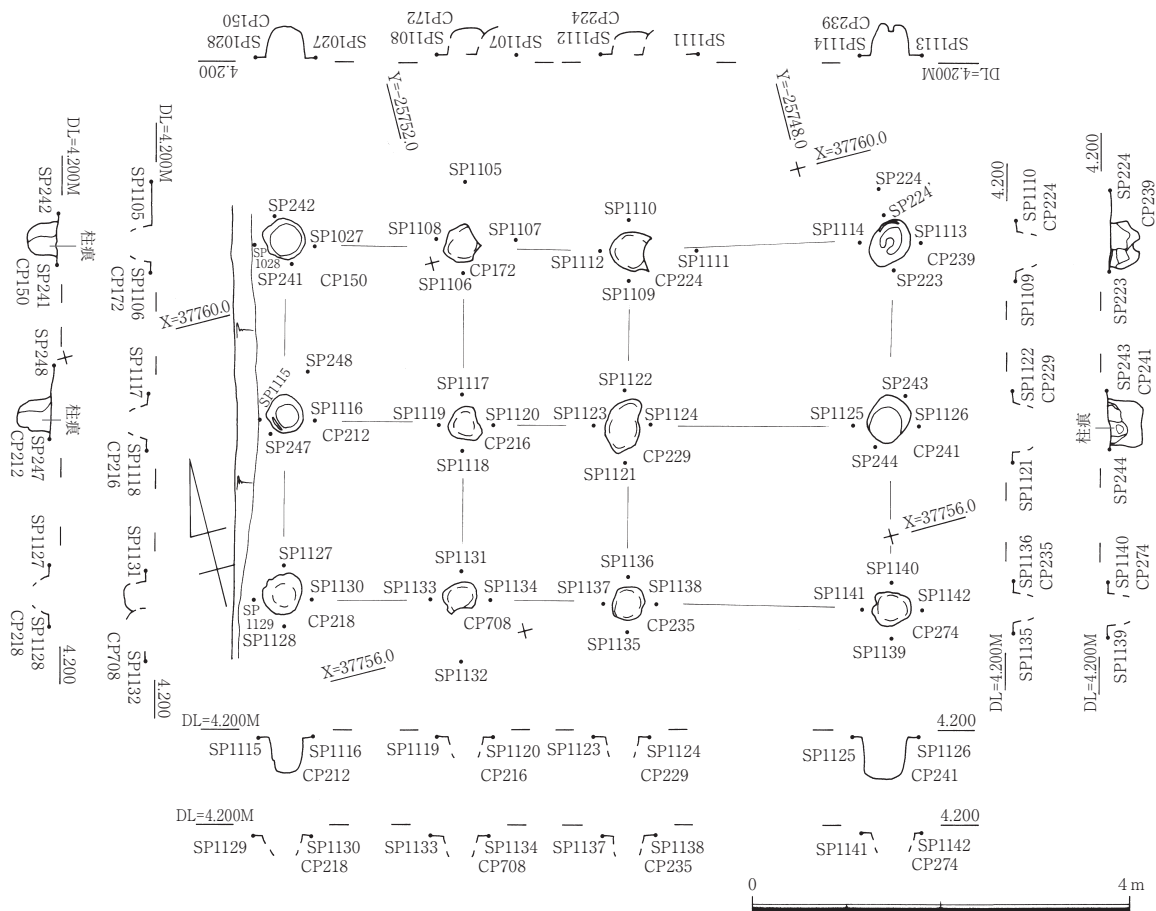


Fig. 11 C区 SB4 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間	梁間第1筋	計測m	見当尺	梁間第2筋	計測m	見当尺	梁間第3筋	計測m	見当尺	梁間第4筋	計測m	見当尺	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺速算値	柱筋方位	
C区 SB-4	柱の概跡			柱の概跡			柱の概跡			柱の概跡									
桁行第1筋	CP150	1.89	6尺	CP172	1.76	6尺	CP224	2.79	9尺	CP239			6.45	3間	2.150m	6尺2間+9尺1間	0.30714	W14.0°N	
柱の概跡	柱筋有り																		
計測m	見当尺	1.85	6尺	1.89			1.82			1.93									
桁行第2筋	CP212	1.88	6尺	CP216	1.76	6尺	CP229	2.80	9尺	CP241			6.45	3間	2.150m	6尺2間+9尺1間	0.30714	W14.6°N	
柱の概跡	柱筋有り																		
計測m	見当尺	1.88	6尺	1.86			1.90			1.92									
桁行第3筋	CP218	1.87	6尺	CP708	1.76	6尺	CP235	2.80	9尺	CP274			6.45	3間	2.150m	6尺2間+9尺1間	0.30714	W15.0°N	
柱の概跡																			
柱筋直線長	3.73m			3.75m			3.72m			3.85			総延15.05m	計9間	総平均	尺度規格	1尺平均	柱筋	
検出間数	2間			2間			2間			2間			計8間	総計17間	2.15000m	6尺・9尺併用	速算値	平均方位	
1間平均値	1.865m			1.875m			1.860m			1.925m			総平均	1.88125m	不等値	総合	0.30714m	—	
1間見当尺	6尺			6尺			6尺			6尺			尺度規格	6尺単一	総合	6尺+9尺系	総合1尺値	W14.53°N	
1尺速算値	0.31083m			0.31250m			0.31000m			0.32083m			1尺平均速算値		0.31354m	総合1尺値	0.31034m	平均交角	
柱筋方位	N14.3°E			N14.3°E			N14.5°E			N14.1°E			柱筋	平均方位	—		N14.30°E	平均交角	89.7°

表3 C区SB4柱筋計測表

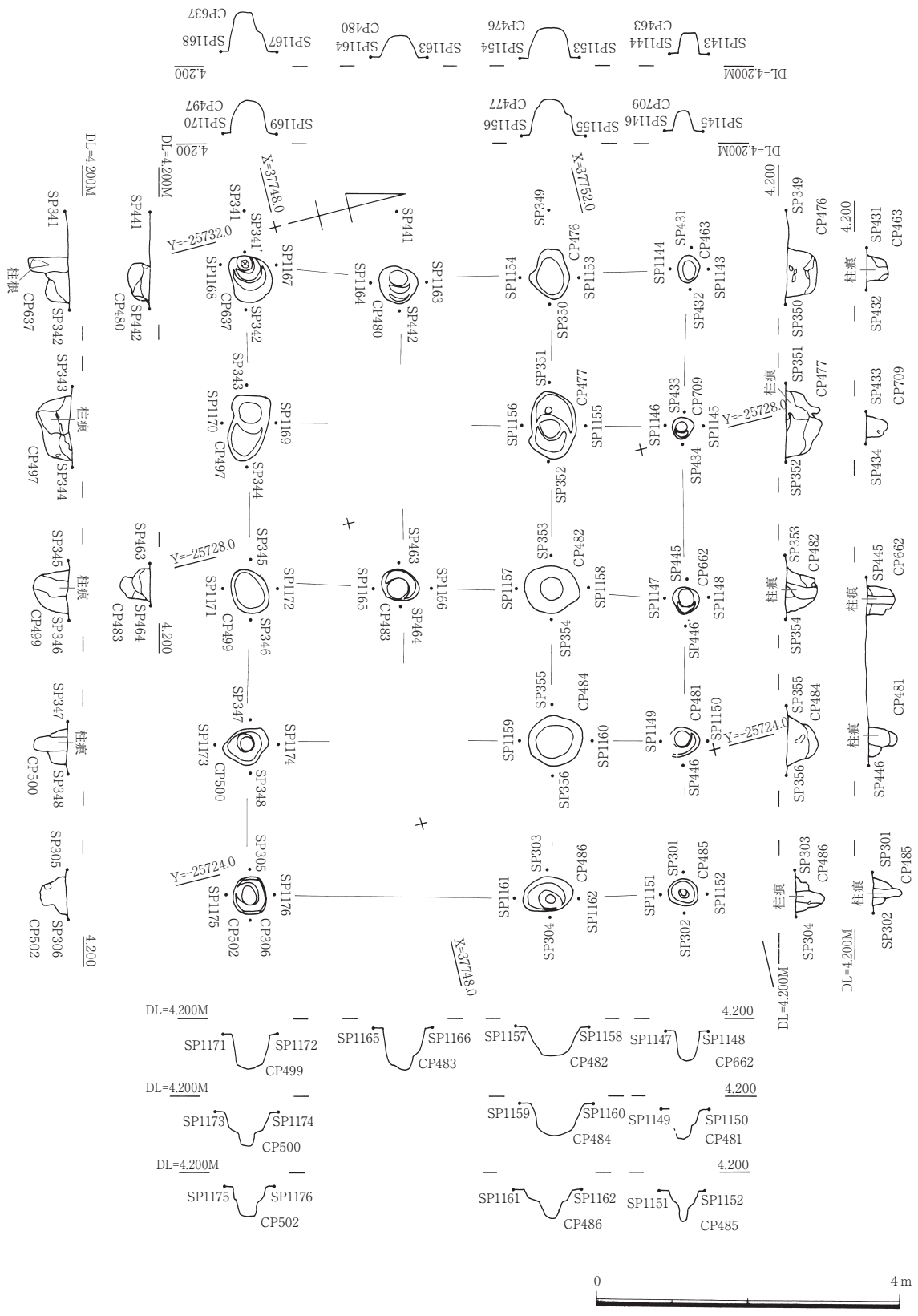


Fig. 12 C区 SB5 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

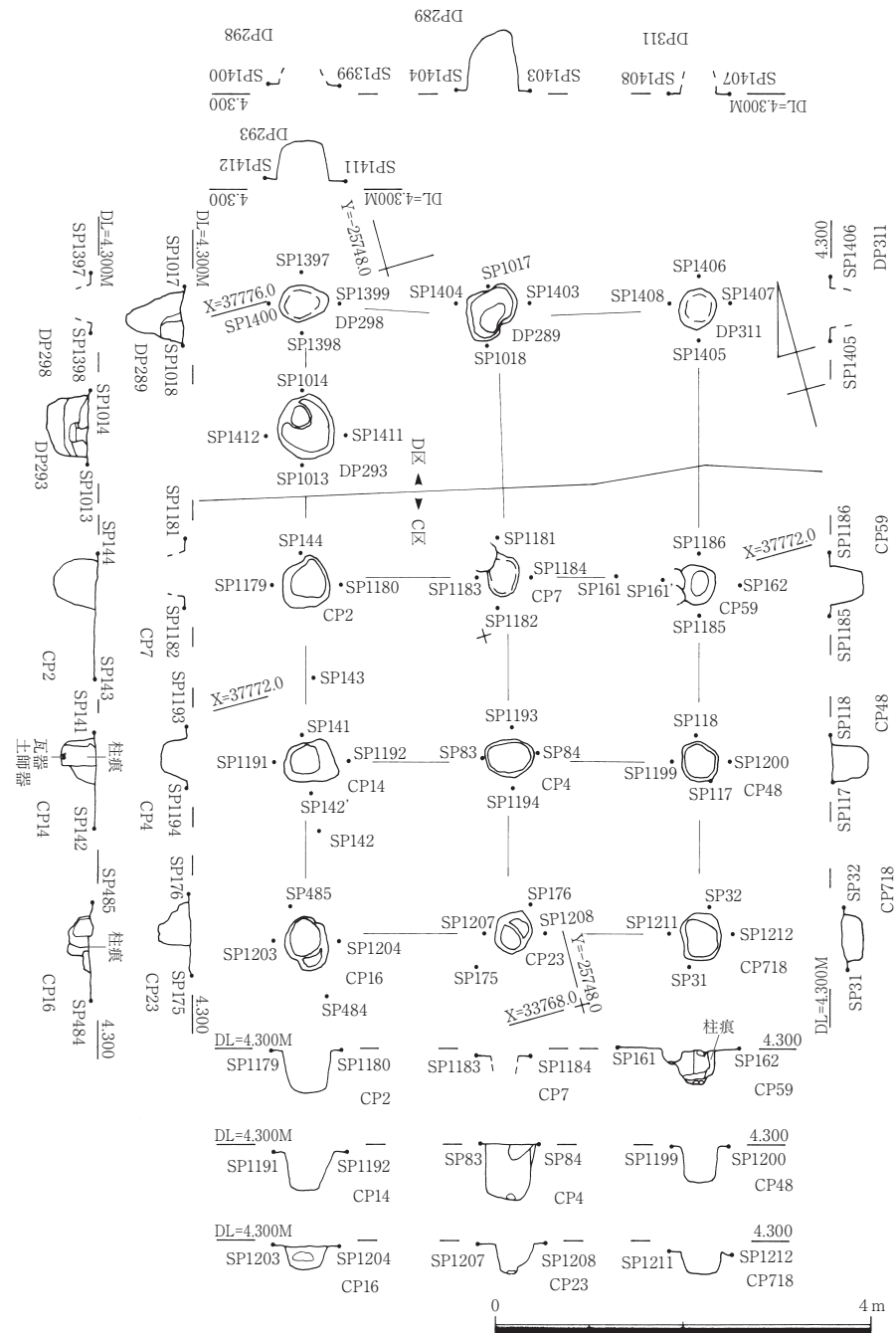


Fig. 13 C区 SB7 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間	桁行第1筋	計測m	見当尺	桁行第2筋	計測m	見当尺	桁行第3筋	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
C区SB7	柱の痕跡			柱の痕跡			柱の痕跡						
梁間第1筋	DP298	2.09	7尺	DP298	2.16	7尺	DP311	4.25m	2間	2.125m	7尺	0.30357m	W15.8°N
柱の痕跡													
計測m	見当尺	※1.21	※4尺	2.76	9尺		※2.91	※9尺半					
梁間第2筋	※DP293			↓無検出			↓無検出						
柱の痕跡													
計測m	見当尺	1.68	5尺半	↓	↓		↓	↓					
梁間第3筋	CP2	2.12	7尺	CP7	2.10	7尺	CP59	4.23m	2間	2.115m	7尺	0.30214m	W16.0°N
柱の痕跡							柱筋有り						
計測m	見当尺	1.92	6尺	1.89	6尺		1.86	6尺					
梁間第4筋	CP14	2.20	7尺	CP4	2.01	7尺	CP48	4.22m	2間	2.110m	7尺	0.30143m	W15.0°N
柱の痕跡	柱筋有り												
計測m	見当尺	1.82	6尺	1.84	6尺		1.81	6尺					
梁間第5筋	CP16	2.16	7尺	CP23	2.04	7尺	CP718	4.20m	2間	2.100m	7尺	0.30000m	W15.0°N
柱の痕跡	柱筋有り												
柱筋直線長	6.60			6.46			6.55	総延36.51m	計8間	総平均	尺度規格	1尺平均	柱筋
検出間数	4間			3間			3間	計10間	総計18間	2.11250m	7尺	逆算値	平均方位
1間平均値	不等間			不等間			不等間	総平均	—	不等間	総合	0.30179m	—
1間見当尺	4尺・5尺半+6尺2間			9尺1間+6尺2間			9尺半1間+6尺2間	尺度規格	9尺(半)・6尺	総合	7・6・9尺系	総合1尺値	W15.33°N
1尺逆算値	0.30697m			0.30781m			0.30474m	1尺平均逆算値		0.30651m	総合1尺値	0.30415m	交角
柱筋方位	N14.7°E			N14.2°E			N15.0°E	柱筋	平均方位	—	N14.63°E	交角	89.30°

表4 C区SB7柱筋計測表

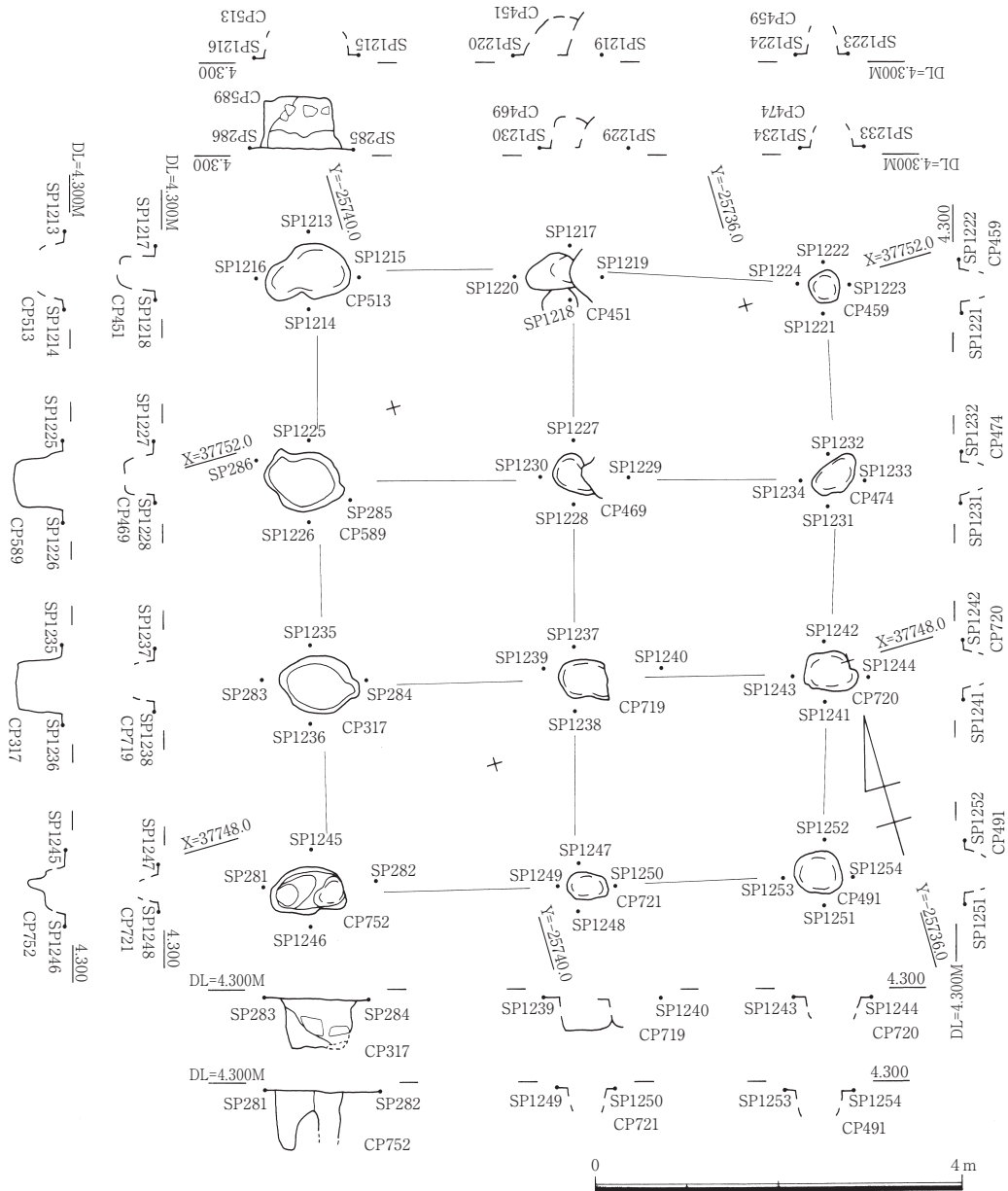


Fig. 14 C区 SB8 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間	桁行第1筋	計測m	見当尺	桁行第2筋	計測m	見当尺	桁行第3筋	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
C区 S B 8	柱の痕跡			柱の痕跡			柱の痕跡						
梁間第1筋	CP513	2.27	9尺	CP451	2.79	9尺	CP459	5.55m	全2間	2.775m	9尺	0.30833m	W17.4° N
柱の痕跡													
計測m 見当尺	2.26 7			2.26 7			2.11 7						
梁間第2筋	CP589	2.77	9尺	CP469	2.84	9尺	CP474	5.61m	全2間	2.805m	9尺	0.31167m	W16.0° N
柱の痕跡													
計測m 見当尺	2.21 7			2.18 7			2.09 7						
梁間第3筋	CP317	2.74	9尺	CP719	2.78	9尺	CP720	5.53m	全2間	2.765m	9尺	0.30722m	W14.6° N
柱の痕跡													
計測m 見当尺	2.23 7			2.22 7			2.20 7						
梁間第4筋	CP347	2.76	9尺	CP721	2.67	9尺	CP491	5.44m	全2間	2.720m	9尺	0.30222m	W14.2° N
柱の痕跡													
柱筋直線長	6.70m			6.67m			6.39m	総延41.89m	計8間	総平均	尺度規格	1尺平均逆	柱筋
検出間数	全3間			全3間			全3間	計9間	総計17間	2.766m	9尺	算値	平均方位
1間平均値	2.233m			2.223m			2.130m	総平均	2.195m	不等間	総合	0.30736m	
1間見当尺	7尺			7尺			7尺	尺度規格	7尺	総合	7尺×9尺系	W15.55° N	
1尺逆算値	0.31905m			0.31762m			0.30429m	1尺平均逆算値	0.31365m	総合1尺値	0.31051m	平均交角	
柱筋方位	N15.1° E			N15.0° E			N16.0° E	柱筋	平均方位	—	N15.37° E	平均交角	89.82°

表5 C区SB8柱筋計測表

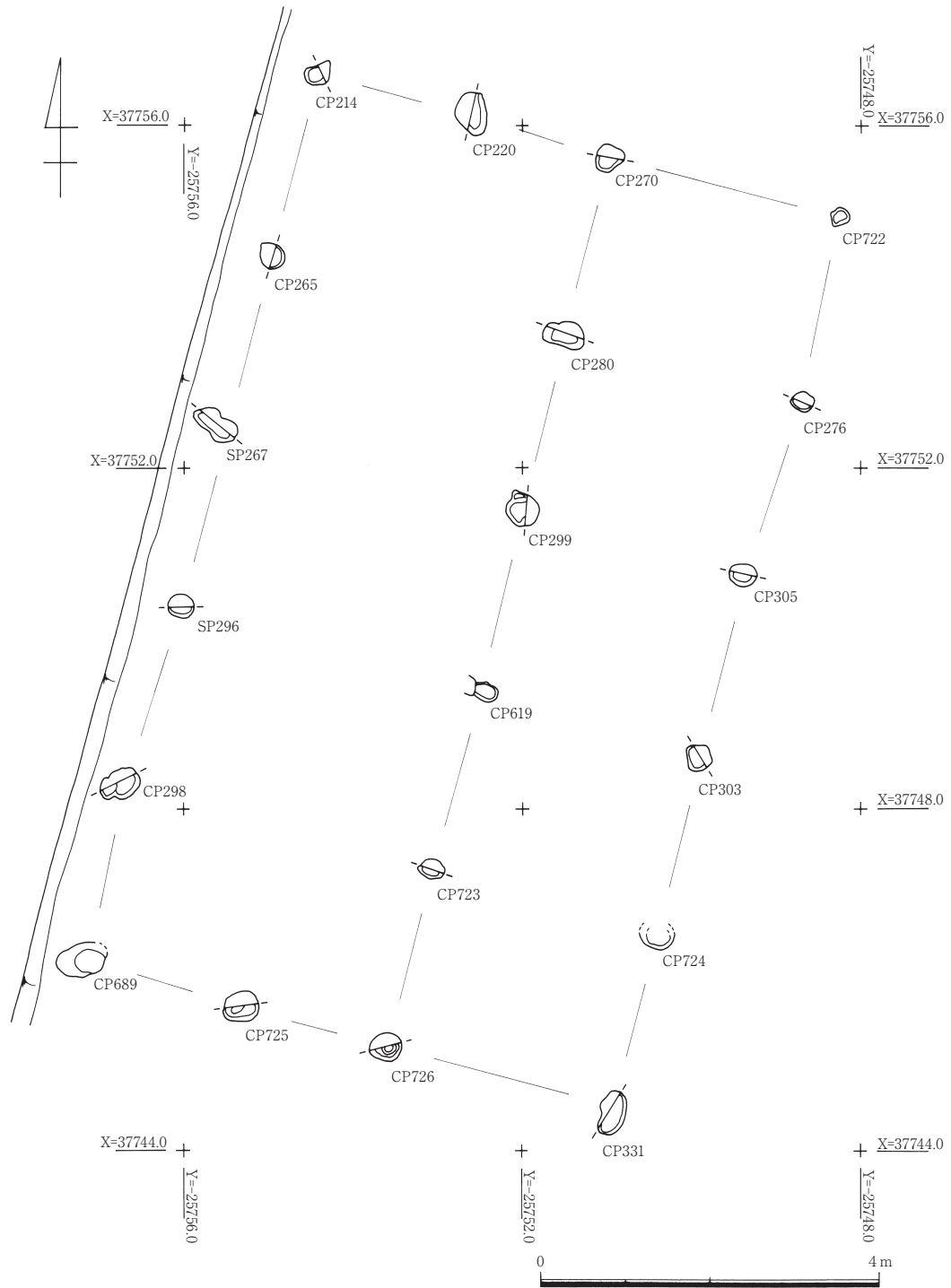


Fig. 15 C区 SB9 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間 C区 SB9 柱の距離	桁行第1筋 柱の距離	計測m	見当尺	桁行第2筋 柱の距離	計測m	見当尺	桁行第3筋 柱の距離	計測m	見当尺	桁行第4筋 柱の距離	柱筋直線長	輸出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺進算値	柱筋方位			
第1間	CP214	1.65	5.5	CP220	1.72	5.5	CP270	2.80	9	CP欠番	6.37m	全3間半	不等間	6尺換算	0.30333m	W-14.5°N			
計測m	見当尺	2.20	7	10.80	36	2.14	7	2.22	7										
第2間	CP265	3.60	12			←3.60	←12	CP280	2.89	9	CP276	6.48	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.30857m	W-14.8°N		
計測m	見当尺	2.10	7			1	1	2.13	7	CP299	2.74	9	CP305	6.35m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.30238m	W-15.3°N
第3間	CP267	3.61	12			←3.61	←12	CP299	2.74	9	CP305	6.35m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.30238m	W-15.3°N		
計測m	見当尺	2.12	7					2.15	7	CP619	2.65	9	CP303	6.34m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.30190m	W-16.2°N
第4間	CP296	3.67	12			←3.67	←12	CP619	2.65	9	CP303	6.34m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.30190m	W-16.2°N		
計測m	見当尺	2.19	7			↑	↑	2.18	7	CP724	2.12	7							
第5間	CP298	3.78	12			←3.78	←12	CP724	2.78	9	CP724	6.56m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.31238m	W-15.5°N		
計測m	見当尺	2.14	7			10.80	36	2.14	7		2.12	7							
第6間	CP689	1.80	6			7尺		CP726	2.74	9	CP331	6.40m	全3間半換算	不等間	6尺換算	0.305	W-15.4°N		
計測m	見当尺	10.73m				10.80		10.75		10.78	総延81.56m	計21間換算	総平均	尺進規格	1尺平均	柱筋			
輸出間数		全5間		全5間換算		全5間		全5間		全5間	総延81.56m	計20間換算	総平均	6尺	進算値	平均方位			
1間平均値		2.146m		2.160m		2.150m		2.156m		2.156m	総平均	2.153m	不等間	総合	0.30571m				
1間見当尺		7尺		7尺		7尺		7尺		7尺	尺進規格	7尺	総合	7尺+6尺+9尺系	総合1尺値	W15.28°N			
1尺進算値		0.30657m		0.30857m		0.30714m		0.30800m		0.30800m	1尺平均進算値	0.30757m		総合1尺値	0.30664m	交角			
柱筋方位		N14.2°E		N14.6°E		N13.8°E		N14.4°E		N14.4°E	柱筋	平均方位		N14.25°E	交角	88.97°			

表6 C区SB9柱筋計測表

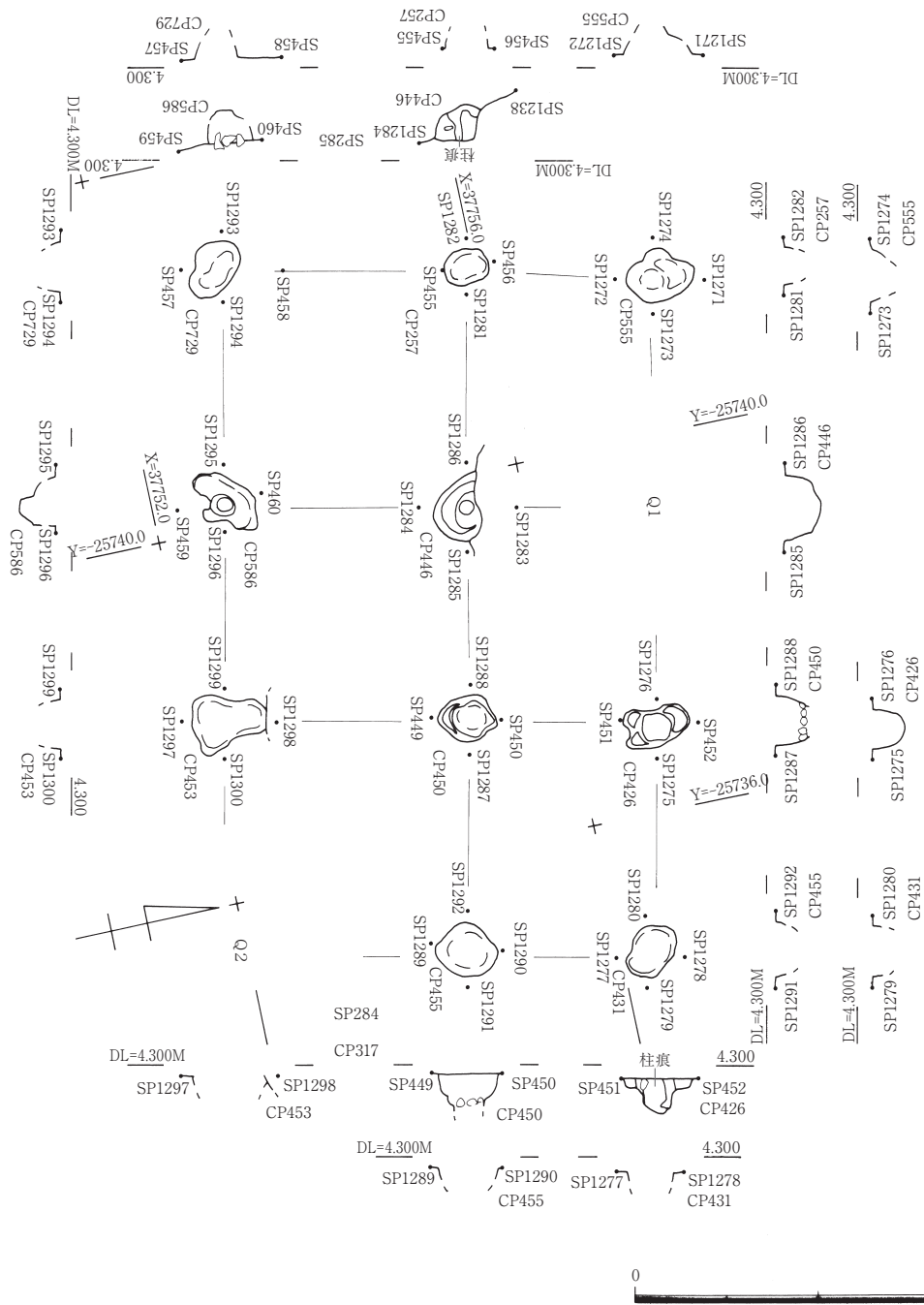


Fig. 17 C区 SB12 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間 C区 SB12	梁間第1筋 柱の距離	計測m	見当尺	梁間第2筋 柱の距離	計測m	見当尺	梁間第3筋 柱の距離	計測m	見当尺	梁間第4筋 柱の距離	計測m	見当尺	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位	
桁行第1筋 柱の距離	CP555	4.80	16	→CSE1掘削	—	—	CP426	2.48	8尺	CP431	2.06	6.5	7.28	全3間換算	2.42667m	8尺見当	0.30333	W11.5N	
計測m 見当尺		2.02 6.5					2.02 6.5			2.06 6.5									
桁行第2筋 柱の距離	CP257	2.61	※8	CP446	2.29	8	CP450	2.48	8尺	CP455	2.06	6.5	7.41	全3間	2.47000m	8尺	0.30875	W12.1N	
計測m 見当尺		2.68 9		2.67 9			2.73 9			—									
桁行第3筋 柱の距離	CP729	2.52	8	CP586	2.34	8	CP453	—	—	CSK16掘削	—	—	4.85	2間	2.42500m	8尺	0.30313	W12.0N	
柱筋直線長	4.69			2.67			4.75			2.06			総延33.71m	計8間換算	総平均	尺度規格	1尺平均逆算	柱筋	
検出間数	全2間			1間			全2間			1間			総計14間換算	2.44056m	8尺	総合	0.30507m	平均方位	
1間平均値	2.02・2.68m			2.67m			2.02・2.73m			2.06m			総平均	不等間	不等間	総合	6.5・9尺×8尺系	総合1尺値	平均方位
1間見当尺	6.5尺・9尺			9尺			6.5尺・9尺			6.5尺			尺度規格	6尺半・9尺	総合	6.5・9尺×8尺系	総合1尺値	平均方位	
1尺逆算値	0.30258m			0.29666m			0.30645m			0.31692m			1尺平均逆算値	0.30565m		総合1尺値	0.30536m	平均方位	
柱筋方位	N13.0°E			N12.7°E			N12.3°E			N12.3°E			柱筋	平均方位	—	N12.58°E	平均方位	90.71°	

表8 C区SB12柱筋計測表

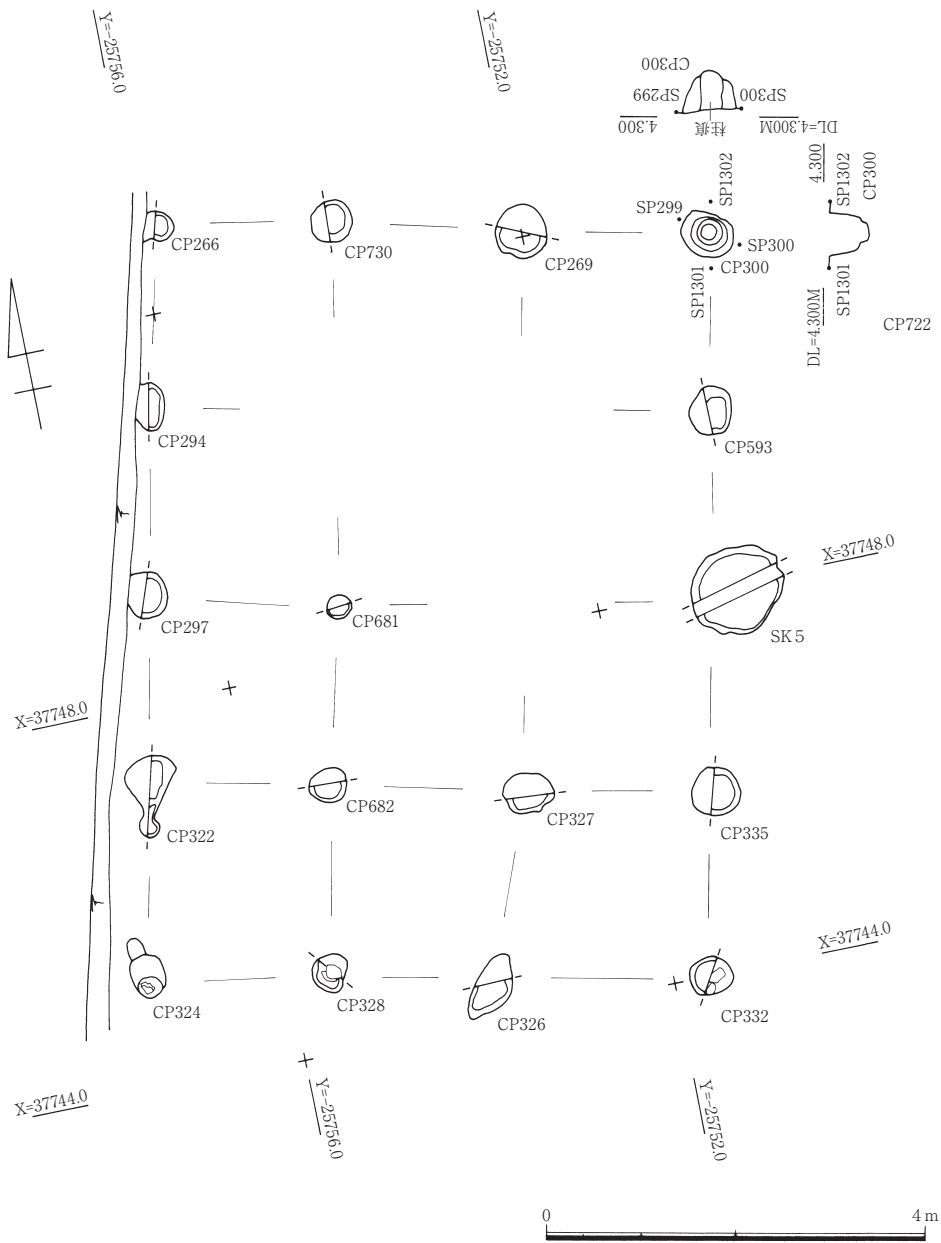
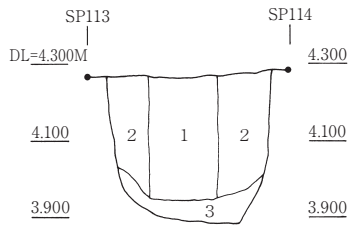
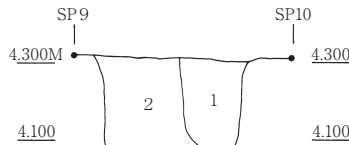


Fig. 18 C区 SB13 掘立柱建物跡 (S : 1/80)



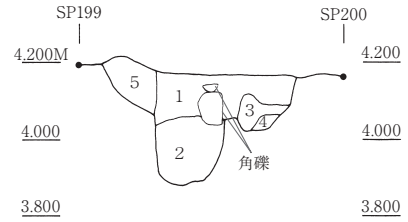
1. 粘土質シルト(褐灰色 10YR5/1)：泥岩碎屑物φ50mm.Maxを多含し、土器片を含む。
2. 角礫(橙色 5YR6/6)：泥岩碎屑物が充填。
3. 粘土(黄灰色 2.5Y5/1)：明黄褐色粘土のブロックを含む。

図1 SB3-CP7
半裁断面



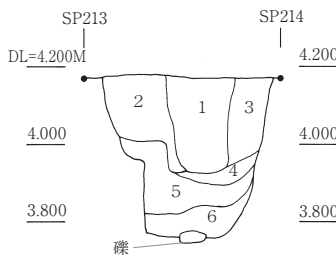
1. 泥岩碎屑物(にぶい黄橙色 10YR6/3)：泥岩碎屑物が充填。
2. 粘土(黄色)：灰色シルトのブロック少含。

図2 SB3-CP40
半裁断面



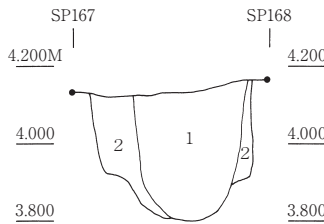
1. 礫混じりシルト(浅黄色 2.5Y7/4)：角礫φ50~100mm.Maxを含む。
2. 粘土質シルト(暗黄灰色 2.5Y4/2)：1に類似するが、色調が若干暗い。
3. 礫混じりシルト(灰黄色 2.5Y6/2)：優白質の泥岩角礫を含む。
4. 粘土(暗黄灰色 2.5Y4/2)：泥岩碎屑物少含。
5. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：泥岩碎屑物φ100mm.Max多含；円礫200mm.Maxを含む。

図3 SB3-CP187
半裁断面



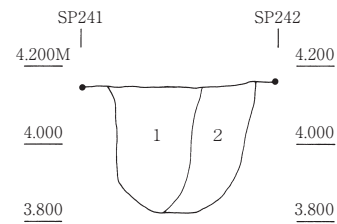
1. 礫混じり粘土質シルト(浅黄橙色 7.5YR8/3)：優白質泥岩の碎屑物φ30mm.Maxが詰まる。
2. 礫(浅黄橙色 7.5YR8/6)：優白質泥岩の碎屑物が充填。
3. 礫混じり粘土質シルト(灰褐色 7.5YR5/2)：泥岩碎屑物φ5mm.Maxを含む。
4. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色 7.5YR4/1)：泥岩碎屑物φ5mm.Maxを少含。
5. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色 10YR5/1)：泥岩碎屑物φ5mm.Maxと炭化物φ5mm.Maxを微含。
6. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色 7.5YR4/1)：泥岩碎屑物φ5mm.Maxを多含；少量の炭化物10mm.Maxを含む。

図4 SB3-CP251
半裁断面



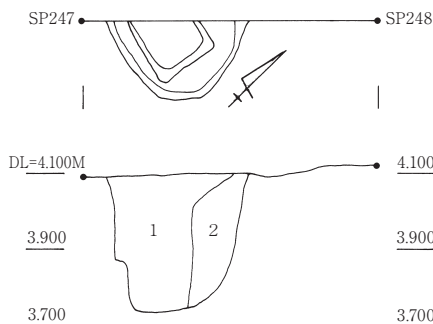
1. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2)：泥岩碎屑物φ5mm.Maxを含む。
2. 粘土混じり角礫(橙色 5YR6/6)：泥岩碎屑物を主体とし、灰黄色粘土を少含。

図5 SB3-CP400
半裁断面



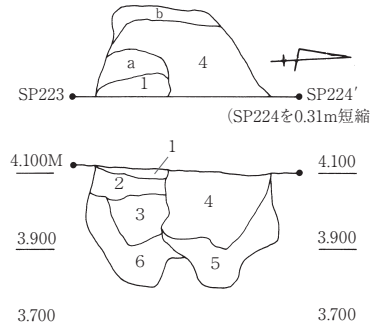
1. 角礫混じり粘土質シルト(褐灰色 10YR4/1)：土壤基質は黄灰色粘土を交え、角礫は泥岩碎屑物で構成。土器片・炭化物を含む。
2. 粘土(にぶい黄色 2.5Y6/4)：泥岩碎屑物と炭化物を含む。

図6 SB4-CP150
半裁断面



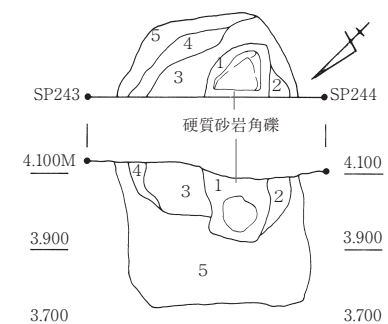
1. 角礫混じり粘土質シルト(褐色 10YR4/4)：土壤置換の柱痕；中位以下の横断形は方形を呈す；同層準基底の柱穴底には方形の窪みが見え、その凹径170~180mmが立柱元来の直径と考えられる；土壤は炭化物を含み、角礫は泥岩碎屑粒子で構成。
2. 粘土(黄褐色 2.5Y5/4)：泥岩碎屑物を少含。

図7 SB4-CP212
上半裁断面
下半裁断面



1. 角礫(灰黄色 2.5Y6/2)：第IV層由来のシルト質粘土断片が混じる。
2. 角礫混じり粘土(黒褐色 10YR3/1)：断面の約4割を占める角礫は優白質の泥岩碎屑物。
3. 角礫混じり粘土(黒褐色 10YR3/1)：直上の2に似るが、泥岩碎屑物の割合が2割程度に止まる。
4. シルト質粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：第IV層の断片集合で、微量の泥岩碎屑物を交える。
5. 粘土(褐灰色 10YR4/1)：泥岩碎屑物が混じる。
6. 粘土(褐灰色 10YR4/1)：泥岩碎屑物を含み、炭化物φ10mm.Maxを少含。

図8 SB4-CP239
上 保留検出面
下 半裁断面

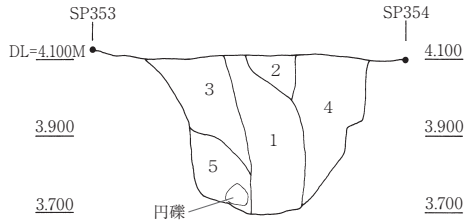


1. 細礫混じり粘土(灰黄褐色 10YR5/2)：断面の約2割を占める細礫は泥岩碎屑物φ10mm.Maxで構成；別に、硬質砂岩角礫φ160mm1個を検出。
2. 少礫混じり粘土(灰黄褐色 10YR5/2)：断面の約4割を占める少礫は泥岩碎屑粒子φ20mm.Maxで構成。
3. シルト質粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：第IV層断片の集合で泥岩碎屑粒子φ5mm.Maxを微含。
4. 細礫混じり粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：第IV層断片の集合で泥岩碎屑物・炭化物少含。
5. 細礫混じり粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：第IV層断片の集合で泥岩碎屑物・炭化物少含。

図9 SB4-CP241
上 保留検出面
下 半裁断面

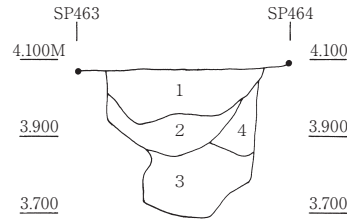


Fig. 19 C区 掘立柱建物跡SB3・SB4の柱穴 (S：1/20)



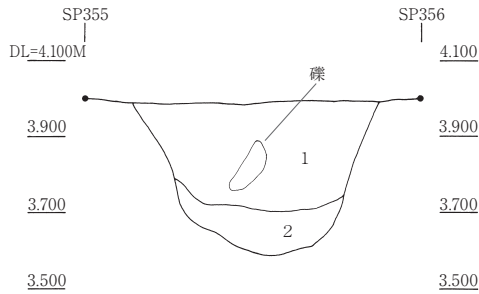
1. 粘土(黄灰色2.5Y4/1)：炭化物多含。
2. 粘土質シルト(にぶい黄色2.5Y6/3)：泥岩碎屑物を少含。
3. 礫混じり粘土(灰黄色2.5Y6/2)
4. 角礫混じり粘土質シルト(オリブ褐色2.5Y4/3)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
5. 円礫混じり粘土(黄灰色2.5Y6/1)

図1 SB5-CP482
半裁断面



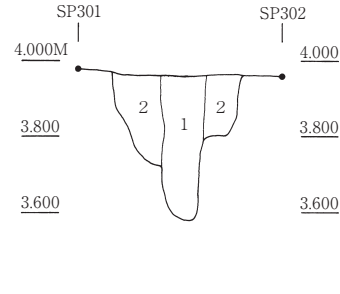
1. 粘土混じり角礫(黄灰色2.5Y5/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成；炭化物を含む。
2. 粘土混じり角礫(黄灰色2.5Y4/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成；炭化物・土器片を含む。
3. 粘土(黄灰色2.5Y4/1)：泥岩碎屑物と炭化物を少含。土壤置換の柱痕に見える点から、右上4の上位とした。
4. 角礫混じり粘土(オリブ褐色2.5Y4/4)：炭化物を含む。

図2 SB5-CP483
半裁断面



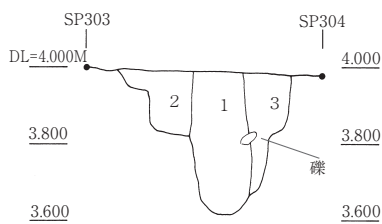
1. 粘土(暗灰黄色2.5Y54/2)：硬質砂円礫φ150mmを含む；炭化物多含。
2. 粘土(黄灰色2.5Y54/1)：炭化物やや多。

図3 SB5-CP484
半裁断面



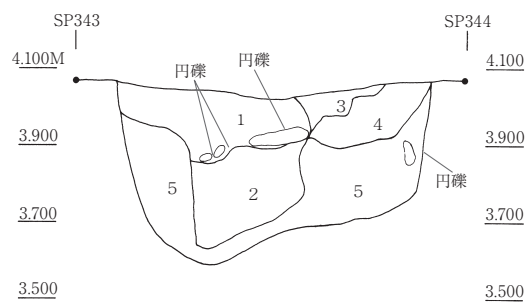
1. 円礫混じり粘土(暗灰黄色2.5Y5/2)：土壤置換の柱痕(断面幅120mm)；混在する円礫はφ20～50mm級。
2. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色2.5Y5/1)：礫は泥岩碎屑物で構成。

図4 SB5-CP485
半裁断面



1. 角礫混じり粘土(黄灰色2.5Y4/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
2. 角礫混じり粘土(黄灰色2.5Y6/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
3. 粘土質シルト(オリブ褐色2.5Y4/3)：泥岩碎屑物を少含。

図5 SB5-CP486
半裁断面

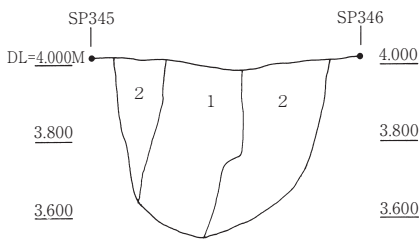


1. 粘土質シルト(黄灰色2.5Y5/1)：土壤置換の柱痕上位で上方に拡幅；層準基底にφ20～150mm級の円礫が分布；土器片・炭化物多含。
2. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色2.5Y4/1)：土壤置換の柱痕下位で断面幅約300mm；土器片・炭化物を含む。
3. 粘土混じり角礫(黄灰色2.5Y6/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
4. 礫混じり粘土質シルト(黄褐色2.5Y5/3)：礫はφ30mm.Maxの円礫と泥岩碎屑物で構成；土器片・炭化物を含む。
5. 礫混じり粘土(オリブ褐色2.5Y4/3)：礫は、φ50mm級の円礫と泥岩碎屑物で構成；炭化物を含む。

図6 SB5-CP497
半裁断面

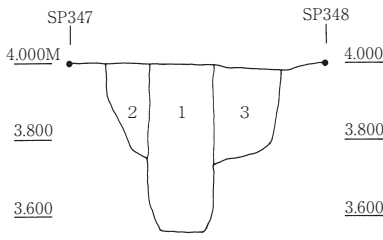


Fig. 20 C区 掘立柱建物跡SB5の柱穴 (S：1/20)



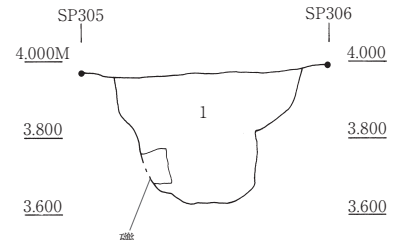
1. 粘土(オリブ黒色 5Y3/1) : 土壌置換の柱痕 ; 上位では泥岩碎屑物が多混。
2. シルト質粘土(黄褐色 2.5Y5/3) : φ 30mm 級の円礫を微含。

図 1 SB5-CP499
半裁断面



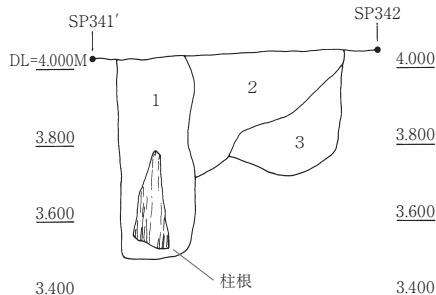
1. 粘土(暗灰黄色 2.5Y4/2) : φ 10 ~ 20mm 級の円礫を含む。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : φ 20mm 級の円礫を含む。
3. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2) : φ 70mm Max の円礫および炭化物を含む。

図 2 SB5-CP500
半裁断面



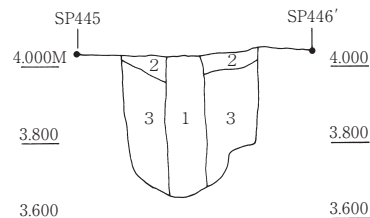
1. 礫混じりシルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 混礫は φ 30mm 級の円礫と泥岩碎屑物で構成 ; ほかに φ 90mm 級の硬質砂岩角礫を見る ; 炭化物やや多。

図 3 SB5-CP502
半裁断面



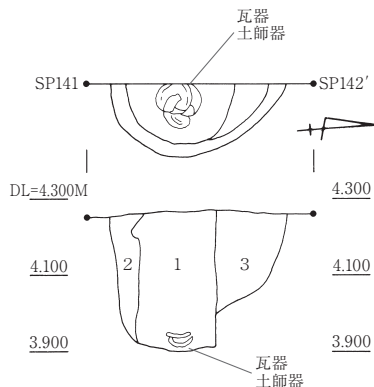
1. 粘土(黄灰色 2.5Y4/1) : 粘土部分は柱痕であり、下半には柱根芯部が遺存(底径 95mm) ; 柱穴底の掘り方に照らすと、元来の立柱径は 180mm 前後と推定。
2. 礫混じりシルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 混礫の主体は泥岩碎屑物 ; ほかに φ 20mm Max 級円礫も分布 ; 炭化物を含む。
3. シルト質粘土(オリブ褐色 2.5Y4/4) : 泥岩碎屑物少含。

図 4 SB5-CP367
半裁断面



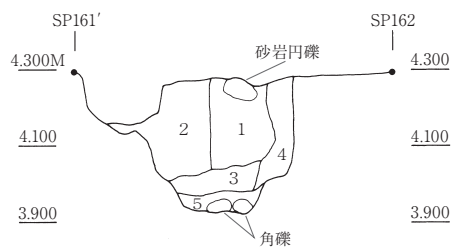
1. 粘土(灰色 5Y4/1) : 土壌置換の柱痕で、断面幅 100mm 前後 ; 炭化物少含。
2. 角礫混じりシルト(灰色 5Y6/1) : 角礫は泥岩碎屑物で構成。
3. 粘土(オリブ色 5Y5/4) : 泥岩碎屑物と炭化物を少含。

図 5 SB5-CP662
半裁断面



1. 粘土混じり角礫(褐灰色 10YR4/1) : 泥岩碎屑粒子主体の土壌に置換した柱痕で、断面幅約 200mm ; 柱痕基底には、瓦器碗と土師器杯が重なる ; 地鎮供献と見られるこの種の出土状況は、全調査区の遺構を通じてこの 1 例に尽きる。
2. 角礫混じりシルト(にぶい黄褐色 10YR5/4) : 角礫は泥岩碎屑物で構成 ; 炭化物を含む。
3. 角礫混じりシルト(黒褐色 10YR3/1) : 角礫は泥岩碎屑物で構成。

図 6 SB7-CP14
上半裁平面
地鎮供献土器出土
下半裁断面

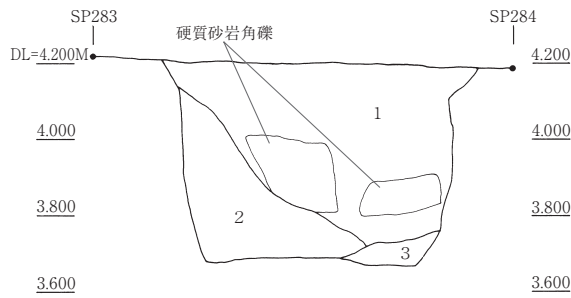


1. 角礫(黒色 10YR2/1) : 角礫は泥岩碎屑物で構成 ; 別に φ 120mm 級の砂岩円礫を上部に見る。
2. 角礫(黄褐色 2.5Y5/3) : 角礫は泥岩碎屑物で構成 ; 炭化物を含む。
3. 角礫(黄灰色 2.5Y5/1) : 角礫は泥岩碎屑物で構成 ; 炭化物を含む。
4. 角礫(黄褐色 2.5Y5/3) : 角礫は泥岩碎屑物で構成 ; 粘土ブロックを含む。
5. 角礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y5/1) : 角礫は φ 30 ~ 100mm 級の泥岩碎屑物で構成。

図 7 SB7-CP59
半裁断面

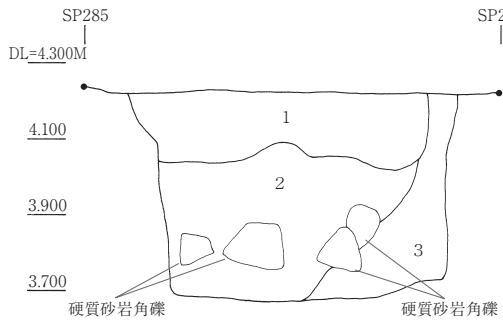


Fig. 21 C区 掘立柱建物跡SB5・SB7の柱穴 (S : 1/20)



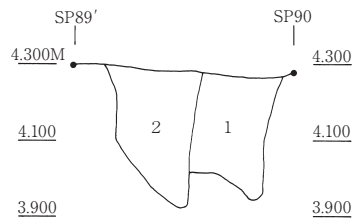
1. 粘土(橙色5YR6/6)：φ 50～200mm級の硬質砂岩角礫を含む。
2. 角礫混じり粘土(黄褐色 2.5Y5/4)：角礫は泥岩碎屑物で構成；炭化物を含む。
3. 粘土(灰色5Y6/1)：炭化物を含む。

図1 SB8-CP317
半裁断面



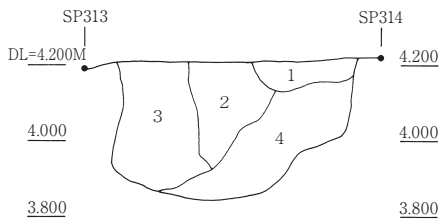
1. 角礫混じり粘土(明黄褐色 10YR7/6)：角礫は泥岩碎屑物φ 100mm.Maxで構成。
2. 礫(橙色 7.5YR6/6)：小礫級の泥岩碎屑物が主体；硬質砂岩角礫φ 170mm.Maxが混じる。
3. 角礫(灰黄色 2.5Y6/2)：泥岩碎屑物で構成；炭化物を含む。

図2 SB8-CP589
半裁断面



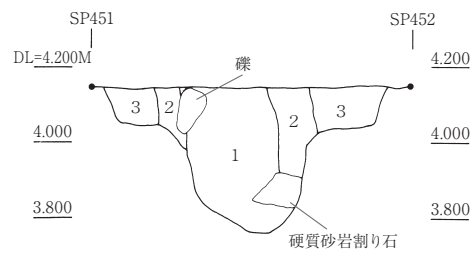
1. 角礫混じり粘土(橙色 7.5YR6/6)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
2. 砂礫(灰黄褐色 10YR4/2)：礫は岩碎屑物で構成；炭化物を含む。

図3 SB10-CP45
半裁断面



1. 角礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
2. 角礫混じり粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/3)：角礫は泥岩碎屑物で構成。
3. 角礫(暗灰黄色 2.5Y5/2)：φ 50mm級の泥岩碎屑物で構成。
4. 粘土(明黄褐色 2.5Y6/6)：粘土ブロックの集合。

図4 SB11-CP728
半裁断面

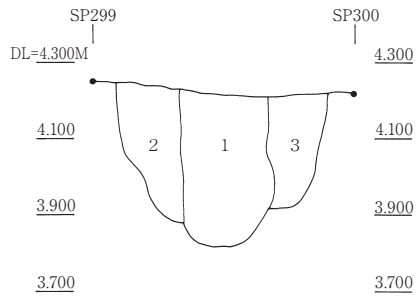


1. 角礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成；炭化物を含む。
2. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y5/1)：土壤置換の柱痕；硬質砂岩の円礫と割り石φ 100～200mm級を含む。
3. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：泥岩碎屑物を少含む。

図5 SB12-CP426
半裁断面

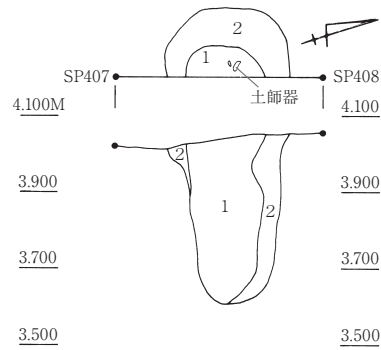


Fig. 22 C区 掘立柱建物跡SB8・SB10・SB11・SB12の柱穴 (S : 1/20)



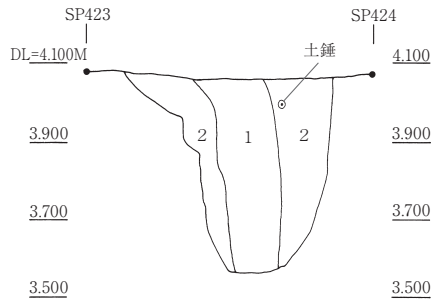
1. 角礫混じり粘土質シルト(褐灰色10YR4/1): 角礫は泥岩碎屑物で構成;炭化物を含む。
2. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色10YR4/1): 土壌基質は明黄褐色の粘土を交え泥岩碎屑物と炭化物を微含。混礫はφ30mm級の円礫と泥岩碎屑物で構成。
3. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色10YR4/1): 混礫はφ30mm級の円礫と泥岩碎屑物で構成。

図1 SB13-CP300
半裁断面



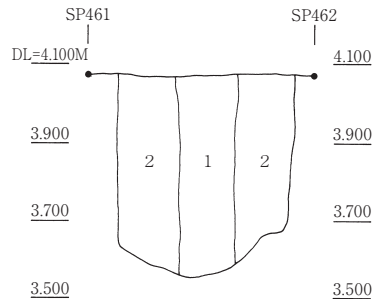
1. 砂混じり粘土(灰黄褐色10YR4/2): 土壌置換の柱痕;円礫φ10mm. Maxと炭化物φ3mm.Max少含;土師器片分布。
2. シルト質粘土(にぶい黄褐色10YR6/4): IV層断片の集りに円礫φ10mm. Max少混;断面に占める円礫の割合は約1割程度。

図6 SB16-CP417
上 保留検出面
下 半裁断面



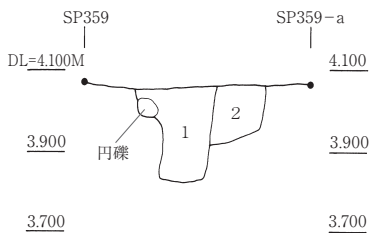
1. 粘土(黒褐色2.5Y3/1): 土壌置換の柱痕;土器片の分布やや多。
2. 粘土質シルト(オリーブ褐色2.5Y4/3): 円礫φ30mm. Maxと土器片を含む;断面に土錘1点を見る。

図3 SB16-CP462
半裁断面



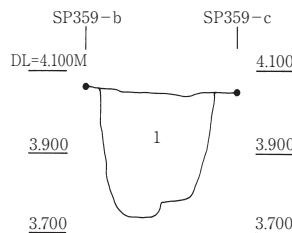
1. 粘土質シルト(黄褐色2.5Y5/3): 土壌置換の柱痕;φ20~30mm級円礫のほか、泥岩碎屑物と炭化物を微含。
2. 粘土質シルト(黄褐色2.5Y5/3): 1と同様だが、土壌の密圧度が若干低い;この柱穴は、第V層(河成)表部の砂利層に達する。

図4 SB16-CP498
半裁断面



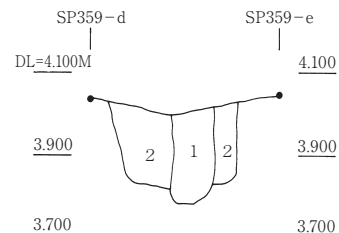
1. 粘土質シルト(灰黄褐色10YR4/2): 土壌置換の柱痕;φ10~50mm級円礫少混;土器片を含む。
2. 粘土質シルト(灰黄褐色10YR5/2): φ5mm級円礫少混。

図5 SB16-CP667
半裁断面



1. 粘土質シルト(にぶい黄褐色10YR4/3): 円礫φ30mm. Max少混;炭化物多含;土器片を含む。

図6 SB16-CP668
半裁断面



1. 礫混じり粘土質シルト(褐灰色10YR4/1): 土壌置換の柱痕;礫はφ50mm. Max級円礫と泥岩碎屑物。
2. 粘土質シルト(オリーブ褐色2.5Y4/4): 泥岩碎屑物少混。

図7 SB16-CP670
半裁断面



Fig. 23 C区 掘立柱建物跡SB13・SB16の柱穴 (S: 1/20)

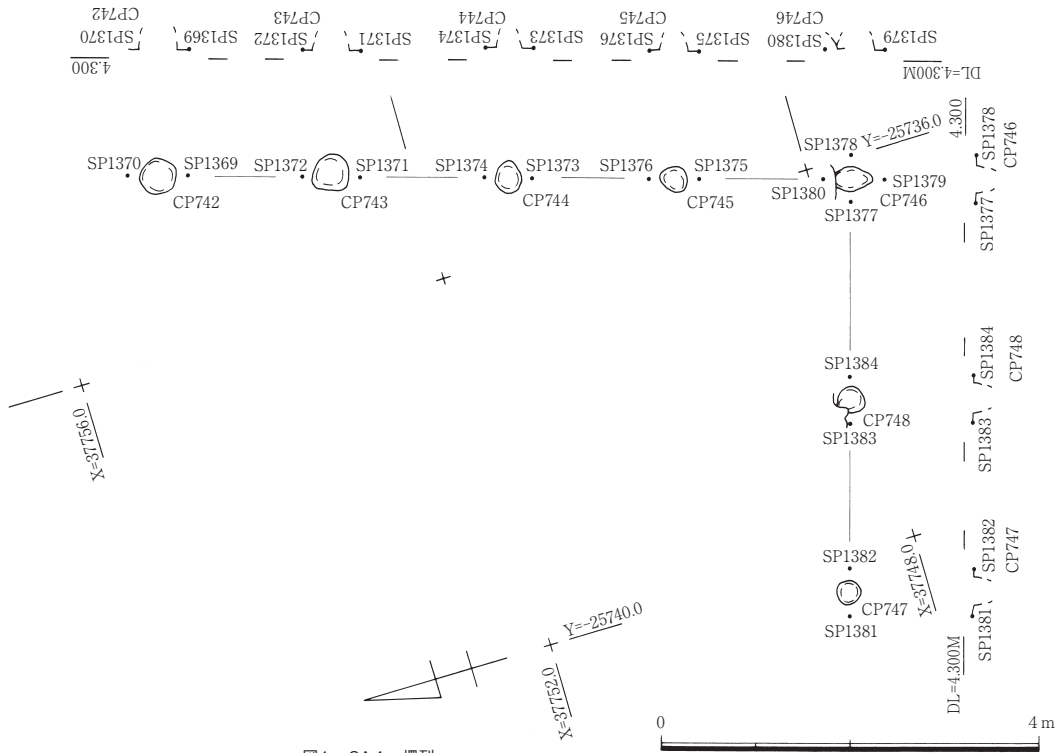


図1 SA4 柵列

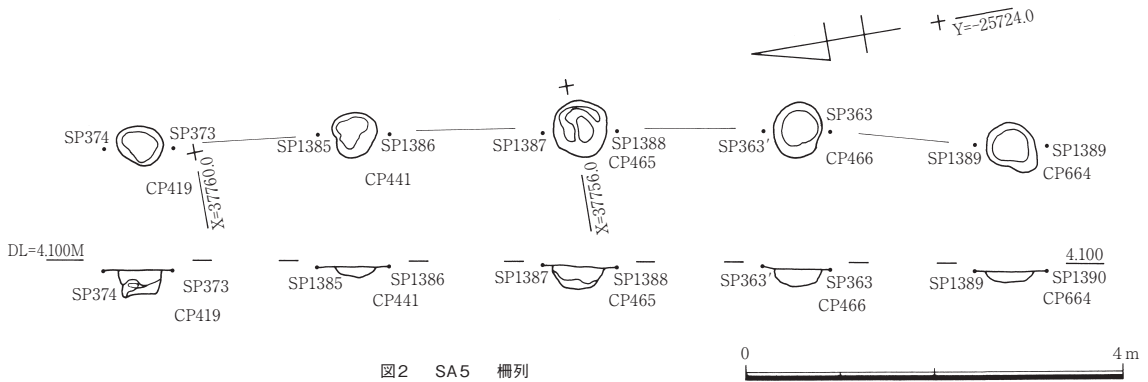


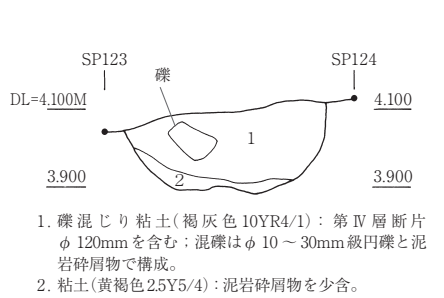
図2 SA5 柵列

Fig. 25 C区 SA4・SA5 柵列 (S : 1/80)

2. 柵列

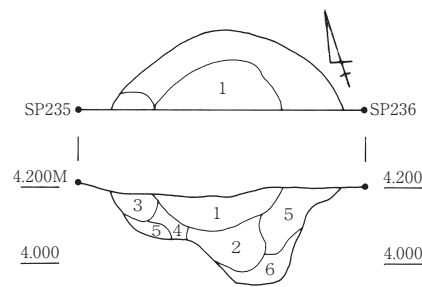
本報告書では、柵列 (SA) のなかに掘立柱建物跡の一部か否か判別し難い柱穴列を含めている。この意味において坪ノ内遺跡全体で検出した柵列 5 基は、いずれも推定もしくは暫定の判断域を出ない。5 基のうち C 区所属は次に記す SA2・SA3・SA4・SA5 の 4 基である。

1) SA2 柵列 (Fig.24- 図 1): SA2 は、検出全長 8.50m (見当 2 丈 8 尺) に平均 2.124m (見当 7 尺) の間隔で、5 基の柱穴が東西 (W14.5° N) 方位に直列する。1 尺平均値は 0.30357m であり、周囲の掘立柱建物跡と尺度を共有している。また、南側に平均 2.128m (見当 7 尺) を隔てる東西 (W14.5° N) 線上には、ほぼ同じ規格で SA3 の柱穴が並ぶ。この状況から、SA2 は SA3 とともに、梁間 1 間型



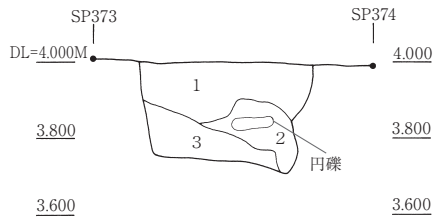
1. 礫混じり粘土(褐灰色 10YR4/1)：第IV層断片φ120mmを含む；混礫はφ10～30mm級円礫と泥岩碎屑物で構成。
2. 粘土(黄褐色 2.5Y5/4)：泥岩碎屑物を少含。

図1 SA2-CP106
半載断面



1. 粘土混じり角礫(浅黄色 2.5Y7/3)：土壤置換の柱痕上位；主体の角礫は優白質泥岩碎屑物φ20mm，Maxで構成；断面の約3割を占める粘土部分は，第IV層の断片類。
2. 粘土(黄灰色 2.5Y6/1)にぶい黄橙色 10YR6/3)：土壤置換の柱痕下位；泥岩碎屑物φ5mm.Maxを少混するほか，砂利および炭化物φ炭化物10mm.Max微含。
3. 粘土混じり角礫(灰黄色 2.5Y6/2)：主体の角礫は優白質泥岩碎屑物φ20mm.Maxで構成；断面の約4割を占める粘土部分は，第IV層の断片類φ30mm.Maxから成る。
4. シルト質粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：泥岩碎屑物φ5mm.Max微含。
5. 小礫混じりシルト質粘土(にぶい黄橙色 10YR6/3)：第IV層断片の集合間に泥岩碎屑物φ10mm.Max少散。
6. 細礫混じり粘土(黒褐色 10YR3/1)：炭質物の多い粘土に泥岩碎屑物φ10mm.Maxが少混。

図2 SA3-CP80
上 保留検出面
下 半載断面



1. 角礫混じり粘土質シルト(灰色 5Y4/1)：角礫は泥岩碎屑物で構成；炭化物と土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：土壤基質は黄褐色粘土と炭化物を交える；円礫φ110mmを含む。
3. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/3)：φ30mm級の円礫と炭化物を少含。

図3 SA5-CP419
半載断面



Fig. 26 C区 柵列SA2・SA3・SA5の柱穴 (S：1/20)

の細長い建物を構成していた可能性が強い。しかし、前者の列が後者の列に対して、約10cm東にずれる齟齬の点から、建物としての分類に躊躇した。

2) SA3 柵列 (Fig.24- 図2)：SA3は、既に上欄でSA2と対照したように、SA2の見当7尺南に位置する東西(W14.5°N)方位の柱穴列である。検出全長12.58m(見当4丈2尺)に平均2.097m(見当7尺)の間隔で、7基の柱穴が直列する。

柱穴の平面形は、概して角のとれた方形に近い点でもSA2と共通し、それらの長径は0.3～0.7mの範囲にある。柱根は遺存しないが、左記の平面形から方柱の並びであったと推定している。なお、上欄のSA2が掘立柱建物跡SB3・SB11の建地と重なるのに対し、SA3はSB3の建地のみと重なる。いずれも、SB3・SB11それぞれの長辺に対して-0.8°・-1.7°程度の僅差方位を指して並行し、柱穴間の切り合いはない。

3) SA4 柵列 (Fig.25- 図1)：SA4は、正確に直角をなす柱穴7基の並びであり、C区南部の

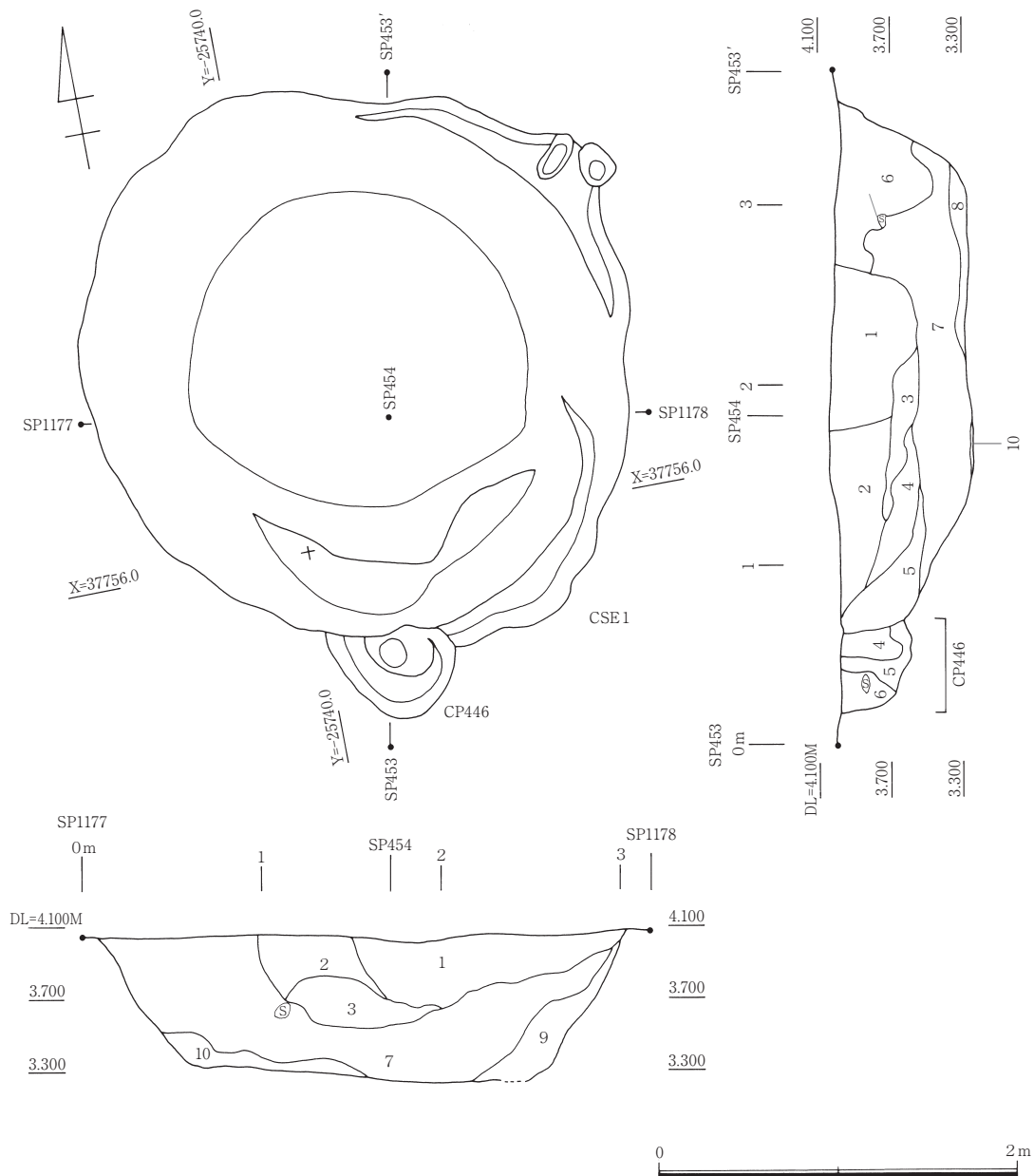


Fig. 27 C区 SE1 素掘り井戸跡 (S : 1/40)

Fig. 2 7	C区SE1		
埋積土層位	土性	土色	包含物等
1	粘土質シルト	オリーブ黄色5Y6/4	IV層断片・φ50mm以下の円礫・橙色角礫が混じる
2	粘土質シルト	浅黄色2.5Y7/3	IV層断片・橙色角礫が混じる。
3	粘土	灰色N5/	橙色角礫が混じる。
4	粘土質シルト	にぶい黄色2.5Y6/4	橙色角礫が混じる。
5	粘土質シルト	暗灰黄色2.5Y5/2	φ10mm級の円礫・橙色細礫を多含；土器片を含む。
6	粘土質シルト	にぶい黄色2.5Y6/3	IV層断片・φ50mm以下の円礫を多含；炭化物と土器片を含む。
7	粘土質シルト	にぶい黄色2.5Y6/4	IV層断片・橙色角礫が混じる。
8	シルト質粘土	褐色10YR4/4	IV層断片を含み、層準に水酸化鉄が集積。
9	粘土質シルト	黄褐色2.5Y5/4	橙色角礫を含み、φ50mm以下の円礫がやや目立つ。
10	粘土質シルト	にぶい褐色7.5YR5/3	9と同様だが、酸化鉄が集積。

Fig.27付表 C区SE1 埋積層

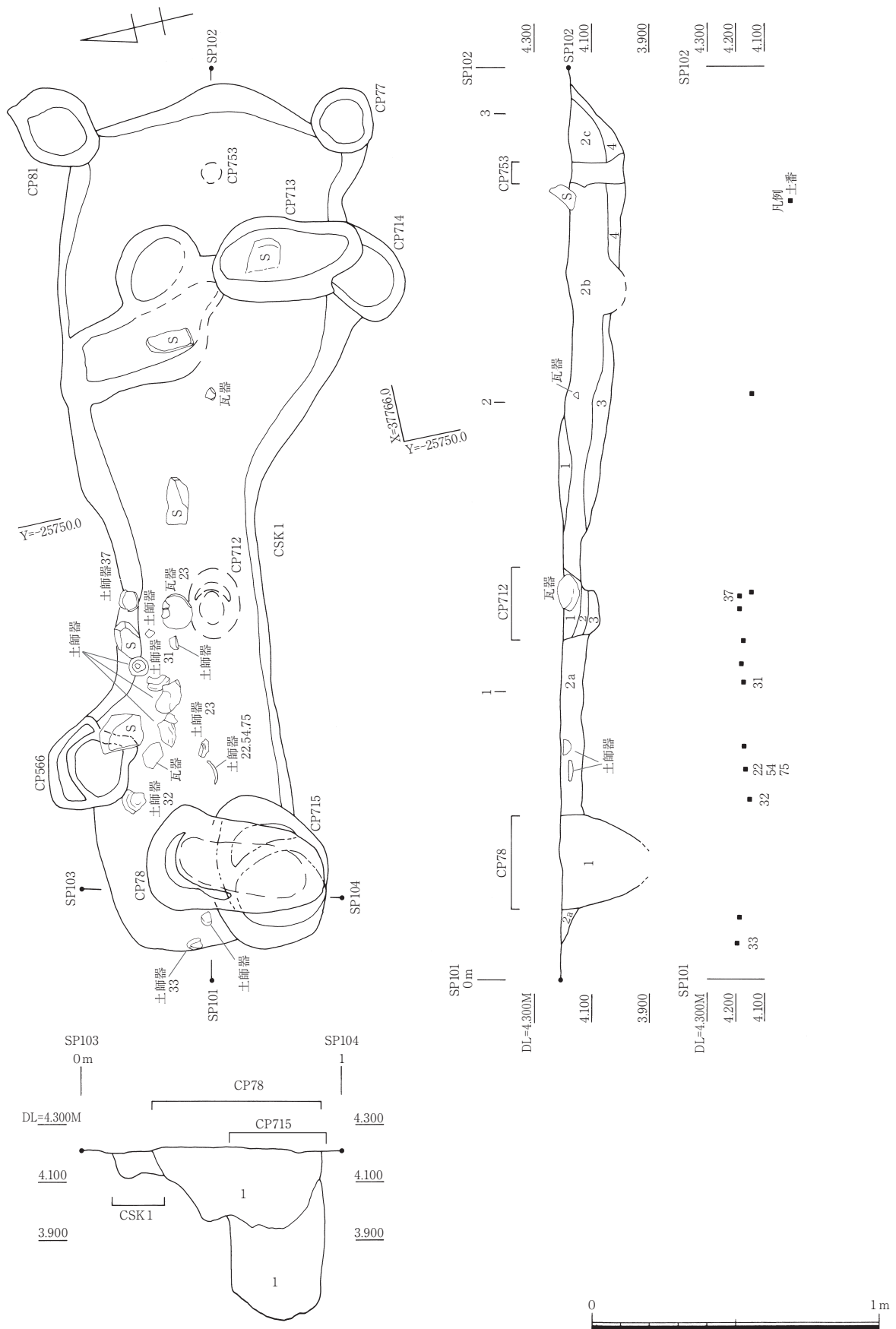


Fig. 28 C区 SK1 土坑 (S : 1/20)

埋積土層位	土性	土色	包含物等
1	シルト	にぶい黄橙10YR6/4	橙色角礫・土器片・炭化物片を含む。
2a	粘土質シルト	黄灰色2.5Y4/1	橙色角礫・円礫(φ100mm)・土器片を含む。
2b	粘土質シルト	黄灰色2.5Y4/1	角礫・焼土ブロック・炭化物を交え、土器片多含。
2c	粘土質シルト	黄灰色2.5Y4/1	土器片・炭化物多含。
3	粘土質シルト	にぶい黄色2.5Y6/4	粘土ブロック・土器片・炭化物を含む。
4	粘土質シルト	暗灰黄色2.5Y5/2	粘土ブロック・橙色角礫を含む。
C区SK1			
埋積土層位	土性	土色	包含物等
1	シルト	褐灰色10YR4/1	橙色角礫を含む。
C区CP78			
埋積土層位	土性	土色	包含物等
1	シルト	灰色5Y5/1	橙色角礫(φ50mm)多含。
C区CP715			

Fig.28付表 C区SK1土坑 埋積層

掘立柱建物跡 SB8 と並行・交叉して検出した。その南角の CP746 を起点とすれば、CP746 を含む柱穴 5 基は、北偏東 16.5° (N16.5° E) の方位で直列する。これと CP746 において直角をなす西寄りの直線上に残る 2 基が並ぶ。柱穴 5 基の並びは全長 7.31m (見当 2 丈 4 尺) であり、柱間平均値は 1.8275m (見当 6 尺) となる。これによる 1 尺逆算平均値は 0.30458m であり、やはり建物跡の柱間と共通の尺度が明瞭である。ちなみに、この列に密接して齟齬並行する SB8 の東側桁行 7 尺 3 間では、1 尺 0.30429m の逆算値を得ている。南角 CP746 と西寄り直線上 2 基の並びは 4.38m を測り、間隔 2.30m (見当 7 尺 5 寸)・2.08m (見当 7 尺) となっている。

4) SA5 柵列 (Fig.25- 図 2) : SA5 は、緩い弧形にならぶ柱穴 5 基からなる。それらの検出は、掘立柱建物跡 SB16 の主屋桁行柱間に各 1 基が表われる状況であった。柱穴 5 基の平面は径 0.5 ~ 0.6m ほどの不整形円形であり、それらの間隔は、南北両端の 2 間で各々 2.25m・2.26m (見当 7 尺 5 寸)、中央の 2 間で各々 2.32m・2.44m (見当 8 尺) を測る。1 尺の逆算値は平均 0.299m であり、やはり周辺建物跡の柱間と尺度共有の範囲内と言える。ちなみに、これと桁行が並行する SB16 の 1 尺逆算値は、0.30692m である。

3. 井戸跡

C 区の井戸跡は、SE1 の 1 基であり素掘り型に属す。

1) SE1 素掘り井戸跡 (Fig.27) : C 区中央部において標高 4.5m ほどの水準で検出した大型の楕円形掘り込みである。3.40m の長径は、北偏西 24.5° の方位を指し、これに直交する短径は、3.16m を測る。最大深度 0.84m の断面形は杯形を呈し、河成砂礫層 (第 V 層) に挟まる粘土層を平坦な底部とする。この大型掘り込みを井戸跡と見た根拠の一つが、伏流水の通路である砂利層を掘削した後、対水遮断効果を持つ粘土層に至って掘削を停止している点である。いま一つの点は、調査区の一画に現存する石組式井戸の観察により、降雨時に地表間近まで迫る地下水位の上昇が極めて速やかな反面、その低下の緩慢さを実感し得た。渇水期を除くと、深度の浅い掘り方でも地表近くで水を得る手段の一つとしては、有効と思われる。この SE1 埋積層からは、中世土器類の破片が出土

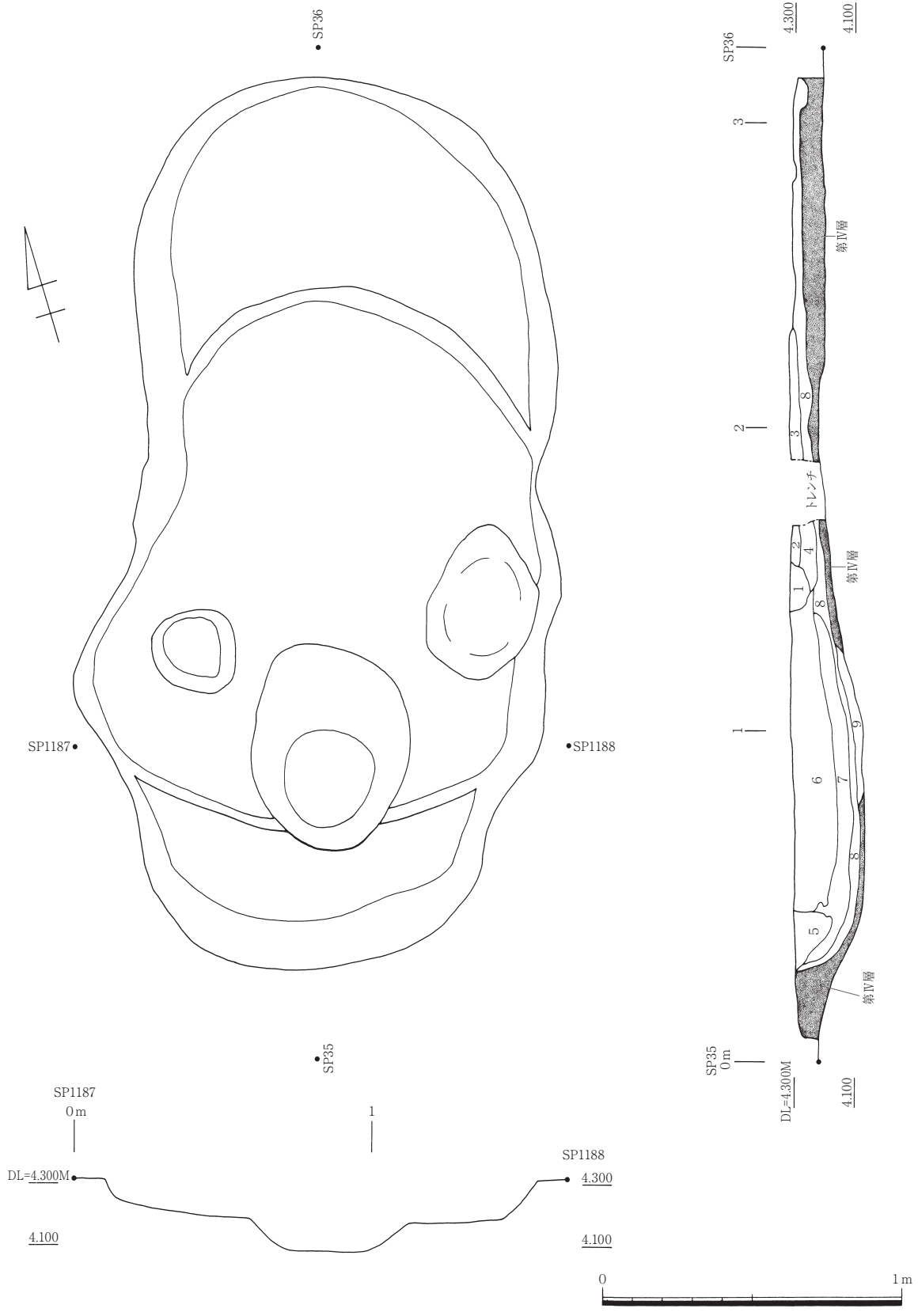


Fig. 29 C区 SK16 土坑 (S : 1/20)

埋積土層位	土性	土色	包含物等
1	シルト混じり細礫	にぶい黄色2.5Y6/4	炭化物を少含。
2	砂質シルト	黄灰色2.5Y5/1	橙色泥質岩角礫 (φ 10mm) を少含。
3	砂質シルト	褐灰色10YR4/1	橙色泥質岩角礫 (φ 10mm) を少含。
4	シルト	黄灰色2.5Y5/1	橙色泥質岩角礫 (φ 10mm) を少含。
5	シルト混じり焼土	褐色7.5YR4/4	焼土は焼き締まらず、気相が目立つ；砂利と橙色角礫を少含。
6	砂質シルト	褐灰色10YR5/1	砂利・優白質泥岩細礫 (φ 10mm) および橙色角礫 (φ 100mm) を含む。
7	砂質シルト	灰色5Y5/1	小骨片(φ 15mm)を微含。
8	炭化物	黒色7.5Y2/1	砂利(φ 20mm)少含。
9	焼土	暗赤褐色5YR3/4	上位に炭・灰が混じる。

Fig.29付表 C区SK16 埋積層

している。

4. 土坑

C区検出の土坑は19基を数えるが、いずれの遺存も浅く、用途推測の手がかりさえ欠くものが大部分を占める。それらのうち、相対的に特色の見られる2基SK1・SK16の要点を順次記す。

1) SK1 土坑 (Fig.28): SK1は、C区西境際の標高4.21mの水準で検出した平面砧形の土坑であり、長径2.99mの主軸は西から12.3°ほど北に寄る(W12.3°N)。主軸線と直交する最大横断径は東部にあって1.05m、西部横断径0.70m、中央西寄り狭隘部の最小横断径0.49mを測る。遺存深度は、狭隘部以西で0.06m～0.08mと浅く、東部でも0.20m前後に止まる。大別して4つに分かれる土坑埋積層のいずれも炭化物や礫とともに土師器や瓦器片を伴うが、破損の軽度な土器類はより深度の浅い狭隘部以東に偏る傾向が見られる。それらのうち、瓦器碗類で底部に高台を備えるものではなく、14世紀前半頃に埋積した可能性が強い。

SK1埋積層の含礫は、砂岩円礫・泥質岩角礫(橙色系)・硬質砂岩角礫(灰色系)・および砂岩円礫で構成する。砂岩円礫は、坪ノ内遺跡立地の大部分を占める沖積層の主成分であり、泥質岩角礫は、明らかにB区・E区の一部や背面の山丘で削岩された碎片である。これに対し、硬質砂岩角礫の形状は、水磨を経た大型円礫から割り出す加工石材の部類に属す。特にC区およびD区南半の遺構検出工程を通じ、泥質岩角礫とともに、この種加工石材の分布密度と遺構検出頻度の間には、正比例に近い関係が認められた。これは、中世のある段階における整地を示唆するものと思われる。SK1埋積層内において土器集中部分が硬質砂岩角礫の分布と重なる状況(Fig.28)も、左記現象に照らせば矛盾はない。それゆえSK1の性格を、少なくともその最終局面において廃棄坑であったと捉えている。

なお、SK1自体は先行遺構に重なった形跡を留めないが、いずれも中世期と見られる後発のピット9基(CP77・78・81・566・712・713・714・715・753)に掘削されている。現整理段階では、これら後発のピット9基に掘立柱建物跡や柵列跡の一部を構成する要素は見られない。

2) SK16土坑 (Fig.29): SK16は、標高4.3m前後の水準で検出した平面楕円形の土坑である。その長軸は2.85mを測り、北から17.3°ほど東に寄る。長軸に直交する短軸最長部は中央より南に偏り、1.58mを測る。掘り込みの深度は、北部で浅く、中部から北部にかけて漸深する。とはいえ、

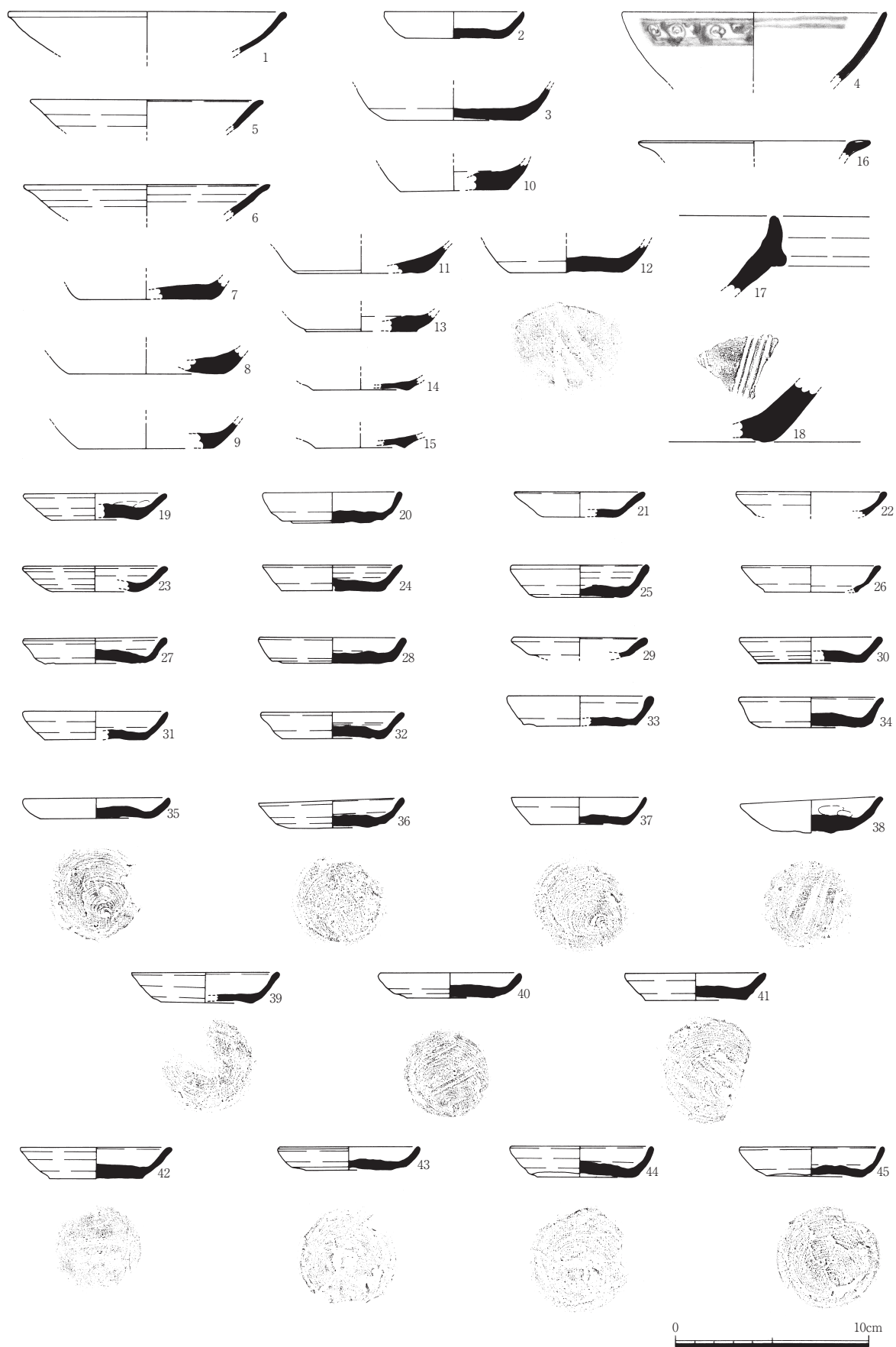


Fig. 30 C区 出土遺物 1 (S : 1/3)

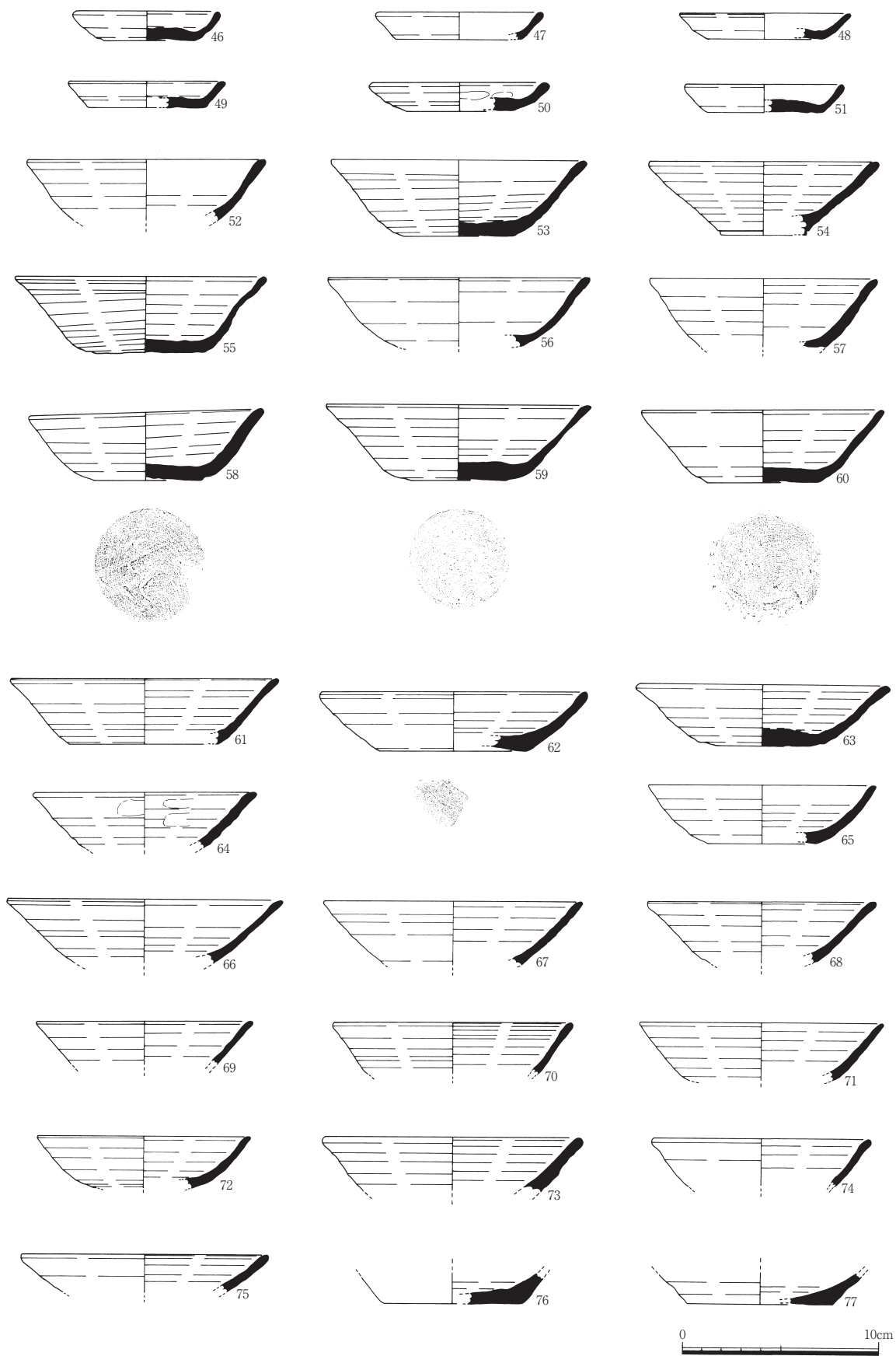


Fig. 31 C区 出土遺物 2 (S : 1/3)

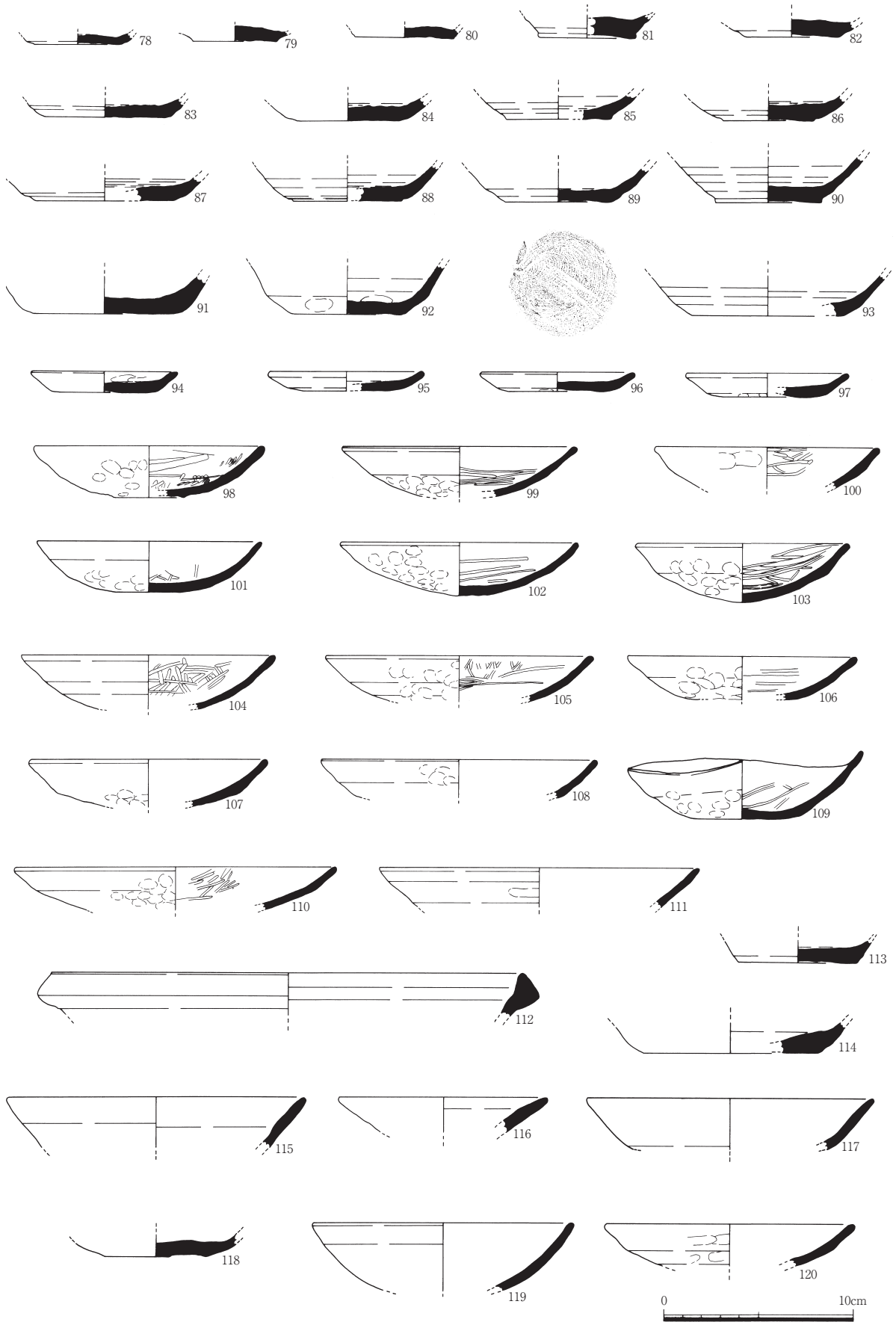


Fig. 32 C区 出土遺物 3 (S : 1/3)

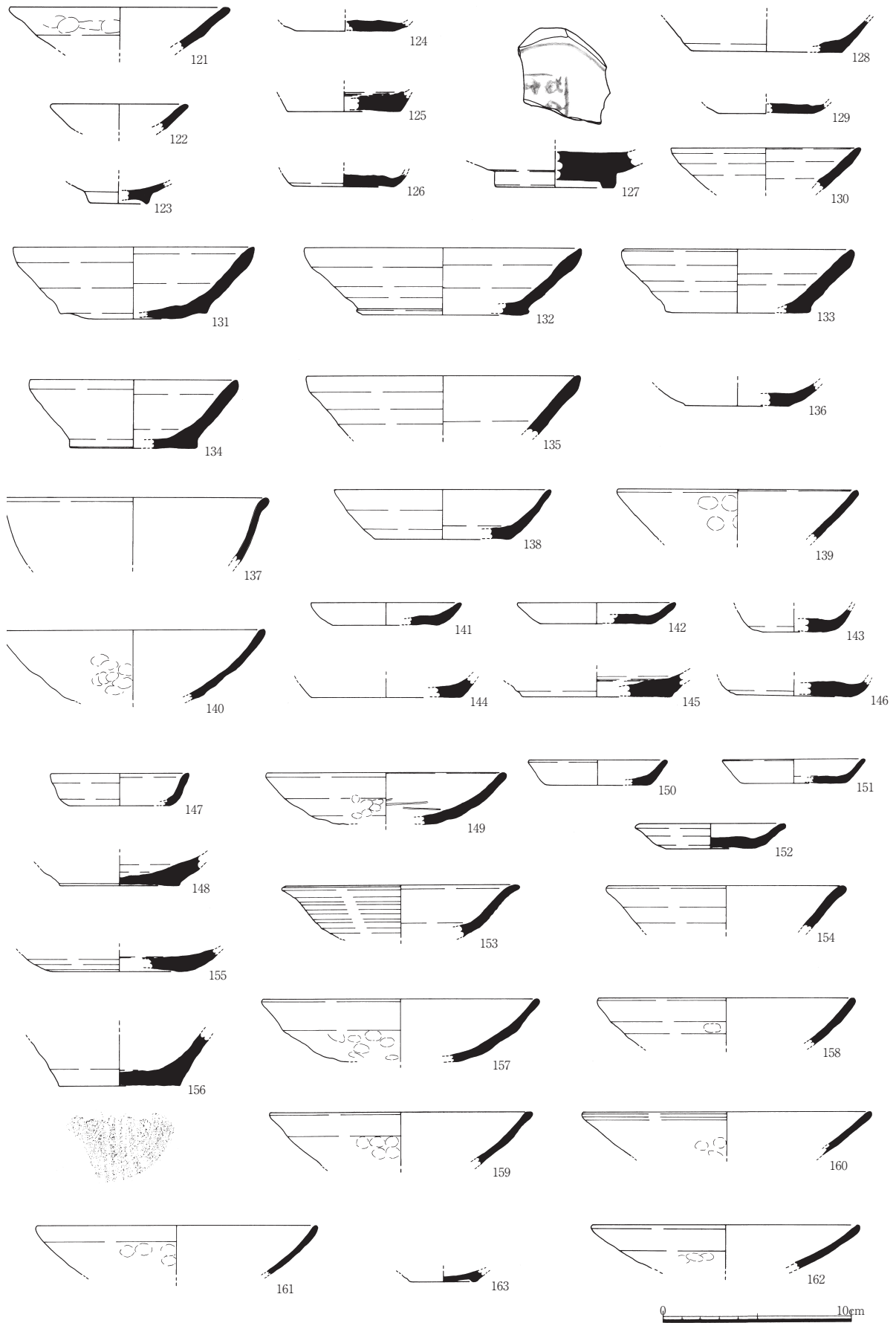


Fig. 33 C区 出土遺物 4 (S : 1/3)

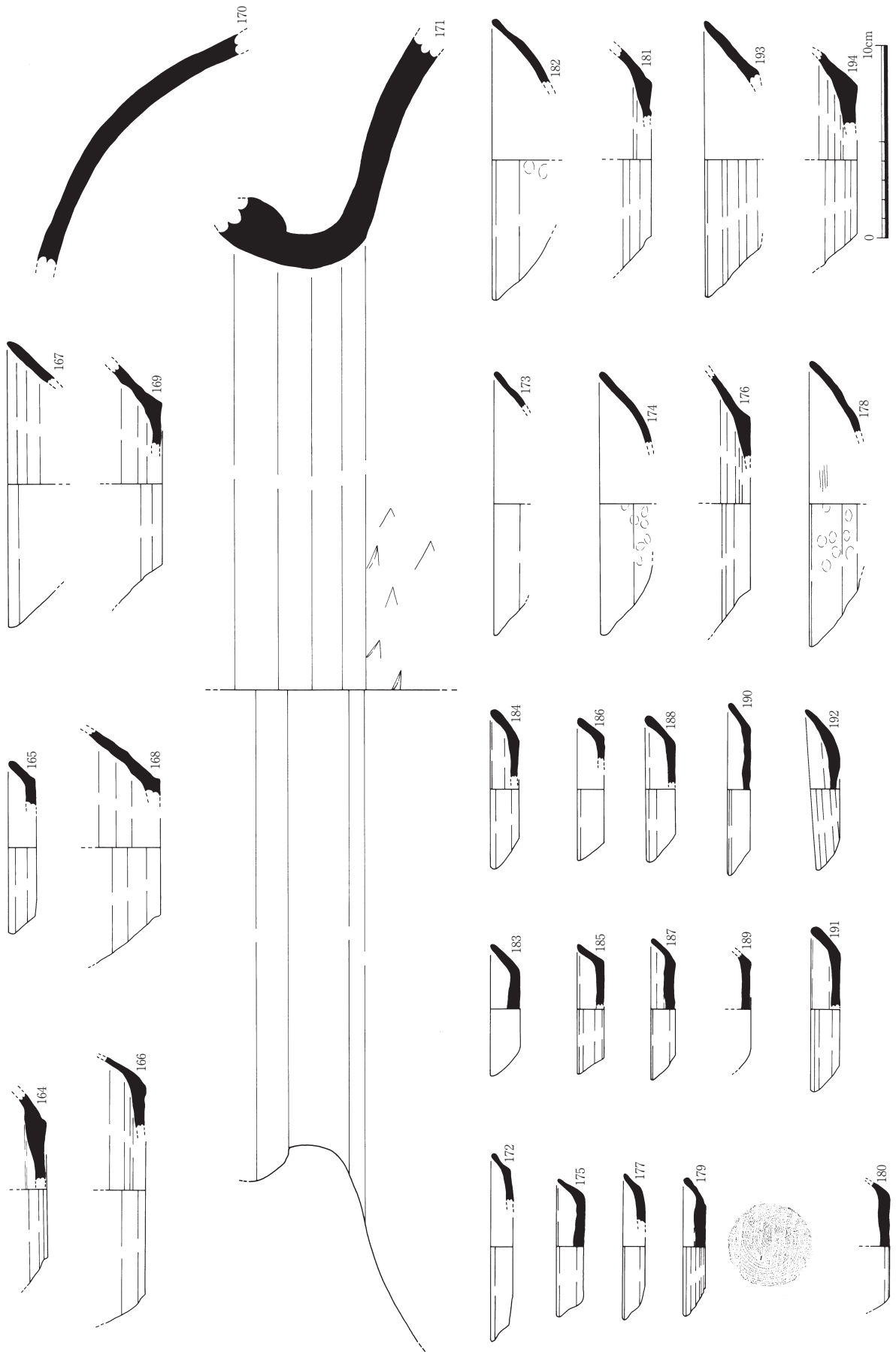


Fig. 34 C区 出土遺物 5 (S : 1/3)

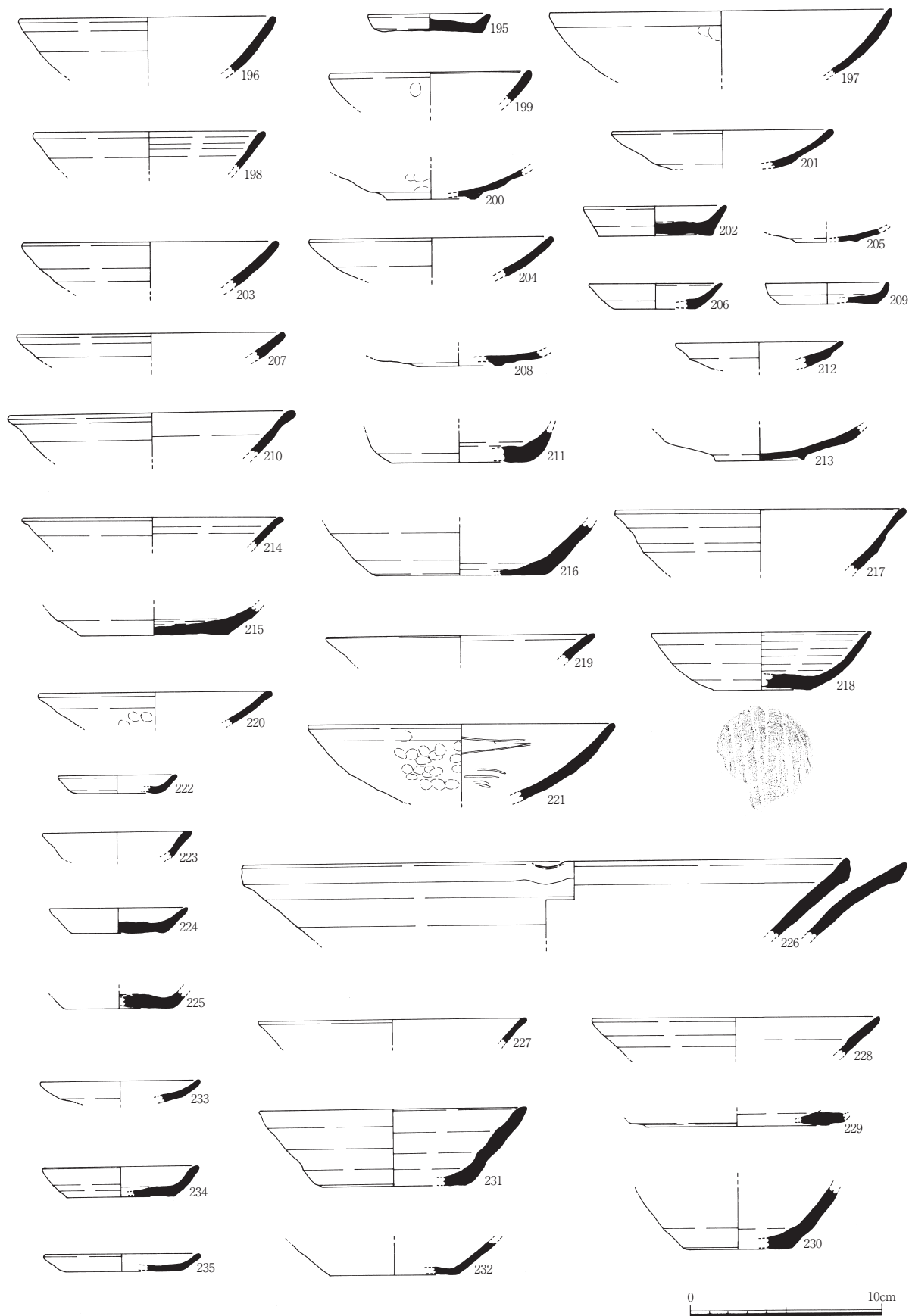


Fig. 35 C区 出土遺物 6 (S : 1/3)

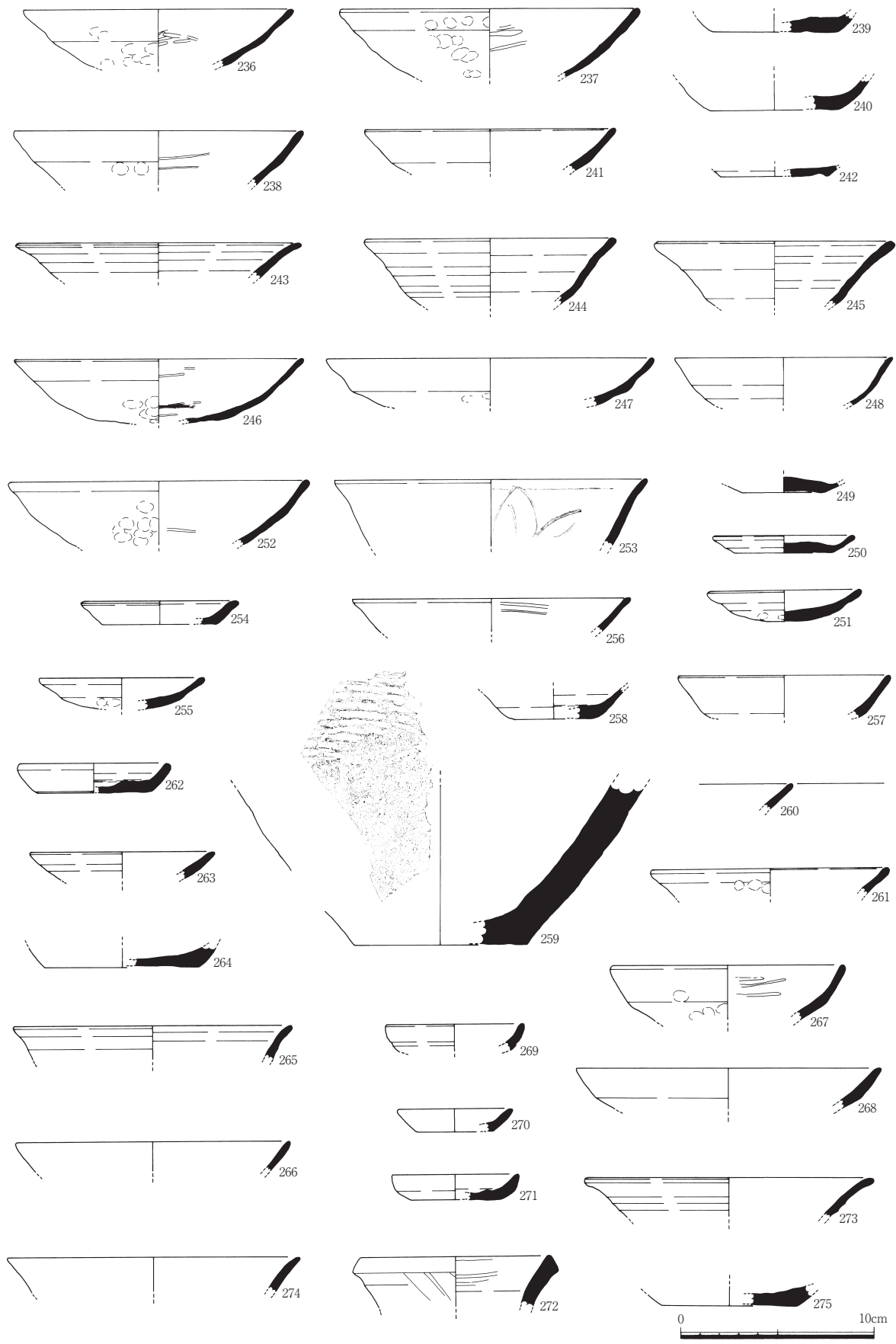


Fig. 36 C区 出土遺物 7 (S : 1/3)

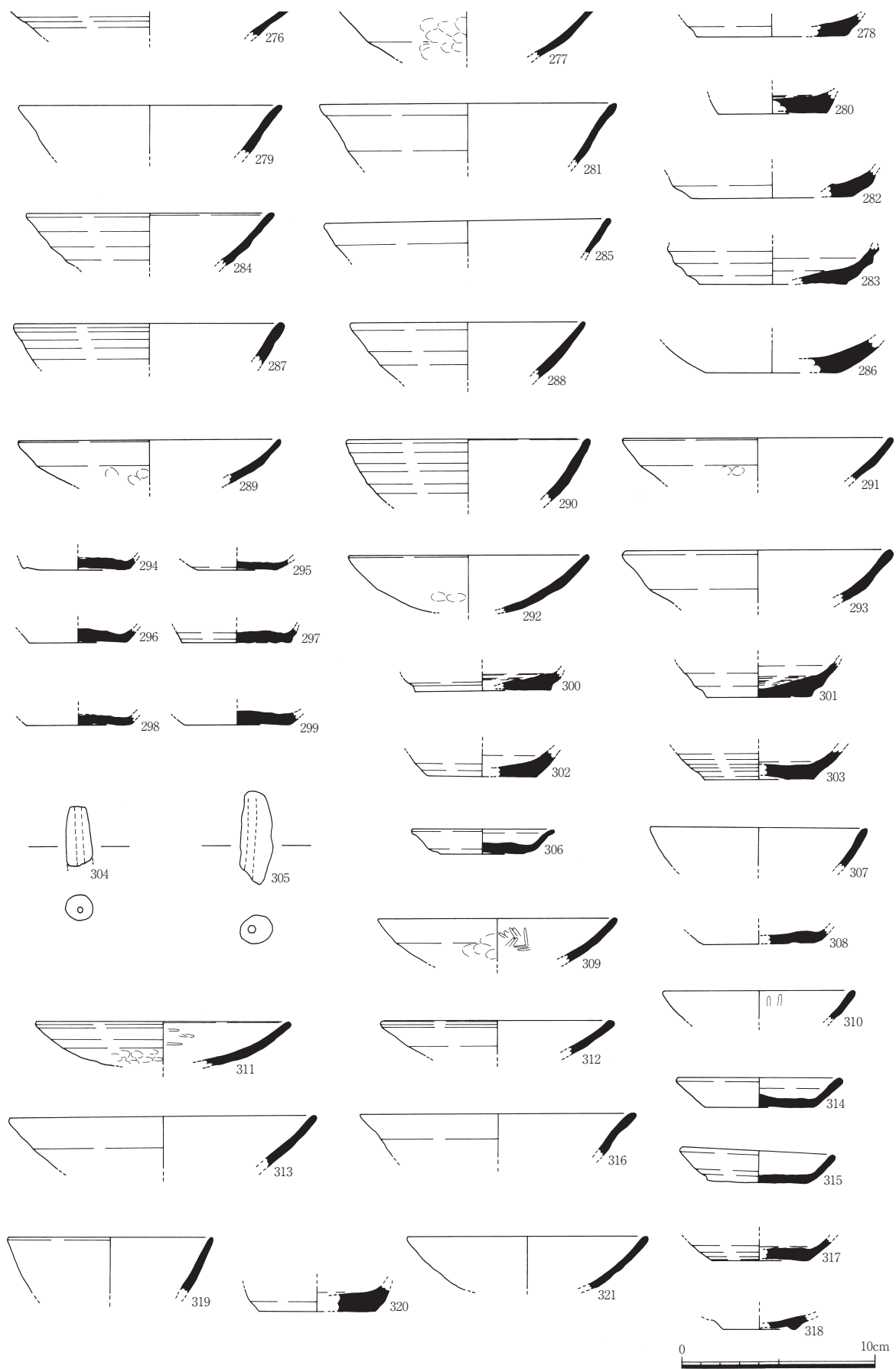


Fig. 37 C区 出土遺物 8 (S : 1/3)

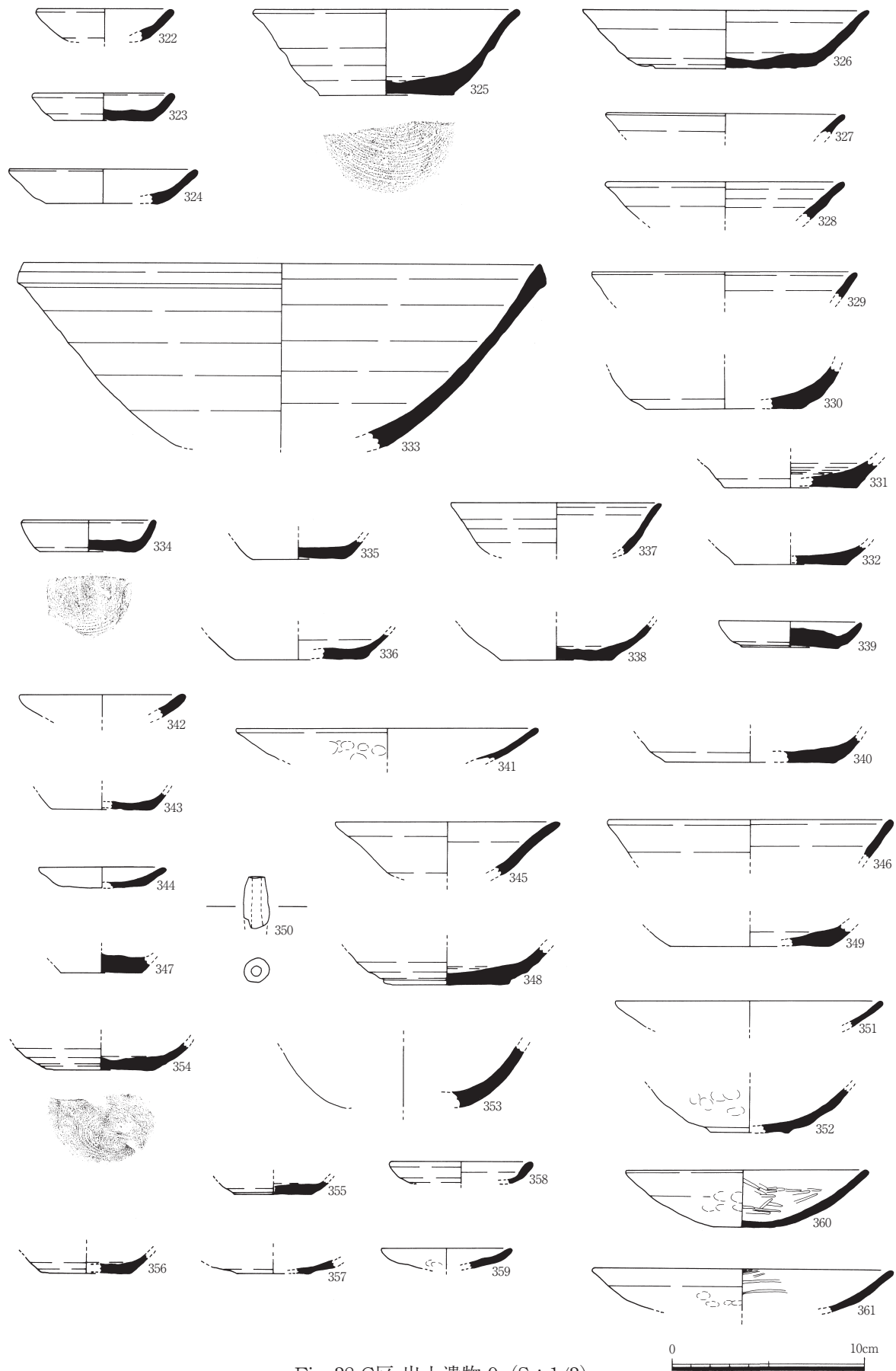


Fig. 38 C区 出土遺物 9 (S : 1/3)

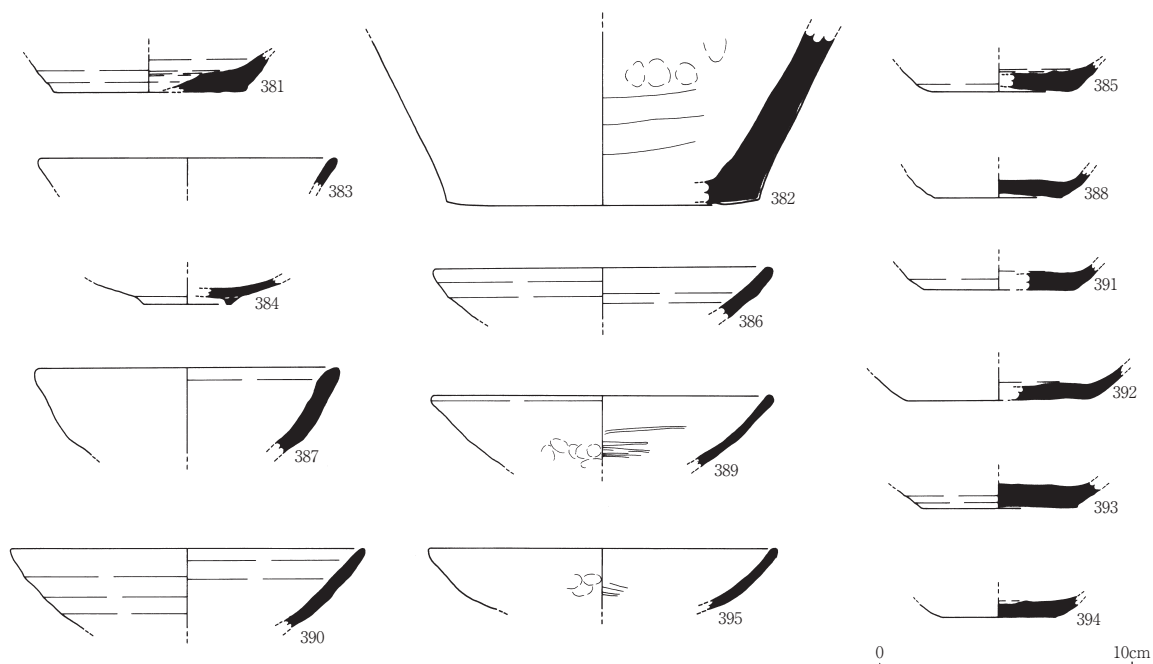
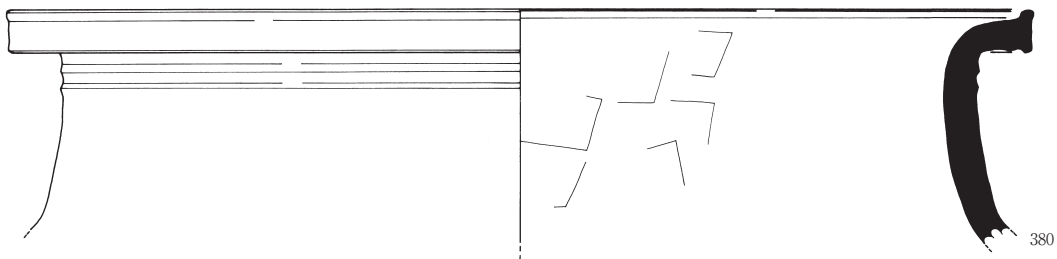
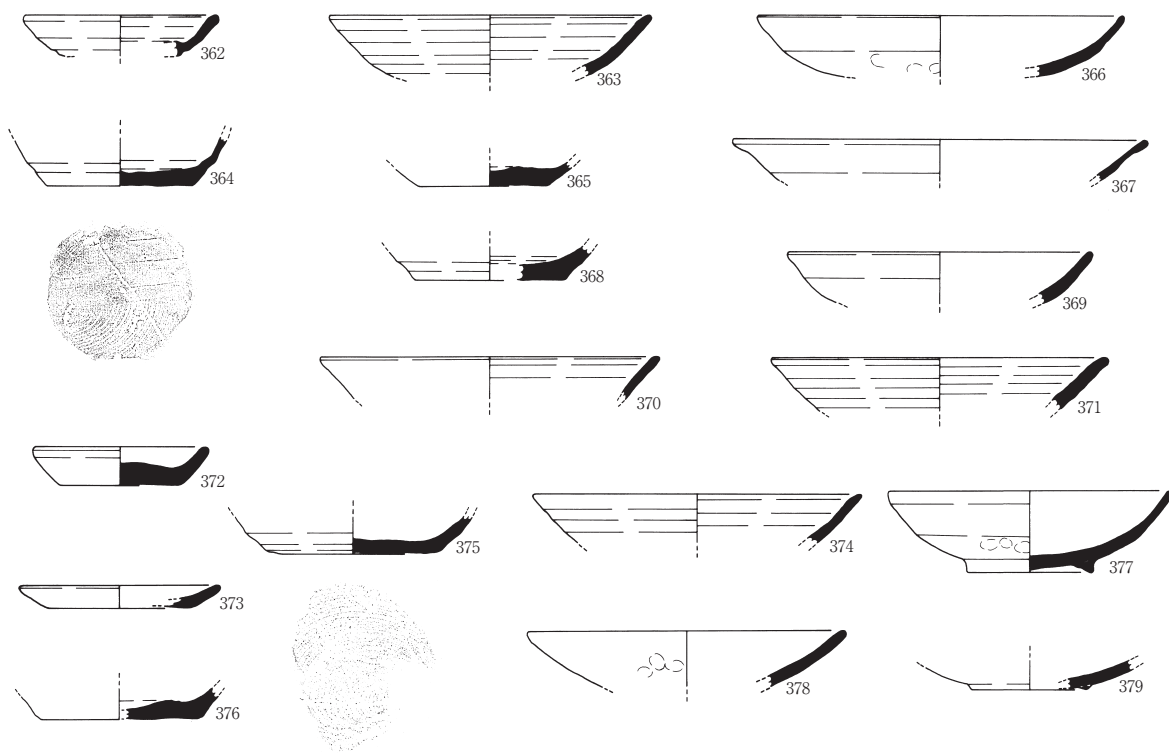


Fig. 39 C区 出土遺物 10 (S : 1/3)

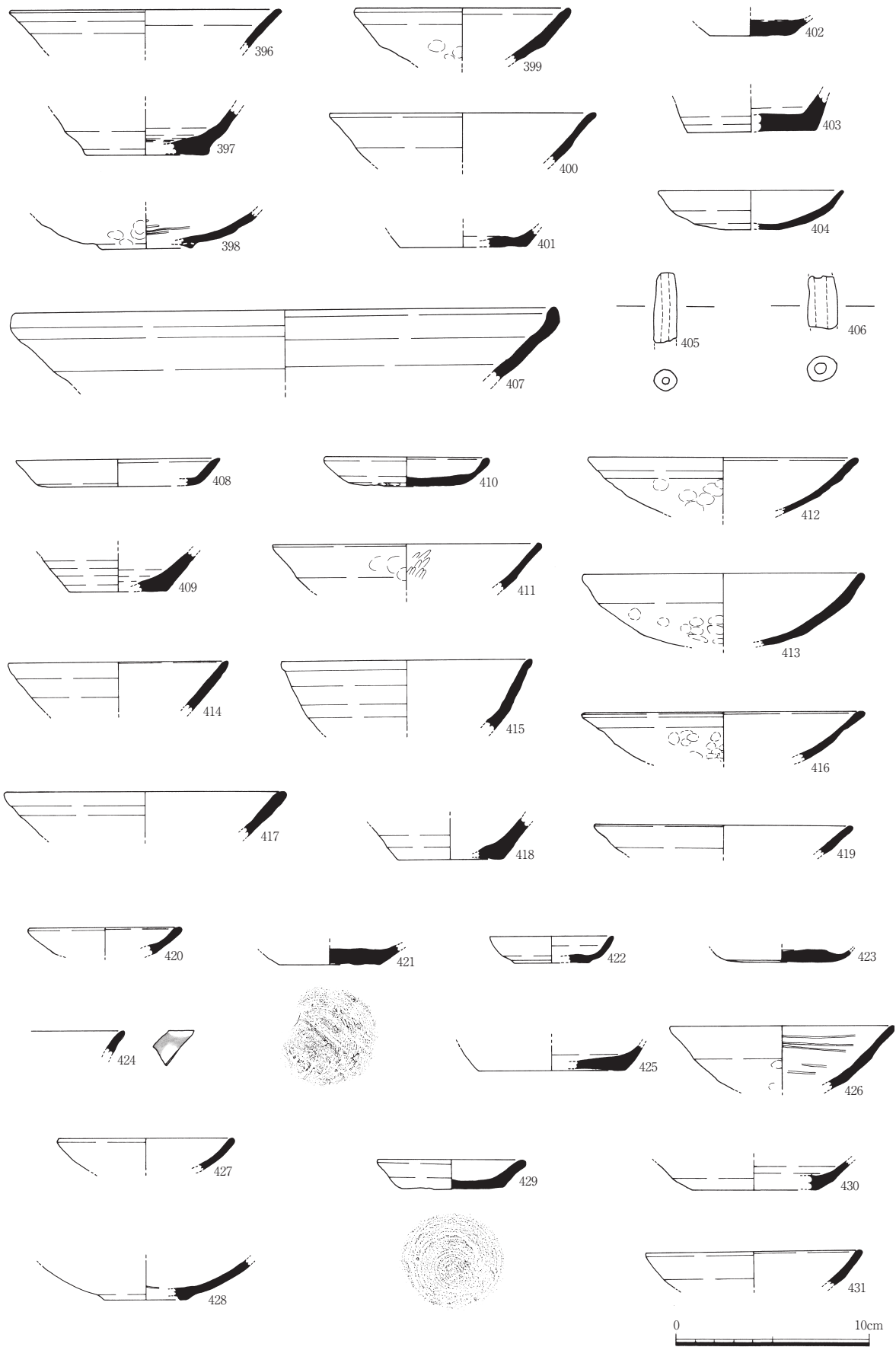


Fig. 40 C区 出土遺物 11 (S : 1/3)

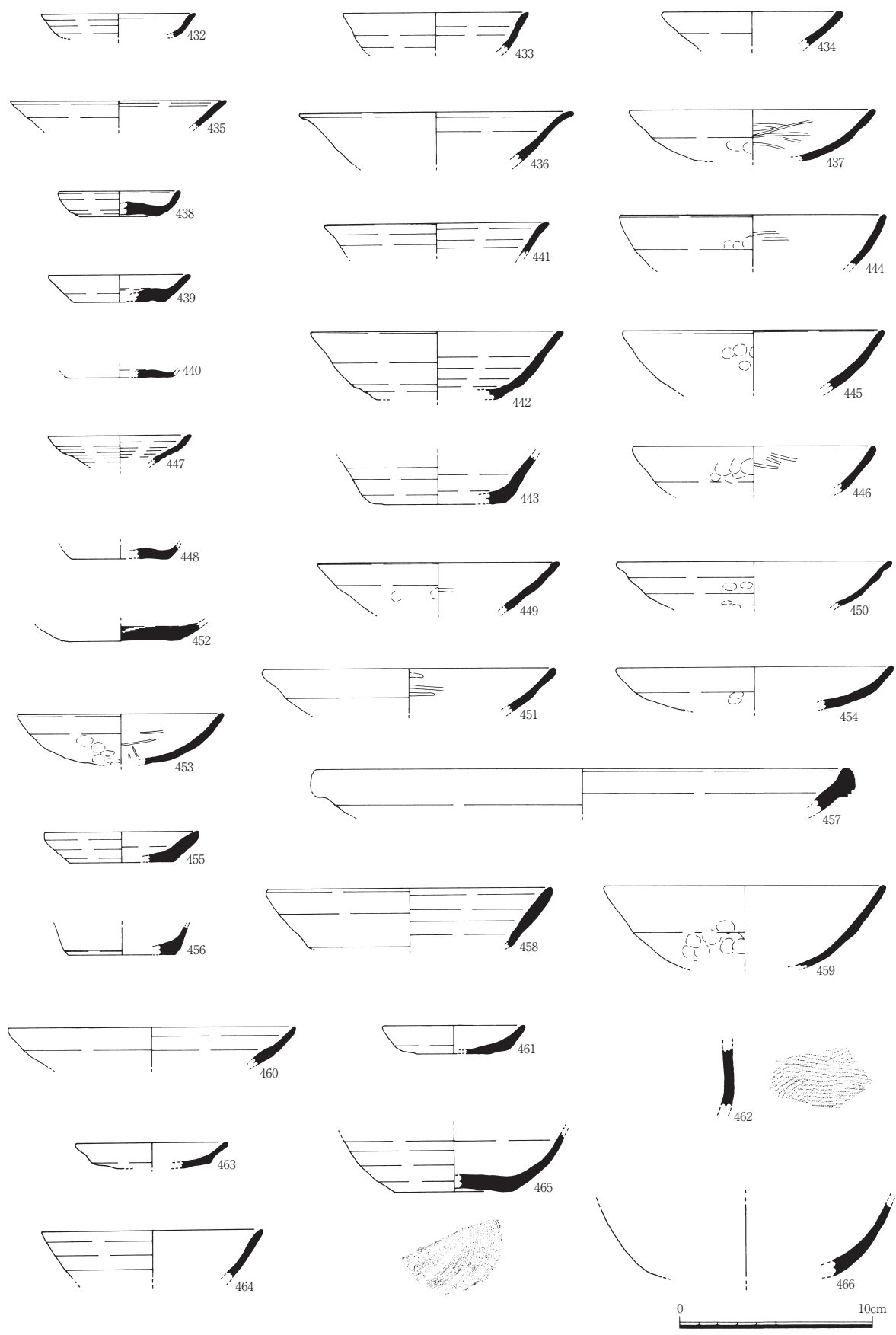


Fig. 41 C区 出土遺物 12 (S : 1/3)

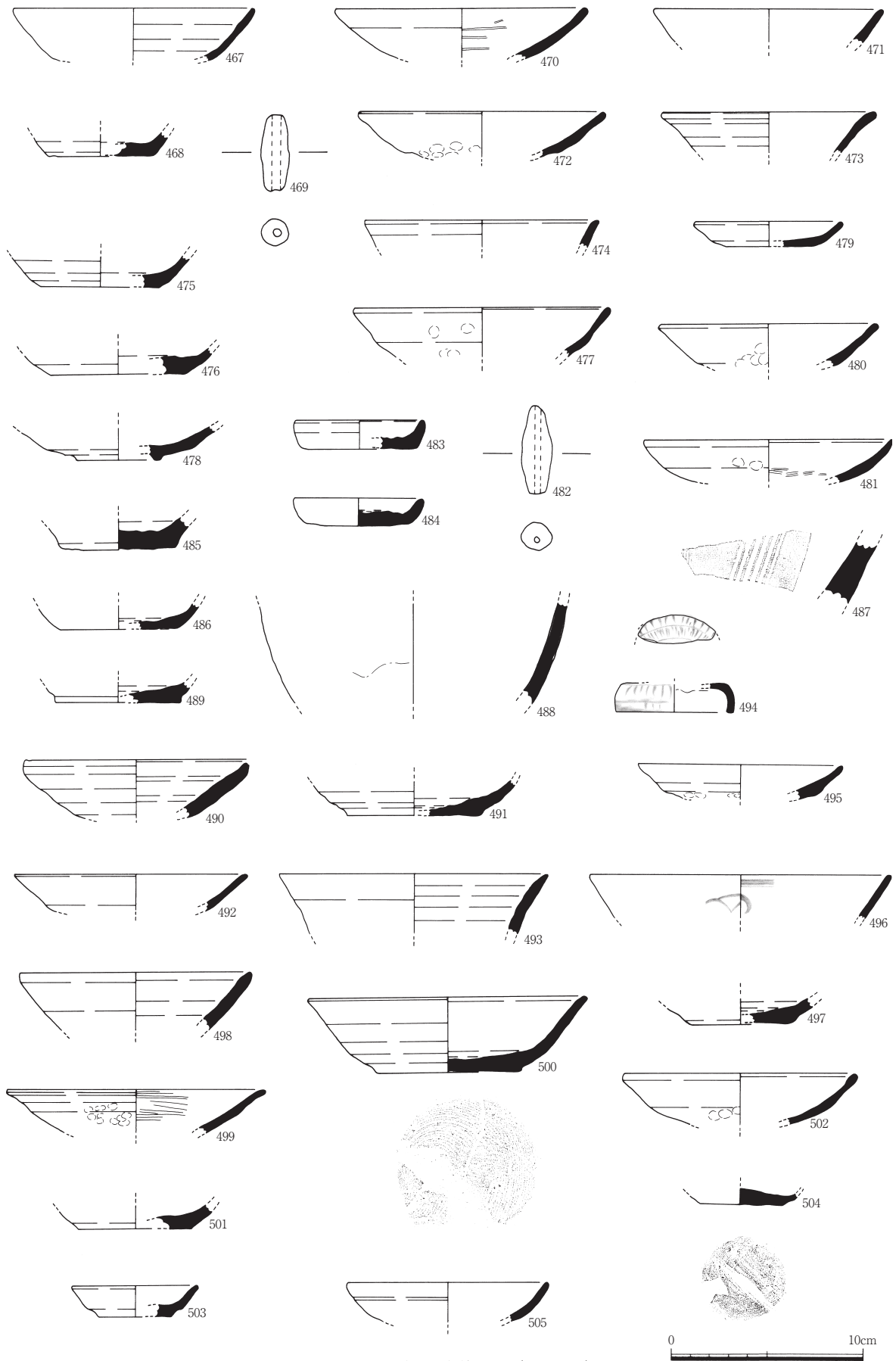


Fig. 42 C区 出土遺物 13 (S : 1/3)

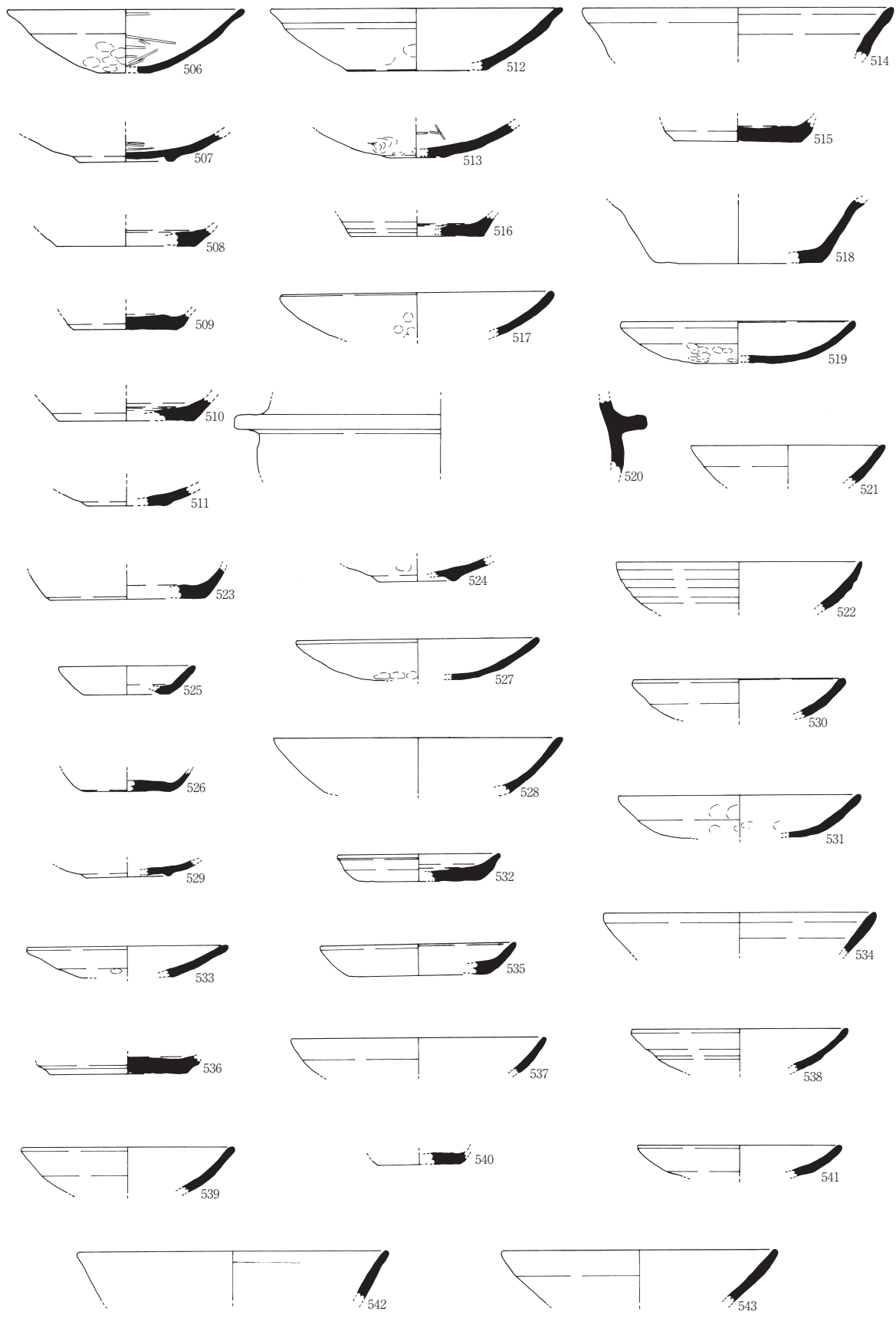


Fig. 43 C区 出土遺物 14 (S : 1/3)

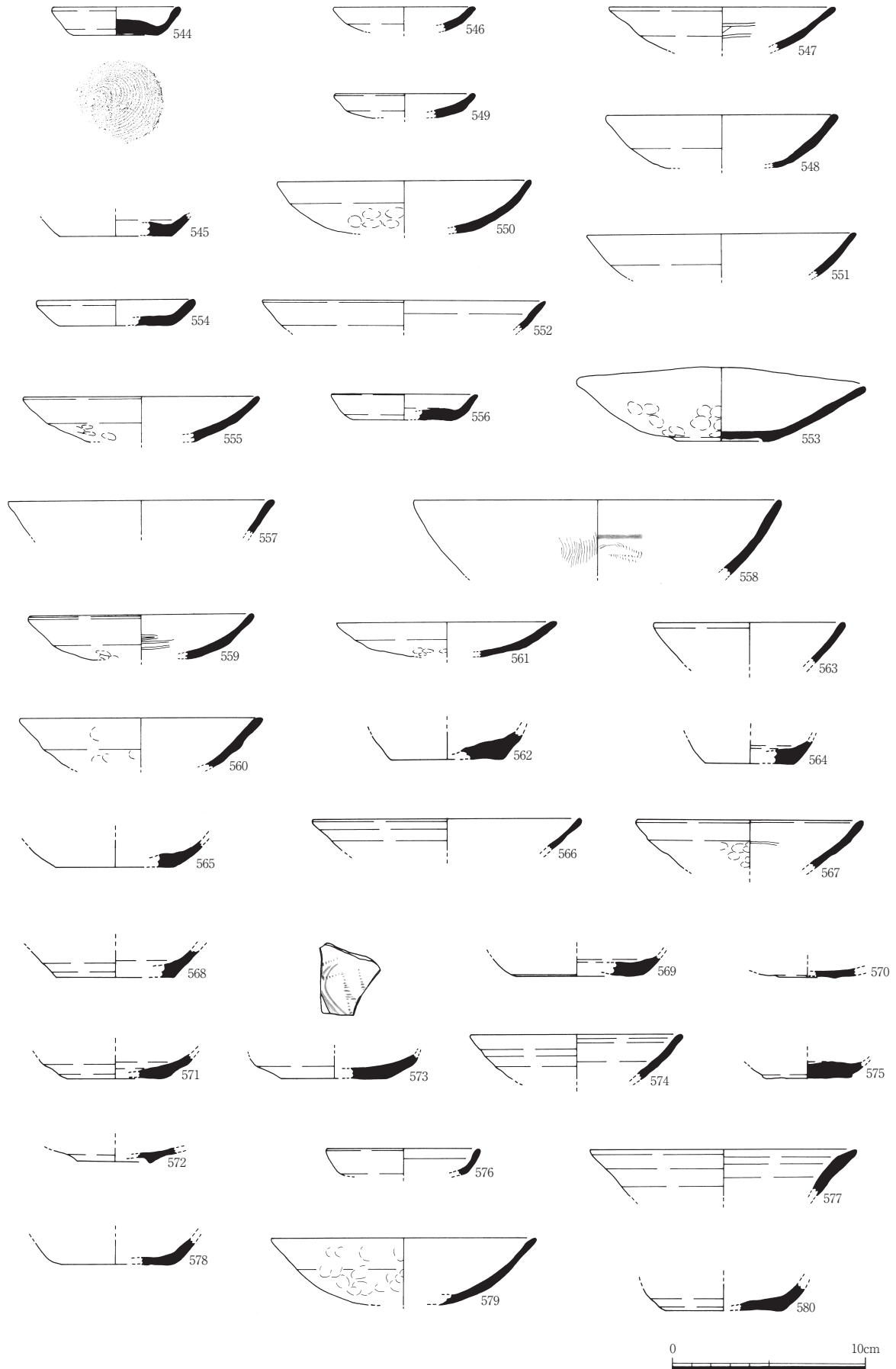


Fig. 44 C区 出土遺物 15 (S : 1/3)

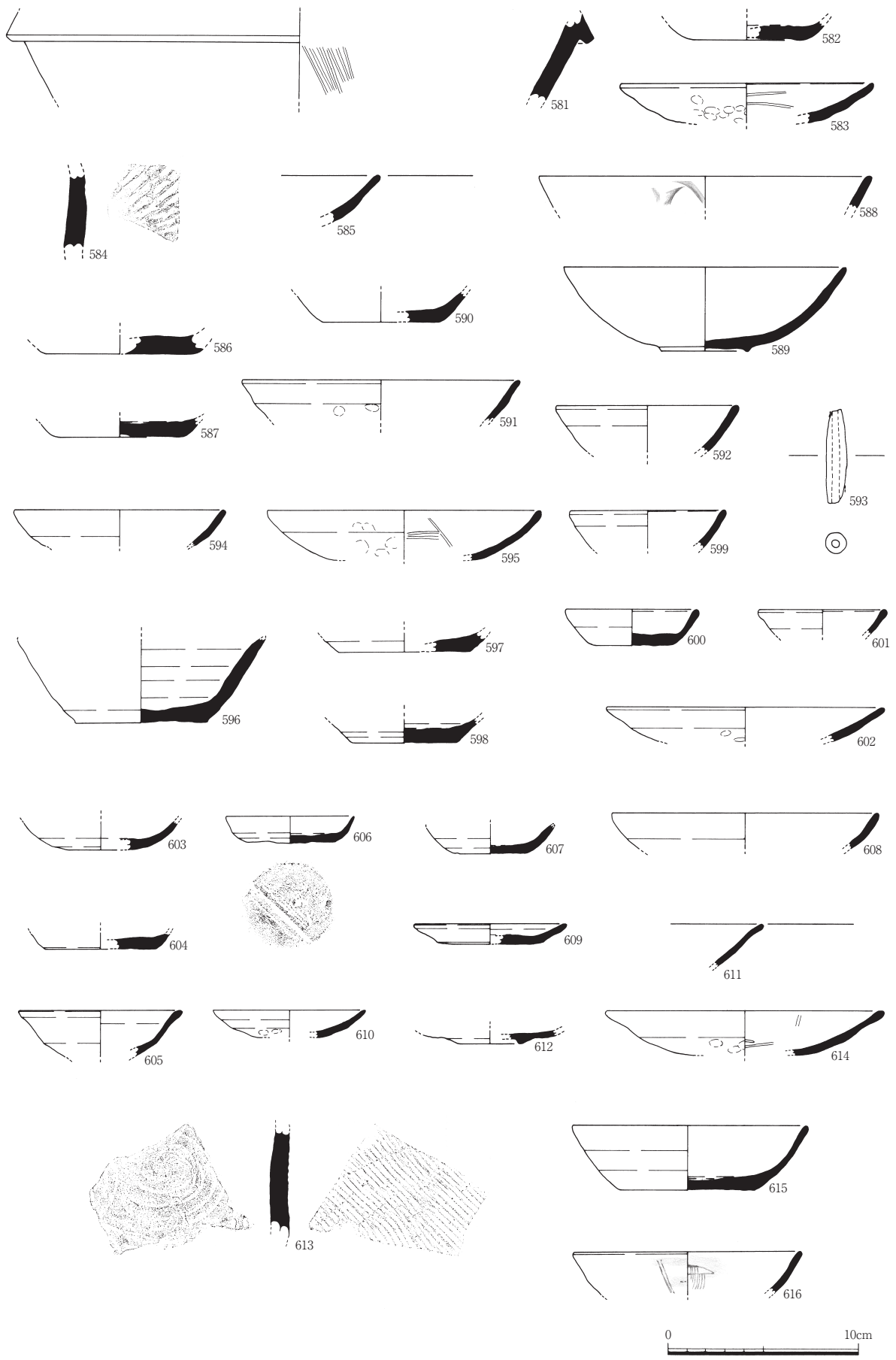


Fig. 45 C区 出土遺物 16 (S : 1/3)

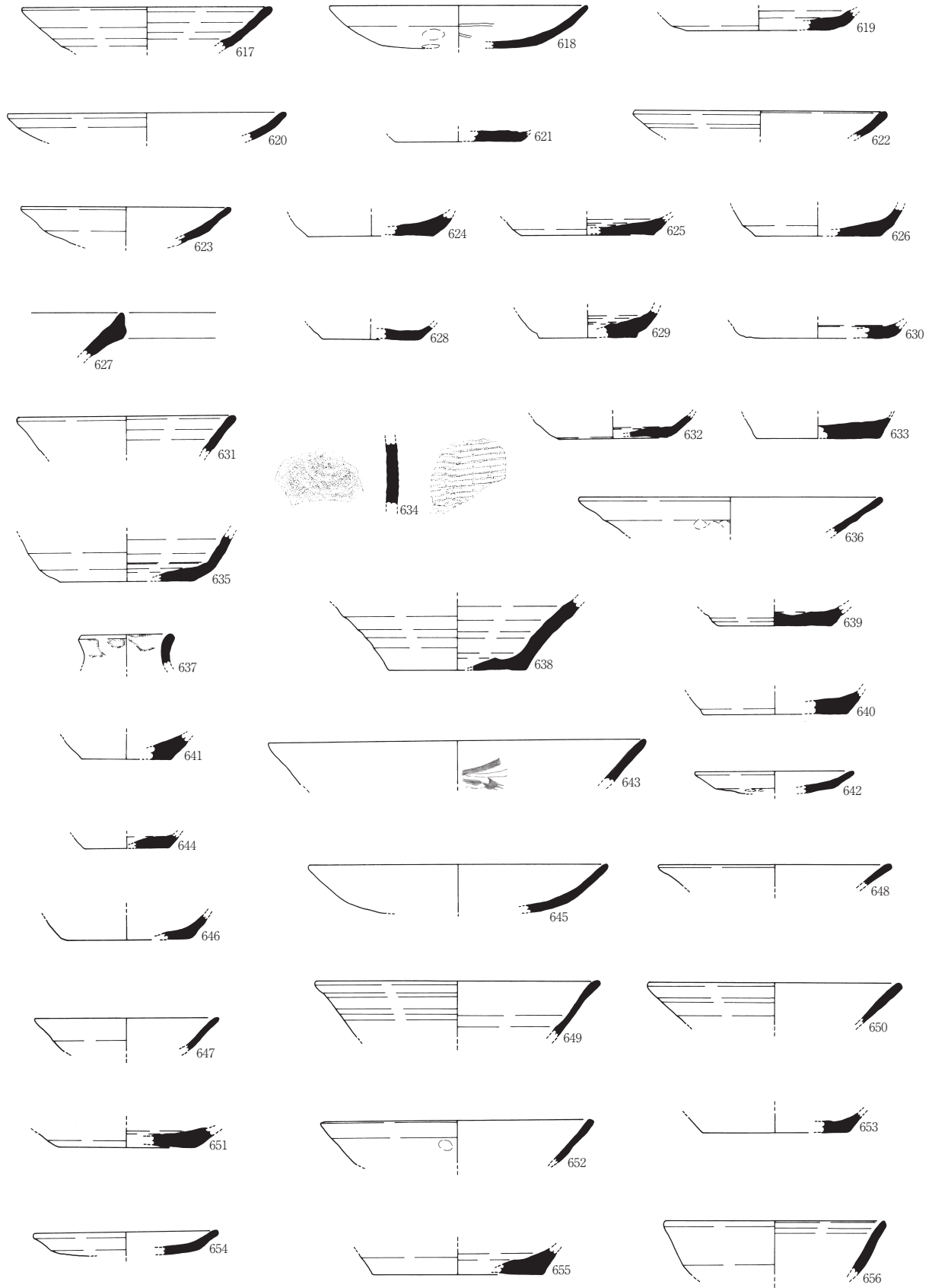


Fig. 46 C区 出土遺物 17 (S : 1/3)

0 10cm

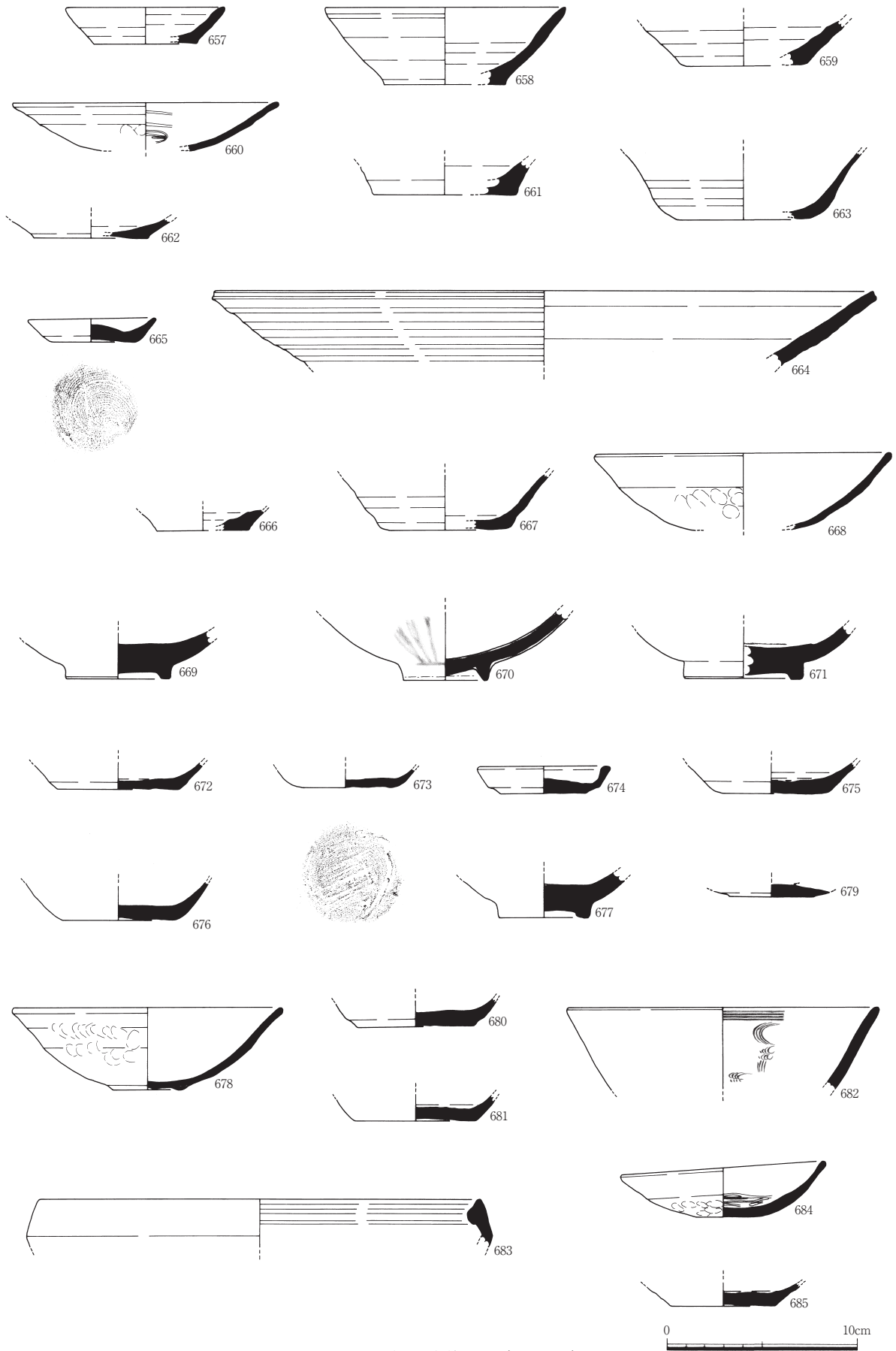


Fig. 47 C区 出土遺物 18 (S : 1/3)

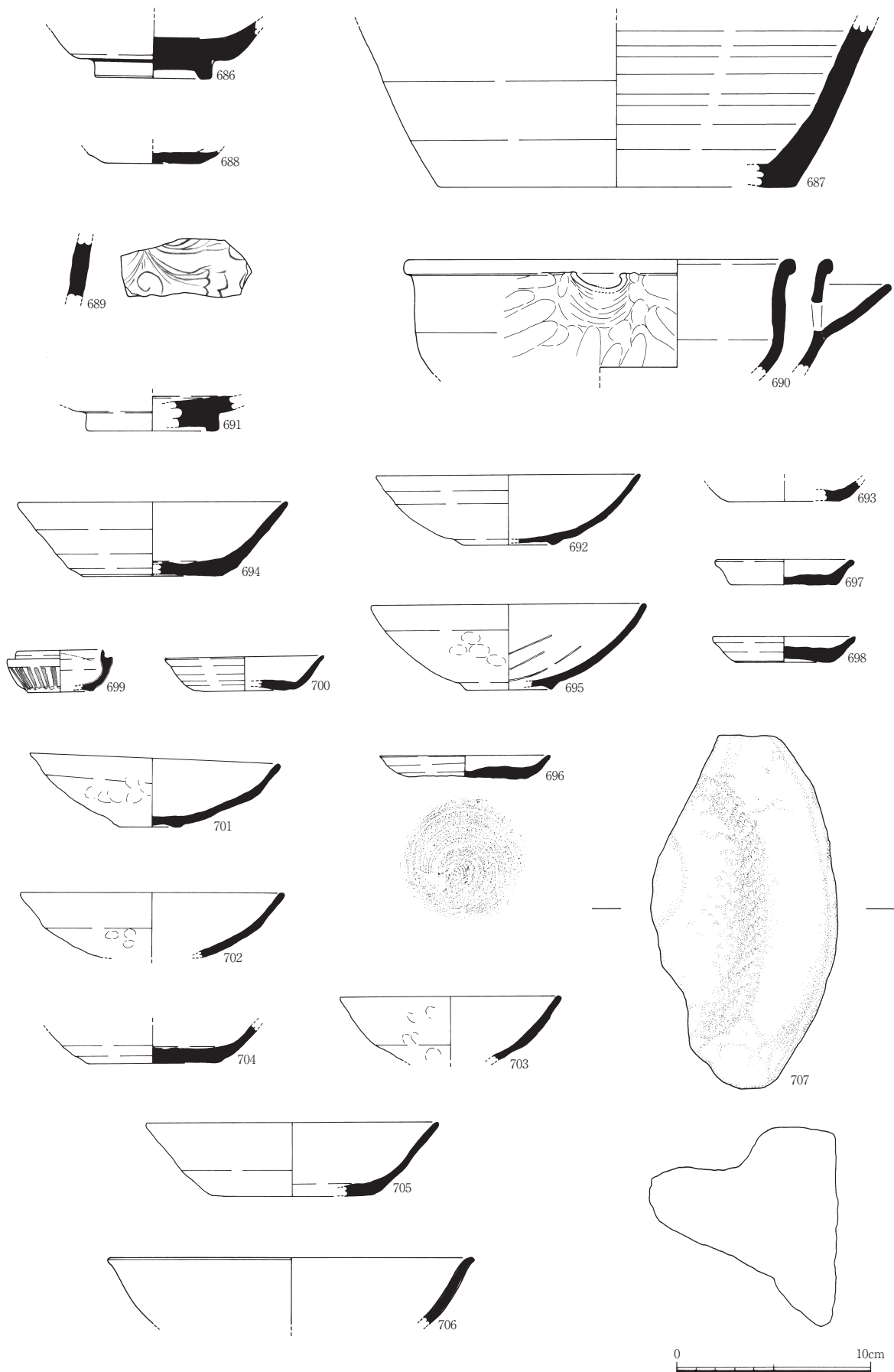


Fig. 48 C区 出土遺物 19 (S : 1/3)

遺存部の相対深度は最大0.25mに止まる。南部の最深基底面では、遺構基盤である第IV層の焼土化が厚さ4cm程度に及び、それを覆う炭層（最厚5cm程度）の範囲は、この土坑底部の全面にわたる。このような燃焼の形跡は、シルト主体の土層によって埋積されているが（埋積層1～7）、炭灰層（埋積層8）を直接覆う埋積層7の断面からは、15mm程度の小骨が1片のみ検出された。この埋積層7の南端上位には、シルト混じりの焼土ブロック（埋積層5）が連なる点から、小骨片については、前項で推定したような中世段階の整地時に近辺の焼土などと共に混入したものと思われる。小骨片以外の出土遺物としては、土師器・瓦器の細片を少量得ている。また、遺構間関係面では、掘立柱建物跡SB12（総柱型）の南東隅柱穴が、このSK16によって削失したとみられる。

5. 溝跡

C区検出の溝跡は、SD1～3の短小な溝3条および水路級のSD-Aを合わせた以下の5条である。

1) SD1溝跡 (Fig.3. C区全体図) : SD1は調査区北端中央で検出した最大幅0.67mの小溝である。主軸は北から13°東に寄る直線であり、同方向に2.10mを検出したが、その先のD区では消息を絶っている。したがって、なんらかの理由によって溝形に掘られた土坑としての性格も否定しがたい。埋積物の主体は、大小の円礫や角礫であり、やはり整地の跡をうかがわせる。

2) SD2溝跡 (Fig.3. C区全体図) : SD2は唯一正確な南北方位（地理上）を指す小溝の部分遺存と見られるが、最大幅0.23m、検出長1.04mを測るに過ぎない。

3) SD3溝跡 (Fig.3. C区全体図; Fig.8- 図1) : SD3はC区南東境で端部を検出した最大幅0.65mの小溝跡であり、主軸は西から14.5°北に寄る (W14.5°N)。検出長3.74mを測り、調査区外に消息を絶つ。遺存深度は0.3m前後であり、シルト質の埋積土には焼土が混じる。ほぼ完形の土師器1個体が出土している。なお、この小溝は、D区のSD-Cとともに、坪ノ内遺跡で検出した掘立柱建物跡群の過半とほぼ方位を共にするため、部分遺存ながら中世の一定期間に機能した南面区画溝の一つと推定している。

4) SD-A溝跡 (Fig.3. C区全体図; Fig.4- 図2, 確認トレンチ北断面) : SD-AはC区からD区にかけて、それらの東部を北偏東11.2° (N11.2°E)の方位で縦断する幅約3mの溝跡であるが、調査はトレンチによる横断面精査と間欠的区間の平面検出に止まった。このSD-Aの上位には、より小幅（約0.40m）な現役の小水路が重なり並行していたが、その西側2m余に渡る検出遺構密度の低減地帯が目につく。この現象から、より古い時期の流路の埋没を想定し、確認トレンチによる断面精査 (SP467-SP468区間; Fig.3, C区全体図・Fig.4- 図2断面図) をC区調査の終盤に実施した。その結果、柱穴・土坑など遺構群の検出水準に近い標高4.16m～4.06mの水準において、幅3.10mの埋没水路路面が既に露出しており、箱底状底部までの深度が、最深0.78mを測ることを確認した。本章第1節第3項末で言及したような大地震の形跡は、このSD-Aを挟む東西の断面に見られたものである。調査が及ぶ範囲では、このSD-Aの埋積層所属の遺物として、補助トレンチの一つから龍泉窯系青磁碗底部1片のみを確認している。密接する周辺遺構の数と遺物包含層を切る状況に照らせば、いずれにしろ異常に少ない遺物の埋蔵と言わざるを得ない。以上の条件により、SD-Aの年代に関しては中世期間内かそれ以後か判定が困難と思われる。

表9 C区遺構計測表 1

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P1	C7-8	φ28	—	円形	130~137,土師器×34	
C P2	C7-8	52 ×	52 44.5	不整形	土師器×92,瓦器×9	柱痕,SB7を構成する。
C P3	C7-13	80 ×	60 42.5	不整形	138,139,土師器×17,瓦器×2	SB3を構成する。
C P4	C7-13	52 ×	40 35.7	楕円形	140~146,土師器×41,瓦器×5,鉄滓	SB7を構成する。
C P5	C7-13	24 ×	20 13.5	楕円形	147~149,土師器×4,瓦器×1,炭化物	
C P6	C7-13	φ28	22.0	不整形	150~163,土師器×52,瓦器×11	
C P7	C7-8	φ52	33.2	不整形	164,土師器×3,瓦器×3	SB3,SB7を構成する。
C P8	C7-13	φ44	35.7	円形	165,166,土師器×26,瓦器×6,炭化物,粘	円礫
C P9	C7-9	φ38	28.2	円形	167~171,土師器×36,瓦器×2	
C P10	C7-9	42 ×	34 32.7	楕円形	172~174,土師器×22,瓦器×7	
C P11	C7-8	22 ×	28 23.8	楕円形	175,土師器×5,瓦器×5	
C P12	C7-8	40 ×	40 30.1	不整形	176,177,土師器×38,瓦器×5,陶器×1	
C P13	C7-14	36 ×	28 40.4	楕円形	178,土師器×12,瓦器×4	
C P14	C7-13	44 ×	56 33.6	不整形	179~182,土師器×24,瓦器×3	SB7を構成する。
C P15	C7-13	52 ×	40 35.7	楕円形	183~194,土師器×20,瓦器×1	
C P16	C7-13	60 ×	46 28.0	不整形	195,196,土師器×23,瓦器×4	SB7を構成する。
C P17	C7-13	φ32	33.5	不整形	土師器×12,瓦器×2	
C P18	C7-13	56 ×	56 37.3	不整形	土師器×3,瓦器×1	
C P19	C7-13	φ36	32.2	円形	197,土師器×7,瓦器×3	
C P20	C7-13	72 ×	30 31.6	不整形	198~200,土師器×18	P703,SB3を構成する。
C P21	C7-13	φ40	23.4	円形	土師器×5	
C P22	C7-13	φ36	34.7	円形	土師器×9	P23に切られる。
C P23	C7-13	50 ×	40 35.6	楕円形	201,土師器×16,瓦器×1,炭化物	P22を切る。SB7を構成する。
C P24	C7-13	32 ×	32 23.1	不整形	202,土師器×3,瓦器×2	
C P25	C7-13	φ24	22.9	不整形	203~205,土師器×8,瓦器×3	
C P26	C7-8	[32] ×	30 21.6	楕円形	206~208,土師器×14,瓦器×4,須恵器×	P27に切られる。
C P27	C7-8	56 ×	[40] 30.6	不整形	土師器×3	
C P28	C7-13	[52] ×	42 36.5	楕円形	209~211,土師器×17	
C P29	C7-8	56 ×	32 36.4	楕円形	212,213,土師器×6	
C P30	C7-8	24 ×	20 —	楕円形	214~217,土師器×6,瓦器×5,木片	
C P31	C7-8	24 ×	20 22.0	不整形	218,土師器×5,瓦器×2	
C P32	C7-8・13	—	—	—	土師器×9	
C P33	C7-14	φ40	46.0	円形	219~226,土師器×38,瓦器×2,骨片	
C P34	C7-14	—	—	—	227,土師器×8,瓦器×3	
C P35	C7-9	φ40	23.8	円形	228~230,土師器×10,瓦器×1	
C P36	C7-9	φ30	27.7	不整形	231,232,土師器×14,瓦器×1,炭化物	
C P37	C7-15	φ32	31.2	円形	土師器×2	
C P38	C7-14	48 ×	36 25.1	不整形	233~238,土師器×13	
C P39	C7-14	—	—	—		
C P40	C7-15	φ44	62.7	円形	239,土師器×11,瓦器×3	SB3を構成する。
C P41	C7-14	—	—	—		
C P42	C7-14	—	—	—	土師器×1	P38に収束する。
C P43	C7-14	φ42	48.7	不整形	240,241,土師器×42,瓦器×2,青磁×1	P58を一部で切る。
C P44	C7-14	φ30	50.3	不整形	242~247,土師器×36,瓦器×2	
C P45	C7-14	52 ×	40 44.8	不整形	248,249,土師器×17,瓦器×2	SB10を構成する。
C P46	C7-14	φ30	29.1	円形	250~253,土師器×10,瓦器×1	
C P47	C7-14	40 ×	28 34.0	不整形	254~256,土師器×9,瓦器×3	
C P48	C7-14	φ42	35.5	円形	土師器×2	SB7を構成する。
C P49	C7-14	44 ×	32 18.0	不整形		礫,SB11を構成する。
C P50	C7-14	φ40	21.9	不整形	土師器×11,瓦器×2,粘土塊	
C P51	C7-14	28 ×	20 14.0	楕円形	257,258,土師器×6,瓦器×1	
C P52	C7-14	44 ×	32 27.9	楕円形	259,土師器×2	
C P53	C7-14	32 ×	28 15.7	不整形	260,瓦器×1	
C P54	C7-14	φ50	51.2	円形	261,土師器×3	SB3を構成する。
C P55	C7-14	60 ×	46 21.6	不整形	土師器×6,瓦器×2	SB3を構成する。
C P56	C7-14	32 ×	28 —	楕円形	262~266,土師器×9	
C P57	C7-9	32 ×	30 36.2	楕円形	土師器×4,瓦器×1	
C P58	C7-9	52 ×	44 31.0	不整形	267~269,土師器×24,瓦器×2	SB3を構成する。
C P59	C7-14	40 ×	[32] —	不整形	270~272,土師器×16,瓦器×3	SB7を構成する。
C P60	C7-14	38 ×	26 —	楕円形	273~275,土師器×4	
C P61	C7-9	24 ×	20 —	不整形	土師器×3,瓦器×2	
C P62	C7-14	100 ×	36 21.0	不整形	276,277,土師器×13,瓦器×3	
C P63	C7-14	φ14	—	不整形	炭化物	
C P64	C7-15	—	—	—		
C P65	C7-15	44 ×	32 35.3	楕円形	278,土師器×2	

表10 C区遺構計測表 2

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P66	C7-15	32 × [24]	29.4	円形	279,土師器×8	
C P67	C7-15	φ44	68.9	不整円形	280,土師器×2	SB3を構成する。
C P68	C7-15	56 × 52	48.3	不整楕円形	土師器×4	柱痕
C P69	C7-15	36 × 32	13.7	不整方形	281~284,土師器×21	
C P70	C7-15	44 × [28]	—	不整円形	285,286	SB3を構成する。
C P71	C7-15	56 × [32]	2.9	楕円形	287,土師器×2	P70に切られる。
C P72	C7-15	80 × 40	34.0	楕円形	288,289,土師器×8,瓦器×1	SB10を構成する。
C P73	C7-15	72 × 32	6.4	不整形	290,291,土師器×6,瓦器×3	P47とP72に切られる。
C P74	C7-15	—	—	—	須恵器×1	SB10を構成する。D区P254と重複する。
C P75	C7-18	56 × 40	61.0	不整方形	292~303,土師器×45,瓦器×11,粘土塊,炭化物	P715
C P76	C7-18	52 × 30	44.5	楕円形	304~312,土師器×11,土錘×1,瓦器×1	P713
C P77	C7-18	φ22	47.4	円形	313,土師器×7,瓦器×2	
C P78	C7-18	36 × [24]	26.0	円形	土師器×49,瓦器×1	P75に切られる。
C P79	C7-18	—	—	—	314~318,土師器×2,瓦器×1,炭化物	P21に収束する。
C P80	C7-18	68 × 52	25.6	楕円形	319~321,土師器×15	SA3を構成する。
C P81	C7-18	26 × 26	41.8	不整方形	322~333,土師器×80,骨片	
C P82	C7-18	φ36	37.5	不整円形	334~336,土師器×26	
C P83	C7-18	20 × 16	18.5	楕円形	土師器×8,瓦器×1	P84に切られる。
C P84	C7-18	84 × 52	43.5	楕円形	337,338,土師器×18,瓦器×3	SB3を構成する。
C P85	C7-18	56 × 36	27.5	不整楕円形	土師器×6	
C P86	C7-18	36 × 30	18.3	不整楕円形	339~341,土師器×18	
C P87	C7-18	60 × 40	28.8	不整楕円形	342~344,土師器×24	SA3を構成する。P739
C P88	C7-18	33 × 28	20.1	不整方形	345~353,土師器×22,瓦器×5,炭化物	
C P89	C7-18	42	22.4	瓢箪形	354~357,土師器×15	
C P90	C7-18	φ40	18.4	円形	土師器×1	P102と接する。
C P91	C6-13	36 × 32	29.5	不整方形	358~361,土師器×25	
C P92	C6-17	28 × [12]	26.8	円形	土錘×1	西壁際
C P93	C6-18	44 × 28	21.6	楕円形	362~366,土師器×41	
C P94	C6-18	52 × 44	18.7	不整楕円形	367,土師器×14,瓦器×2,土錘×1	
C P95	C6-18	φ40	26.6	不整円形	368,369,土師器×5,瓦器×4	
C P96	C7-13	80 × 24	28.8	不整形	土師器×9,瓦器×5	
C P97	C7-18	φ36	17.5	不整円形	370,371,土師器×23,瓦器×2	
C P98	C7-18	—	—	—	土師器×12	P17に収束する。
C P99	C7-13	28 × [28]	40.0	楕円形	372~380,土師器×44,瓦器×10,土師質土器×1	
C P100	C7-13	28 × 24	8.6	楕円形	土師器×3,瓦器×2	
C P101	C7-18	φ28	31.7	不整円形	土師器×32,瓦器×4	
C P102	C7-18	40 × [28]	—	楕円形	土師器×1	P90と接する。
C P103	C7-18	—	—	—	381,382,土師器×3	P21に収束する。
C P104	C7-18	24 × 17	5.6	楕円形	383,384,土師器×6	
C P105	C7-19	44 × 40	38.7	楕円形	土師器×19,瓦器×7	
C P106	C7-19	56 × 36	22.5	楕円形	385,土師器×4,瓦器×1	SA2を構成する。
C P107	C7-19	32 × 28	32.7	不整円形	386~389,土師器×12,瓦器×4	
C P108	C7-19	42 × 32	14.9	不整楕円形	土師器×3	礫,SB11を構成する。
C P109	C7-19	40 × [24]	16.6	不整方形	390,土師器×17,瓦器×1	
C P110	C7-19	φ16	9.6	円形	土師器×1	
C P111	C7-19	φ26	15.7	不整円形	391,392,土師器×9,瓦器×2	
C P112	C7-19	φ48	19.5	不整円形	393,土師器×6,瓦器×1	SA2を構成する。
C P113	C7-19	32 × [16]	11.1	楕円形	394,395,土師器×1,瓦器×2	
C P114	C7-19	φ52	21.5	円形	縄文土器×1,土師器×10	礫
C P115	C7-19	44 × 44	16.0	隅丸方形	土師器×4,瓦器×1	SB3を構成する。
C P116	C7-19	24 × 20	9.4	楕円形	土師器×20,瓦器×3	
C P117	C7-19	36 × 32	28.0	不整楕円形	396,397,土師器×3	SB3を構成する。
C P118	C7-19	φ28	18.8	円形	398,土師器×2,土師質土器×1	
C P119	C7-19	φ24	12.8	不整円形	399,400,土師器×4,瓦器×1	
C P120	C7-19	φ38	21.9	円形	401,土師器×8,青磁×1	扁平な石
C P121	C7-19	56 × 42	59.9	楕円形	402~406,土師器×19,瓦器×5,釘×1	
C P122	C7-19	36 × 28	13.3	不整円形	407,土師器×2,瓦器×3,須恵器×1	
C P123	C7-19	80 × 48	5.4	不整楕円形	土師器×2,瓦器×1	
C P124	C7-19	[32] × 32	7.2	楕円形	土師器×3,瓦器×1	SB3を構成する。
C P125	C7-19	φ32	—	円形	土師器×1,瓦器×1	
C P126	C7-19	28 × 20	12.2	楕円形	408~413,土師器×8,瓦器×1	

表11 C区遺構計測表 3

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
C P127	C7-19	24 ×	10	2.4	不整形	414~416,土師器×6,瓦器×2	
C P128	C7-19	28 ×	20	25.3	楕円形		
C P129	C7-20	44 ×	36	42.2	楕円形	土師器×2,瓦器×1,瓦質土器×1	SB11を構成する。
C P130	C7-20	36 ×	[32]	44.3	不整形	417,土師器×10,炭化物	P136に切られる。
C P131	C7-20	56 ×	44	56.2	不整楕円形	418,419	
C P132	C7-20	φ18		17.3	円形	420,土師器×2	
C P133	C7-20	32 ×	26	35.0	楕円形	土師器×2	
C P134	C7-20	112 ×	56	20.0	不整楕円形	421,土師器×3	
C P135	C7-20	84 ×	60	25.3	不整楕円形	土師器×3	
C P136	C7-20	52 ×	40	58.6	不整楕円形	422,423,土師器×11	SB3を構成する。
C P137	C7-20	48 ×	40	31.6	不整楕円形	424	
C P138	C7-20	48 ×	48	38.7	不整形	土師器×2,土師質土器×1	P135を切る。SB11を構成する。
C P139	C7-20	φ36		43.3	円形	土師器×1	
C P140	C7-20	40	36	46.8	楕円形	425,土師器×1,瓦器×1,須恵器×1	SA2を構成する。
C P141	C7-20	φ36		35.9	円形	426,土師器×4	
C P142	C7-25	40 ×	36	39.9	楕円形		P704,SB3を構成する。
C P143	C7-20	54 ×	40	21.7	楕円形		円礫,SB11を構成する。
C P144	C7-20	φ36		34.1	円形	土師器×7,瓦器×1	SA2を構成する。
C P145	C7-20	52 ×	32	16.3	不整楕円形	427,428,土師器×9,瓦器×8	円礫
C P146	C7-22	φ32		29.3	不整形	429,431,土師器×14,瓦器×3	
C P147	C7-22	36 ×	30	24.5	楕円形	土師器×11,瓦器×2	
C P148	C7-22	32 ×	23	22.1	不整形	432~437,土師器×64,瓦器×6,須恵器×	
C P149	C7-22	32 ×	[24]	16.2	不整楕円形	438~446,土師器×27,瓦器×7,獣骨	西壁際
C P150	C7-22	φ40		38.8	不整形	447~450,土師器×50,瓦器×12	SB4を構成する。
C P151	C7-22	36 ×	20	6.7	楕円形	451,土師器×4,瓦器×1	
C P152	C7-22	φ28		10.4	円形		
C P158	C7-22	[28] ×	25	17.7	楕円形		西壁際
C P159	C7-22	32 ×	22	23.8	不整形		
C P160	C7-22	φ28		26.2	円形	452,453,土師器×3,瓦器×1,土師質土器	
C P161	C7-23	φ32		15.7	円形	454,土師器×3,瓦器×1	p162に切られる。
C P162	C7-23	52 ×	40	23.4	楕円形	455~457,土師器×30,瓦器×3,棒状鉄製	
C P163	C7-23	φ22		13.4	不整楕円形	458,土師器×3	
C P164	C7-23	φ36		7.3	円形	459,瓦器×2	
C P165	C7-23	45 ×	36	20.5	楕円形	460,土師器×11,瓦器×2	
C P166	C7-23	φ24		35.1	円形	461,462,土師器×11,瓦器×2	
C P167	C7-23	φ24		34.1	不整形	土師器×11,瓦器×1	
C P168	C7-23	φ39		25.2	円形	土師器×19,瓦器×1	
C P169	C7-23	φ24		32.6	不整形	463,464,土師器×10,瓦器×2,瓦質土器×1,炭化物	
C P170	C7-23	40 ×	20	38.4	楕円形	465,466,土師器×4,瓦器×4	
C P171	C7-23	56 ×	24	31.1	不整楕円形	土師器×14,瓦器×1	SB3を構成する。
C P172	C7-23	[40]	32	38.5	不整楕円形	467,土師器×2,粘土塊	P173と接する。SB4を構成する。
C P173	C7-23	φ88		10.5	円形	468,469,土師器×13,瓦器×3,土師質土	
C P174	C7-23	φ24		—	不整形		
C P175	C7-23	φ48		52.2	円形	470~472,土師器×13,瓦器×10,須恵器	SB3を構成する。
C P176	C7-23	32 ×	20	37.8	不整楕円形	土師器×13,瓦器×7	P177を切る。
C P177	C7-23	[30] ×	26	52.2	円形	鉄滓	
C P178	C7-23	24 ×	24	33.9	不整形	473,土師器×24,瓦器×10	
C P179	C7-23	52 ×	42	32.1	不整楕円形	土師器×27,瓦器×2	
C P180	C7-23	24 ×	24	21.0	不整形	土師器×1,瓦器×1	
C P181	C7-23	24 ×	24	38.4	不整形	474~478,土師器×21,瓦器×7	P170と重なる。
C P182	C7-23	22 ×	16	25.6	不整形	479,土師器×3	
C P183	C7-23	φ24		20.2	不整形	480~482,土師器×23	
C P184	C7-24	40 ×	30	19.2	楕円形	土師器×1	SA3を構成する。
C P185	C7-24	φ44		24.2	不整形	483~488,土師器×19	
C P186	C7-24	28 ×	19	18.8	不整楕円形	土師器×2,瓦器×1	
C P187	C7-24	64 ×	36	35.4	不整楕円形	土師器×4	SB3を構成する。
C P188	C7-24	56 ×	44	37.5	不整楕円形	489~492,土師器×76,瓦器×10,瓦質土	
C P189	C7-24	φ28		18.0	円形	493,土師器×5	
C P190	C7-24	52 ×	24	19.2	瓢箪形	494~496,土師器×8,瓦器×5,須恵器×1	
C P191	C7-24	60 ×	32	—	不整楕円形	497,土師器×1	
C P192	C7-25	36 ×	28	28.3	楕円形		
C P193	C7-25	φ40		28.6	円形	498,土師器×13	
C P194	C7-25	32 ×	32	16.2	不整形	499,土師器×9	

表12 C区遺構計測表 4

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P195	C7-25	78 × 74	19.6	不整円形	土師器×5	P522に切られる。
C P196	C7-25	48 × 40	33.1	不整楕円形	500,土師器×9	
C P197	C7-25	φ52	18.0	不整円形	501,502,土師器×12,瓦器×2	SB3を構成する。
C P198	C7-25	φ88	12.8	円形	503,土師器×10,瓦器×1	
C P199	D7-21	32 × [28]	12.7	円形	504,505,土師器×10,瓦器×1	
C P200	C7-25	42 × 30	23.5	楕円形	土師器×1	P199に切られる。
C P201	C7-25	40 × 36	25.5	楕円形	土師器×4	
C P202	C7-25	32 × 28	17.8	楕円形	506,507,土師器×5,瓦器×3,青磁×1	
C P203	C7-25	φ24	17.6	不整円形	土師器×18,瓦器×4,須恵器×1	
C P204	C7-25	48 × 42	14.1	楕円形	508,土師器×7	
C P205	C7-25	44 × 28	39.5	不整楕円形	土師器×14,瓦器×1	
C P206	C7-25	76 × 18	—	溝状	土師器×3,瓦器×1	
C P207	C7-25	32 × 28	19.5	楕円形	509~511,土師器×7,瓦器×6,土錘×1	SA3を構成する。
C P208	C7-25	φ24	3.3	不整円形	瓦器×1	礫
C P209	C8-2	38 × 32	12.2	楕円形	512,513,土師器×4	礫
C P210	C8-2	φ24	16.8	円形	土師器×11	
C P211	C8-2	36 × 16	7.7	不整楕円形	土師器×1	
C P212	C8-2	40 × 32	21.5	不整方形	土師器×10	SB4を構成する。
C P213	C8-2	φ36	11.1	円形	514,515,土師器×1,陶器×1	
C P214	C8-2	36 × 24	14.8	不整楕円形	土師器×1	SB9を構成する。
C P215	C8-2	48 × 32	16.8	楕円形		
C P216	C8-2	36 × 36	15.8	不整形	土師器×2,瓦器×1	SB4を構成する。
C P217	C8-2	24 × 24	13.2	不整形	土師器×2,瓦器×3	
C P218	C8-2	44 × 40	19.6	不整円形	516,土師器×14	SB4を構成する。
C P219	C8-2	24 × 20	13.0	楕円形	517,土師器×4,瓦器×4	
C P220	C8-2	52 × 38	11.7	楕円形	土師器×3,瓦器×1	SB9を構成する。
C P221	C8-3	48 × 40	75.6	楕円形		
C P222	C7-23	28 × 20	21.8	楕円形	518,519,土師器×8,瓦器×2	
C P223	C8-3	28 × 20	18.4	楕円形		
C P224	C8-3	42 × [32]	45.0	楕円形	土師器×2,瓦器×1	P225に切られる。SB4を構成す
C P225	C8-3	48 × 42	39.0	不整円形	520,土師器×2	礫
C P226	C8-3	φ28	20.2	円形	521,522,土師器×4	
C P227	C8-3	φ26	26.4	不整円形	土師器×1,瓦器×1	
C P228	C8-3	φ28	48.0	不整円形	523,524,土師器×3	
C P229	C8-3	60 × 34	41.0	不整楕円形	土師器×1,瓦器×2	SB4を構成する。
C P230	C8-3	50 × 38	30.2	楕円形	土師器×2,瓦器×3	
C P231	C8-3	φ16	12.4	不整円形	瓦器×2	
C P232	C8-3	32 × 28	16.9	不整楕円形	土師器×8,瓦器×3	
C P233	C8-3	28 × 20	20.2	楕円形	525,土師器×2	
C P234	C8-3	28 × 24	21.7	不整楕円形	土師質土器×1	
C P235	C8-3	36 × 32	60.7	不整方形	土師器×8,陶器×1	SB4を構成する。
C P236	C8-3	φ24	13.6	円形	土師器×7,瓦器×1	礫
C P237	C8-4	φ54	27.8	円形	526~529,土師器×18	SB3を構成する。
C P238	C8-4	38 × 36	34.3	不整円形	530,531,土師器×2	
C P239	C8-4	52 × 40	36.6	楕円形	532,533,土師器×7,瓦器×1	SB4を構成する。
C P240	C8-4	44 × 40	44.2	楕円形	534,土師器×6	
C P241	C8-4	52 × 40	28.7	楕円形	535~538,土師器×18,瓦器×4	SB4を構成する。
C P242	C8-4	φ24	15.8	円形	土師器×1	
C P243	C8-4	φ48	17.9	円形	539,土師器×5,瓦器×2	
C P244	C8-4	38 × 28	14.0	不整楕円形	土師器×4	SB18を構成する。
C P245	C8-4	32 × 16	12.0	不整楕円形	540,541	
C P246	C8-4	40 × 20	18.8	楕円形	542,土師器×3	
C P247	C8-4	48 × 38	21.7	楕円形	543,土師器×10	
C P248	C8-4	28 × 22	13.3	楕円形	土師器×2,瓦器×1	
C P249	C8-4	30 × 22	13.7	不整楕円形	544~548,土師器×6,瓦器×1	
C P250	C8-4	44 × 16	20.5	不整楕円形	土師器×4	
C P251	C8-4	48 × 22	44.3	楕円形	土師器×13,瓦器×3	SB3を構成する。
C P252	C8-4	φ24	13.7	円形	土師器×2	
C P253	C8-5	φ36	24.6	円形	土師器×5,瓦器×1	
C P254	C8-5	φ24	20.3	不整円形	土師器×1	
C P255	C8-5	64 × 44	37.7	楕円形	土師器×5,瓦器×1	SB3を構成する。
C P256	C8-5	32 × 26	16.5	楕円形	549,550,土師器×7,瓦器×1	
C P257	C8-10	48 × 40	22.3	不整長方形	551,土師器×1,瓦器×1	礫,SB12を構成する。
C P258	C8-5	40 × 28	19.0	不整楕円形	552,土師器×3	
C P259	C8-5	32 × 20	15.0	楕円形	瓦器×1	

表13 C区遺構計測表 5

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
C P260	C8-5	36 ×	18	14.2	不整形	土師器×2	
C P261	C8-5	32 ×	24	22.4	楕円形	553	磔
C P262	C8-5	φ28		17.9	不整形	554,土師器×1	
C P263	C8-5	24 ×	18	5.3	楕円形	土師器×3	
C P264	C8-7	[28] ×	28	18.3	楕円形	瓦器×5	
C P265	C8-7	36 ×	28	24.1	不整形楕円形	瓦器×1	SB9を構成する。
C P266	C8-7	[32] ×	32	26.3	不整形	土師器×1	
C P267	C8-7	[28] ×	28	25.0	楕円形	555,土師器×4,瓦器×1	SB9を構成する。
C P268	C8-7	φ32		18.3	円形	556~558,瓦器×1,鉄滓	
C P269	C8-7	φ56		68.8	円形	土師器×7,陶器×1	
C P270	C8-8	32 ×	32	43.7	不整形	土師器×2	SB9を構成する。
C P271	C8-8	36 ×	36	22.9	不整形	土師器×2	磔
C P272	C8-8	44 ×	36	19.5	楕円形	土師器×3,瓦器×2	
C P273	C8-8	φ16		17.8	円形	瓦器×1	
C P274	C8-8	38	36	47.2	楕円形	559,土師器×4	P275とP281を切る。SB4を構成す
C P275	C8-8	24 ×	20	12.3	円形	560	P274に切られる。
C P276	C8-8	28 ×	20	21.1	楕円形	土師器×3	SB9を構成する。
C P277	C8-8	30 ×	20	17.7	楕円形	561	
C P278	C8-8	24 ×	18	16.2	楕円形	土師器×1	
C P279	C8-8	20 ×	16	14.3	不整形	土師器×1	
C P280	C8-8	52 ×	32	49.4	楕円形	562,土師器×3	SB9を構成する。
C P281	C8-8	22 ×	[20]	11.0	不整形	瓦器×1	P274に切られる。
C P282	C8-9	φ28		22.8	円形	土師器×1	
C P283	C8-9	52 ×	30	15.4	不整形	土師器×2	
C P284	C8-9	φ20		8.2	円形	土師器×1,須恵器×1	
C P285	C8-9	20 ×	26	17.8	不整形楕円形	563	
C P286	C8-9	φ44		19.6	円形	土師器×5,陶器×1	SB18を構成する。
C P287	C8-9	φ36		18.8	円形	土師器×1,瓦器×1	SB18を構成する。
C P288	C8-9	φ32		20.0	円形	土師器×3	SB18を構成する。
C P289	C8-10	42 ×	26	26.3	不整形楕円形	瓦器×3	
C P290	C8-10	48 ×	44	21.7	不整形	瓦器×1	
C P291	C8-10	24 ×	16	20.6	楕円形	564~567,土師器×15,青磁×1	
C P292	C8-10	68 ×	63	18.0	楕円形	土師器×2	
C P293	C8-10	46 ×	44	24.0	不整形	568,土師器×4	
C P294	C8-11	56 ×	[30]	32.8	不整形楕円形	土師器×1	
C P295	C8-11	[32]	24	22.9	楕円形	569,土師器×2	
C P296	C8-11	32 ×	28	44.6	楕円形	570,土師器×1	SB9を構成する。
C P297	C8-11	48 ×	[44]	24.0	不整形	土師器×2,瓦器×1	
C P298	C8-11	36 ×	[28]	40.0	楕円形	571,572,土師器×2	SB9を構成する。
C P299	C8-12	φ44		54.7	不整形	土師器×2,瓦器×3	SB9を構成する。
C P300	C8-13	60 ×	46	52.2	楕円形	573,土師器×2	
C P301	C8-13	56 ×	44	42.2	不整形楕円形		
C P302	C8-13	56 ×	44	45.1	不整形楕円形		
C P303	C8-13	φ32		29.6	円形	瓦器×1	SB9を構成する。
C P304	C8-13	28	24	46.6	楕円形	土師器×2	
C P305	C8-13	32 ×	28	37.5	楕円形	574	SB9を構成する。
C P306	C8-14	φ28		22.3	円形	575	
C P307	C8-14	36 ×	32	31.9	楕円形	土師器×3	P312を切る。
C P308	C8-14	28 ×	22	28.3	楕円形	576	
C P309	C8-14	φ14		1.9	円形	土師器×2	
C P310	C8-14	φ30		32.4	円形	土師器×5	
C P311	C8-14	φ24		16.2	不整形	土師器×4	
C P312	C8-14	83	[44]	28.3	楕円形	土師器×3	
C P313	C8-14	62 ×	32	40.2	楕円形	土師器×2	
C P314	C8-15	φ24		27.1	不整形	瓦器×1	
C P315	C8-15	64 ×	44	56.3	円形	577,578,瓦器×5	
C P316	C8-15	φ26		9.2	円形		
C P317	C8-15	34 ×	[16]	20.3	不整形	瓦器×1	SB8を構成する。
C P318	C8-15	28 ×	24	22.1	不整形楕円形	土師器×1,瓦器×3	
C P319	C8-15	42 ×	40	11.4	不整形	土師器×1	
C P320	C8-15	φ22		24.1	不整形	579	
C P321	C8-15	36 ×	21	22.0	不整形楕円形	土師器×4,瓦器×1	
C P322	C8-16	φ24		9.6	円形	580,土師器×2	
C P323	C8-11	64 ×	48	30.3	不整形楕円形	581,土師器×1	
C P324	C8-16	44 ×	36	2.7	楕円形	582,583,土師器×2,瓦質土器×1	磔

表14 C区遺構計測表 6

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
C P325	C8-16	—	—	—	土師器×2,瓦器×1		
C P326	C8-17	78 ×	38	35.7	不整楕円形	土師器×1土師質土器×1	
C P327	C8-17	52 ×	42	60.3	不整楕円形	土師器×1	
C P328	C8-17	40 ×	36	35.4	不整形	土師器×3	磔
C P329	C8-18	32 ×	[30]	44.3	楕円形	土師器×1,炭化物	
C P330	C8-18	44 ×	24	30.3	不整形	土師器×1	
C P331	C8-18	53 ×	32	43.0	不整楕円形	584,土師器×9	SB9を構成する。
C P332	C8-18	48 ×	40	20.1	不整楕円形	土師器×2	磔
C P333	C8-18	φ22		27.5	円形	陶器(瀬戸)×1	
C P334	C8-17	40 ×	28	44.8	楕円形	土師器×1	
C P335	C8-18	φ52		62.9	円形	585	
C P336	C8-18	36 ×	28	—	不整形		
C P337	C8-19	φ40		24.9	不整円形	土師器×1	
C P338	C8-19	58 ×	42	10.9	不整形	土師器×3	
C P339	C8-19	28 ×	16	33.6	不整楕円形		
C P340	C8-19	26 ×	20	29.3	不整形	土師器×1	
C P341	C8-19	28 ×	12	22.6	不整楕円形	土師器×1	
C P342	C8-20	φ32		44.6	円形	土師器×2	
C P343	C8-20	26 ×	18	30.8	不整楕円形	土師器×1	
C P344	C8-20	80 ×	32	24.9	不整形	釘×1	
C P345	C8-20	60 ×	58	10.6	不整形	土師器×1,瓦器×2	
C P346	C8-20	52 ×	40	73.8	不整長方形	瓦器×1,陶器×1	
C P347	C8-20	28 ×	[20]	30.9	円形	586,土師器×2	SB8を構成する。
C P348	C8-20	40 ×	20	37.9	楕円形	土師器×6	
C P349	C8-20	φ28		12.4	円形	587	ビットを切る。
C P350	C8-22	44 ×	38	—	楕円形		
C P351	C8-21	36 ×	24	—	楕円形	土師器×2	
C P352	C8-21	26 ×	20	—	楕円形	陶器×1	
C P353	C8-22	44 ×	28	37.4	不整楕円形	土師器×2,瓦器×2	
C P354	C8-22	60 ×	44	47.9	長楕円形	土師器×2,瓦器×1	
C P355	C8-22	45 ×	20	39.4	長楕円形	588	
C P356	C8-22	72 ×	36	42.5	不整楕円形	589,土師質土器×1	
C P357	C8-22	48 ×	40	37.6	不整楕円形	土師器×4,瓦器×5	
C P358	C8-22	52 ×	44	—	円形	土師器×10,瓦器×1,土師質土器×1	
C P359	C8-23	26 ×	25	28.6	不整円形	土師器×1	
C P360	C8-23	24 ×	24	34.6	不整形		
C P361	C8-23	36 ×	28	33.9	不整楕円形	590	
C P362	C8-23	28 ×	18	24.4	楕円形	土師器×2	
C P363	C8-23	54 ×	48	21.9	不整形	591,土師器×1,瓦器×2	
C P364	C8-23	82 ×	32	9.6	不整形	土師器×2	
C P365	C8-23	38 ×	22	33.4	不整形	土師器×2	
C P366	C8-23	40 ×	36	39.0	不整楕円形	土師器×6	
C P367	C8-22	116 ×	62	42.8	不整楕円形	592,593,土師器×3,瓦器×4	
C P368	C8-24	24 ×	14	23.9	不整楕円形	土師器×1	
C P369	C8-24	24 ×	23	27.2	不整円形	瓦器×1	
C P370	C8-24	φ40		34.1	円形	土師器×1,瓦器×1	
C P371	C8-24	36 ×	[32]	30.0	不整円形	594	
C P372	C8-25	28 ×	15	16.8	不整楕円形	土師器×1	
C P373	C8-25	36 ×	18	27.5	不整楕円形	陶器×1	SB17を構成する。
C P374	C8-22	82 ×	32	39.4	不整楕円形	土師器×3,瓦器×1,土錘×1,炭化物	
C P375	C9-2	40 ×	20	18.5	楕円形	土師器×5	
C P376	C9-2	28 ×	22	27.8	楕円形	土師器×4	磔
C P377	C9-2	52 ×	24	42.7	不整楕円形	土師器×1	
C P378	C9-2	32 ×	14	25.1	楕円形	595,瓦器×1	
C P379	C9-6	—	—	—	596,土師器×7,瓦器×4		
C P380	D7-11	80 ×	56	41.3	楕円形	597,土師器×2	
C P381	D7-11	48 ×	28	27.6	不整楕円形	598,599,土師器×4,瓦器×2	
C P382	D7-16	36 ×	24	—	不整楕円形	600,601,土師器×3,瓦器×5	
C P383	D7-14	φ44		40.6	円形	602,土師器×6,瓦器×1	
C P384	D7-14	32 ×	28	45.8	不整円形	土師器×6,須恵器×1	
C P385	D7-14	48 ×	36	18.1	不整長方形	土師器×9,陶器×1,炭化物	
C P386	D7-14	36 ×	30	48.9	不整形	603~605,土師器×10	
C P387	D7-14	52 ×	42	56.2	楕円形	606~608,土師器×6,瓦器×1	SB3を構成する。
C P388	D7-16	44 ×	40	55.9	不整円形	瓦器×1	SB11を構成する。
C P389	C7-20	φ36		32.4	円形	土師器×2,土師質土器×1	

表15 C区遺構計測表 7

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
C P390	D7-14	φ40	43.8	不整円形	土師器×4,瓦器×2	SB3を構成する。	
C P391	D7-14	60 ×	40	19.3	不整楕円形	土師器×3,瓦質土器×1	
C P392	D7-17	40 ×	36	28.3	楕円形	瓦器×1	
C P393	D7-17	56 ×	56	30.4	隅丸方形	土師器×1,瓦器×1	
C P394	D7-17	22 ×	20	11.3	楕円形	609~612,土師器×12,瓦器×6,土師質土器×1	
C P395	D7-17	28 ×	22	22.7	楕円形	土師器×1	
C P396	D7-17	φ24	15.2	円形	土師器×8,瓦器×1,陶器×1		
C P397	D7-17	44 ×	[28]	15.9	円形	土師器×3	
C P398	D7-17	56 ×	[38]	35.2	楕円形	613	
C P399	D7-20	36 ×	32	34.1	不整方形	614,土師器×2,瓦器×2	
C P400	D7-21	φ44	37.5	円形	土師器×8	SB3を構成する。	
C P401	D7-21	58 ×	40	21.6	楕円形	土師器×3,瓦器×2	SB11を構成する。
C P402	D7-21	52 ×	48	18.9	不整楕円形	615,土師器×5,瓦器×1	礫,SB3を構成する。
C P403	D7-21	84 ×	68	14.5	不整楕円形	616,土師器×41,瓦器×9,須恵器×1	
C P404	D7-21	76 ×	[72]	11.2	不整楕円形	617,618,土師器×19,瓦器×5	礫
C P405	D7-21	φ40	28.3	円形	619,土師器×19,瓦器×1,瓦質土器×1		
C P406	D7-21	56 ×	42	18.9	楕円形	620,土師器×5,瓦器×2	
C P407	D7-21	φ32	27.5	不整楕円形	621,土師器×5,瓦器×1		
C P408	D7-21	56 ×	44	14.5	楕円形	622,土師器×10	SB3を構成する。
C P409	D7-25	φ40	24.9	円形	土師器×1	SB11を構成する。	
C P410	D7-22	52 ×	36	13.6	不整長方形	623,土師器×6	
C P411	D7-22	44 ×	32	19.6	不整楕円形	624,土師器×19,瓦器×5	
C P412	D7-22	φ28	15.4	円形	土師器×8		
C P413	D7-22	[34] ×	34	23.7	楕円形	625,土師器×2,瓦器×2	
C P414	D7-22	36 ×	28	24.1	楕円形	土師器×1,瓦器×1	
C P415	D7-23	32 ×	28	27.6	楕円形	土師器×1,瓦器×1	
C P416	D7-23	36 ×	32	34.1	不整楕円形	瓦器×1	
C P417	D7-23	36 ×	32	46.6	不整方形	626,土師器×6,瓦器×1	SB16を構成する。
C P418	D7-25	φ28	33.0	円形	627,瓦器×1		
C P419	D7-25	52 ×	46	41.3	楕円形	土師器×5,瓦器×2	SA5を構成する。
C P420	D8-1	80 ×	56	63.7	不整楕円形	628,土師器×2	SB3を構成する。
C P421	D8-1	36 ×	28	49.8	楕円形	土師器×20	
C P422	D7-21	φ32	11.9	円形	629,土師器×2		
C P423	D8-1	40 ×	30	28.9	不整楕円形	630,631,土師器×6	
C P424	D8-1	32 ×	28	31.9	楕円形	土師器×1	
C P425	D8-1	26 ×	22	20.4	楕円形	632~634,土師器×5,陶器×1	
C P426	D8-1	76 ×	48	34.9	不整形	635,土師器×2	SB12を構成する。
C P427	D8-1	52 ×	50	36.4	不整方形	637,土師器×6	
C P428	D8-1	30 ×	26	11.6	楕円形	土師器×1	
C P429	D8-1	φ24	13.0	円形	瓦器×2		
C P430	D8-1	32 ×	40	23.6	不整円形	638,639,土師器×15,瓦器×3	
C P431	D8-2	56 ×	48	19.8	不整長方形	640	SB12を構成する。
C P432	D8-2	68 ×	44	24.6	不整楕円形	土師器×2	
C P433	D8-2	32 ×	22	13.8	楕円形	瓦器×1	
C P434	D8-2	34 ×	32	15.0	不整円形	土師器×1	
C P435	D8-2	48 ×	26	10.9	楕円形	土師器×6	
C P436	D8-3	φ32	29.1	不整円形	636,641,土師器×3,瓦器×2		
C P437	D8-3	32 ×	28	44.0	楕円形	土師器×1,瓦器×1	
C P438	D8-3	34 ×	30	40.5	不整楕円形	642,土師器×4	SB16を構成する。
C P439	D8-3	32 ×	28	32.0	不整楕円形	土師器×4	
C P440	D8-3	φ23	42.9	円形	瓦器×1		
C P441	D8-4	50 ×	44	41.9	不整楕円形	643,土師器×1	SA5を構成する。
C P442	D8-4	φ24	22.2	円形	644,土師器×8,瓦器×1	SB16を構成する。	
C P443	D8-4	—	—	—	645,土師器×3,瓦器×1	P442と重複する。	
C P444	D8-5	44 ×	40	48.1	楕円形	土師器×5	SB16を構成する。
C P445	D8-5	φ24	39.9	円形	土師器×4	SB16を構成する。	
C P446	D8-6	74 ×	[48]	37.5	不整円形	土師器×2,土師質土器×2,鉄滓	SB12を構成する。
C P447	D8-6	34 ×	28	16.7	不整方形	土師器×3,瓦器×2	
C P448	D8-6	88 ×	68	30.1	楕円形	土師器×12,瓦器×3	
C P449	D8-6	28 ×	19	27.7	不整楕円形	土師器×2	
C P450	D8-6	68 ×	52	29.1	楕円形	646,土師器×2,瓦器×2	SB12を構成する。
C P451	D8-6	[48] ×	40	—	楕円形	647,648,土師器×1,瓦器×1	P452に切られる。SB8を構成す
C P452	D8-6	86 ×	84	—	不整円形	土師器×1	P451を切る。

表16 C区遺構計測表 8

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P453	D8-6	[80] × 68	—	不整形	土師器×21	礫,P451に切られる。SB12を構成する。
C P454	D8-6	24 × 15	20.2	不整楕円形	土師器×1	
C P455	D8-7	64 × 68	18.0	不整楕円形	土師器×2	SB12を構成する。
C P456	D8-7	44 × 32	15.4	不整楕円形	土師器×1	
C P457	D8-7	42 × 28	13.1	楕円形	土師器×1	
C P458	D8-7	φ28	16.3	円形	土師器×2	
C P459	D8-12	32 × 32	14.1	不整円形	土師器×2	SB8を構成する。
C P460	D8-7	36 × 36	24.2	不整方形	土師器×1	SA4を構成する。P743
C P461	D8-1	φ38	27.6	円形	土師器×6	SA4を構成する。P742
C P462	D8-8	28 × [24]	26.3	不整楕円形	649~651,土師器×11	SB16を構成する。
C P463	D8-8	36 × 28	34.7	楕円形	土師器×2	SB5を構成する。
C P464	D8-13	60 × [40]	24.1	不整円形	土師器×1	
C P465	D8-9	φ60	32.1	円形	土師器×3,瓦器×1	SA5を構成する。
C P466	D8-9	60 × 48	17.6	不整楕円形	652,土師器×2	SA5を構成する。
C P467	D8-9	30 × 24	29.9	楕円形		SB16を構成する。
C P468	D8-11	φ33	19.8	円形	653,土師器×1,瓦器×1	
C P469	D8-11	52 × [32]	14.1	不整楕円形	654,土師器×4	SB8を構成する。
C P470	D8-11	36 × 28	11.4	楕円形	655	
C P471	D8-11	60 × 48	57.1	不整楕円形	土師器×5	
C P472	D8-11	48 × 42	7.6	不整方形	土師器×9,瓦器×1	
C P473	D8-12	32 × 28	19.3	楕円形	土師器×1	SA4を構成する。P744
C P474	D8-12	48 × 44	28.8	不整楕円形	656,土師器×6,瓦器×2	SB8を構成する。
C P475	D8-12	28 × 28	46.2	不整円形	土師器×6,瓦器×1	SA4を構成する。P745
C P476	D8-13	64 × 52	21.3	不整楕円形	657,658,土師器×10,瓦器×1	SB5を構成する。
C P477	D8-13	92 × 60	28.5	楕円形	659,土師器×18	SB5を構成する。
C P478	D8-13	φ68	19.9	円形	土師器×1	P734,SB16を構成する。
C P479	D8-13	44 × 40	41.6	不整円形	660,土師器×2	
C P480	D8-13	50 × 46	30.4	楕円形	土師器×1	SB5を構成する。
C P481	D8-14	44 × 38	33.7	不整円形	土師器×4	SB5を構成する。
C P482	D8-14	72 × 62	28.8	不整楕円形	661,662,土師器×1	柱痕、SB5を構成する。
C P483	D8-14	50 × 40	15.6	楕円形	土師器×8,土師質土器×1	SB5を構成する。
C P484	D8-14	76 × 66	21.3	楕円形	663,土師器×11	SB5を構成する。
C P485	D8-15	φ38	43.2	円形	土師器×1	SB5を構成する。
C P486	D8-15	68 × 44	19.9	楕円形	664,土師器×3,青磁×1	SB5を構成する。
C P487	D8-15	—	—	—	665,土師器×9	
C P488	D8-16	38 × 30	21.3	不整楕円形		
C P489	D8-16	32 × 28	24.9	不整円形	土師器×3	SB17を構成する。
C P490	D8-16	52 × 40	24.8	不整円形		
C P491	D8-16	52 × 46	19.0	不整円形		SB8を構成する。
C P492	D8-21	46 × 24	27.8	不整方形	土師器×1,陶器×1	SB17を構成する。
C P493	D8-16	64 × 40	10.1	楕円形	土師器×1	
C P494	D8-16	φ40	—	円形		礫
C P495	D8-17	52 × 40	11.4	不整方形	陶器×1	
C P496	D8-17	—	—	—	土師器×5	
C P497	D8-18	86 × 52	28.9	不整楕円形	土師器×2	SB5を構成する。
C P498	D8-19	48 × 40	53.9	楕円形		SB16を構成する。
C P499	D8-19	64 × 48	32.9	楕円形	666,土師器×6,瓦器×1,陶器(瀬戸)×1	SB5を構成する。
C P500	D8-19	60 × 46	40.0	不整楕円形	667,土師器×19	SB5を構成する。
C P501	D8-19	40 × 34	16.2	楕円形	土師器×1	
C P502	D8-19	52 × 44	24.6	不整楕円形	土師器×10	SB5を構成する。
C P503	D8-21	84 × 44	8.7	不整長方形	土師器×2,土師質土器×1	
C P504	D8-21	32 × 18	28.9	不整楕円形		
C P505	D8-21	42 × 24	33.5	不整楕円形		
C P506	D8-23	φ28	28.2	円形	土師器×1	
C P507	D8-24	36 × 36	26.8	隅丸方形	土師器×5	SB16を構成する。
C P508	D8-24	φ32	18.1	円形	668,土師器×14,瓦器×2,釘×1	SB16を構成する。
C P509	D9-6	92 × 24	36.0	不整楕円形		
C P510	D7-21	34 × 30	9.4	楕円形		
C P511	D7-21	—	—	—		SK12に収束される。
C P512	D7-17	84 × [44]	37.1	不整楕円形		
C P513	C8-10	92 × 60	—	不整楕円形		SB8を構成する。
C P514	C7-23	φ20	27.5	円形		
C P515	D7-14	32 × 28	35.8	不整楕円形		
C P516	D7-14	64 × 40	50.4	楕円形		SB11を構成する。

表17 C区遺構計測表 9

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P517	D7-17	φ20	20.6	円形		
C P518	D7-17	φ32	10.2	不整円形		
C P519	D7-17	76 × 52	23.0	不整楕円形		P394に切られる。
C P521	D7-21	20 × 14	8.3	不整円形		
C P522	C7-25	φ20	10.1	円形		
C P523	C7-25	44 × 36	15.6	楕円形		磔
C P524	C7-25	36 × 32	23.4	不整楕円形		
C P525	C7-25	40 × 24	23.5	楕円形		
C P526	C8-5	28 × 26	16.0	楕円形		
C P527	C8-5	φ24	17.8	不整円形		
C P528	D8-1	φ28	25.3	円形		
C P529	D7-21	φ22	25.3	円形		
C P531	C8-5	36 × [16]	22.2	円形		SE1に切られる。
C P532	C7-18	φ28	45.2	円形		
C P533	C7-19	φ44	23.8	不整円形		磔,SA3を構成する。
C P534	C7-19	φ24	21.9	円形		
C P535	C7-19	40 × 32	5.6	楕円形		磔,SB11を構成する。
C P536	C7-24	26 × 22	17.8	楕円形		
C P537	C7-24	20 × 16	17.9	不整楕円形		
C P538	C7-24	36 × 16	14.9	楕円形		
C P539	C7-23	28 × 24	20.5	楕円形		
C P540	C7-23	32 × [28]	16.6	楕円形		
C P541	C7-25	φ32	23.9	円形		SA3を構成する。
C P542	C8-4	24 × 12	9.6	不整楕円形		
C P543	C8-4	φ16	28.4	不整円形		
C P544	C8-4	28 × 16	14.5	不整楕円形		
C P545	C8-4	28 × 18	24.8	楕円形		
C P546	C8-4	—	—	—		磔
C P547	C8-4	20 × 12	18.1	不整円形		
C P548	C8-4	28 × 16	14.6	楕円形		
C P549	C8-5	φ28	18.1	円形		
C P550	C8-5	28 × 22	12.6	楕円形		
C P551	C8-5	28 × 28	47.4	不整円形		
C P552	C8-5	[36] × 36	23.8	不整楕円形		
C P553	C8-5	30 × 28	26.2	不整円形		
C P554	C8-5	32 × 24	18.9	楕円形		
C P555	C8-5	76 × 57	38.5	不整楕円形		SB12を構成する。
C P556	C8-4	φ30	6.8	円形		
C P557	C8-4	φ28	20.1	不整円形		
C P558	C8-4	φ20	13.7	円形		
C P559	C8-4	φ24	12.0	不整円形		
C P560	C8-4	36 × 20	13.1	楕円形		
C P561	C8-4	φ25	14.8	不整円形		SB18を構成する。
C P562	C8-4	28 × 24	18.0	楕円形		
C P563	C8-9	φ20	15.4	円形		SB9を構成する。
C P564	C8-9	44 × 36	17.8	不整円形		
C P565	C8-9	28 × 22	12.5	楕円形		
C P567	C7-18	44 × 32	—	不整楕円形		
C P568	C8-9	φ28	20.6	不整円形		
C P569	C8-14	32 × 24	19.5	楕円形		
C P570	C8-14	36 × 28	14.2	不整方形		
C P571	C8-14	φ24	19.2	円形		
C P572	C8-14	32 × 16	26.8	楕円形		
C P573	C8-14	28 × 18	22.4	不整方形		
C P574	C8-14	28 × 24	27.4	不整楕円形		
C P575	C8-19	φ18	20.9	不整円形		
C P576	C8-19	φ32	17.9	円形		
C P577	C8-14	42 × 24	39.3	不整楕円形		
C P578	C8-19	42 × 22	35.8	不整楕円形		
C P579	C8-9	24 × 16	5.2	楕円形		SB18を構成する。
C P580	C8-14	36 × 32	6.0	不整楕円形		
C P581	C8-14	40 × 34	28.6	楕円形		
C P582	C8-14	68 × 20	37.0	不整楕円形		
C P583	C8-10	46 × 40	17.0	不整円形		磔
C P584	C8-10	φ34	32.7	不整円形		

表18 C区遺構計測表 10

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P585	C8-10	32 ×	26	24.6	不整楕円形	
C P586	C8-10	84 ×	52	7.1	不整楕円形	土師器×2,陶器×1 SB12を構成する。
C P588	C8-15	44 ×	22	23.7	不整楕円形	
C P589	C8-15	88 ×	68	37.8	不整楕円形	SB8を構成する。
C P590	C8-15	50 ×	44	39.2	不整楕円形	
C P591	C8-20	40 ×	20	29.0	不整楕円形	
C P592	C8-20	64 ×	36	16.1	不整楕円形	
C P593	C8-13	44 ×	44	41.3	不整方形	
C P594	C8-13	φ44		41.3	不整円形	
C P594	C8-19	φ22		13.4	円形	
C P595	C8-19	26 ×	24	12.7	不整楕円形	
C P596	C8-19	φ28		47.0	不整円形	
C P597	C8-18	32 ×	28	33.6	楕円形	
C P598	C8-18	32 ×	18	32.8	不整楕円形	
C P599	C8-18	40 ×	16	30.0	不整楕円形	
C P600	C8-19	30 ×	18	29.2	不整楕円形	
C P601	C8-19	16 ×	12	10.0	楕円形	
C P602	C8-19	36 ×	23	24.2	不整楕円形	
C P603	C8-18	24 ×	18	25.8	不整楕円形	
C P604	C8-23	36 ×	17	37.7	不整楕円形	
C P605	C8-24	[40]	40	36.7	不整円形	
C P608	C8-23	φ28		25.5	不整円形	
C P609	C8-23	52 ×	32	38.3	不整長方形	
C P610	C8-24	32 ×	19	27.7	不整楕円形	
C P611	C8-24	32 ×	30	30.6	不整円形	SB17を構成する。
C P612	C8-3	48 ×	24	13.7	楕円形	
C P613	C8-3	36 ×	36	9.6	不整形	
C P614	C8-3	60 ×	40	9.4	不整楕円形	
C P615	C8-8	36 ×	20	4.8	不整形	
C P616	C8-8	28 ×	28	11.5	不整形	
C P617	C8-8	φ34		12.6	円形	
C P618	C8-13	28 ×	18	23.0	不整形	
C P619	C8-12	[28]	22	1.9	楕円形	SB9を構成する。
C P620	C8-12	φ24		30.8	不整円形	
C P621	C8-17	φ18		48.6	円形	
C P624	C9-2	28 ×	20	22.2	楕円形	
C P625	C9-2	24 ×	20	35.3	楕円形	
C P626	C9-2	32 ×	16	36.3	楕円形	
C P627	C9-2	33 ×	25	29.3	不整楕円形	
C P628	C9-2	24 ×	16	33.6	不整楕円形	
C P629	C9-2	28 ×	16	32.5	不整楕円形	
C P630	C9-2	28 ×	16	38.3	不整楕円形	
C P631	C9-3	25 ×	16	28.0	不整楕円形	
C P632	C9-3	26 ×	16	27.4	不整楕円形	
C P633	C9-3	32 ×	20	23.7	楕円形	
C P634	C9-3	30 ×	17	26.7	不整楕円形	
C P635	C9-3	22 ×	16	27.4	不整円形	
C P636	D8-18	48 ×	40	38.6	不整長方形	
C P637	D8-18	60 ×	60	54.6	不整円形	SB5を構成する。
C P638	C8-25	40 ×	40	21.3	不整円形	
C P639	C8-25	36 ×	17	17.4	楕円形	SB17を構成する。
C P640	C9-5	40 ×	20	29.0	不整楕円形	
C P641	C9-5	30 ×	16	38.2	不整楕円形	
C P642	C9-5	28 ×	16	25.6	不整楕円形	SB17を構成する。
C P643	C9-5	32 ×	20	32.7	不整楕円形	P737,SB17を構成する。
C P644	C9-10	28 ×	16	34.1	不整楕円形	P738,SB17を構成する。
C P645	C9-8	24 ×	13	27.9	楕円形	
C P646	C9-14	44 ×	32	9.5	不整円形	
C P647	D7-23	φ24		22.7	円形	
C P648	D7-24	φ36		42.1	不整円形	SB16を構成する。
C P649	D7-24	40 ×	32	44.5	不整楕円形	
C P650	D7-24	40 ×	36	48.1	不整楕円形	
C P651	D7-24	28 ×	20	12.6	不整楕円形	
C P652	D7-24	56 ×	36	41.6	不整楕円形	
C P653	D7-24	φ28		27.7	不整円形	

表19 C区遺構計測表 11

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
C P654	D7-24	φ39	31.2	不整円形		
C P655	D7-25	φ28	36.6	不整円形		
C P656	D7-24	φ32	34.0	円形		
C P657	D7-25	36 ×	32	楕円形		SB16を構成する。
C P658	D7-25	φ38	31.3	円形		
C P659	D7-24	φ16	36.6	円形		
C P660	D8-8	32 ×	28	楕円形		
C P661	D8-9	φ36	22.6	円形		SB16を構成する。
C P662	D8-9	φ32	37.6	不整円形		SB5を構成する。
C P663	D8-14	32 ×	28	不整円形		SB16を構成する。
C P664	D8-14	φ52	27.7	不整円形		SA5を構成する。
C P665	D8-14	30 ×	28	楕円形		SB16を構成する。
C P666	D8-18	36 ×	27	楕円形		SB16を構成する。
C P667	D8-17	34 ×	26	楕円形		SB16を構成する。
C P668	D8-18	φ32	32.6	円形		SB16を構成する。
C P669	D8-17	40 ×	36	楕円形		SB16を構成する。
C P670	D8-23	40 ×	34	楕円形		SB16を構成する。
C P671	D8-24	54 ×	43	楕円形		
C P672	D8-16	108 ×	40	不整楕円形		
C P673	D8-1	60 ×	48	不整長方形		
C P674	D8-6	φ28	28.6	円形		
C P675	D8-6	40 ×	20	不整楕円形		
C P676	D8-6	48 ×	28	不整楕円形		
C P677	D8-6	30 ×	28	不整円形		
C P678	D7-22	30 ×	28	不整方形		
C P679	D7-22	[32] ×	32	不整方形		
C P680	D8-7	28 ×	28	不整方形		
C P681	C8-12	φ24	19.1	円形		
C P682	C8-17	φ36	37.9	円形		
C P683	C8-17	φ24	23.9	円形		
C P684	C8-17	44 ×	36	不整長方形		P725,SB9を構成する。
C P685	C8-17	φ24	20.1	不整円形		
C P686	C8-22	28 ×	22	楕円形		
C P687	C8-22	φ25	—	不整円形		
C P688	C8-22	36 ×	20	不整形		
C P689	C8-16	60 ×	40	楕円形		SB9を構成する。
C P690	D7-22	φ26	—	不整円形		
C P691	D7-22	φ32	—	不整円形		
C P692	C7-14	32 ×	22	楕円形		
C P693	C7-8	56 ×	48	不整方形		
C P694	D7-17	φ12	—	円形		
C P695	C7-14	φ35	39.8	円形		
C P696	C7-14	φ34	27.5	円形		
C P697	D7-23	—	—	—		
C P698	D7-21	φ32	43.5	不整円形		SA2を構成する。
C P700	D7-17	45 ×	38	楕円形		SB3を構成する。
C P701	D7-16	58 ×	53	方形		SB3を構成する。
C P702	D7-17	42 ×	42	不整楕円形		SB3を構成する。
C P703	C7-18	72 ×	50	楕円形		SB3を構成する。
C P705	D8-1	46 ×	40	楕円形		SB3を構成する。
C P706	C7-24	41 ×	34	楕円形		SB3を構成する。
C P707	C7-23	69 ×	44	楕円形		SB3を構成する。
C P708	C8-2	36 ×	32	円形		SB4を構成する。
C P709	D8-8	28 ×	26	円形		SB5を構成する。
C P712	C7-18	24 ×	17	楕円形		SKを切る。
C P714	C7-18	[21] ×	25	楕円形		
C P718	C7-14	50 ×	47	楕円形		SB7を構成する。
C P707	D8-11	64 ×	47	楕円形		SB8を構成する。
C P719	D8-16	58 ×	42	楕円形		SB8を構成する。
C P720	D8-16	44 ×	30	楕円形		SB8を構成する。
C P721	C8-8	24 ×	20	楕円形		SB9を構成する。
C P722	C8-17	32 ×	24	楕円形		SB9を構成する。
C P723	C8-18	44 ×	20	楕円形		SB9を構成する。
C P724	C8-17	40 ×	34	楕円形		SB9を構成する。
C P726	D7-17	86 ×	43	楕円形		SB11を構成する。

表20 C区遺構計測表 12

遺構No.	検出位置	規模	高さ	形態	出土遺物	備考	
C P727	D7-21	62 ×	40	9.4	不整楕円形	SB11を構成する。	
C P729	C8-10	70 ×	49	14.4	楕円形	SB12を構成する。	
C P730	C8-7	φ44	18.8	円形		SB13を構成する。	
C P732	D8-8	28 ×	28	32.6	円形	SB16を構成する。	
C P733	D8-13	36 ×	32	42.2	円形	SB16を構成する。	
C P735	C8-20	36 ×	36	28.6	円形	SB17を構成する。	
C P736	C8-20	44 ×	20	25.5	楕円形	SB17を構成する。	
C P741	D7-21	26 ×	26	25.9	円形	SA3を構成する。	
C P746	D8-16	40 ×	26	27.3	楕円形	SA4を構成する。	
C P747	C8-15	26 ×	24	21.4	円形	SA4を構成する。	
C P748	D8-11	28 ×	26	16.0	円形	SA4を構成する。	
C P749	C7-15	60 ×	41	32.3	楕円形	SB10を構成する。	
C P751	D7-11	69 ×	45	20.8	楕円形	SB10を構成する。	
C P752	C8-19	80 ×	[56]	65.3	楕円形	SB8を構成する。	
C P753	C7-18	φ7	18.0	円形		SK1を切る。	
C SK1	C7-18	280 ×	100	6.8~ 21.2	不整形	19~112,土師器×388,瓦器×50,青磁× 2,瓦質土器×1,鉄滓,粘土塊,獣骨,炭化物	
C SK2	C7-24	188 ×	72	24.7	不整形	114,土師器×8,瓦器×5	
C SK3	C7-25	144 ×	100	13.6	不整楕円形	113,土師器×29,瓦器×9	
C SK4	D8-16	88 ×	[40]	10.1	楕円形	土師器×3,瓦器×1	P494に切られる。
C SK5	C7-13・18	100 ×	92	56.6	楕円形	土師器×2,木片	
C SK6	C8-20	88 ×	52	40.3	不整楕円形	土師器×5	
C SK7	C7-16	200 ×	118	18.5	不整形	115,116,土師器×47,瓦器×2,須恵器×1, 土錘×1	
C SK8	D7-21	116 ×	96	12.1	不整楕円形	117~121,土師器×28,瓦器×7	
C SK9	D7-21	88 ×	64	10.1	不整形	土師器×28,瓦器×1,青磁×1	SK8に切られる。
C SK10	D7-21	φ80		12.3	円形	122,123,土師器×17,瓦器×1	
C SK11	D7-21	140 ×	104	13.9	不整楕円形	124~126,土師器×46,瓦器×2	
C SK12	D7-21	128 ×	104	21.8	不整楕円形	土師器×3	
C SK13	D7-22	212 ×	76	21.6	不整楕円形	127,土師器×31,瓦器×4	
C SK14	D8-1	100 ×	92	28.5	不整形	土師器×2	
C SK15	D8-1	88 ×	88	7.3	不整形		
C SK16	D8-6・7・ 11・12	256 ×	160	23.7	隅丸長方形		
C SK17	D8-7・12	108 ×	54	9.7	隅丸長方形	土師器×10,瓦器×2,土師質土器×1,鉄滓	
C SK18	D8-8	140 ×	116	26.8	不整楕円形	128,土師器×2	
C SK19	D8-11	80 ×	[68]	26.1	不整形	129,土師器×2,瓦器×1,土師質土器×1	
C SE1	C8-5,D8-1・ 6	304 ×	296	81.7	円形	5~18,土師器×97,瓦器×23,陶器×2,土 師質土器×1,土錘×1,鉄滓	素掘り井戸
C SD-A	D7-23,D8- 3・7・8・12	120M ×	約2M	—	N-15°-W	4	
C SD 1	D7-11・16	200 ×	60	14.2	N-75°-W、北壁	1,土師器×6,陶器×1	
C SD 2	C8-15	114 ×	24	17.7	N-0°-W	土師器×1,瓦器×2	
C SD 3	D9-7	376 ×	64	12.5	N-77°-W、東壁	2,3,土師器×8	

表21 C区遺物観察表 1

No.	図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径 (cm)	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	特徴			断面	備考
														胎土	焼成	他		
1	30	CSD1		瓦器	椀	口縁部	14.2	[2.1]	F.c	u/g	B1	K	M2.器壁を薄く仕上げる	灰白2.5GY8/1	灰白2.5Y8/1			
2	30	CSD3		40 土師器	皿	底部	7.1	1.4	5	V.c.h3	u/u	P2		5YR6/8	5YR6/8	—		
3	30	CSD3		41 土師器	皿	底部	[1.7]		6.8	h2	u/u	P3		5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6		
4	30	CSD-A		磁器	椀	口縁部	13.6	[3.5]						明緑灰7.5GY8/1	灰白10Y8/1	肥前系?		
5	30	CSE1		土師器	杯	口縁部	12	[2.0]		W.c	u/uu	P2		5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6		
6	30	CSE1		土師器	杯	口縁部	12	[0.8]		W.c	su/uu	P2		5YR7/8	5YR7/8	5YR7/8		
7	30	CSE1		土師器	杯	底部	[1.0]		6.9	h2	u/	P3		5YR7/8	5YR7/8	5YR7/8		
8	30	CSE1		土師器	杯	底部	[1.2]		8	h2	u/	P1		5YR7/4	5YR7/4	5YR7/4		
9	30	CSE1		土師器	皿	底部	[1.3]		7	h2	u/u.l	P3		5YR7/8	5YR7/8	5YR7/8		
10	30	CSE1		土師器	杯	底部	[1.3]		5.6	l1	su/u.l	P2		5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6		
11	30	CSE1		土師器	杯	底部	[1.4]		7	h3	u/u	P2		5YR7/4	5YR7/4	5YR7/4		
12	30	CSE1		土師器	杯	底部	[1.4]		5.8	h2	u/u.k	P2		5YR7/6	5YR7/6	5YR7/6		
13	30	CSE1		土師器	杯	底部	[0.9]		5.7	l2	u/	P1		5YR7/4	5YR7/4	5YR7/4		
14	30	CSE1		瓦器	椀	底部	[0.6]		4.9	l	u/	B2	K	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1		
15	30	CSE1		瓦器	椀	底部	[0.7]		4.6	l	u/	B2	K	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1		
16	30	CSE1		青磁	皿	口縁部	12	[0.8]						5Y6/1	5Y6/1	龍泉窯		
17	30	CSE1		陶器	槽鉢	口縁部	[3.9]							5Y3/1	5Y3/1	備前VI期 (15・16C)		
18	30	CSE1		陶器	槽鉢	底部	[3.0]							5Y5/2	5Y5/2	備前		
19	30	CSE1		土師器	皿	底部	7.3	1.4	5	V.c.h2	u/u.l	O		5Y7/4	5Y7/4	5Y7/4		
20	30	CSE1		土師器	皿	口縁部	7	1.6	5.2	V.c.l2	su/u.l	O		5Y7/4	5Y7/4	5Y7/4		
21	30	CSE1		土師器	皿	底部	6.6	1.3	3.8	W.c.h2	u/u	P1		5Y7/4	5Y7/4	5Y7/4		
22	30	CSE1		土師器	皿	口縁部	7.5	[1.2]		X.c	u/uu	O		5Y7/3	5Y7/3	5Y7/3		
23	30	CSE1		土師器	皿	底部	7.2	1.3	4.6	W.c.h3	u/uu	P1		5Y7/4	5Y7/4	5Y7/4		
24	30	CSE1		土師器	皿	底部	7.2	1.3	5.2	V.c	u/u.l	P1		5Y6/2	5Y6/2	5Y6/2		
25	30	CSE1		土師器	皿	底部	7	1.7	4.8	V.c.h2	su/uu.l.k	P2		5Y7/4	5Y7/4	5Y7/4		

表22 C区遺物観察表 2

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・ゾナード	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		備考			
														断面	外面				
26 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.1	1.4	4.8	V.c	u/t	O			器壁を薄く仕上げ る	内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
27 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.1	1.3	5.6	V.c,h3	su/u,l	O			器壁を薄く仕上げ る	内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
28 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.4	1.3	5	V.c	u/u,l	P1				内面	外面	断面	浅黄橙7.5YR8/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
29 30	C SKI	土師器	Ⅲ	口縁部	6.8	[1.0]		W.c	u/u	P1				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	灰白10YR8/2
30 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.3	5.6	V.c,h2	su/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2
31 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.4	1.4	5.2	X.c,h2	su/u,l	O				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
32 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.4	5.2	W.c,h3	su/u,l	O				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
33 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.3	2.1	5.8	V.c	su/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3
34 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.3	1.5	5.6	V.c,h3	su/u,l	O				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
35 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.4	1.1	5.7	X.c,h3	su/u,l,k	O				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/4
36 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.4	2	4.5	V.c,h3	su/u,l	P1				内面	外面	断面	浅黄2.5Y7/3	にぶい橙7.5YR7/3	浅黄2.5Y7/3
37 30	C SKI	土師器	Ⅲ		6.9	1.4	5	X.c,h2	su/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙7.5YR8/4
38 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.3	1.9	4.2	W.c,l2	u/u,l,k	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4
39 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.6	1.6	4.8	W.c	su/u,l,k	P1				内面	外面	断面	浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/3
40 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.3	4.5	V.c,l	su/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3
41 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.4	5.2	V.c,h2	u/u,l,k	P1				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
42 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.6	1.6	4.8	V.c,l2	su/u,l,k	O			器壁を薄く仕上げ る	内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/3
43 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.2	6	X.c,h3	su/u,l	O			器壁を薄く仕上げ る	内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/3
44 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.3	1.6	5.4	X.c,h2	su/u,l	P1				内面	外面	断面	浅黄橙7.5YR8/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
45 30	C SKI	土師器	Ⅲ		7.3	1.6	5.3	X.c,l	su/u,l	O				内面	外面	断面	浅黄橙7.5YR8/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
46 31	C SKI	土師器	Ⅲ		7.2	1.5	4.7	X.c,l	su/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
47 31	C SKI	土師器	Ⅲ		8.2	1.4	6.4	V.c,h2	u/u	P1				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
48 31	C SKI	土師器	Ⅲ		8.6	1.3	5.9	V.c,h2	su/u,l	P2				内面	外面	断面	橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
49 31	C SKI	土師器	Ⅲ		7.8	1.4	6	V.c,h2	u/u,l	P1				内面	外面	断面	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/2
50 31	C SKI	土師器	Ⅲ		8.7	1.4	5.4	V.c,h3	u/tu,l	P1				内面	外面	断面	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4

表23 C区遺物観察表 3

遺物 図版 No.	No.	図版	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	踵径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
51	31	CSKI			土師器	皿		8	1.4	6	X.c.h1	su/uu,l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
52	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	12	[3.1]		W.c	u/tu	P1				にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR5/3	
53	31	CSKI			土師器	杯		12.8	3.9	5.6	W.c2,h3	u/l	P1				にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/2	
54	31	CSKI			土師器	杯		11.5	3.8	4.4	V.c.i2	su/tu	O				にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/2	
55	31	CSKI			土師器	杯		12.5	3.9	5.7	V.c.i2	su/tu,l	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
56	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	13	[3.5]		W.c	u/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	
57	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	11.5	[3.4]	6.5	W.c	u/tu	O				にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
58	31	CSKI			土師器	杯		11.7	3.6	5.8	W.c.i2	su/uu,l	O				浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	橙7.5YR6/6	
59	31	CSKI			土師器	杯		13.4	3.8	5	V.c.i2	su/tu,l	O				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	褐灰10YR6/1	
60	31	CSKI			土師器	杯		12.1	3.6	5.7	V.c.h2	su/tu,l	O				浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/4	
61	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	13.4	[3.3]	7.6	W.c	su/tu	O				黄灰2.5Y4/1	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	
62	31	CSKI			土師器	杯		13.4	3	7.5	X.c.h2	u/tu,l	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	
63	31	CSKI			土師器	杯		12.4	3.1	4.7	V.c.i2	s/uu,l	O				褐灰10YR4/1	褐灰10YR5/1	褐灰10YR5/1	灰黄褐10YR6/2	
64	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	11.2	[2.8]		V.c	s/tu	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
65	31	CSKI			土師器	杯		11.3	3	5.5	X.c	su/tu	P1				浅黄橙7.5YR8/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
66	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	13.9	[3.2]		V.c	u/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/3	
67	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	13.1	[3.2]		X.c	u/tu	P1				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	
68	31	CSKI			土師器	椀	口縁部	11.6	[3.1]		W.c	u/t	O				灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR7/3	
69	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	10.8	[2.2]		V.c	su/u	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	
70	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	12	[2.6]		V.c	su/u	O				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
71	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	12.3	[2.9]		V.c	s/t	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
72	31	CSKI			土師器	皿	口縁部	10.8	[2.6]		X.c	su/tu	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
73	31	CSKI			土師器	杯		12.9	[2.7]		V.c	su/t	O				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	灰白10YR8/2	
74	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	10.9	[2.4]		W.c	su/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
75	31	CSKI			土師器	杯	口縁部	12.5	[1.9]		X.c	u/u	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	

表24 C区遺物観察表 4

遺物 図版 No.	図版 No.	No.	遺構・ゾナード No.	出土地点 No.	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	胴径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		備考
																			内面	外面	
76	31	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.6]	7	h2	su/g,l	P3						樽5YR7/6	樽5YR7/6	樽5YR7/6
77	31	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.6]	7.4	h1	u/tu,l	O						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
78	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[0.6]	4.6	il	su/l	B1						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
79	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[0.8]	4.5	il	s/l	P1						灰黄褐10YR6/2	にぶい樽5YR7/4	にぶい樽5YR6/4
80	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[0.6]	5.3	h1	s/l	P1						にぶい樽7.5YR6/4	にぶい樽7.5YR6/4	にぶい樽7.5YR7/3
81	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.2]	5.1	i2	su/u,l	O						樽7.5YR7/6	にぶい樽5YR6/4	にぶい樽5YR6/4
82	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[0.9]	5.1	h1	su/l	P1						にぶい黄橙10YR7/3	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR7/3
83	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.0]	6.7	il	su/l	P2						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい樽7.5YR6/4
84	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.2]	5.4	h3	su/u,l	P1						にぶい樽7.5YR7/4	にぶい樽7.5YR7/4	にぶい樽7.5YR7/4
85	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.2]	5.6	h1	su/u,l	P1						にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR6/4	灰黄褐10YR6/2
86	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.3]	4.8	i2	su/tu,l	P2						黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y5/1	にぶい黄橙10YR6/3
87	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.2]	7.6	il	u/u,l	P2						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3
88	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.8]	5.8	i2	su/tu,l	P1						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
89	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[1.7]	5.6	h2	u/tu,l,k	P1						浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3
90	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[2.4]	5.6	i2	su/l	P1						浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
91	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[2.0]	7.4	h3	u/u,l	P1						にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
92	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[2.6]	6.1	h1	su/u,l,k	P1						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい樽7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR7/3
93	32	C	SK1			土師器	杯	底部	[2.2]	8	h2	su/u,l	P1						陶灰10YR6/1	陶灰10YR5/1	陶灰10YR6/1
94	32	C	SK1			瓦器	皿		7.6	1.1	5.7	E,c,C	u/u,g	B1	K	N			灰白5Y6/1	—	—
95	32	C	SK1			瓦器	皿		8	1	6.2	G,c	u/g	B2	L	N			樽2.5YR7/6	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
96	32	C	SK1			瓦器	皿		8	1	6.4	E,c,C	u/u,g	B1	K	M			暗灰N3/	暗灰N3/	灰白5Y8/1
97	32	C	SK1			瓦器	皿	口縁部	8.4	[1.3]	6.4	E,c,C	u/u,g	O	K	M			灰N4/	灰N4/	灰白7.5Y8/1
98	32	C	SK1			瓦器	椀		12	2.7	3.7	G,c,l	u,m/g	B1	K	M			灰N4/	灰N4/	灰白5Y8/1
99	32	C	SK1			瓦器	椀	口縁部	12.2	[2.6]	G,c	u,m/u,g	A	K	N				灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰白7.5Y7/1
100	32	C	SK1			瓦器	椀	口縁部	11.7	[2.2]	G,c,C	m/u,g	B1	K	M				灰5Y4/1	灰5Y4/1	灰5Y6/1

表25 C区遺物観察表 5

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップド	層位	器種	器形	部位	口径 (cm)	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	特徴		断面	備考		
													胎土	焼成				
101 32	C SK1	III	瓦器	椀	口縁部	11.7	2.7		3.6	G,c	u/g		B2	K	N	灰N5/	灰5Y5/1	灰5Y6/1
102 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	12.4	2.8		X,c	u,m/u,g		B1	K	M2	灰黄2.5Y7/2	灰N5/	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
103 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	11.2	3.1		G,c	u,m/u,g		A	K	M	M,暗文風のミガキ	灰N4/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1
104 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	13.1	[2.9]		G,c	m,u/g		B1	K	M	灰5Y6/1	灰N5/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1
105 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	13.8	[2.4]		G,c	u,m/g		B1	K	K	灰白7.5Y6/1	灰7.5Y5/1	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1
106 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	12	[2.4]		G,c:C	u,m/u,g		P1	K	M1	灰N4/	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
107 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	12.4	[2.5]		G,c	u,m/g		O	K	N	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1
108 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	14.4	[2.0]		G,c	u/u,g		B2	K	M	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	灰7.5Y7/1	灰7.5Y7/1
109 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	12.3	3.1		5.8	G,c	u,m/u,g		A	K	M	N,暗文風のミガキ	灰10Y5/1	灰10Y5/1
110 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	16.8	[2.3]		X,c	u,m/g		P2	K	M	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1
111 32	C SK1		瓦器	椀	口縁部	16.8	[2.1]		G,c	u/u		B2	K	M2	灰白5Y8/1	灰白5Y4/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1
112 32	C SK1		須恵器 鉢			24.8	[2.2]								灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	東播系
口縁は上下に肥厚し、断面三角形を呈する。(内) ナズ(外) ナズ																		
113 32	C SK3		土師器 杯	底部		6.2	hl	su/lk					P3			橙7.5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
114 32	C SK2		土師器 杯	底部		9.6	h2	u/u					P2			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR7/4
115 32	C SK7		土師器 杯	口縁部		15.5	[2.7]		V,c	su/u			P3			浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4
116 32	C SK7		土師器 杯	口縁部		10.9	[1.9]		W,c	u/u			P3			浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4
117 32	C SK8		土師器 杯	口縁部		15.2	[2.7]		W,c	u/u			P3			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
118 32	C SK8		土師器 杯	口縁部		16.2	[1.2]		hl	u/u,l,g			P1			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
119 32	C SK8		瓦器 椀	口縁部		13.7	[3.5]		G,c:C	u/u,g			B2	K	M	灰白5Y7/1	灰N4/	灰5Y8/1
120 32	C SK8		瓦器 椀	口縁部		13	[2.2]		E,c	u/g			B3	K	M (吸着不良)	灰5Y5/1	灰5Y5/1	灰白7.5Y8/1
121 33	C SK8		瓦器 椀	口縁部		11.6	[2.2]		G,c	u/g			B2	K	N	灰5Y6/1	灰5Y6/1	灰5Y6/1
122 33	C SK10		土師器 皿	口縁部		7.2	[1.4]		W,c	u/u			P2			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR6/6
123 33	C SK10		土師器 椀	底部			[1.1]		3	l	u/		P2			にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4
124 33	C SK11		土師器 皿	底部			[0.5]		5.2	h3	s/l		O			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3
125 33	C SK11		土師器 杯	底部			[1.0]		6	hl	s/		P1			にぶい橙7.5YR7/4	明陶灰7.5YR7/2	にぶい橙7.5YR7/4

表26 C区遺物観察表 6

遺物 図版 No.	図版 No.	遺構・ゾナード	出土地点	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	色調	外面	断面	備考
126	33	C SK11		土師器	杯	底部	[1.1]	5.4	h1	s/l	P1							糖7.5YR6/6	にぶい黄橙10YR7/3		にぶい黄橙10YR7/3	
127	33	C SK13		青磁	椀	底部	[1.9]	6.2				高台は断面方形で、内側を浅く削り出す。青磁軸 (内) 印花紋 (外) 高台内は露胎し、裏付けを軸測する。						灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y8/1		灰白7.5Y8/1	龍泉窯碗I類 (13C)
128	33	C SK18		土師器	杯	底部	[1.7]	8	h2	u/u	P3							糖7.5YR7/6	糖7.5YR7/6		糖7.5YR7/6	
129	33	C SK19		土師器	杯	底部	[0.5]	5.1	il	u/k	P3							糖5YR7/6	糖5YR7/6		糖5YR7/6	
130	33	C P.1		土師器	杯	口縁部	[2.2]	10.1	V.c	u/u	P1							浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		浅黄橙7.5YR8/4	
131	33	C P.1		土師器	杯		3.8	7.8	V.c,j	u/u,k	P2							浅黄橙10YR8/3	浅黄橙7.5YR8/4		浅黄橙10YR8/3	
132	33	C P.1		土師器	杯		3.6	9.2	V.c,j	su/uu,l	P1							浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/3	
133	33	C P.1		土師器	杯		3.4	7.7	V.c,j	u/uu	P1							浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/4	
134	33	C P.1		土師器	杯		3.6	6.8	V.c,j	u/u,k	P1							にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
135	33	C P.1		土師器	杯	口縁部	[3.1]	14.6	V.c	u/u	P2							浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3		浅黄橙10YR8/3	
136	33	C P.1		土師器	杯	底部	[1.2]	5.5	h1	u/u	P2							糖7.5YR7/6	糖7.5YR7/6		浅黄橙7.5YR8/6	
137	33	C P.1		青磁	椀	口縁部	[3.6]	14.2				口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 細貫入						灰白10Y7/2	灰白10Y7/2		灰白H8/	
138	33	C P.3		土師器	杯		2.6	7.2	W.c,h2	u/u	P2							糖7.5YR7/6	黄橙10YR8/6		糖7.5YR7/6	
139	33	C P.3		瓦器	椀	口縁部	[2.6]	12.6	G.c	u/g	A	K	N					灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1		灰7.5Y6/1	
140	33	C P.4		瓦器	椀	口縁部	[3.7]	13.9	G.c	u/g	B1	K	M1					暗灰N3/	灰白10YR8/2		灰白10YR8/2	
141	33	C P.4		土師器	皿		1.2	7.9	V.c,h2	u/u	O							にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
142	33	C P.4		土師器	皿		1.1	8.4	V.c,h2	u/u,l	P1							浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/4		浅黄橙10YR8/4	
143	33	C P.4		土師器	皿	底部	[1.2]	4.1	h3	u/u	P2							浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		浅黄橙7.5YR8/4	
144	33	C P.4		土師器	杯	底部	[1.0]	8	h2	u/u,l	P1							糖5YR7/6	糖5YR7/6		糖5YR7/6	
145	33	C P.4		土師器	杯	底部	[1.3]	8	il	u/l	O							にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
146	33	C P.4		土師器	杯	底部	[0.9]	6.3	h3	u/	O							にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		にぶい黄橙10YR7/3	
147	33	C P.5		土師器	皿	口縁部	[1.7]	7.2	V.c,h3	u/u	P2							にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
148	33	C P.5		土師器	杯	底部	[2.1]	6.4	i2	u/u,l	P1							にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		浅黄橙7.5YR8/4	
149	33	C P.5		瓦器	椀	口縁部	[2.7]	12.6	G.c	u,m/u,g	B1	K	M2					灰5Y5/1	灰N4/		淡黄2.5Y8/3	
150	33	C P.6		土師器	皿		1.3	7.2	V.c,h2	u/u	P2							糖7.5YR6/6	糖7.5YR6/6		糖7.5YR6/6	

表27 C区遺物観察表 7

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリッド	層位	器種	器形	部位	口径 (cm)	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
151 33	CP6		土師器	皿	口徑	7.4	1.3		5.6	V.c,h2	u/u	P2				にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	
152 33	CP6		土師器	皿	口徑	7.8	1.3		7.8	W.c,h3	u/tu,l	P1		内面に橙が付着する		釉灰10YR5/1	灰黄釉10YR6/2	灰黄釉10YR6/2	灰黄釉10YR6/2	
153 33	CP6		土師器	杯	口縁部	12.2	[2.8]			W.c	u/t	P1				灰褐7.5YR5/2	灰褐7.5YR5/2	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	
154 33	CP6		土師器	杯	口縁部	12.5	[2.3]			W.c	u/tu	P2				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
155 33	CP6		土師器	杯	底部		[1.2]		8	il	u/u,l,k	P1				浅黄橙10YR8/3	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
156 33	CP6		土師器	杯	底部		[2.7]		6.4	hl	u/u,l,k	O				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
157 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	14.6	[3.3]			G,c,C	u,m/u,g	B2	L	M		灰N6/	灰N6/	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
158 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	13.6	[2.5]			G,c	u/u,g	B1	K	N		釉灰10YR5/1	釉灰10YR5/1	にぶい橙5YR7/3	にぶい橙5YR7/3	
159 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	13.8	[2.8]			G,c	u/u,g	B1	K	M2		灰白2.5GY7/1	灰N5/	灰白2.5GY7/1	灰白2.5GY7/1	
160 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	15.3	[2.3]			E,c	m/u,g	A	L	M2.器壁を薄く仕上げる。精緻		釉灰7.5YR4/1	釉灰7.5YR4/1	灰褐7.5YR6/2	灰褐7.5YR6/2	
161 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	14.8	[2.6]			G,c	u,m/g	B2	K	M		暗灰N3/	暗灰N3/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
162 33	CP6		瓦器	椀	口縁部	14.2	[2.3]			G,c	u/u,g	B1	L	N		浅黄2.5Y7/3	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
163 33	CP6		瓦器	椀	底部		[0.6]		3.4	l	u/g	B1	K	M		灰5Y6/1	灰N4/	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
164 34	CP7		土師器	杯	底部		[1.4]		7.2	i2	u/t,l	P3				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
165 34	CP8		土師器	皿	口徑	8.8	1.5		7.2	V.c,h2	u/tu,l	O				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
166 34	CP8		土師器	杯	底部		[2.2]		10.9	h2	su/u,l,k	P2				黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	
167 34	CP9		土師器	杯	口縁部	14.8	[2.5]			V,c	su/u	P1				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	
168 34	CP9		土師器	杯	底部		[3.8]		7.1	il	su/tu	P2				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
169 34	CP9		土師器	杯	底部		[2.7]		8.4	hl	su/u	P1				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
170 34	CP9		陶器	甕	胴部		[10.4]									釉灰5YR4/1	灰オリーブ7.5Y5/2	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	備前?
171 34	CP9		陶器	甕	口縁部	50.6	[11.5]									暗灰7.5YR3/3	暗灰7.5YR3/3	釉灰10YR6/1	釉灰10YR6/1	備前～山形 (14C)
172 34	CP10		瓦器	皿	口徑	9.5	1.1		8.2	E,c,C	u/u	B1	K	M		灰白2.5Y8/2	灰白5Y7/1	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
173 34	CP10		瓦器	椀	口縁部	13.6	[1.6]			E,c	u/u	P1	L	M1		灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
174 34	CP10		瓦器	椀	口縁部	13.6	[2.7]			E,c	u/u,g	B1	L	M2		灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
175 34	CP11		土師器	皿	口徑	7.1	1.5		5.4	V,c,h3	su/u,l	P1				浅黄橙7.5YR8/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	

表28 C区遺物観察表 8

遺物 No.	図版 No.	図版 No.	遺構・ゾリッド No.	出土地点 No.	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	色調		備考
																		内面	外面	
176	34	C.P.12				土師器	杯	底部	[2.1]	9	hl	su/uu,l	O					糖5YR6/6	糖5YR6/6	
177	34	C.P.12				瓦器	皿		7.4	1.2	F.c.C	u/u	B2	K	M			灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
178	34	C.P.13				瓦器	椀	口縁部	[2.7]	14.7	G,c	u/ug	B1	L	M			灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	
179	34	C.P.14				土師器	皿		7	1.2	X.c,h2	u/uu,l,k	P1					にぶい糖7.5YR7/4	にぶい糖7.5YR7/4	
180	34	C.P.14				土師器	皿	底部	[1.0]	5.4	h2	u/k	P2					糖5YR7/6	糖5YR7/6	
181	34	C.P.14				土師器	杯	底部	[1.8]	8	hl	u/uu,l	O					糖5YR6/6	糖5YR6/6	
182	34	C.P.14				瓦器	椀	口縁部	[3.0]	14.4	G,c	u/ug	A	K	M2			灰白5Y5/1	灰白5Y8/1	
183	34	C.P.15				土師器	皿		6.8	1.6	V.c,h2	u/u	P2					糖5YR7/6	糖5YR7/6	
184	34	C.P.15				土師器	皿		8	1.5	X.c,h2	u/uu,l	O					にぶい糖7.5YR7/4	にぶい糖7.5YR7/4	
185	34	C.P.15				土師器	皿		6.6	1.4	W.c,h2	u/u	P2					明黄褐10YR7/4	糖7.5YR7/6	
186	34	C.P.15				土師器	皿		7.2	1.4	V.c,h1	u/uu,l	P1					糖5YR6/6	糖5YR6/6	
187	34	C.P.15				土師器	皿		7.2	1.3	X.c,h3	su/uu,l	O					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
188	34	C.P.15				土師器	皿		7.3	1.6	V.c,h2	u/uu,l	P2					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
189	34	C.P.15				土師器	皿	底部	[0.7]	4.9	h3	u/l	O					浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3	
190	34	C.P.15				土師器	皿		8.6	1.2	V.c,h1	u/u	P2					糖5YR7/6	糖5YR7/6	
191	34	C.P.15				土師器	皿		8.3	1.5	V.c,h2	u/uu,l	P2					浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
192	34	C.P.15				瓦器	皿		8.3	1.8	E,c	u/ug	B1	K	M			灰N6/	灰N6/	
193	34	C.P.15				土師器	杯	口縁部	[2.9]	14.3	V,c	u/tu	P1					にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/4	
194	34	C.P.15				土師器	杯	底部	[2.1]	7.5	hl	su/tu	P2					にぶい黄橙10YR7/3	黄灰2.5Y6/1	
195	35	C.P.16				土師器	皿		6.4	1	V.c,h1	u/uu,l	P2					浅黄橙7.5YR8/6	にぶい糖7.5YR7/4	
196	35	C.P.16				瓦器	椀	口縁部	[2.8]	13.1	G,c	u/ug	B2	L	M			灰5Y5/1	灰5Y8/1	
197	35	C.P.19				瓦器	椀	口縁部	[3.3]	17.8	G,c,C	u/ug	B1	K	M			灰5Y5/1	灰5Y8/1	
198	35	C.P.20				土師器	杯	口縁部	[2.0]	12	V,c	u/u	P2					糖5YR7/6	浅黄橙10YR8/4	
199	35	C.P.20				瓦器	椀	口縁部	[1.6]	10.4	G,c	u/u	B2	L	M			灰N5/	灰5Y8/1	
200	35	C.P.20				瓦器	椀	底部	[1.5]	4.7	l	m/g	B2	L				明黄褐10YR7/6	浅黄橙10YR8/3	

表29 C区遺物観察表 9

遺物 図版 No.	出土地点 fig. 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	踵径	底径	形態	調整等	特徴		断面	備考	
												胎土	焼成			他
201	35	C.P.23	瓦器	椀	口縁部	11.3	[2.0]	G,c	u/u	A	K	N	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y8/1		
202	35	C.P.24	土師器	皿		7.4	1.5	6	V,c,j	su/u,l	P1	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
203	35	C.P.25	土師器	杯	口縁部	13.2	[2.4]	X,c	u/u,g	B2	L	N	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄2.5Y6/3	
204	35	C.P.25	瓦器	椀	口縁部	12.5	[2.0]	X,c	u/u,g	B1	K	M2	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y6/1	灰白7.5Y8/1	
205	35	C.P.25	瓦器	椀	底部		[0.6]	I	u	A	K	M	暗灰N3/	暗灰N3/	灰黄2.5Y7/2	
206	35	C.P.26	土師器	皿		3.9	1.3	4.1	W,c,h2	u/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
207	35	C.P.26	瓦器	椀	口縁部	13.9	[1.4]	G,c	u/u	B1	K	M	灰N4/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
208	35	C.P.26	瓦器	椀	底部		[0.7]	I	u/g	A	L	M	灰5Y6/1	灰5Y5/1	浅黄2.5Y7/3	
209	35	C.P.28	土師器	皿		6.4	1.1	5.2	X,c,h3	su/u,l	O		橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	
210	35	C.P.28	土師器	杯	口縁部	14.8	[2.2]	W,c	u/u	P2			橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
211	35	C.P.28	土師器	杯	底部		[1.7]	7	h3	u/u,l	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
212	35	C.P.29	瓦器	皿	口縁部	8.7	[1.4]	F,c,C	u/u,g	B1	K	N	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
213	35	C.P.29	瓦器	椀	底部		[1.7]	4.6	I	u/g	B1	K	M	灰N4/	灰白7.5Y6/1	灰白7.5Y8/1
214	35	C.P.30	土師器	杯	口縁部	13.4	[1.5]	W,c,l	u/u	O			にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
215	35	C.P.30	土師器	杯	底部		[1.5]	7.8	h2	su/u	P2		浅黄橙7.5YR8/4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
216	35	C.P.30	土師器	杯	底部		[2.7]	9.2	h2	su/u	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
217	35	C.P.30	瓦器	椀	口縁部	15	[3.2]	E,c	u/u,g	B1	L		灰N4/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
218	35	C.P.31	土師器	杯		11.4	[3.0]	5.1	W,c,h2	su/u,l,k	P2		橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	
219	35	C.P.33	土師器	杯	口縁部	13.9	[1.4]	W,c	u/u	P2			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
220	35	C.P.33	瓦器	椀	口縁部	12	[1.7]	F,c,C	u/u,g	B1	K	M	灰N4/	灰N4/	灰白7.5Y8/1	
221	35	C.P.33	瓦器	椀	口縁部	15.9	[4.0]	E,c	u/u,g	B1	K	N	灰白7.5Y6/1	灰白7.5Y6/1	灰白7.5Y6/1	
222	35	C.P.33	土師器	皿		6.2	1.9	4.4	W,c,h3	u/u	P3		橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
223	35	C.P.33	土師器	皿	口縁部	7.7	[1.4]	W,c	u/u	P1			にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
224	35	C.P.33	土師器	皿		7.2	1.3	4.9	V,c,h2	su/u	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
225	35	C.P.33	土師器	杯	底部		[0.9]	5.6	h2	u/u,l	P1		にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	

表30 C区遺物観察表 10

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	色調		備考
														内面	外面	
226 35	C.P.33	陶器	鉢	口縁部	31.8	[4.0]			口縁は緩く外反し、外脚に肥厚する。(内・外) ナデ					灰N6/	灰白7.5Y7/1	東播系Ⅱ期 (12C末~13C初)
227 35	C.P.34	土師器	杯	口縁部	14	[1.3]	W,c	u/u	P2					浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
228 35	C.P.35	土師器	杯	口縁部	14.9	[2.0]	V,c	su/tu	P3					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
229 35	C.P.35	土師器	杯	底部		[0.7]	9.6	i2	u/	P2				橙5YR6/6	橙5YR6/6	
230 35	C.P.35	土師器	杯	底部		[3.2]	5.8	h1	u/tu	P2				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/4
231 35	C.P.36	土師器	杯	底部	14	4	8	V,c,h2	s/tu,k	P2				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
232 35	C.P.36	土師器	杯	底部		[1.7]	6.6	h2	u/u	P2				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
233 35	C.P.38	瓦器	皿	口縁部	8.3	[1.1]	G,c,C	u/u,g	B2	K	M			灰N5/	灰白5Y8/1	
234 35	C.P.38	土師器	皿	底部	8	1.6	5.6	V,c,h2	u/tu,l	P2				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
235 35	C.P.38	瓦器	皿	底部	8	0.9	6	E,c	u/u,g	B1	L	N		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	灰白10YR8/2
236 36	C.P.38	瓦器	椀	口縁部	14	[2.9]	E,c2	u,m/m,g	B1	K	N			灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR7/2	灰黄2.5Y7/2
237 36	C.P.38	瓦器	椀	口縁部	15.4	[3.5]	G,c	u,m/u,g	B2	K	N			灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
238 36	C.P.38	瓦器	椀	口縁部	14.8	[2.8]	E,c	u,m/u,g	B1	L	N			にぶい黄橙10YR6/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
239 36	C.P.40	土師器	杯	底部		[0.9]	h2	su/lk	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
240 36	C.P.43	土師器	杯	底部		[1.5]	6.6	h1	u/u,l	P2				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
241 36	C.P.43	瓦器	椀	口縁部	13.9	[2.2]	G,c	u/u,g	B1	L	M			灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
242 36	C.P.44	瓦器	椀	底部		[0.5]	5.6	I	u/g	B2	L	N		浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	
243 36	C.P.44	土師器	杯	口縁部	14.6	[1.9]	W,c	u/u	P2					にぶい橙7.5YR6/2	にぶい橙7.5YR7/3	
244 36	C.P.44	土師器	杯	口縁部	12.8	[3.4]	V,d	su/tu	P1					にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	
245 36	C.P.44	土師器	杯	口縁部	12.2	[3.3]	W,c	u/u	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
246 36	C.P.44	瓦器	椀	口縁部	14.9	[3.3]	E,c,l	u,m/u,g	O	L	MI			黒5Y2/1	にぶい橙5YR6/3	にぶい橙5YR6/3
247 36	C.P.44	瓦器	椀	口縁部	16.8	[2.4]	G,c	u/u,g	A	L	N			浅黄2.5Y7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
248 36	C.P.45	土師器	杯	口縁部	11.2	[2.4]	W,c	u/u	P3			器壁を薄く仕上げ る		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
249 36	C.P.45	土師器	杯	底部		[0.8]	4.2	h2	su	P2				にぶい黄橙10YR7/4	橙7.5YR7/6	
250 36	C.P.46	土師器	皿	底部	7.1	0.9	5.2	V,c,h3	su/u	O				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	

表31 C区遺物観察表 11

遺物 図版 No.	fig.	出土地点 遺構・グリップド	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	調整等	特徴		断面	備考
										胎土	焼成		
251	36	C.P.46		瓦器	皿		7.6	2.1	G,c,C u/u,g	B1 K M	焼成	灰白7.5Y8/1	
252	36	C.P.46		瓦器	椀	口縁部	15.4	[3.3]	G,c	u,m/u,g B1 L N		灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
253	36	C.P.46		青磁	椀	口縁部	16.2	[3.4]	口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。青磁釉 (内) 刺花紋	明オリープ灰5GY7/1	明オリープ灰5GY7/1	灰白7.5Y8/1	龍泉窯陶工類 (12C後半)
254	36	C.P.47		土師器	皿		7.8	1.2	W,c,h1 u/	P2		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
255	36	C.P.47		瓦器	皿	口縁部	8.5	[1.7]	G,c,C u/u,g	B1 K M		暗灰N3/	灰白7.5Y8/1
256	36	C.P.47		瓦器	椀	口縁部	14.4	[1.7]	E,c	u,m/u,g A K M		灰N5/	灰白7.5Y8/1
257	36	C.P.51		土師器	皿	口縁部	10.9	[1.2]	V,c	u/u P1		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
258	36	C.P.51		土師器	皿	底部		[1.6]	h2	u/u,1 P2		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4
259	36	C.P.52		陶器	甕	底部		[8.2]	肩部は内湾気味に立ち上がる。(内) ナデ (外) タタキのちナデ還元焼	灰白5Y7/1		灰白5Y7/2	灰白5Y7/1
260	36	C.P.53		瓦器	椀	口縁部		[1.3]	E,c	u/u B2 K M		灰5Y6/1	灰5Y7/1
261	36	C.P.54		瓦器	椀	口縁部	12.2	[1.4]	E,c	u/u B1 K M		灰N3/	灰白7.5Y8/1
262	36	C.P.56		土師器	皿		7.6	1.5	V,c	u/u,g P1		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
263	36	C.P.56		土師器	杯	口縁部	9.5	[1.4]	V,c	u/u P2		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
264	36	C.P.56		土師器	杯	底部		[1.0]	h2	u/u P2		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3
265	36	C.P.56		土師器	杯	口縁部	14.4	[1.7]	W,c	u/u O		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
266	36	C.P.56		瓦器	椀	口縁部	14.1	[1.5]	E,c	u/u B1 L N		褐灰10YR5/1	にぶい黄橙10YR7/4
267	36	C.P.58		瓦器	椀	口縁部	11.9	[2.9]	E,c	u,m/u,g B1 L N		浅黄橙10YR8/4	淡橙5YR8/4
268	36	C.P.58		瓦器	椀	口縁部	15.7	[2.1]	E,c	u/u,g B1 K N		灰白5Y8/1	灰5Y6/1
269	36	C.P.58		陶器	皿	口縁部	7.1	[1.4]	口縁は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。(内) ナデ (外) ナデ、薬胎または灰分付着する。酸化焼	にぶい黄2.5Y6/4		にぶい褐7.5YR5/3	にぶい黄5Y6/4
270	36	C.P.59		土師器	皿		5.8	1.2	V,c	u/u P1		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
271	36	C.P.59		土師器	皿		6.6	1.3	X,c,h3 u/	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
272	36	C.P.59		須恵器	瓶	口縁部	9.9	[2.6]	口縁は外反する。口唇は外側に肥厚し、外傾する面を成す。(内・外) ナデ	やや軟質 還元焼	灰白N7/	灰白N7/	
273	36	C.P.60		土師器	杯	口縁部	14.6	[2.0]	W,c	u/tu P1		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4
274	36	C.P.60		土師器	杯	口縁部	15	[1.8]	W,c	u/u P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
275	36	C.P.60		土師器	杯	底部		[1.0]	h1	u/tu P1		灰5Y6/1	灰黄2.5Y6/2

表32 C区遺物観察表 12

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリップ 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	断面	備考
276 37	C.P.62	瓦器	椀	口縁部	14.8	[1.7]	E.c	u/tu	A	K	M		灰白2.5Y7/1	黄灰2.5Y5/1	灰白2.5Y7/1	
277 37	C.P.62	瓦器	椀	口縁部	13.6	[2.8]	E.c	u/ug	B1	K	M		オリーブ黒7.5Y3/1	オリーブ黒7.5Y3/1	灰白7.5Y8/2	
278 37	C.P.65	土師器	杯	底部		[1.2]	hl	u/u	P2				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
279 37	C.P.66	土師器	杯	口縁部	14.8	[1.7]	W.c	u/u	P2				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
280 37	C.P.67	土師器	杯	底部		[1.1]	5.6 hl	u/l	P2				橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
281 37	C.P.69	土師器	杯	口縁部	15.3	[3.1]	V.c	u/tu	P3				にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/4	黄橙10YR8/6	
282 37	C.P.69	土師器	杯	底部		[1.4]	8.4 h3	u/u	P2				橙7.5YR7/6	にぶい黄橙10YR6/4	橙7.5YR7/6	
283 37	C.P.69	土師器	杯	底部		[1.9]	7.6 il	u/l	P3				浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	
284 37	C.P.69	瓦器	椀	口縁部	12.7	[2.7]	G.c	u,m/mg	B2	K	N		灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y7/2	
285 37	C.P.70	瓦器	椀	口縁部	14.6	[1.8]	E.c	u/u	B2	L	N		にぶい黄2.5Y6/4	にぶい黄2.5Y6/4	にぶい黄2.5Y6/4	
286 37	C.P.70	須恵器	鉢	底部		[1.7]	6.8						灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	体部は内湾気味に立ち上がる。(内・外) ナデ 中性から還元焼
287 37	C.P.71	土師器	杯	口縁部	13.8	[2.2]	V.c	u/u	P1				にぶい黄橙10YR5/3	にぶい黄橙7.5YR6/4	にぶい黄橙10YR5/3	
288 37	C.P.72	土師器	杯	口縁部	12.1	[2.9]	X.c	u/u	P3				浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	
289 37	C.P.72	瓦器	椀	口縁部	13.5	[2.3]	G.c	u/g	B1	K	M		灰N5/	灰N5/	灰白7.5Y8/1	
290 37	C.P.73	土師器	杯	口縁部	12.1	[2.9]	V.c	u/tu	P3				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
291 37	C.P.73	瓦器	椀	口縁部	13.8	[2.2]	E.c,C	u,m/u	A	K	M		灰N4/	灰N4/	灰白7.5Y8/1	
292 37	C.P.75	瓦器	椀	口縁部	12.3	[2.9]	G.c	u/ug	P2	K	M		灰N5/	灰N5/	灰白7.5Y8/1	
293 37	C.P.75	瓦器	椀	口縁部	13.6	[2.7]	E.c	u/ug	A	L	N		灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	
294 37	C.P.75	土師器	皿	底部		[0.6]	5.4 hl	su/l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
295 37	C.P.75	土師器	皿	底部		[0.6]	4 hl	su/l,k	O				黄灰2.5Y4/1	黒5Y2/1	黄灰2.5Y4/1	
296 37	C.P.75	土師器	皿	底部		[0.7]	5 h2	su/u,l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
297 37	C.P.75	土師器	杯	底部		[0.8]	5.6 hl	u/l	O				にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	
298 37	C.P.75	土師器	杯	底部		[0.5]	5.2 h2	su/l	O				にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/3	
299 37	C.P.75	土師器	杯	底部		[0.7]	5.4 hl	su/l	P1				和灰7.5YR5/1	和灰7.5YR5/1	和灰7.5YR6/3	
300 37	C.P.75	土師器	杯	底部		[1.0]	7 l2	s/l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	

表33 C区遺物観察表 13

遺物 図版 No.	出土地点 No.	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	器径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
301	37	C.P.75	土師器	杯	底部	[1.9]	5.5	1.2	su/u,l,k	P1						浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3			
302	37	C.P.75	土師器	杯	底部	[1.4]	5.6	hl	u/u,l	P1						にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙5YR6/4			浅黄橙7.5YR8/3
303	37	C.P.75	土師器	杯	底部	[1.5]	5.6	il	u/uu,l,k	P1						灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙10YR7/3			にぶい黄橙10YR7/3
304	37	C.P.76	土師器	土師器	口縁部	全長 [3.1] 全厚1.3 [4.8]														
305	37	C.P.76	土師器	土師器	口縁部	全長 [4.8] 全厚1.4 [9.8]														
306	37	C.P.76	土師器	皿	底部	7.2	1.3		W,c,h3	u/u,l	P2									
307	37	C.P.76	土師器	杯	口縁部	11.2	[2.1]		X,c	u/u	P2									
308	37	C.P.76	土師器	杯	底部	[0.7]	5.8	hl	u/u,l	O										
309	37	C.P.76	瓦器	碗	口縁部	12.2	[2.3]		G,c	u,m/u,g	B1	K	M1							
310	37	C.P.76	瓦器	碗	口縁部	9.7	[1.5]		G,c	u,m/u,g	B1	K	M							
311	37	C.P.76	瓦器	碗	口縁部	13.1	[2.3]		G,c	u/u,g	A	K	M							
312	37	C.P.76	瓦器	碗	口縁部	9	[1.8]		G,c	u,m/u,g	B1	K	M							
313	37	C.P.77	瓦器	碗	口縁部	15.7	[2.6]		G,c,C	u/u,g	B1	K	N							
314	37	C.P.79	土師器	皿	底部	8.3	1.5		V,c,h2	u/uu,l,k	P1									
315	37	C.P.79	土師器	皿	底部	7.9	1.8		V,c,l	u/u,l	P2									
316	37	C.P.79	土師器	杯	口縁部	14.1	[2.2]		W,c,C	u/u	P1									
317	37	C.P.79	土師器	杯	底部	[1.2]	5.2	il	u/u,l	P1										
318	37	C.P.79	瓦器	碗	底部	[0.7]	3.7	I	u/g	B1	L	N								
319	37	C.P.80	土師器	杯	口縁部	10.5	[2.8]		V,c	u/u	P2									
320	37	C.P.80	土師器	杯	底部	[1.4]			il	u/u,l	P1									
321	37	C.P.80	瓦器	碗	口縁部	12.2	[3.2]		G,c	u,m/u,g	B1	L	N							
322	38	C.P.81	土師器	皿	底部	6.7	[1.7]		V,c	u/u	P3									
323	38	C.P.81	土師器	皿	底部	7.2	1.4		X,c,h3	u/uu,l,k	P2									
324	38	C.P.81	土師器	皿	底部	9.6	1.8		V,c,h3	u/u	P3									
325	38	C.P.81	土師器	杯	底部	13.6	4.4		W,c	su/uu,l	P1									

表34 C区遺物観察表 14

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・クワッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)		形態	調整等	特徴 胎土 焼成	他	色調		備考
						器高	底径					断面	内面	
326 38	CP81	土師器	杯	口縁部	14.6	3	7.3	V.c,i2	u/u,lk	P2		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR7/3
327 38	CP81	土師器	杯	口縁部	12.4	[1.0]		W.c	u/u	P2		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
328 38	CP81	土師器	杯	口縁部	12.2	[1.9]		W.c	u/u	P1		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3
329 38	CP81	土師器	杯	口縁部	13.6	[1.4]		V.c	u,m/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
330 38	CP81	土師器	杯	底部		[2.2]	8	h2	u/l	P1		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3
331 38	CP81	土師器	杯	底部		[1.4]	7	h1	u/l,l	O		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
332 38	CP81	土師器	杯	底部		[1.0]		h1	u/u	P3		浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6
333 38	CP81	須恵器	鉢	口縁部	26.8	[9.5]						灰白10Y7/1	灰白10Y7/1	東播系I期 (12C末~13C初) 凹面を成す。
334 38	CP82	土師器	皿	底部	6.8	1.7	5	X.c,h3	u/u,lk	P1		橙5YR6/6	橙5YR6/6	にぶい橙7.5YR7/4
335 38	CP82	土師器	皿	底部		[1.0]	4.8	h2	u/u	O		橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
336 38	CP82	土師器	杯	底部		[1.3]	6.5	h2	u/u,l	O		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3
337 38	CP84	土師器	杯	口縁部	10.9	[2.7]		W.c	u/u	P2		橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8
338 38	CP84	土師器	杯	底部		[1.8]	5.8	h2	u/u,lk	P2		橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6
339 38	CP86	土師器	皿	底部	7.3	1.4	5	V.c,i2	su/u,l	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
340 38	CP86	土師器	杯	底部		[1.4]	8.7	h1	u/u,l	O		橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
341 38	CP86	瓦器	椀	口縁部	15.5	[1.6]		E.c	u,m/u,g	B1	K	暗灰N3/ M.器壁を薄く仕 上げる	暗灰N3/ 灰白7.5Y8/1	
342 38	CP87	土師器	皿	口縁部	8.2	[1.1]		X.c	u/u	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	橙7.5YR7/6
343 38	CP87	土師器	皿	底部		[0.9]	5.2	h2	u/l,k	P3		橙5YR7/6	橙5YR7/8	橙5YR7/6
344 38	CP87	瓦器	皿	底部	6.6	1.1		F.c	u/u	B1	K M	灰N4/ 灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
345 38	CP88	土師器	杯	口縁部	11.5	[2.8]		W.c	u/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
346 38	CP88	土師器	杯	口縁部	14.6	[2.0]		V.c	u/u	O		にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4
347 38	CP88	土師器	杯	底部		[1.0]	4.2	i2	u/u	O		にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4
348 38	CP88	土師器	杯	底部		[2.0]	6.4	i2	u/l,l	O		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
349 38	CP88	土師器	杯	底部		[1.1]	8.2	h2	u/u,l	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6

表35 C区遺物観察表 15

遺物 図版 No.	図版 No.	出土地点	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	調整等	特徴	他	内面	外面	断面	備考
		遺構・グリップ				全長	器高	調整等	胎土	焼成		色調		
						[2.7]	[1.3]	[3.1]						
350	38	C.P.88	土師質土製 品	土師 碗	口縁部	13.9	[1.3]	G,c u/u	A K		灰N6/	明赤褐色5YR5/6	にぶい黄褐色10YR7/3	
351	38	C.P.88	瓦器	碗	口縁部	13.9	[1.3]	G,c u/u	A K	N.器壁を薄く仕上げる	灰N6/	灰N6/	灰N6/	
352	38	C.P.88	瓦器	碗	底部	[2.4]	[2.4]	4 I u/g	B1 L M2		灰白10Y8/2	灰白10Y8/2	灰白10Y8/2	
353	38	C.P.88	青磁	碗	体部	[3.2]	[3.2]	丸形の腕		青磁釉は深緑に発色する。	オリープ黄5Y6/3	オリープ黄5Y6/3	灰白5Y8/1	
354	38	C.P.89	土師器	杯	底部	[1.5]	[1.5]	5.7 h2 su/l,l	P2		浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	
355	38	C.P.89	土師器	皿	底部	[0.7]	[0.7]	4 il su/u,l	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
356	38	C.P.89	土師器	杯	底部	[1.1]	[1.1]	4.8 hl su/u,l	P1		淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3	
357	38	C.P.89	瓦器	碗	底部	[0.7]	[0.7]	3.4 I u/g	A L N		にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4	
358	38	C.P.91	土師器	皿	口縁部	7.3	[1.1]	V,c u/u	P1		にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	
359	38	C.P.91	瓦器	皿	口縁部	6.6	[1.0]	G,c u/g	A L N		にぶい黄褐色10YR7/3	浅黄2.5Y7/3	にぶい黄褐色10YR7/3	
360	38	C.P.91	瓦器	碗	底部	12.4	3.1	G,c m/u,g	B1 K M		灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	灰白7.5Y8/1	
361	38	C.P.91	瓦器	碗	口縁部	15.4	[2.1]	G,c,C u,m/u,g	B1 L M2		にぶい黄褐色10YR7/2	黄灰2.5Y5/1	にぶい黄褐色10YR7/2	
362	39	C.P.93	土師器	皿	口縁部	7.6	[1.6]	F,c u/tu	P1		浅黄褐色7.5YR8/4	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
363	39	C.P.93	土師器	杯	口縁部	12.7	[2.4]	F,c u/tu	P2		橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	
364	39	C.P.93	土師器	杯	底部	[1.8]	[1.8]	5.8 hl su/tu,l,k	O		浅黄褐色7.5YR8/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
365	39	C.P.93	土師器	杯	底部	[0.9]	[0.9]	5.1 il u/u,l,k	O		にぶい黄褐色10YR6/3	灰黄褐色10YR6/3	灰黄褐色10YR6/2	
366	39	C.P.93	瓦器	碗	口縁部	14.3	[2.4]	G,c,C u/u,g	B1 K N		灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
367	39	C.P.94	瓦器	碗	口縁部	16.1	[1.6]	E,c u/u	A K	M.器壁を薄く仕上げる	灰N4/	暗灰N3/	灰白2.5Y8/2	常滑? (13C後半)
368	39	C.P.95	土師器	杯	底部	[1.4]	[1.4]	6 hl u/u,l	P2		浅黄褐色10YR8/4	浅黄褐色10YR8/4	浅黄褐色10YR8/4	
369	39	C.P.95	瓦器	碗	口縁部	10.8	[2.0]	G,c u/u,g	B1 K M1		オリープ黒7.5Y3/1	灰7.5Y5/1	灰白7.5Y8/1	
370	39	C.P.97	土師器	杯	口縁部	13.4	[1.7]	W,c u/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
371	39	C.P.97	土師器	杯	口縁部	13	[2.1]	W,c su/t	P1		浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	
372	39	C.P.99	土師器	皿		6.8	1.5	4.6 X,c,hl u/u,l	P1		灰褐色7.5YR5/2	灰褐色7.5YR5/2	にぶい橙7.5YR7/4	
373	39	C.P.99	瓦器	皿		7.6	0.9	5.7 G,c u/u,g	B1 K N		灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
374	39	C.P.99	土師器	杯	口縁部	12.7	[1.9]	X,c su/tu	P1		にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい黄褐色10YR6/3	にぶい橙7.5YR6/4	

表36 C区遺物観察表 16

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
375 39	C.P.99	土師器	杯	底部	[1.5]		7	h1	su/t,l	P1			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
376 39	C.P.99	土師器	杯	底部	[1.2]		6.1	h2	su/u,l				にぶい橙7.5YR7/4	灰褐7.5YR6/2		にぶい橙7.5YR7/4	
377 39	C.P.99	瓦器	椀		11	3.2	5	G,c,l	u/u,g	A	L	N	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		にぶい黄橙10YR7/3	
378 39	C.P.99	瓦器	椀	口縁部	[2.2]			G,c	u,m/u,g	B1	K	M2	灰N5/	灰N5/		灰白7.5Y7/1	
379 39	C.P.99	瓦器	椀	底部	[1.2]		4.6	I	u/g	A	L	M	灰N5/	暗灰N3/		灰黄2.5Y7/2	
380 39	C.P.99	陶器	壺	口縁部	40.3	[9.2]							黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y4/1		灰白N7/	
381 39	C.P.103	土師器	杯	底部	[1.5]		7.6	il	u/u,l	P2			橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
382 39	C.P.103	陶器	壺	底部	[6.8]		12.3						灰白7.5Y7/1	オリーブ黒5Y3/1		灰白7.5Y7/1	常滑?
383 39	C.P.104	瓦器	椀	口縁部	11.5	[1.1]		E,c	u/u	B1	K	M2	灰白5Y8/2	灰N4/		灰白5Y8/2	
384 39	C.P.104	瓦器	椀	底部	[1.0]		3.4	I	u,m/g	B2	L	M	灰N6/	灰N6/		灰白5Y8/1	
385 39	C.P.106	土師器	杯	底部	[1.2]		5.8	h2	su/k	P2			黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR7/8		黄橙7.5YR7/8	
386 39	C.P.107	土師器	杯	口縁部	13.2	[2.0]		X,c	u/t	P3			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/4	
387 39	C.P.107	土師器	杯	口縁部	11.8	[3.4]		V,c	u/u	P3			橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/4		浅黄橙7.5YR8/4	
388 39	C.P.107	土師器	皿	底部	[1.0]		5	h3	u/l,l	O			にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		にぶい橙7.5YR7/3	
389 39	C.P.107	瓦器	椀	口縁部	13.4	[2.8]		G,c	u,m/u,g	A	K	M1	灰N6/	灰白5Y7/1		灰白5Y8/1	
390 39	C.P.109	土師器	杯	口縁部	14	[3.1]		X,c	u/u	P2			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
391 39	C.P.111	土師器	杯	底部	[1.1]		6	h2	su/u,l	P3			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	
392 39	C.P.111	土師器	杯	底部	[1.3]		7.2	h2	u/	P3			橙7.5YR7/8	橙7.5YR7/8		橙5YR7/6	
393 39	C.P.112	土師器	杯	底部	[1.0]		6.2	h2	u/l	P1			橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		橙7.5YR6/6	
394 39	C.P.113	土師器	杯	底部	[0.8]		4.5	h3	u/l	O			浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/3		にぶい黄橙10YR7/3	
395 39	C.P.113	瓦器	椀	口縁部	13.6	[2.4]		G,c	u,m/u,g	B1	L	N	浅黄2.5Y7/3	灰黄2.5Y6/2		浅黄2.5Y7/3	
396 40	C.P.117	土師器	杯	口縁部	13.9	[2.0]		W,d	u/u	O			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
397 40	C.P.117	土師器	杯	底部	[2.4]		6.5	il	su/uu	O			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
398 40	C.P.118	瓦器	椀	底部	[1.8]		4.6	I	u,m/g	A	K	N	灰5Y6/1	灰5Y6/1		灰白5Y7/1	
399 40	C.P.119	瓦器	椀	口縁部	11	[2.7]		F,c	u,m/u,g	B2	K	N	灰白2.5Y8/1	灰黄2.5Y7/2		灰白2.5Y8/1	

表37 C区遺物観察表 17

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリップ 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
400 40	C.P.119	瓦器	椀	口縁部	13.5	[2.6]		F.c	u/u,g	B2	K	M			灰5Y5/1	灰白5Y8/2			
401 40	C.P.120	土師器	杯	底部		[0.9]	6.5	h2	su/l	P1					糲5YR7/6	糲5YR7/6			
402 40	C.P.121	土師器	皿	底部		[0.9]	4.2	h2	s/l,k	P1					糲5YR7/6	糲5YR7/6			
403 40	C.P.121	土師器	杯	底部		[1.9]	6.6	h1	su/tu,l	P1					浅黄糲10YR8/3	浅黄糲10YR7/4	浅黄糲10YR8/3		
404 40	C.P.121	瓦器	椀	口縁部	9.5	[2.0]	2.8	G,c	u/u	B1	L	N			にぶい黄糲10YR7/4	にぶい黄糲10YR7/4	浅黄糲10YR8/4		
405 40	C.P.121	土師質土製土器	土鍾	全長	全長	全幅1.2 [3.7]	全厚1.1 [5.1]								重量 平面形は長楕円形で、端部は狭い面を成す。Φ4mmの円孔が明く。ナデ、浅い凹凸面 やや硬質	にぶい黄糲10YR7/3	にぶい黄糲5YR6/3		
406 40	C.P.121	土師質土製土器	土鍾	全長	全長	全幅1.5 [2.8]	全厚1.3 [4.5]								重量 Φ6mmの円孔が開く。ナデ、押圧痕 やや軟質	にぶい赤糲2.5YR4/4	にぶい赤糲2.5YR4/4		
407 40	C.P.122	須恵器	鉢	口縁部	28	[3.8]									灰白N7/	灰白N7/	灰白N7/	東播系初期1段階 (12C中～後)	
408 40	C.P.126	土師器	皿	口縁部	10.6	[1.4]	8.4	V,c,h3	u/u	P2					糲5YR6/8	糲5YR6/8			
409 40	C.P.126	土師器	杯	底部		[2.0]	5	h1	u/tu	O					にぶい糲7.5YR7/3	にぶい糲7.5YR7/3	にぶい糲7.5YR7/3		
410 40	C.P.126	瓦器	皿		8.4	1.5	4.6	E,c	u/u,g	A	K	M			灰5Y6/1	灰黄2.5Y7/2			
411 40	C.P.126	瓦器	椀	口縁部	13.7	[2.3]		E,c	u,m/u,g	B1	K	M1			灰N6/	灰5Y6/1	灰白5Y8/2		
412 40	C.P.126	瓦器	椀	口縁部	13.9	[2.9]		F,c	u,m/u,g	B1	K	M1			灰N4/	灰N4/・灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1		
413 40	C.P.126	瓦器	椀	口縁部	14.5	[3.7]		G,c	u/u,g	B3	K	N			灰白2.5Y7/1	灰黄2.5Y7/2	灰白2.5Y7/1		
414 40	C.P.127	土師器	杯	口縁部	11.3	[2.6]		V,c	u/u	P2					にぶい黄糲10YR7/4	にぶい黄糲10YR7/4	にぶい黄糲10YR7/4		
415 40	C.P.127	土師器	杯	口縁部	12.9	[3.7]		F,c	u/tu	P2					浅黄糲10YR8/3	浅黄糲10YR8/3	浅黄糲10YR8/3		
416 40	C.P.127	瓦器	椀	口縁部	14.4	[2.6]		F,c	u/u,g	B2	L	M			灰5Y5/1	灰5Y6/1	浅黄2.5Y7/3		
417 40	C.P.130	土師器	杯	口縁部	14.4	[2.4]		V,c	u/tu	P2					浅黄糲7.5YR8/6	浅黄糲7.5YR8/6	浅黄糲7.5YR8/6		
418 40	C.P.131	土師器	杯	底部		[2.2]	5.6	h2	u/tu	P2					にぶい糲7.5YR7/4	にぶい糲7.5YR7/4	にぶい糲7.5YR7/4		
419 40	C.P.131	瓦器	椀	口縁部	13.2	[1.5]		E,c	u,m/u	B2	L	M			暗灰N3/	暗灰N3/	暗灰N3/		
420 40	C.P.132	土師器	皿	口縁部	7.8	[1.4]		X,c	u/u	P2					浅黄糲10YR8/4	浅黄糲10YR8/4	浅黄糲10YR8/4		
421 40	C.P.134	土師器	皿	底部		[1.0]	5.2	h2	su/u,l,k	P1					糲5YR6/8	糲5YR6/8	糲5YR6/8		
422 40	C.P.136	土師器	皿		6.4	1.4	3.9	X,c,l	u/u	P1					浅黄糲7.5YR8/6	浅黄糲7.5YR8/6	浅黄糲7.5YR8/6		
423 40	C.P.136	土師器	杯	底部		[0.7]	5.8	h3	u/k	P3					糲5YR7/8	糲5YR7/8	糲5YR7/8		

表38 C区遺物観察表 18

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・ゾリッド	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	脚径	底径	形態	調整等	特徴 胎土	他	内面	外面	色調	断面	備考
424	40	C.P.137		青磁	椀	口縁部	[1.2]				口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に修める。青磁釉(外)連弁紋	明オリープ灰 2.5GY7/1	明オリープ灰 2.5GY7/1				灰白7.5Y8/1		龍泉窯施工類 (13C初~前)
425	40	C.P.140		土師器	杯	底部	[1.3]		su/u,l,k	7.6	hl	P2					橙5YR7/8	橙5YR7/8	
426	40	C.P.141		瓦器	椀	口縁部	[3.3]		u,m/u,g		G,c	B1	K	N			灰5Y5/1	灰5Y6/1	
427	40	C.P.145		瓦器	皿	口縁部	[2.2]		u,m/u		G,c	B1	L	N, 暗文圖のミガキ			灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
428	40	C.P.145		瓦器	椀	底部	[2.1]		u/g	4	I	A	K	M			灰N4/	灰白7.5Y8/1	
429	40	C.P.146		土師器	皿		7.4	1.6		5.3	W,c,h2	u,u,l	O				橙5YR7/6	—	
430	40	C.P.146		土師器	杯	底部	[1.5]		u/u	6.7	h2	u/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
431	40	C.P.146		瓦器	椀	口縁部	[1.9]		u/u		G,c	u/u	A	K	M		暗灰N3/	灰黄2.5Y7/2	
432	41	C.P.148		土師器	皿	口縁部	8	[1.2]			V,c	u/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
433	41	C.P.148		土師器	皿	口縁部	9.6	[1.9]			V,c,C	su/u	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
434	41	C.P.148		瓦器	椀	口縁部	9.2	[1.8]			G,c,C	u/u,g	B1	K	M		暗灰N3/	灰白5Y7/1	
435	41	C.P.148		土師器	杯	口縁部	11.2	[1.4]			V,c	u/u	P2				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
436	41	C.P.148		土師器	杯	口縁部	13.7	[2.7]			W,c	u/u	P2				橙5YR6/6	橙5YR6/6	
437	41	C.P.148		瓦器	椀	口縁部	12.5	[2.6]			G,c,C	u,m/u,g	B1	K	M1		黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y6/1	
438	41	C.P.149		土師器	皿		6.3	1.8		4.2	V,c,h3	u/u,l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
439	41	C.P.149		土師器	皿		7.2	1.4		4.7	V,c,h2	su/u,l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
440	41	C.P.149		土師器	皿	底部	[0.4]			5.5	h3	su/l	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
441	41	C.P.149		土師器	杯	口縁部	11.4	[1.8]			W,c	u/u	P2				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
442	41	C.P.149		土師器	杯	口縁部	9.6	[1.9]			V,c	su/tu	P1				灰褐7.5YR5/2	橙7.5YR7/6	
443	41	C.P.149		土師器	杯	底部	[2.6]			7	il	u/u,l	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
444	41	C.P.149		瓦器	椀	口縁部	13.5	[2.7]			X,c	u,m/u,g	B1	K	M		灰N4/	灰白7.5Y8/1	
445	41	C.P.149		瓦器	椀	口縁部	13.4	[3.1]			G,c	u/u,g	A	L	N		橙5YR7/6	橙2.5YR7/6	
446	41	C.P.149		瓦器	椀	口縁部	12.4	[2.4]			G,c	u,m/u	A	K	M2		灰白5Y7/1	灰白5Y8/1	
447	41	C.P.150		土師器	杯	口縁部	7.4	[1.5]			V,c	su/tu	P1				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
448	41	C.P.150		土師器	皿	底部	[0.7]			5	h2	u/l	P1				橙5YR6/6	橙5YR6/6	

表39 C区遺物観察表 19

遺物 図版 No. fig. 遺構・グリップ	出土地点 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	口径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
449 41	C.P.150	瓦器	椀	口縁部	12.3	[2.5]	G,c	u,m/u,g	B2	L	M			灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		灰白2.5Y8/2	
450 41	C.P.150	瓦器	椀	口縁部	14	[2.3]	F,c,C	u/u,g	B2	L	M			灰5Y4/1	灰5Y4/1		淡黄2.5Y8/3	
451 41	C.P.151	瓦器	椀	口縁部	18.4	[2.3]	G,c	u,m/u,g	B1	K	M			灰10Y4/1	灰10Y4/1		灰白10Y8/1	
452 41	C.P.160	土師器	杯	底部		[0.9]	6.2 h1	u/l	P1					浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙7.5YR8/4	
453 41	C.P.160	瓦器	椀	口縁部	10.6	[2.6]	G,c	u,m/u,g	A	K	M			灰N4/	灰N4/		灰白7.5Y8/1	
454 41	C.P.161	瓦器	椀	口縁部	16.6	[2.2]	G,c	u/u,g	B1	K	M			灰N4/	灰N4/		灰白7.5Y8/1	
455 41	C.P.162	土師器	皿		8	1.6	5.4 V,c1,h2	u/u,l	P2					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		浅黄橙10YR8/3	
456 41	C.P.162	土師器	皿	底部		[1.4]	5.6 i2	u/u	P1					褐灰10YR4/1	橙7.5YR7/6		浅黄橙10YR8/3	
457 41	C.P.162	須恵器	鉢	口縁部	27.6	[2.4]								灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		灰白2.5Y8/2	
458 41	C.P.163	土師器	杯	口縁部	14.6	[3.1]	V,c	su/u	P1					にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		灰白10Y8/2	
459 41	C.P.164	瓦器	椀	口縁部	14.4	[4.2]	G,c	u/u,g	B2	K	M			暗灰N3/	暗灰N3/		灰白5Y8/1	
460 41	C.P.165	土師器	杯	口縁部	14.8	[2.1]	X,c1	u/u	P2					にぶい橙7.5YR6/4	橙5YR6/6		橙5YR6/6	
461 41	C.P.166	瓦器	皿		7.2	1.5	3.8 E,c	u/u,g	B2	K	M			灰オリーブ5Y5/2	灰オリーブ5Y5/2		灰5Y6/1	
462 41	C.P.166	須恵器	甕	胴部		[2.2]								灰N5/	灰N4/		灰N6/	
463 41	C.P.169	瓦器	皿	口縁部	7.7	[1.3]	E,c,C	u/u,g	B1	K	M			灰N5/	灰N4/		灰白7.5Y8/1	
464 41	C.P.169	土師器	杯	口縁部	11.4	[2.5]	V,c	u/u	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	
465 41	C.P.170	土師器	杯	底部		[3.0]	h2	u/uu,l,k	P2					浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3		浅黄橙7.5YR8/3	
466 41	C.P.170	青磁	椀	体部		[3.8]								青磁軸 (外) 窯胎?が付着する。	オリーブ黄5Y6/3		灰白7.5Y8/1	龍泉窯
467 42	C.P.172	土師器	杯	口縁部	12.5	[2.7]	V,c	su/u	P2					浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/4	
468 42	C.P.173	土師器	杯	底部		[1.2]	5.6 h2	u/l	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR6/4		にぶい橙7.5YR6/3	
469 42	C.P.173	土師質土製土維品			全径3.9	全軸1.4	全厚1.3							重量 平面形は長楕円形で、端部に平らな面を持つ。Φ4mmの円孔が開く。ナデ	にぶい赤褐5YR5/4		橙5YR6/6	
470 42	C.P.175	瓦器	椀	口縁部	13	[2.6]	G,c	u,m/u	B1	K	N			灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1		灰白2.5Y8/1	
471 42	C.P.175	瓦器	椀	口縁部	11.7	[2.2]	G,c	u/g	B2	K	N			灰5Y6/1	灰オリーブ5Y6/2		灰5Y6/1	
472 42	C.P.175	瓦器	椀	口縁部	12.6	[2.3]	G,c	u/u,g	B1	K	N			灰白7.5Y6/1	灰10Y6/1		灰10Y6/1	
473 42	C.P.178	土師器	杯	口縁部	10.8	[2.1]	W,c	u/uu	O					橙5YR6/6	橙5YR6/6		橙5YR6/6	

表40 C区遺物観察表 20

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)		形態	調整等	胎土	特徴	他	色調		備考
						器高	底径						内面	外面	
474 42	C.P.181	土師器	杯	口縁部	12.2	[1.5]	V,c	u/u	P1				にぶい褐7.5YR6/3	にぶい褐7.5YR6/3	
475 42	C.P.181	土師器	杯	底部		[1.7]	6.2 i2	u/tu,l	O				褐灰7.5YR4/1	にぶい褐7.5YR6/3	
476 42	C.P.181	土師器	杯	底部		[1.3]	7 h2	u/l	P1				にぶい褐7.5YR6/4	にぶい褐7.5YR6/4	
477 42	C.P.181	瓦器	椀	口縁部	13.3	[2.5]	E,c	u/u	B1	L	N		にぶい褐7.5YR7/4	にぶい褐7.5YR7/4	
478 42	C.P.181	瓦器	椀	底部		[1.7]	4.4 I	m/g	B2	L	N	N.臍折形に近似する	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
479 42	C.P.182	瓦器	皿	口縁部	7.6	[1.3]	E,c,C	u/u,g	P1	K	M		灰N4/	灰白7.5Y8/1	
480 42	C.P.183	瓦器	椀	口縁部	11.1	[2.2]	G,c	u/g	B1	K	N		灰5Y6/1	灰5Y6/1	
481 42	C.P.183	瓦器	椀	口縁部	13	[2.2]	G,c	u,m/u,g	B1	L	M1		オリーブ黒5Y3/1	黄灰2.5Y6/1	
482 42	C.P.183	土師質土製 品	土師器	土師	全長4.6	全幅1.6	重量 7.8g	全厚1.5					平面形は分銅形に近似する。端部に平らな面を持つ。Φ3mmの円孔が開く。ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
483 42	C.P.185	土師器	皿		6.6	1.5	6 X,c,h2	su/u,l	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
484 42	C.P.185	土師器	皿		6.6	1.4	5.3 X,c,h3	su/u,g	P2				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
485 42	C.P.185	土師器	杯	底部		[1.7]	h,l	s	P1				灰5Y5/1	浅黄橙10YR8/4	
486 42	C.P.185	土師器	杯	底部		[1.3]	6 h,l	u/tu,l	P1				にぶい褐7.5YR7/4	にぶい褐7.5YR6/6	
487 42	C.P.185	陶器	罎鉢	体部		[3.2]							灰5Y5/1	灰N6/	備前II～III期 (13C後～14C前)
488 42	C.P.185	陶器	甕?	胴部		[5.2]							オリーブ黄5Y6/3	灰白2.5Y7/1	瀬戸美濃
489 42	C.P.188	土師器	杯	底部		[1.1]	6.6 i2	su/l	P2				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
490 42	C.P.188	土師器	杯	口縁部	11.6	[3.0]	V,c	u/u	P2				にぶい褐7.5YR7/4	にぶい褐7.5YR7/4	
491 42	C.P.188	土師器	杯	底部		[1.8]	7 i1	su/t,l	P2				浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	
492 42	C.P.188	瓦器	椀	口縁部	11.8	[1.9]	E,c	u/u,g	B1	L	M2		灰7.5Y6/1	灰N5/	灰白10Y8/2
493 42	C.P.189	土師器	杯	口縁部	11.6	[3.0]	W,c	su/u	R,P1				灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
494 42	C.P.190	陶器	合子	蓋	6.1	[1.9]							灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	瀬戸美濃?
495 42	C.P.190	瓦器	皿		10.6	[1.8]	G,c	u/u,g	B2	K	M		暗灰N3/	暗灰N3/	灰白7.5Y7/1
496 42	C.P.190	青磁	椀	口縁部	15.6	[2.2]							灰オリーブ5Y5/2	灰白5Y7/1	
497 42	C.P.191	土師器	杯	底部		[1.8]	h2	su/u,l	P1				灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	
498 42	C.P.193	土師器	杯	口縁部	12	[3.0]	V,c	su/u	P2				浅黄橙7.5YR8/3	にぶい褐7.5YR7/4	灰白10YR8/2

表41 C区遺物観察表 21

遺物 図版 No.	出土地点 fig. 遺構・グリップド	層位	器種	器形	部位	口径 (cm)	法量	器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考	
499	42	C.P.194	瓦器	椀	口縁部	13.4	[2.2]	F.c.C	m/u,g	A	K	N					灰白5Y8/1	灰白5Y8/2	灰白5Y8/2	灰白5Y8/2		
500	42	C.P.196	土師器	杯		14.2	3.9	W.c.l2	u/u,l	P1							明褐色7.5YR7/2	褐色5YR6/6	褐色5YR6/6	褐色5YR6/6		
501	42	C.P.197	土師器	杯	底部	[1.2]		5.9 hl	u/u,l	P1							浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/3		
502	42	C.P.197	瓦器	椀	口縁部	12	[2.6]	G.c	u/u,g	B1	L	N					にぶい褐色7.5YR7/3	にぶい褐色7.5YR7/3	にぶい褐色7.5YR7/3	にぶい褐色7.5YR7/3		
503	42	C.P.198	土師器	皿		6.3	1.6	W.c.H	u/u,l	P1							浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4	浅黄褐色7.5YR8/4		
504	42	C.P.199	土師器	杯	底部	[0.9]		4.3 hl	s/l,k	O							褐色5YR7/6	褐色5YR7/6	褐色5YR7/6	褐色5YR7/6		
505	42	C.P.199	瓦器	椀	口縁部	10.4	[2.0]	G.c	u/u	B2	L						暗灰N3/ M1:接合部を断面に残す	淡黄2.5Y8/3・灰N4/	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3		
506	43	C.P.202	瓦器	椀		12	3.2	E.c	m/u,g	B2	K						灰N4/	灰N4/・灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1		
507	43	C.P.202	瓦器	椀	底部	[1.4]		4.8 I	m/g	B2	K	M					灰白N7/	灰白N7/	灰白N7/	灰白N7/		
508	43	C.P.204	土師器	杯		[0.9]		7.2 hl	su/l	P1							褐色5YR7/6	褐色5YR7/6	褐色5YR7/6	褐色5YR7/6		
509	43	C.P.207	土師器	杯	底部	[0.8]		5.4 hl	su/l,k	P1							にぶい黄褐色10YR7/3	にぶい黄褐色10YR7/3	にぶい黄褐色10YR7/3	にぶい黄褐色10YR7/3		
510	43	C.P.207	土師器	杯	底部	[1.2]		7 h2	su/u,l	P1							褐色5YR6/6	褐色5YR6/6	褐色5YR6/6	褐色5YR6/6		
511	43	C.P.207	瓦器	椀	底部	[0.9]		4 I	u/g	B1	K	M					暗灰N3/	暗灰N3/	暗灰N3/	暗灰N3/		
512	43	C.P.209	瓦器	椀	口縁部	14.7	[3.2]	G.c,C	u/u,g	B1	K	M					灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		
513	43	C.P.209	瓦器	椀	底部	[1.7]		2.8 I	u,m/g	B1	L	M					灰N4/	灰N4/	灰N4/	灰白5Y8/1		
514	43	C.P.213	土師器	杯	口縁部	15.8	[2.5]	W.c	su/u	P3							にぶい黄褐色10YR7/3	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4	にぶい黄褐色10YR7/4		
515	43	C.P.213	土師器	杯	底部	[1.2]		6.6 hl	u/u,l	O							にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい褐色7.5YR6/4	にぶい褐色7.5YR6/4		
516	43	C.P.218	土師器	杯	底部	[1.1]		6.8 hl	u/l,k	P1							灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/2	褐色10YR5/1		
517	43	C.P.219	瓦器	椀	口縁部	13.9	[2.3]	G.c	u/u,g	B1	K	M					灰N4/	灰5Y5/1	灰5Y5/1	灰白5Y8/2		
518	43	C.P.222	土師器	杯	底部	[3.3]		8.6 F.h1	u/u,l,k	P1							灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/2	灰黄褐色10YR6/2	にぶい黄褐色10YR7/3		
519	43	C.P.222	瓦器	椀	口縁部	12	[2.2]	G.c	u/u,g	B1	K	M					灰5Y7/1	灰5Y6/1	灰5Y6/1	灰白5Y8/1		
520	43	C.P.225	瓦質土器	羽釜	胴体部	[3.8]	21.2	胴体は内磨する。磨はほぼ水平に付く。(内)ナデ(外)ナデ やや軟質 酸化色										灰白5Y8/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
521	43	C.P.226	瓦器	椀	口縁部	9.7	[2.0]	G.c	u/u,g	B2	L	M1						灰白2.5Y7/1	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰白2.5Y8/2	
522	43	C.P.226	土師器	杯	口縁部	12.6	[2.4]	X.c	u/t	O							褐色7.5YR7/6	にぶい黄褐色10YR6/3	褐色7.5YR7/6	褐色7.5YR7/6		
523	43	C.P.228	土師器	杯	底部	[1.5]		8 h2	su/u,l	P1							褐色7.5YR7/6	褐色7.5YR7/6	褐色7.5YR7/6	褐色7.5YR7/6		

表42 C区遺物観察表 22

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・ゾリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		備考
														内面	外面	
524 43	C.P.228	瓦器	椀	底部	6.9	[1.2]	3.9	I	u/g	B2	K	M		灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
525 43	C.P.233	土師器	皿		6.9	1.5	4.4	V.c.h2	u/u,1	P1				灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
526 43	C.P.237	土師器	皿	底部		[1.0]		h3	su/u	P2				橙5YR6/6	橙5YR6/6	
527 43	C.P.237	瓦器	椀	口縁部	12.4	[2.1]		G,d	u/u,g	B2	K	N,		灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	
528 43	C.P.237	瓦器	椀	口縁部	1.4	[2.9]		G,c	u/g	B3	L	N		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
529 43	C.P.237	瓦器	椀	底部		[0.8]	4.3	I	u/g	B2	K	N		灰5Y6/1	灰5Y6/1	
530 43	C.P.238	瓦器	椀	口縁部	10.8	[2.1]		G,c	u/u	B2	K	MI		灰N5/	灰N5/・灰白2.5Y8/2 灰白5Y7/1	
531 43	C.P.238	瓦器	椀	口縁部	12.3	[2.2]		G,c	u/u,g	B2	K	N		灰白5Y7/2	灰白5Y7/2	
532 43	C.P.239	土師器	皿		8.4	1.4	6.4	V.c.h2	u/u,k	P2				橙5YR6/6	橙5YR6/6	
533 43	C.P.239	瓦器	皿	口縁部	10.3	[1.6]		G,c	u/g	B2	K	M		灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
534 43	C.P.240	土師器	杯	口縁部	13.9	[2.1]		V,c	u/u	P1				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
535 43	C.P.241	土師器	皿	口縁部	10	[1.6]	6.9	V.c.h3	u/u,1	P3				橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	
536 43	C.P.241	土師器	杯	底部		[0.9]	6	il	su/l,k	P2				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
537 43	C.P.241	瓦器	椀	口縁部	12.9	[1.8]		G,c	u/u,g	B2	K	N		灰5Y6/1	灰5Y6/1	
538 43	C.P.241	瓦器	椀	口縁部	12.3	[2.2]		G,c,C	u/u,g	B1	K	M		灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
539 43	C.P.243	瓦器	椀	口縁部	10.8	[2.3]		G,c	u/u	B3	L	M		橙2.5YR6/4	橙2.5YR6/4	
540 43	C.P.245	土師器	皿	底部		[0.6]	4.2	h2	su/l	P1				にぶい・橙7.5YR7/4	にぶい・橙7.5YR7/4	
541 43	C.P.245	瓦器	椀	口縁部	10.5	[1.6]		G,c	u/u	B1	L	N		橙5YR6/6	橙5YR6/6	
542 43	C.P.246	青磁	椀	口縁部	16	[2.5]								灰オリーブ5Y5/2	灰白7.5Y7/1	龍泉窯椀1類 (12C中〜後)
543 43	C.P.247	土師器	杯	口縁部	1.4	[2.7]		X,c	u/u	P3				酸化的瓦器椀?	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4
544 44	C.P.249	土師器	皿	底部	6.4	1.5	4.4	V.c.h3	u/u,1	P1				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
545 44	C.P.249	土師器	皿	底部		[1.1]	5.8	h1	u/u	P1				にぶい・橙7.5YR7/3	にぶい・黄橙10YR7/3	
546 44	C.P.249	瓦器	皿	口縁部	7.2	[1.3]		G,c	u/u,g	B2	K	N		灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
547 44	C.P.249	瓦器	椀	口縁部	11.7	[2.1]		G,c	m/u,g	B1	K	MI		灰白5Y7/1	灰白5Y7/2・灰N4/	灰白5Y8/2
548 44	C.P.249	瓦器	椀	口縁部	11.7	[2.7]		G,c	m,u/u,g	B1	K	M		灰N5/	灰7.5Y5/1	灰白5Y7/2

表43 C区遺物観察表 23

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・クワッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	胴径	底径	形態	調整等	特徴 胎土 焼成	他	色調		備考
													内面	外面	
549 44	C.P.256	瓦器	皿	口縁部	7.1	[1.2]	E,c,C	u/u,g	A	K	M	M	灰白7.5Y7/1	断面	
550 44	C.P.256	瓦器	椀	口縁部	13	[2.7]	G,c	u/u,g	B1	K	M	M	灰白7.5Y8/1		
551 44	C.P.257	瓦器	椀	口縁部	13.8	[2.3]	G,c	u/u	B2	L	N	N	こぶい橙7.5YR6/4		
552 44	C.P.258	土師器	杯	口縁部	14.6	[1.5]	W,c	u/u	P3				橙7.5YR7/6		
553 44	C.P.261	瓦器	椀		15	[3.8]	4.6 F,c,l	u/u,g	B1	K	N	N	灰7.5Y6/1		
554 44	C.P.262	土師器	皿	口縁部	8	[1.3]	5.8 V,c,h3	u/u	P2				こぶい橙7.5YR7/4		
555 44	C.P.267	瓦器	椀	口縁部	12.1	[2.4]	G,c	u/u	B2	L	N	N	こぶい黄2.5Y6/3		
556 44	C.P.268	土師器	皿		7.4	1.3	5.4 V,c,h3	u/u,l	P1				こぶい黄橙10YR7/4		
557 44	C.P.268	瓦器	椀	口縁部	13.5	[1.7]	E,c	u/u	B1	K	M1	M1	灰白5Y7/1		
558 44	C.P.268	青磁	椀	口縁部	18.9	[3.9]	口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 1条沈線、細目紋 (外) 細目紋							同安楽庵1類U-b (12C中～ 後)	
559 44	C.P.274	瓦器	椀	口縁部	11.4	[2.3]	G,c	u,m/u,g	B1	K	M	M	暗灰N3/		浅黄2.5Y7/3
560 44	C.P.275	瓦器	椀	口縁部	12.2	[2.5]	E,c,C	u/u,g	B1	K	M	M	灰白5Y8/1		灰白5Y8/2
561 44	C.P.277	瓦器	椀	口縁部	11.4	[1.8]	G,c	u/u,g	B1	K	N	N	灰白2.5Y7/1		灰白2.5Y7/1
562 44	C.P.280	土師器	杯	底部		[1.4]	5.8 h2	su/u,l	P2				こぶい橙7.5YR7/4		こぶい橙7.5YR7/4
563 44	C.P.285	瓦器	椀	口縁部	9.8	[2.1]	G,c	u/u	B1	K	M1	M1	灰黄2.5Y7/2		灰黄2.5Y7/2
564 44	C.P.291	土師器	皿	底部		[1.2]	4.6 h2	u/u,l	P3				橙5YR6/6		橙5YR6/6
565 44	C.P.291	土師器	杯	底部		[1.4]	6.1 h2	su/u,l	P1				橙5YR7/6		橙5YR7/6
566 44	C.P.291	瓦器	椀	口縁部	13.8	[1.6]	G,c	u/u	A	L	N	N	陶灰10YR4/1・灰黄 2.5Y7/2		陶灰10YR4/1
567 44	C.P.291	瓦器	椀	口縁部	13.8	[1.6]	G,c,C	u,m/u,g	O	K	N	N	灰白5Y7/1		灰白5Y7/1
568 44	C.P.293	土師器	杯	底部		[1.4]	h1	su/u	P2				浅黄橙7.5YR8/6		橙7.5YR7/6
569 44	C.P.295	土師器	皿	底部		[1.1]	6.8 h3	su/u,l	P1				こぶい黄橙10YR7/4		こぶい黄橙10YR7/4
570 44	C.P.296	瓦器	椀	底部		[0.5]	2.8 I	u,m/g	B1	L	N	N	こぶい黄橙10YR6/3		こぶい黄橙10YR6/3
571 44	C.P.298	土師器	杯	底部		[1.3]	5.4 h3	u/u	P1				こぶい黄橙10YR6/3		こぶい黄橙10YR6/3
572 44	C.P.298	瓦器	椀	底部		[0.8]	3.7 I	u/u	B1	K	M	M	暗灰N3/		灰白7.5Y8/1
573 44	C.P.300	青磁	皿	底部		[1.2]	体部上位で屈曲する。青磁軸 (内) 細目紋、圓花紋							灰白7.5Y7/1	

表44 C区遺物観察表 24

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グランド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	胴径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
574 44	C.P.305	土師器	杯	口縁部	11	[2.3]	V,c	su/uu	R,O						にぶい橙7.5YR7/4	橙5YR7/6	浅黄橙10YR8/3		
575 44	C.P.306	土師器	杯	底部		[0.8]	4.6	12	u/lk	P3					橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
576 44	C.P.308	土師器	皿	口縁部	7.8	[1.4]	V,c	u/u	P1						橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
577 44	C.P.315	土師器	杯	口縁部	13.8	[2.4]	W,c	su/uu	P1						灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		
578 44	C.P.315	土師器	杯	底部		[1.4]	5.2	h3	u/u	P1					浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		
579 44	C.P.320	瓦器	碗	口縁部	13.4	[3.4]	G,c	u/u,g	B1	K	N				灰白5Y7/1	灰黄2.5Y7/2	灰白5Y7/1		
580 44	C.P.322	土師器	杯	底部		[1.4]	6.2	h2	u/u	P3					明黄褐10YR7/6	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
581 45	C.P.323	陶器	擂鉢	体部		[4.5]	30.8								灰N6/	褐灰7.5YR5/1	褐灰10YR5/1		
582 45	C.P.324	土師器	杯	底部		[1.0]	6.2	h2	sw/l	P1					灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2		
583 45	C.P.324	瓦器	碗	口縁部	13.3	[2.0]	G,c	u,m/u,g	B1	K	M				灰白5Y7/1	灰N5/	灰白7.5Y7/1		
584 45	C.P.331	須恵器	甕	胴部		[4.0]									灰白N7/	褐灰10YR6/1	灰白N7/		
585 45	C.P.335	瓦器	碗	口縁部		[2.5]	G,c	u,m/u,g	A	K	N				灰N5/	灰N5/	灰白5Y8/2		
586 45	C.P.347	須恵器	鉢	底部		[1.0]	8.2	平底 (内) ナテ (外底) 糸切り真 還元焰							灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1		
587 45	C.P.349	土師器	杯	底部		[1.0]	6.6	h1	u/	P2					黄橙7.5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8		
588 45	C.P.355	青磁	碗	口縁部	17.2	[1.7]									灰オリーブ5Y5/3	灰オリーブ5Y5/3	灰白5Y7/1		龍泉窯碗I類 (13C中)
589 45	C.P.356	瓦器	碗	口縁部	14.7	4.4	4.6	E,c,l	u/u	B2	L	M			浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/3		
590 45	C.P.361	土師器	杯	底部		[2.1]	h3	u/u	P2						橙7.5YR7/6	橙5YR6/6	橙7.5YR7/6		
591 45	C.P.363	瓦器	碗	口縁部	14.5	[2.1]	G,c	u,m/u	B2	K	M				灰白5Y7/1	暗灰N3/	浅黄2.5Y8/3		
592 45	C.P.367	瓦器	碗	口縁部	9.3	[2.4]	G,c	u/u,g	A	K	N				灰N5/	灰N5/	灰白5Y8/2		
593 45	C.P.367	土師質土製 品	土師		全長4.9 全幅1.1	全厚1.1	重量 4.2g								—	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6		
594 45	C.P.371	瓦器	碗	口縁部	11	[1.9]	G,c	u/u	B2	L	M				灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2		
595 45	C.P.378	瓦器	碗	口縁部	14.1	[2.6]	G,c	u,m/u,g	B1	K	M				灰7.5Y6/1	灰7.5Y5/1	灰10Y5/1		
596 45	C.P.379	土師器	杯	底部		[4.3]	7	F,h2	sw/u,l	P1					灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y7/1		
597 45	C.P.380	土師器	杯	底部		[1.0]	6.9	h1	u/lj	P1					浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
598 45	C.P.381	土師器	杯	底部		[1.3]	5.5	h1	u/u,l	P1					橙5YR7/6	橙5YR7/6	浅黄橙10YR8/3		

表45 C区遺物観察表 25

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
599 45	C.P.381		須恵器	小杯	口縁部	8	[2.0]				口縁は内唇気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。(内) ナズ 口縁に自然釉が付着する。(外) ナズ					灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
600 45	C.P.382		土師器	皿	底部	5.8	1.9			4.6	V.c:ll	u/u, l	P1			にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	
601 45	C.P.382		土師器	皿	口縁部	6.6	[1.3]				X.c	u/u	P1			にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4	にぶい橙5YR7/4	
602 45	C.P.383		瓦器	椀	口縁部	14.2	[1.8]				X.c:C	u,m/u,g	B1	L	N	灰黄2.5Y7/2	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	
603 45	C.P.386		土師器	皿	底部		[1.5]			3.6	h3	u/uu	P2			橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
604 45	C.P.386		土師器	杯	底部		[0.9]			5.8	l2	u/	P2			黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	
605 45	C.P.386		瓦器	椀	口縁部	8.6	[2.4]				F.c	u/	B2	L	N	橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
606 45	C.P.387		土師器	皿	底部	6.7	[1.4]			4.6	V.c:h3	su/u,l,k	P2			橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	
607 45	C.P.387		土師器	皿	底部		[1.5]			3.9	W.c	u/u	P2			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
608 45	C.P.387		瓦器	椀	口縁部	13.8	[1.9]				E.c	u/g	B1	L	N	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
609 45	C.P.394		瓦器	皿	底部	7.8	1			5.6	E.c:C	u/u,g	A	L	N	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	灰白5Y7/1	
610 45	C.P.394		瓦器	皿	底部	8	[1.4]				G.c	u/u,g	B1	K	M	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	
611 45	C.P.394		瓦器	椀	口縁部		[2.2]				F.c	u/u	B2	L	N	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
612 45	C.P.394		瓦器	椀	底部		[0.7]			3.4	I	u,m/g	A	K	MI	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
613 45	C.P.398		須恵器	甕	胴部		[5.4]				胴部はやや内湾する。(内) 同心円紋 (外) タタキ					灰N5/	灰N5/	灰N5/	灰N5/	
614 45	C.P.399		瓦器	椀	口縁部		[2.3]				G.c	u/u,g	B1	K	M	灰N4/	灰N4/	灰N4/	灰白5Y7/1	
615 45	C.P.402		土師器	杯	底部	12.2	3.4			7	V.c:h3	su/u,k	P3			橙5YR6/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	
616 45	C.P.403		青磁	椀	口縁部	11.9	[2.2]				口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉 (内) 柳目紋、沈線 (外) 縦位の2条沈線					オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	龍泉窯焼工類 (12C中〜後)
617 46	C.P.404		土師器	杯	口縁部	12.8	[2.2]				V.c	su/uu	P1			にぶい黄橙10YR6/3	灰黄橙10YR5/2	にぶい黄橙10YR6/3	にぶい黄橙10YR6/3	
618 46	C.P.404		瓦器	椀	口縁部	13.4	[2.2]				G.c	u,m/u,g	B2	L	M	暗灰N3/	灰白5Y7/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	
619 46	C.P.405		土師器	皿	底部		[1.0]			7.4	h3	u/u	P1			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
620 46	C.P.406		瓦器	椀	口縁部	14.4	[1.4]				G.c	u/u,g	B2	K	N	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	
621 46	C.P.407		土師器	皿	底部		[1.0]				ll	su/l	P1			にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	
622 46	C.P.408		瓦器	椀	口縁部	13	[1.3]				G.c:C	u/u,g	B1	K	M	灰N6/	灰N6/	灰N6/	灰白N7/	
623 46	C.P.410		瓦器	椀	口縁部	10.8	[2.0]				G.c	u,m/u	B2	L	N	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	

表46 C区遺物観察表 26

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・クワッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		断面	備考
														内面	外面		
624 46	C.P.411	土師器	杯	底部	[1.1]	6.6	h2	u/u	R,P2					灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		
625 46	C.P.413	土師器	杯	底部	[1.0]	7	h1	su/k	P2					黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8		
626 46	C.P.417	土師器	杯	底部	[1.5]		il	u/u,l	P3					橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
627 46	C.P.418	須恵器	鉢	口縁部	[2.3]			口縁は上下に肥厚する。(内・外)ナデ						灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1		東播系口冊2段階(12C末~13C初)
628 46	C.P.420	土師器	杯	底部	[0.8]	5	h2	u/	P3					浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		
629 46	C.P.422	土師器	杯	底部	[1.4]	5.1	h1	su/	P1					橙5YR6/6	橙5YR6/6		
630 46	C.P.423	土師器	杯	底部	[0.9]	7.7	h3	su/l	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
631 46	C.P.423	土師器	杯	口縁部	[2.0]		V,c	su/u	P2					橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6		
632 46	C.P.425	土師器	杯	底部	[1.2]	5.6	i2	u/	P2					にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
633 46	C.P.425	土師器	杯	底部	[1.1]	6.4	h1	u/l	P2					黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR8/8		
634 46	C.P.425	須恵器?	甕	胴部	[3.2]			胴部は緩く肉湾する。(内)同心目紋(外)タタキ還元釉						灰N5/	灰N6/		
635 46	C.P.426	土師器	杯	底部	[2.5]	7	il	s/u,l	R,O					灰白2.5Y8/2	灰黄2.5Y7/2		
636 46	C.P.436	瓦器	碗	口縁部	[1.9]	15.6		E,c	u/u,g	B1	K	M		暗灰N3/	暗灰N3/		
637 46	C.P.427	陶器	瓶?	口縁部	4.5	[1.7]		口縁は外反する。口唇は丸く修める。(内)ナデ(外)ナ子、灰が付着する						灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1		瀬戸美濃
638 46	C.P.430	土師器	杯	底部	[3.7]	7.2	h1	su/u,l	P1					にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3		
639 46	C.P.430	土師器	杯	底部	[1.1]	6	h2	su/l	P1					浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
640 46	C.P.431	土師器	杯	底部	[1.2]	7.5	il	u/u,l,k	P2					橙5YR7/8	橙5YR7/8		
641 46	C.P.436	土師器	杯	底部	[1.3]	4.6	h2	u/l	P1					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		
642 46	C.P.438	瓦器	皿	口縁部	8.2	[1.1]		E,c,C	u/u,g	B2	L	N		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
643 46	C.P.441	青磁	碗	口縁部	19.3	[2.2]		口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸(内)削花紋						灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2		龍泉窯碗I類(12C中~後)
644 46	C.P.442	土師器	皿	底部	[0.7]	4.4	h2	u/	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
645 46	C.P.443	瓦器	碗	口縁部	15.4	[2.5]		G,c	u,m/g	B2	K	M		灰白5Y7/1	灰白5Y7/1		
646 46	C.P.450	土師器	杯	底部	[1.3]	6.8	h3	u/u	P3					橙5YR6/8	橙5YR6/8		橙5YR6/8・黄灰2.5Y6/1
647 46	C.P.451	土師器	杯	口縁部	9.6	[1.7]		W,c	u/u	P2				橙5YR7/6	橙5YR7/6		
648 46	C.P.451	瓦器	碗	口縁部	12	[1.1]		F,c	u/u	B1	K	M		灰5Y5/1	灰5Y5/1		

表47 C区遺物観察表 27

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップド	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	踵径	底径	形態	調整等	特徴		断面	備考	
												胎土	焼成			
												他	内面	外面	色調	
649 46	C.P.462		土師器	杯	口縁部	14.6	[2.9]		W.c	u/tu	P2		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙7.5YR8/4	
650 46	C.P.462		土師器	杯	口縁部	13	[2.1]		V.c	u/tu	P3		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
651 46	C.P.462		土師器	杯	底部		[1.0]	7.4	h2	u/	P2		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
652 46	C.P.466		瓦器	碗	口縁部	13.7	[2.2]		E.c	u/u.g	B1	K M	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
653 46	C.P.468		土師器	杯	底部		[1.0]	7.6	h2	u/u	P2		橙5YR7/6	橙5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	
654 46	C.P.469		瓦器	皿	口縁部	9.4	[1.2]		E.c.C	u/u.g	B1	K M1	灰白2.5Y7/1	灰黄2.5Y7/2	灰白2.5Y7/1	
655 46	C.P.470		土師器	杯	底部		[1.4]	8.8	h1	su/	P2		橙5YR6/8	刺濁7.5YR4/6	明濁7.5YR5/8	
656 46	C.P.474		土師器	杯	口縁部	11.4	[2.8]		V.c	u/u	P1		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
657 47	C.P.476		土師器	皿		8.1	1.9	5.4	V.c.h1	su/u.k	P2		にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	
658 47	C.P.476		土師器	杯	底部	12.6	4	6.4	V.c.i2	u/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
659 47	C.P.477		土師器	杯	底部		[2.3]	6.6	h2	u/tu	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
660 47	C.P.479		瓦器	碗	口縁部	14	[2.5]		F.c	u,m,u.g	B1	K M1	灰N6/	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	
661 47	C.P.482		土師器	杯	底部		[1.8]		h1	u/u	P1		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	灰5Y5/1	
662 47	C.P.482		土師器	杯	底部		[1.0]	6	il	su/u	P2		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
663 47	C.P.484		土師器	杯	底部		[3.4]	7	W	u/tu	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
664 47	C.P.486		陶器	大皿	口縁部	34.4	[3.9]						灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰白2.5Y8/2	瀬戸系瀬後期III (14C末~15C第一四半期)
665 47	C.P.487		土師器	皿		6.8	1.3	4.5	V.c	u/u.1	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
666 47	C.P.499		土師器	杯	底部		[1.0]	4.8	h2	su/u	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
667 47	C.P.500		土師器	杯	底部		[2.9]	6.7	h3	u/l	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
668 47	C.P.508		瓦器	碗	口縁部	15.4	[4.0]		G.c	u/u.g	B1	L N	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	
669 47		III	1	青磁	碗		[1.5]	5.4					灰白N7/	灰白N7/	灰白N7/	龍泉窯碗I類 (13C初~前)
670 47		III	2	青磁	碗		[3.6]	4.5					灰白N8/	灰白N8/	灰白N8/	龍泉窯碗IV類 (14C後)
671 47		III	3	青磁	碗		[2.8]	6.2					灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	龍泉窯碗I類 (13C前)
672 47		III	4	土師器	杯		[1.4]	6.4	h1	s/u.1	P2		浅黄橙7.5YR8/6	橙5YR7/8	浅黄橙7.5YR8/6	

表48 C区遺物観察表 28

遺物 No.	図版 fig.	図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考	
673	47	III	5 土師器	皿	底部		[1.0]	5.5	h2	u/lk	P2							橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8			
674	47	III	6 土師器	皿	底部		6.5	1.4	V.c.1	s/u,lk	P1							黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8			
675	47	III	7 土師器	杯	底部		[1.0]	6	h2	su/u,lk	P1							浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6			
676	47	III	9 土師器	杯	底部		[1.9]	6	h3	u/u,k	P3							浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6			
677	47	III	10 青磁	碗	底部		[2.3]	4.7										オリーブ黄7.5Y6/3	オリーブ黄7.5Y6/3	灰白7.5Y7/1		龍泉窯碗 I 類 (13C前)	
678	47	III	11 瓦器	碗	底部		4.3	3.8	E.c.1	u/u,g	B1	K	M					灰7.5Y6/1	灰7.5Y5/1	灰白7.5Y8/1			
679	47	III	12 土師器	杯	底部		[0.7]	4.5	h2	u/lk	P2							にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4			
680	47	III	土師器	杯	底部		[1.4]	6.2	h1	su/u,lk	P2							黄橙7.5YR7/6	黄橙7.8YR8/8	橙7.5YR7/6			
681	47	III	14 土師器	杯	底部		[1.3]	6.4	h2	su/u,l	P2							橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			
682	47	III	14 青磁	碗	口縁部		16.2	[4.3]										口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 4条	オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	灰白5Y7/1		龍泉窯碗 I 類4a (12C)
683	47	III	15 陶器	鉢	口縁部		23.1	[2.5]										口縁は屈曲後、内傾して立ち上がり、内側に肥厚する。(内・外) ナデ	釉灰10YR6/1	釉灰5YR4/1	灰赤2.5YR4/2		備前
684	47	III	17 瓦器	碗	底部		[2.9]	10.6	G,c	u,m/u,g	A	K	N					灰5Y6/1	灰5Y6/1	灰白5Y7/1			
685	47	III	18 土師器	杯	底部		[1.2]	5.5	h1	u/u	P1							橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6			
686	48	III	19 青磁	碗	底部		[3.0]	6										高台は断面台形を呈し、高台内を浅く削る。腰拍形を呈す。青磁軸。高台内は露胎する。	オリーブ灰5Y6/1	オリーブ灰5Y6/1	灰白N7/		龍泉窯碗 I 類 (12・13C前)
687	48	III	20 陶器	甕	胴部		[8.3]	18.6										胴部は直線的に立ち上がる。(内) ロクロ目、クロコナデ (外) ナデ	暗赤褐5YR3/3	暗赤褐5YR3/3	灰白N7/		
688	48	III	22 土師器	杯	底部		[0.7]	5.2	h1		P2							橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8			
689	48	III	22 陶器	瓶子	胴部		[2.9]											胴部は直線的に立ち上がる。(内) ナデ (外) 刻花紋、灰軸	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y8/1		瀬戸美濃
690	48	III	21 陶器	片口	口縁部		19.8	[5.8]										口縁は緩く外反する。口唇は玉縁状を成し、外側に肥厚する。注。口部は口縁下を半月形に切り取り、湾曲させた粘土帯を貼付する	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/4		
691	48	III	23 青磁	碗	底部		[1.8]	6.8										高台は断面台形を呈し、高台内を浅く削る。青磁軸 (内) 底・体部の境に洗線状の段を持つ (外) 高台内は露胎する。	オリーブ7.5Y6/2	オリーブ黄7.5Y6/3	灰白5Y7/1		龍泉窯碗 I 類 (12C)
692	48	III	24 瓦器	碗	底部		13.6	3.6	G,c.1	u/u,g	B2	K	N					灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1			
693	48	III	25 土師器	杯	底部		[1.0]	5.7	h1	u/l	P1							橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6			
694	48	III	26 土師器	杯	底部		13.8	3.8	V.c.1	u/u	P2							にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3			
695	48	III	27 瓦器	碗	底部		14	4.4	G,c.1	u,m/u,g	B2	K	N					灰N6/	灰N6/	灰N6/			
696	48	III	27 土師器	皿	底部		8.8	1.3	V.c.h3	u/u,l	P1							灰赤2.5Y7/2	黄灰2.5Y5/1	灰白2.5Y7/1			
697	48	III	28 土師器	皿	底部		6.9	1.3	W.c.h2	u/u	P1							にぶい黄橙5YR6/4	にぶい黄橙5YR6/4	にぶい黄橙5YR6/4			

表49 C区遺物観察表 29

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・ゾリッド	層位	器種	器形	部位	口径 (cm)	法量 器高	底径 脚径	形態 調整等	特徴 胎土	焼成 他	内面	色調 外面	断面	備考
698	48		III	28 土師器	皿		7.4	1.3	5.2	V.c	u/u	P2	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
699	48	C7-22	III	32 青白磁?	合子		4.4	2.1	3.4				明オリーブ灰5GY7/1	明緑灰10GY7/1	灰H8/	
700	48	C7-18	III	33 土師器	皿		8.2	1.8	5.4	V.c,h3	u/tu	P1	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
701	48	C8-22	III	35 瓦器	椀		12.8	3.8	3.2	E.c,l	u/u,g	B2	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
702	48	C7-24	III	37 瓦器	椀	口縁部	13.5	[3.3]		E.c	u/u,g	B3	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	
703	48	C7-14	III	38 瓦器	椀	口縁部	11.1	[3.3]		G.c	u/u,g	B2	黄灰2.5Y6/1	灰5Y6/1	灰白5Y6/1	
704	48	C7-13	III	39 土師器	杯	底部		[2.0]	7	il	u/u,l	P1	黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR8/8	
705	48	C8-20	III	42 土師器	杯		15	[3.8]	8.2	F.c,h2	u/u	O	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
706	48	D8-8	III	青磁	椀	口縁部	18.6	[3.4]					明オリーブ灰5GY7/1	明オリーブ灰5GY7/1	明オリーブ灰5GY7/1	龍泉窯類IV類 (14C)
707	48	D8-3	I	34 石製品	石臼	上臼	全長 18.2	全幅9.6	全厚 10.2	重量 1.550g			—	—	—	—



Fig.49 坪ノ内遺跡D区全体図 (S1/200)

第3節 D区の調査

D区では、調査対象とする層準と層序の関係が基本的に先行のC区と一致する。また、D区はC区に対し沖積環境面で高位側に立地するが、等層準間上昇幅も最大0.6m程度に止まる。それゆえ、D区の調査はC区の工程を踏襲した。地層の把握と排水対策を兼ねる第3トレンチを調査区東境に開削するが、河成層の掘削を省く。D区の河成層に関しては、井戸跡SE1の調査で拡張裁断に及ぶため検出遺構で触れる。河成層を覆う個別の各層（第I～IV層）も、本章第1節で述べた基本層序の範疇にあるため、D区で微昇した等層準標高値の概数（調査区中央）のみを下に摘要して、節文に移りたい。

1. 第I層 耕作土：標高4.8～4.6m 圏 2. 第II層 鋤床：標高4.6mを上下する（薄層）

3. 第III層 中世文化層：標高4.6～4.3m 圏 4. 第IV層 遺構掘り込みの主たる基盤：標高4.3～4.1m 圏

なお、遺構の減少する調査区北端部では、第IV層底が標高4.5m付近まで上昇している。また、Fig.62には遺構密集帯西境の第I～IV層断面図を併載している。

1 D区検出遺構

D区の検出遺構全体は、柱穴跡（P）371基・素掘り井戸跡（SE）3基・土坑跡（SK）20基・溝跡（SD）3条からなる。特に柱穴分布は、C区との境界に近い本調査区南部で密度が非常に高い。その半面、調査区中南部をW15.0°Nの方位で横断する溝跡SD-C以北では、検出柱穴数が画然と低減する。この点、C区の柱穴検出密度が北部の密集帯をピークに、南に向かって漸減した様相とはやや異質と言える。いずれにしろ、地上建築物の痕跡という点では、C区北部からD区南部の一带に数的中心が存在する。本項でも、これら柱穴群で構成する中世の掘立柱建物跡と柵列跡、ついで木組井戸跡・溝跡の順に述べる。素掘り井戸跡SE3および土坑跡SK3・5・6・8・16・17に関しては、紙数の関係から、関係各図版（Fig.72—Fig.77）の地層注記に際して説明を加える。

1.掘立柱建物跡（Fig.50-Fig.55）

D区で検出した掘立柱建物跡は7基であり、総柱型4基（SB1・SB2・SB6・SB14）・四面庇型1基（SB20）・梁間1間型1基（SB10）および型式不明1基（SB19；隅柱が遺存）からなる。相互に近接するSB1とSB14を例外に置けば、柱筋の通りが整然としている点もC区と同様であるほか、SB1・SB2・SB6・SB10の4基では、桁行または梁間の方位が北偏東14.5°～16.0°（N14.5°E～N16.0°E）の近似値で分布する点も、すでにC区で見たSB3を始めとする7基の特徴に通じる。また、C区の二面庇型建物跡SB16が、遺構密集帯を画す溝跡SD-A以東の希薄帯における検出であるのに対し、D区の四面庇型建物跡SB20の場合も溝跡SD-Cを北に超えた遺構希薄帯で検出している。ただし、両基の桁行方位を比較すると、SB20の対北偏東度はSB16を8.3°上回る18.7°の値を示しており、方位設計上はむしろ顕著な差異に属す。詳細なデータは図表に譲り、D区で検出した掘立柱建物跡7基の摘要を以下に述べる。

1) SB1 掘立柱建物跡（Fig.50）：SB1は、桁行3間×梁間2間の総柱型として図面検出した掘立

柱建物跡であるが、総延 17 間を数える柱間において、 $90^{\circ} \cdot 180^{\circ}$ の交角を顕著に逸脱するものが過半に及ぶ。これら 12 基の柱穴群を 1 棟構成と見た理由は次の点による。まず、隅柱位置の柱穴 4 基による桁筋と梁筋は直交を維持する。また、柱間距離から見当立てた桁行 (6.5 尺 + 8.5 尺 + 7.5 尺) × 梁間 (8 尺 + 7 尺) 規模の想定下に、実測値から逆算した 1 尺平均値は 0.30214m を示す。この数値は、渡来以来数値は左程変化しないとされる曲尺の現行値 $10\text{m}/33=0.30303\dots\text{m}$ (折衷尺) に極めて近い。さらに、本章第 1 節で言及したように、C 区の河成層では過去の地震痕跡が認められ、地盤変動の潜在は念頭に置くべき要素といえる。局所的な柱筋の乱れは、西隣の SB14 (Fig.53- 図 2) でも一部に現れる。以上の点を総合して建物跡に加えた SB1 の桁行平均全長は 6.61m、それら平均方位は西から 15.17° 北に寄る $W15.17^{\circ}N$ を指す。平均全長 4.63m を測る梁間との交角平均値は、 91.26° である。構成する柱穴 12 基の過半に当たる 7 基では、それら断面に土壤置換の柱痕が明瞭に認められる (Fig.56)。

2) SB2 掘立柱建物跡 (Fig.51): SB2 は桁行 5 間・梁間 2 間の規格整然とした総柱型建物跡であり、18 基構成の柱穴すべてを検出した。これらうち 10 基の断面に土壤置換の柱痕が見られる。平均 90.00° で交わる桁行・梁間の平均全長は各々 10.75m・4.30m を測る。桁行の平均方位は西から 15.87° 北に寄る $W15.87^{\circ}N$ を指し、北に約 0.8m を隔て並行する溝跡 SD-C の方位 $W15.0^{\circ}N$ に近い。総計 27 対、総延 58.05m の柱間に間隔差は微小なうえ、1 間平均 2.14992m の値は明らかに 7 尺単一の柱間設計を示す。ここから逆算する 1 尺は 0.30713m の値となり、建築当時の曲尺値に接近するものと思われる。SB2 西側梁間と前掲 SB1 東側梁間の柱穴各 3 基は、交互に同一線を共有して直列するため、近似方位ながら両棟に時期差が存在する。また、SB2 中央桁行き東端の柱穴 DP356 は、素掘り井戸跡 SE3 の埋積後に掘り込まれている。

3) SB6 掘立柱建物跡 (Fig.52): SB6 は長辺側が北偏東 16.0° ($N16.0^{\circ}E$) の方位を指す建物跡であり、無検出もしくは後世消滅した柱穴も想定される。東辺側の DP258 は、溝状の土坑 SK16 によって南半を切削された柱穴の残存である。Fig.52 において柱間を結線で結んだ 16 基の柱穴群に対し、1 棟分の記号 (SB6) を割当てているが、等方位建ての複数棟が重なる可能性も強い。1 棟の場合でも、次のような二様の平面図式が可能である。DP159 — DP233 — DP258 — DP281 の 7 尺等間 3 間が長辺を成す点は共通するが、梁間を DP129 — DP146 — DP159 で構成する 8 尺 5 寸 + 8 尺の 2 間と見るのがその一つである。いま一つは、同じ柱筋を DP129 — DP144 — DP147 — DP159 で構成する 5 尺 5 寸等間 3 間と見立てるものであるが、交叉する柱間いずれもが奇数となるため採りにくい。次に、複数棟を想定する場合は更に複雑となり、次の 6 通りが考えられる。その第一として、DP144 — DP147 — DP159 の 5 尺 5 寸等間 2 間を梁間とし、DP159 から DP281 に至る 7 尺等間 3 間を桁行きとする 1 棟が可能となる。一方、これと同規模かつ同方位の建物跡として、DP129 — DP144 — DP147 の 5 尺 5 寸等間 2 間を梁間とし、DP147 から DP276 に至る 7 尺等間 3 間を桁行きとする別棟も可能性があり、両立はしない。これらは、建物長辺を南北に想定するものであるが、東西を仮定するケースでは、DP129・DP159・DP227・DP233 を隅柱とする 7 尺単間 × (8 尺 5 寸 1 間 + 8 尺 1 間)、もしくは 7 尺単間 × 5 尺 5 寸等間 3 間の可能性がまず考えられる。これらと同時に並存も不可能でない南隣別棟として、DP257 (または DP258)・DP281・DP269 を三方の隅柱とす

る9尺5寸（または7尺）単間×5尺5寸等間2間の建物跡が想定できる。以上のように構成棟数を決し難いSB6の短辺側と長辺側の平均全長は、各々5.015mと6.430mであり、整理に当って適用した見当尺の1尺平均逆算値は0.30428mと算出される。

4) SB10 掘立柱建物跡 (Fig.53- 図1) : SB10は、桁行7尺4間等間×梁間9尺5寸単間の梁間1間型建物跡であり、C区とD区に跨って検出した。平均全長8.545mを測る桁行柱筋の平均方位は、西から16.00°北に寄るW16.00°Nを指す。これと平均88.66°で交わる短辺の単間平均値は2.836mである。上に適用した見当尺の1尺平均逆算値は、長辺で0.30518m、短辺で0.29853m、総平均0.30186mとなる。構成する柱穴跡全10基のうち、掘り方の検出長径（平均0.56m）が短辺方位に偏るものが7基を占める。また、南辺中央の柱穴跡CP74の完全な断面が調査区境界の地層に露出する (Fig.53- 図1下段)。侵食によって上部を削失したと見られるCP74の遺存口部は標高4.58mの水準で厚さ10cm前後の細砂層に覆われる。また、CP74の西隣には本調査最大である掘立柱建物跡SB3 (C区)の北側中央柱穴CP70北縁が露出する。このCP70侵食面を覆う地層自体がSB10のCP74に掘り貫かれる関係から、SB10の建築はSB3廃絶後と判明する。

5) SB14 掘立柱建物跡 (Fig.53- 図2) : SB14は、溝跡SD-Cを跨いで検出した唯一の建物跡であり、桁行3間（平均6.21m）×梁間2間（平均3.90m）の総柱型に属す。構成柱穴は全て揃うが、D区検出建物跡の中では南東至近のSB1と並んで柱筋・柱間の乱れが大きい。唯一、一直線に柱穴跡4基が並ぶ西辺桁行が北から9.9°東に寄るN9.9°Eの方位を指すのに対し、中・東の桁行方位は各々N12.8°E・N11.3°Eと差異を見せる。それらの平均値N11.33°Eに対して梁間筋4条の平均方位は西から9.08°北に寄るW9.08°Nであり、桁行・梁間の平均交角も92.25°と傾斜した数値を示す。柱間距離も不揃いだが、全体の実測値を総合すれば、桁行7尺等間・梁間6尺5寸等間の見当が妥当と思われる。この柱間規格を前提とする1尺逆算値は、梁間で0.29981m、桁行で0.29571mとなり、総体縮小傾向の数値に帰結する。この数値に関しては、やはりSB1の箇所でも指摘した地盤変動の潜在要素を除外した評価は不可能と見られる。構成柱穴の長径は0.50m前後が主流を占める。これらのうち、東側桁行の掘り方は埋積済み溝跡SD-Cを貫通するため、北面区画溝の一つと目されるSD-Cに対して明らかに時期が下る。この柱穴には南側のみ未分解の柱根（高0.37m、幅0.08m、Max）が立勢で遺存する。柱芯横断線下に縦割した埋積層断面DP331 (Fig.60- 図1)では、柱基水準における粘土置換部を含む柱痕の最大幅は0.17mを測る。柱底と柱穴底の間に備前播鉢片1点が挟まる。柱基の南側面には、φ140mm、Max級の硬質砂岩礫断片が分布する。これら断片は立柱時に込めた根固め石と見られる。同様に備前陶片が挟まる例は、同じ桁行南隅柱DP130 (Fig.59- 図6)の柱痕芯底でも検出している。柱自体は分解済みだが、柱痕基部の断面最大幅は0.18mを測る。また、西側桁行DP94 (Fig.58- 図6)も残存柱痕が土壌に置換したと推定しており、基部断面最大幅は0.16mである。このほか、柱あるいは柱根を抜去した後、空虚となった柱痕に文化層主体の土壌や硬質砂岩の大型方形断片を投入したと解される例は、1直線の柱筋を構成する西側桁行4基中の2基DP106・DP121である。両者断面の柱痕基部最大幅は、各々0.17m・0.18mを測る。硬質砂岩礫断片は、いずれも土砂投入の途中に柱跡上部の横断面を1個で塞ぐような形態であり、意図性を強く感じる。特にDP106の例では、柱穴検出面に現れたその方形断片の平面形と、直下柱痕

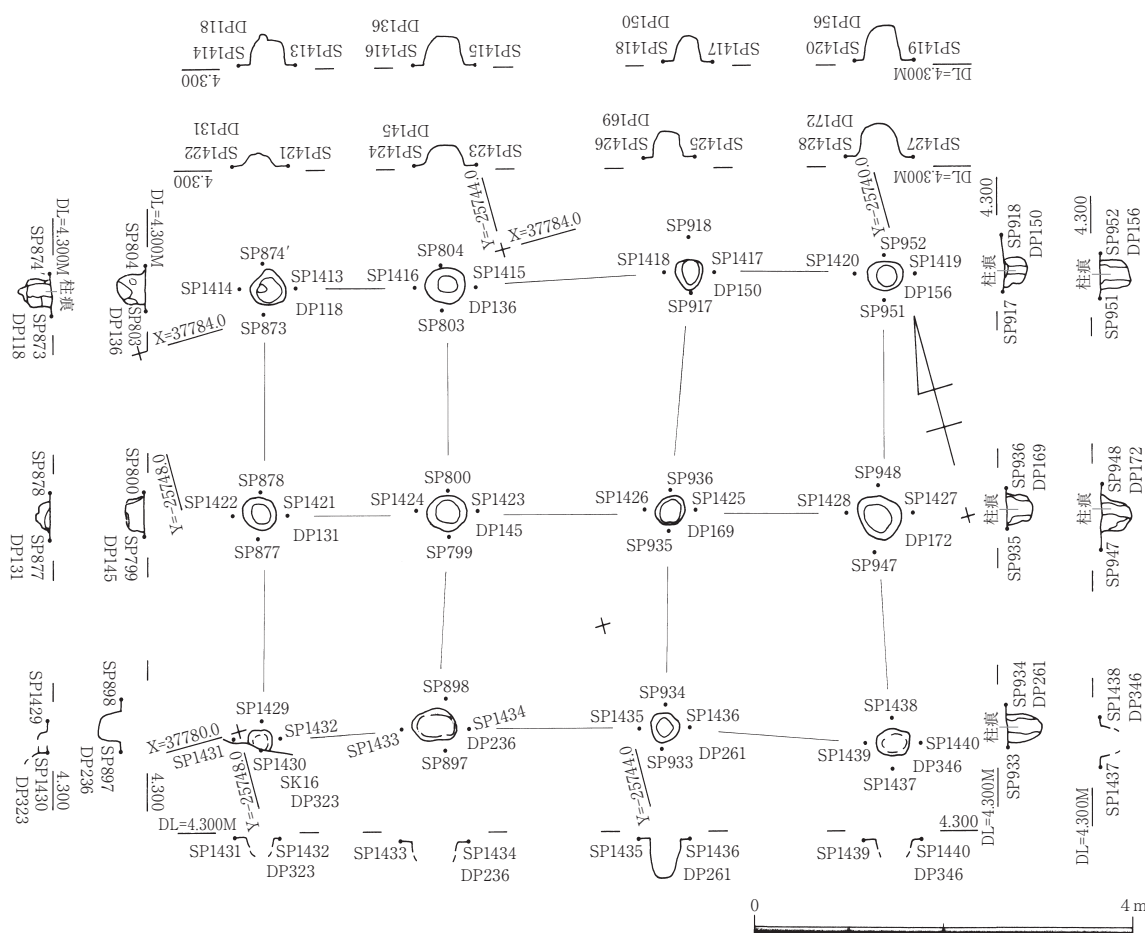


Fig. 50 D区 SB1 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間	梁間第1筋	計測m	見当尺	梁間第2筋	計測m	見当尺	梁間第3筋	計測m	見当尺	梁間第4筋	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位	
D区SB1	柱の痕跡			柱の痕跡			柱の痕跡			柱の痕跡							
桁行第1筋	DP118	1.95	6.5尺	DP136	2.59	8.5尺	DP150	2.07	6.5尺	DP156	6.61m	3間	2.203m	6.5尺・8.5尺・6.5尺	0.30744m	W14.3°N	
柱の痕跡	柱筋有り			柱筋有り			柱筋有り			柱筋有り							
計測m 見当尺	2.36 8尺			2.31 7.5尺			2.46 8尺			2.47 8尺							
桁行第2筋	DP131	1.98	6.5尺	DP145	2.35	7.5尺	DP169	2.20	8.5尺	DP172	6.54m	3間	2.180m	6.5尺・7.5尺・8.5尺	0.29066m	W15.3°N	
柱の痕跡	柱筋有り			柱筋有り			柱筋有り			柱筋有り							
計測m 見当尺	2.25 7尺			2.18 7尺			2.17 7尺			2.32 7.5尺							
桁行第3筋	DSK16切	1.83	6尺	DP236	2.42	8尺	DP261	2.44	8尺	DP346	6.68m	3間	2.227m	6尺・8尺・8尺	0.30364m	W15.9°N	
柱の痕跡	↑DP323			柱筋有り			柱筋有り			柱筋有り							
柱筋直線長	4.62m			4.49m			4.63m			4.78m	総延38.35m	計9間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋	
検出間数	2間			2間			2間			2間	計8間	総計17間	2.20333m	6.5尺~8.5尺?	平均方位	平均方位	
1間平均値	2.310m			2.245m			2.315m			2.390m	総平均	2.31500m	変形か?	総合	0.30058m	↑	
1間見当尺	8尺・7尺			8尺・7.5尺			8尺・7尺			8尺・7.5尺	尺度規格	8尺~7尺?	総合	変形か?	総合1尺値	W15.17°N	
1尺逆算値	0.30800m			0.28968m			0.30867m			0.30839m	1尺平均逆算値	0.30369m	総合	変形か?	総合1尺値	0.30214m	平均交角
柱筋方位	N15.5°E			N16.9°E			N18.9°E			N14.4°E	柱筋 平均方位	—	—	N16.43°E	平均交角	91.26°	

表 50 D区 SB1 柱筋計測表

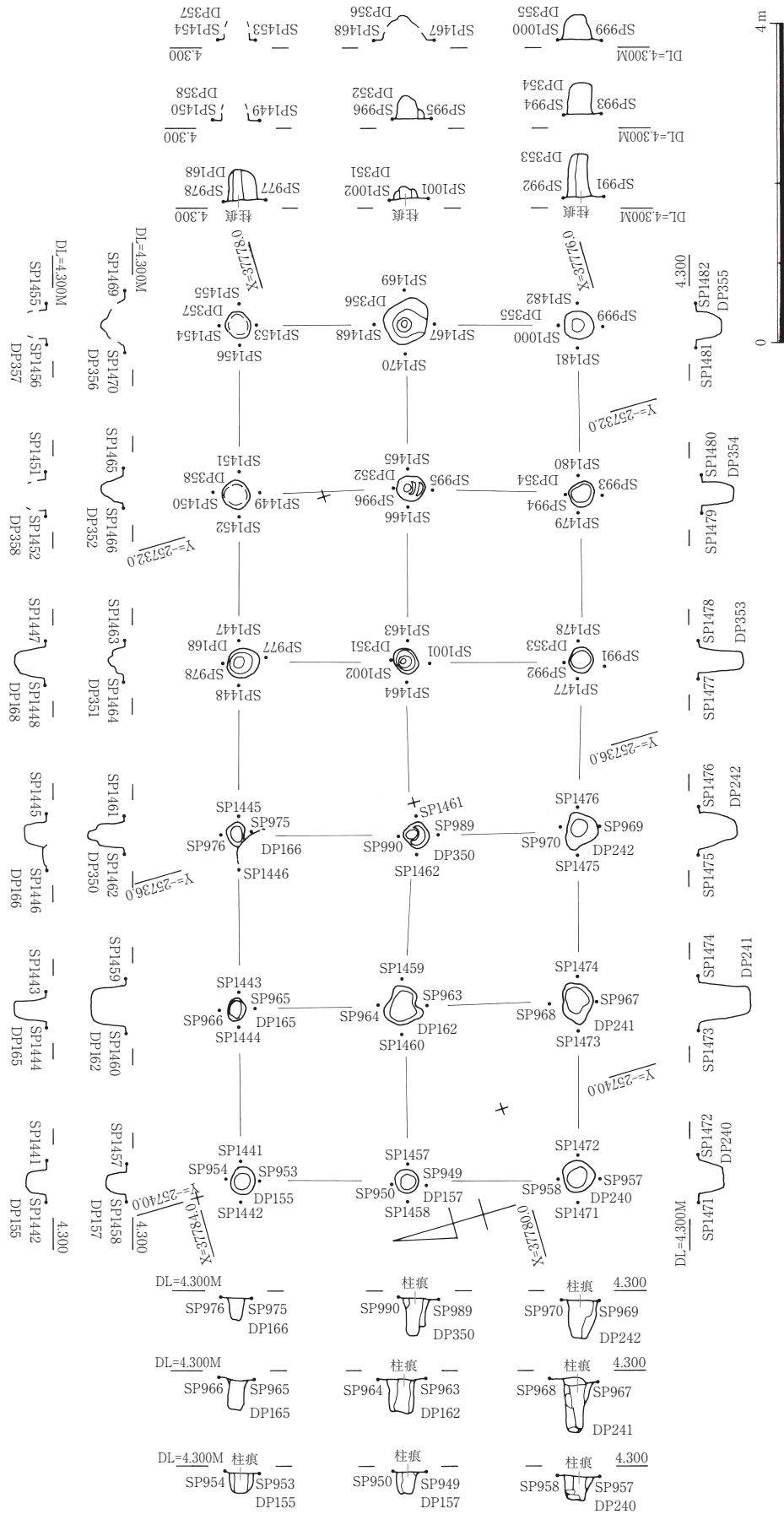


Fig. 51 D区 SB2 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

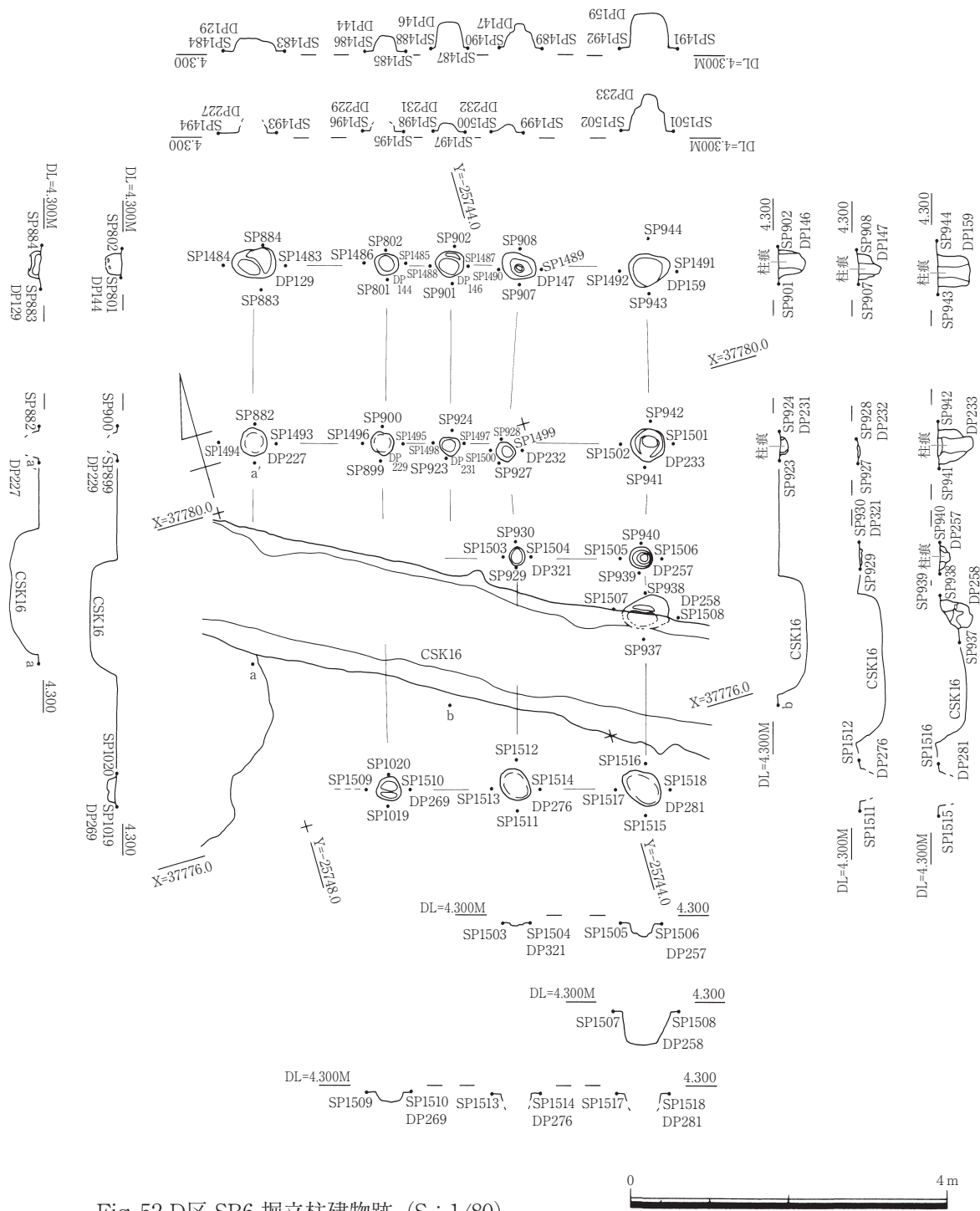


Fig. 52 D区 SB6 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋種類	桁行第1筋	桁間m	見当尺	桁行第2筋	桁間m	見当尺	桁行第3筋	桁間m	見当尺	桁行第4筋	桁間m	見当尺	桁行第5筋	桁間m	見当尺	柱筋位置	埋設位置	1階平均高	1階見当尺	1尺埋設高	柱筋方位
埋設第1筋	DP129	1.72	5.5	(DP144)	0.82	2.75	(DP146)	0.87	2.75	(DP147)	1.60	5.5	DP159	5.01m	埋設位置	1.670m	5尺5寸	0.30364m	W16.9°N		
桁筋第1筋																					
埋設第2筋	DP227	1.64	5.5	(DP229)	0.86	2.75	DP231	0.71	2.75	DP232	1.816	(6.5)	DP233	5.02m	埋設位置	1.673m	5尺5寸	0.30424m	W16.0°N		
桁筋第2筋																					
埋設第3筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第3筋																					
埋設第4筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第4筋																					
埋設第5筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第5筋																					
埋設第6筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第6筋																					
埋設第7筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第7筋																					
埋設第8筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第8筋																					
埋設第9筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第9筋																					
埋設第10筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第10筋																					
埋設第11筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第11筋																					
埋設第12筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第12筋																					
埋設第13筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第13筋																					
埋設第14筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第14筋																					
埋設第15筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第15筋																					
埋設第16筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第16筋																					
埋設第17筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第17筋																					
埋設第18筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第18筋																					
埋設第19筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第19筋																					
埋設第20筋	SK16埋設筋?																				
桁筋第20筋																					

表 51 D区 SB6 柱筋計測表

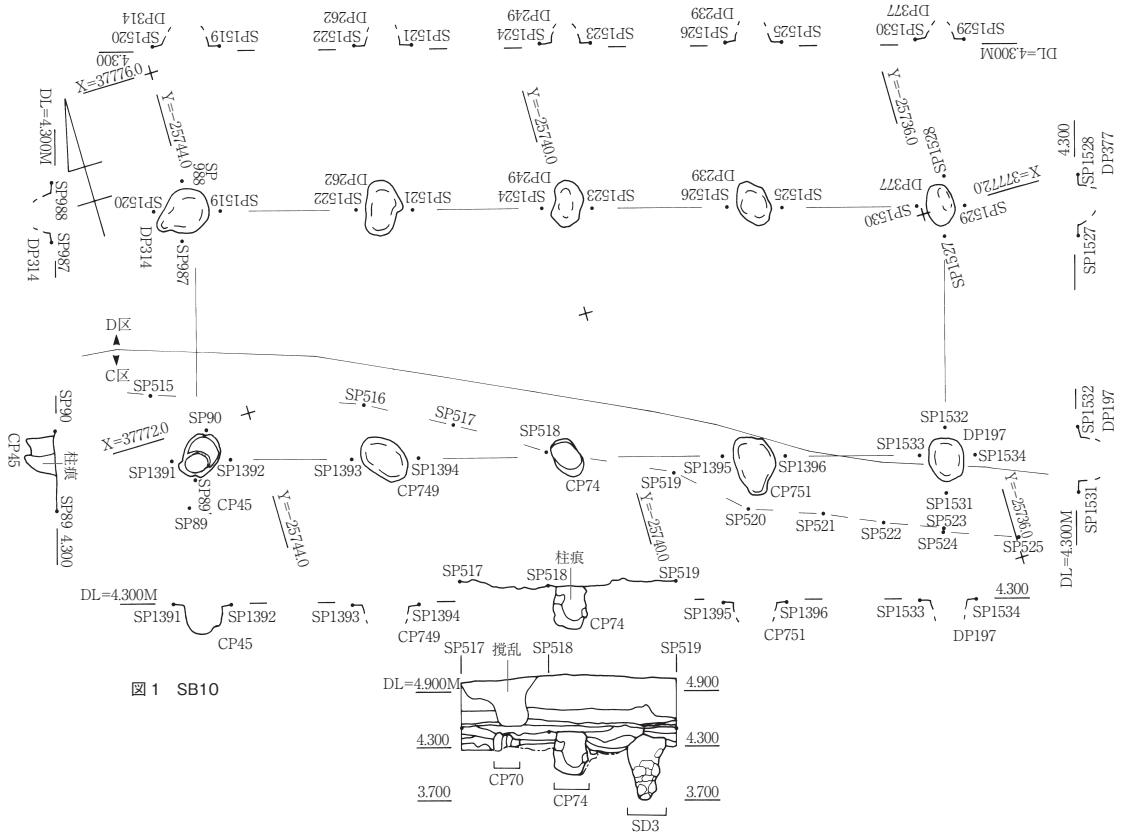


图 1 SB10

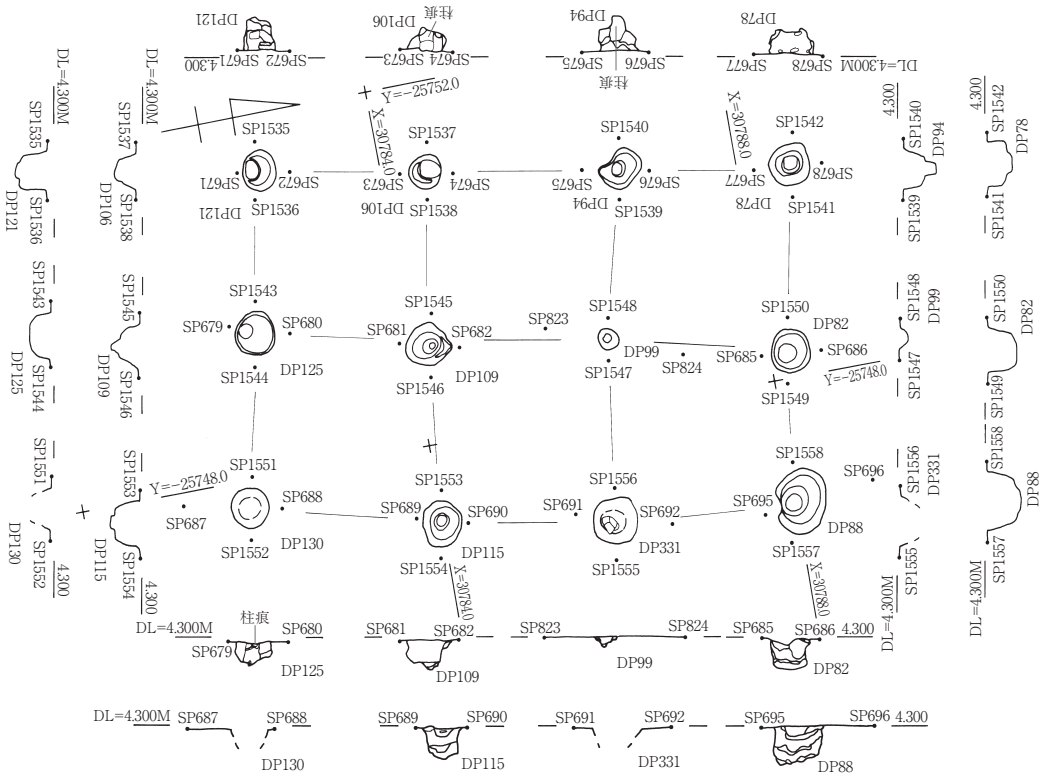


图 2 SB14

Fig. 53 D区 SB10 · SB14 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

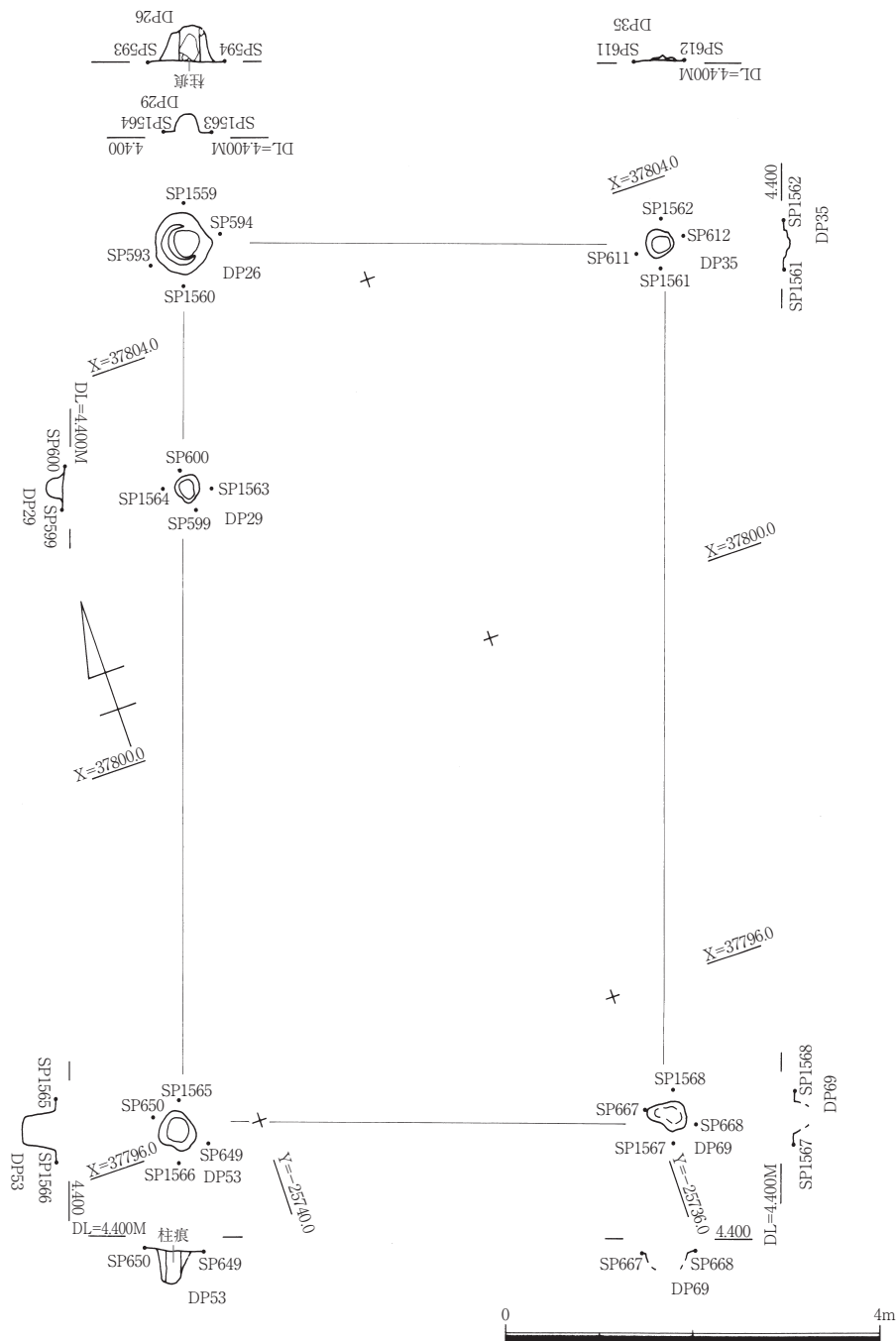
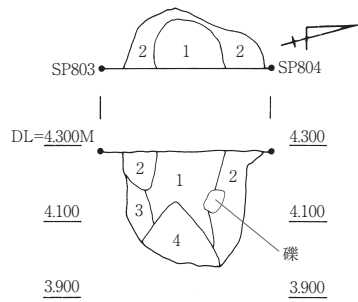


Fig. 54 D区 SB19 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

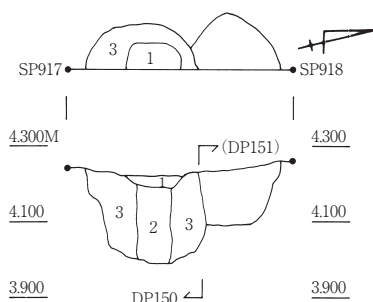
の平面形がほぼ完全に一致する。更に、検出面における柱痕平面形が方形に近い例として DP121・DP125・DP131 があり、いずれも柱穴底に達する。以上の整理結果に基づき摘要するなら、少なくとも SB14 は方柱を用いた 3 間× 2 間の総柱型掘立柱建物跡であり、区画溝 SD-C 埋没後に、これを跨いで建てられたと言える。

6) SB19 掘立柱建物跡 (Fig.54) : SB19 は、やや大型ながら隅柱と見られる柱穴 4 基のほかは、西側柱の柱穴 1 基のみを検出した建物跡の小存である。これを建物跡と見なした理由は、検出した



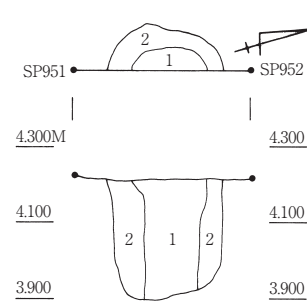
1. 粘土質シルト(オリープ褐色 2.5Y4/4)：泥岩碎屑物少混；炭化物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黒褐色 2.5Y3/2)：泥岩碎屑物少混；炭質物多。
3. 粘土質シルト(黒褐色 2.5Y3/2)：泥岩碎屑物少混；炭質物多。
4. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/3)：泥岩碎屑物少混。

図1 SB1-DP136
上 保留検出面
下 半裁断面



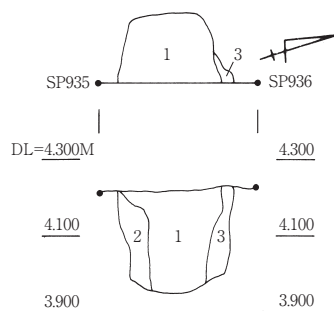
1. 礫混じり粘土質シルト(黒褐色 10YR3/2)：礫は泥岩碎屑物。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2)：土壌置換の柱痕；炭化物・土器片を含む。
3. 粘土質シルト(オリープ褐色 2.5Y4/4)：泥岩碎屑物少混；炭化物・土器片を含む。

図2 SB1-DP150
上 保留検出面
下 半裁断面



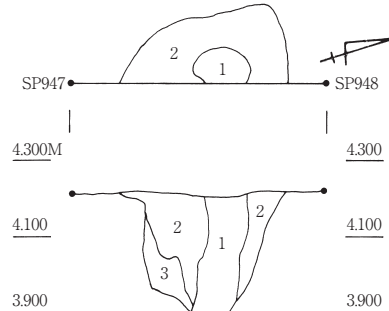
1. シルト質粘土(黄灰色 2.5Y4/1)：土壌置換の柱痕；炭化物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/4)：泥岩碎屑物少混。

図3 SB1-DP156
上 保留検出面
下 半裁断面



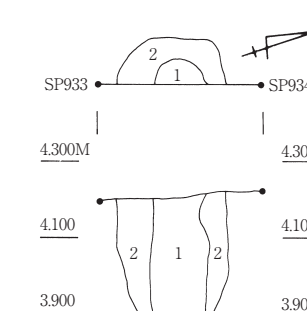
1. 粘土質シルト(黒褐色 2.5Y3/2)：土壌置換の柱痕；円礫φ 5mm.Max少混；炭化物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(にぶい黄色 2.5Y6/3)：泥岩碎屑物・炭化物少混。
3. 礫混じり粘土質シルト(オリープ褐色 2.5Y4/4)：礫は泥岩碎屑物φ 50mm.Max級。

図4 SB1-DP169
上 保留検出面
下 半裁断面



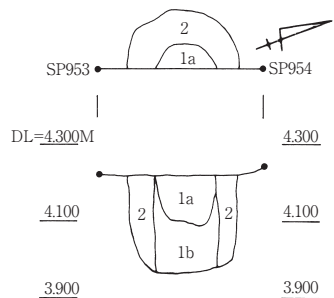
1. 粘土質シルト(褐灰色 10YR4/1)：土壌置換の柱痕；角礫φ 50mm.Max級・炭化物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y5/1)：泥岩碎屑物φ 30mm.Max級・土器片を含む。
3. 粘土質シルト(にぶい黄色 2.5Y6/4)

図5 SB1-DP172
上 保留検出面
下 半裁断面



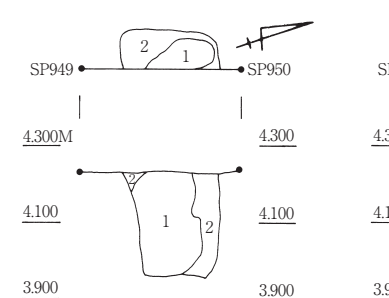
1. 礫混じり粘土質シルト(灰色 5Y4/1)：土壌置換の柱痕；礫は泥岩碎屑物；炭化物多混。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/3)：第IV層ブロック・泥岩碎屑物が混じる。

図6 SB1-DP261
上 保留検出面
下 半裁断面



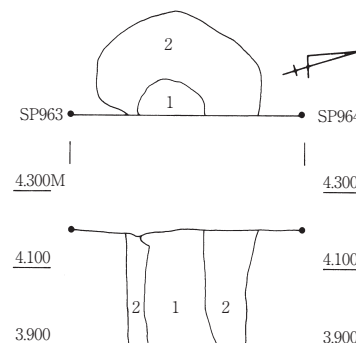
- 1a. シルト質粘土(暗灰黄色 2.5Y5/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物・炭化物少混。
- 1b. シルト質粘土(暗灰黄色 2.5Y4/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/4)：泥岩碎屑物・炭化物少混。

図7 SB2-DP155
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物・円礫少混；炭化物を含む。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2)：第IV層断片が混在。

図8 SB2-DP157
上 保留検出面
下 半裁断面

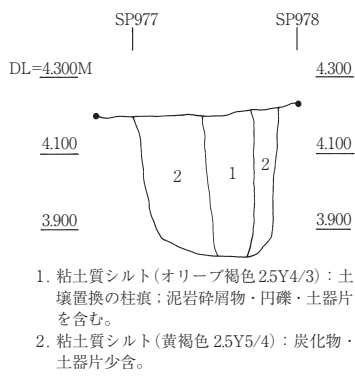


1. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：円礫・角礫φ 50mm.Max級少混；炭化物・土器片少混。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/3)：泥岩碎屑物少混。

図9 SB2-DP162
上 保留検出面
下 半裁断面

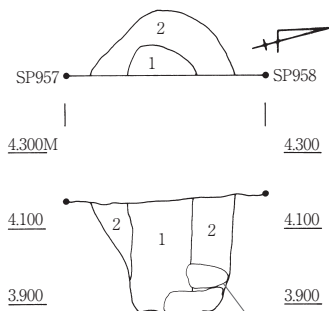


Fig. 56 D区 掘立柱建物跡SB1・SB2の柱穴 (S：1/20)



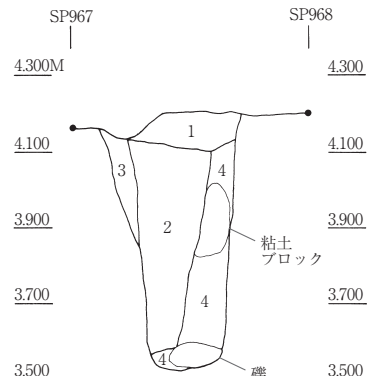
1. 粘土質シルト(オリブ褐色 2.5Y4/3): 土壌置換の柱痕; 泥岩碎屑物・円礫・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/4): 炭化物・土器片少含。

図1 SB2-DP168
半裁断面



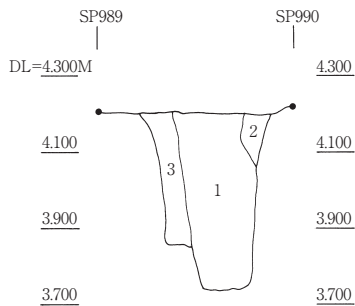
1. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2): 泥岩碎屑物φ10mm.Max少混; 炭化物を含む。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2): 泥岩碎屑物少混; 基底に泥岩角礫φ100mm.Max有り。

図2 SB2-DP240
上 保留検出面
下 半裁断面



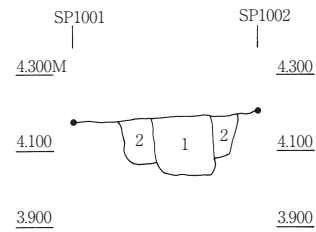
1. 礫混じり粘土質シルト(淡黄色 2.5Y8/4): 礫は角礫φ50mm.Max級。
2. 礫混じり粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2): 土壌置換の柱痕; 礫は泥岩碎屑物; 炭化物多含。
3. 粘土(灰黄色 2.5Y6/2): 泥岩碎屑物少混。
4. 粘土(黄褐色 2.5Y5/3): 泥岩碎屑物少混。

図3 SB2-DP241
上 保留検出面
下 半裁断面



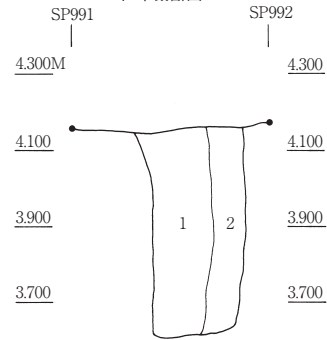
1. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2): 泥岩碎屑物少混; 土器・炭化物を含む。
2. 粘土質シルト(黄褐色 2.5Y5/4): 土壌置換の柱痕。
3. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2): 円礫φ20mm.Max級少混; 土器・炭化物を含む。

図4 SB2-DP350
半裁断面



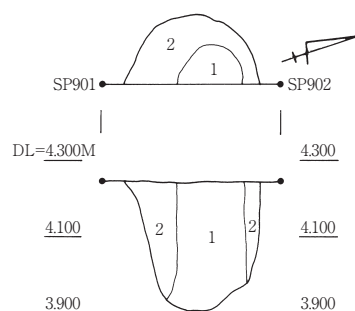
1. 礫混じり粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2): 土壌置換の柱痕; 泥岩碎屑物多混; 炭化物を含む。
2. 粘土(暗灰黄色 2.5Y5/2): 泥岩碎屑物少混。

図5 SB2-DP351
半裁断面



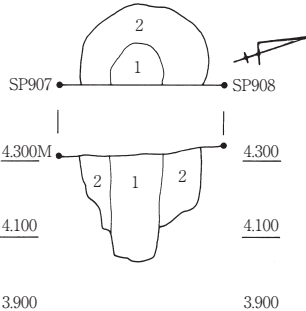
1. 礫混じり粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2): 土壌置換の柱痕; 礫は泥岩碎屑物。
2. 粘土(灰黄色 2.5Y6/2): 泥岩碎屑物少混。

図6 SB2-DP353
半裁断面



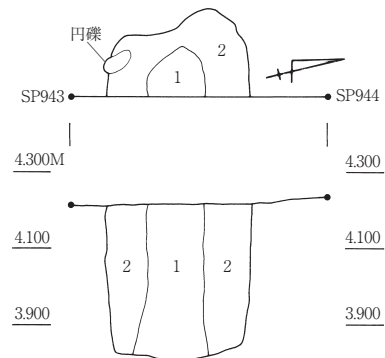
1. 礫混じり粘土質シルト(黒褐色 10YR3/1): 土壌置換の柱痕; 礫は泥岩碎屑物; 炭化物・土器片を含む。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2): 泥岩碎屑物・炭化物少含。

図7 SB6-DP146
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 粘土質シルト(黒褐色 10YR3/1): 土壌置換の柱痕; 礫は泥岩碎屑物・円礫φ10mm.Max級。
2. 粘土質シルト(黒褐色 10YR3/2): 泥岩碎屑物・円礫φ10mm.Max級少混。

図8 SB6-DP147
上 保留検出面
下 半裁断面

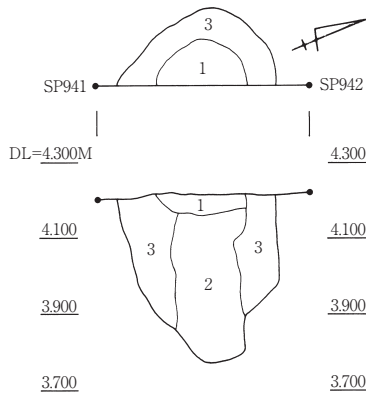


1. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2): 土壌置換の柱痕; 泥岩碎屑物・炭化物少含。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2): 礫は泥岩碎屑物・円礫φ50mm.Max級少混。

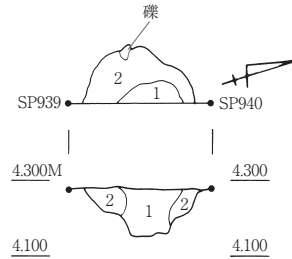
図9 SB6-DP159
上 保留検出面
下 半裁断面



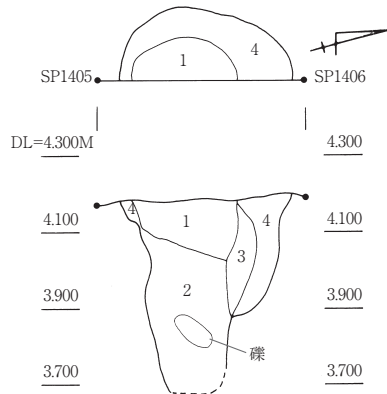
Fig. 57 D区 掘立柱建物跡SB2・SB6の柱穴 (S: 1/20)



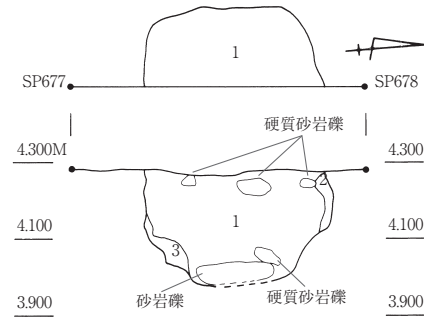
- 図1 SB6-DP233
上 保留検出面
下 半載断面
1. 礫混じり粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2)：礫は泥岩碎屑物φ 30mm.Max級。
 2. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：土壌置換の柱痕；炭化物やや多。
 3. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：礫は泥岩碎屑物・円礫φ 100mm.Max級；炭化物を含む。



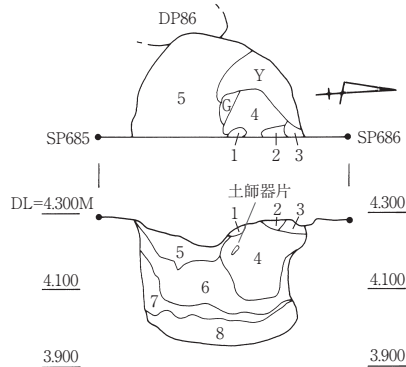
- 図2 SB6-DP257
上 保留検出面
下 半載断面
1. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物・円礫φ 5mm.Max少混。
 2. 粘土質シルト(黄灰色 2.5Y4/1)：泥岩碎屑物少混。
 3. 粘土質シルト(オリーブ褐色 2.5Y4/3)：土器片を含む。



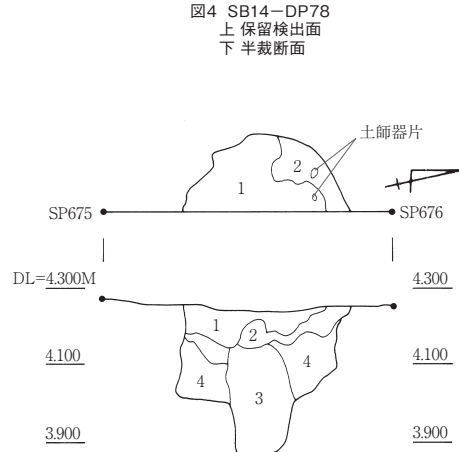
- 図3 SB7-DP311
上 保留検出面
下 半載断面
1. 礫混じり粘土質シルト(灰色 5Y4/1)：礫は泥岩碎屑物；土器片・炭化物を含む。
 2. 粘土質シルト(灰色 5Y5/1)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物・炭化物少含。
 3. 粘土質シルト(灰オリーブ色 5Y5/2)：泥岩碎屑物少混。
 4. 粘土質シルト(灰オリーブ色 5Y4/2)：泥岩碎屑物少混。



- 図4 SB14-DP78
上 保留検出面
下 半載断面
1. 礫混じりシルト質粘土(黒褐色 7.5YR2/2)：混礫は硬質砂岩φ 90mm.Max級。炭化物・土器片多含。基底の扁平な砂岩礫φ 200mmは礎石と見られる。
 2. 砂混じり粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：第IV層断片が主体；泥岩碎屑物・炭化物少混。
 3. 砂混じり粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：砂は泥岩碎屑物主体；炭化物φ 5mm.Max微含。



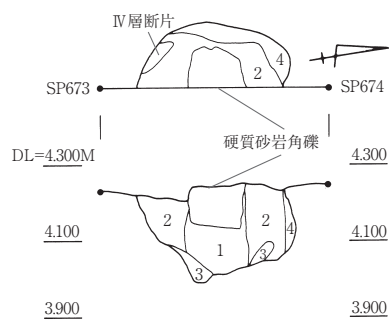
- 図5 SB14-DP82
上 保留検出面
下 半載断面
1. シルト質粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：第IV層断片。
 2. シルト質粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：第IV層断片；泥岩碎屑物φ 5mm.Max微含。
 3. シルト質粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：第IV層断片；泥岩碎屑物微含；2より暗い。
 4. 砂礫混じり粘土(黒褐色 7.5YR3/1)：礫は泥岩碎屑物主体；炭化物多；土器器片有り。
 5. 礫混じり粘土(黒褐色 7.5YR3/1)：礫は泥岩碎屑物φ 30mm.Max主体；炭化物多含。
 6. シルト質粘土(にぶい黄色 2.5Y6/3)：第IV層断片の集合；泥岩碎屑物と砂利が微混。
 7. 砂礫混じり粘土(黒褐色 7.5YR3/1)：第IV層断片と炭化物φ 10mm.Max少含。
 8. 粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：泥岩碎屑物φ 10mm.Max微混；炭化物φ 10mm.Max少含。



- 図6 SB14-DP94
上 保留検出面
下 半載断面
1. 角砂礫混じり粘土(黒褐色 7.5YR2/2)：礫は泥岩碎屑物主体；炭化物φ 10mm.Max多含。
 2. シルト質粘土(灰黄褐色 10YR4/2)：第IV層断片が主体；泥岩碎屑物φ 30mm.Max微混；炭化物少含。
 3. 粘土(黒褐色 10YR3/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物φ 20mm.Max微混；炭化物φ 10mm.Max多含。
 4. 砂礫混じり粘土(黒褐色 10YR3/2)：泥岩碎屑物φ 10mm.Max少混；炭化物φ 5mm.Max多含。

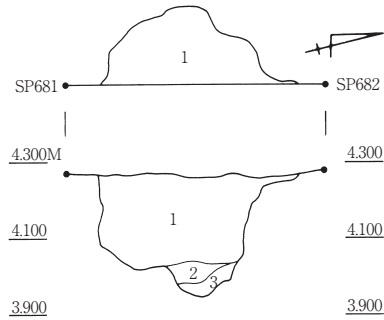


Fig. 58 D区 掘立柱建物跡SB6・SB7・SB14の柱穴 (S : 1/20)



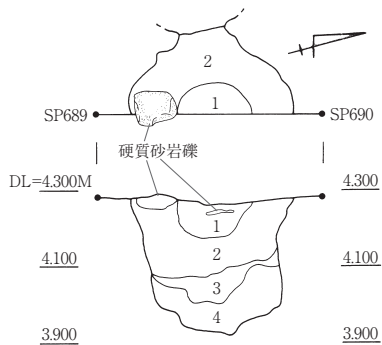
1. シルト質粘土(黒褐色10YR2/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物φ30mm.Max主体；炭化物φ5mm.Max多含；柱痕完全の硬質砂岩角礫φ120×110×80mm(方形)が含まれる。
2. シルト質粘土(黒褐色10YR2/2)：1に似るが、泥岩碎屑物の混量が上回る。
3. 粘土(灰黄褐色10YR4/2)：炭化物φ2mm.Max微含。
4. 砂質シルト(暗褐色10YR3/3)：泥岩碎屑物φ10mm.Max・炭化物φ3mm.Max少含。

図1 SB14-DP106
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR3/2)：礫は泥岩碎屑物φ20mm.Max主体；炭化物多；土師器片を含む。
2. 砂礫混じり粘土(灰黄褐色10YR4/2)：礫は泥岩碎屑物・円礫φ30mm.Maxで構成。
3. 砂混じり粘土(暗灰黄色2.5Y5/2)

図2 SB14-DP109
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR3/2)：礫は泥岩碎屑物φ30mm.Maxが主体；炭化物多含。
2. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR3/1)：礫は泥岩碎屑物φ20mm.Maxが主体；炭化物多含。
3. シルト質粘土(灰黄褐色10YR4/2)：第IV層断片が主体；泥岩碎屑物・炭化物微含。
4. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR2/2)：礫は泥岩碎屑物φ10mm.Max主体；炭化物多含。

図3 SB14-DP115
上 保留検出面
下 半裁断面

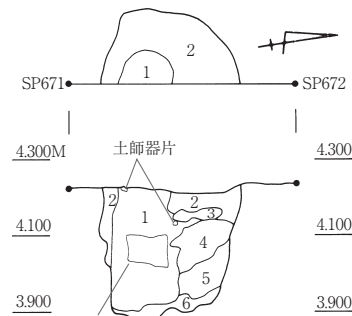
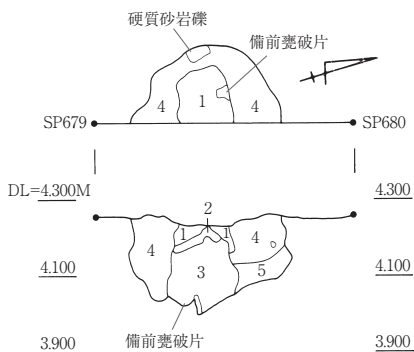


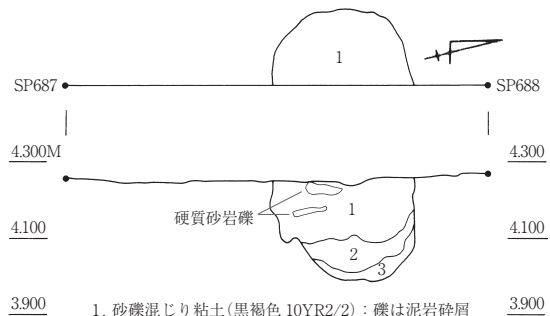
図4 SB14-DP121
上 保留検出面
下 半裁断面

1. 粘土(黒褐色7.5YR3/1)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物φ5mm.Max微混；炭化物φ10mm.Max少含；硬質砂岩角礫φ120×110×80mm(方形)を含む。土師器片有り。
2. 粘土(黒褐色10YR2/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物φ5mm.Max微混；炭化物φ30mm.Max多含。
3. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR3/1)：礫は泥岩碎屑物φ20mm.Maxが主体；炭化物φ10mm.Max多含。
4. シルト質粘土(にぶい黄褐色10YR5/3)：第IV層断片。
5. シルト質粘土(にぶい黄褐色10YR5/3)：第IV層断片。
6. 砂礫混じり粘土(黒褐色7.5YR3/2)：砂礫は泥岩碎屑物φ3mm.Maxが主体。
7. 砂混じり粘土(灰黄褐色10YR5/2)：第IV層断片が主体。



1. 砂礫混じりシルト(黒褐色7.5YR3/1)：礫は泥岩碎屑物が主体；炭化物多含；備前甕片を含む。
2. 砂混じり粘土(灰黄褐色10YR4/2)：第IV層断片が主体；泥岩碎屑物少混。
3. 砂礫混じり粘土(褐灰色10YR4/1)：土壌置換の柱痕；礫は円礫が優勢；層底に備前甕片有り。
4. 砂礫混じりシルト(黒褐色10YR2/2)：礫は泥岩碎屑物が主体；炭化物多含；土師器片を含む。
5. 砂混じり粘土(灰黄褐色10YR4/2)：礫は泥岩碎屑物と円礫φ30mm.Maxで構成。

図5 SB14-DP125
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 砂礫混じり粘土(黒褐色10YR2/2)：礫は泥岩碎屑物・硬質砂岩が主体。
2. 砂混じり粘土(黒褐色10YR3/1)：泥岩碎屑物φ20mm.Max微混；炭化物φ5mm.Max多含。
3. 砂混じり粘土(灰黄色2.5Y6/1)：泥岩碎屑物φ5mm.Max微混。

図6 SB14-DP130
上 保留検出面
下 半裁断面



Fig. 59 D区 掘立柱建物跡SB14 の柱穴 (S : 1/20)

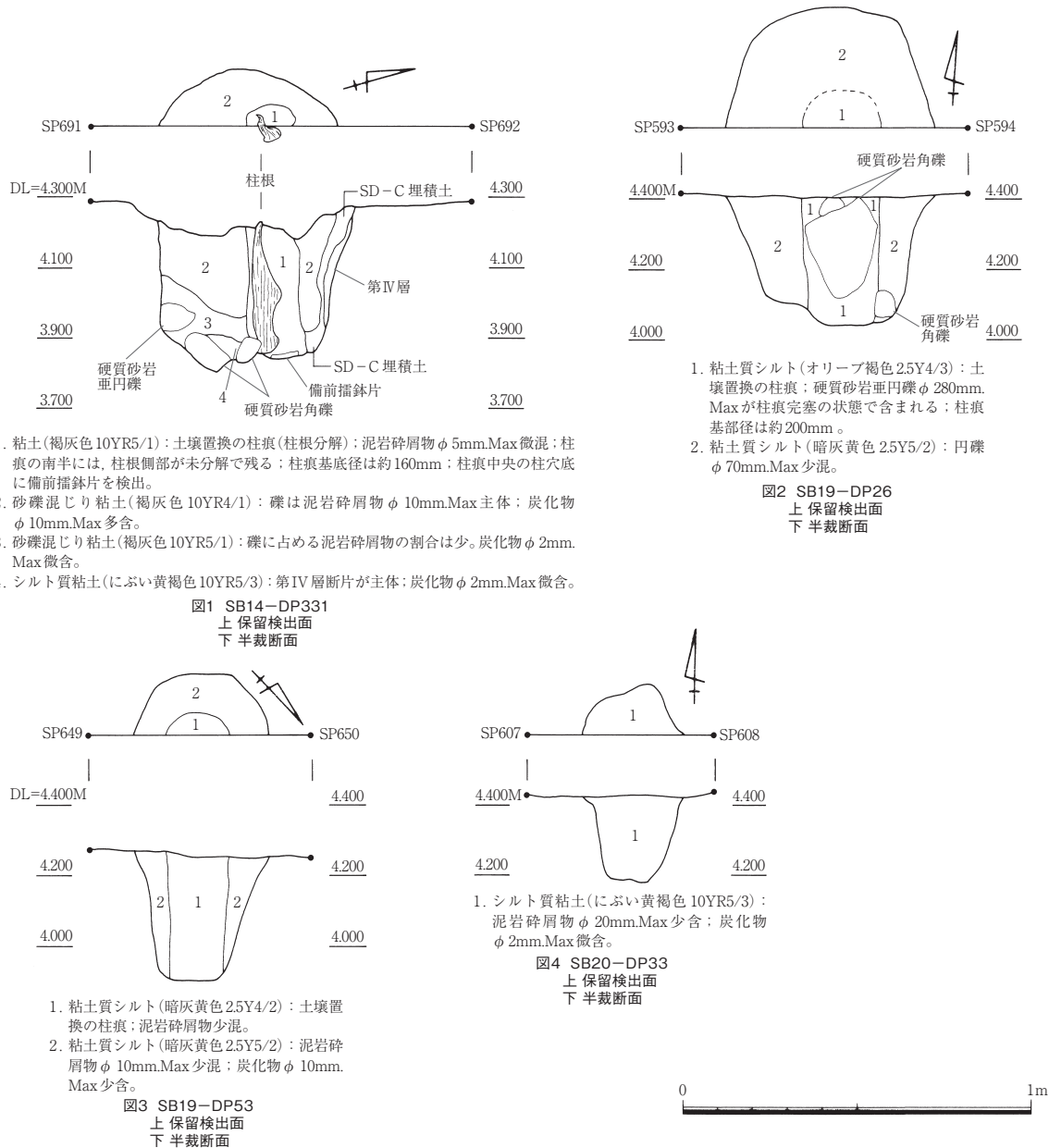
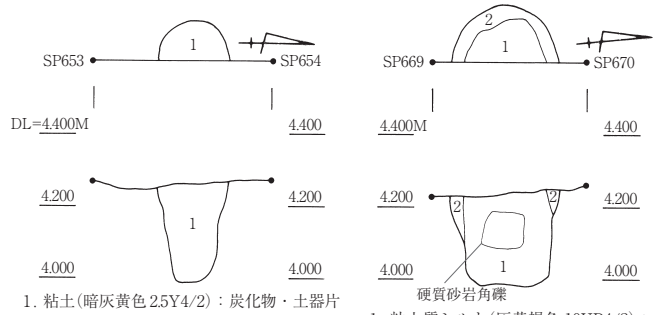


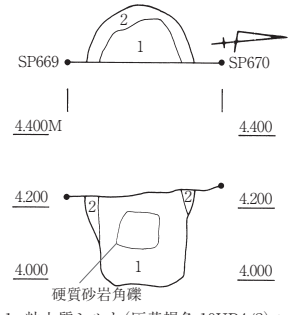
Fig. 60 D区 掘立柱建物跡SB14・SB19・SB20の柱穴 (S : 1/20)

柱穴5基が、後述する四面庇型掘立柱建物跡SB20の主屋に対し、桁行側両庇の片側を減じた合同形で6尺分ほど北上した位置に分布する点による。柱穴5基のうち隅柱合同形をなすものを北側短辺・南側短辺の距離付きで順挙するとDP26—DP35=5.12m；DP53—DP69=5.27mである。これに対する西側長辺DP26—DP53=9.35mは北偏東19.7°を指し、DP26から2.60m間隔地点に柱穴1基DP29を挟む。東側長辺DP35—DP69=9.20mは北偏東18.7°を指す。また、長辺と短辺の平均交角は90.5°を測る。短辺・長辺の見当尺数は1辺各々17尺・30尺である。4辺の総延長28.94mに対しては94尺の見当になり、1尺平均値は、0.30787mと算出される。これは次掲のSB20にお



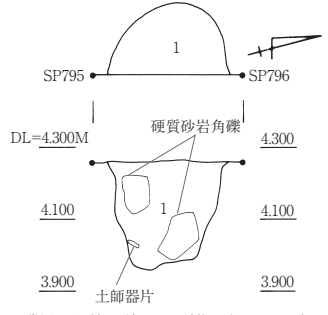
1. 粘土(暗灰黄色 2.5Y4/2)：炭化物・土器片を含む。

図1 SB20-DP55
上 保留検出面
下 半裁断面



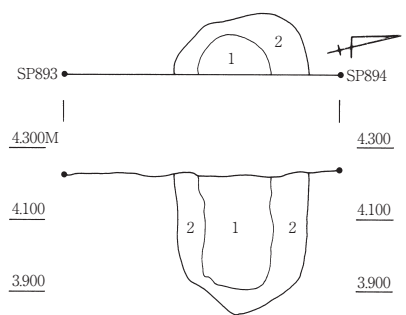
1. 粘土質シルト(灰黄褐色 10YR4/2)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物少混；砂岩礫φ160mm.Maxを含む。
2. 粘土質シルト(褐灰色 10YR5/1)：泥岩碎屑物・円礫φ30mm.Max少混。

図2 SB20-DP70
上 保留検出面
下 半裁断面



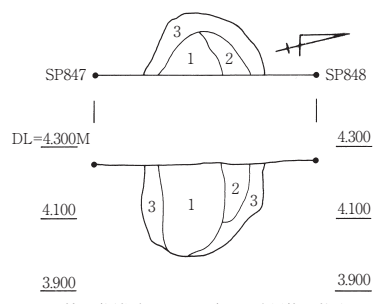
1. 礫混じり粘土質シルト(黄灰色 2.5Y5/1)：礫は泥岩角礫φ200mm.Max級；土師器片を含む。

図3 SA1-a-DP142
上 保留検出面
下 半裁断面



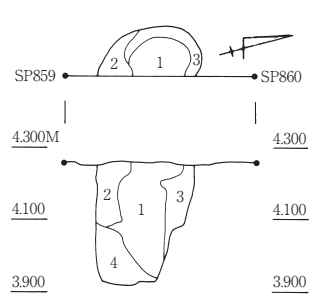
1. シルト質粘土(オリーブ褐色 2.5Y4/3)：土壌置換の柱痕；炭化物φ10mm.Max少混
2. 泥岩碎屑物・円礫φ30mm.Max少混。

図4 SA1-a-DP235
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 粘土(黒褐色 10YR2/2)：土壌置換の柱痕；炭化物φ10mm.Max少混。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/1)：泥岩碎屑物φ20mm.Max少混；炭化物φ5mm.Max微含。
3. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2)：泥岩碎屑物φ10mm.Max少混；炭化物φ10mm.Max微含。

図5 SA-b-DP122
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 粘土(黒褐色 7.5YR3/1)：土壌置換の柱痕；泥岩碎屑物φ5mm.Max微混；炭化物φ5mm.Max少混
2. 粘土質シルト(灰オリーブ色 5Y4/2)：泥岩碎屑物φ20mm.Max少混；炭化物微含。
3. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y5/2)：泥岩碎屑物φ20mm.Max少混；炭化物少混。
4. 粘土質シルト(褐灰色 10YR5/1)：泥岩碎屑物φ10mm.Max少混；炭化物微含。

図6 SA-b-DP127
上 保留検出面
下 半裁断面



Fig. 61 D区 掘立柱建物跡SB20・柵列SA1 の柱穴 (S：1/20)

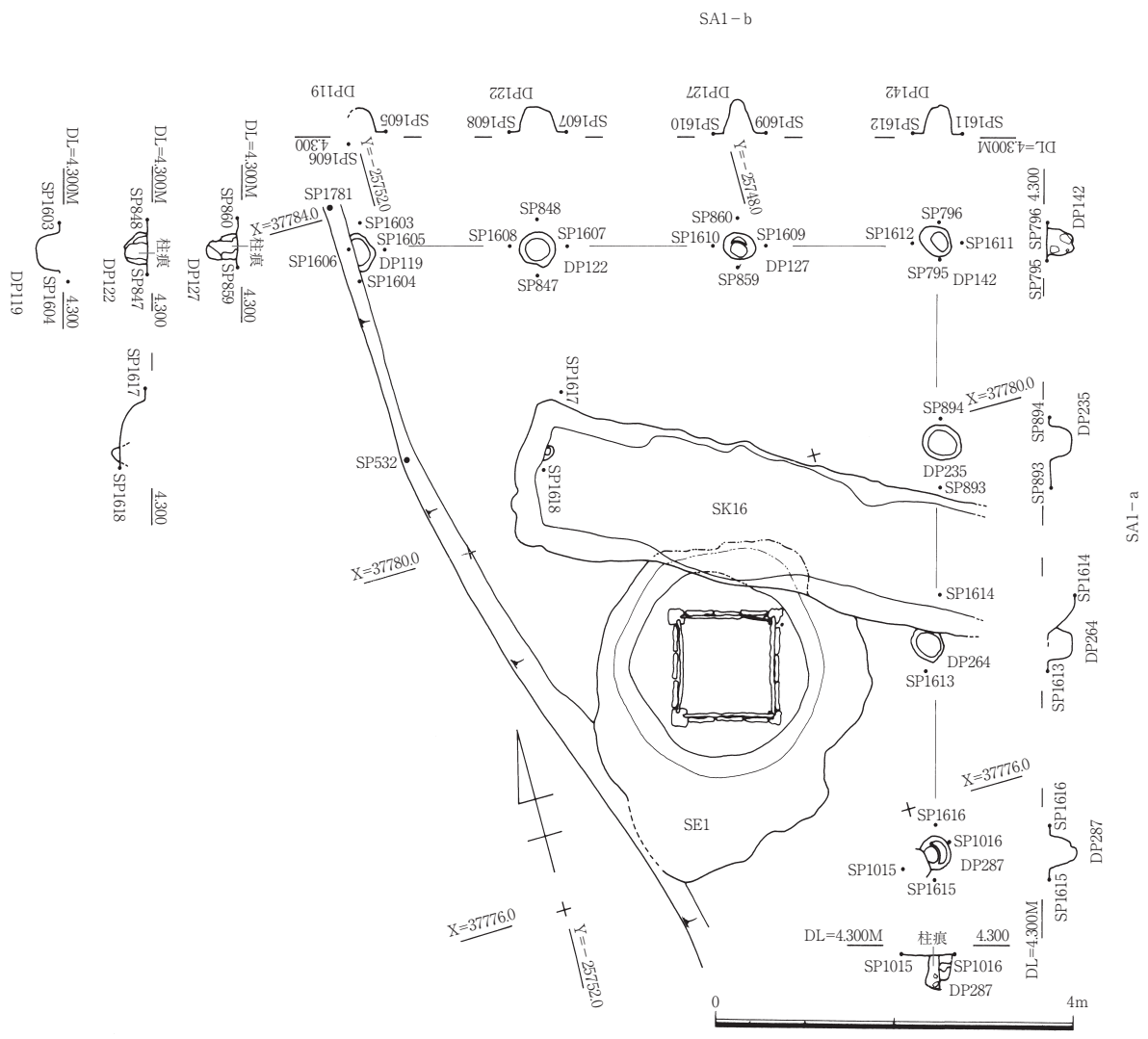


図1 SA1 柵列周辺の平面 S=1/80

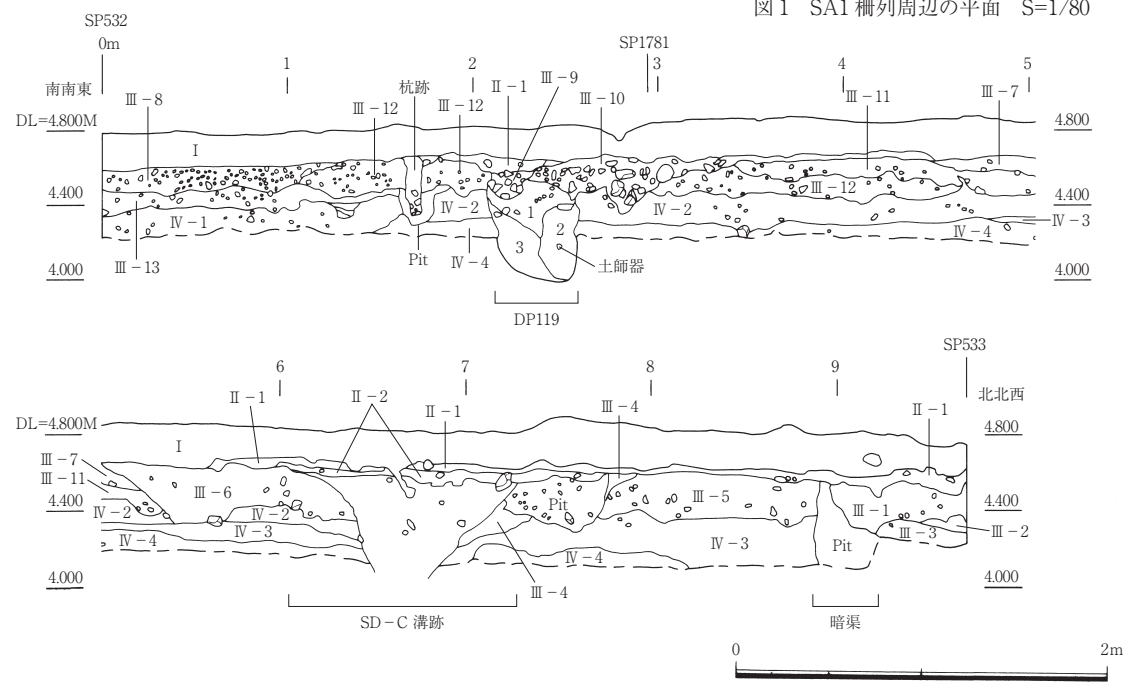


図2 D区西境の地層断面 S=1/40

Fig. 62 D区 SA1 柵列とその周辺 (S : 1/80 · S : 1/40)

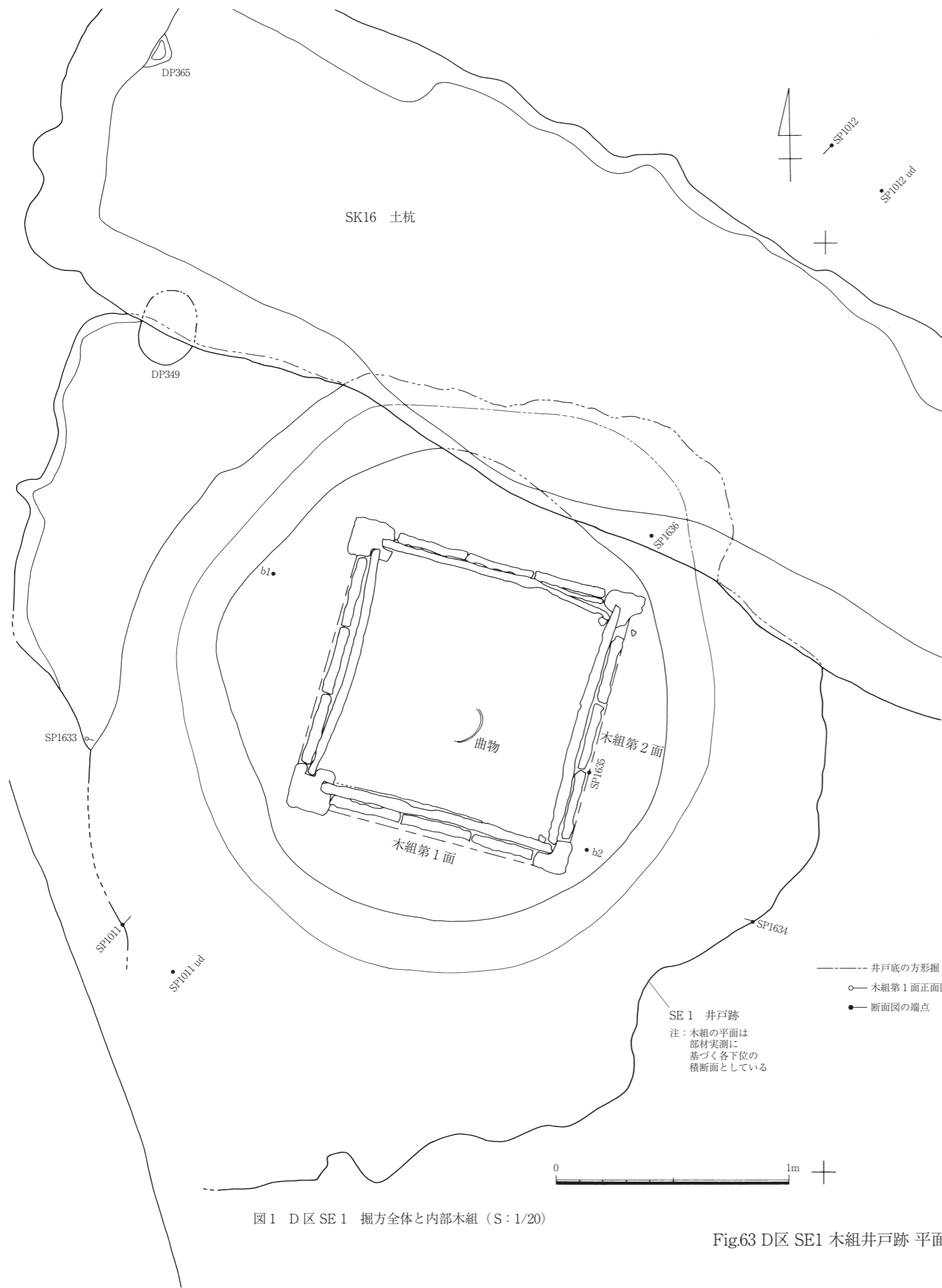


図1 D区SE1 掘方全体と内部木組 (S:1/20)

Fig.63 D区 SE1 木組井戸跡 平面図

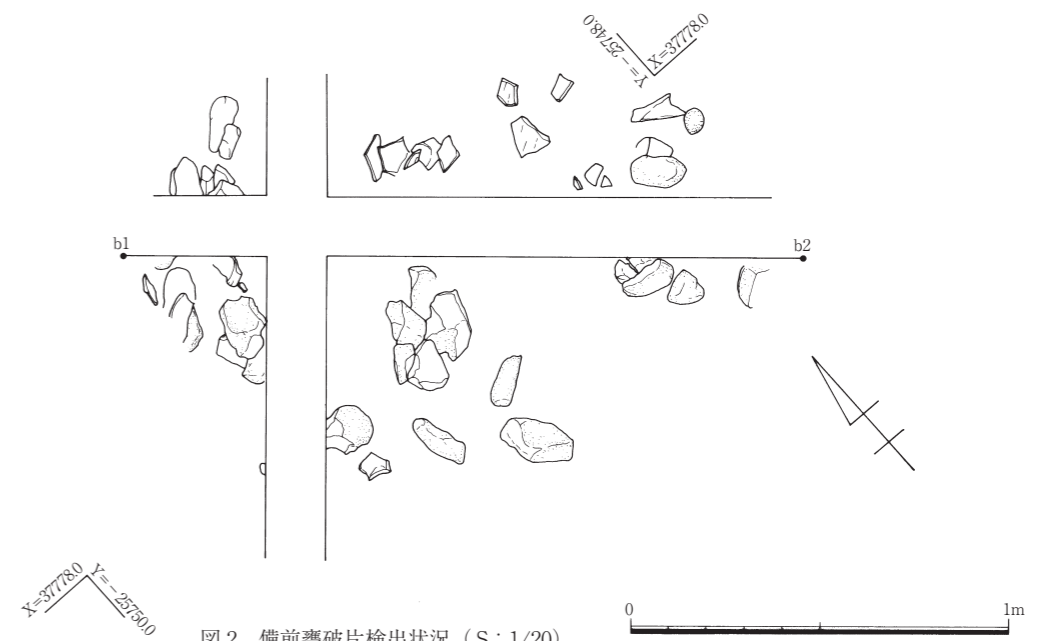


図2 備前甕破片検出状況 (S:1/20)
— SE1 木組内埋積層上部 —

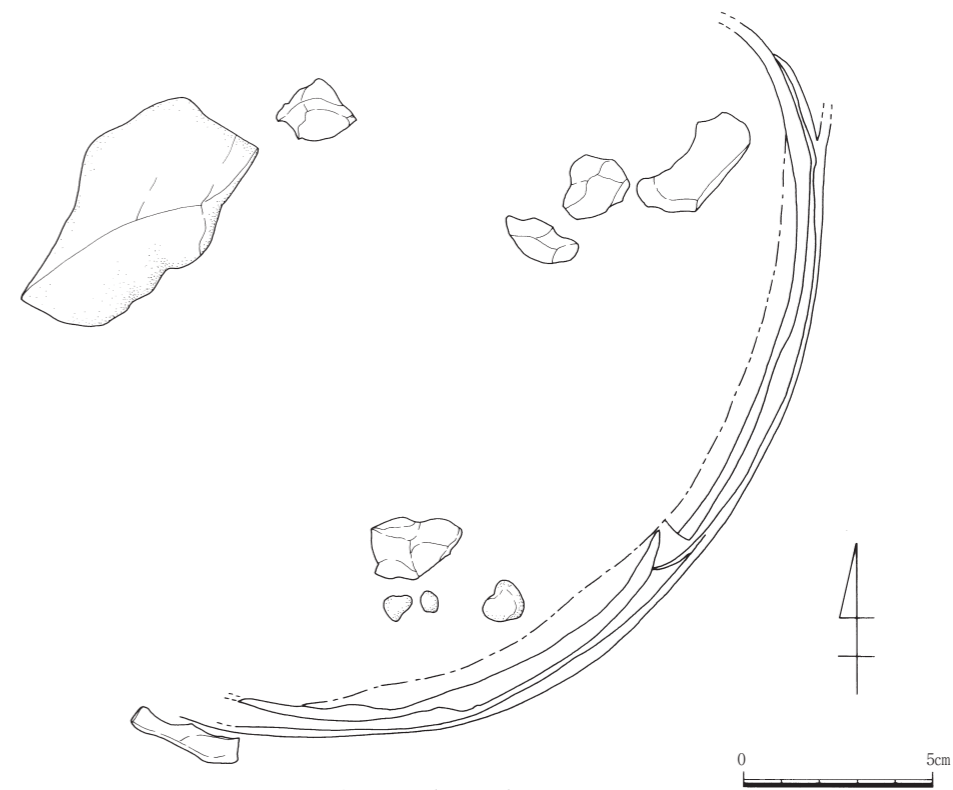


図3 曲物検出状況 (S:1/2)
— 井戸中央 —

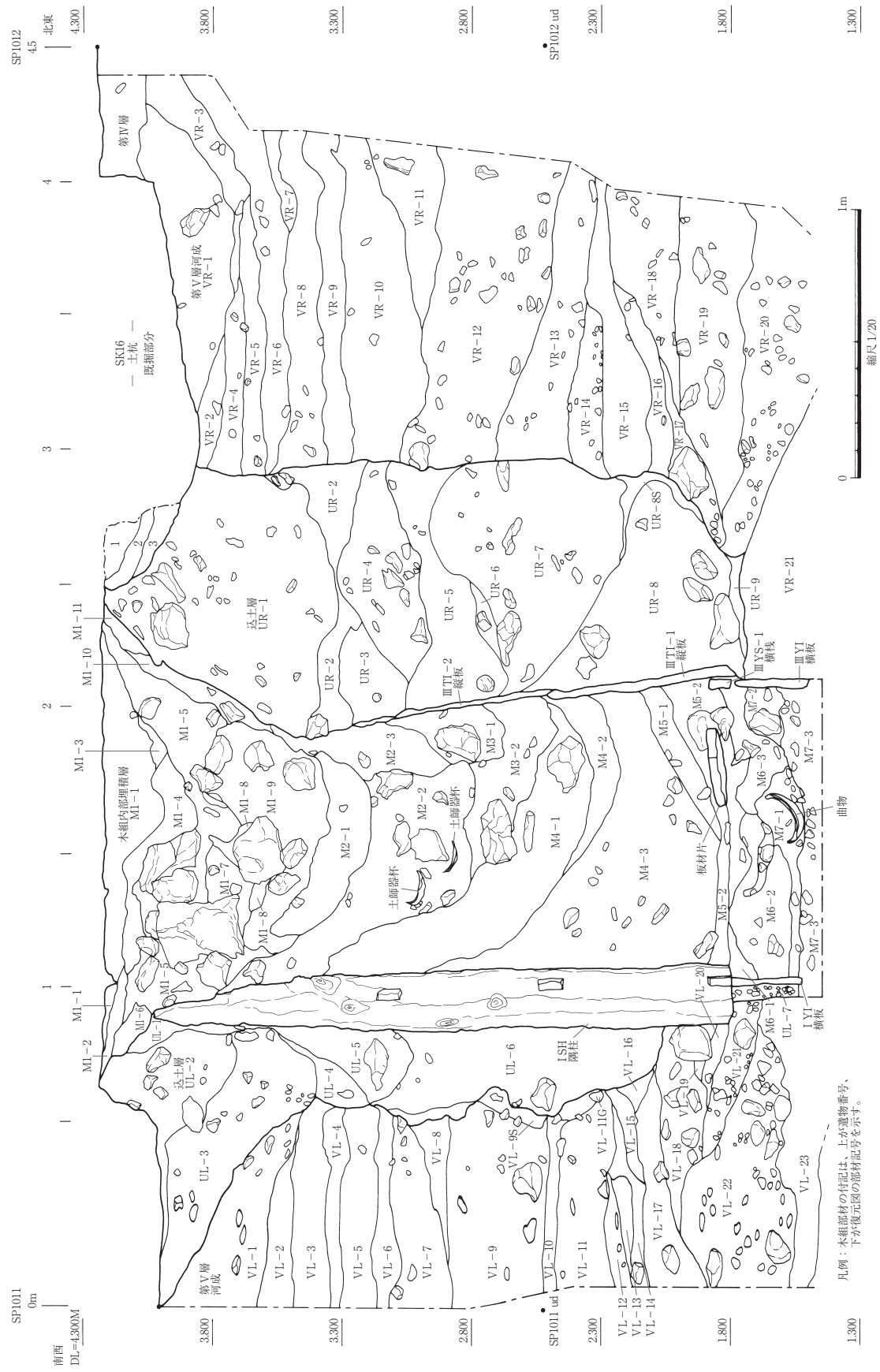
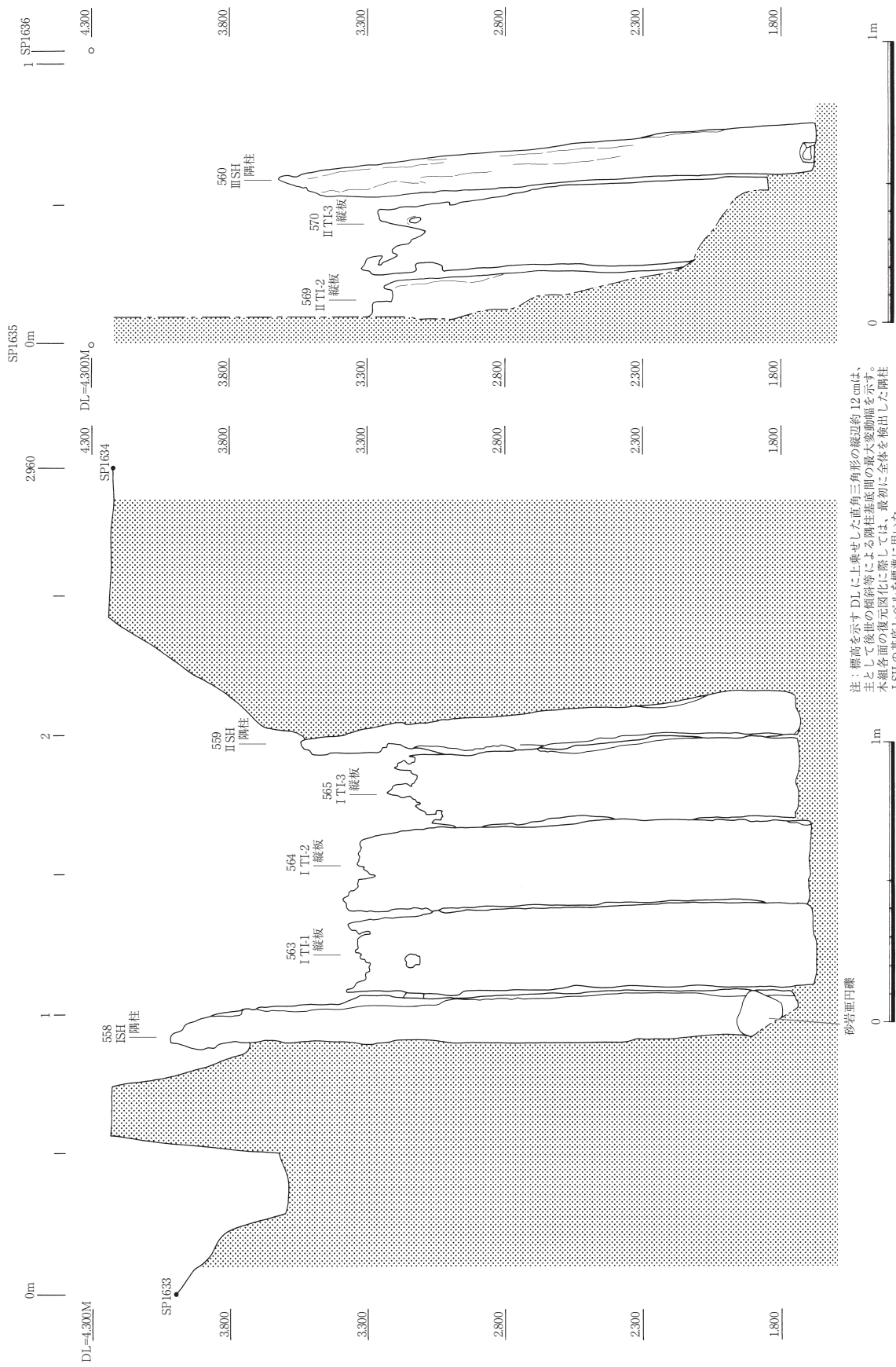


Fig. 64 D区 SE1 木組井戸跡 断面図 (S : 1/20)

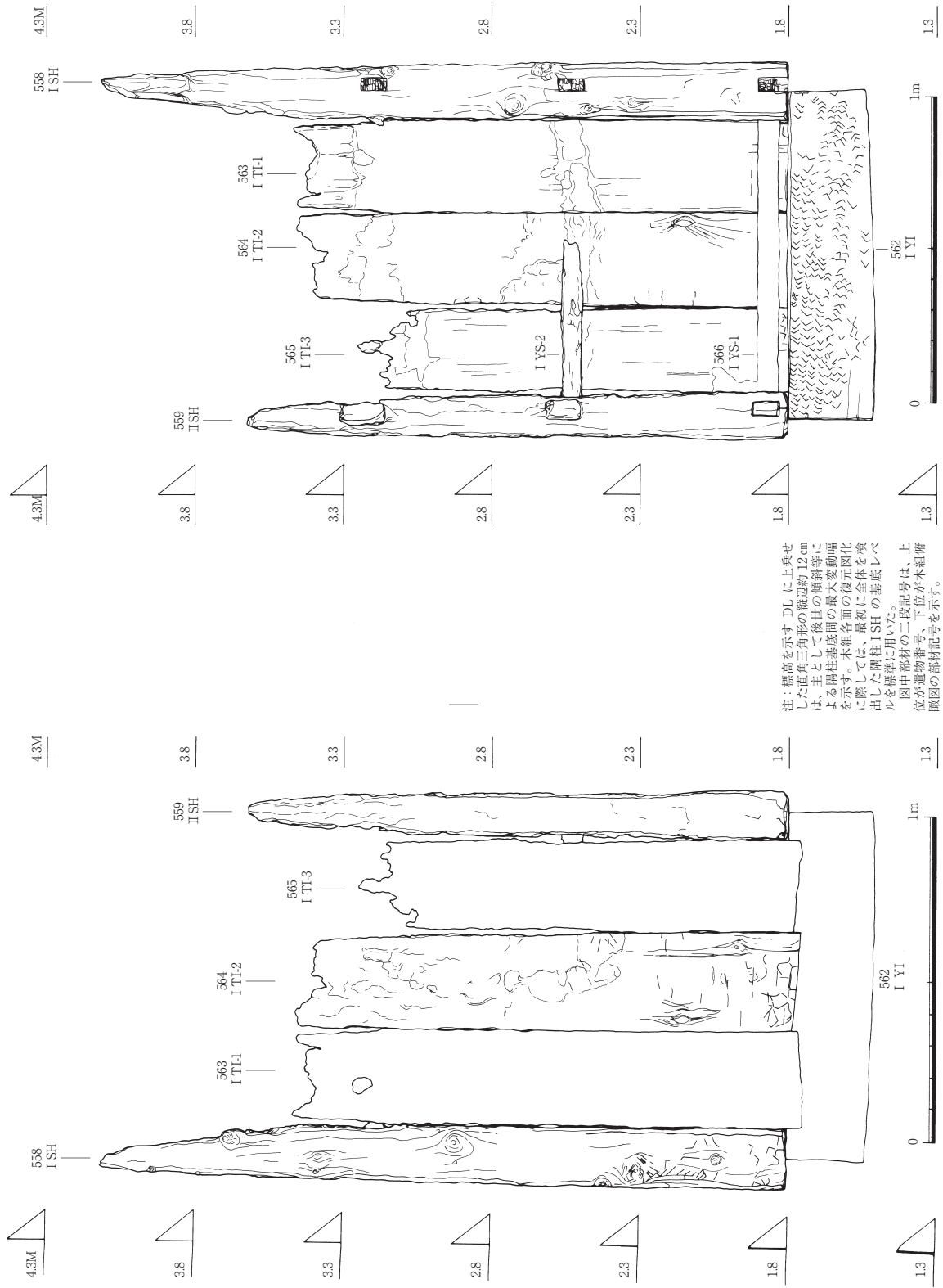


注：標高を示す DL に上乗せした直角三角形の縦辺約 12 cm は、主として後世の傾斜等による隅柱基底間の最大変動幅を示す。木組各面の復元図化に際しては、最初に全体を検出した隅柱 I SH の基底レイン図を標準に用いた。図中部分の二段記号は、上位が建物番号、下位が木組脚眼図の部材記号を示す。

D 区 SE1 木組第 1 面 検出正面図 - 外側

D 区 SE1 木組第 2 面 検出正面図 - 外側

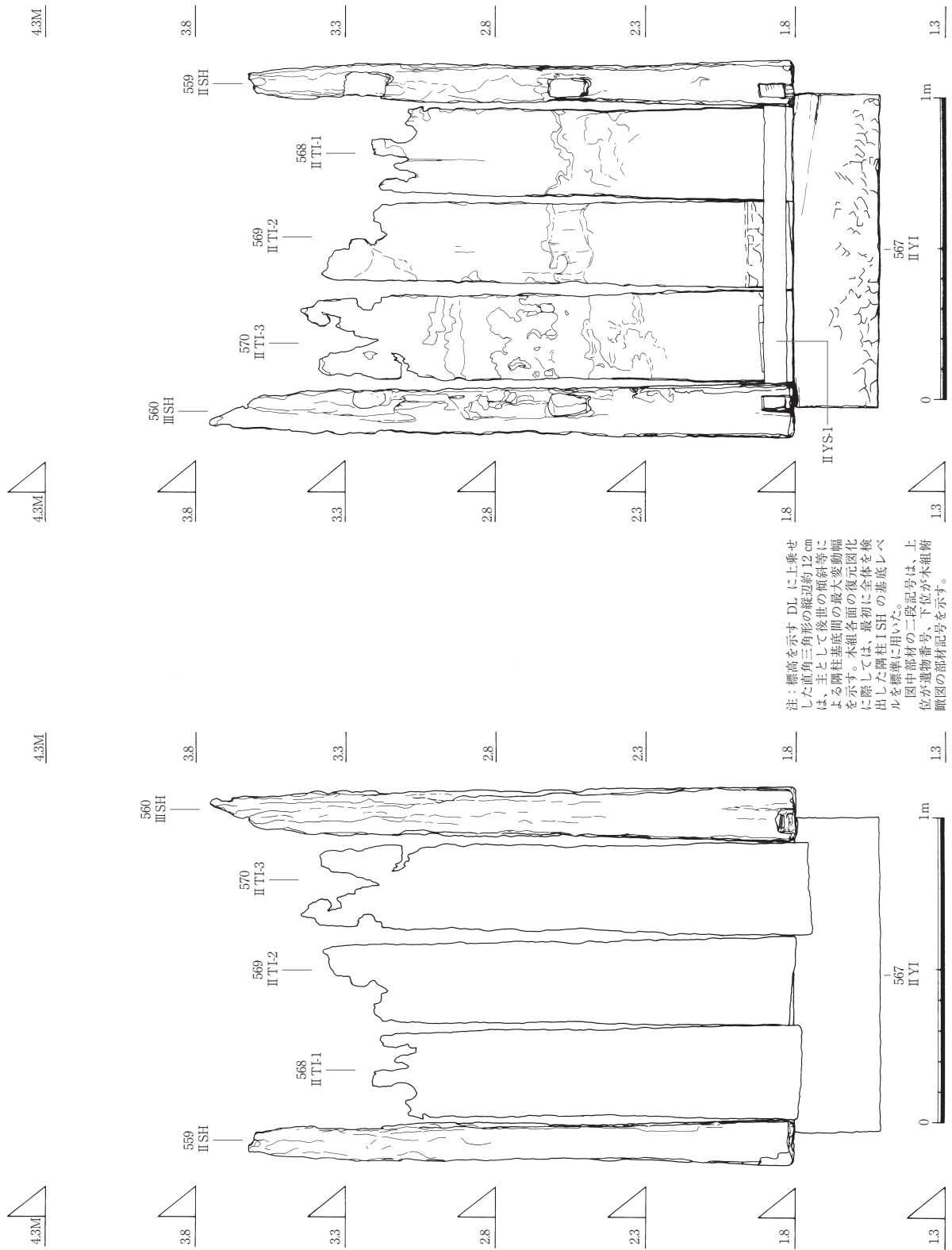
Fig. 65 D区 SE1 井戸跡 木組検出正面図 (S : 1/20)



SE1 木組第1面 - 内正面 (S : 1/20)

SE1 木組第1面 - 外正面 (S : 1/20)

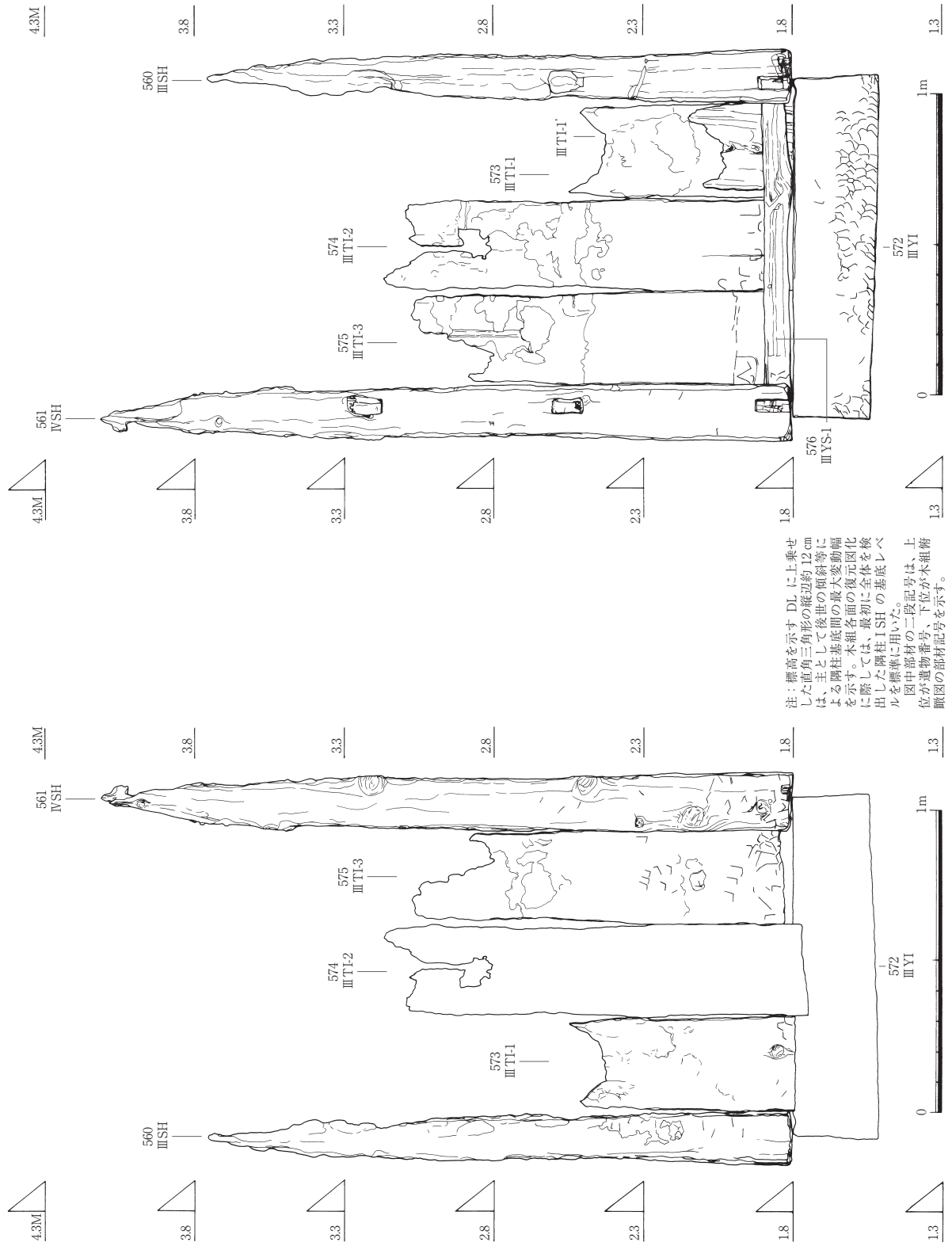
Fig. 66 D区 SE1 井戸跡 木組第1面 復元正面図 (S : 1/20)



SE1 木組第2面 - 内正面 (S : 1/20)

SE1 木組第2面 - 外正面 (S : 1/20)

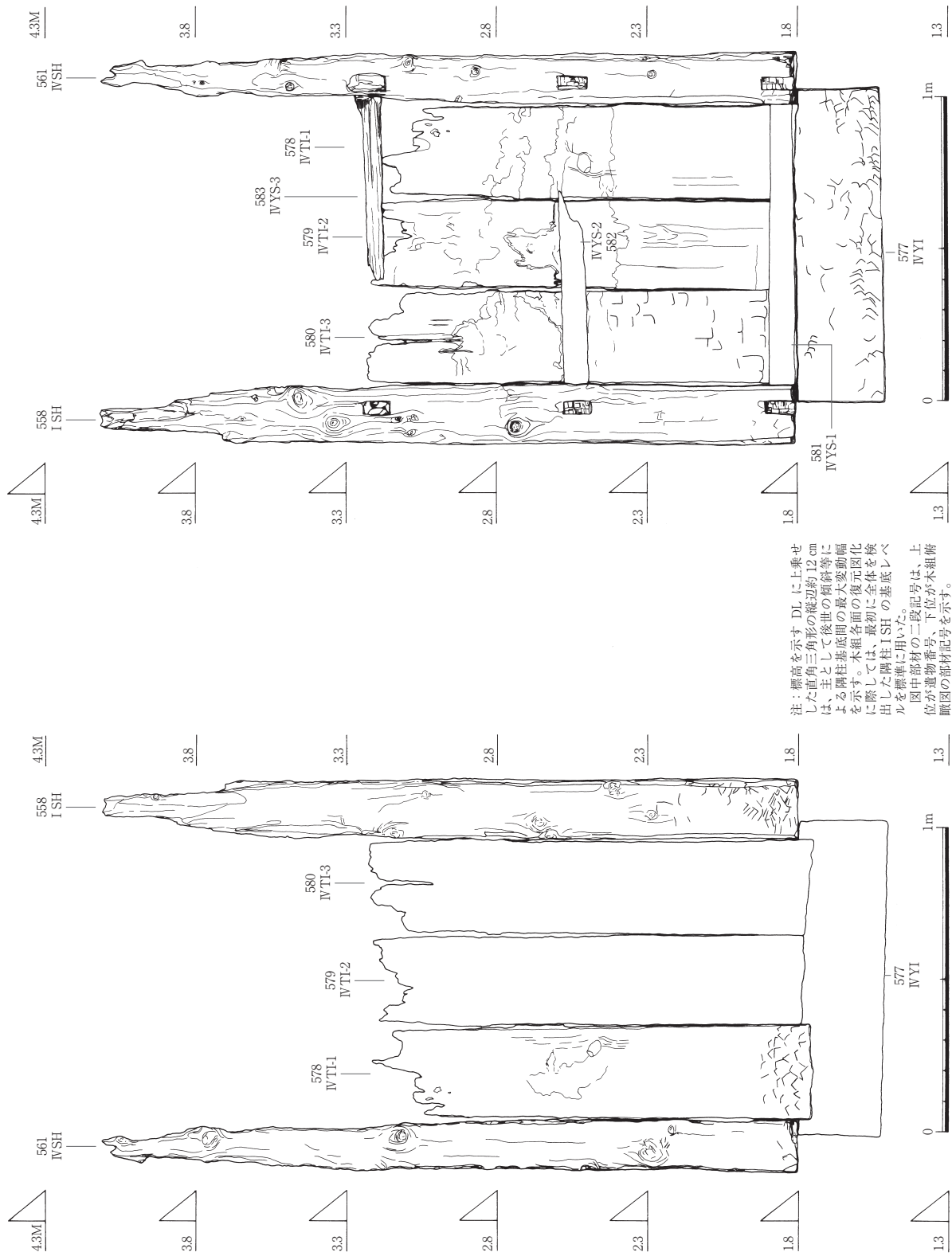
Fig. 67 D区 SE1 井戸跡 木組第2面 復元正面図 (S : 1/20)



SE1 木組第3面 - 内正面 (S : 1/20)

SE1 木組第3面 - 外正面 (S : 1/20)

Fig. 68 D区 SE1 井戸跡 木組第3面 復元正面図 (S : 1/20)



SE1 木組第4面 - 内正面 (S : 1/20)

SE1 木組第4面 - 外正面 (S : 1/20)

Fig. 69 D区 SE1 井戸跡 木組第4面 復元正面図 (S : 1/20)

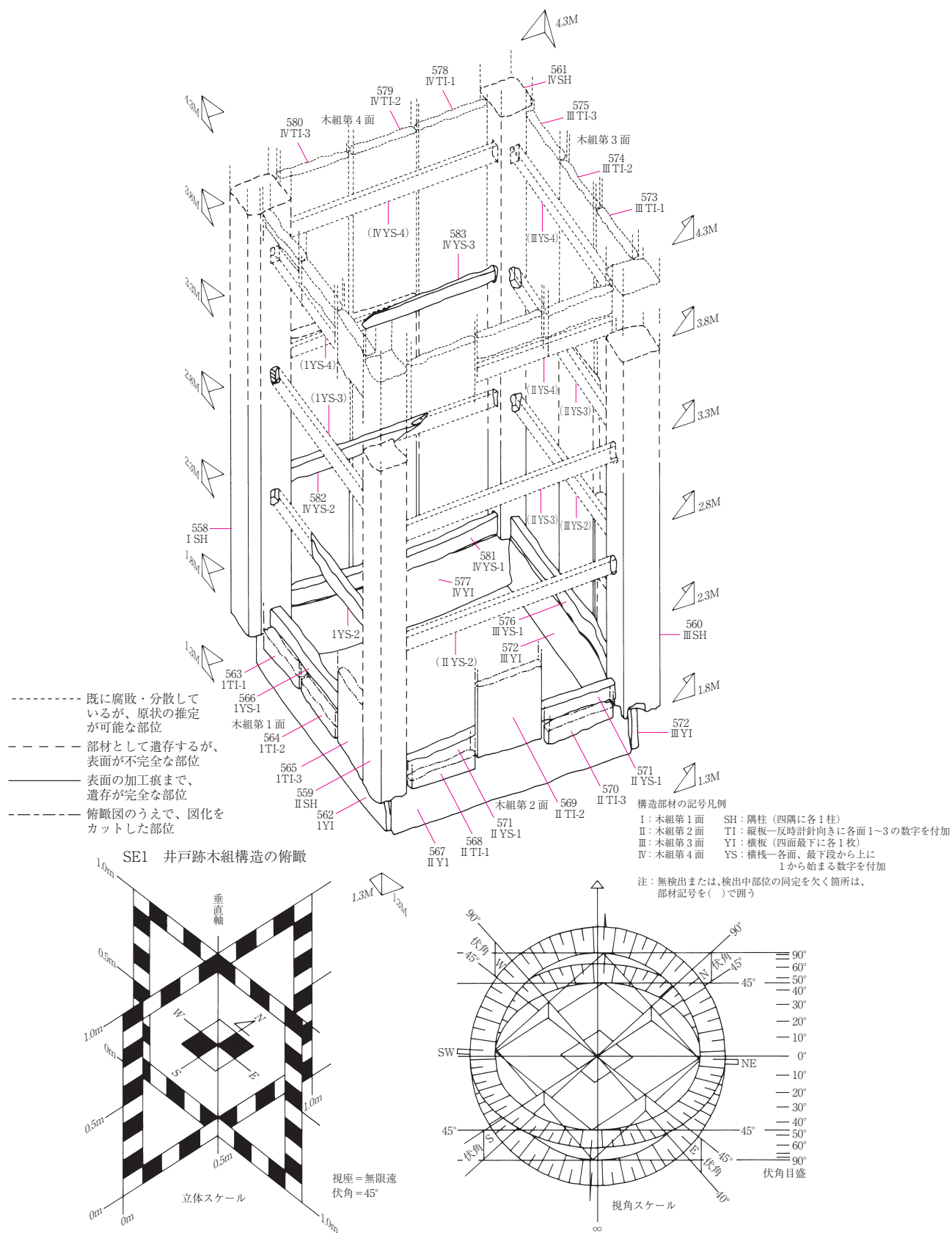


Fig. 70 D区 SE1 井戸跡 木組の復元俯瞰図 (S : 1/20)

SE3 素掘り井戸跡: SE3はD区南東部の標高4.20m前後の水準で検出した素掘り式井戸跡であり、径約2.50mの隅丸方形形状を呈す。遺存深度は0.75mで浅い。東で接する溝跡SD-Aとの関係には、切る部分と切られる部分が両存する。おそらく、SD-Aが一度埋積したのち再通する間に、SE3が開削されたものと見られる。

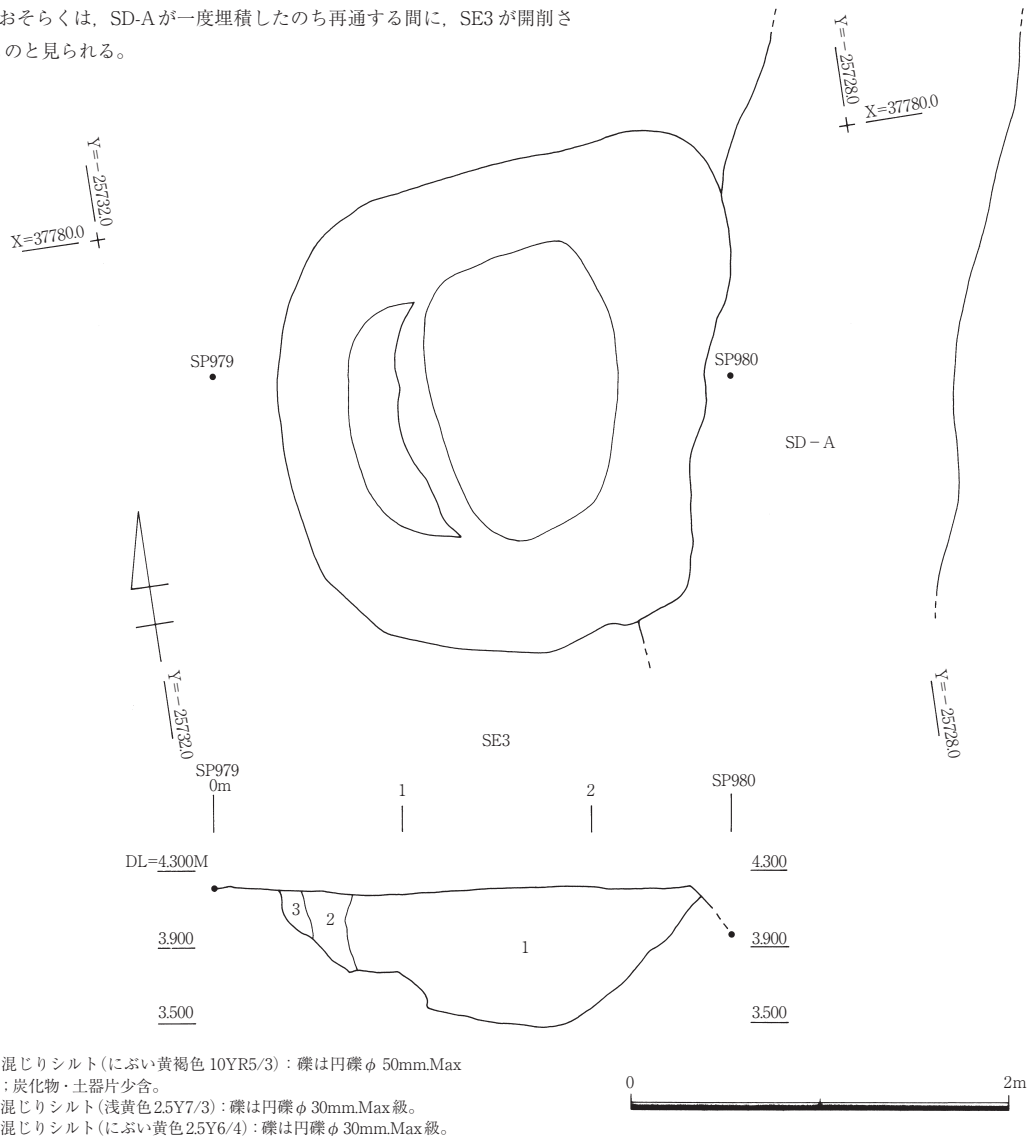


Fig. 71 D区 SE3 素掘り井戸跡 (S : 1/40)

ける算出値より 5.74mm 分大きい。個々の柱穴跡では、土壌置換の柱痕を DP26・DP53 の 2 基に見る。DP26 では、断面基底幅 0.19m の柱痕に柱(根) 抜去後の投入と見られる砂岩亜角礫 (290 × 210mm) が完塞の置勢で含まれる。また、DP53 では抜去の形跡を見ず、柱痕基底幅 150mm を測る。

7)SB20 掘立柱建物跡(Fig.55): SB20 は主屋 3 間 × 2 間の四周に庇が付く四面庇型建物跡であり、主屋南側中央の柱と北面庇の西隅柱が検出を欠く。主屋桁行に庇を合わせた平均全長 9.43m の方位は、北偏東 18.7° (N18.7° E) を指し、梁間平均方位 W19.4° N との交角は 89.3° となる。主屋柱間は梁間・桁行ともに不等間の構成である。それら平均数値は、梁間 2.250m (見当 7 尺 5 寸) +1.830m (見当 6 尺) に対し、桁行は 2.305m (見当 7 尺 5 寸) +2.55m (見当 8 尺 5 寸) +2.205 (見当 7 尺 5

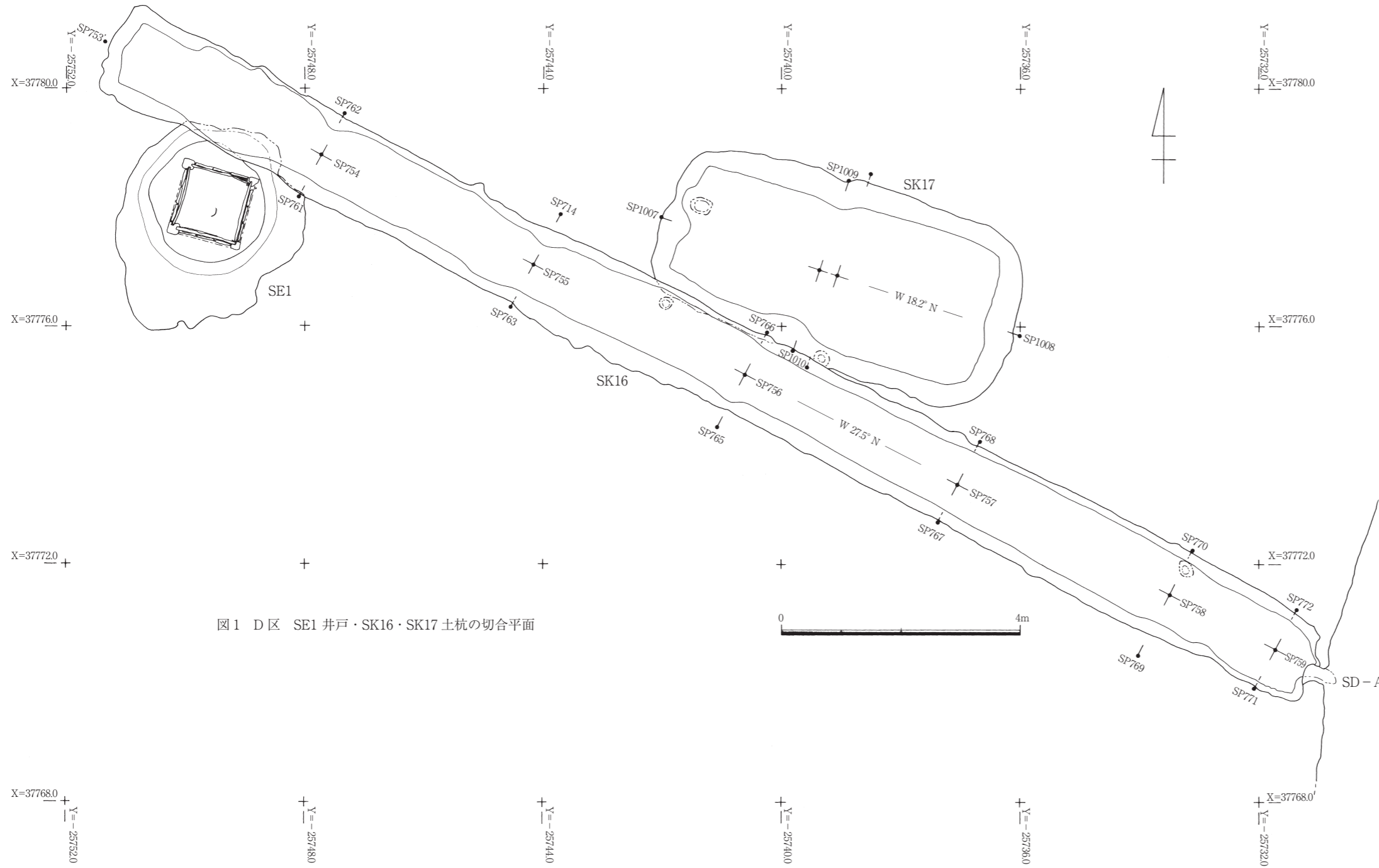


図1 D区 SE1 井戸・SK16・SK17 土坑の切合平面

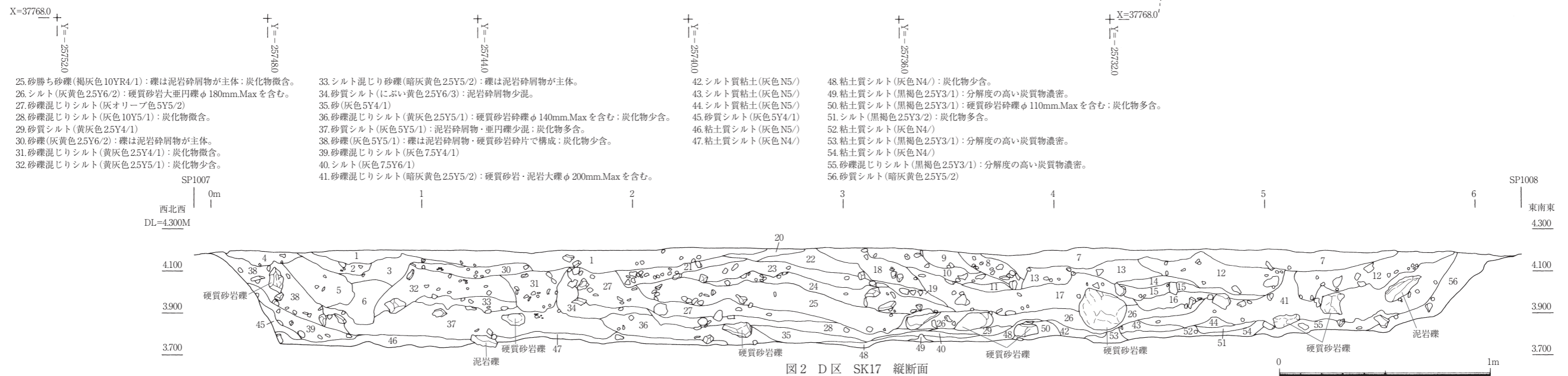


図2 D区 SK17 縦断面

Fig.72 D区 SE1 木組井戸・SK16・SK17土坑の切合平面図 (S:1/80) SK17土坑の縦断面図 (S:1/20)

D区検出の土坑は、C区にも増して性格の難解な傾向が強い。大型のSK16・SK17も機能の推定が困難な部類に属す。

1) SK16土坑跡 (Fig.72・74・75・76)：非常に長い長方形の掘り込み跡であり、23.15mを測る縦径の方は、西から27.5度北に寄る。これに対する横径は、僅か1.48mに過ぎない。標高4.25～4.15mの水準で検出しており、相対深度0.3～0.35mを測る。底部は箱底状の平坦面を基本とする。西端部は調査区域の手前で掘り込みが終る。東端部でも、基本幅の掘り込みは溝跡SD-Aの寸前で終るが、上位では幅0.20m余りの短い掘り込みが侵食によってSD-Aと接触する。埋積層は上位で包含層成分を主とし、底部付近では炭質物や粘土が薄層をなす部分が多い。また、大型円礫が母体の硬質砂岩碎片や割石を含む点も、他の多くの遺構と共通する。ここまで見てきたC区およびD区の掘立柱建物跡19基や欄列5基の中に、このSK16と接近した方位を持つものは一例も見ない。唯一、後節で扱うB区の掘立柱建物跡SB21のみが2度ほど近い方位を示すに止まる。SK16と接触する遺構のほはすべてがSK16によって切られる状況から、相対的には新しい遺構と言えるが、出土遺物は土師器・瓦器・東播系須恵器や龍泉窯系米色青磁等であり、明瞭な時期差を捉えることができない。遺構の性格としては、可能性の一つとして湧水に備える貯水池を挙げるに止めたい。

2) SK17土坑跡 (Fig.72・73)：SK17は隅丸長方形の掘り込みであり、底部を平坦とする。長軸6.22mは西から18.2度北に寄り、短軸はほぼ半分の3.12mを測る。標高4.20m前後の水準で検出し、相対深度は0.47m程度である。埋積層は粗砂～礫を主成分とする。大礫には硬質砂岩が多く、最大470mmに達するものもある。底部付近に炭質物や粘土が薄層をなす点はSK16と共通する。

D区SK17縦断面埋積層 (SP1007—SP1008区間；南面)

1. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y5/1)：炭化物微含。
2. シルト混じり砂礫 (暗灰黄色2.5Y5/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
3. 砂質シルト (黄灰色2.5Y4/1)：炭化物少含。
4. シルト混じり砂礫 (暗灰黄色2.5Y5/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
5. 砂礫混じりシルト (暗灰黄色2.5Y5/2)
6. 砂礫混じりシルト (暗灰黄色2.5Y4/2)
7. 砂質シルト (黄灰色2.5Y5/1)：炭化物微含。
8. 砂礫 (暗灰黄色2.5Y4/2)：礫は泥岩碎屑物が主体；シルト少混。
9. 砂礫 (黄灰色2.5Y5/1)：礫は泥岩碎屑物が主体；シルト少混。
10. 砂礫 (暗灰黄色2.5Y5/2)：シルト少混。
11. 砂質シルト (暗灰黄色2.5Y5/2)
12. 砂礫 (にぶい黄橙色10YR6/4)：礫は泥岩碎屑物が主体。
13. 砂礫 (暗灰黄色2.5Y5/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
14. 砂礫 (にぶい黄橙色10YR6/4)：礫は泥岩碎屑物が主体。
15. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y5/1)
16. 砂礫 (にぶい黄橙色10YR6/4)：礫は泥岩碎屑物が主体。
17. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y5/1)：硬質砂岩大円礫φ230mm.Maxを含む。
18. シルト混じり砂礫 (黄灰色2.5Y5/1)：礫は泥岩碎屑物が主体。
19. 砂礫 (灰黄色2.5Y6/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
20. シルト混じり砂 (灰黄褐色10YR4/2)
21. 礫 (褐灰色10YR4/1)：砂質シルト少混。
22. 砂礫 (にぶい黄褐色10YR5/3)：礫は泥岩碎屑物が主体。
23. 砂礫 (にぶい黄褐色10YR7/2)：礫は泥岩碎屑物が主体；炭化物微含。
24. シルト混じり砂礫 (褐灰色10YR4/1)：礫は泥岩碎屑物が主体。

25. 砂勝ち砂礫 (褐灰色10YR4/1)：礫は泥岩碎屑物が主体；炭化物微含。
26. シルト (灰黄色2.5Y6/2)：硬質砂岩大円礫φ180mm.Maxを含む。
27. 砂礫混じりシルト (灰オリーブ色5Y5/2)
28. 砂礫混じりシルト (灰色10Y5/1)：炭化物微含。
29. 砂質シルト (黄灰色2.5Y4/1)
30. 砂礫 (灰黄色2.5Y6/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
31. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y4/1)：炭化物微含。
32. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y5/1)：炭化物少含。

33. シルト混じり砂礫 (暗灰黄色2.5Y5/2)：礫は泥岩碎屑物が主体。
34. 砂質シルト (にぶい黄色2.5Y6/3)：泥岩碎屑物少混。
35. 砂 (灰色5Y4/1)
36. 砂礫混じりシルト (黄灰色2.5Y5/1)：硬質砂岩碎礫φ140mm.Maxを含む；炭化物少含。
37. 砂質シルト (灰色5Y5/1)：泥岩碎屑物・重円礫少混；炭化物多含。
38. 砂礫 (灰色5Y5/1)：礫は泥岩碎屑物・硬質砂岩碎片で構成；炭化物少含。
39. 砂礫混じりシルト (灰色7.5Y4/1)
40. シルト (灰色7.5Y6/1)
41. 砂礫混じりシルト (暗灰黄色2.5Y5/2)：硬質砂岩・泥岩大礫φ200mm.Maxを含む。

42. シルト質粘土 (灰色N5/)
43. シルト質粘土 (灰色N5/)
44. シルト質粘土 (灰色N5/)
45. 砂質シルト (灰色5Y4/1)
46. 粘土質シルト (灰色N5/)
47. 粘土質シルト (灰色N4/)

48. 粘土質シルト (灰色N4/)：炭化物少含。
49. 粘土質シルト (黒褐色2.5Y3/1)：分解度の高い炭質物濃密。
50. 粘土質シルト (黒褐色2.5Y3/1)：硬質砂岩碎礫φ110mm.Maxを含む；炭化物多含。
51. シルト (黒褐色2.5Y3/2)：炭化物多含。
52. 粘土質シルト (灰色N4/)
53. 粘土質シルト (黒褐色2.5Y3/1)：分解度の高い炭質物濃密。
54. 粘土質シルト (灰色N4/)
55. 砂礫混じりシルト (黒褐色2.5Y3/1)：分解度の高い炭質物濃密。
56. 砂質シルト (暗灰黄色2.5Y5/2)

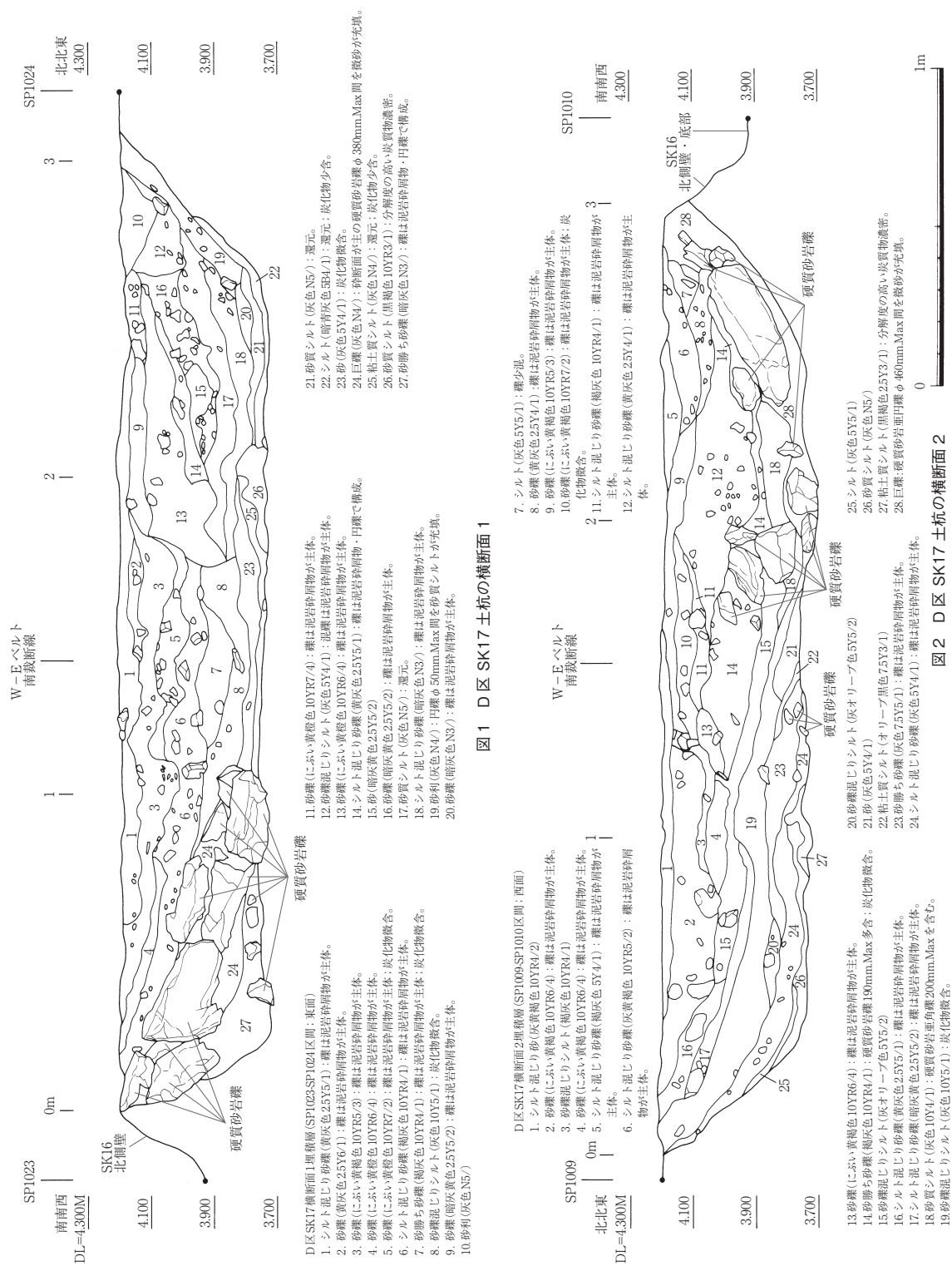


図1 D区SK17土坑の横断面1

図2 D区SK17土坑の横断面2

Fig. 73 D区 SK17土坑の横断ベルト両断面図 (S : 1/20)

寸)を測る。庇柱は主屋の柱と対をなし、南面を除く3面で合計6対の実測値を得る。それら実測値の面平均は、北面で1.180m、西面で1.113m、東面で1.200mとなる。また、南面では主屋隅柱2基と庇隅柱2基の両結線間隔は、約1.12mを測る。これら数値から、主屋に対する庇柱の張り出し寸法を4面4尺等間と見なし得る。主屋に庇を合わせた柱間距離と見当尺数は総延70.74m、235尺5寸に及ぶ。これによる見当1尺の逆算平均値は0.30038mと算出される。同じ計算を、梁間・桁行の筋別に立てる場合、梁間筋総延31.89m、105尺5寸、見当1尺逆算平均値0.30227m；桁行筋総延38.85m、130尺、見当1尺逆算平均値0.29885mであり、筋間で3mm余りの差が生じる。データ表(表)に載せる数値は、後者の方式による。個々の柱穴で鮮明な柱痕を伴うものは少ない。主屋西面のDP49は柱(根)抜去の痕跡を見ない柱穴であり、柱痕基部(土壌置換)は幅0.20mを測る。また、庇の南東隅柱DP70では、柱(根)抜去後に投入したと見られる砂岩礫方形断片(160×110×100mm)を含む。

2. 柵列SA1 (Fig.62)

D区検出の柵列は1基であり、これをSA1としている。SA1は調査区南西部で検出したピット7基が交角91°で東西・南北に並ぶ列であり、径0.40m前後のピットで構成する。南北方位の列は北偏東16.0°を指す。この方位は、建物群における主流方位の範囲内にあり、井戸後SE1の方位とも僅差である。DP26の北端がSK16によって切られている。

3. 井戸跡 (Fig.63-Fig.72)

D区で検出した井戸跡はSE1・SE2・SE3の掘井戸3基である。いずれも河成層に掘削した豎坑に伏流水の湧出を溜める装置であるが、各々型式が異なり、SE1は木組型式、SE2は石組型式、SE3は素掘り型式に属す。これらの調査結果を次に述べる。

1)SE1木組井戸跡(Fig.63～Fig.70)：調査区南西隅で検出した木組式の井戸跡であり、標高4.23m前後の水準で検出した豎坑外周の平面形は不整楕円を呈する。その長径3.80mは北偏東29.5°を指す。これに対する最大短径3.05mは、長径線上の北北東側3分点付近で直交する。この交点は木組平面の中心に近い(Fig.63)。検出面以下の豎坑深度は、木組外部で2.16～2.47m、方形に一段掘り下げる木組水溜り内で2.73m(湧水による調査限界で木組基底付近)以上を測る(Fig.64)。井戸側を構成する木組構造物を境に地層が変わる点から、ここでは先ず木組構造を述べ、次に地層を扱う。

i 木組構造：井戸側を構成する木組平面は、北偏東15.6°に沿う1辺約1.20m(見当4尺)の正方形である。井戸側は南西に傾斜するが、この点はiiの「地層」で触れる。腐敗分解を免れた遺存部は木組構造の中～底部であり、特に底部付近の材表は明瞭な加工痕を保つ。部材構成は、粘土層の水溜坑四壁を塞ぐ横板・これを跨ぐ隅柱・隅柱を連結する横棧・その外側かつ隅柱間に並べる縦板からなる。これら部材の形状・規模および組み方を第1面の構造基部から順に述べる。なお、隅柱以外の部材は、木組外部からの土水圧で大なり小なり外弯変形している。下に適用する数値は、変化の度合いが抑制された可能性も考えられる各個体中で最大値箇所の実値である。各部材所用の個体記号は、木組の復元正面図(Fig.66～69)と復元俯瞰図(Fig.70)で系統立てた構造部材記号であり、冒頭のI・II・III・IVが南・東・北・西の井戸側(井戸枠)を示す。続くYI・SH・YS・TIは横板・隅柱・横棧・縦板を示し、末尾のアラビア数字は横棧において下から上への序列、縦

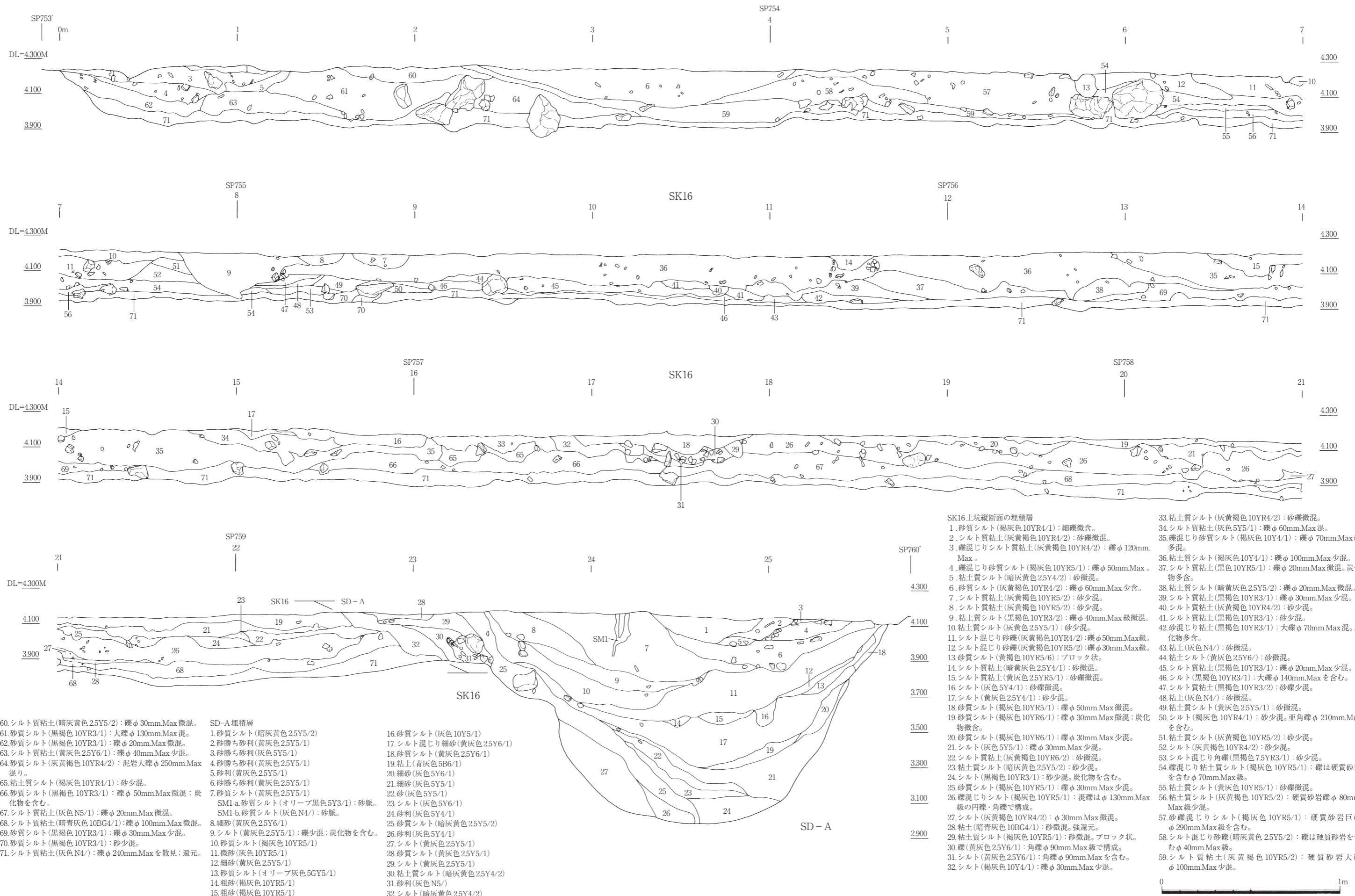
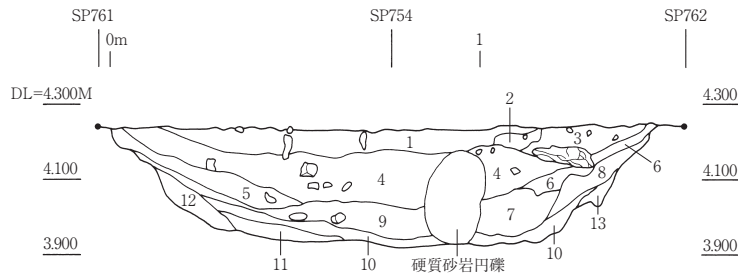


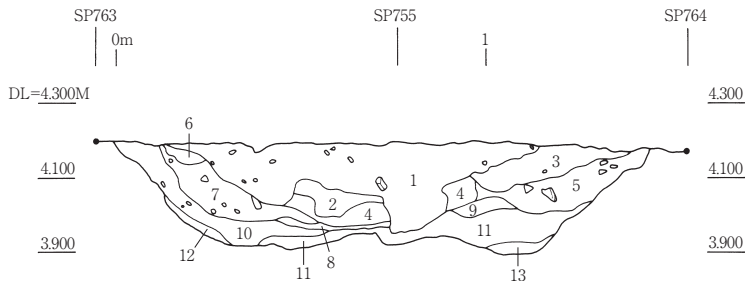
Fig.74 D区 SK16土坑縦断面・SD-A溝跡横断面図 (連続図S1/20)



SP761—SP762区間

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 砂質シルト (灰黄褐色 10YR4/2) : 礫φ 60mm.Max 少含; 縦断面の6。 2. 砂礫 (灰黄褐色 10YR4/2) 3. 砂礫 (暗灰黄色 2.5Y5/2) : 硬質砂岩大円礫φ 160mm.Max も含む。 4. シルト混じり砂礫 (暗灰黄色 2.5Y5/2) : 硬質砂岩大円礫が貫通; 縦断面の58。 5. シルト (灰黄褐色 10YR4/2) : 礫微混。 6. 粘土質シルト (灰黄褐色 10YR4/2) | <ol style="list-style-type: none"> 7. 粘土質シルト (黄灰色 2.5Y4/1) 8. シルト混じり砂礫 (褐灰色 10YR4/1) 9. シルト質粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) : 硬質砂岩大円礫が貫通; 縦断面の59。 10. シルト質粘土 (灰色 N4/) : 硬質砂岩大円礫φ 250mm.Max が基底に達する; 縦断面の71。 11. 砂利 (灰色 5Y5/1) 12. 砂質シルト (灰色 7.5Y6/1) 13. 粘土 (灰色 N4/) |
|--|---|

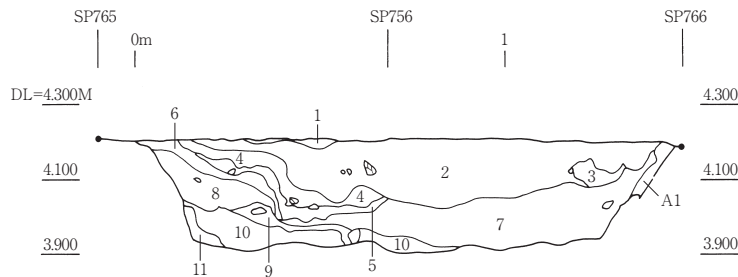
図1 D区 SK16土坑の横断面-1



SP763—SP764区間

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. シルト (黄灰色 2.5Y5/1) : 礫少混; 炭化物を含む; 縦断面の9。 2. 粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) 3. シルト質粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) 4. シルト質粘土 (黒褐色 10YR3/2) : 炭化物を含む。 5. 礫混じりシルト (灰黄褐色 10YR5/2) : 硬質砂岩碎片も混じる。 6. 粘土 (にぶい黄橙色 10YR7/2) | <ol style="list-style-type: none"> 7. 礫混じり粘土 (褐灰色 10YR4/1) 8. 粘土 (灰色 N4/) : 還元。 9. 粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) 10. 粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) 11. シルト質粘土 (灰色 N4/) : 還元; 縦断面の71。 12. 微砂 (灰白色 N7/) 13. シルト質粘土 (灰黄褐色 10YR5/2) |
|--|--|

図2 D区 SK16土坑の横断面-2



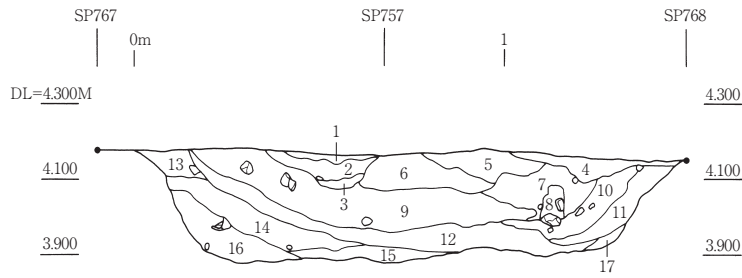
SP765—SP766区間

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. シルト (褐灰色 10YR5/1) 2. 粘土質シルト (褐灰色 10Y4/1) : 礫少混; 縦断面の36。 3. シルト質粘土 (褐灰色 10YR4/1) 4. シルト質粘土 (暗灰黄色 2.5Y5/2) : 礫微混。 5. 粘土 (黒褐色 10YR3/1) : 炭化物を含む。 6. シルト質粘土 (褐灰色 10YR4/1) 7. シルト質粘土 (黒色 10YR2/1) : 礫微混; 炭化物多含; 縦断面の37。 | <ol style="list-style-type: none"> 8. 粘土質シルト (黒褐色 10YR3/1) : 礫微混。 9. シルト質粘土 (灰色 N4/) : 礫微混; 還元。 10. シルト質粘土 (灰色 N4/) : 還元; 縦断面の71。 11. シルト質粘土 (黒色 N2/) : 炭化物を多含。 A1. シルト質粘土 (黒色 N2/) : 炭化物を多含; SK17埋積層の縁部露出; SK16がSK17を切る。 |
|---|--|

図3 D区 SK16土坑の横断面-3

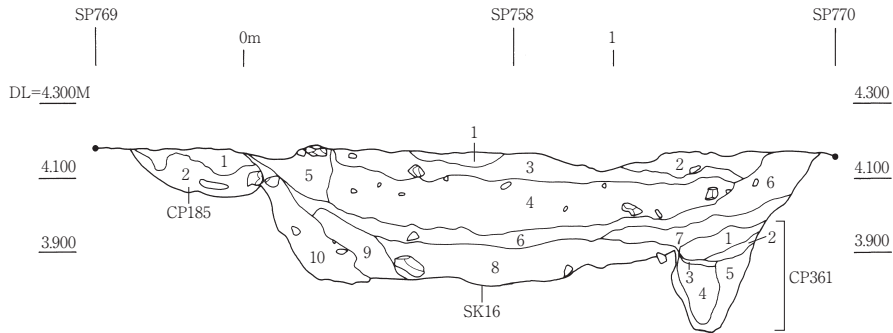


Fig. 75 D区 SK16土坑横断面-1・2・3 (S : 1/20)



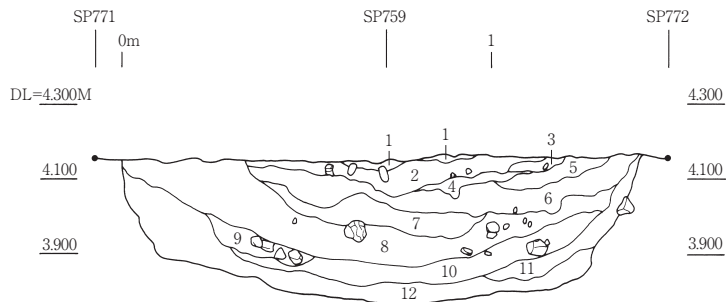
- SP767—SP768区間
- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. 砂質シルト(黒色10YR2/1):炭化物多含。 | 66。 |
| 2. 砂質シルト(黒褐色10YR3/1):礫微混;炭化物を含む。 | 10. 粘土質シルト(黄灰色2.5Y4/1):礫少混。 |
| 3. シルト(黒色10YR2/1):炭化物多含。 | 11. 粘土質シルト(褐灰色10YR4/1) |
| 4. 砂質シルト(黒褐色10YR3/1):炭化物を含む。 | 12. シルト質粘土(灰色N4/):還元;縦断面の71上半層に当たる。 |
| 5. 砂質シルト(黒褐色10YR3/1):炭化物少含。 | 13. 砂礫(暗灰色N3/) |
| 6. シルト(灰色5Y4/1) 縦断面の16・35に当たるが、横断面で識別不能。 | 14. シルト質粘土(褐灰色10YR4/1):礫微混。 |
| 7. 粘土質シルト(黄灰色2.5Y5/1):礫微混。 | 15. シルト質粘土(灰色N4/):還元;縦断面の71下半層に当たる。 |
| 8. 砂礫(黄灰色2.5Y6/2) | 16. 砂質シルト(黒褐色10YR3/1):礫少混;炭化物多含。 |
| 9. 砂質シルト(黒褐色10YR3/1):礫微混;炭化物を含む;縦断面の | 17. シルト質粘土(褐灰色10YR5/1) |

図4 D区 SK16土坑の横断面-4



- SP769—SP770区間
- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 砂質シルト(褐灰色10YR6/1):炭化物少含。 | 9. シルト質粘土(暗黄灰色2.5Y5/2) |
| 2. 砂質シルト(灰黄褐色10YR4/2):礫少混。 | 10. 礫混じり砂質シルト(黒褐色10YR3/2) |
| 3. 砂質シルト(褐灰色10YR6/1):礫微混;炭化物微含;縦断面の19。 | CP185埋積層(SK16が切る) |
| 4. 礫混じりシルト(褐灰色10YR5/1):混礫は円礫・角礫で構成;縦断面の26。 | 1. 砂質シルト(褐灰色10YR4/1) |
| 5. シルト(褐灰色10YR4/1):礫少混。 | 2. 砂礫(暗灰色N3/) |
| 6. シルト質粘土(暗青灰色10BG4/1):礫微混;縦断面の68。 | CP361埋積土(SK16が切る) |
| 7. 砂質シルト(褐灰色10YR4/1) | 1. シルト(黒褐色10YR3/2):炭化物を含む。 |
| 8. シルト質粘土(灰色N4/):礫散見;還元;縦断面の71。 | 2. 粘土質シルト(黒褐色10YR3/2):炭化物を含む。 |
| | 3. シルト質粘土(黒褐色10YR3/2):炭化物を含む。 |
| | 4. シルト質粘土(黒褐色10YR3/1):土壌置換の柱痕;炭化物多含。 |
| | 5. シルト質粘土(黒褐色10YR3/2):炭化物を含む。 |

図5 D区 SK16土坑の横断面-5



- SP771—SP772区間
- | | |
|--|--|
| 1. 砂質シルト(褐灰色10YR6/1):礫微混;炭化物微含;縦断面の19。 | 7. シルト(黒褐色10YR3/1):砂少混;炭化物を含む;縦断面の24。 |
| 2. シルト(灰色5Y5/1):礫少混;縦断面の21。 | 8. 礫混じりシルト(褐灰色10YR5/1):混礫は円礫・角礫で構成;縦断面の26。 |
| 3. 砂利(灰色5Y5/1) | 9. 礫混じりシルト(褐灰色10YR4/1) |
| 4. 砂質シルト(黒褐色2.5Y3/2) | 10. シルト質粘土(暗青灰色10BG4/1):礫微混;還元;縦断面の68。 |
| 5. 砂勝ち砂利(灰色5Y5/1) | 11. 砂質シルト(灰色7.5Y4/1):還元。 |
| 6. 粘土質シルト(暗黄灰色2.5Y5/2):砂少混;縦断面の23。 | 12. シルト質粘土(灰色N4/):還元;縦断面の71。 |

図6 D区 SK16土坑の横断面-6



Fig. 76 D区 SK16土坑横断面-4・5・6 (S: 1/20)

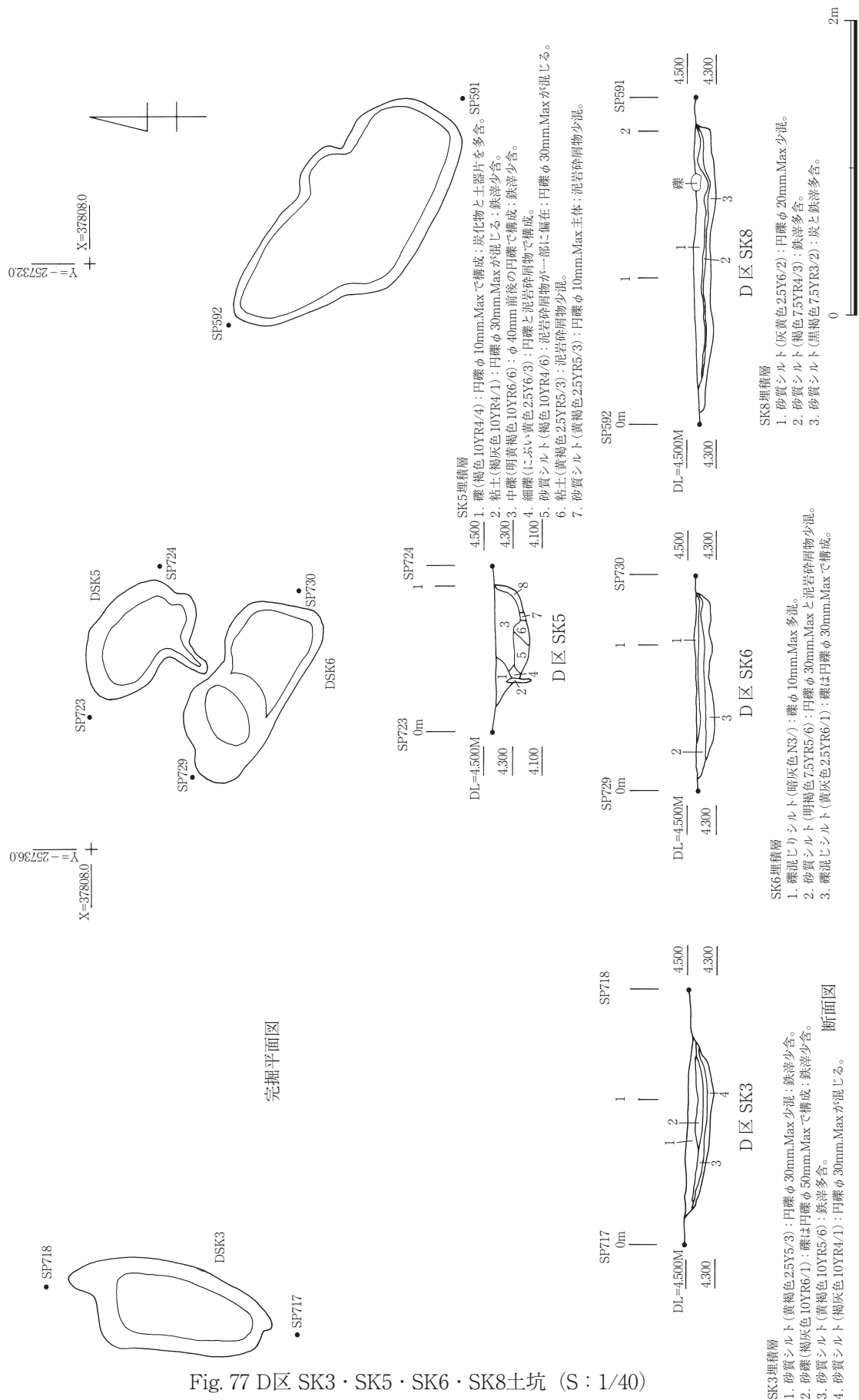


Fig. 77 D区 SK3・SK5・SK6・SK8土坑 (S : 1/40)

板において外面左から右への序列を示す。遺物番号との対応は本項関連図において部材記号 / 遺物番号の形で示す。

① 横板 (IYI・IIYI・IIIYI・IVYI) : 横立した四枚板を水溜の坑壁に寄せて正方形に組むが、仕口を設けない。板材の幅×厚×長 (m) は、IYI=0.295 × 0.035 × 1.080m ; IIYI=0.293 × 0.034 × 1.035m ; IIIYI=0.284 × 0.032 × 1.140m ; IVYI=0.295 × 0.030 × 1.040m を測る。これらを平均値で表せば横板 =0.29175 × 0.32000 × 1.07375m である。このように横板個体間は総じて僅差と言えるが、第3面IIIYIの長さのみは、他の3枚が1.05m付近に集中するのに対して、平均0.09mほど長く規格を異にする。この1点の長さを除く横板部材の尺度規格は、幅1尺・長3尺5寸・厚1寸の見当が可能となる。これよる1尺逆算値は、総延4.453m/14.9尺=0.29886mであり、曲尺現行値10m/33=0.30303...mとの差は、-0.00417m (-4.17mm)と算出される。

② 隅柱 (ISH・IISH・IIISH・IVSH) : 方柱4本で構成し、それぞれ上掲した横板組の交角上に立てる。IISHを除く3柱には、角稜面取りの形跡が残る。柱基付近はいずれも完全な遺存であり、断面径はISHから記号順に0.185 × 0.165m (見当6寸×5寸5分) ; 0.152 × 0.146m (見当5寸×5寸) ; 0.195 × 0.185m (見当6寸5分×6寸) ; 0.180 × 0.178m (見当6寸×6寸) を測る。このように規格の異なる柱を混用する点に加え、IIISHの基部に井戸側の外面では無用の柄穴 (幅80mm ; 奥行55mm) を見る点などから、いずれの柱も解体建築部材を転用・加工したものと考えられる。柱径の大小に対する柱遺存の長短は正の関係にあり、長い個体からISH (2.310m) ; IVSH (2.305m) ; IIISH (1.948m) ; IISH (1.817m) の順となる。隅柱相互の対面には、基底部から平均0.67m (見当2尺2寸) ごとに横幅40～50mm前後の縦に長い柄穴を鑿削しており、それらは各柱とも下から3段までが明瞭に遺存し、ISH・IVSHでは4段目も僅かに残る。また、柄穴鑿削の横幅は、概ね柱の中軸線を基線とし、木組内部に向けて取る。これら柄穴は、木組連結の要として設けた仕口であり、横棧両端と結合する。これら柄穴の縦長径には長短が目立ち、88mm～155mmの間に数値が分布する。なお、柄穴間隔の測点は、仕口として自然安定する柄穴下端どうしの距離とする。実際、大部分の柄穴下端は、柱底面からの距離が等間に近い。上記した柄穴間隔2尺2寸の見当による1尺逆算値は、0.30455mである。

③ 横棧 (IYS-1・IIYS-1・IIIYS-1・IVYS-1・IYS-2・IVYS-2・IVYS-3) : 構造部材の中では最も狭小である点から、渇水期でも地下水位に近い最下段に完存する一組4本 (IYS-1・IIYS-1・IIIYS-1・IVYS-1) 以外では、第2段目の (IVYS-2) と第3段目の (IVYS-3) が、各々片方の仕口と結合した状態で過半を留めるのみである。井戸側外部の土水圧を反映する弓なりの外弯を来たしものが特に目立つ。完存する横棧4本の幅×厚×長 (m) を列記すると、IYS-1=0.074 × 0.045 × 1.028m ; IIYS-1=0.076 × 0.045 × 1.057m ; IIIYS-1=0.098 × 0.036 × 1.020m ; IVYS-1=0.080 × 0.042 × 1.006m である。長さの平均値は1.028mであり、約3尺4寸に相当する。これら4本を含む横棧はいずれも柃目を厚みに取る。隅柱の柄穴と組む横棧両端部は、顕著な突起を削り出さない大入 (ふといれ) とし、厚みの大きいものでは削りによって組み具合を調整している。

④ 縦板 (ITI-1～3・IITI-1～3・IIITI-1～3・IVTI-1～3) : 縦板は横棧に外接して各隅柱間に3枚ずつ並列しており、井戸側合計12枚で構成する。基底部付近の遺存はいずれも完全ながら、

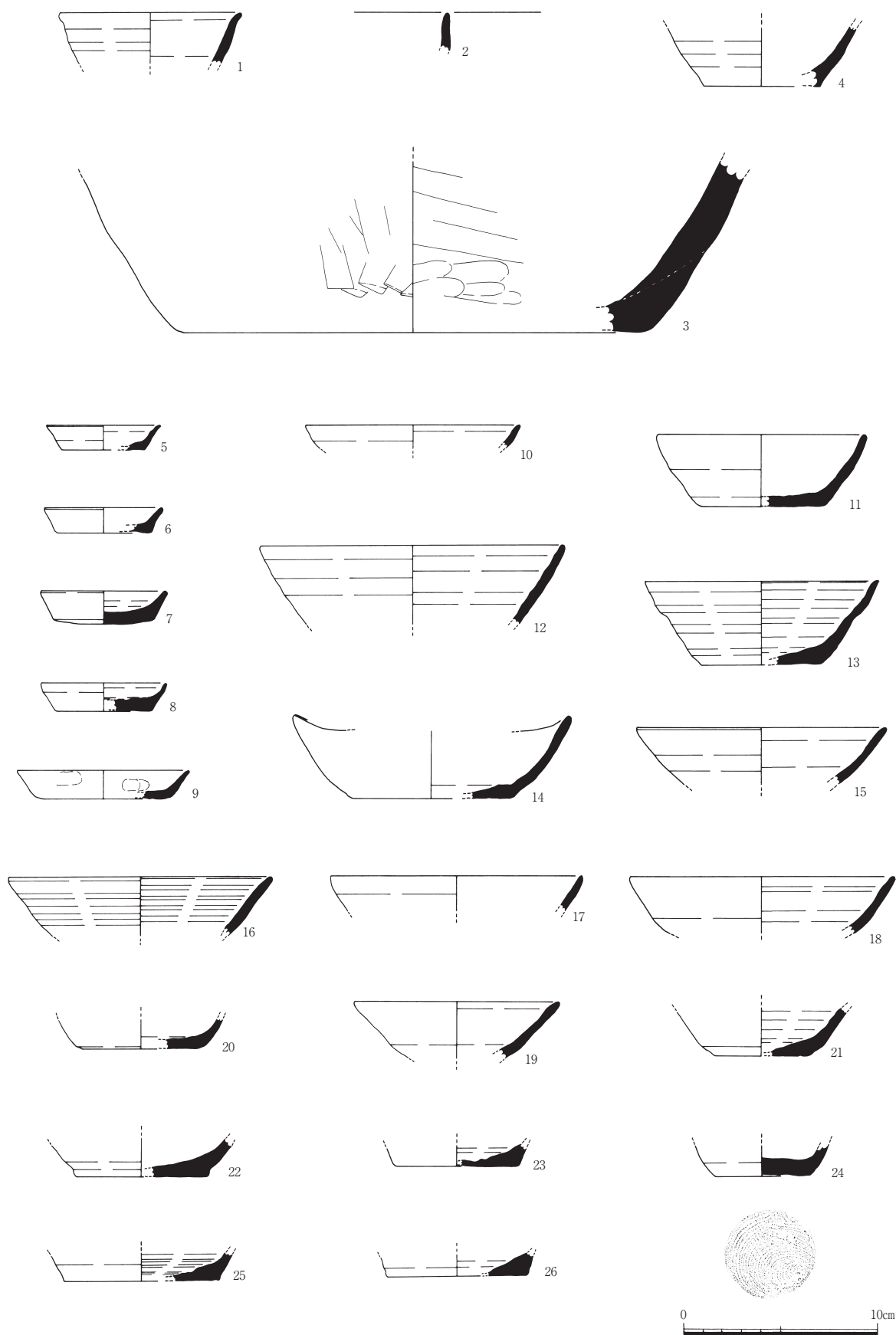


Fig. 78 D区出土遺物 1 (S : 1/3)

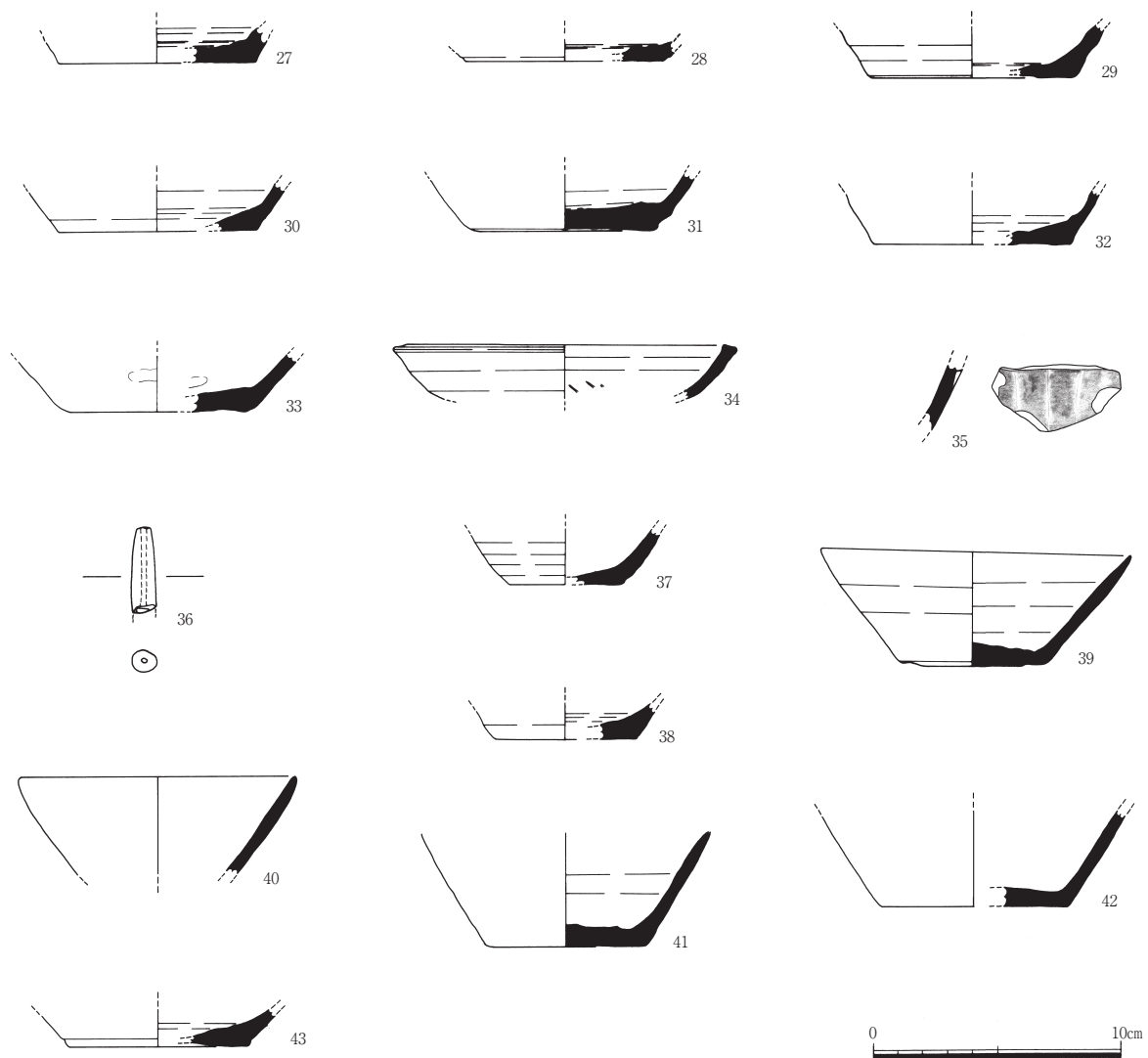


Fig. 79 D区出土遺物 2 (S : 1/3)

酸化度合いの強化する上位において分解を免れ端部を維持する個体は1枚も見ない。横棧ほど極端ではないが、縦あるいは横方向に外弯を来した個体が半数に及ぶ。板幅は0.273～0.316mの範囲を分布圏とし、12枚総延3.658m、12尺見当に及ぶ。その1枚幅平均値は0.30483mであり、現行曲尺値0.30303mとの差は、僅か1.8mm程度に過ぎない。現行曲尺値に最も近い固体幅度としては、ⅡTI-1とⅢTI-2における各々0.304m・0.302mが挙げられる。また、井戸側4面ごとの3枚縦板幅延長(TL)と1枚幅平均値(AW)を列記すると、第1面(Ⅰ・南側)でTL=0.896m, AW=0.29867m; 第2面(Ⅱ・東側)でTL=0.911m, AW=0.30367m; 第3面(Ⅲ・北側)でTL=0.931m, AW=0.31033m; 第4面(Ⅳ・西側)でTL=0.920m, AW=0.30667mである。これら板幅延長値の小差は不等規格の隅柱による柱間小差と相互補完し、井戸側(枠)全体の平面形を正確な正方形に仕上げる不可欠な要素をなす。その中で、既述のように小差を挟む縦板12枚を総延幅12尺に揃えている。この精密な仕様は、井戸側全体が傾斜を来す以前の復元図(直立勢)を作

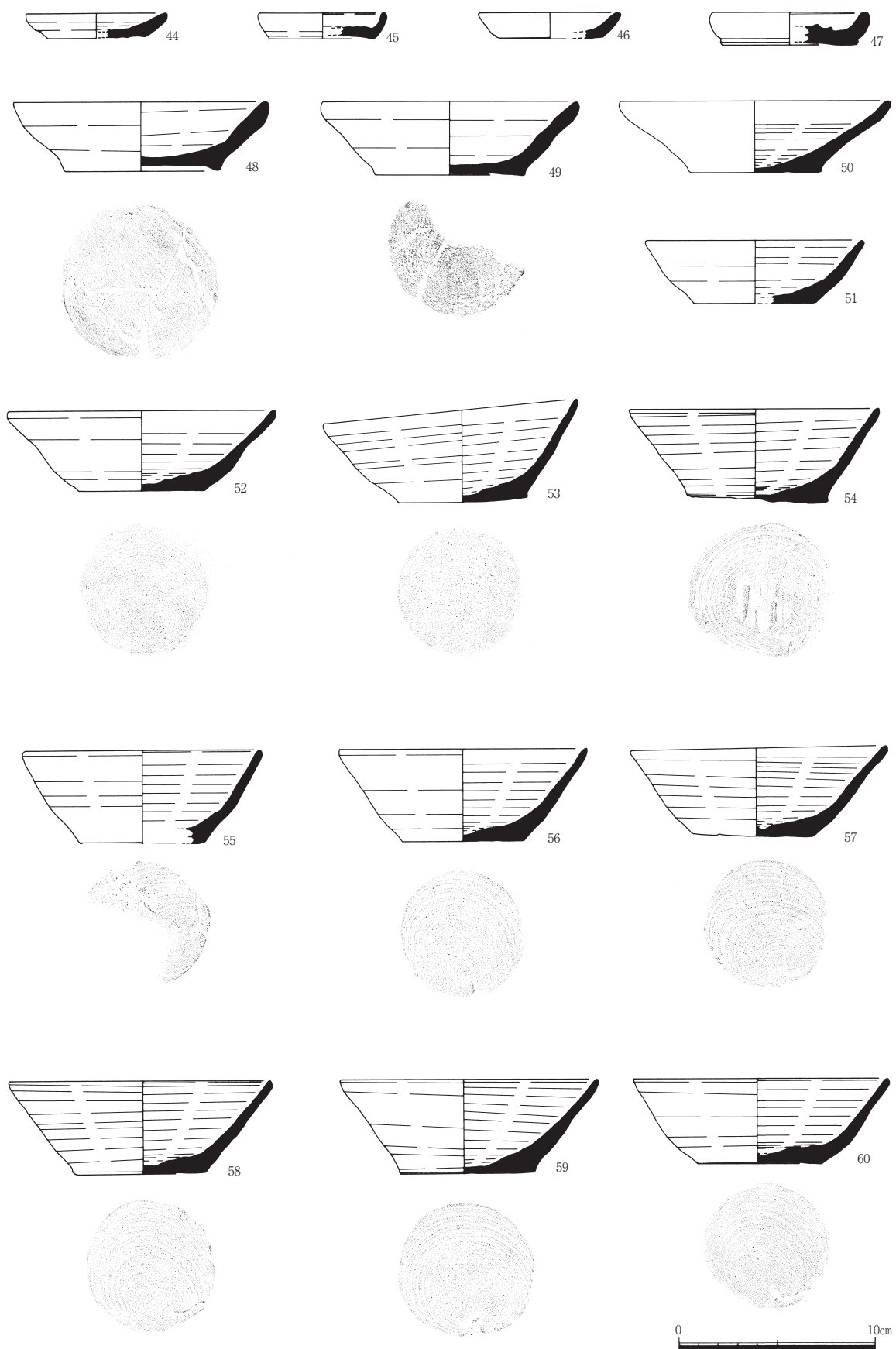


Fig. 80 D区出土遺物 3 (S : 1/3)

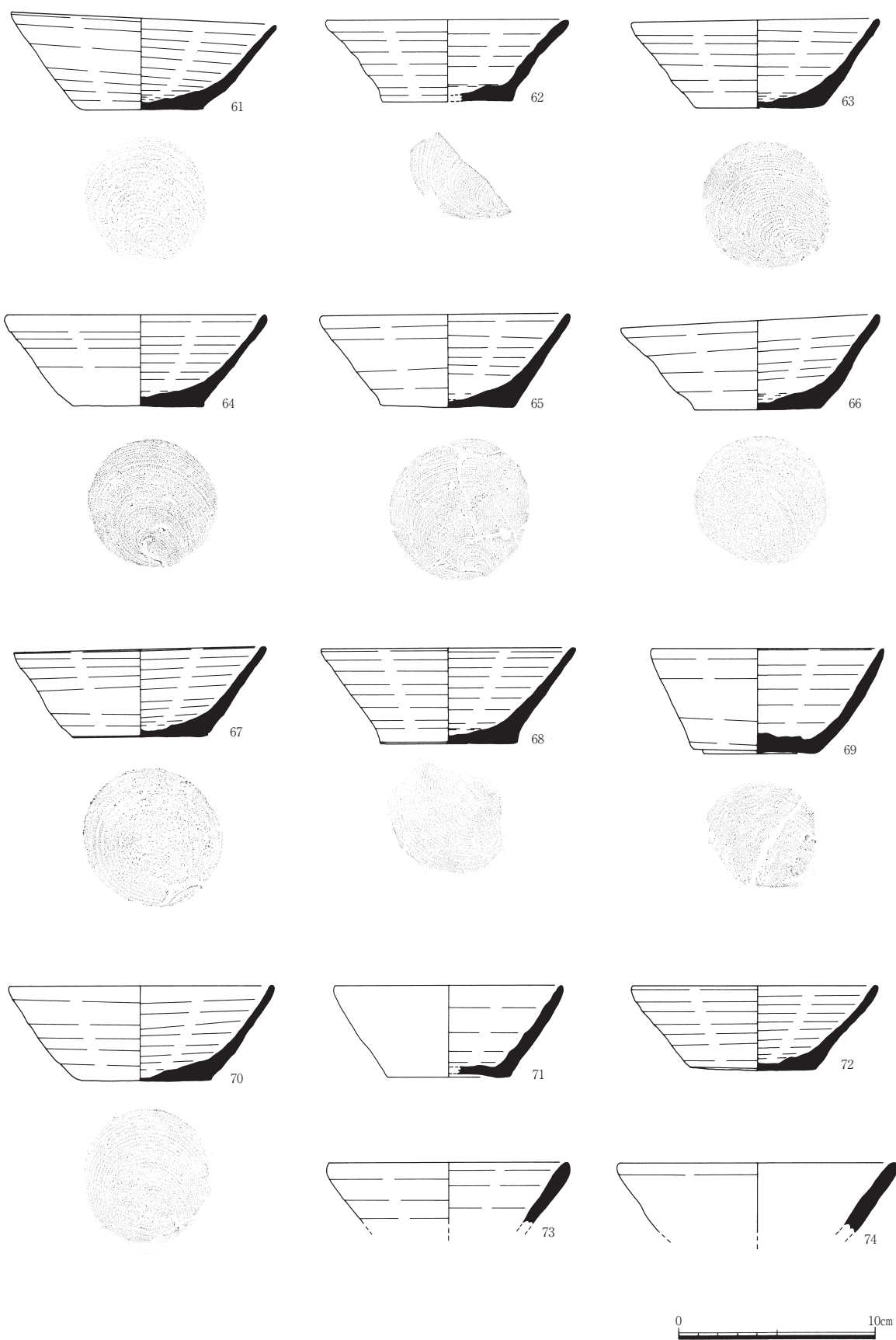


Fig. 81 D区出土遺物 4 (S : 1/3)

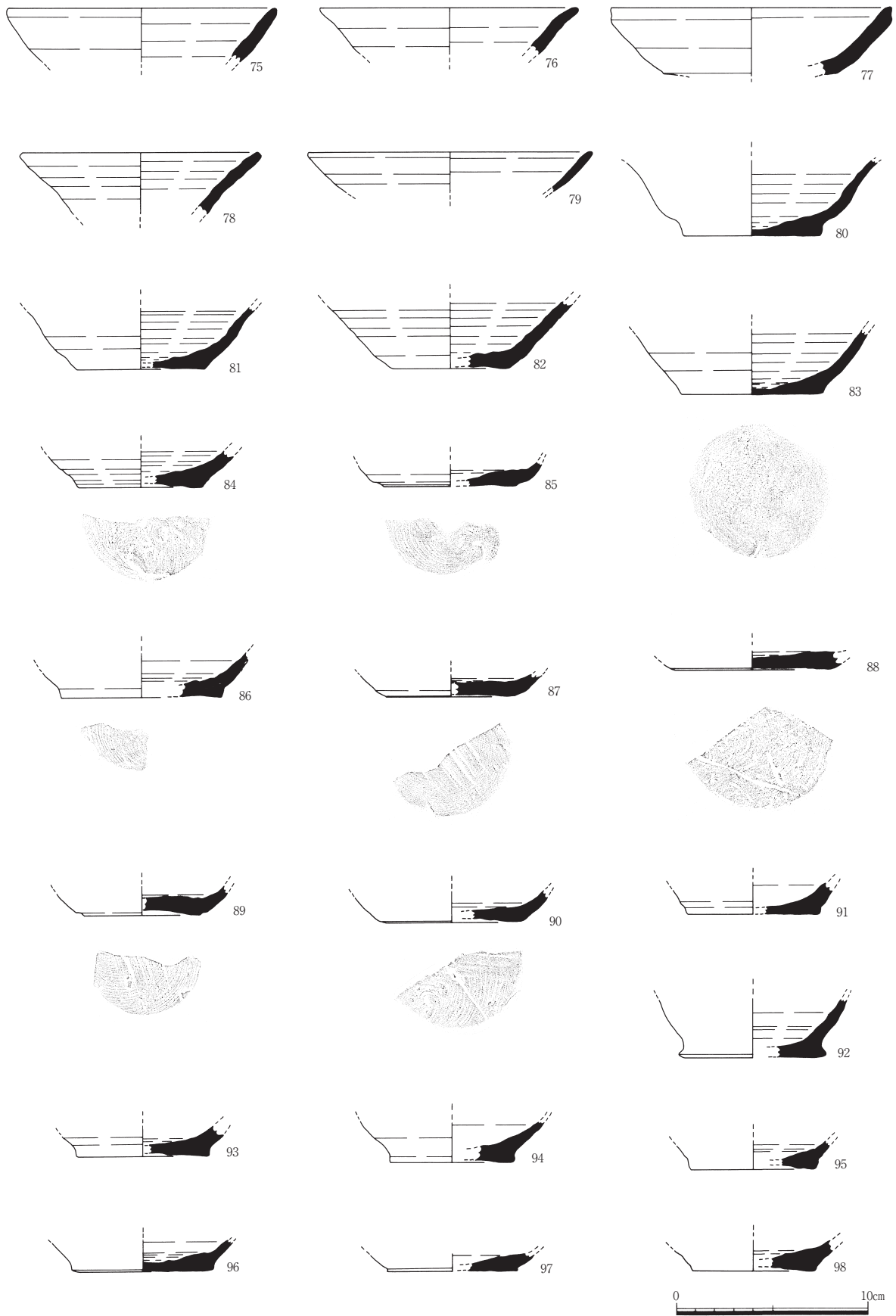


Fig. 82 D区出土遺物 5 (S : 1/3)

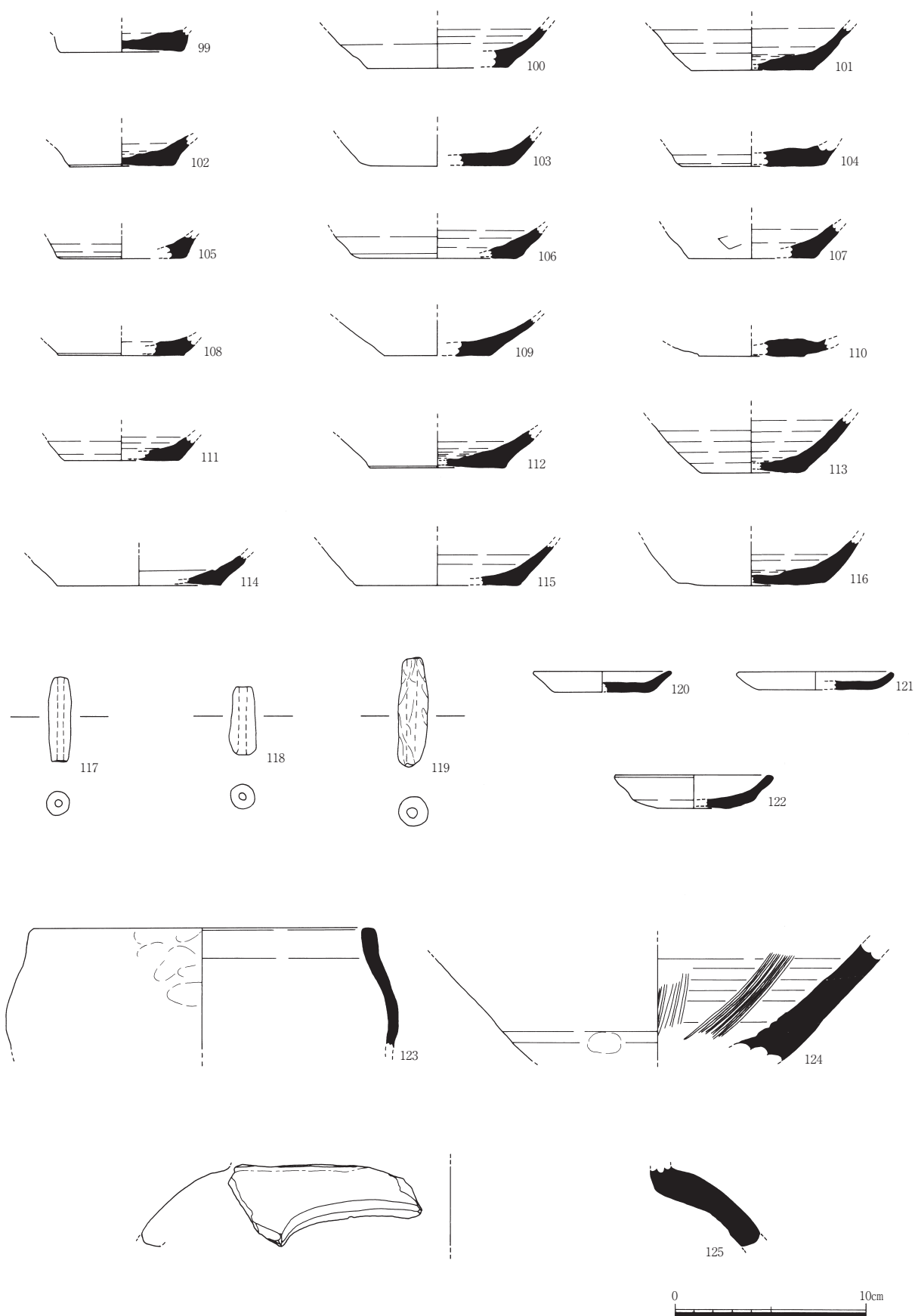


Fig. 83 D区出土遺物 6 (S : 1/3)

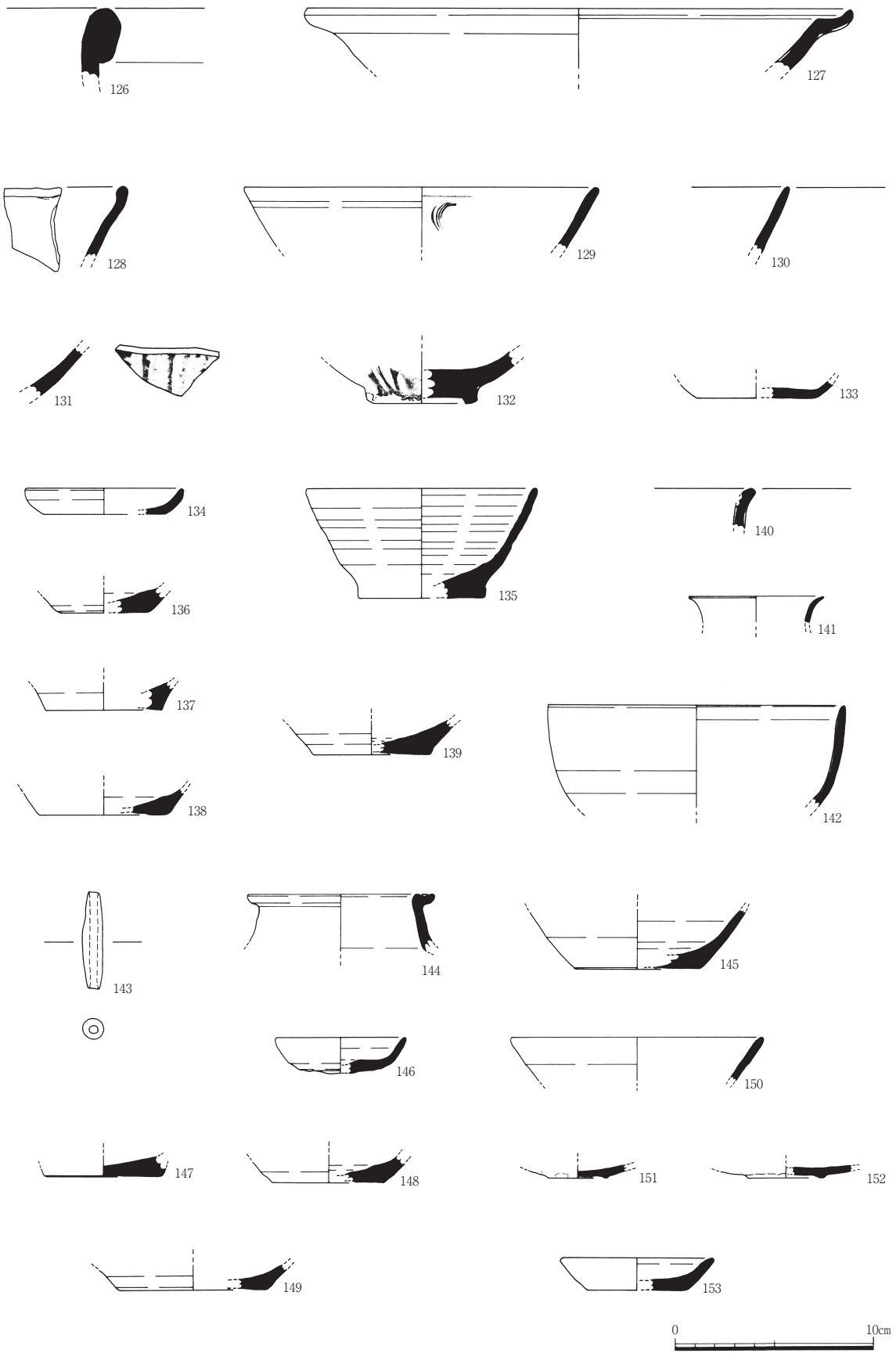


Fig. 84 D区出土遺物 7 (S : 1/3)

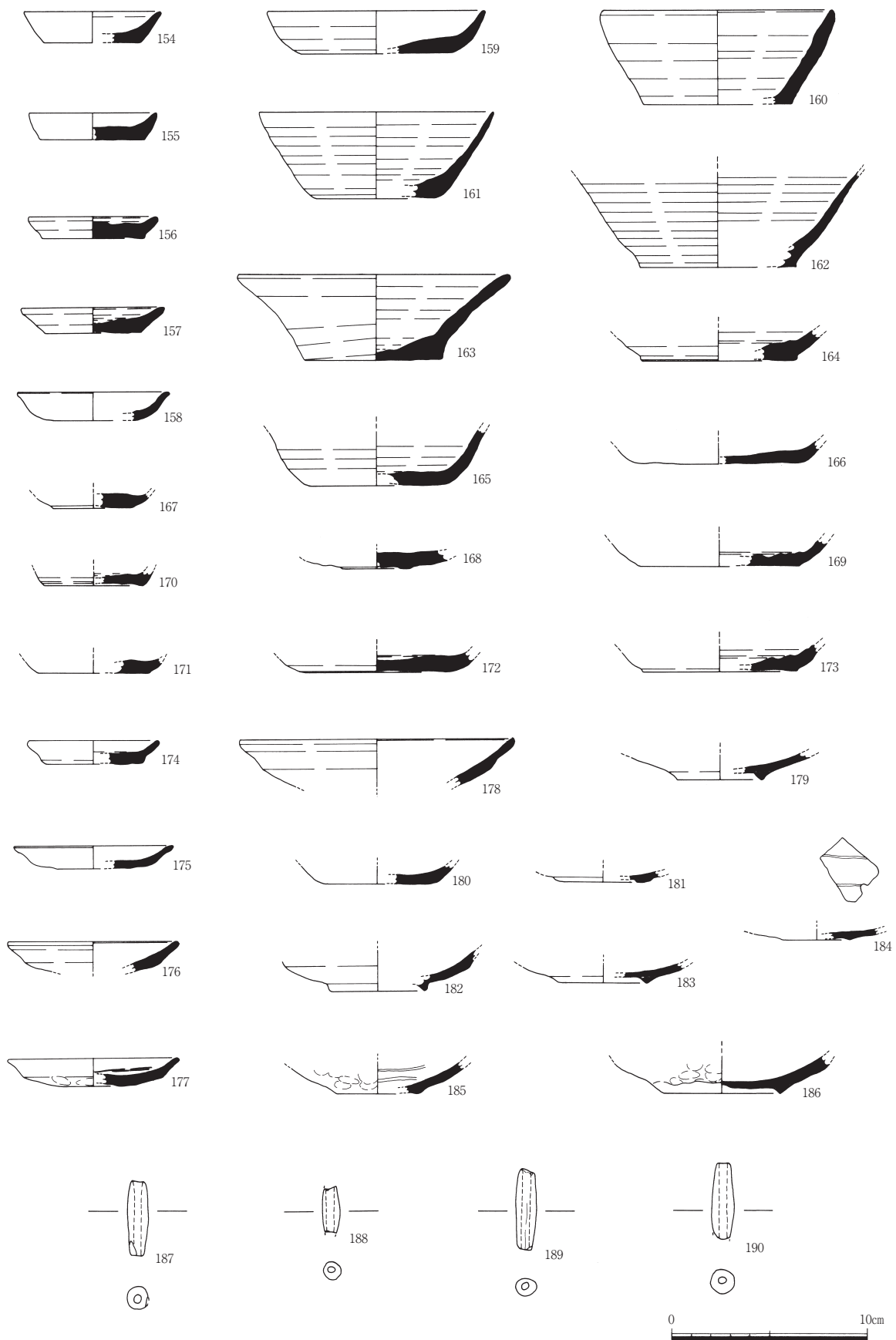


Fig. 85 D区出土遺物 8 (S : 1/3)

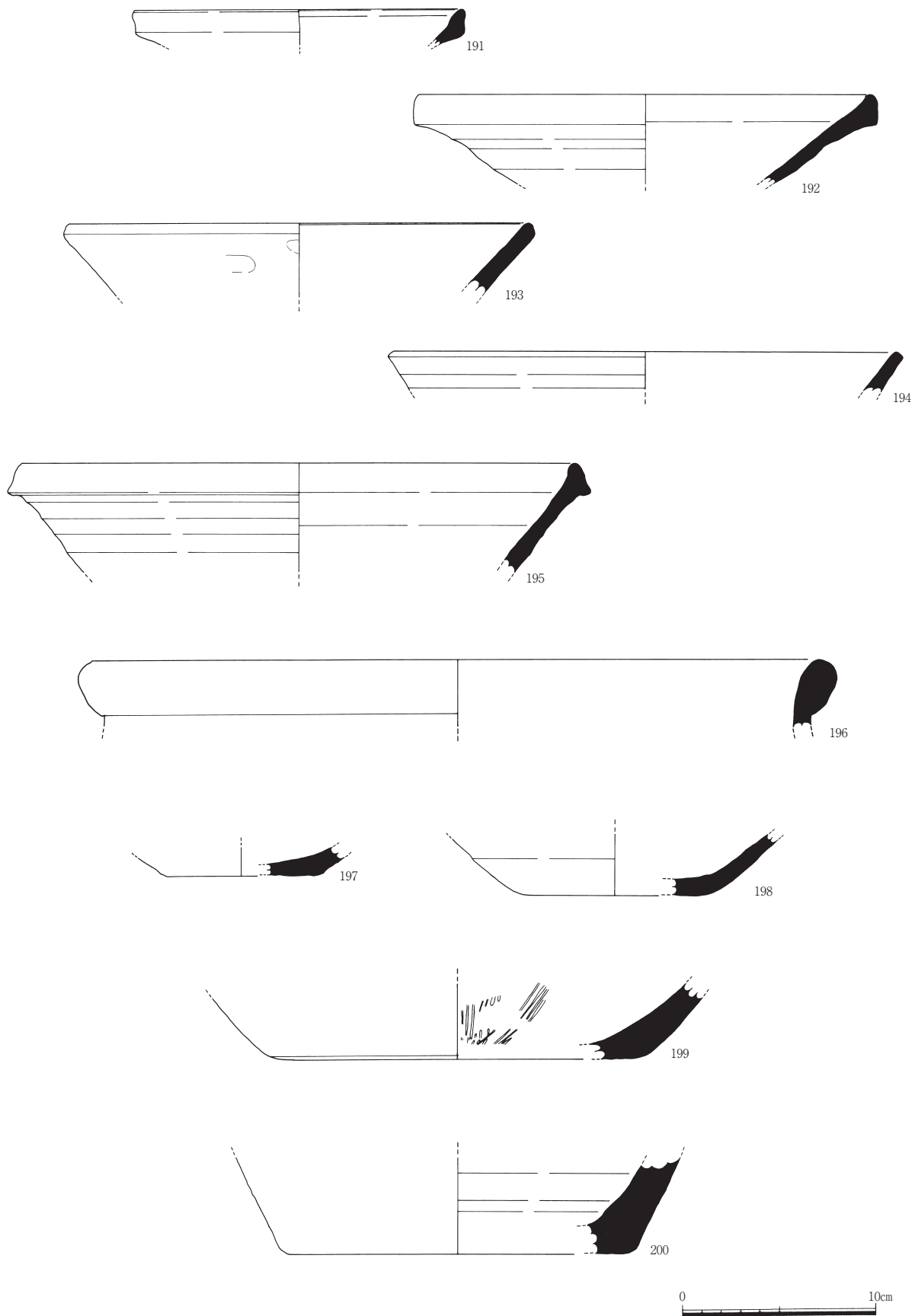


Fig. 86 D区出土遺物 9 (S : 1/3)

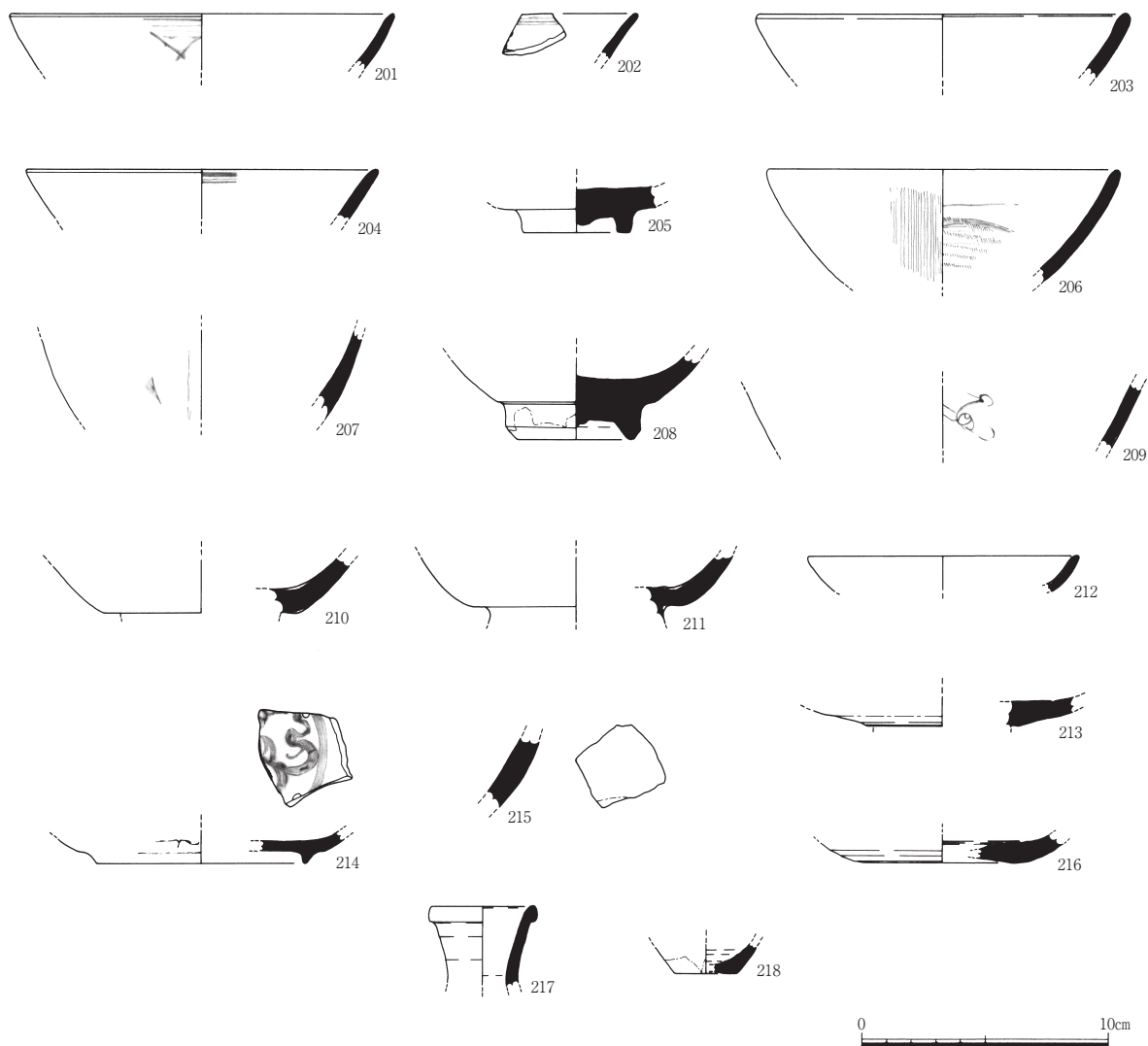


Fig. 87 D区出土遺物 10 (S : 1/3)

成する過程で次第に明らかとなった (Fig.66 ~ 70)。部材実測に基づく図上復元の結果、縦板外面を基準とする木組平面の中央径は、南北 1.210m、東西 1.193m と接近しており、井戸側一辺 4 尺の設計を意図した点に疑問の余地はない。

D 区 SE1 縦板サイズ (最大実値) 一覧

第1面: I TI-1=0.308×0.044×(1.711)m; I TI-2=0.315×0.043×(1.696)m; I TI-3=0.273×0.049×(1.489)m

第2面: II TI-1=0.304×0.039×(1.432)m; II TI-2=0.291×0.039×(1.576)m; II TI-3=0.316×0.045×(1.243)m

第3面: III TI-1=0.314×0.040×(0.751)m; III TI-2=0.302×0.035×(1.409)m; III TI-3=0.315×0.042×(1.243)m

第4面: IV TI-1=0.312×0.042×(1.466)m; IV TI-2=0.292×0.048×(1.429)m; IV TI-3=0.316×0.047×(1.477)m

ii 地層: 次に、この井戸跡 SE1 の地層 (SP1011-SP1012 区間; Fig.64・表※) について述べる。まず、SE1 の南西縁部が消息を絶つ D 区西境の地層断面では、SD1 掘り込みの水準上限が第 II 層 (現鋤床層) 基底、すなわち第 III 層 (中世文化層) 表面に存在することを確認している。調査区境の同

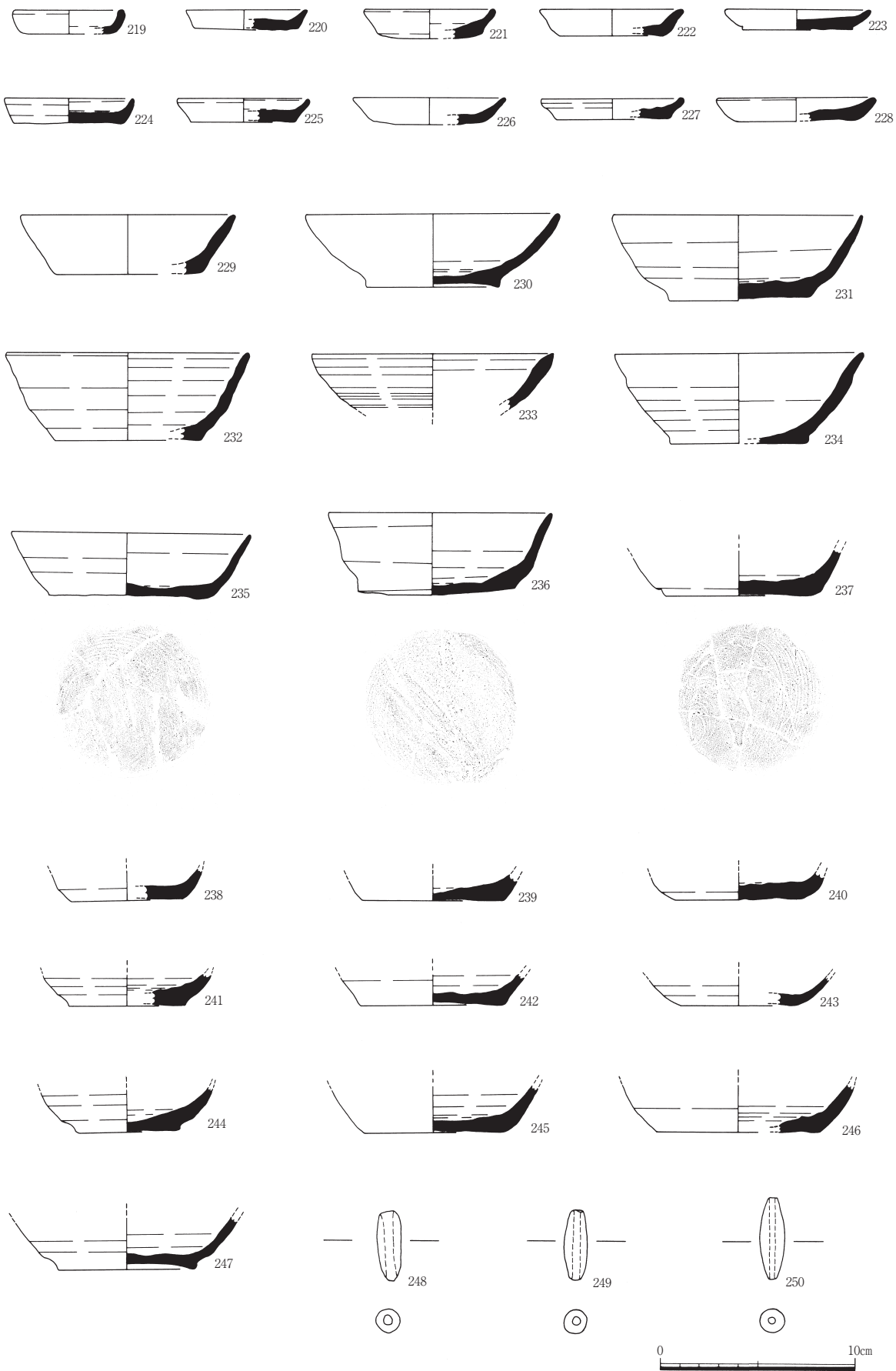


Fig. 88 D区出土遺物 11 (S : 1/3)

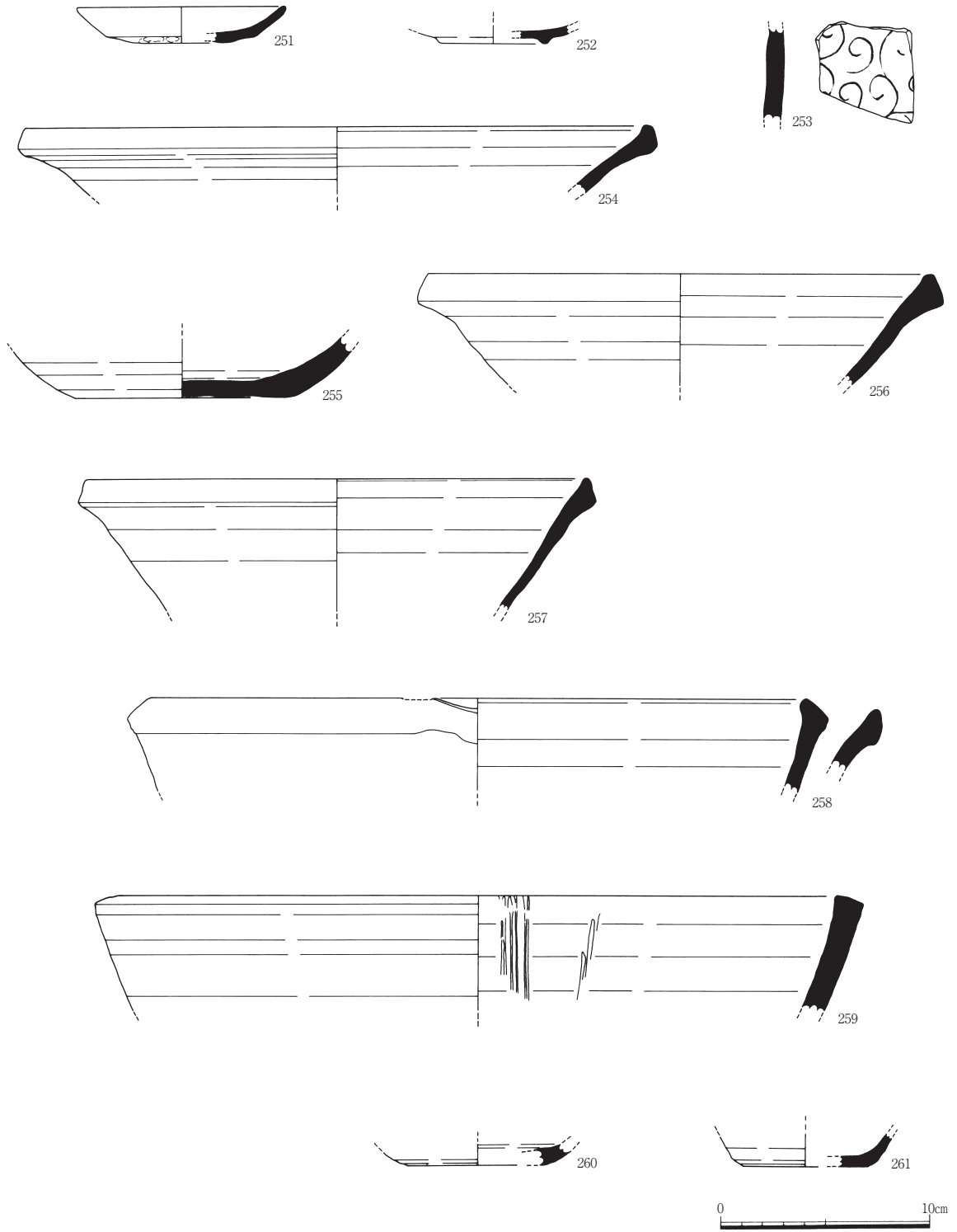


Fig. 89 D区出土遺物 12 (S : 1/3)

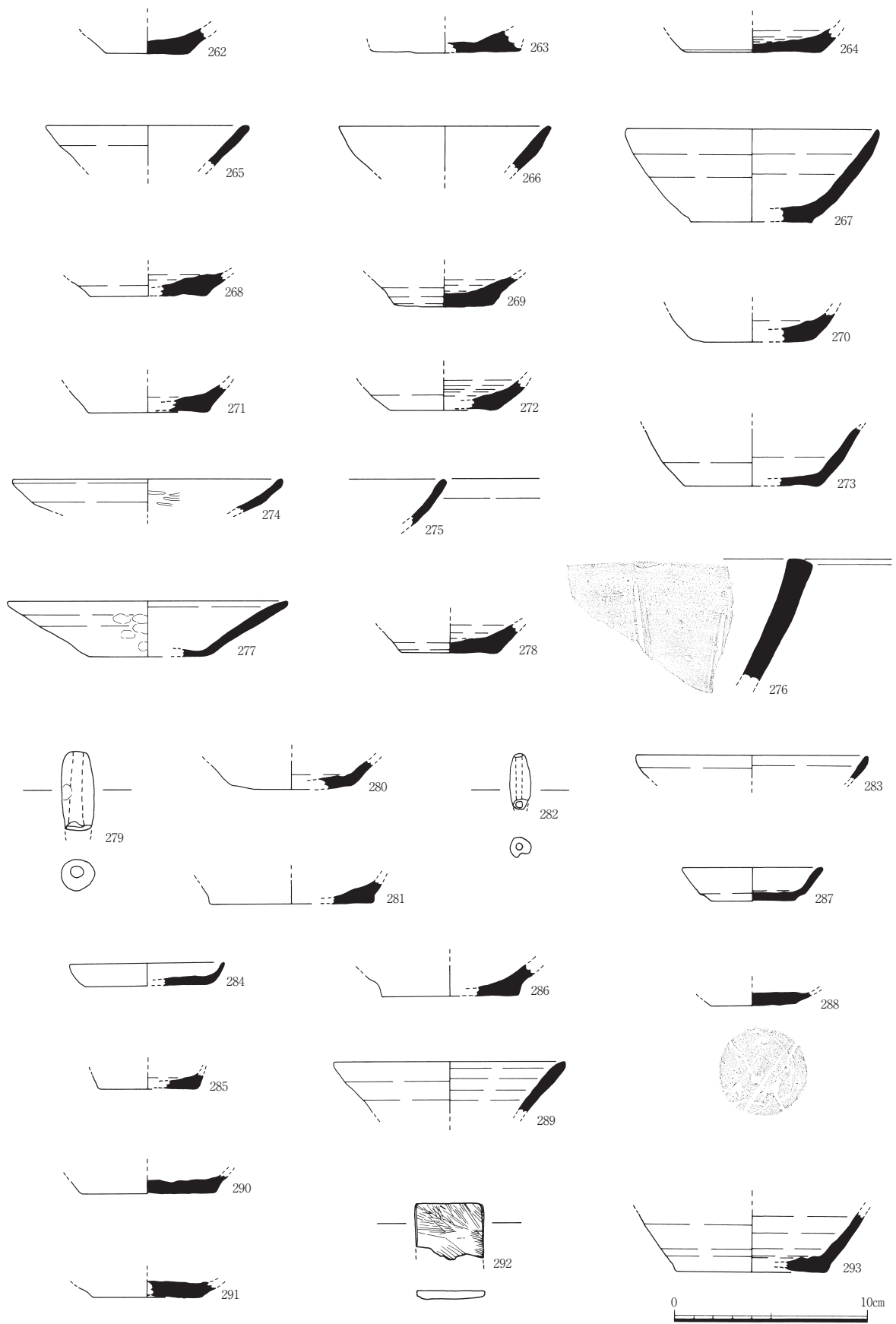


Fig. 90 D区出土遺物 13 (S : 1/3)

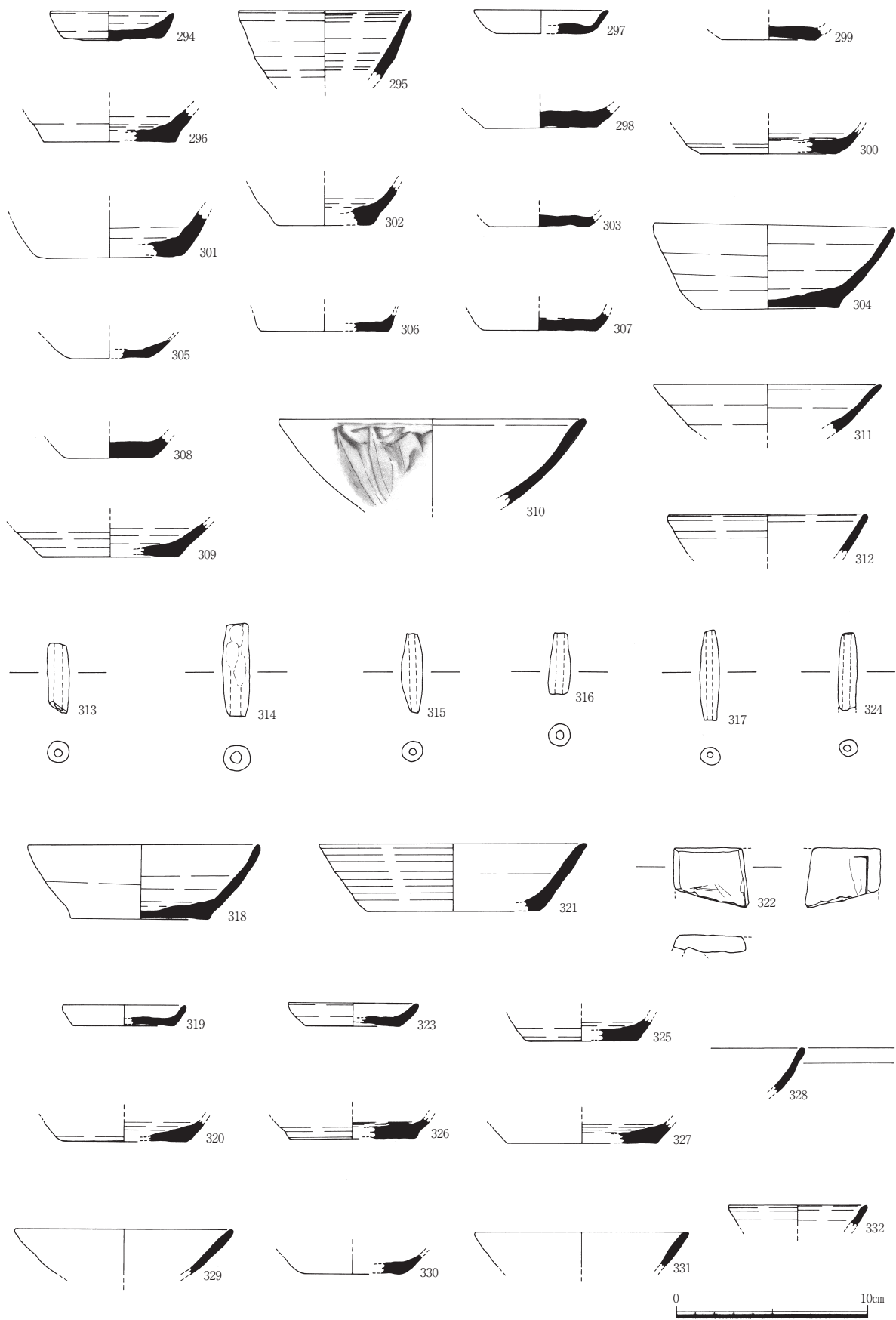


Fig. 91 D区出土遺物 14 (S : 1/3)

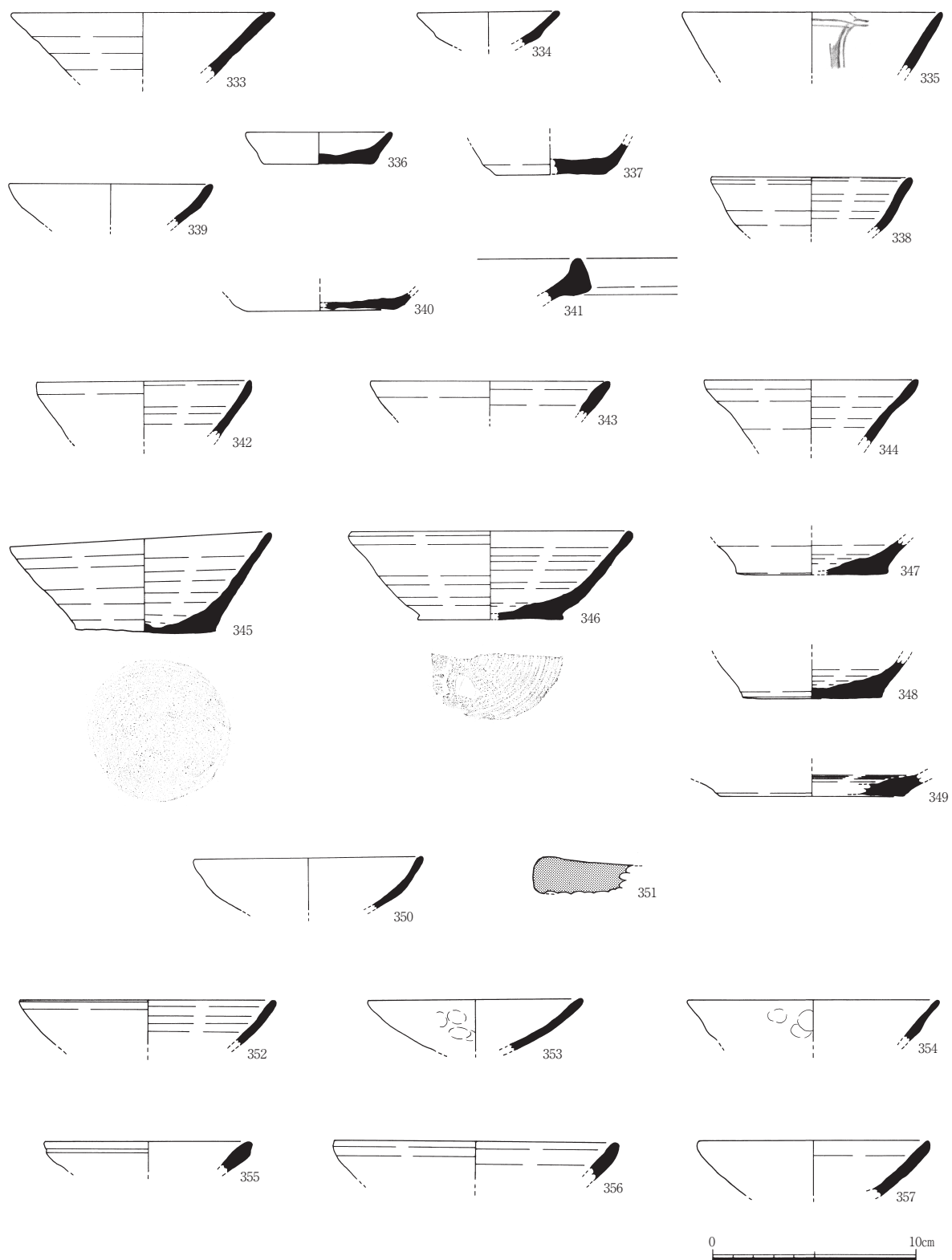


Fig. 92 D区出土遺物 15 (S : 1/3)

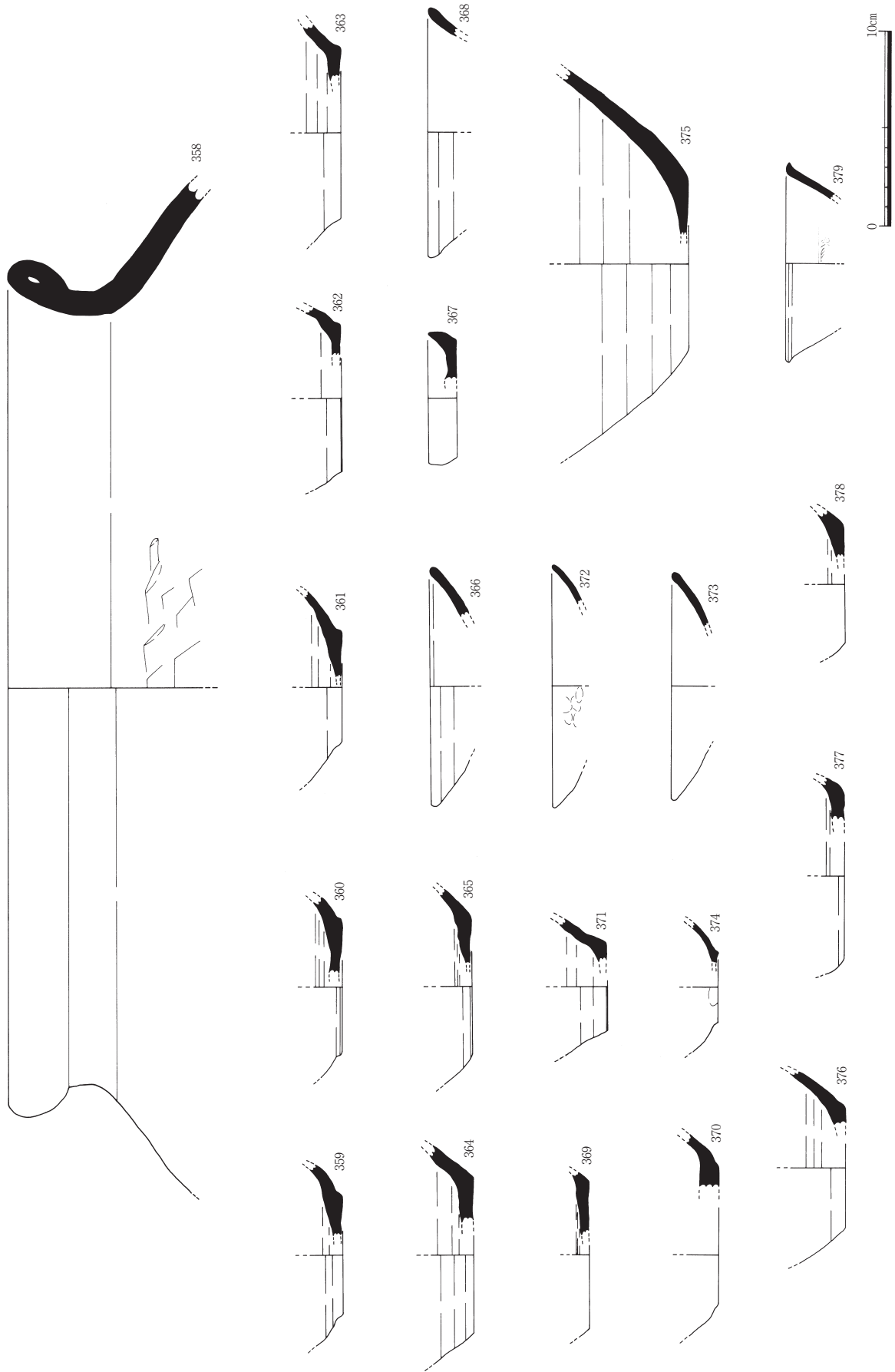


Fig. 93 D区出土遺物 16 (S : 1/3)

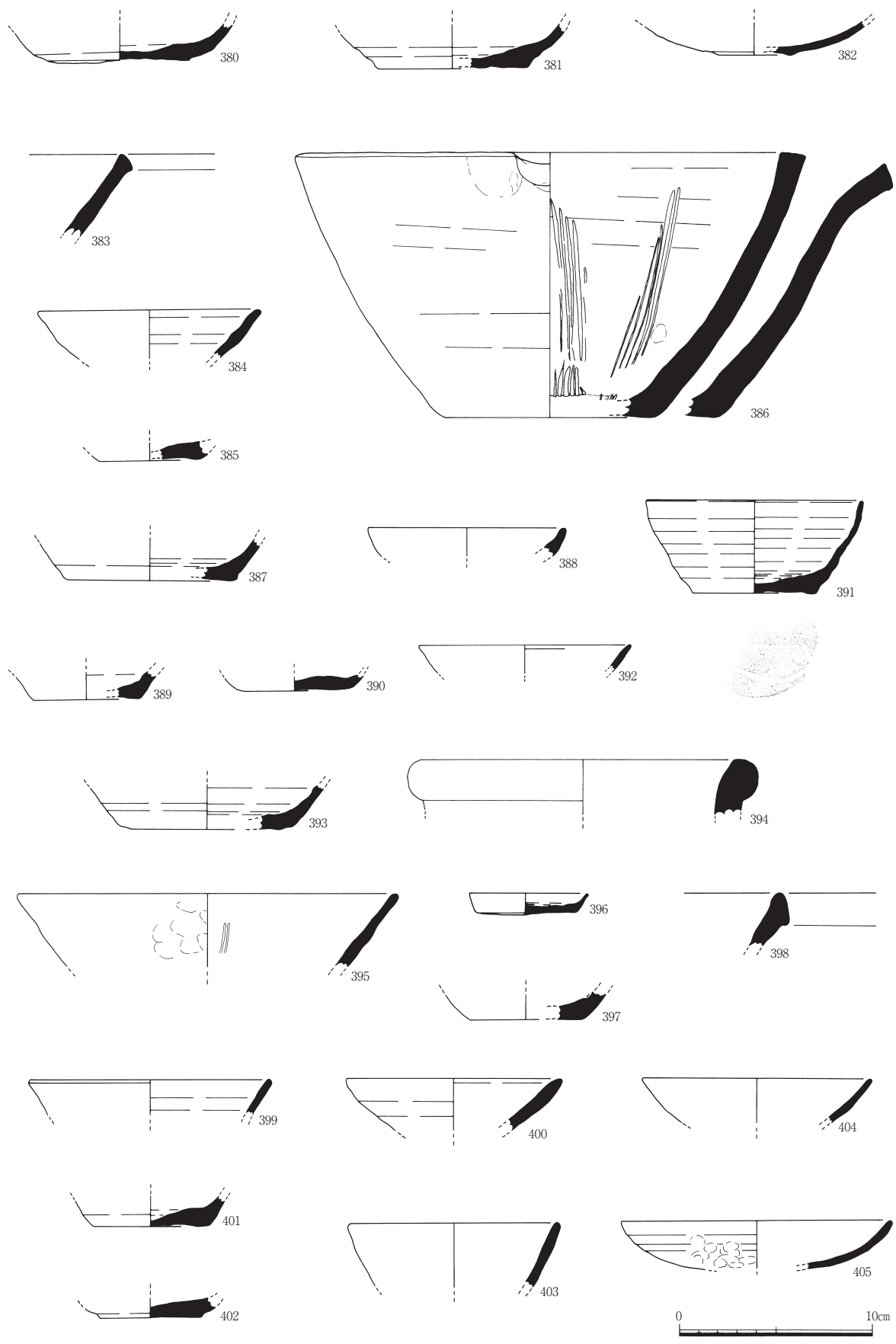


Fig. 94 D区出土遺物 17 (S : 1/3)

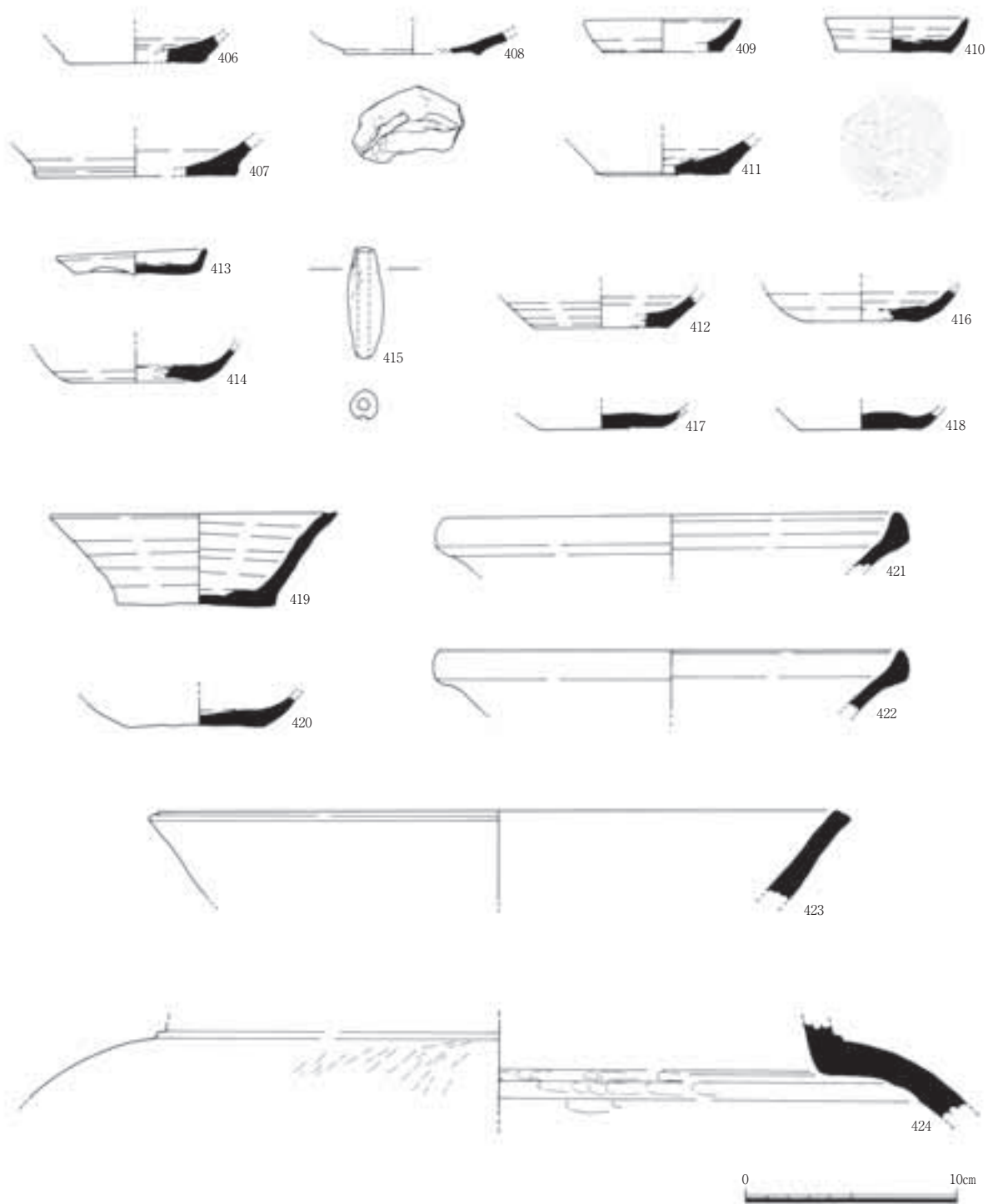


Fig. 95 D区出土遺物 18 (S : 1/3)

層準で中世の遺構埋積層が不整合面となる例は他にも多見する。それゆえ、井桁や洗場等を伴ったであろう元来の地表部付近が、後世の削整等で消滅したことは明らかである。SE1の平面検出は第Ⅲ層の基底面で行い、当初にふい黄橙色粘土がL字形带状に露呈した。これがSE1井戸側内部の埋積層 M1-1 であり、内部からは硬質砂岩円礫碎片（φ 200mmMax 級）とともに、土師器・備

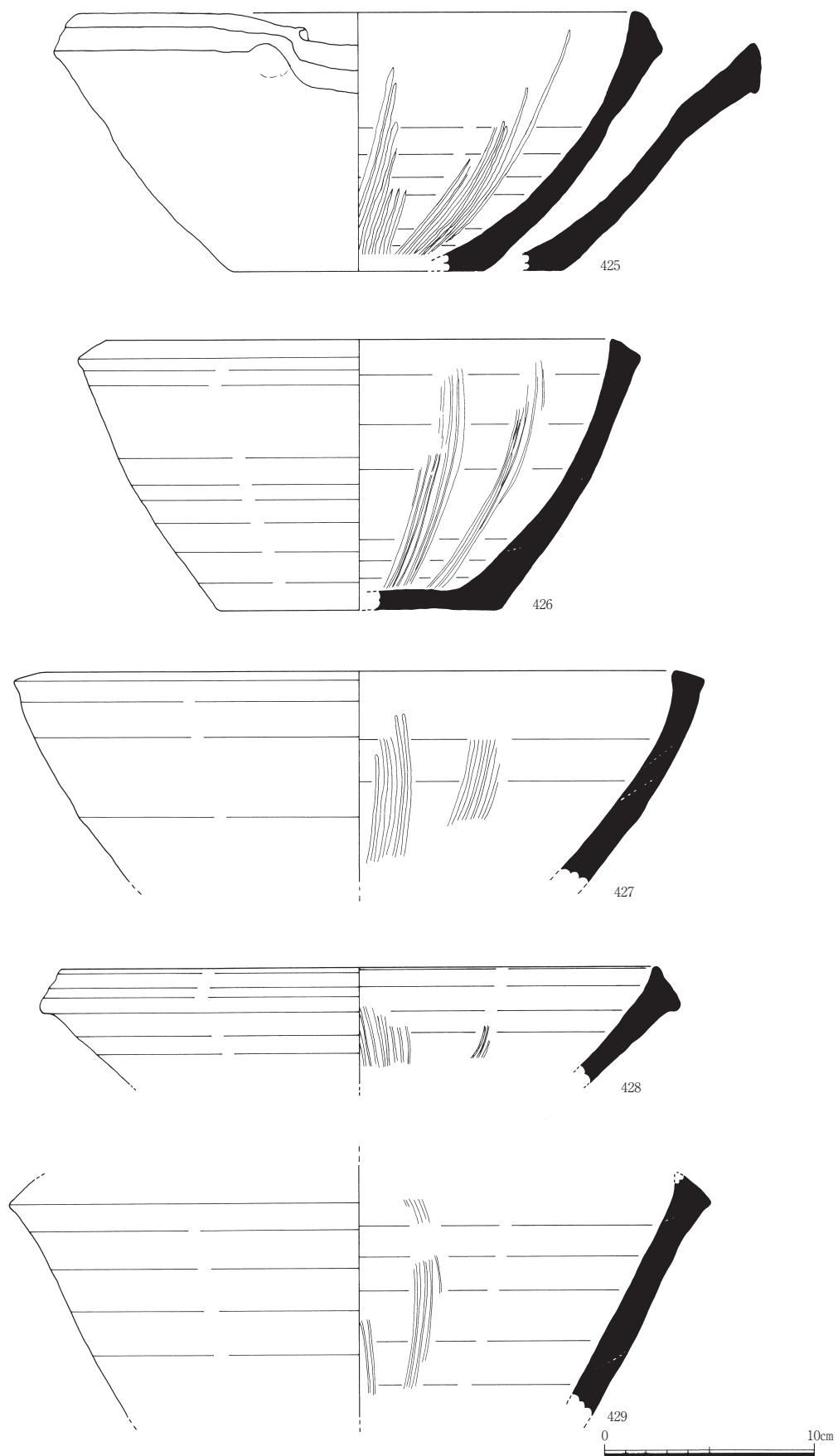


Fig. 96 D区出土遺物 19 (S : 1/3)

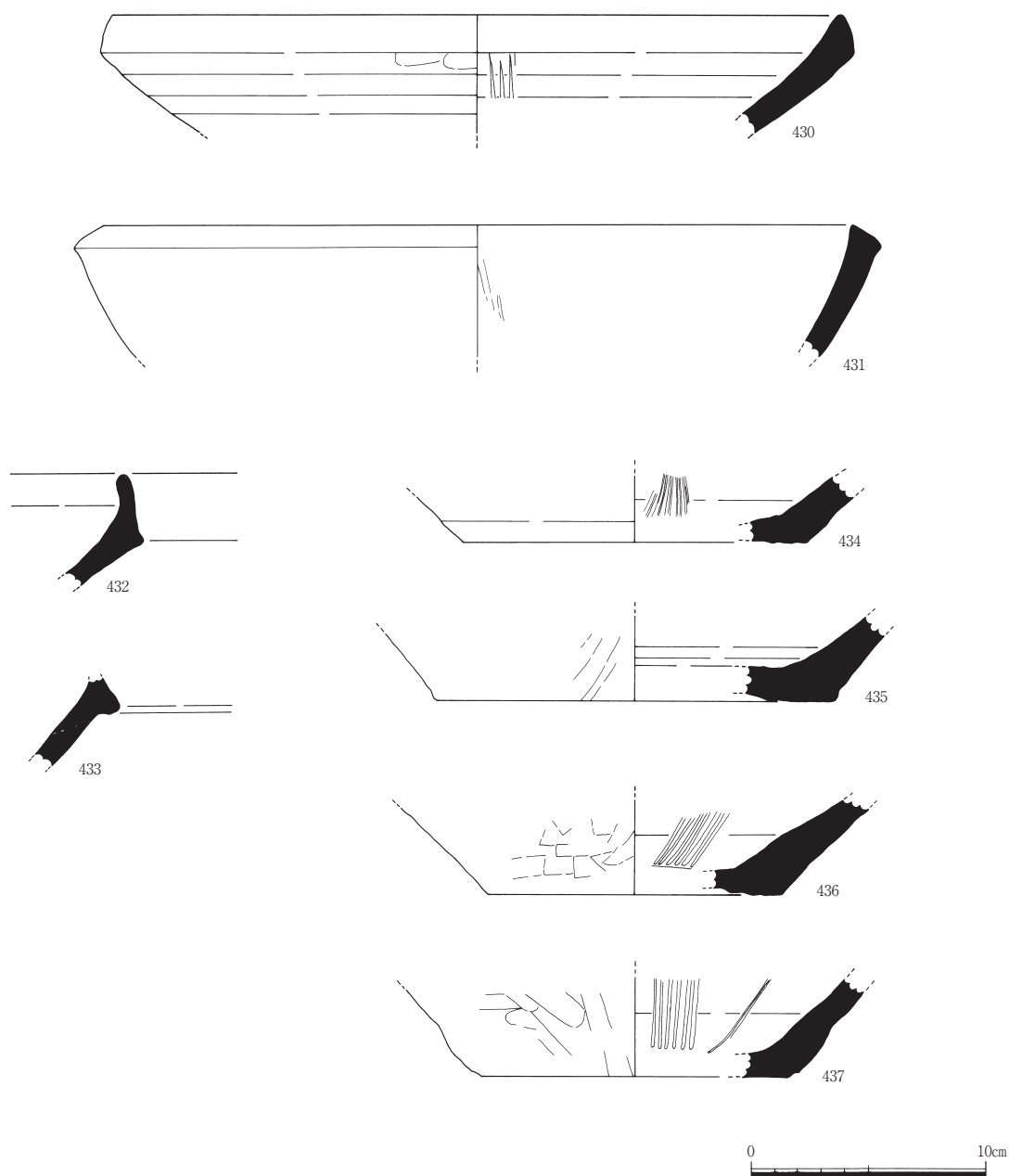


Fig. 97 D区出土遺物 20 (S : 1/3)

前甕の破片類が出土した (Fig.63- 図2)。この下位には、橙色粘土と硬質砂岩垂角礫、(φ 330mm. Max 級) を多含する酸化層 (M1-2~9) がしばらく続く。この過程で、隅柱 4 本と縦板列の上部が出現したため、井戸跡としての調査に切り替え、遺構全体の外縁を検出した。井戸側 (杵) 内外の人力掘削は標高 2.8m の水準まで行い、埋積層 M2-2 (還元粘土) において完形土師器の集中を検出している。この集中は、標高 3.1~2.8m の範囲に存在した。また、同層準では分解の進行した横棧の一部も採取している。ここまでは、十字ベルトを保持して掘削をすすめたが、以後機械掘削に転換し、木組構造の基底確認が可能な水準まで拡張半裁 (SP1011-SP1012 区間 ; SP1011´

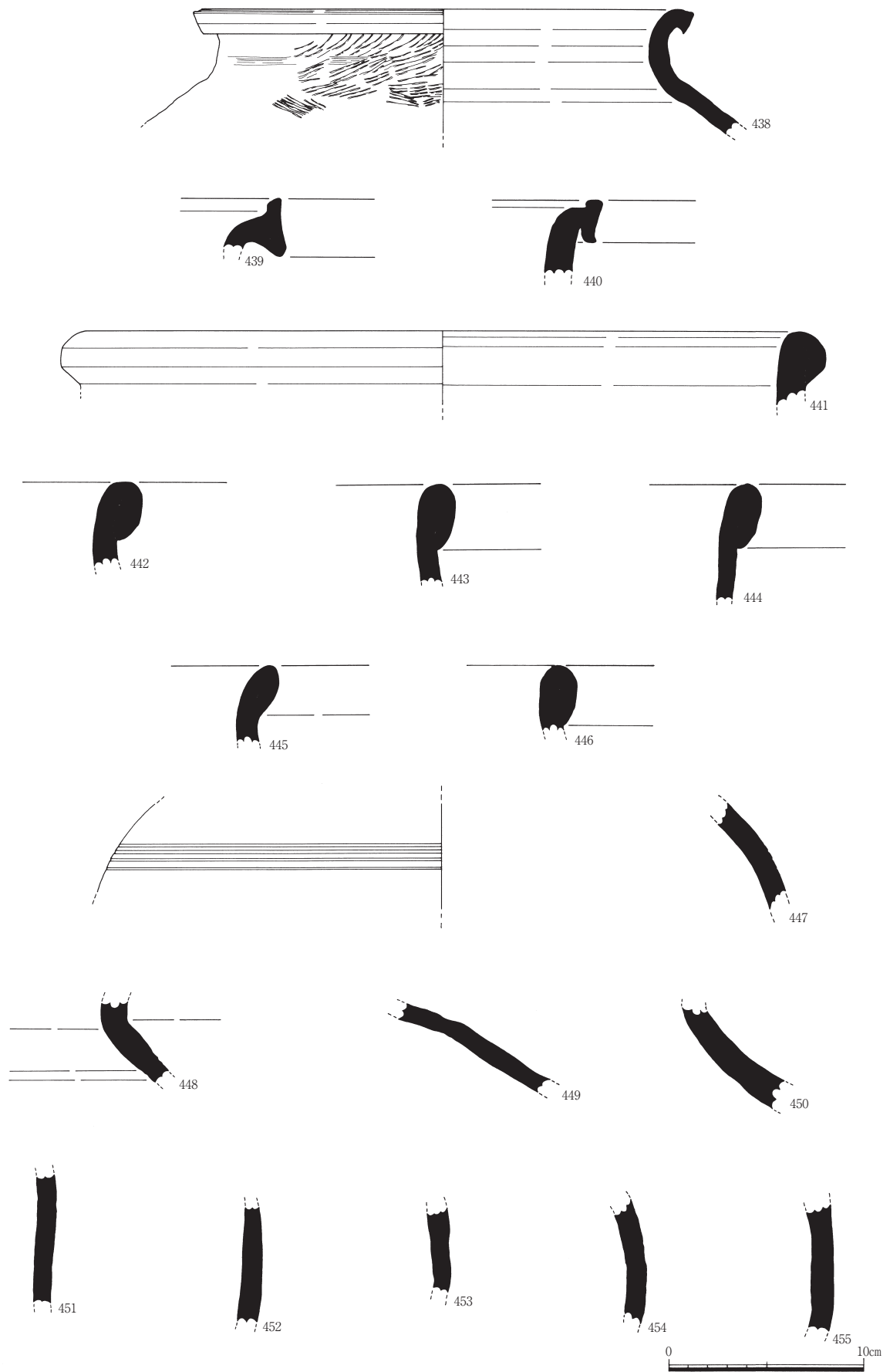


Fig. 98 D区出土遺物 21 (S : 1/3)

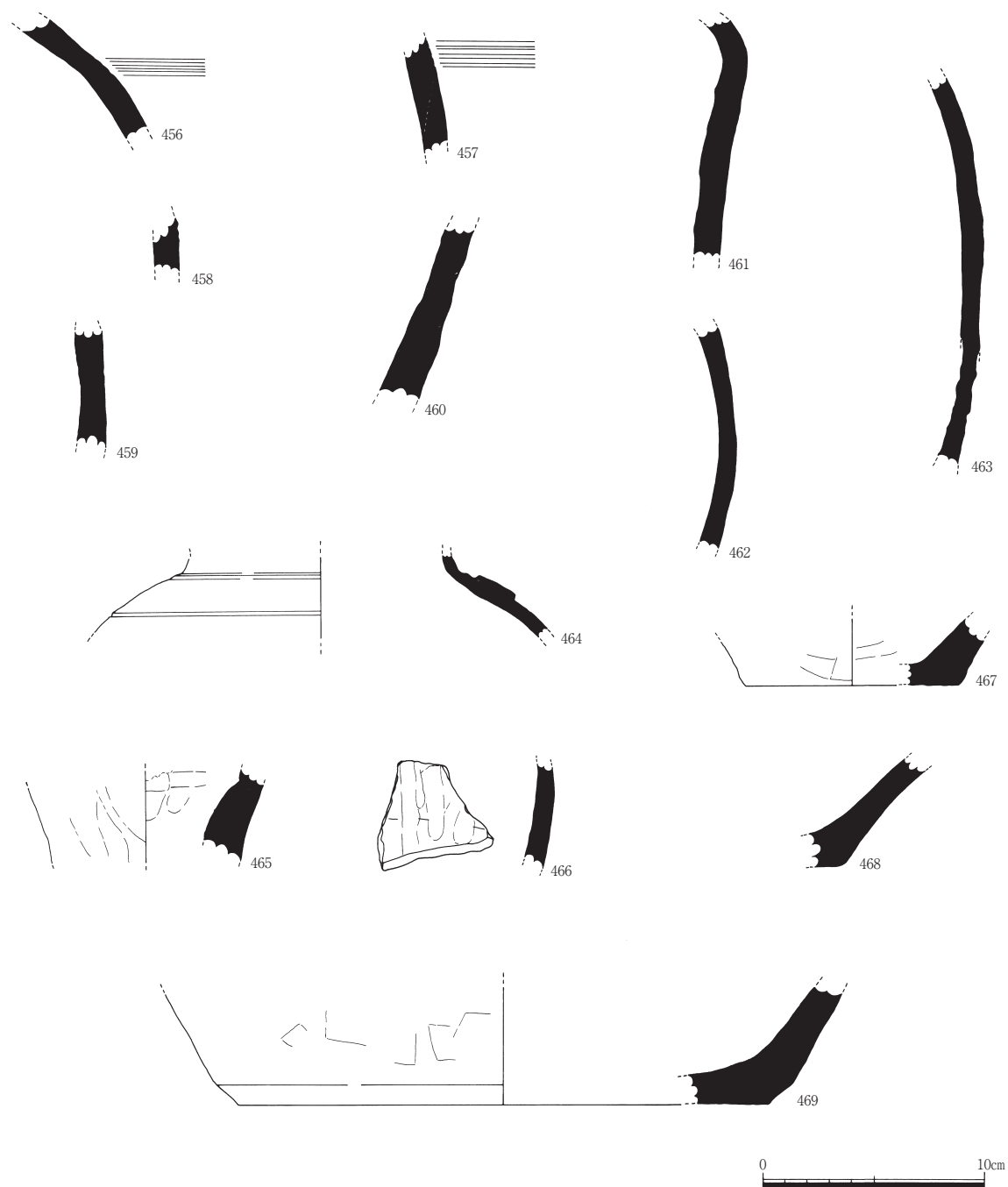


Fig. 99 D区出土遺物 22 (S : 1/3)

-SP1012' は傾斜断面の通過点) を行った。木組構造基底 (横板組底) は標高 1.50m 前後の水準にあり, 湧水期調査時の地下水位 (標高 1.40m) が迫る。ここに表われた SE1 と地盤河成層の断面が Fig.64・表※である。河成層内の粘土層 (VL23・VR21) を方形段掘に 1 段下げて設置した横板組の内部は, 上位が砂利や粘土層 (M6-1~3), 下位が砂利や礫層 (M7-1~3) であり, この M7-1 から曲物が出土した (Fig.63- 図 3)。保存処理に伴う復元 (委託) の結果は, 重なり合う曲物二点

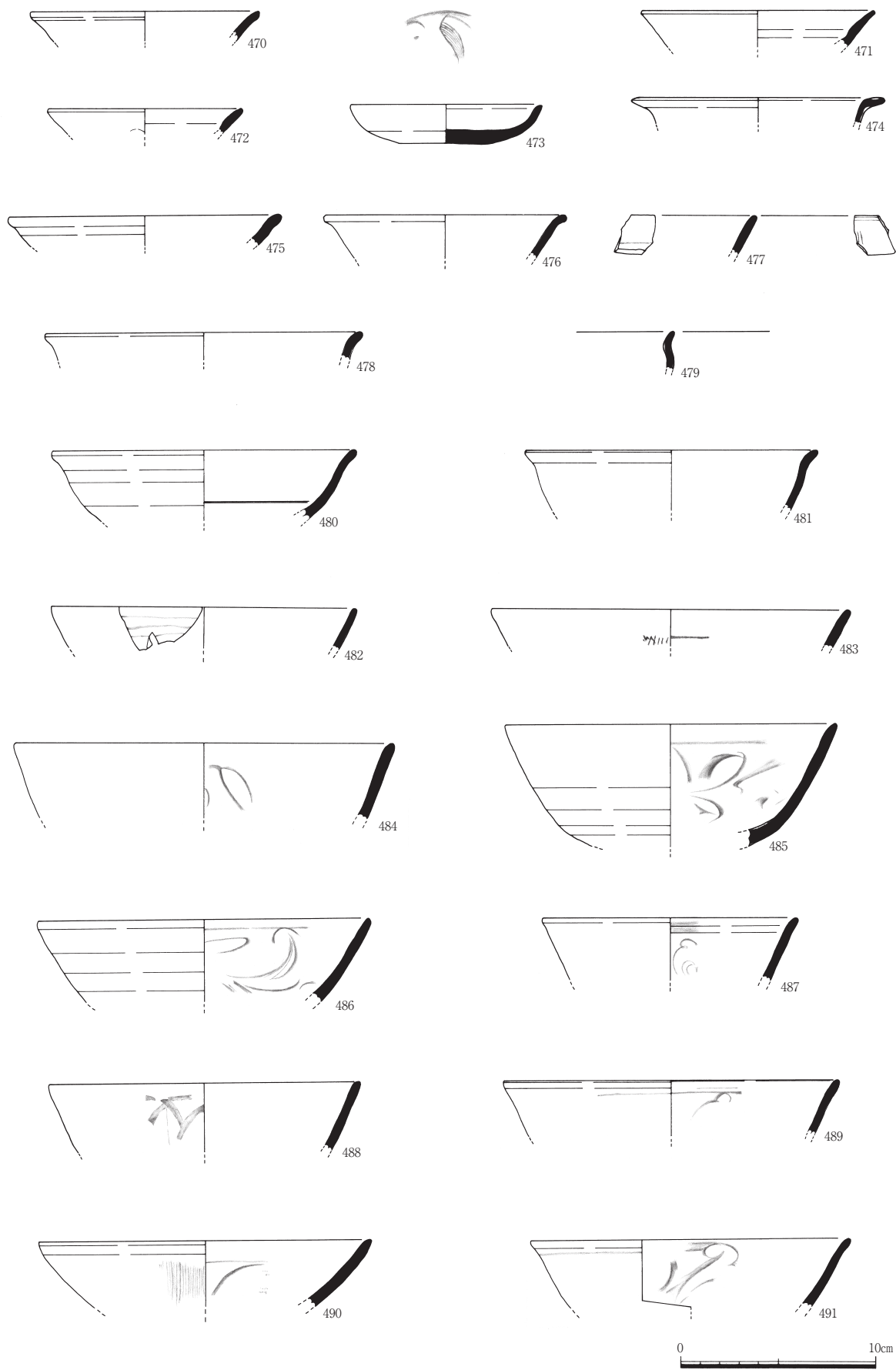


Fig. 100 D区出土遺物 23 (S : 1/3)

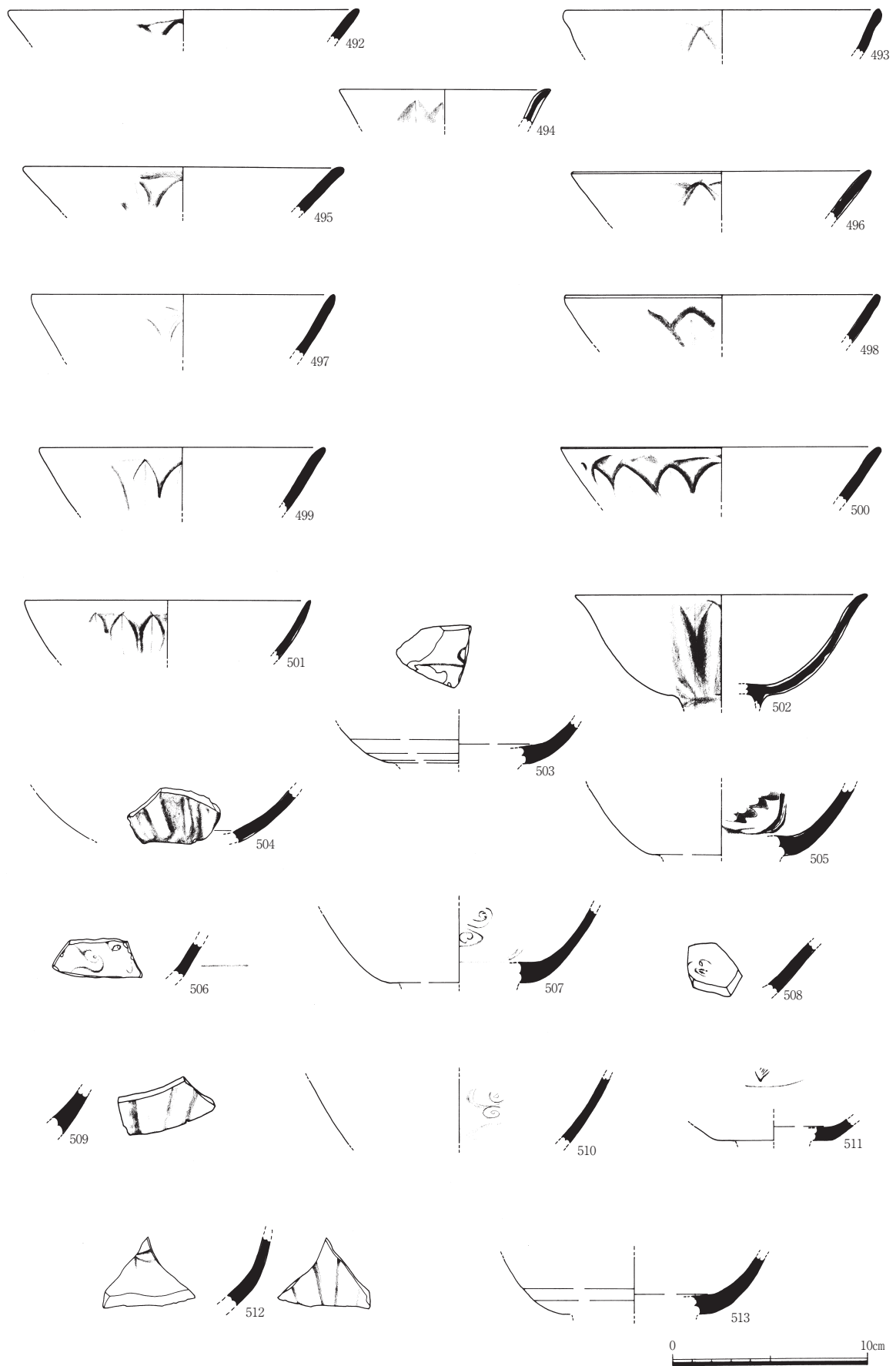


Fig. 101 D区出土遺物 24 (S : 1/3)

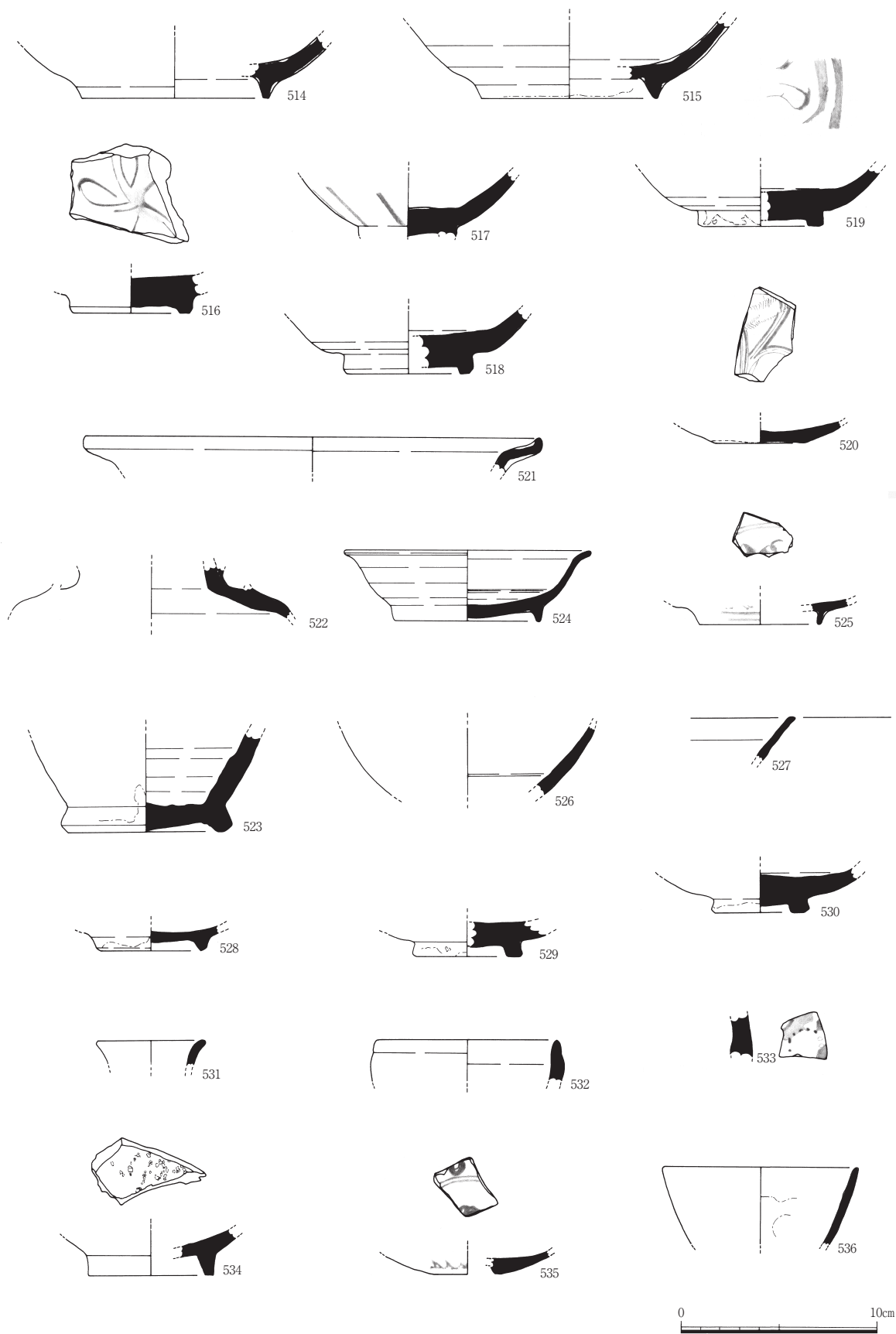


Fig. 102 D区出土遺物 25 (S : 1/3)

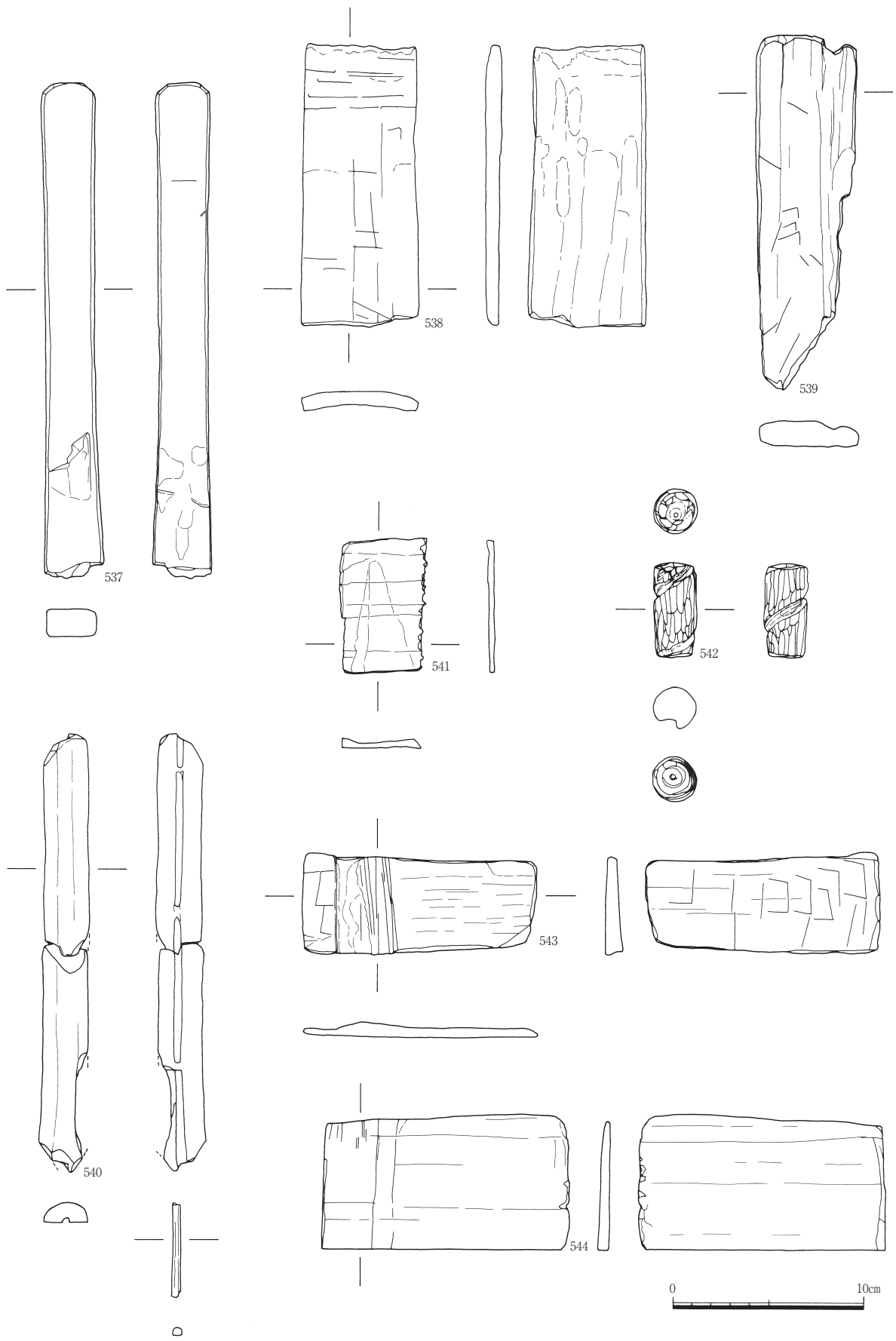


Fig. 103 D区出土遺物 26 (S : 1/3)

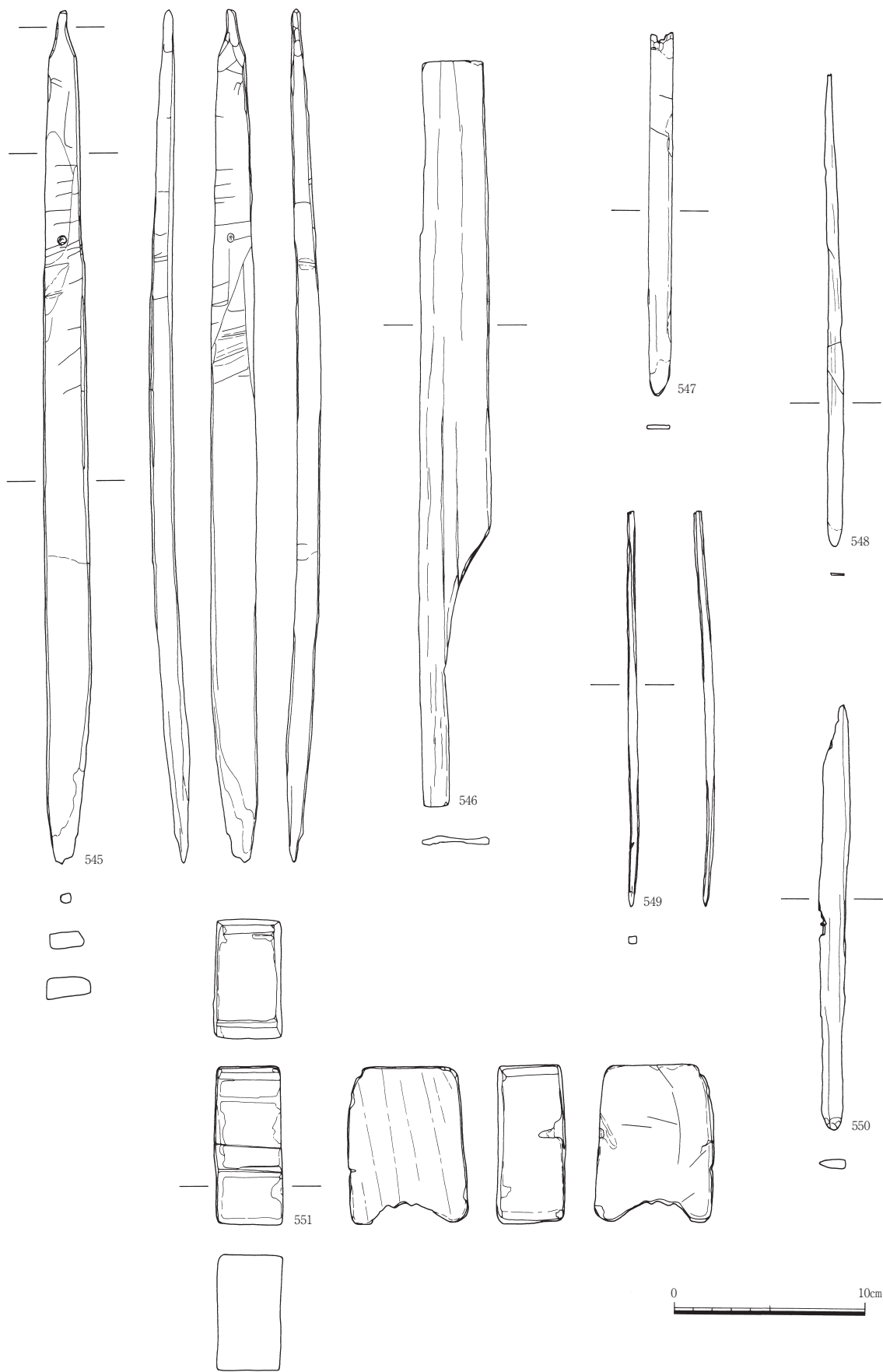


Fig. 104 D区出土遺物 27 (S : 1/3)

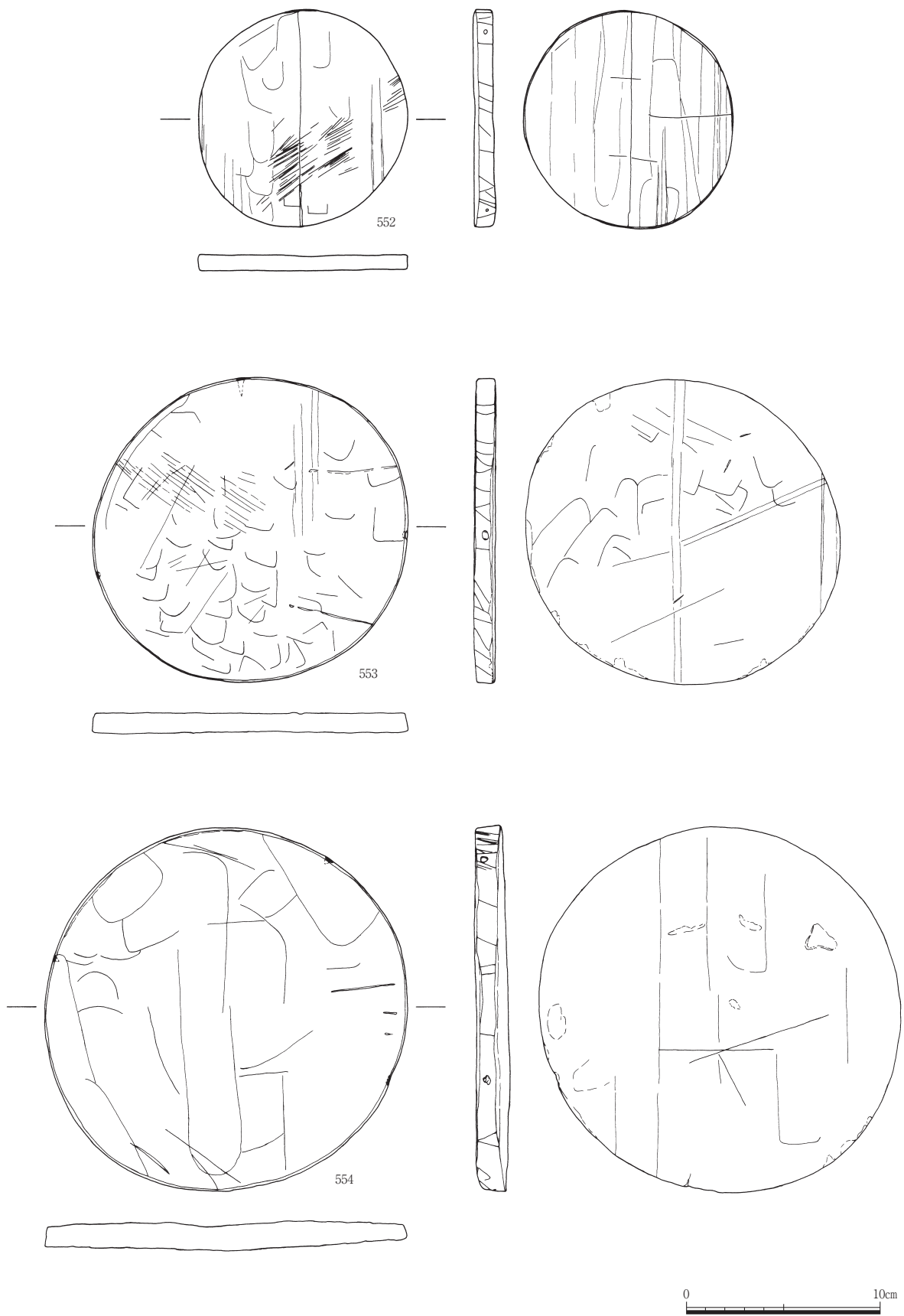
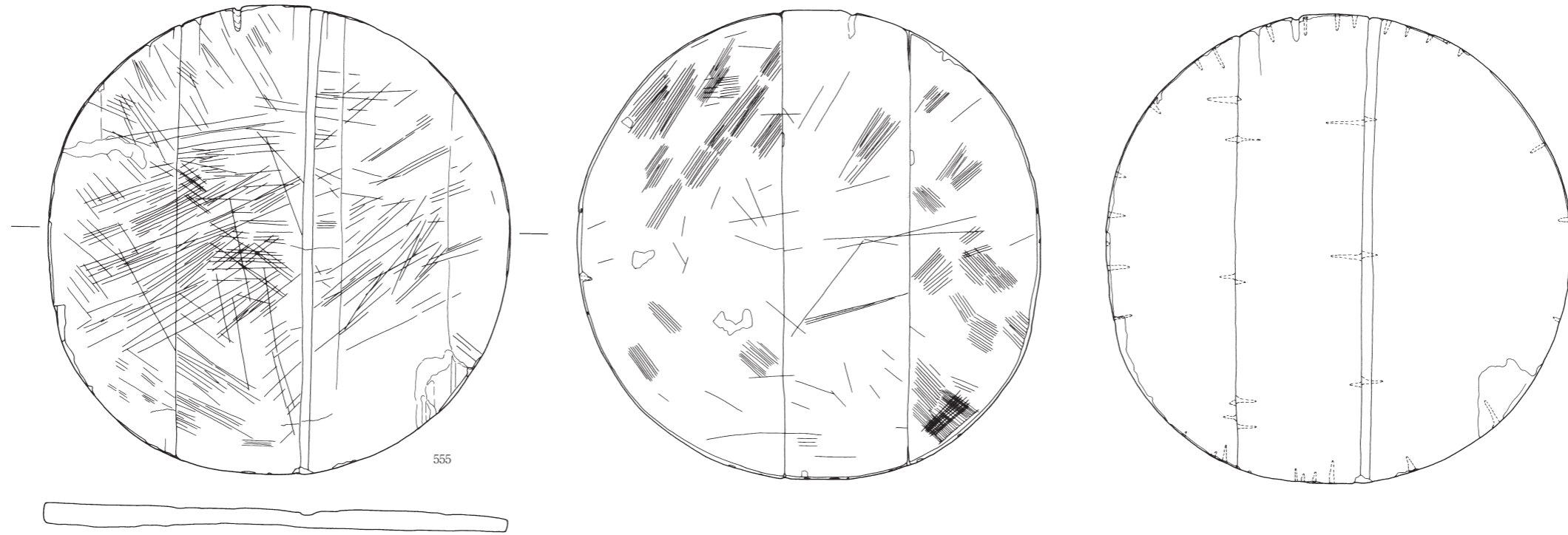
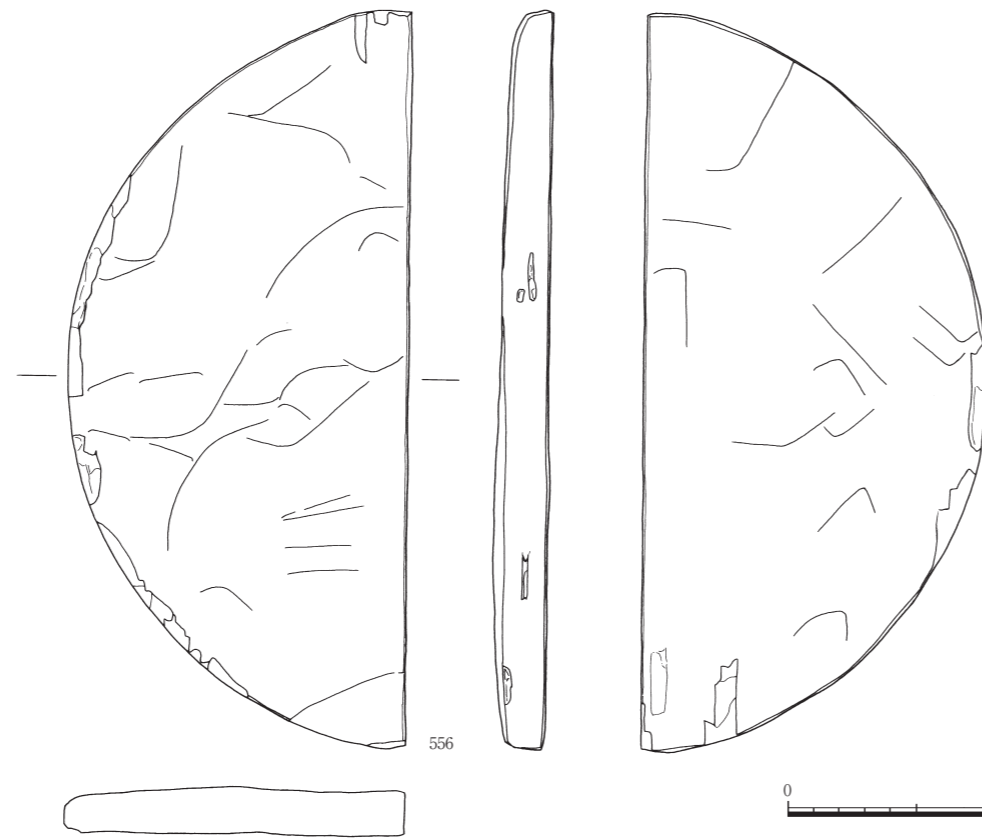


Fig. 105 D区出土遺物 28 (S : 1/3)

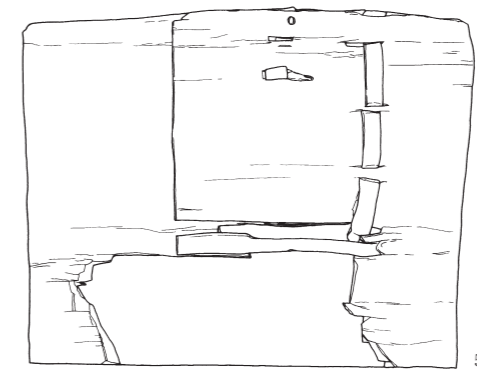
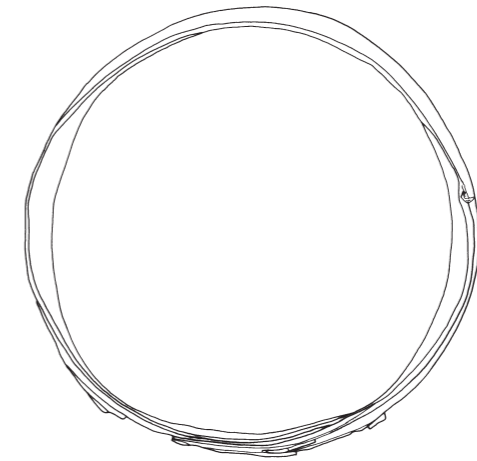


555



556

0 10cm



557

0 5cm

Fig.106 D区出土遺物 29 (S:1/3)

の陥合とする。横板組に仕口を設けず、その交角上に最下の横棧を挟む状態で隅柱が跨ぎ乗る構造からは、横棧内部の埋め込み先行なくして外部土水圧に対する対抗は不可能と見られる。それゆえ、横板組中央部から出土した曲物は、横板設置から隅柱を始めとする井戸側構造設営に移る間に埋め込まれたものと考えざるを得ない。祭祀供献の実施段階を状況示唆する資料と言える。この横板組には、内部に敷く粘土・砂利層とともに水溜装置の機能を果たすほか、隅柱の加重を分散して不等沈下を抑制する効果も考えられる。この点は、横板組の直接立脚する地層が粘土層であることと矛盾しない。横板組はほぼ垂直を保つが、これを跨ぐ隅柱および隅柱間に並ぶ縦板列は、いずれも西に傾斜した状態で検出している。隅柱では北東隅ⅢSHにおける傾斜4.0°が最も顕著であり(Fig.65-図2)、南東隅ⅡSHの3.7°がこれに次ぐ(Fig.65-図1)。また、地層断面図Fig.64に反映する南西方位の傾斜度は、南西隅の隅柱ISHが1.5°に止まるのに対し、北面(第3面)井戸側の縦板2枚ⅢTI-1・2では強い8.0°の最大値を測る。地層断面は、北側縦板組外部の込土層全体(UR-1～)が南西方向に陥没して井戸側を圧迫した状況を示している。この点は、同込土の最上位層UR-1を切る長形箱底型土坑SK16の南部基底が極端に低下する状況とも附合する。井戸側内部のM1-1からM4-3に至る埋積層理の傾斜と硬質砂岩大礫の分布傾向は、概ね縦板2枚ⅢTI-1・2における最大傾斜8.0°に沿う。その堆積は井戸側の傾斜に従うものであり、上記した圧力自体の直接影響下における変形とは見なし難い。むしろ、木組傾斜の後、比較的傾斜の少ない南西側から土砂や礫を投入して井戸内部を埋め尽くした結果と考えられる。先に述べた備前甕片や土師器集中の類は、この埋積に伴うものであろう。これら埋積層の下位で逆の傾斜をなす埋積層M5-1・2は、井戸側傾斜の際に落下した込土の可能性が強い。込土陥没と井戸側傾斜の原因としては、C区トレンチの地層断面に反映するような地震がまず考えられる。なお井戸側木組構造が直接の基盤とする粘土層VL-23・VR-21は、かなり顕著な盛り上がりを見せるが、断面精査の範囲と深度の限界から、液状化痕跡と見なすには至らない。また、木組内面側の縦板表面では、横棧との接触帯を挟む上下の広範囲が顕著な損耗を生じて窪む(Fig.66～69)。この現象は、基本的には横棧を柄によって隅柱に固定するのに対し、縦板では他の部材との接合がなく、横棧と外部込土層および隣接する縦板もしくは隅柱からの挟圧のみに支えられる点による。井戸の日常的使用に際しても貯水の増減や釣瓶の波動で横棧との間に摩擦を生じ得る。ただ、大地震に際しては、地盤と井戸内部に設営された木組構造物、および木組内部の貯水と地下水には、すべて別系統の激しい運動が生じる。内面側縦板表面の損耗帯に対しては、この運動の中で生じた可能性も視野に置く必要があると思われる。

4. 溝跡SD-C (平面図Fig.9・10)

SD-Cは調査区中南部で検出した東西方位の直線的な溝跡である。その上部は調査区西境の地層では標高4.60mを前後する第Ⅱ層(現鋤床層)基底面に表われ、幅1.30mを測る。ほぼ平坦な底部までの深さは0.60mを前後する。平面検出が標高4.30～4.22mの範囲であるため、記録幅は0.80～0.36m、検出長22.16m、深度0.30m以下の数値となる。溝跡の方位は西から15.0°北に寄る。この方位とはほぼ同値の柱筋で構成する建物跡でこの溝跡を北に越えるものはなく、区画溝の一部と考えられる。

表52 D区遺構計測表 1

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P1	D5-1	48 ×	40	36.6	楕円形		
D P2	D5-2	48 ×	[20]	42.8	楕円形	北壁際	
D P3	D5-3	28 ×	[24]	11.9	楕円形	西壁際	
D P4	D5-3	32 ×	[16]	7.8	楕円形	西壁際	
D P5	D5-2	52 ×	44	60.7	不整形	柱根	
D P6	D5-6	52 ×	44	46.8	楕円形	262~264,土師器×85,炭化物	
D P7	C5-10	φ48		49.6	円形	265~268,土師器×14	
D P8	D5-6	φ28		11.4	円形		
D P9	D5-6	44 ×	36	33.2	不整楕円形	土師器×6	
D P10	C5-15	φ44		67.1	円形	土師器×8,須恵器×1	
D P11	D5-12	φ28		43.6	円形		
D P12	D5-12	36 ×	24	28.2	不整楕円形	土師器×1	
D P13	D5-16	φ50		29.0	円形	土師器×11,釘×1,炭化物	SK04を切る。
D P14	D5-17					SK05に収束する。	
D P15	D5-18	92 ×	60	16.9	不整楕円形	鉄滓	
D P16	D6-2	25 ×	21	16.2	楕円形	土師器×1	
D P17	D6-2	25 ×	20	10.9	楕円形	土師器×5	
D P18	C5-15	40 ×	32	11.7	不整楕円形	土師器×5	
D P19	C5-15	74 ×	60	64.8	不整楕円形	269,土師器×31,土師質土器×1	
D P20	D5-2	44 ×	34	32.7	楕円形		
D P21	D5-2	84 ×	42	30.4	不整形	土師器×6	
D P22	D5-1	40 ×	32	31.6	不整楕円形	土師器×3,瓦器×2	
D P23	D5-1	64 ×	[32]	35.7	隅丸方形	270~272,土師器×11,瓦器×1,炭化物	西壁際
D P24	D5-1	φ28		35.3	円形		
D P25	D5-17	φ48		6.1	円形		
D P26	D5-16	68 ×	60	30.2	楕円形		SB19を構成する。
D P27	D5-16	72 ×	40	5.6	不整形		
D P28	D5-22	32 ×	22	7.2	楕円形		SB20を構成する。
D P29	D5-21	32 ×	27	17.8	不整楕円形		SB19を構成する。
D P30	D5-21	φ38		21.7	円形		SB20を構成する。
D P31	D5-21	44 ×	28	41.8	楕円形	273,土師器×4	
D P32	D5-22	22 ×	18	8.2	不整楕円形		SB20を構成する。
D P33	D5-22	φ27		46.5	円形	土師器×1,瓦器×1	SB20を構成する。
D P34	D5-22	32 ×	16	5.8	楕円形		
D P35	D5-22	φ28		6.1	円形		SB19を構成する。
D P36	D5-22	36 ×	26	4.3	不整楕円形		SB20を構成する。
D P37	D5-21	44 ×	40	22.7	不整形	土師器×2	礫を含む。
D P38	D5-21	30 ×	24	8.1	不整楕円形		SB20を構成する。
D P39	D5-21	25 ×	18	36.4	楕円形	274	SB20を構成する。
D P40	D5-21	24 ×	30	12.2	不整長方形	土師器×3,瓦質土器×1,鉄製品?	
D P41	D5-21	φ24		12.4	円形	土師器×1	
D P42	D5-21	24 ×	16	10.1	楕円形	土師器×1	
D P43	D6-2	33 ×	26	37.8	不整楕円形	土師器×1	SB20を構成する。
D P44	D6-2	φ24		16.1	円形		P45と重なる。
D P45	D6-2	φ24		16.4	円形		P44と重なる。SB20を構成する。
D P46	D6-2	φ28		16.2	円形	土師器×1	
D P47	C6-5	φ36		20.5	円形		SB20を構成する。
D P48	C6-5	φ30		12.4	不整形		
D P49	D6-1	34 ×	28	23.2	不整楕円形		SB20を構成する。
D P50	D6-1	φ26		21.9	円形	土師器×5	
D P51	D6-2	33 ×	28	43.2	不整長方形	275,瓦器×1,須恵器×1	SB20を構成する。
D P52	C6-5	φ24		12.2	円形		SB20を構成する。
D P53	C6-5	40 ×	38	40.5	不整形		SB19を構成する。
D P54	C6-5	φ16		6.6	円形		
D P55	D6-1	φ23		8.1	円形		SB20を構成する。
D P56	C6-10	28 ×	24	30.8	楕円形		SB20を構成する。
D P57	C5-14	24 ×	16	5.1	楕円形		
D P58	C6-10	φ29		21.1	円形	土師器×7,須恵器×1	
D P59	C5-14	16 ×	12	4.4	楕円形		
D P60	C5-15	φ44		38.3	円形	土師器×4	

表53 D区遺構計測表 2

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P61	C5-19	20 ×	13	6.6	楕円形	276,土師器×1	
D P62	C5-15	φ40		37.8	円形	土師器×23	
D P63	C6-5	φ28		14.1	円形	土師器×1	
D P64	D6-2	φ32		45.4	円形	SB20を構成する。	
D P65	D6-6	44 ×	34	51.9	不整楕円形	SB20を構成する。	
D P66	D6-7	φ20		6.1	円形		
D P67	D6-7	25 ×	25	14.2	不整形		
D P68	D6-7	40 ×	32	43.9	楕円形	SB20を構成する。	
D P69	D6-7	46 ×	30	13.7	不整楕円形	SB19を構成する。	
D P70	D6-7	36 ×	29	18.4	楕円形	SB20を構成する。	
D P71	C6-13	28 ×	28	44.5	方形	土師器×4	
D P72	C6-13	48 ×	28	16.2	楕円形	土師器×5,炭化物	
D P73	C6-13	φ16		7.3	不整円形	土師器×3,炭化物	
D P74	C6-13	40 ×	33	49.0	不整円形		
D P75	C6-14	56 ×	36	46.1	不整楕円形	土師器×3	
D P76	C6-14	φ28		18.1	不整円形	木片	
D P77	C6-13	φ32		17.1	円形	土師器×5,炭化物	
D P78	C6-13	48 ×	44	24.0	隅丸長方形	277,278,土師器×14,釘×1,炭化物	SB14を構成する。
D P79	C6-13	36 ×	22	53.6	楕円形	土師器×4	
D P80	C6-13	37 ×	32	24.2	不整楕円形	土師器×1,炭化物	
D P81	C6-13	18 ×	13	8.4	楕円形		
D P82	C6-13	φ47		32.1	円形	土師器×16,瓦器×1	SB14を構成する。
D P83	C6-13	φ24		11.5	円形	土師器×1	
D P84	C6-18	29 ×	23	22.8	楕円形	土師器×3	
D P85	C6-18	φ18		13.5	不整円形		
D P86	C6-18	φ24		39.6	円形	土師器×3,炭化物	
D P87	C6-14	[28] ×	20	13.9	楕円形	279	
D P88	C6-14	72 ×	58	35.2	楕円形	280,土師器×61	SB14を構成する。
D P89	C6-12	φ28		40.7	円形	281	
D P90	C6-13	29 ×	29	[50.2]	不整形		
D P91	C6-13	28 ×	[26]	50.2	隅丸長方形	282,土師器×2	
D P92	C6-17	28 ×	22	20.3	不整楕円形		
D P93	C6-18	[32] ×	24	19.6	楕円形	土師器×5	P94に切られる。
D P94	C6-18	40 ×	40	25.7	隅丸方形	土師器×12,炭化物	P93を切る。円礫,SB14を構成する。
D P95	C6-18	24 ×	20	19.2	楕円形		
D P96	C6-18	φ29		14.2	円形		
D P97	C6-18	36	32	21.1	楕円形	土師器×2	
D P98	C6-18	28	24	19.0	不整形	土師器×6	
D P99	C6-18	24 ×	20	12.2	不整円形	SB14を構成する。	
D P100	C6-18	44 ×	28	23.7	楕円形	283,土師器×9,古式土師器×1	P351出土遺物と接合。
D P101	C6-18	—	—	—	—	284,285,土師器×5	P100に収束される。
D P102	C6-18	32 ×	26	23.1	楕円形	286,土師器×1	
D P103	C6-19	φ24		10.5	不整円形		
D P104	C6-19	φ16		2.2	不整円形		
D P105	C6-19	φ20		7.4	不整円形		
D P106	C6-18	44 ×	40	25.8	楕円形	287~289,土師器×8,陶器×1	SB14を構成する。
D P107	C6-18	φ26		11.4	円形	土師器×1	
D P108	C6-18	28	20	8.4	楕円形		
D P109	C6-18	φ48		24.9	不整円形	土師器×15,陶器×1,炭化物	SB14を構成する。
D P110	C6-18	28 ×	24	12.0	不整楕円形	290,土師器×2	
D P111	C6-18	25	18	11.9	不整楕円形	土師器×7,釘×1	
D P112	C6-18	φ16		29.6	円形	土師器×1	
D P113	C6-19	—	—	—	—	P115に収束される。	
D P114	C6-19	φ24		13.7	円形	土師器×4	P115に切られる。
D P115	C6-19	52	44	22.9	楕円形	291,292,土師器×56	P114に切られる。SB14を構成する。
D P116	C6-19	40	32	14.5	楕円形	293,土師器×14	
D P117	C6-19	φ20		10.4	不整円形	土師器×2	

表54 D区遺構計測表 3

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P118	C6-19	φ38	26.1	不整円形	294~296,土師器×35,瓦器×1	SB1を構成する。	
D P119	C6-22	42 × [24]	16.8	不整円形		SA1を構成する。	
D P120	C6-23	40 ×	27	11.3	不整楕円形	土師器×2	
D P121	C6-23	φ41	26.6	不整円形	297,298,土師器×39,瓦器×1,陶器×1	SB14を構成する。	
D P122	C6-23	φ42	23.9	不整円形	299,300,土師器×19	SA1を構成する。	
D P123	C6-23	φ19	9.1	円形	土師器×4		
D P124	C6-23	36	34	14.8	不整楕円形	土師器×1	
D P125	C6-23	φ44	21.6	不整円形	301,土師器×4,陶器×1	SB14を構成する。	
D P126	C6-23	φ28	15.8	円形	302,土師器×2		
D P127	C6-23	37 ×	30	21.5	楕円形	303,土師器×3	SA1を構成する。
D P128	C6-23	φ30	15.7	不整円形	304~307,土師器×12,土師質土器×1		
D P129	C6-24	56 ×	36	26.6	不整楕円形	土師器×11,瓦器×1	SB6を構成する。
D P130	C6-24	46 ×	42	21.1	楕円形	308~310,土師器×25,瓦器×1,須恵器×1,陶器×2	SB14を構成する。
D P131	C6-24	φ34	14.4	円形	311,土師器×12,瓦器×1	SB1を構成する。	
D P132	C6-24	φ38	21.6	円形	土師器×2	P133に切られる。	
D P133	C6-24	φ20	8.3	不整円形	土師器×2,瓦器×1	P132を切る。	
D P134	C6-24	φ24	8.9	円形	瓦器×1		
D P135	C6-24	φ25	15.8	不整円形	土師器×4		
D P136	C6-24	φ42	21.7	円形	312,313,土師器×5	SB1を構成する。	
D P137	C6-20	24 ×	14	3.2	不整楕円形		
D P138	C6-20	20 ×	12	3.4	不整楕円形		
D P139	C6-25	φ35	9.8	円形	土師器×2	SK13に切られる。	
D P140	C6-25	—	—	—	—	SK13に収束される。	
D P141	C6-19	φ18	5.0	不整円形	314,土師器×1		
D P142	C6-24	40 ×	32	17.2	楕円形	土師器×2,瓦器×1	SA1を構成する。
D P143	C6-24	28 ×	20	13.9	不整楕円形	土師器×2	
D P144	C6-24	φ30	17.2	円形		SB6を構成する。	
D P145	C6-24	42 ×	39	17.8	楕円形	315~317,土師器×16	SB1を構成する。
D P146	C6-24	32 ×	32	4.2	不整方形	土師器×2,瓦器×1	SB6を構成する。
D P147	C6-25	46 ×	38	26.6	楕円形	土師器×5,瓦器×1	SB6を構成する。
D P148	C6-25	28 ×	28	22.6	方形	318~320,土師器×3	
D P149	C6-19	φ24	11.1	円形			
D P150	C6-25	32 ×	28	20.0	楕円形	321,322,土師器×2,青磁×1,	SB1を構成する。
D P151	C6-25	φ30	11.9	円形	323,土師器×1		
D P152	C6-20	φ24	10.4	円形			
D P153	C6-20	24 ×	14	2.5	不整形		
D P154	C6-25	φ20	8.6	不整形			
D P155	D6-21	φ36	20.0	不整円形	土師器×1	SB2を構成する。	
D P156	C6-25	38 ×	36	14.9	楕円形	324,土師器×5	SB1を構成する。
D P157	C6-25	φ32	15.6	円形	325,土師器×2	SB2を構成する。	
D P158	C6-25	—	—	—	—		
D P159	C6-25	54 ×	44	29.8	不整楕円形	土師器×3,瓦器×1	SB6を構成する。
D P160	C6-21	φ24	14.1	不整円形	土師器×2		
D P161	C6-21	32 × [24]	16.2	楕円形			
D P162	C6-21	48 ×	48	64.4	不整円形	326~328,土師器×21,瓦器×3	SB2を構成する。
D P163	D6-21	20 ×	18	6.4	楕円形		
D P164	D6-21	φ16	5.8	円形			
D P165	D6-21	28 ×	24	10.9	楕円形	329,土師器×11	SB2を構成する。
D P166	E2-12	30 ×	24	11.7	楕円形		SB2を構成する。
D P167	D6-21	φ28	36.1	円形	土師器×3		
D P168	D6-22	40	36	41.4	不整楕円形		SB2を構成する。
D P169	C6-25	φ28	23.4	不整円形	330,土師器×5,須恵器×1	SB1を構成する。	
D P170	C6-25	—	—	—	—		
D P171	C6-25	32 ×	28	8.3	不整楕円形	土師器×2	
D P172	C6-25	φ48	27.5	不整楕円形	土師器×1,瓦器×1	SB1を構成する。	
D P173	C6-25	—	—	—	—		
D P174	C6-23	φ14	5.5	円形			
D P175	C6-23	φ12	8.4	円形	土師器×6		
D P176	C6-23	32 ×	28	8.0	不整楕円形	331	

表55 D区遺構計測表 4

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P177	C6-25	φ18	11.0	円形			
D P178	C6-20	32 ×	24	8.4	楕円形		
D P179	D7-7	39 ×	20	4.6	楕円形		
D P180	D7-7	φ16	9.3	円形			
D P181	D7-7	30 ×	22	16.2	楕円形	土師器×1	
D P182	D7-11	φ28	10.2	円形			
D P183	D7-11	22 ×	12	3.0	楕円形		
D P184	D7-12	44 ×	[36]	2.7	不整形		
D P185	D7-12	56 ×	[28]	18.9	不整形	土師器×1	
D P186	D7-12	16 ×	14	9.8	楕円形	土師器×1	
D P187	D7-12	φ20	5.3	円形			
D P188	D7-12	38 ×	26	2.4	不整楕円形		
D P189	D7-11	φ18	4.5	不整円形	332,土師器×2		
D P190	D7-11	30 ×	26	9.9	不整円形	瓦器×1	
D P191	D7-11	56 ×	40	48.0	不整楕円形	333	
D P192	D7-11	φ22	11.9	不整円形			
D P193	D7-11	φ26	12.6	不整円形	土師器×3,瓦器×1		
D P194	D7-11	φ18	19.7	円形	土師器×2,瓦器×1	P193に切られる。	
D P195	D7-11	38 ×	[32]	19.7	楕円形	P194に切られる。SB3を構成する。P364	
D P196	D7-11	φ22	10.6	不整円形	334,土師器×3,瓦器×2		
D P197	D7-11	48 ×	40	21.4	楕円形	土師器×3,瓦器×2	SB10を構成する。
D P198	D7-12	44 ×	36	45.0	楕円形		P199を切る。
D P199	D7-12	φ40	45.5	円形		P198に切られる。	
D P200	D7-12	52 ×	44	21.6	楕円形	土師器×2	SB3を構成する。P363
D P201	D7-12	φ12	5.2	不整円形			
D P202	D7-12	16 ×	12	5.5	楕円形		
D P203	D7-12	20	12	4.3	楕円形		
D P204	D7-12	—	—	—			
D P205	D7-12	40 ×	28	3.0	楕円形	335	
D P206	D7-12	φ12	4.4	楕円形			
D P207	D7-12	16	[8]	—	不整形	土師器×2	P206とP208に切られる。
D P208	D7-12	φ36	4.5	円形			
D P209	D7-13	24 ×	20	9.9	不整形		
D P210	D7-13	32 ×	24	2.9	楕円形		
D P211	D7-12	36	[30]	3.7	不整形		SK16に切られる。
D P212	D7-12	24 ×	21	12.2	不整形	土師器×1	
D P213	D7-12	—	—	—	336~338,土師器×2	P184に収束される。	
D P214	D7-12	32 ×	24	2.3	不整楕円形		
D P215	D7-6	24 ×	[16]	4.4	楕円形		SK16に切られる。
D P216	D7-11	40 ×	30	2.3	楕円形		
D P217	D7-12	φ32	13.9	円形			
D P218	D7-12	φ22	12.9	円形			
D P219	D7-12	φ44	9.0	不整円形			
D P220	D7-12	76 ×	40	15.0	不整楕円形		
D P221	D7-6	12 ×	8	—	不整楕円形		
D P222	D7-6	26 ×	14	—	不整楕円形	P223を切る。	
D P223	D7-6	44 ×	28	—	不整楕円形	P222に切られる。	
D P224	D7-11	30	24	5.1	不整形		
D P225	D7-11	φ24	10.3	円形			
D P226	D7-11	36 ×	26	9.4	不整楕円形		
D P227	C6-24	φ22	17.4	楕円形	土師器×1,瓦器×1	SB6を構成する。	
D P228	C6-24	—	—	—	339,土師器×1,瓦器×1		
D P229	C6-24	φ32	19.7	円形	土師器×1	SB6を構成する。	
D P230	C6-24	φ32	12.5	不整円形	土師器×2,瓦器×1		
D P231	C6-24	φ26	10.7	不整円形	瓦器×1	SB6を構成する。	
D P232	C7-4	φ28	1.2	円形		SB6を構成する。	
D P233	C7-5	φ42	38.5	円形	土師器×1,瓦器×1	SB6を構成する。	
D P234	C7-4	φ20	12.7	不整円形			
D P235	C7-4	φ44	42.5	円形	340,土師器×7,瓦器×2	SA1を構成する。	

表56 D区遺構計測表 5

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P236	C7-4	52 ×	32	18.4	楕円形	341,土師器×13,瓦器×4	SB1を構成する。
D P237	D7-6	10 ×	8	—	楕円形	342,344~351,土師器×79,瓦器×1,土 錘×1	
D P238	D7-6	24 ×	20	—	不整形		
D P239	D7-6	52 ×	36	18.2	楕円形		SB10を構成する。
D P240	C7-5	φ40		52.9	不整形	352,土師器×1	SB2を構成する。
D P241	D7-1	54 ×	40	24.7	不整形楕円形		SB2を構成する。
D P242	D7-1	46 ×	40	17.9	不整形		SB2を構成する。
D P243	D7-6	28 ×	16	3.8	楕円形	343	
D P244	D7-11	42 ×	38	21.9	楕円形	土師器×1	
D P245	D7-11	54 ×	52	29.5	不整形長方形	土師器×3	SB3を構成する。
D P246	D7-11	460 ×	48	34.3	溝状	土師器×1	
D P247	D7-11	40 ×	[28]	8.3	楕円形		
D P248	D7-11	60 ×	[24]	5.3	楕円形	土師器×1,須恵器×1	
D P249	D7-6	52 ×	34	29.3	不整形楕円形		SB10を構成する。
D P250	C7-10	24 ×	18	6.2	楕円形	土師器×2,瓦器×1	
D P251	C7-10	φ24		8.5	不整形		
D P252	D7-11	φ20		16.8	円形		
D P253	C7-10	φ20		37.8	不整形	土師器×3,粘土塊	
D P254	C7-10	20 ×	16	6.1	不整形長方形	土師器×1	SB10を構成する。C区P74と重複する。
D P255	C7-15	φ24		7.1	不整形	土師器×1,瓦器×1	
D P256	C7-15	44 ×	32	13.1	不整形楕円形		
D P257	C7-5	φ28		25.5	円形	土師器×1	SB6を構成する。
D P258	C7-5	60 ×	40	40.2	不整形楕円形	353,354,土師器×5,瓦器×1	SK16を切る。SB6を構成する。
D P259	C7-5	—	—	—	—	—	SK16に切られる。
D P260	C7-5	28 ×	24	12.3	楕円形		
D P261	C7-5	φ30		20.5	不整形	土師器×1	SB1を構成する。
D P262	C7-10	64 ×	40	15.7	楕円形	土師器×2	SB10を構成する。
D P263	C7-10	φ36		58.5	円形	土師器×3	
D P264	C7-4	40 ×	32	32.3	楕円形	355~357,土師器×5	SK16に切られる。SA1を構成する。
D P265	C7-4	30 ×	[28]	11.9	不整形		SK16に切られる。
D P266	C7-4	28 ×	20	9.0	不整形楕円形		
D P267	C7-4	30 ×	17	11.5	不整形		SK16に切られる。
D P268	C7-4	φ36		8.3	不整形		
D P269	C7-4	φ32		15.0	円形	土師器×1	SB6を構成する。
D P270	C7-4	φ20		7.0	不整形		
D P271	C7-4	32 ×	28	9.0	不整形楕円形		
D P272	C7-4	—	—	—	—	—	
D P273	C7-4	—	—	—	—	—	
D P274	C7-4	φ18		—	円形		
D P275	C7-4	14 ×	[10]	—	不整形		SK16に切られる。
D P276	C7-9	42 ×	34	20.5	楕円形		SB6を構成する。
D P277	C7-9	—	—	—	—	—	
D P278	C7-9	—	—	—	—	—	
D P279	C7-9	18 ×	14	3.4	楕円形		
D P280	C7-9	30 ×	28	23.8	楕円形	土師器×3	
D P281	C7-10	54 ×	38	21.3	楕円形		SB6を構成する。
D P282	C7-10	φ30		14.5	不整形	土師器×3	
D P283	C7-10	20 ×	8	—	楕円形		
D P284	C7-9	φ16		3.6	不整形		
D P285	C7-9	φ20		5.5	円形		
D P286	C7-8	φ36		18.2	円形	358~363,土師器×34,瓦器×2陶器×3	P287を切る。
D P287	C7-9	φ36		18.3	円形	土師器×5,瓦器×2	P286に切られる。SA1を構成する。
D P288	C7-9	26 ×	20	10.2	楕円形		
D P289	C7-9	68 ×	48	65.7	楕円形	364,365,土師器×20,瓦器×3	SB7を構成する。
D P290	C7-9	φ16		10.2	円形		

表57 D区遺構計測表 6

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
D P291	C7-8	—	—	—			
D P292	C7-8	φ26	9.5	円形	366,土師器×1,瓦器×2		
D P293	C7-8	64 ×	60	38.4	不整円形	367~375,土師器×21,瓦器×1	SB7を構成する。
D P294	C5-20	φ34	11.3	円形	土師器×6,土錘×1		
D P295	C5-20	φ32	28.3	円形			
D P296	C7-8	24 ×	20	4.9	不整形		
D P297	C7-8	36 ×	26	—	楕円形	土師器×2	
D P298	C7-8	52 ×	36	—	楕円形	土師器×5	SB7を構成する。
D P299	C7-3	—	—	—			
D P300	C7-3	—	—	—			
D P301	C7-9	24 ×	24	11.7	方形	376,土師器×1	
D P302	C7-9	φ44	—	円形			
D P303	C7-9	φ22	9.9	円形	377,土師器×4,陶器×1		
D P304	C7-9	φ17	4.5	円形			
D P305	C7-9	24 ×	14	4.4	楕円形		
D P306	C7-9	24 ×	21	8.9	楕円形		
D P307	C7-9	28 ×	20	2.5	楕円形		
D P308	C7-9	26 ×	[24]	10.1	不整形		
D P309	C7-9	φ18	5.8	不整円形			
D P310	C7-9	—	—	—		P303と重複する。	
D P311	C7-9	44 ×	38	28.1	楕円形	378	SB7を構成する。
D P312	C7-9	—	—	—		P303と重複する。	
D P313	C7-9	28 ×	28	13.8	不整円形	土師器×2	
D P314	C7-9	62 ×	50	41.2	不整楕円形	土師器×3,瓦器×2	SB10を構成する。
D P315	C7-9	φ16	5.7	円形			
D P316	C7-9	φ28	—	円形	土師器×1		
D P317	C7-9	φ20	16.0	円形	土師器×3		
D P318	C7-15	φ18	6.4	円形			
D P319	C7-10	φ9	—	円形			
D P320	C7-4	φ26	6.4	不整円形			
D P321	C7-4	φ18	3.7	円形		SB6を構成する。	
D P322	C7-5	92 ×	[60]	8.0	不整円形	379	SK17に切られる。
D P323	C7-4	φ24	14.8	円形	土師器×1	SK16に切られる。SB1を構成する。	
D P326	C7-8	78 ×	[32]	—	—	SE 1 に収束される。	
D P327	C7-3	—	—	—	土師器×1		
D P330	C7-3	—	—	—		SE 1 に収束される。	
D P331	C6-19	58 ×	52	44.0	楕円形	380~383,土師器×8,瓦器×1	礫,SB14を構成する。
D P332	C6-20	54 ×	50	27.9	楕円形	384~386,土師器×27,木片	
D P333	C6-18	—	—	—		SD-C内	
D P334	C6-18	φ20	14.8	不整円形	387,土師器×10		
D P335	C6-23	—	—	—	土師器×6		
D P336	C6-23	—	—	—	土師器×16,瓦器×1	SK16を切る。	
D P337	C6-19	—	—	—	土師器×5		
D P339	C6-20	52 ×	50	19.5	不整円形	鉄滓	SK16を切る。
D P340	C6-20	—	—	—	楕円形	土師器×2	SD-Cに収束される。
D P341	C6-15	32 ×	28	12.6	楕円形	391	
D P342	C7-5	φ20	4.9	円形	392	SK16内	
D P343	C7-5	—	—	—		SK16内	
D P344	C5-19	φ40	50.8	円形			
D P345	C7-5	60 ×	[28]	42.7	不整楕円形	393,394,土師器×18	
D P346	C7-5	36 ×	28	73.8	楕円形	395,土師器×1	SK17を切る。SB 1 を構成する。
D P347	C7-5	—	—	—	396~401,404,土師器×16	SK17を切る。	
D P348	C5-19	60 ×	40	47.4	楕円形	403,405,土師器×35,土錘×1,炭化物	
D P349	C7-3	33 ×	24	—	楕円形	土師器×10	
D P350	D6-21	28 ×	28	48.3	不整円形		SB2を構成する。
D P351	D7-2	φ29	14.3	不整円形	402,土師器×5,瓦器×1	SB2を構成する。	
D P352	D7-2	φ36	19.4	不整円形		SB2を構成する。	
D P353	D7-2	φ34	57.2	円形		SB2を構成する。	
D P354	D7-2	φ32	47.8	不整円形	土師器×2,瓦器×1	SB2を構成する。	

表58 D区遺構計測表 7

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
D P355	D7-3	40 ×	36	20.8	楕円形	SB2を構成する。
D P356	D7-3	φ20		6.9	円形	SE 3に切られる。SB2を構成する。
D P357	D6-23	34 ×	32	15.8	楕円形	土師器×5 SB2を構成する。
D P358	D6-23	φ36		16.2	円形	SB2を構成する。
D P359	D7-2	φ32		7.8	不整形円形	
D P360	D7-1	35 ×	27	7.0	不整形楕円形	土師器×3
D P361	D7-12	24 ×	[20]	38.8	楕円形	SK16に切られる。
D P362	D7-11	φ24		6.6	円形	
D P377	D7-7	48 ×	33	11.4	円形	SB10を構成する。
D SK1	D5-7	φ112		33.2	円形	土師器×10,瓦質土器×1
D SK2	D5-11	76 ×	66	5.7	不整形	土師器×5,鉄滓,炭化物
D SK3	D5-16	124 ×	60	10.4	不整形長方形	143,土師器×15,鉄滓,炭化物
D SK4	D5-16	214 ×	68	31.0	不整形楕円形	144,土師器×8
D SK5	D5-17	88 ×	52	24.4	楕円形	145,土師器×5,鉄滓
D SK6	D5-17	136 ×	60	9.6	不整形長方形	鉄滓,炭化物
D SK7	D5-18	96 ×	64	16.7	不整形楕円形	土師器×1
D SK8	D5-17	192 ×	96	7.3	不整形楕円形	土師器×8,炭化物,鉄滓
D SK9	D5-12	136 ×	82	4.9	不整形長方形	土師器×4
D SK10	D5-17	84 ×	70	4.0	不整形楕円形	
D SK11	C6-19	48 ×	[44]	6.5	楕円形	土師器×3
D SK12	C6-19	64 ×	56	16.9	不整形楕円形	146,土師器×1
D SK13	C6-25	φ69		5.1	円形	土師器×1
D SK14	D6-11・ D6-16	216 ×	192	6.2	不整形	147~152,土師器×155,瓦器×38,須恵器×2,釘×2 P139を切る。
D SK15	D6-21	φ74		13.5	円形	153,土師器×9
D SK16	C6-23~ D7-13	2,301 ×	143	31.4	溝状	154~218,弥生土器×2,土師器×1,599,瓦器×221,白磁×1,青磁×13,土師質土器×18,瓦質土器×3,須恵器×14,陶器×55,釘×2,鉄製品,鉄滓,銅製品?,炭化物,木片,粘土塊 N-62°-W,SE 1 とSK17を切る。
D SK17	C7-5・D7-1	624 ×	319	43.2	隅丸長方形	219~259,土師器×1,179,瓦器×14,土師質土器×4,瓦質土器×3,陶器×18,土錘×11,棒状鉄製品,鉄滓,木片,炭化物 N-70°-W,SK16に切られる。
D SK18	C7-12	64 ×	50	3.5	不整形	260,土師器×15
D SK19	C7-10	φ68		13.3	円形	土師器×7,瓦器×1
D SK20	C7-9	76 ×	40	17.9	不整形楕円形	261,土師器×4,瓦器×1,粘土塊
D SE1	C7-3	364 ×	[360]	—	不整形円形	44~133,土師器×887,瓦器×37,須恵器×5,青磁×2,陶器×35,土師質土器×2,瓦質土器×1,磁器×1,釘?,棒状鉄製品,鉄滓,漆?,砥石,炭化物
D SE2	C5-19	308 ×	292	—	円形	134~142,土師器×106,白磁×1,青磁×1,陶器×1,土師質土器×1,鉄滓,炭化物
D SE3	D7-3	300 ×	284	64.8	不整形楕円形	土師器×18,瓦器×2,陶器×1 素掘り井戸でP356を切る。SD-Aに連結する。
D SD-A	D6-14~ D7-13	20.8M ×	2.73M	62.3	N-15°-W	1~3,土師器×122,瓦器×1,青磁×1,陶器×5,木片
D SD-B	D6-14	6.4M ×	0.28M	—	N-15°-W	4 断面形は“U”字形で、極浅い。
D SD-C	C6-18~ D6-22	22.23M ×	0.59M	13.4	N-74°-W	5~36,弥生土器×1,土師器×395,瓦器×6,土師質土器×3,須恵器×2,銅製品,鉄滓,漆?,炭化物 断面形は逆台形から“U”字形
D SD1	C5-20	2.84M ×	0.2M	2.2	N-69°-W	37,38,土師器×19,陶器×1
D SD2	C5-19・20	4.48M ×	1.04M	11.0	N-75°-W	39~43,土師器×84
D SD3	D7-6・11	4.55M ×	0.39M	25.1	N-75°-W	土師器×10,瓦器×1

表59 D区遺物観察表 1

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グリップ 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	底径	形状	調整等	特徴 胎土 焼成 他	内面	色調 外面	断面	備考
1	78	D SD-A	陶器	椀	口縁部	9.3	[3.6]			口縁は外反する。口唇は丸く修める。灰軸(内) ナデ(外) ロク	調整等	胎土 焼成 他	灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2		
2	78	D SD-A	陶器	椀	口縁部		[1.9]			口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。(内・外) 灰軸 天	調整等	胎土 焼成 他	暗灰N3/	灰白7.5Y8/1		瀬戸美濃 C類 (14C) ?
3	78	D SD-A	陶器	甕	底部		[8.8]	1.4		胴部は内湾して立ち上がる。(内) ハケナデ(外) ナデ	調整等	胎土 焼成 他	暗灰N3/	灰褐7.5YR5/2	灰褐7.5YR5/3	備前
4	78	D SD-B	土師器	杯	底部		[3.0]	6.0	X.c	u/t	P2		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	
5	78	D SD-C	土師器	皿		5.9	1.3	4.2	W.c, h2	su/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
6	78	D SD-C	土師器	皿		6.1	1.3	5	W.c, h1	u/u	P2		橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	
7	78	D SD-C	土師器	皿		6.4	1.7	5.2	V.c, h2	su/u, g	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
8	78	D SD-C	土師器	皿		6.4	1.5	5	X.c	su/u, l	O		橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
9	78	D SD-C	土師器	皿		8.8	1.5	6.9	W.c, h3	u/u, k	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
10	78	D SD-C	土師器	皿	口縁部	11	[1.2]		W.c	u/u	P2		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
11	78	D SD-C	土師器	杯		10.6	3.7	6.2	X.c, h2	u/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
12	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	15.6	[4.0]		V.c	s/u	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
13	78	D SD-C	土師器	杯		12	4.3	6.2	X.c, h1	s/t	P2		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
14	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	14.2	4.2	8	V.c, h2	u/u	P1		橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
15	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	12.8	[2.9]		X.c	s/u	P2		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/4	にぶい橙7.5YR7/4	
16	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	13.5	[3.0]		W.c	su/u	P1		橙5YR7/6	橙5YR7/6	浅黄橙10YR8/4	
17	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	12.9	[1.8]		X.c	u/u	P2		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	
18	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	13.5	[2.9]		X.c	su/u	P2		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
19	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部	10.5	[2.9]		V.c	u/u	P1		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
20	78	D SD-C	土師器	杯	口縁部		[1.5]	6	h2	u/u, l	P2		橙2.5YR6/6	陶灰10YR5/1	陶灰10YR5/1	
21	78	D SD-C	土師器	杯	底部		[2.5]	4.8	il	su/u	P2		浅黄橙10YR8/3	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	
22	78	D SD-C	土師器	杯	底部		[2.0]	6.8	i2	u/t	O		にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	
23	78	D SD-C	土師器	杯	底部		[1.1]	6.4	h2	s/u	P2		浅黄橙10YR8/3	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	
24	78	D SD-C	土師器	皿	底部		[1.6]	4.9	X.c, h2	u/u	P1		陶灰7.5YR4/1	陶灰7.5YR4/1	陶灰7.5YR4/1	
25	78	D SD-C	土師器	杯	底部		[1.4]	8	h1	s/u	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	

表60 D区遺物観察表 2

遺物 図版 No.	出土地点 fig. 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高 器径	底径	形態	調整等	特徴 胎土 焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考	
26	78	D SD-C	土師器	杯	底部	[1.1]	7.2	11	su/ul	P2			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	断面		
27	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[1.2]	8.1	h1	s/l	P2			浅黄橙10YR8/4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	断面		
28	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[0.7]	8	i2	u/	P1			浅黄橙7.5YR8/6	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	断面		
29	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[1.9]	8.4	h2	su/u	P1			橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	断面		
30	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[1.9]	8	h1	su/u	P2			浅黄2.5Y8/4	浅黄2.5Y8/4	浅黄2.5Y8/4	断面		
31	79	D SD-C	2土師器	杯	底部	[2.3]	7.4	i2	su/ul	P1			橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	断面		
32	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[3.2]	8	il	s/u	P1			浅黄橙7.5YR8/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	断面		
33	79	D SD-C	土師器	杯	底部	[2.2]	7.2	h2	u/ul,k	P2			橙7.5YR7/6	にぶい7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	断面		
34	79	D SD-C	陶器	皿	口縁部	12.8	[2.2]				口縁は内湾気味に立ち上がり、やや肥厚する。口唇は外傾する凹面を成す。灰軸 (内) 楕円 御皿		灰白5Y7/2	オリーブ黄5Y6/3	灰白5Y7/1	断面	瀬戸美濃IV期	
35	79	D SD-C	青磁	碗	体部	[2.7]					体部は内湾する。濃い深緑を呈する青磁軸 (外) 蓮弁紋		灰オリーブ7.5Y4/2	灰オリーブ7.5Y4/2	灰白7.5Y8/1	断面	龍泉窯	
36	79	D SD-C	土師質土製土器	土罐	全長	[3.5]	全幅1.0	全厚0.9			重量 平面形は長楕円形を呈する。Φ2mmの円孔 浅い凹面 やや軟		—	浅黄橙10YR8/4	—	—	断面	
37	79	D SD1	土師器	杯	底部	[2.2]	4.5		u/ul,k	O			橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	断面		
38	79	D SD1	土師器	杯	底部	[1.4]	5.7		s/ul	P1			橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	断面		
39	79	D SD2	土師器	杯	底部	12.5	4.4		su/u	P2			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	断面		
40	79	D SD2	土師器	杯	口縁部	11.1	[3.9]		V,c1	u/u	P2		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	断面		
41	79	D SD2	土師器	杯	底部	[4.6]	6.4	V,c1,h2	su/u	P2			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	断面		
42	79	D SD2	土師器	杯	底部	[3.9]	7.4	h1	u/ul	P2			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	にぶい黄橙10YR7/3	断面		
43	79	D SD2	土師器	杯	底部	[1.5]	7.2	i2	su/ul	P2			浅黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	断面		
44	80	D SE1	土師器	皿		7	1.2		V,c2	su/u	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	断面		
45	80	D SE1	土師器	皿		6.2	1.3		X,c	u/u	P1		灰黄2.5YR7/2	灰黄2.5YR7/2	灰黄2.5YR7/2	断面		
46	80	D SE1	土師器	皿		7.2	1.3		X,c	u/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	断面		
47	80	D SE1	土師器	皿		7.9	1.7		X,d	s/	P2		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/3	断面		
48	80	D SE1	土師器	杯		12.8	3.5		V,c	s/ul,k	P1		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	断面		
49	80	D SE1	土師器	杯		13.0	3.8		V,c	su/ul	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	断面		
50	80	D SE1	土師器	杯		13.7	3.7		X,c	su/u	P1		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	断面		

表61 D区遺物観察表 3

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グランド	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		備考
																内面	外面	
51	80	D SE1	土師器	杯		11	3.2	6.2	V,c	s/u	P2					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
52	80	D SE1	土師器	杯		13.6	4.1	6.5	V,c	s/u	P1					にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR7/4	
53	80	D SE1	土師器	杯		12.9	4.7	6.6	V,c	s/uu	P1					灰白2.5Y8/2	—	
54	80	D SE1	土師器	杯		12.7	4.8	7.2	V,c	s/uu,k	P1					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
55	80	D SE1	土師器	杯		12.0	4.8	6.4	V,c	s/uu	P1					にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3	にぶい橙7.5YR7/3
56	80	D SE1	土師器	杯		12.6	4.7	6.2	V,c	s/u	P1					にぶい橙7.5YR7/3	にぶい黄橙10YR7/2	にぶい黄橙10YR7/2
57	80	D SE1	土師器	杯		13.0	4.6	6.2	V,c	s/u	P1		外面にヨコナデ頭			灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
58	80	D SE1	土師器	杯		13.3	4.8	6.4	V,c	s/u	P1		著			灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
59	80	D SE1	土師器	杯		13.2	4.8	7.0	V,c	s/uu	P1		内面底に粘土の補			にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3
60	80	D SE1	土師器	杯		13.0	4.3	6.4	V,c	s/u	P1		著			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
61	81	D SE1	土師器	杯		13.4	4.9	6.4	V,c	s/u	P1		外上段にヨコナデ			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
62	81	D SE1	土師器	杯		12.2	4.1	6.6	W,c	s/l	P2					にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
63	81	D SE1	土師器	杯		12.5	4.5	6.5	V,c	s/l	P2					にぶい橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
64	81	D SE1	土師器	杯		13.1	4.7	6.7	V,c,l2	s/uu	O					にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4
65	81	D SE1	土師器	杯		12.5	4.7	6.9	V,c,l1	su/uu	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
66	81	D SE1	土師器	杯		13.0	4.5	6.4	V,c,h1	s/u	P1		外面にヨコナデ			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3
67	81	D SE1	土師器	杯		12.7	4.5	6.9	X,c	s/u	P1		外面にヨコナデ			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4
68	81	D SE1	土師器	杯		12.8	4.8	7.0	V,c,l1	s/uu	P1					灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2
69	81	D SE1	土師器	杯		11.8	5.3	6.2	X,c	s/u	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	浅黄橙10YR8/4
70	81	D SE1	土師器	杯		13.4	4.8	6.8	V,c	s/l	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6
71	81	D SE1	土師器	杯		11.4	4.6	6.2	V,c	s/u	P3					浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4
72	81	D SE1	土師器	杯		6.4	4.3	6.4	X,c	s/uu,k	O		外面にヨコナデ			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
73	81	D SE1	土師器	杯	口縁部	12.2	[3.1]		V,c2	su/uu	P2		幅広い原体によるナ			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
74	81	D SE1	土師器	杯	口縁部	14.0	[3.5]		V,c	u/uu	P2					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4
75	82	D SE1	土師器	杯	口縁部	13.9	[2.8]		V,c1	su/uu	P2					浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4

表62 D区遺物観察表 4

No.	図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	特微 胎土	他	内面	色調 外面	断面	備考
76	82	D SE1		土師器	杯	口縁部	13.4	[2.4]		W,c	su/u	R,P1		灰白10YR8/2	こぶい黄橙10YR7/2	灰白10YR8/2	
77	82	D SE1		土師器	杯	底部	14.6	3.5	9.0	V,c	su/u	P2		こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/3	
78	82	D SE1		土師器	杯	口縁部	12.4	[3.2]		W,c	s/l	P2		こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	
79	82	D SE1		土師器	杯	底部	14.7	[2.1]		V,c	s/tu	P2		橙5YR7/6	橙5YR7/6	こぶい黄橙5YR7/4	
80	82	D SE1		土師器	杯	底部		[3.9]	7.1	i2	s/u	P1		こぶい黄橙10YR7/6	こぶい黄橙10YR7/6	こぶい黄橙10YR7/6	
81	82	D SE1		土師器	杯	底部		[3.2]	6.7	h1	s/tu	P1		こぶい黄橙7.5YR6/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR6/4	
82	82	D SE1		土師器	杯	底部		[3.4]	6.2		s/tu	Q,O		灰黄2.5YR7/2	灰黄2.5YR7/3	灰黄2.5YR7/3	
83	82	D SE1		土師器	杯	底部		[3.4]	7.4	i2	s/u	P1	内面底に粘土の糊 填	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
84	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.9]	6.4	h1	s/u	Q,O		こぶい黄橙10YR7/3	こぶい黄橙10YR7/3	灰N4/	
85	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.2]	6.8	il	s/tu	P1		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
86	82	D SE1		土師器	杯	底部		[2.3]	8.4	i2	s/u	P1		灰白5Y8/2	灰白5Y8/2	灰白5Y8/2	
87	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.1]	6.8	h2	su/tu,k	P1		黄灰2.5Y6/1	黄灰2.5Y6/1	黄灰2.5Y6/1	
88	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.0]	8.6		su/l	P2		灰黄2.5YR7/2	灰5Y5/1	灰黄2.5Y7/2	
89	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.5]	6.0	i2	s/u,l,k	O		こぶい黄橙7.5YR6/4	こぶい黄橙7.5YR6/4	こぶい黄橙7.5YR6/4	
90	82	D SE1		土師器	皿	底部		[1.6]	7.0		su/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
91	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.6]	6.8	i2	u/u	P2		こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	
92	82	D SE1		土師器	杯	底部		[3.1]	7.6	j	s/u	P1		こぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
93	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.6]	7.0	i2	u/tu,l	P2		こぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/4	
94	82	D SE1		土師器	杯	底部		[2.1]	6.4	L,i2	su/u	P1		こぶい黄橙10YR7/3	こぶい黄橙10YR7/3	こぶい黄橙10YR7/3	
95	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.5]	6.5	il	s/u	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
96	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.6]	7.4	i2	s/u	P2		橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
97	82	D SE1		土師器	杯	底部		[8.5]	6.8	il	s/l	P1		こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	こぶい黄橙7.5YR7/4	
98	82	D SE1		土師器	杯	底部		[1.6]	6.4	il	s/u	P1		浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	
99	83	D SE1		土師器	杯	底部		[1.1]	6.6	il	s/	P1		こぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/4	灰N4/	
100	83	D SE1		土師器	杯	底部		[2.1]	7.4	h1	s/u	P1		こぶい黄橙10YR7/3	こぶい黄橙10YR7/3	灰N4/	

表63 D区遺物観察表 5

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	色調		備考	
															内面	外面		
101	83	D SE1	土師器	杯	底部	[2.3]	6.4	h1	s/u,l	P1					浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
102	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.6]	5.6	h2	s/u	P1					にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
103	83	D SE1	土師器	皿	底部	[1.6]	7.6	h2	u/u	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
104	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.1]			s/u	P1					明黄褐10YR7/6	にぶい黄橙10YR7/4	明黄褐10YR7/6	
105	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.3]	6.8		/l	P2					橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
106	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.6]	9.0		u/	P1				中央で薄く仕上げる	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
107	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.8]	6.6	h1	s/u	P2					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
108	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.0]	6.6	i2	s/u	P1					にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR6/6	灰5Y4/1	
109	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.8]			u/u	R,P2					淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3	
110	83	D SE1	土師器	杯	底部	[0.9]	5.0		s/u,l,k	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	浅黄橙10YR8/6	
111	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.3]			su/u,l	R,P1					灰黄2.5YR7/2	灰黄2.5YR7/2	灰黄2.5YR7/2	
112	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.9]	7.2		s/u,l	P2					橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
113	83	D SE1	土師器	杯	底部	[2.8]	5.4	L	s/l	O					にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
114	83	D SE1	土師器	杯	底部	[1.6]	8.5	il	/u	P2					にぶい黄橙10YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
115	83	D SE1	土師器	杯	底部	[2.1]	8.5		s/u	P2					橙7.5YR7/6	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	
116	83	D SE1	土師器	杯	底部	[2.4]	7.8		s/u	P2					浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3	
117	83	D SE1	土師質土製 品	土罐		全長4.4 全軸1.2	重量 5.2g								平面は筒形を指向、端部は面を成す。やや軟質	—	—	
118	83	D SE1	土師質土製 品	土罐		全長3.6 全軸1.3	重量 5.5g								平面は長楕円形を呈す。やや硬質	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
119	83	D SE1	土師質土製 品	土罐		全長5.7 全軸1.5	重量 10.6g								平面は長楕円形を呈す。工具による押圧痕は螺旋状に施される？	—	—	
120	83	D SE1	瓦器	皿		7.1	1.1		F,c,C u/u,g	BI	K	M			灰N4/	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	
121	83	D SE1	瓦器	皿		8.0	0.9		G,c u/u,g	K	N				灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/1	
122	83	D SE1	瓦器	皿		8.1	1.7		G,c,C u/u,g	BI	K	M			灰10Y5/1	灰7.5Y4/1	灰白5Y7/1	
123	83	D SE1	瓦質土器	罎	口縁部	[6.2]									口縁は短く直立し、口唇は平らな面を成す。口縁下で緩やかに屈曲し、胴部は内湾して丸味を持つ。(内) ナデ (外) 押圧痕、稜付着、やや軟質	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1
124	83	D SE1	陶器	摺鉢	体部	[6.0]									体部は直線内に立ち上がる。(内) ヘラナデ、1単位6条の細目(外) ナデ、稜付着	灰褐7.5YR5/2	灰黄褐10YR5/2	備前

表64 D区遺物観察表 6

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考	
125	83	D SE1	瓦質土器	風戸	脚部	[4.1]										灰5Y5/1	灰5X4/1		灰白5Y7/1		
126	84	D SE1	陶器	甕	口縁部	[3.4]										灰褐5YR4/2	にぶい赤褐2.5YR4/3		黄灰2.5Y5/1	備前	
127	84	D SE1	青磁	盤	口縁部	27.4	[2.9]									オリーブ褐2.5Y4/4	オリーブ褐2.5Y4/4		灰白2.5Y7/1	龍泉窯	
128	84	D SE1	瓦質土器	鉢	口縁部	[3.5]										灰白5Y7/1	灰白5Y7/1		灰白5Y7/1		
129	84	D SE1	青磁	碗	口縁部	17.8	[3.0]									灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2		灰白N7/	龍泉窯	
130	84	D SE1	青磁	碗	口縁部	[3.3]										灰オリーブ5Y6/2	オリーブ黄5Y6/3		灰白5Y7/1	龍泉窯	
131	84	D SE1	青磁	碗	体部	[2.4]										明オリーブ灰2.5GY7/2	明オリーブ灰2.5GY7/2		灰白7.5Y7/1	龍泉窯	
132	84	D SE1	青磁	碗	底部	[2.6]				5.6						オリーブ灰10Y6/2	オリーブ灰10Y6/2		灰白N7/	龍泉窯	
133	84	D SE1	白磁	皿		[0.8]				6						灰白2.5GY8/1	灰白2.5GY8/1		灰白N8/	白磁X類1c	
134	84	D SE2	土師器	皿		7.8	1.3			6.2	X.c	u/u	P2				橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6		
135	84	D SE2	土師器	杯	底部	11.4	5.5			6.3	V.c;I2	s/t	Q,P1				にぶい橙7.5YR7/4		浅黄橙7.5YR8/6		
136	84	D SE2	土師器	杯	底部	[1.3]				4.8	h2	s/	P2				黄橙7.5YR7/8		浅黄橙10YR8/4		
137	84	D SE2	土師器	杯	底部	[1.4]				5.8	h1	u/u	P3				橙7.5YR7/6		灰7.5Y4/1		
138	84	D SE2	土師器	杯	底部	[1.3]				6.4	h2	s/u	P1				浅黄橙10YR8/4		黄灰2.5Y6/1		
139	84	D SE2	土師器	杯	底部	[1.7]				6.0	il	su/u	P2				橙5YR6/6		にぶい黄橙10YR5/4		
140	84	D SE2	青磁	碗	口縁部	[2.0]											明緑灰10GY7/1		灰白N8/1	龍泉窯	
141	84	D SE2	磁器	小碗	口縁部	6.7	[1.4]										灰5Y6/1		灰5Y6/1		
142	84	D SE2	磁器	碗	口縁部	14.8	[5.5]											鈍暗褐7.5YR2/3		灰白10Y7/1	肥前系?
143	84	D SK03	土師質土製土器	土鉢		全長4.9	全幅1.1	重量3.6g										橙7.5YR7/6		—	
144	84	D SK04	陶器	壺	口縁部	9.3	[2.9]											黄褐2.5Y5/3		灰白2.5Y7/1	
145	84	D SK05	土師器	杯	底部	[3.0]				6.4	h1	su/u	P3				橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6		
146	84	D SK12	土師器	皿		6.4	1.8			3.5	X.c;h3	u/u	Q,P1				橙2.5YR6/8		灰7.5Y5/1		
147	84	D SK14	土師器	杯	底部	[1.0]				6.0	h1	u/	P2				にぶい黄橙10YR7/3		にぶい黄橙10YR7/3		
148	84	D SK14	土師器	杯	底部	[1.5]				5.6	h2	su/u	P1				浅黄橙10YR8/4		浅黄橙7.5YR8/6		
149	84	D SK14	土師器	杯	底部	[1.3]				7.4	h2	u/u	P2				明黄褐10YR7/6		明黄褐10YR7/6		

表65 D区遺物観察表 7

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・ゾリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	色調		備考
														内面	外面	
150 84	D SK14	瓦器	椀	口縁部	12.6	[2.2]	E,c	u/g	B2	L	N	明黄褐2.5Y6/6	明黄褐2.5Y6/6	浅黄2.5Y7/3		
151 84	D SK14	瓦器	椀	底部		[0.7]	3.0	I	B2	K	M	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰白7.5Y8/1		
152 84	D SK14	瓦器	椀	底部		[0.6]	3.9	I	B1	L	M	オリーブ黒5Y3/1	灰オリーブ5Y5/2	浅黄2.5Y7/4		
153 84	D SK15	土師器	皿		7.4	1.2	5.0	V,c	u/	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/4		
154 85	D SK16	土師器	皿		7.0	1.6	5.0	V,c,h2	u/u	P3		浅黄橙10YR8/3	にぶい橙5YR7/4	浅黄橙10YR8/3		
155 85	D SK16	土師器	皿		6.5	1.4	5.4	V,c,l,h1	u/u	P1		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
156 85	D SK16	土師器	皿		6.3	1.1	5.2	V,c,l2	u/u	P1		橙7.5YR7/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
157 85	D SK16	土師器	皿		7.2	1.3	5.0	V,c,h2	su/u	P1		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
158 85	D SK16	土師器	皿		7.8	1.5	4.0	W,c,h3	u/u	P2		橙7.5YR7/6	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
159 85	D SK16	土師器	皿		11.0	2.2	7.8	V,c,h3	u/t	P2		橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
160 85	D SK16	土師器	杯	口縁部	11.6	4.8	7.6	V,c2,h1	s/tu	P2		灰白2.5Y8/2	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
161 85	D SK16	土師器	杯		12.0	4.5	6.9	V,c,l,h2	s/t	Q,O		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
162 85	D SK16	土師器	杯	底部		[4.8]	8.0	V,h1	su/t	P1		浅黄橙10YR8/3	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2		
163 85	D SK16	土師器	杯	底部	13.9	4.4	7.1	W,c,h1	s/t	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
164 85	D SK16	土師器	杯	底部		[1.4]	8.0	i2	s/u	P1		浅黄橙10YR8/3	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
165 85	D SK16	土師器	杯	底部		[2.8]	7.4	X,h2	su/tu	P1		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/3		
166 85	D SK16	土師器	皿	底部		[1.1]	8.6	h2	u/k	P2		橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
167 85	D SK16	土師器	杯	底部		[0.7]	4.1	il	u/	P3		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6		
168 85	D SK16	土師器	椀	底部		[0.9]	3.5	I	u/	P1		黄灰2.5Y5/1	灰白2.5Y8/2	淡黄2.5Y8/3		
169 85	D SK16	土師器	杯	底部		[1.3]	8.2	h1	s/u	P3		橙7.5YR7/6	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8		
170 85	D SK16	土師器	皿	底部		[0.7]	5.0	h2	su/	P2		橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
171 85	D SK16	土師器	皿	底部		[0.7]	5.7	il	u/u	P3		橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
172 85	D SK16	土師器	皿	底部		[1.1]	7.8	h3	su/	P1		にぶい橙7.5YR6/4	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
173 85	D SK16	土師器	杯	底部		[1.3]	7.9	i2	s/u	P2		橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
174 85	D SK16	瓦器	皿		6.5	1.2	4.8	E,c	u/u,g	B2	K	N	灰5Y5/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	

表66 D区遺物観察表 8

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高 胴径 底径	形態	調整等	特微 胎土 焼成	他	内面	色調 外面	断面	備考	
															底径
175 85	D SK16	瓦器	皿	口縁部	8.0	[1.2]	5.0	F.c	u/u	B2	K	M2	灰白2.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
176 85	D SK16	瓦器	皿	口縁部	8.6	[1.6]		G.c.C	u/g	B1	K	M	灰N5/ 灰N5/	灰N7/ 灰N7/	
177 85	D SK16	瓦器	皿	口縁部	8.6	1.4		G.c.C	u/u.g	A	K	M	暗灰N3/ 暗灰N3/	灰白5Y8/1 灰白5Y8/1	
178 85	D SK16	瓦器	椀	口縁部	14.0	[2.4]		G.c.C	u/u.g	B1	K	M	灰N6/ 灰N6/	灰白7.5Y8/1 灰白7.5Y8/1	
179 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[1.1]	4.4	I	u/	A	L	N	淡黄2.5Y8/3 淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3 淡黄2.5Y8/3	
180 85	D SK16	瓦器	皿	底部		[0.9]	5.5	b3	u/u.g	B2	K	M	暗灰N3/ 暗灰N3/	灰白2.5GY8/1 灰白2.5GY8/1	
181 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[0.6]	4.9	I	u/	B1	K	M	灰7.5Y5/1 灰7.5Y5/1	灰白7.5Y8/1 灰白7.5Y8/1	
182 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[2.1]	4.9	I.C	u/g	B2	L	N	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	
183 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[1.0]	4.7	I	u/g	B2	L	M1	灰5Y5/1 灰5Y5/1	にぶい黄橙10YR7/2 にぶい黄橙10YR7/2	
184 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[0.6]	3.4	I	u.m/u	B2	K	N	灰5Y8/1 灰5Y8/1	灰5Y8/1 灰5Y8/1	
185 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[1.7]	4.2	I	u.m/g	A	K	M	灰5Y6/1 灰5Y6/1	灰白5Y7/1 灰白5Y7/1	
186 85	D SK16	瓦器	椀	底部		[1.9]	6.0	I	u/g	B1	K	M1	灰5Y6/1 灰5Y6/1	灰黄2.5Y7/2 灰黄2.5Y7/2	
187 85	D SK16	土師質土器 土罐			全長3.9	全幅1.5	全厚1.2		重量 3.4g				平面は不整長楕円形を呈す。Φ5mmの円孔	やや硬質	
188 85	D SK16	土師質土製 土罐			全長2.3	全幅0.9	全厚0.9		重量 1.4g				平面は長楕円形を呈す。Φ4mmの円孔	ナデ 小型 やや軟質	
189 85	D SK16	土師質土製 土罐			全長4.2	全幅1.1	全厚0.9		重量 3.1g				平面は長楕円形を呈す。Φ4mmの円孔	丁寧なナデ 小型 やや軟質	
190 85	D SK16	土師質土製 土罐			全長3.9	全幅1.2	全厚1.2		重量 4.3g				平面は長楕円形を呈す。Φ4mmの円孔	小型 やや軟質	
191 86	D SK16	瓦質土器 鉢	口縁部	鉢	17.0	[1.8]							灰白7.5Y8/1 灰5Y8/1	灰白7.5Y7/1 灰5Y8/1	
192 86	D SK16	瓦質土器 鉢	口縁部	鉢	23.4	[4.6]							灰白7.5Y8/1 灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1 灰白7.5Y8/1	
193 86	D SK16	陶器 鉢	鉢	鉢	23.7	[3.8]							にぶい褐7.5YR5/3 にぶい褐7.5YR5/3	灰黄褐10YR5/2 灰黄褐10YR5/2	備前
194 86	D SK16	陶器 鉢	口縁部	鉢	26	[2.0]							灰オリーブ5Y6/2 灰オリーブ5Y6/2	灰白5Y7/1 灰白5Y7/1	
195 86	D SK16	須恵器 鉢	口縁部	鉢	28.7	[5.7]							灰10Y6/1 灰10Y6/1	灰10Y6/1 灰10Y6/1	
196 86	D SK16	陶器 甕	口縁部	甕	37.8	[3.5]							にぶい赤褐5YR5/3 にぶい赤褐5YR5/3	灰褐5YR4/2 灰褐5YR4/2	にぶい黄褐10YR5/3 備前IV期前半
197 86	D SK16	須恵器 鉢	底部	鉢		[1.5]	8.6	(内)	ナデ、摩滅する(外) ナデ				灰白N7/ 灰白N7/	灰白N7/ 灰白N7/	
198 86	D SK16	須恵器 鉢	底部	鉢		[3.2]	9.4	h2	/u				灰白N7/ 灰白N7/	灰白N7/ 灰白N7/	

表67 D区遺物観察表 9

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グランド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
199 86	D SK16	陶器	楕鉢	底部	[3.9]	19.6	19.6	平底の端部は丸味を持ち、ヘラ圧痕を殘す。(内) 1 単位 7 条の楕目 (外) ナデ					褐灰7.5YR5/1	にぶい褐7.5YR5/3	黄灰2.5Y5/1	備前	
200 86	D SK16	陶器	甕	底部	[5.0]	18.5	18.5	(内) ナデ (外) ヨコナデ					灰N5/	にぶい赤褐5YR5/3	赤橙10R6/6	備前	
201 87	D SK16	青磁	椀	口縁部	[2.3]	15.5	15.5	口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉 (外) 沈線による雑な運弁紋					オリーブ灰2.5GY6/1	オリーブ灰2.5GY6/1	灰白7.5Y7/1	龍泉窯	
202 87	D SK16	青磁	椀	口縁部	[1.8]			口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。青磁釉 (内) 片切り彫による 3 段の沈線					オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	灰白2.5Y8/1	龍泉窯	
203 87	D SK16	青磁	椀	口縁部	[2.6]	14.9	14.9	口縁は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉					オリーブ灰10Y6/2	オリーブ灰10Y6/2	灰10Y8/1	龍泉窯	
204 87	D SK16	青磁	椀	口縁部	[2.0]	14.2	14.2	口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉 (内) 細い 2 条の沈線と幅広の 1 条沈線					オリーブ灰10Y5/2	オリーブ灰10Y5/2	灰10Y6/1	龍泉窯	
205 87	D SK16	青磁	椀	底部	[1.9]	4.3	4.3	高台は断面方形で直立する。青磁釉					灰オリーブ7.5Y5/2	灰オリーブ7.5Y5/2	灰7.5Y6/1	龍泉窯	
206 87	D SK16	青磁	椀	口縁部	[4.6]	14.1	14.1	口縁は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉 (内) 区画沈線、楕目紋と沈線紋 (外) 楕面紋					明細灰7.5GY7/1	明細灰7.5GY7/1	灰白N8/	龍泉窯	
207 87	D SK16	青磁	椀	体部	[3.6]			体部は内湾して立ち上がる。青磁釉 (外) 編運弁紋					オリーブ灰10Y5/2	オリーブ灰10Y5/2	灰10Y6/1	龍泉窯	
208 87	D SK16	青磁	椀	底部	[1.9]	4.6	4.6	高台は円形出しにより、量付けは細く仕上げられる。青磁釉は黄色味を帯びる。中性～酸化層					にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/3	龍泉窯	
209 87	D SK16	青磁	椀	体部	[2.6]			体部は緩やかに内湾する。青磁釉 (内) 副花紋					灰オリーブ7.5Y5/2	灰オリーブ7.5Y5/2	灰7.5Y6/1	龍泉窯	
210 87	D SK16	青磁	椀	体部	[2.9]			底部はやや膨張り形を呈す。厚い青磁釉が掛る。					灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2	灰白7.5Y7/1	龍泉窯	
211 87	D SK16	青磁	椀	底部	[2.7]			腰張形 青磁釉 (内) 底・体部の境に圈線状細い溝					明細灰7.5GY7/1	明細灰7.5GY7/1	灰白7.5Y8/1	龍泉窯	
212 87	D SK16	白磁?	皿	口縁部	[1.4]	11.0	11.0	口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は尖り気味に修める。釉は緑色を帯びる。(内) 細い 2 条の沈線と幅広の 2 条沈線					灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y8/1		
213 87	D SK16	白磁	皿	底部	[1.2]	6.2	6.2	基部底? (外) 下位は露胎する					灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白2.5Y7/1		
214 87	D SK16	青花?	皿	底部	[1.3]	8.6	8.6	高台は断面三角形を呈する。(内) 二重圈線					明オリーブ灰5GY7/1	明オリーブ灰5GY7/1	灰白10Y8/1	景徳鎮	
215 87	D SK16	陶器	椀	体部	[2.7]			体部は内湾する。鉄軸 (不透明) 天目碗					オリーブ黒10Y3/1	灰10Y4/1	灰黄2.5Y7/2		
216 87	D SK16	陶器	皿	底部	[1.2]	7.2	7.2	底部端は丸く仕上げる。(内) 緑軸、ロクロ目 (外) ナデ、露胎 (底) 糸切り痕					灰オリーブ5Y5/1	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1		
217 87	D SK16	陶器	瓶	口縁部	[3.3]	4.1	4.1	口縁は外反し立ち上がる。端部では外側へ肥厚する。灰軸 (内) ナデ (外) ロクロ目のちナデ					灰白5Y7/2	オリーブ黄5Y6/3	灰白5Y7/1		
218 87	D SK16	陶器	小壺	底部	[1.2]	2.6	2.6	(内) ロクロ目、露胎 (外) 鉄軸 (底) 細かい糸切り痕					灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1		
219 88	D SK17	土師器	皿		5.5	1.2	5.0	X.c.2h2 u/u	P1				にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
220 88	D SK17	土師器	皿		6.1	1.0	5.3	V.c.h1 u/u	P2				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
221 88	D SK17	土師器	皿		6.6	1.5	5.4	V.c.h1 su/u	P2				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
222 88	D SK17	土師器	皿		7.2	1.4	5.4	W.c.h2 u/u	Q.P1				明黄褐10YR7/4	明黄褐10YR7/6	明黄褐10YR7/6		
223 88	D SK17	土師器	皿		7.4	1.0	5.6	X.c.l2 u/u,k	P2				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR7/4		

表68 D区遺物観察表 10

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	脚径	形態	調整等	胎土	特徴	他	焼成	色調	外面	内面	断面	備考
224	88	D SK17	土師器	皿	皿	6.5	1.3	5.6	X.c,h1	su/u		P1					にぶい、橙7.5YR7/3	にぶい、橙7.5YR7/3	にぶい、橙7.5YR7/3	
225	88	D SK17	土師器	皿	皿	6.7	1.2	5.4	V.c,h1	su/u		P1					橙5YR7/6	橙5YR7/6	にぶい、黄橙10YR7/4	
226	88	D SK17	土師器	皿	皿	7.8	1.4	5.8	W.c,l,h3	u/u,g		P1	手づくね成形				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/3	
227	88	D SK17	土師器	皿	皿	7.3	1.1	5.8	V.c,h1	s/u		P1					浅黄橙7.5YR8/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
228	88	D SK17	土師器	皿	皿	8.0	1.3	6.0	V.c2,h2	su/u		P2					橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
229	88	D SK17	土師器	杯	杯	10.9	3.0	7.4	V.c,h2	u/u		P2					浅黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、橙7.5YR7/4	
230	88	D SK17	土師器	杯	杯	12.8	3.7	6.8	X.c,j	u/u		P1		内外面に煤附着			にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	
231	88	D SK17	土師器	杯	杯	12.6	4.3	7.3	X.c,l,i1	su/tu		P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
232	88	D SK17	土師器	杯	杯	12.4	4.5	7.5	V.c,h1	s/u		P1					橙7.5YR6/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
233	88	D SK17	土師器	杯	口縁部	12.4	[2.9]		V.c,l	u/u		P1		外面にヨコナデ			にぶい、黄橙10YR7/3	にぶい、黄橙10YR7/2	にぶい、黄橙10YR7/3	
234	88	D SK17	土師器	杯	杯	12.7	4.7	7.0	V.c,l2	u/tu		P1		口縁下ナデによる段			にぶい、橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	にぶい、橙7.5YR7/4	
235	88	D SK17	土師器	杯	杯	12.2	3.3	8.1	V.c,h3	su/u,k		P1					橙7.5YR7/6	にぶい、橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6	
236	88	D SK17	土師器	杯	杯	11.4	4.2	8.1	V.c,j	su/u,k		P1					灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	灰黄2.5Y7/2	
237	88	D SK17	土師器	杯	底部		[2.3]	7.6	il	su/u		P1		外面の一部に煤附着			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3	
238	88	D SK17	土師器	皿	皿		[2.0]	5.8	X,h2	su/u		P2					黄橙7.5YR8/8	黄橙7.5YR8/8	浅黄橙7.5YR8/6	
239	88	D SK17	土師器	杯	皿		[1.3]	7.2	h1	u/u		P2		外面に煤附着			にぶい、橙7.5YR6/4	にぶい、橙7.5YR6/4	にぶい、橙7.5YR6/4	
240	88	D SK17	土師器	杯	皿		[1.9]	6.5	h2	su/u		P1					灰白2.5Y8/1	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/1	
241	88	D SK17	土師器	杯	皿		[1.6]	6.0	i2	s/u		O		外面はヨコナデ			橙5YR7/6	灰黄2.5Y6/2	灰黄2.5Y6/2	
242	88	D SK17	土師器	杯	皿		[1.6]	7.4	h1	su/u		P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
243	88	D SK17	土師器	皿	皿		[1.5]	6.3	X.c,h2	u/u		P3					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
244	88	D SK17	土師器	杯	皿		[2.2]	5.4	i2	u/tu		P1					灰白2.5Y8/2	浅黄橙10YR8/3	灰N4/	
245	88	D SK17	土師器	杯	皿		[2.4]	7.6	h3	su/u		P2					明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	明赤褐2.5YR5/6	
246	88	D SK17	土師器	杯	皿		[2.4]	8.4	h2	su/u		P3					明黄褐10YR6/6	明黄褐10YR6/6	明黄褐10YR6/6	
247	88	D SK17	土師器	杯	皿		[2.6]	7.0	i2	su/t		Q,P2					にぶい、橙7.5YR7/4	浅黄橙10YR8/6	浅黄橙10YR8/6	
248	88	D SK17	土師質土製土師器	土師器	土師器		全長3.5 全幅1.3		重量 全厚1.2 全幅1.3					平面は長楕円形を呈す。Φ5mmの円孔を呈す。小型 軟質			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	

表69 D区遺物観察表 11

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グランド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	底径	胴径	高さ	重量	底径	形	調整等	胎土	特殊	他	内面	外面	色調	断面	備考	
249 88	D SK17	土師質土製 土罐	土罐	底部	口径3.6 全長4.2	全幅1.3 全厚1.2	4.0g					平面は長楕円形を呈す。Φ4mmの円孔 小さな押圧痕を残す。小型 やや硬質							にふい橙5YR6/3			
250 88	D SK17	土師質土製 土罐	土罐	底部	全長4.2	全幅1.3	5.1g					平面は長楕円形を呈す。細かな押圧痕を残す。							灰黄2.5Y7/2		灰白7.5Y7/1	
251 89	D SK17	瓦器	皿	底部	9.9	[1.7]	7.2	G,c	u/u,g	B1	K	M							オリーブ黒10Y3/1		灰白7.5Y7/1	
252 89	D SK17	瓦器	椀	底部		[0.9]	5.2	I	u/	A	L	N							浅黄橙7.5YR8/3		浅黄橙7.5YR8/3	
253 89	D SK17	陶器	瓶	胴部		[4.3]							瓶子の体部破片で直立する。(内) ナデ、押圧痕 (外) 唐草紋						浅黄5Y7/3		灰白2.5Y8/1	瀬戸美濃
254 89	D SK17	須恵器	鉢	口縁部	29.5	[3.3]							口縁は緩く外反して立ち上がり、上下へ肥厚する。(内・外) ナデ						灰白2.5Y7/1		灰黄2.5Y7/2	東播系
255 89	D SK17	須恵器	鉢	底部		[2.8]	10.3						体部は内湾して立ち上がる。(内) ナデ、押圧痕 (外) ヨコナデ						灰白5Y7/1		灰白5Y8/1	
256 89	D SK17	瓦質土器	鉢	口縁部	24.2	[5.3]							口縁は直線的に立ち上がり、上下へ肥厚する。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ (外) ロクロ目 中性～還元胎						灰黄2.5Y7/2		灰白5Y7/1	
257 89	D SK17	瓦質土器	鉢	口縁部	24	[6.3]							口縁は直線的に立ち上がり、上下へ肥厚する。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ (外) ロクロ目? やや硬質						灰白2.5Y8/1		灰白2.5Y8/1	
258 89	D SK17	須恵器	鉢	口縁部	31.3	[4.5]							片口の注口部 口縁は直線的立ち上がり、上下へ肥厚する。(内・外) ナデ						灰7.5Y6/1		灰7.5Y6/1	東播系
259 89	D SK17	陶器	描鉢	口縁部	34.2	[5.5]							口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ、I単位5条の幅目 (外) ナデ 還元胎						黄灰2.5Y6/1		灰白5Y7/1	
260 89	D SK18	土師器	皿	底部		[1.0]	6.8	h3	u/u	P1									にふい橙7.5YR7/4		黄灰10YR6/1	
261 89	D SK20	土師器	杯	底部		[1.6]	6.4	h3	su/t	P1									にふい黄橙10YR7/3		にふい黄橙10YR7/3	
262 90	D P.6	土師器	杯	底部		[1.3]	4.3	h2	su/u	P2									にふい黄橙10YR7/3		にふい黄橙10YR7/4	
263 90	D P.6	土師器	杯	底部		[1.1]	7.8		su/k	Q,P1									浅黄橙7.5YR8/3		灰白10YR7/1	
264 90	D P.6	土師器	杯	底部		[1.3]	7.1	h2	s/u	P2									浅黄橙10YR8/3		浅黄橙10YR8/3	
265 90	D P.7	土師器	杯	口縁部	10.4	[2.1]			V,c,C	su/u	R,O								灰白2.5Y8/2		淡黄2.5Y8/3	
266 90	D P.7	土師器	杯	口縁部	10.9	[2.3]			V,c	u/u	P2								橙7.5YR7/6		浅黄橙7.5YR8/6	
267 90	D P.7	土師器	杯	底部	13.0	4.8	8.3	X,c,h1	u/u	P1									浅黄橙7.5YR8/3		浅黄橙10YR8/3	
268 90	D P.7	土師器	杯	底部		[1.2]	6.0	h2	s/u	Q,R,P1									灰白10YR8/2		灰白10YR8/2	
269 90	D P.19	土師器	杯	底部		[1.6]	5.2	h1	s/t	Q,R,P1									灰白2.5Y8/2		灰白7/	
270 90	D P.23	土師器	杯	底部		[1.5]	6.5	h3	s/u	Q,O									淡橙5YR8/4		にふい橙5YR7/4	
271 90	D P.23	土師器	杯	底部		[1.4]	6.2	il	su/u	P2									浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/4	
272 90	D P.23	土師器	杯	底部		[1.6]	5.8	h2	u/u	Q,R,P1									浅黄橙7.5YR8/3		灰白10YR8/1	
273 90	D P.31	土師器	杯	底部		[3.0]	7.0	h1	su/u	P2									橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	

表70 D区遺物観察表 12

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
274 90	D.P.39	瓦器	椀	口縁部	13.9	[1.7]		G,c,c	m/u	P1	K	M			暗灰N3/	灰白7.5Y8/1			
275 90	D.P.51	瓦器	椀	口縁部		[2.5]		G,c,c	u/u	P1	K	N			灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1			
276 90	D.P.61	陶器	扁鉢	口縁部		[6.3]									灰5Y6/1	灰白5Y7/1			備前?
277 90	D.P.78	土師器	杯		14.4	2.9	6.3	W,c,h3	u/u, g	R,P2	L				浅黄橙10YR8/3	灰N4/			瓦器?
278 90	D.P.78	土師器	杯	底部		[1.6]			5.0	h2	s/u	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/4			
279 90	D.P.87	土師質土製 品	土罐		全長 [4.1]		全厚1.6 9.1g								—	にぶい赤褐2.5YR5/3			—
280 90	D.P.88	土師器	杯	底部		[1.5]			6.0	h2	su/u	P2			橙5YR7/6	橙5YR7/8			
281 90	D.P.89	土師器	杯	底部		[1.2]			8.3	il	su/u	P2			にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙7.5YR7/4			にぶい黄橙10YR7/3
282 90	D.P.91	土師質土製 品	土罐		全長2.9 全厚1.1		3.0g								—	にぶい橙7.5YR6/4			—
283 90	D.P.100	土師器	杯	口縁部	12.0	[1.2]				c	u/u	P2			にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4			明赤褐5YR5/6
284 90	D.P.101	土師器	皿		8.0	1.1	6.3	X,c,l,h3	u/u	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			
285 90	D.P.101	土師器	杯	底部		[0.9]			h2	su/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4			にぶい橙7.5YR7/4
286 90	D.P.102	土師器	杯	底部		[1.6]			7.1	il	u/u	P2			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4			にぶい橙7.5YR7/4
287 90	D.P.106	土師器	皿		7.2	1.7	4.4	V,c,l	su/ut,k	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			橙7.5YR7/6
288 90	D.P.106	土師器	皿	底部		[0.7]			4.5	il	u/u,k	P1			にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR7/6			橙7.5YR7/6
289 90	D.P.106	土師器	杯	口縁部	12.0	[2.7]				V,c	s/u	P1			褐灰10YR5/1	にぶい黄橙10YR7/3			にぶい黄橙10YR7/3
290 90	D.P.110	土師器	杯	底部		[0.9]			6.9	il	s/u,k	P1			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4			にぶい橙7.5YR7/4
291 90	D.P.115	土師器	杯	底部		[0.8]			5.6	il	s	P2			明黄褐10YR7/6	明黄褐10YR7/6			明黄褐10YR7/6
292 90	D.P.115	石製品	砥石		全長 [2.9]		全厚 [0.5]								—	灰白5Y7/2			—
293 90	D.P.116	土師器	杯	底部		[3.2]			7.9	il	su/u	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			橙7.5YR7/6
294 91	D.P.118	土師器	皿		6.4	1.5	5.2	V,c,h3	u/u	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4			にぶい橙7.5YR7/4
295 91	D.P.118	土師器	杯	口縁部	9.0	[3.6]				V,c,l	su/ut	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			橙7.5YR7/6
296 91	D.P.118	土師器	杯	底部		[1.7]			7.0	h1	s/u	P2			橙5YR6/8	橙5YR6/8			橙5YR6/8
297 91	D.P.121	土師器	皿		7.0	1.2	5.2	V,c,h3	u/u	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6			橙7.5YR7/6

表71 D区遺物観察表 13

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	色調		備考
														内面	外面	
298	91	D.P.121	土師器	杯	底部	[1.0]	6.0	il	su/t	P1				橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6	断面
299	91	D.P.122	土師器	杯	底部	[0.7]	5.0	il	u/k	P1				橙5YR7/6	橙5YR7/6	
300	91	D.P.122	土師器	皿	底部	[1.4]	7.1	b3	su/u	P1				にぶい赤褐5YR5/4	橙5YR6/6	灰10Y5/1
301	91	D.P.125	土師器	杯	底部	[2.5]	7.7	il	s/u	P1				橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6	
302	91	D.P.126	土師器	杯	底部	[2.1]	4.8	h2	s/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
303	91	D.P.127	土師器	皿	底部	[0.6]	5.2	h2	u/k	P2				橙5YR7/6	橙5YR7/6	
304	91	D.P.128	土師器	杯	底部	4.4	7.5	Xc,il	su/u	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
305	91	D.P.128	土師器	皿	底部	[1.0]	4.4	h2	s/u	P1				にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4
306	91	D.P.128	土師器	杯	底部	[1.9]	6.7	h1	u/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	器壁を薄く仕上げ る
307	91	D.P.128	土師器	皿	底部	[1.0]	6.0	h2	u/u,k	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
308	91	D.P.130	土師器	皿	底部	[1.1]	4.4	h3	su/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
309	91	D.P.130	土師器	杯	底部	[1.8]	7.2	h2	su/tu	P2				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
310	91	D.P.130	青磁	碗	口縁部	15.9 [4.5]								灰オリーブ7.5Y5/2	灰オリーブ7.5Y5/2	龍泉窯
311	91	D.P.131	土師器	杯	口縁部	11.8 [2.5]			V,c,l	su/tu	P2			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
312	91	D.P.136	土師器	杯	口縁部	10.3 [2.1]			V,c	u/u	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
313	91	D.P.136	土師質土製 品	土罐	底部	全長 全幅1.2 [3.6]	重量 3.9g							にぶい赤褐2.5YR5/3	にぶい赤褐2.5YR6/4	
314	91	D.P.141	土師質土製 品	土罐	底部	全長4.8 全幅1.4	重量 6.8g							灰黄褐10YR6/2	—	
315	91	D.P.145	土師質土製 品	土罐	底部	全長4.1 全幅1.1	重量 3.6g							にぶい橙7.5YR7/3	—	
316	91	D.P.145	土師質土製 品	土罐	底部	全長 全幅1.1 [3.2]	重量 3.2g							淡黄2.5Y8/2	—	
317	91	D.P.145	土師質土製 品	土罐	底部	全長4.7 全幅1.0	重量 0.9 3.6g							浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/3	
318	91	D.P.148	土師器	杯	底部	12 3.9	7.3	Xc,il	s/u	P2				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	
319	91	D.P.148	土師器	皿	底部	6.3 1.1	5.3	V,c,h1	u/u	P2				浅黄橙7.5YR8/3	浅黄橙7.5YR8/3	
320	91	D.P.148	土師器	皿	底部	[1.2]	6.7	b3	u/	P1				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4	
321	91	D.P.150	土師器	杯	口縁部	14.0 [3.5]	9.0	V,c,h2	u/t	P3				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	

表72 D区遺物観察表 14

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	法量 (cm)		口径	底径	器高	脚径	形態	特徴		内面	外面	色調	断面	備考	
						全長	全幅						調整等	胎土						焼成
322 91	D.P.150		石製品	砥石		全長 [3.1]	全幅3.9 [0.9]	17.0g				使用面は上面1面と側面1面が認められる。上面の一部には成形時の打痕が残る。裏面は剥落しているがAV字の切り込みは残される。推定長軸とやや傾きを持つて細糸が残される。粘版岩製								
323 91	D.P.151		土師器	皿		6.7	1.2	5.0	V,c,h1	u/uu	P2				楕5YR6/6	楕5YR6/6	楕5YR7/6			
324 91	D.P.156		土師質土製土器	土罐		全長 [4.0]	全幅1.0	2.4g				平面形は筒形を呈する。4.5×4mmの指孔 凹凸面を残す。やや軟質			灰白5Y8/1					
325 91	D.P.157		土師器	杯	底部	[1.3]		5.9	h1	u/u	P2			にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4				
326 91	D.P.162		土師器	杯	底部	[1.2]		6.8	il	s/	P1		外面にターレット状の縁が付着	浅黄楕7.5YR8/4	にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4				
327 91	D.P.162		土師器	杯	底部	[1.2]		7.8	h1	s/u	P1			楕5YR6/6	楕5YR6/6	楕5YR7/6				
328 91	D.P.162		瓦器	椀	口縁部	[2.4]			G,c,C	u/u	B2	K	M	灰7.5Y4/1	オリープ黒7.5Y3/1	浅黄2.5Y7/3				
329 91	D.P.165		土師器	杯	口縁部	[2.4]			V,c	u/u	P1			楕5YR6/6	楕5YR6/6	楕5YR6/6				
330 91	D.P.169		土師器	皿	底部	[1.0]		5.6	h2	u/	P1			にぶい黄楕10YR7/4	明黄楕10YR7/6	楕7.5YR7/6				
331 91	D.P.176		土師器	杯	口縁部	11.1	[1.8]		V,c	u/u	P2			楕7.5YR6/6	楕7.5YR6/6	楕7.5YR6/6				
332 91	D.P.189		土師器	皿	口縁部	7.2	[1.1]		V,c	u/u	P1		外面はヨコナデが顕著	にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4				
333 92	D.P.191		土師器	杯	口縁部	12.8	[3.1]		V,c	u/t	P2			楕7.5YR7/6	楕7.5YR7/6	楕7.5YR7/6				
334 92	D.P.196		瓦器	皿	口縁部	6.9	[1.7]		E,c,C	u/u,g	B1			灰7.5Y5/1	灰5Y5/1	灰5Y6/1				
335 92	D.P.205		青磁	椀	口縁部	12.7	[3.0]		口縁は直線に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁釉 (内)				灰オリープ7.5Y6/2	灰オリープ7.5Y6/2	灰白7.5Y7/1			龍泉窯		
336 92	D.P.213		土師器	皿	口縁部	7.1	[1.6]		V,c,h2	u/u	O			にぶい黄楕10YR7/3	にぶい黄楕10YR7/3	にぶい黄楕10YR7/4				
337 92	D.P.213		土師器	皿	口縁部		[1.5]		5.4	h2	u/u	P2		浅黄楕10YR8/4	にぶい黄楕10YR7/4	にぶい黄楕10YR7/4				
338 92	D.P.213		土師器	杯	口縁部	9.8	[2.7]		W,c	u/u	O		内面はヨコナデが顕著	浅黄楕10YR8/3	浅黄楕10YR8/3	にぶい黄楕10YR7/3				
339 92	D.P.228		瓦器	椀	口縁部	9.9	[3.0]		G,c	u/u	A	K	N	灰黄2.5Y7/2	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1				
340 92	D.P.235		土師器	皿	底部		[0.8]		7.3	h3	u/k	P1		楕5YR7/6	楕5YR7/6	楕5YR7/6				
341 92	D.P.236		須恵器	鉢	口縁部		[2.1]		口縁は外面へ肥厚する。口縁部で弱く屈曲する。(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ				灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1			東播系		
342 92	D.P.237		土師器	杯	口縁部	10.5	[2.8]		V,c	su/u	P1			にぶい黄楕10YR7/3	にぶい黄楕10YR7/3	にぶい黄楕10YR7/3				
343 92	D.P.243		土師器	杯	口縁部	11.8	[1.7]		V,c	u/u	R,P3			灰白10YR8/2	灰白10YR8/2	灰白10YR8/2				
344 92	D.P.237		土師器	杯	口縁部	10.5	[1.2]		V,c	s/u	O			にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4	にぶい楕7.5YR7/4				
345 92	D.P.237		土師器	杯	口縁部	12.8	4.6		6.9	V,c,j	s/tu	O		浅黄楕7.5YR8/3	浅黄楕7.5YR8/3	浅黄楕7.5YR8/3				

表73 D区遺物観察表 15

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)		調整等	胎土	特徴	他	内面	色調 外面	断面	備考
							器高	器底								
346	92	D.P.237	土師器	杯	底部	13.7	4.4	7.1	V,c,j	s/u	O		にぶい橙7.5YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		
347	92	D.P.237	土師器	杯	底部		[1.7]	7.5	il	su/u	P1		にぶい黄橙10YR7/4	淡黄2.5Y8/3		
348	92	D.P.237	土師器	杯	底部		[1.9]	6.9	il	su/u	P1		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
349	92	D.P.237	土師器	杯	底部		[1.1]	9.0	il	su/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
350	92	D.P.237	瓦器	椀	口縁部	11.1	[2.6]		G,c	u/u	B1 L M		橙7.5YR7/6	浅黄橙10YR8/3		
351	92	D.P.237	瓦	平瓦	側縁部	全長 [4.9]	全厚 [7.9]	—					灰黄2.5Y6/2	灰白5Y7/1		
352	92	D.P.240	土師器	杯	口縁部	12.4	[2.2]		X,c	s/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
353	92	D.P.258	瓦器	椀	口縁部	10.5	[2.5]		G,c	u/u	B1 L M		灰N4/	灰白5Y8/1		
354	92	D.P.258	瓦器	椀	口縁部	12.2	[2.0]		F,c	u/u	B1 K N		灰白5Y7/1	灰白7.5Y8/1		
355	92	D.P.264	土師器	杯	口縁部	10.0	[1.5]		W,c,l,b	su/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
356	92	D.P.264	土師器	杯	口縁部	13.9	[1.9]		X,c	u/u	P1		浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		
357	92	D.P.264	土師器	杯	口縁部	11.2	[2.8]		X,c	u/u	P1		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
358	93	D.P.286	陶器	壺	口縁部	42.6	[11.0]						黒褐5YR3/1	灰10Y6/1		備前IV期前半
359	93	D.P.286	土師器	杯	底部		[1.7]	6.1	il	u/u,k	P2		浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6		
360	93	D.P.286	土師器	杯	底部		[1.5]	7.0	i2	su/u	P1		灰白2.5Y8/2	橙7.5YR6/6		
361	93	D.P.286	土師器	杯	底部		[2.0]	5.8	i2	su/u	P2		浅黄橙10YR8/4	明黄褐10YR7/6		
362	93	D.P.286	土師器	杯	底部		[1.8]	7.6	il	s/u,k	P2		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
363	93	D.P.286	土師器	杯	底部		[2.0]	8.8	h2	s/u	P2		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙7.5YR8/4		
364	93	D.P.289	土師器	杯	底部		[2.3]	8.0	h1	s/u	O		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
365	93	D.P.289	土師器	皿	底部		[1.6]	7.4	h3	su/u	P2		浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
366	93	D.P.292	瓦器	椀	口縁部	12.0	[2.0]		X,c2	u/u	O L N		にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
367	93	D.P.293	土師器	皿	底部	6.6	1.4	6.0	X,c	su/u	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
368	93	D.P.293	土師器	杯	口縁部	12.6	[1.5]		W,c	u/u	P2		にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		
369	93	D.P.293	土師器	皿	底部		[0.9]	7.6	h1	u/	P2		橙7.5YR7/6	浅黄橙7.5YR8/6		
370	93	D.P.293	土師器	杯	底部		[1.7]	7.0	h3	u/u	P1		灰黄褐10YR5/2	にぶい褐7.5YR6/3		

表74 D区遺物観察表 16

遺物 図版 No.	図版 No.	遺構・グリッド	出土地点	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
371	83	D.P.293		土師器	杯	底部		[2.4]		4.6	h1	su/u	P1				灰7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4		
372	83	D.P.293		瓦器	椀	口縁部	12.3	[1.5]			G,c	u/u	A	K	N		灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1		
373	83	D.P.293		瓦器	椀	口縁部	11.5	[1.9]			G,c	u/u	A	L	N		浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3		
374	83	D.P.293		瓦器	椀	底部		[2.4]		3.6	I	u/u	A	K	M		灰5Y6/1	灰5Y5/1	灰白2.5Y8/2		
375	83	D.P.293		須恵器	鉢			[6.4]		8.8							灰N6/	灰N6/	灰N6/		東播系?
376	83	D.P.301		土師器	杯	底部		[2.9]		6.1	il	u/u	P2				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
377	83	D.P.303		土師器	皿	底部		[0.9]		8.5	h3	u/u	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
378	83	D.P.311		土師器	杯	底部		[1.4]		6.0	h2	u/u	P2				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
379	83	D.P.322		青磁	椀	口縁部	9.6	[2.5]									灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y8/1		向安窯?
380	84	D.P.331		土師器	杯	底部		[2.1]		7.3	i2	u/u	R,P2				灰白2.5Y8/2	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3		
381	84	D.P.331		土師器	杯	底部		[2.3]		7.7	il	u/l	P1				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
382	84	D.P.331		瓦器	椀	底部		[1.7]		3.7	I	u/g	B2	L	N		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい橙5Y7/4	にぶい橙5Y7/4		
383	84	D.P.331		須恵器	鉢	口縁部		[4.2]									灰N6/	灰N6/	灰N6/		
384	84	D.P.332		土師器	杯	口縁部	11.4	[2.5]			V,c	s/u	P1				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
385	84	D.P.332		土師器	杯	底部		[0.9]		5.2	h2	su/uk	P2				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄橙7.5YR8/4		
386	84	D.P.332		陶器	楕鉢	口縁部	26.4	13.7		10.8							灰5Y6/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1		備前?
387	84	D.P.334		土師器	杯	底部		[2.2]		9.0	i2	su/u	P1				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
388	84	D.P.335		土師器	皿	口縁部	10.0	[1.4]			X,c	u/u	P1				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/3		
389	84	D.P.335		土師器	杯	底部		[1.5]		5.5	h1	u/u	P1				橙7.5YR7/6	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		
390	84	D.P.338		土師器	皿	底部		[0.8]		5.1	h3	u/u	P2				黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8		
391	84	D.P.341		土師器	杯		11	4.8		6.4	X,c:l,i:l	s/t,k	R,P2				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
392	84	D.P.342		青磁			10.9	[1.5]									灰オリーフ5Y6/2	灰オリーフ5Y6/2	灰白5Y7/1		龍泉窯
393	84	D.P.345		土師器	杯	底部		[2.3]		7.8	h3	su/l	R,Q,O				淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3	淡黄2.5Y8/3		
394	84	D.P.345		陶器	甌	口縁部	16.2	[2.8]									にぶい灰黄褐10YR5/2	にぶい赤褐5YR5/4	灰白2.5Y7/1		備前山形

表75 D区遺物観察表 17

遺物 No.	図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	胴径	底径	形態	調整等	特徴 胎土	他	内面	外面	断面	備考
395	94	D.P.346	瓦質土器	鉢	口縁部	19.3	[3.8]							灰白10YR8/1	にぶい黄橙10YR7/2	灰白10Y7/1	
396	94	D.P.347	土師器	皿	底部	6.1	1.2	5.2	V,c	s/u	P2			橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
397	94	D.P.347	土師器	杯	底部		[1.3]	5.8	h2	u/u	P3			黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/6	黄橙7.5YR7/6	
398	94	D.P.347	須臾器	鉢	口縁部		[3.7]							灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	
399	94	D.P.347	土師器	杯	口縁部	12.4	[1.8]		V,c	u/u	P2			橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	
400	94	D.P.347	土師器	杯	口縁部	11.1	[2.7]		V,c,l	u/u	P2			にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/3	
401	94	D.P.347	土師器	杯	底部		[1.6]	6.2	h1	su/u	P1			にぶい橙7.5YR7/4	橙7.5YR6/6	にぶい橙7.5YR7/4	
402	94	D.P.351	土師器	杯	底部		[1.0]	5.2	il	u/k	P2			橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR6/6	
403	94	D.P.348	土師器	杯	口縁部	10.6	[3.3]		X,c	u/tu	P2			浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
404	94	D.P.347	瓦器	椀	口縁部	11.8	[2.3]		G,c	u/u	B2	L	N	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
405	94	D.P.348	瓦器	椀	口縁部	13.9	[2.5]		G,c	u/u,g	B1	L	N	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
406	95	D.P.363	土師器	杯	底部		[1.2]	6.3	il	su/u	P3			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
407	95	D.P.363	土師器	杯	底部		[1.7]	9.4	i2	u/tu	O			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
408	95	D.P.363	瓦器	椀	底部		[1.0]	6.5	I	u,m/g	B2	K	M	灰白5Y6/1	灰白5Y6/1	淡黄5Y6/1	
409	95	D.P.365	土師器	皿	底部	7.3	1.5	5.6	X,c,h2	u/u	P3			橙5YR7/8	橙5YR7/8	橙5YR7/8	
410	95	D.P.365	土師器	皿	底部	6.7	1.6	5.4	V,c,j	s/u	P1			橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
411	95	D.P.365	土師器	杯	底部		[2.1]	6.4	i2	su/u	P1			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	
412	95	D.P.365	土師器	杯	底部		[1.6]	6.4	h1	u/u	O			黄灰2.5Y5/1	にぶい黄橙10YR7/3	黄灰2.5Y5/1	
413	95	D.P.366	土師器	皿	底部	7.0	1.3	5.9	W,c,h3	u/u,k	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
414	95	D.P.366	土師器	皿	底部		[1.6]	6.2	h3	su/u	P1			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
415	95	D.P.366	土師質土製 品	土師 品	口縁部	11.3	5.2	重量 6.1g						にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	
416	95	D.P.367	土師器	皿	底部		[1.5]	5.4	h3	su/tu	P1			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
417	95	東TR	土師器	皿	底部		[0.8]	5.5		u/u,k	P3			橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6	
418	95	東TR	土師器	杯	底部		[0.8]	5.8		u/u,k	P3			橙5YR7/6	橙5YR7/6	緑灰5G5/1	

表76 D区遺物観察表 18

遺物 図版 No. 号, 遺構	出土地点 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	断面	備考
419 95	C7-8 III	土師器	杯		13.5	4.5		7.5	W.c.11	s/t	P2				にぶい黄緑10YR7/4	にぶい黄緑10YR7/3	にぶい黄緑10YR7/4	
420 95	C7-8 III	土師器	皿	底部		[1.5]		6.5		u/u	P2				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
421 95	C7-8 III	陶器	鉢	口縁部	21.3	[2.5]						口縁は直線的に立ち上がり、肥厚する。(内・外) ナデ			灰7.5Y6/1	灰白10Y7/1	灰白7.5Y6/1	東播系I期 (12C末～13C初)
422 95	C7-8 III	陶器	鉢	口縁部	21.8	[2.8]						口縁は直線的に立ち上がり、上下に肥厚する。(内・外) ナデ			灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	東播系II期2段階
423 95	C7-5 III	陶器	鉢	口縁部	32.6	[4.2]						口縁は直線的に立ち上がり、口唇は中央が溝状に窪み、外傾する面を成す。(内) ナデ, 自然釉 (外) ナデ 還元釉			灰白7.5Y7/1	褐7.5YR4/1	灰白N7/	
424 95		瓦質土器	風炉	—		[4.6]						脚部は内湾する。頸部下に粘土紐を貼付する。(内) ナデ (外) 灰白5Y7/1			灰白5Y7/1	灰白7.5Y8/1		
425 96	C7-3 III	陶器	擂鉢		26.2	[12.2]	12					口縁は内湾し、肥厚する。口唇は外傾する面を成す。注口部は半楕円形状に開き、基部を強く押圧する。(内) ナデ, 1単位7条の楕目 (外) ナデ			黒褐10YR3/2	赤10R5/6		備前III～IV期
426 96	C6-24 III	陶器	擂鉢		24	12.8		13.2				口縁は内湾して立ち上がる。口唇はやや肥厚し、外傾する面を成す。(内) ナデ, 6条1単位の楕目 (外) ナデ			灰5Y6/1	青灰10BG6/1		備前前半期 (13C後～14C前)
427 96	C7-5 III	陶器	擂鉢	口縁部	30	[10.0]						口縁は内湾して立ち上がり、内外に肥厚する。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ, 1単位5条の楕目 (外) ナデ 還元釉			灰5Y4/1	灰10Y6/1		備前中期 (13C後～14C前) ?
428 96	D7-11 III	須恵器	鉢	口縁部	26.8	[5.2]						口縁は内湾的に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ			灰褐7.5YR5/2	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	東播系III-1
429 96	C7-3 III	陶器	擂鉢	口縁部	30	[11.6]						口縁は内湾的に立ち上がる。口唇はやや肥厚する面を成す。(内) ナデ, 1単位6条の楕目 (外) ナデ			灰白N7/	灰黄2.5Y7/2		備前
430 97		陶器	擂鉢	口縁部	31	[5.0]						口縁は内湾的に立ち上がる。口唇は上下にやや肥厚する。(内) 楕目, ナデ (外) ナデ			灰褐7.5YR4/2	灰褐7.5YR5/2		備前II～III期
431 97	C6-19 III	陶器	擂鉢	口縁部	31.9	[5.6]						口縁は内湾して立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。(内) ナデ, 楕目 (外) ナデ			黄灰2.5Y6/1	青灰5B6/1		備前中期 (13C後～14C前)
432 97	D7-11 III	陶器	擂鉢	口縁部		[4.7]						口縁は直線的に立ち上がる。上方にやや内傾して立ち上がり、外側に肥厚する。(内・外) ナデ			灰白N6/	灰白N6/		備前IV期?
433 97		陶器	擂鉢	口縁部		[3.7]						口縁は内湾的に立ち上がる。端部は上下に肥厚する。(内) 楕目, ナデ (外) ナデ			暗灰黄2.5Y5/2	灰白2.5Y7/1		
434 97	C7-6 III	陶器	擂鉢	底部		[2.8]		14.7				(内) ナデ, 1単位9条の楕目 (外) ナデ			灰褐7.5YR5/2	にぶい橙5YR6/4		備前
435 97	D7-11 III	陶器	擂鉢	底部		[3.6]		17				(内・外) ナデ 還元釉			灰7.5Y6/1	灰白N7/1	灰7.5Y6/1	備前?
436 97		陶器	擂鉢	底部		[4.0]		12.5				(内) 1単位6条の楕目 (外) ナデ			灰褐5YR5/2	灰白N7/	灰白N7/	備前?
437 97		陶器	擂鉢	底部		[4.3]						底部端は丸味を持つ。(内) 1単位6条の楕目, ナデ (外) ナデ			灰褐7.5YR5/2	にぶい褐7.5YR6/3		備前
438 98	C7-9 III	陶器	甕	口縁部	25.6	[6.3]						口縁は外反して立ち上がり、口唇はやや肥厚する。(内) ナデ (外) タタキ 還元釉			灰N4/	灰白7.5Y7/1		常滑5～6型式
439 98	C6-19 III	陶器	甕	口縁部		[3.5]						口縁は外反し、端部で上下に肥厚する。(内・外) ナデ			灰N6/	灰白N7/		常滑5型式 (13C第2四半期)
440 98	C5-19 III	陶器	甕	口縁部		[3.7]						口縁は外反し、端部で上下に肥厚する。(内・外) ナデ			黒褐2.5Y3/1	灰7.5Y6/1		常滑6a型式 (13C後半)
441 98	C7-3 III	陶器	甕	口縁部	36.4	[3.7]						玉縁状に肥厚した外面には稜が残される。(内・外) ナデ			オリーブ黒7.5Y3/1	灰褐5YR4/2		備前中期 (13C後～14C前)
442 98	C7-6 III	陶器	甕	口縁部		[4.2]						口縁は外反して立ち上がり、玉縁状に肥厚する。(内・外) ナデ			灰N4/	灰白5Y7/1		備前中期 (13C後～14C前)

表77 D区遺物観察表 19

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特徴	他	内面	外面	色調	断面	備考
443 98	C7-3	陶器	甕	口縁部	[5.0]			口縁は玉縁状に肥厚する。(内・外) ナデ		(内・外) ナデ		陶灰10YR4/1	陶灰10YR4/1	にぶい赤褐2.5YR4/3		備前皿期 (13C後～14C前)	
444 98	C7-5	陶器	甕	口縁部	[5.9]			口縁は外側に肥厚し、玉縁状を成す。(内・外) ナデ	還元焰	陶灰5YR4/1		陶灰5YR4/1	陶灰5YR4/1	陶灰5YR4/1		備前皿期 (13C後～14C前)	
445 98	D7-12	陶器	甕	口縁部	[3.9]			口縁は玉縁状に肥厚する。(内・外) ナデ		(内・外) ナデ		陶灰7.5YR4/1	陶灰7.5YR4/1	にぶい赤褐2.5YR5/4		備前皿期 (13C後～14C前) ?	
446 98	D7-11	陶器	甕	口縁部	[3.3]			口縁は玉縁状に肥厚する。(内・外) ナデ		(内・外) ナデ		陶灰10YR4/1	陶灰10YR4/1	陶灰10YR5/1		備前II～III期	
447 98	C7-9	陶器	甕	胴部	[5.5]			胴部上位で内湾する。(内) ナデ (外) 4 条の沈線帯	還元焰	陶灰7.5Y4/1		陶灰7.5Y4/1	陶灰7.5Y4/1	陶灰7.5Y4/1		備前II～III期	
448 98	C7-3	陶器	甕	頸部	[4.5]			頸部下に屈曲部を持つ。(内) ナデ (外) タタキ		(内) ナデ (外) タタキ		陶灰5Y6/1	陶灰5Y7/2	陶灰5Y7/2			
449 98	C6-24	陶器	甕	胴部	[8.0]			(内) ナデ、接合痕 (外) 連続する押印		(内) ナデ (外) 灰、自然軸		陶灰6Y6/1	陶灰6Y6/1	陶灰6Y6/1		常滑4～5 型式 (13C前半)	
450 98	C7-4	陶器	甕	胴部	[5.2]			胴部上位は細く外反する。(内) ナデ (外) ナデ		(内) ナデ (外) ナデ		陶灰N4/1	陶灰N4/1	陶灰N7/1		常滑?	
451 98		陶器	甕	胴部	[6.4]			胴部は細く内湾する。(内) ナデ (外) ナデ		(内) ナデ (外) ナデ		陶灰N6/1	陶灰N6/1	陶灰N6/1		常滑	
452 98	C5-19	陶器	甕	胴部	[5.8]			(内) ナデ、凹凸面 (外) 暗緑色を呈する自然軸		(内) ナデ (外) 暗緑色を呈する自然軸		陶灰5Y6/1	陶灰5Y6/1	陶灰5Y6/1		常滑?	
453 98	D7-12	陶器	甕	胴部	[4.3]			胴部は細く内湾する。(外) 押印		(外) 押印		陶灰5Y6/1	陶灰5Y6/1	陶灰N7/1		常滑	
454 98	C7-4	陶器	甕	胴部	[6.3]			胴部上位で内湾する。(内) ナデ (外) ナデ	還元焰	陶灰2.5Y4/1		陶灰2.5Y4/1	陶灰2.5Y4/1	陶灰2.5Y4/1			
455 98	C7-5	陶器	甕	胴部	[6.4]			胴部は内湾する。(内) ナデ、自然軸 (外) タタキのちナデ		(内) ナデ、自然軸 (外) タタキのちナデ		陶灰5Y6/1	陶灰5Y6/1	にぶい黄褐10YR4/3	陶灰7.5Y8/1	信楽?	
456 99	C7-6	陶器	甕	胴部	[5.2]			胴部上位は内湾する。(内) ナデ (外) 3 条沈線、ナデ	還元焰	(内) ナデ (外) 3 条沈線、ナデ		陶灰5Y5/1	陶灰5Y5/1	陶灰5Y5/1			
457 99		陶器	甕	胴部	[5.2]			胴部は細やかに内湾する。(内) ナデ (外) 沈線帯、灰軸		(内) ナデ (外) 沈線帯、灰軸	瓶子	陶灰5Y7/2	陶灰5Y7/2	陶灰5Y7/1		瀬戸美濃	
458 99	C7-5	陶器	甕	胴部	[2.3]			(内) ナデ (外) 灰軸、沈線、ナデ		(内) ナデ (外) 灰軸、沈線、ナデ		陶灰2.5Y6/2	陶灰2.5Y6/2	陶灰5Y7/1			
459 99	C7-9	陶器	甕	胴部	[5.2]			胴部は細く内湾する。(内) ナデ (外) 縦位のヘラナデ	還元焰	(内) ナデ (外) 縦位のヘラナデ		陶灰N7/1	陶灰N7/1	陶灰5Y5/1			
460 99		陶器	甕	胴部	[7.6]			(内) ナデ (外) 縦位のナデ		(内) ナデ (外) 縦位のナデ		陶灰5YR4/2	陶灰5YR4/2	陶灰10YR6/1		備前	
461 99	C5-19	陶器	甕	胴部	[10.4]			胴部上位で屈曲する。(内) ナデ、押圧痕 (外) 押印		(内) ナデ、押圧痕 (外) 押印		陶灰N6/1	陶灰N6/1	陶灰N7/1		常滑5 型式以降	
462 99	C7-8	陶器	甕	胴部	[9.9]			胴部は内湾する。(内) 縦方向のナデ	還元焰	(内) 縦方向のナデ	副毛状工具による短い単位のナデ	陶灰N4/1	陶灰N4/1	陶灰10YR4/2		備前?	
463 99	C7-8	陶器	甕	胴部	[9.9]			胴部は内湾する。(内) ヘラナデ (外) ナデ	還元焰	(内) ヘラナデ (外) ナデ		陶灰5Y4/2	陶灰5Y4/2	陶灰7.5YR4/2		備前?	
464 99		陶器	甕	胴部	[3.2]			胴部は内湾する。胴部上位に橋状の把手が付く。(外) 隆帯、沈線		(内) ナデ (外) ナデ		陶灰5Y7/1	陶灰5Y7/1	陶灰5Y7/1		瀬戸美濃	
465 99		陶器	甕	胴部	[4.1]			(内) ナデ (外) ナデ、灰色の軸葉が垂れる。瓶子?		(内) ナデ (外) ナデ、灰色の軸葉が垂れる。瓶子?		陶灰5Y7/1	陶灰5Y7/1	陶灰5Y7/1		瀬戸美濃	
466 99		陶器	甕	胴部	[4.5]			胴部は内湾する。(内) ナデ (外) 灰軸		(内) ナデ (外) 灰軸	瓶子?	陶灰N7/1	陶灰N7/1	陶灰N7/1		瀬戸美濃	
467 99		陶器	甕	底部	[3.0]		9.6	(内) ナデ、自然軸が掛かる。瓶子?		(内) ナデ、自然軸が掛かる。瓶子?		陶灰7.5Y6/1	陶灰7.5Y6/1	陶灰7.5Y8/1		瀬戸美濃	

表78 D区遺物観察表 20

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・クワッド	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	底径	器高	調整等	特徴	他	内面	外面	断面	備考
468 99	III	陶器	甕	胴部	[4.9]					底部端は丸味を持つ。胴部は外反する。(外) ナデ		灰白N7/	釉灰7.5YR5/1	灰白N7/	
469 99	D7-13	III	甕	底部	[5.3]	23.8				底部端はナデを施し、稜を残す。(内) ナデ (外) ヘラナデ		灰7.5Y6/1	釉灰7.5YR4/3	にふい橙7.5YR7/4	備前
470 100	C7-9	III	青磁	口縁部	[1.5]	11.6				口縁は外反する。口唇は尖り気味に修める。青磁軸		灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	灰白7.5Y7/1	同安窯?
471 100	C6-20	III	青磁	口縁部	[1.9]	11.8				口縁は外反する。口唇は外傾する狭い面を成す。青磁軸		灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	龍泉窯皿I類 1b (12C中～後半)
472 100	C6-20	III	青磁	口縁部	[1.3]	9.9				口縁は直線的に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。青磁軸 (外) 下位は露胎する。		灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰白7.5Y8/1	龍泉窯皿I類 1b (13C中～後半)
473 100	C7-6	III	青磁	口縁部	2	9.8	4			口縁は内湾し、口唇は丸く修める。体部内面に屈曲部を持つ。青磁軸 (内) 胴目紋 (外底) 露胎する		灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	同安窯皿I類 (12C中～後)
474 100	III	青磁	鉢	口縁部	[1.3]	13				口縁は屈曲し、唇状の平らな面を成す。青磁軸		明緑灰10GY7/1	明緑灰10GY7/1	灰白N8/	
475 100	D7-11	III	青磁	口縁部	[1.5]	13.8				口縁は外反する。口唇は玉縁状に小さく肥厚する。青磁軸		灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	灰白10Y8/1	龍泉窯 (12C中～後)?
476 100	III	青磁	碗	口縁部	[2.2]	12.2				口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸		オリーブ灰5GY6/1	オリーブ灰5GY6/1	灰白N7/	龍泉窯
477 100	C7-3	III	青磁	口縁部	[2.0]					口縁は細く外反し、口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 口縁下に沈線状の段部 (外) 縦位の沈線紋		灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2	灰白5Y7/1	龍泉窯
478 100	III	青磁	碗	口縁部	[1.4]	16.1				口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸		オリーブ灰10Y6/2	オリーブ灰10Y6/2	灰白7.5Y7/1	龍泉窯 (14C初～15C)
479 100	D7-11	III	青磁	碗?	[1.9]					口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸が厚く掛かる。		緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1	灰白N8/	龍泉窯
480 100	C6-20	III	青磁	碗	[3.6]	15.4				口縁は外反し、口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 体部下位に沈線1条 (外) ロクロ目		明オリーブ灰2.5GY7/1	明オリーブ灰2.5GY7/1	灰白N8/	龍泉窯
481 100	III	青磁	碗	口縁部	[3.1]	14.9				口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸		灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y8/1	龍泉窯 1またはIV類
482 100	C7-3	III	青磁	碗	[2.1]	15.4				口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 沈線紋		オリーブ灰5GY6/1	オリーブ灰5GY6/1	灰白N8/	龍泉窯
483 100	D7-11	III	青磁	碗	[1.9]	18.4				口縁は細く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 沈線1条 (外) 胴目紋		灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	灰白N7/	龍泉窯 0～I類 (12C)
484 100	D7-12	III	青磁	碗	[3.8]	19.2				口縁は細く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 胴花紋		灰オリーブ5Y5/2	灰オリーブ5Y5/2	灰N7/	龍泉窯 1類 (12C中～後)
485 100	D7-12	III	青磁	碗	[6.2]	16.8				口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 胴花紋		灰10Y5/1	灰10Y6/1	灰7.5Y6/1	龍泉窯 (12C中～後)
486 100	D7-11	III	青磁	碗	[4.2]	16.8				口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) ロクロ目、胴花紋 (外) ロクロ目		灰オリーブ7.5Y6/2	灰オリーブ7.5Y6/2	灰白7.5Y8/1	龍泉窯 1類 (12C中～後)
487 100	C7-9	III	青磁	碗	[2.6]	16.2				口縁は細く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 胴花紋、口縁に2条の沈線		灰オリーブ7.5Y5/2	灰オリーブ7.5Y5/2	灰7.5Y6/1	龍泉窯 1類 (12C中～後)
488 100	C6-25	III	青磁	碗	[3.5]	15.9				口縁は直線的に立ち上がり、口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 胴花紋		明オリーブ灰5GY7/1	明オリーブ灰5GY7/1	灰白7.5Y8/1	龍泉窯
489 100	C6-23	III	青磁	碗	[2.9]	17.1				口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 沈線、胴花紋 (外) ヨコナデ		明緑灰7.5GY7/1	明緑灰7.5GY7/1	灰白10Y7/1	龍泉窯
490 100	C7-9	III	青磁	碗	[3.4]	17				口縁は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 胴目紋、胴花紋 (外) 胴目紋		明緑灰7.5GY7/1	明緑灰7.5GY7/1	灰白5Y7/1	龍泉窯
491 100	III	青磁	碗	口縁部	[3.5]	16.2				口縁は短く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。青磁軸 (内) 胴花紋		オリーブ灰2.5GY6/1	オリーブ灰2.5GY6/1	灰白2.5Y8/1	龍泉窯 1類 (12C中～後)
492 101	D7-11	III	青磁	碗	[1.6]	17.8				口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 沈線		灰オリーブ7.5Y5/2	灰オリーブ7.5Y5/2	灰白10Y7/1	龍泉窯 1類 (13C初～前半)

表79 D区遺物観察表 21

遺物 図版 No.	fig.	遺構・クワッド	出土地点 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	特微	組成	断面	備考
493	101	C7-9	III	青磁	椀	口縁部	16	[2-2]		口縁は内湾気味に立ち上がり、外側はやや肥厚する。口唇は尖り気味に修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯
494	101		III	青磁	椀	口縁部	10.7	[2-8]		口縁は外反し、口唇は細く尖り気味に修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯
495	101	D7-11	III	青磁	椀	口縁部	16.2	[2-3]		口縁は外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯
496	101	C7-9	III	青磁	椀	口縁部	15.2	[2-5]		口縁は細く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰7.5Y6/1		龍泉窯
497	101	D7-11	III	青磁	椀	口縁部	15.5	[3-1]		口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白N7/1		龍泉窯
498	101	C6-19	III	青磁	椀	口縁部	16	[3-0]		口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰5Y6/1		龍泉窯
499	101	D7-13	III	青磁	椀	口縁部	14.6	[3-3]		口縁は細く外反する。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y7/1		龍泉窯
500	101	C7-9	III	青磁	椀	口縁部	16.3	[2-8]		口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯
501	101	D7-11	III	青磁	椀	口縁部	14.6	[3-0]		口縁は内湾して立ち上がる。口唇は尖り気味に修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白N8/		龍泉窯
502	101	C7-13	III	青磁	椀	口縁部	15	[5-9]		口縁は外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	口縁は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白N8/		龍泉窯
503	101	C7-8	III	青磁	椀	底部		[2-2]		体部は内湾する。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰N6/		龍泉窯
504	101	C7-3	III	青磁	椀	体部		[2-6]		内面は膝部で屈曲する。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯
505	101	D7-11	III	青磁	椀	体部		[3-5]		体部は内湾する。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰白N8/		龍泉窯
506	101	C7-3	III	青磁	椀	体部		[1-8]		体部は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋 (外) 沈線状の段部		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰7.5Y6/1		龍泉窯
507	101	C7-6	III	青磁	椀	底部		[3-8]	7.6	体部は内湾する。青磁軸 (内) 調花紋、区画紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰7.5Y6/1		龍泉窯
508	101	C7-5	III	青磁	椀	体部		[2-5]		体部は内湾する。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰白5Y7/1		龍泉窯
509	101	C7-4	III	青磁	椀	体部		[2-2]		体部は内湾する。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白N8/1		龍泉窯
510	101	C7-10	III	青磁	椀	体部		[3-3]		体部は内湾する。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰白5Y7/1		龍泉窯
511	101		III	青磁	椀	底部		[1-1]	6	体部底位で膝折状に屈曲する。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰白10YR8/1		龍泉窯
512	101	C7-3	III	青磁	椀	体部		[3-6]		体部は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋 (外) 縞蓮弁紋		胎土	体部は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰7.5Y6/1		龍泉窯
513	101	D7-12	III	青磁	椀	体部		[2-9]		体部は内湾して立ち上がる。青磁軸		胎土	体部は丸く修める。青磁軸	灰N6/		龍泉窯
514	102	C7-10	III	青磁	椀	底部		[3-1]	9.5	高台は断面台形を呈し、高台内は深く削り込む。青磁軸		胎土	高台は丸く修める。青磁軸	灰白5Y7/1		龍泉窯
515	102	C7-3	III	青磁	椀	底部		[3-9]	9	高台は断面三角形を呈し、高台内は深く削る。青磁軸 (外) 聖付は縞胎する。		胎土	高台は丸く修める。青磁軸 (外) 聖付	灰白5Y8/1		龍泉窯
516	102		III	青磁	椀	底部		[1-9]	6	高台は断面台形を呈し、高台内は浅く削り込む。青磁軸 (内) 調花紋		胎土	高台は丸く修める。青磁軸 (内) 調花紋	灰白5Y7/1		龍泉窯
517	102		III	青磁	椀	底部		[3-3]		高台内をやや浅く削る。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋		胎土	高台は丸く修める。青磁軸 (外) 縞蓮弁紋	灰白7.5Y8/1		龍泉窯

表80 D区遺物観察表 22

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・クワッド	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
518	102	C7-9	III	青磁	碗	底部	[3-2]	6.2			高台は断面方形を呈し、高台内は浅く開く。青磁軸 (内) 圓線状の段 (外) 單付以内は露胎する。	胎土	焼成	(内) 圓線	オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	灰白5Y8/1	龍泉窯類I類
519	102	C6-23	III	青磁	碗	底部	[2-9]	6.4			高台は断面方形を呈し、高台内は浅く開く。青磁軸 (内) 圓線状の段 (外) 高台内は露胎する。				灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	龍泉窯
520	102	C6-23	III	青磁	皿	底部	[1-1]	4.6			底部は浅い、基部底を成す。青磁軸 (内) 圓線状、乳線紋 (外) 底部は露胎する。				灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	同安窯
521	102	D7-13	III	青磁	杯	口縁部	[1-8]	23.2			口縁で曲出し段を持つ。口縁端は短く立ち上がる。青磁軸				灰白10Y8/1	灰白10Y8/1	灰白2.5Y7/1	灰白2.5Y7/1	龍泉窯皿類 (13C中～14C初)
522	102		III	白磁	壺	頸部	[2-6]				胴部上位と頸部に亘って耳が付く。(内) 露胎する				灰白10Y8/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白10Y8/1	四耳壺皿類 (13C)
523	102		III	白磁	壺	底部	[5-0]	7.9			高台は断面方形で「ハ」の字状に開く。(内) ログロ目 (外) ナデ 水注または四耳壺?				灰白N8/	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	白磁 (13C)
524	102		III	白磁	皿	12.4	3.6	7.5			口縁は外反する。口唇は丸く修める。やや開いた底部端に断面台形の高台が付く。				灰白N8/	灰白N8/	灰白N8/	灰白N8/	白磁皿E2類 (15C中～16C)
525	102	D7-11	III	青花	碗	底部	[1-3]	6.1			底部には断面三角形の高台が付く。(内) 草花紋、二重圓線 (外) 高台に二重圓線の単位が残る。				明緑灰5G7/1	明緑灰5G7/1	明緑灰5G7/1	明緑灰5G7/1	景徳鎮窯柴付碗B群 (16C)?
526	102	C7-3	III	白磁	碗	体部	[3-5]				口縁は内湾して立ち上がる。(内) 下位に乳線1条 (外) ナデ				灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	灰白10Y8/1	白磁碗IV類1a (12C前半)
527	102	C6-23	III	白磁	碗	口縁部	[2-2]				口縁は内湾的に立ち上がる。口唇は平らな面を成し、外側に肥厚する。				灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白5Y7/1	灰白N8/	白磁碗V類
528	102	D7-11	III	白磁	皿	底部	[1-3]	5.1			高台は断面方形を呈し、面取りを施す。(外) 高台脇まで透明釉が掛かり唇付以内は露胎する。				灰白2.5GY8/1	灰白2.5GY8/1	灰白2.5GY8/1	灰白2.5GY8/2	白磁皿X類 (13C中～14C初)?
529	102		III	白磁	碗	底部	[1-8]	5.2			高台内は断面方形で「ハ」の字状に開く。				灰白N8/	灰白N8/	灰白N8/	灰白N8/	白磁碗III類 (12C中～13C前)
530	102	C7-14	III	白磁	碗	底部	[2-2]	4.6			高台は断面方形を呈し、「ハ」の字状に開く。				灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白2.5Y8/2	白磁X類?
531	102	C6-19	III	陶器	瓶	口縁部	[1-2]	5.3			口縁は外反し、口唇は丸く修める。(外) ナデ				褐灰10YR5/1	褐灰10YR5/1	にぶい褐7.5YR5/4	灰白N7/	備前
532	102	C7-3	III	陶器	碗	口縁部	[2-1]	9.1			口縁は短く外反する。口唇は丸く修める。(内・外) 鉄軸 天目碗				黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	灰黄2.5Y7/2	瀬戸美濃
533	102	C7-5	III	陶器	瓶	胴部	[2-2]				灰軸 (外) 刺突状の列点紋				灰白7.5Y8/1・灰オ リー-7.5Y6/2	灰白7.5Y8/1・灰オ リー-7.5Y6/2	灰白7.5Y8/1・灰オ リー-7.5Y6/2	灰白7.5Y8/1・灰オ リー-7.5Y6/2	瀬戸美濃
534	102	C7-6	III	陶器	皿	底部	[2-3]	6.4			高台は断面方形を呈す。灰軸 (内) 砂粒が付着する。(外) 露胎する。				灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白5Y7/1	
535	102	I	I	磁器	皿	底部	[1-2]	3.4			(内) 二重圓線 (外) 波紋? 下位は露胎する。基部底				明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	灰白7.5Y8/1	
536	102	I	I	磁器	碗	口縁部	[3-9]	9.9			口縁は内湾して立ち上がる。口唇は丸く修める。(内) 口縁部に鉄軸、線軸による施紋 (外) 鉄軸				暗灰10YR3/4・灰白 10Y8/1	暗灰10YR3/4・灰白 10Y8/1	黒褐7.5YR2/2	灰白10YR8/1	肥前系19C以降

表81 D区遺物観察表 23 (木器・木製品)

遺物 No.	図版 fig.	遺物名・用途	種類	出土地点	量法 (cm)	全長	全幅	全厚	特徴・その他
537	103	—	部材	SE1	[25.7]	3.1	1.4	1.4	工具の一部。端部は丸味を持って仕上げる。
538	103	結物?	容器?	SE1	14.8	6.2	1.0	1.0	横断面は曲面を成す。桶状の容器一部か。
539	103	—	部材	SE1	[18.5]	5.3	1.4	1.4	端部は摩滅し、主面は平らに加工する。

表82 D区遺物観察表 24 (木器・木製品)

遺物 No.	図版 fig.	種別	遺物名・用途	出土地点	法量 (cm)			特徴・その他
					全長	全幅	全厚	
540	103	部材	—	SE1	[22.8]	2.6	1.0	加工途中の木片で、端部に伐採痕を残す。
541	103	部材	楔	SE1	4.5	7.1	4.0	加工痕を残す。井戸幹横棧の柄穴内で発見される。
542	103	部材?	—	SE1	4.9	2.0	2.2	中心部には軸芯と思われる木質が残存する。
543	103	部材	楔	SE1	12.3	5.3	0.9	
544	103	部材	—	SE1	12.9	7.0	0.6	
545	104	部材	—	SE1	44.3	2.5	1.0	端部は軸芯状に尖らせる。中央部へ向かって幅広くに漸移する。
546	104	部材	—	SE1	38.7	3.8	4.5	曲物の一部。曲線的に切り取り残った痕跡を残す。
547	104	焦化材	篋状木製品	SE1	[18.8]	1.2	0.2	部材の一部と考えられる。一端部は炭化する。
548	104	焦化材	—	SE1	24.6	0.8	0.2	木片を使用し、一端部は炭化する。
549	104	部材	箸状木製品	SE1	20.6	0.5	0.4	中央部の断面は方形で端部へ向かって丸味を帯びる。
550	104	焦化材	—	SE1	[22.3]	1.6	0.4	木片を使用し、一端部は炭化する。
551	104	部材	—	SE1	[8.2]	6.3	3.4	柱材の一部と考えられ、2面に使用面を残す。
552	105	容器	蓋	SE2	11.1	10.8	0.8	2ヶ所にφ2mmの円孔を残す木釘による接合痕 線状
553	105	容器	蓋	SE1	15.6	16.3	1.1	側縁部の3ヶ所に円孔を穿つ。線条と加工痕を一部に残す。
554	105	容器	蓋	SE1	18.7	18.7	1.7	断面の4ヶ所に接合に伴う円孔を残す。一つには樹皮を残す。
555	106	容器	蓋	SE1	25.1	24.5	1.3	3分割で出土する。断面に5〜3個の円孔を残していることで、木釘を用いて接合または補修を行い使用した。側縁部には多くの円孔が残り、主面にも不定向な線条が残される。
556	106	容器	蓋	SE2	[29.1]	[13.4]	2.1	主面のうち一つは荒く劣化が顕著、一つには調整痕を残す。断面に長楕円孔を穿ち接合する。
557	106	容器	曲物	SE2	11.9	11.9	9.5	1ヶ所縦位に樹皮による結合部、2ヶ所柄取り付けに伴う穿孔または補修孔
558	付図1	井戸幹部材	柱	SE1	231.0	19.0	17.8	柱1
559	付図1	井戸幹部材	柱	SE1	181.7	15.6	14.6	柱2
560	付図2	井戸幹部材	柱	SE1	194.8	18.0	17.0	柱3
561	付図2	井戸幹部材	柱	SE1	230.5	20.3	16.5	柱4
562	付図3	井戸下部部材	側面横板	SE1	108.0	29.5	5.5	横板1 (1面下部)
563	付図3	井戸幹部材	側面縦板	SE1	171.2	31.7	4.8	縦板1-1
564	付図3	井戸幹部材	縦板	SE1	169.6	31.7	4.8	縦板1-2

表83 D区遺物観察表 25 (木器・木製品)

遺物 No.	図版 fig.	種類	遺物名・用途	出土地点	法量 (cm)			特徴・その他
					全長	全幅	全厚	
565	付図3	井戸枠部材	縦板	SE1	148.9	27.8	4.9	縦板1-3
566	付図3	井戸枠部材	下段横棧	SE1	102.8	7.8	4.8	
567	付図4	井戸下部部材	側面横板	SE1	103.6	29.3	3.9	横板2 (2面下部)
568	付図4	井戸枠部材	縦板	SE1	143.2	31.0	5.1	縦板2-1
569	付図4	井戸枠部材	縦板	SE1	157.2	29.1	4.0	縦板2-2
570	付図4	井戸枠部材	縦板	SE1	170.0	30.7	4.9	縦板2-3
571	付図4	井戸枠部材	下段横棧	SE1	105.7	7.9	4.5	
572	付図5	井戸下部部材	側面横板	SE1	114.1	28.8	3.2	横板3 (3面下部)
573	付図5	井戸枠部材	縦板	SE1	75.5	31.6	4.6	縦板3-1
574	付図5	井戸枠部材	縦板	SE1	140.9	30.6	3.7	縦板3-2
575	付図5	井戸枠部材	縦板	SE1	124.3	31.6	4.5	縦板3-3
576	付図5	井戸枠部材	下段横棧	SE1	102.0	9.0	3.7	
577	付図6	井戸下部部材	側面横板	SE1	104.0	29.3	3.4	横板4 (4面下部)
578	付図6	井戸枠部材	縦板	SE1	146.6	31.2	4.6	縦板4-1
579	付図6	井戸枠部材	側面縦板	SE1	143.0	30.0	4.8	縦板4-2
580	付図6	井戸枠部材	縦板	SE1	147.7	31.7	5.0	縦板4-3
581	付図6	井戸枠部材	下段横棧	SE1	100.6	9.0	8.5	
582	付図6	井戸枠部材	2段目横棧	SE1	68.5	8.7	4.6	
583	付図6	井戸枠部材	2段目横棧	SE1	63.0	9.2	3.7	
584	付図7	井戸枠部材	側面縦板	SE1	35.5	28.2	2.8	
585	付図7	井戸枠部材	3段目横棧	SE1	91.1	6.5	1.3	
586	付図7	井戸枠部材	下段横棧	SE1	65.8	9.2	5.6	
587	付図7	井戸枠部材	2段目横棧	SE1	57.7	6.4	20.0	
588	付図7	井戸枠部材	2段目横棧	SE1	57.1	8.0	3.5	
589	付図7	井戸枠部材	2段目横棧	SE1	45.9	7.3	4.0	

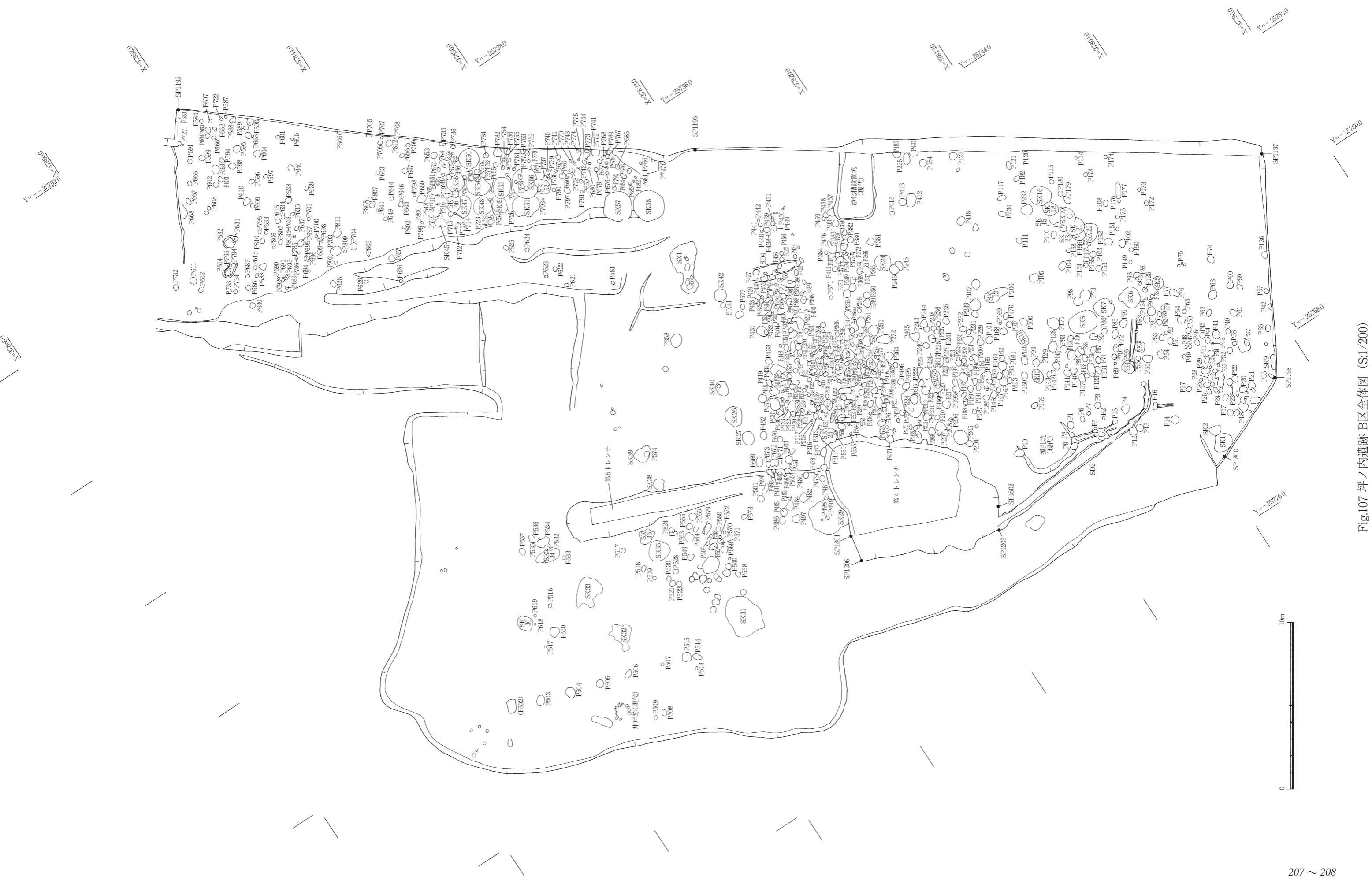


Fig.107 坪ノ内遺跡B区全体図 (S1/200)

第4節 B区の調査

B区の主体は西側山丘際の弧奥部に立地し、東に沖積面を望む。この地形条件から調査は斜面部と平坦部に分かれるが、工程上の関係から低位側の平坦部を先行した。掘削方法は、これまで見てきたC・D両区と同様であり、バックホーによる機械掘削に人力掘削を後続した。

文化層は主として弥生期と中世期であり、検出遺構や遺物包含層の層準が基岩層直上から河成層上面に及ぶ。この状況から、検出遺構と出土遺物の説明に移る前に、他の調査区と異なる地層の特徴と使用する層位記号に触れておきたい。

B区地層の特徴1. [褐色森林土層]：調査範囲で捉えたB区の表部地層は、高位側から褐色森林土層・褐色低地土層に大別される。褐色森林土は、雨量の多い温暖地樹林で形成される土壌であり、酸性土に属す。植物遺体蓄積と分解の循環により、腐葉土の下方に腐植集積層を形成する。草木の根茎以外にも生物活動が活発な場所であり、地層の複雑さは不可避と言える。大野見村と合併する以前（調査当時）の中土佐町で初の出土例となる弥生土器は、B区のような褐色森林土層で検出したものである。その上位には中世および近世～近代の文化層が重なり、旧地表部を欠く。

褐色森林土層の表記に際しては、森林土層の模式記号（A・B・BC・C）にアラビア数字を付加して層位を表し、ローマ数字使用の沖積層位と区別した。「A層」は腐植集積層；「B層」は腐植低減または分解進行の部分；「BC層」はB層から基岩風化帯への漸移層；「C層」は基岩風化帯を示す。B区の場合、A層の特徴とB層の特徴が反復重層するが、土色が明るくなり、基岩遊離の角礫が増すまでを「A層」とした。褐色森林土層下の基岩風化帯「C層」は、第4トレンチ断面（Fig.109-図2）で明瞭に捉えている。また、同トレンチの断面に表われた基岩泥岩未風化面の勾配は、標高5.34m～4.40mの区間で対水平東傾斜39°と計測しており、急傾斜に属す。急傾斜は下方に続くが、調査時の降雨と地下水の上昇により深部傾斜は測量を断念した。概数ながら基岩に接触する円礫層の視認は、標高2.75m前後の水準であり、過去の河川弯入による侵食の履歴は推定可能と考えている。

B区地層の特徴2. [褐色低地土層]：褐色低地土層の形成初期段階は、褐色森林土層の低位において既に一端を見ることができ。B区におけるこの部分では、上からは山丘基岩の層理面や亀裂からの湧水、下からは沖積層伏流水にさらされている。気相に富む褐色森林土層の接水部分は容易に対水飽和するため、還元作用によって灰色気味の色彩に変化している。地層から流脱する土壌粒子は河川運搬物とともに沖積層形成の一端を担う。山丘側に弧奥するB区主体部の地形は、前面を流下する「道の川」の侵食作用を抑制し、滞水還流による細粒子の堆積を促す。実際、C区やD区で第Ⅲ層に位置付けた中世文化層と、B区主体部で検出した該当層（Fig.109-図1）を比較すると、B区では前二者の三倍近い約0.7mの層厚を測る。その層準圏は標高5.10m～4.40mに所在し、基底水準はおおよそC区に対して0.15m、D区に対して0.10m高い。同じB区でも、山丘を背負いながら立地の三方を沖積低地面にさらず北東部では、第Ⅲ層の層厚は0.10～0.20m程度に止まるうえ、直下に第Ⅳ層（滞水域水成層）の形成を欠き、同層準基底は第Ⅴ層の河成砂礫堆を直接覆う（Fig.108）。このように、B区の低地土層には褐色森林土の二次堆積から河川運搬物の堆積にいた

るまで、多様な形成要因が関与すると見られる。しかし、水成作用下の堆積という共通点から、低地部分の層位立てはC・D両区の沖積層基本層位に準じている。

1. B区検出遺構

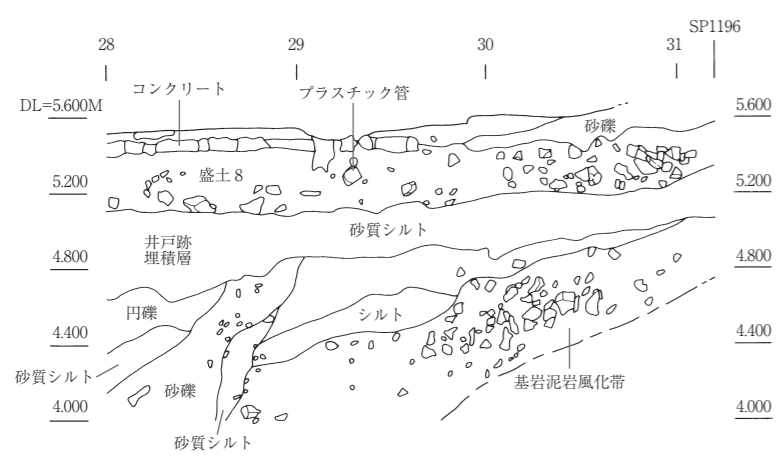
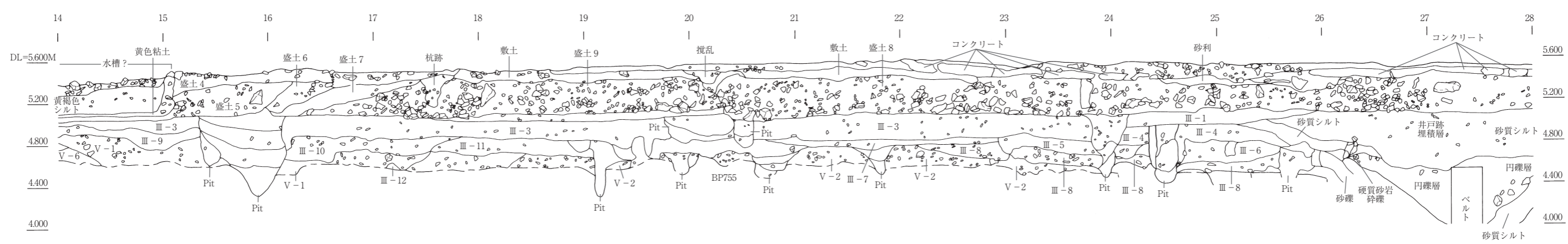
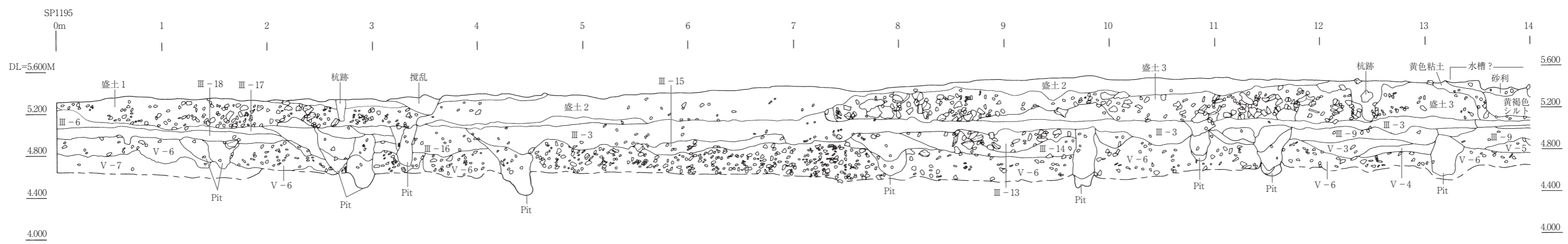
B区の検出遺構全体は、柱穴跡(P) 812基・井戸跡(SE) 1基・土坑跡(SK) 54基・溝跡(SD) 3条で構成される。遺物包含層や遺構内の遺物出土状況から見て、大部分の遺構は中世所属と見られるが、無遺物または遺物過少で年代の決め手を欠くものや、性格を定めがたい例も少なくない。特に、前頁においてB区の特徴として取り上げた北西部の褐色森林土層や、中世遺物包含層が河成砂礫堆を直接覆う北東部では、難解な事例が多出した。前者には最近までの屋敷地跡、後者には旧牛舎跡地という事情も加わる。このため、本項では調査区を通じて特に痕跡の明瞭な遺構のみを掲載した。一方、比較的痕跡の明瞭な柱穴群が高密度で検出された調査区中央部に関しては、構成したであろう建物配置の特定に至っていない。以上の経緯により、本項で掲載する検出遺構のなかで、建物跡は柱穴跡の数量と密度に対比して少数の2基に止まっている。この掘立柱建物跡2基をはじめとし、土坑跡・溝跡の順に述べる。

1.掘立柱建物跡 (Fig.111-Fig.113)

B区で検出した掘立柱建物跡は2基であり、側柱型1基(SB15)および、梁間1間型またはその他型式の一部分1基(SB21)で構成する。いずれも柱穴密度の低い調査区南部の検出であって、前者は東境寄りに位置し、後者は南境に接する(Fig.111)。

1) SB15掘立柱建物跡(Fig.112)：SB15は、桁行5間×梁間2間の建物跡である。北を指す桁行の平均方位は北偏東 9.73° (N 9.73° E)を測り、平均交角 90.40° で梁間と交わる。基本的には側柱型所属と見られるが、南から三列目梁間の中間位置でも柱穴1基(DP98)を検出している。桁行の柱筋は直通気味ながら柱間距離に若干の長短が存在し、1間見当6尺から6尺5寸の振幅を持つ。その結果、平均全長4.54833mの梁間柱筋に方位の不揃いが目立つ。桁行の全長平均は9.45666mであり、ほぼ31尺5寸に見当される。これを桁行き間数5間で割ると、1間6尺3寸の寸法となり、この際の1尺逆算値は0.30021mと算出される。しかし、C区やD区で検出した中世建物群を通じ、主体部の柱間は等間・不等間を問わず端数は5寸で計算が合う。これに従い6尺等間構成で計算を行なう場合の1尺逆算値は0.31367mである。データ表に載せる数値は一応後者を採っている。一方、方位が不揃いにせよ、梁間距離の各数値は整然としており、1間平均値2.27417mの付近に集中する。明らかに1間7尺5寸等間の設計であり、1尺逆算平均値は0.30322mと算出される。以上の点から柱間寸法をまとめると、桁行は1間6尺から6尺5寸範囲の等間または不等間であり、梁間は1間7尺5寸の等間である。

構成柱穴15基の平面検出水準は標高4.76m(BP95)を最高とし、直径は0.50m付近を前後する。これらのうち、土壤に置換した明瞭な柱痕を留めるものが11基に及び、柱痕底の最低水準はBP93における標高4.04mとなっている。遺跡全体を通じた総数21基の掘立柱建物跡のうち、桁行方位の近似値はC区東部で検出した二面庇付SB16(Fig.6-図1)における北偏東 10.40° (N 10.40° E)であり、後者に対する差を -0.67° と算出する。この両基が最も低い対北偏東度を示す建物の部類を構成している。

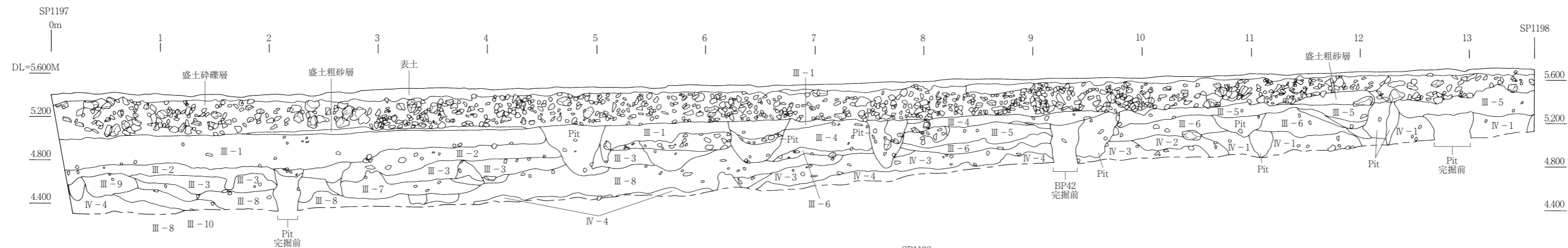


盛土層1.角礫(黄灰色2.5Y5/1):泥岩碎石φ100mm.Max主体。
 盛土層2.砂質シルト(暗灰色2.5Y5/1):礫φ50mm.Maxを少含。
 盛土層3.角礫(黄灰色2.5Y5/1):泥岩碎石φ250mm.Max主体。
 盛土層4.砂質シルト(黄灰色2.5Y5/1):礫φ80mm.Maxを少含。
 盛土層5.礫混じりシルト(にぶい黄色2.5Y6/4):角礫φ160mm.Max多含。
 盛土層6.礫(黄褐色2.5Y5/4):礫は円礫・角礫φ150mm.Max級。
 盛土層7.礫混じり砂質シルト(黄褐色2.5Y5/4):礫は円礫・角礫φ20mm.Max級。
 盛土層8.角礫(黄灰色2.5Y5/1):泥岩碎石φ150mm.Max主体。
 盛土層9.角礫(暗灰色2.5Y5/2):泥岩碎石φ160mm.Max主体。
 第III-1層.礫混じりシルト(暗灰色2.5Y5/2)
 第III-2層.砂質シルト(オリーブ黒色7.5Y3/1):炭化物多含。
 第III-3層.砂質シルト(灰黄褐色10YR5/2):礫φ80mm.Max少含。
 第III-4層.砂質シルト(暗灰色2.5Y5/2):円礫φ50mm.Max微含。
 第III-5層.砂質シルト(暗灰色2.5Y5/2):円礫φ20mm.Max少含。
 第III-6層.砂質シルト(灰黄褐色10YR5/2):円礫φ20mm.Max微含。
 第III-7層.礫混じり砂質シルト(灰黄褐色10YR):礫は円礫φ20mm.Max級。
 第III-8層.砂勝ち砂礫(黄灰色2.5Y5/1):礫は円礫φ80mm.Max級。
 第III-9層.礫混じり砂質シルト(灰オリーブ黒色7.5Y4/2):礫は円礫φ20mm.Max級:炭化物多含。
 第III-10層.礫混じりシルト(暗灰色2.5Y4/2):円礫φ30mm.Max微含。

第III-11層.礫混じり砂質シルト(黄灰色2.5Y5/1):礫は円礫φ40mm.Max級。
 第III-12層.砂礫(黄灰色2.5Y5/1):礫は円礫φ80mm.Max級。
 第III-13層.礫勝ち砂礫(灰色N5/):礫は円礫φ20mm.Max級。
 第III-14層.礫勝ち砂礫(黄灰色N5/):礫は円礫φ120mm.Max級。
 第III-15層.礫混じり砂質シルト(暗灰色2.5Y4/2):礫は円礫φ20mm.Max級。
 第III-16層.砂質シルト(黄灰色2.5Y5/1):砂利φ30mm.Maxを少含。
 第III-17層.砂質シルト(黄灰色2.5Y5/1)
 第III-18層.礫混じりシルト(暗灰色2.5Y4/2):円礫φ40mm.Max少含。
 第V-1層.シルト混じり砂礫(暗灰色2.5Y4/2):礫は円礫φ40mm.Max級。
 第V-2層.礫勝ち砂礫(黄灰色2.5Y5/1):礫は円礫φ50mm.Max級。
 第V-3層.シルト混じり砂礫(オリーブ黒色7.5Y3/2):礫は円礫φ30mm.Max級。
 第V-4層.砂礫混じりシルト(灰オリーブ5Y4/2):礫は細礫級の砂利が主体。
 第V-5層.シルト混じり砂礫(黄灰色2.5Y5/1):礫は円礫φ20mm.Max級。
 第V-6層.砂礫(灰色5Y6/1):少量の粗砂が混じる。
 第V-7層.砂質シルト(暗灰色2.5Y5/2):円礫φ20mm.Max少含。



Fig108 B区 北部東境の地層 (S1/40)



1. 表土(黒褐色2.5Y3/2): 砂礫と腐植土の混合。碎石上の敷土。
- 盛土碎石層(灰色N5/): φ東半(断面図左)では泥岩角礫φ150mm.Max主体, 西半(断面図右)では次第に円礫勝ちとなる。
- 粗砂層,(褐灰色7.5YR6/2): 比較的固結度の低い泥岩の碎屑物。
- 第Ⅲ-1層. 粘土質シルト(褐灰色7.5YR4/4): 少量の砂礫と炭化物が混じる。礫φ70mm.Maxは泥岩碎屑物と円礫が主体。
- 第Ⅲ-2層. 礫混じり粘土質シルト(黒褐色10YR3/2): 礫φ70mm.Maxは泥岩碎屑物と円礫が主体; 炭化物多。
- 第Ⅲ-3層. 砂礫混じり粘土(灰褐色5YR5/2): 礫φ30mm.Maxは円礫主体; 炭化物微含。
- 第Ⅲ-4層. 砂礫混じりシルト(褐灰色5YR4/1): 礫φ70mm.Maxは泥岩碎屑物と円礫が主体; 炭化物微含。
- 第Ⅲ-5層. 砂礫混じりシルト(褐灰色7.5YR6/2): 礫φ50mm.Maxは泥岩碎屑物と円礫が主体; 炭化物微含。
- 第Ⅲ-6層. 砂礫混じりシルト(褐灰色5YR4/1): 礫φ60mm.Maxは泥岩碎屑物と円礫が主体; 腐植・炭化物多含。
- 第Ⅲ-7層. 砂利混じり粘土質シルト(褐灰色5YR4/1): 砂利はφ60mm.Max級。炭化物微含。
- 第Ⅲ-8層. 砂利混じり粘土(褐灰色7.5YR5/1): 砂利はφ80mm.Max級。炭化物微含。
- 第Ⅲ-9層. 砂利混じり粘土(褐灰色7.5YR5/1): 砂利はφ20mm.Max級。炭化物微含。
- 第Ⅲ-10層. 粘土(褐灰色5YR6/2): 砂利φ20mm.Max級を少含; 炭化物微含。
- 第Ⅲ-11層. 砂利混じり粘土(褐灰色5YR4/1): 腐植を含む。
- 第Ⅳ-1層. 砂利混じり粘土(灰褐色7.5YR6/2): 砂利の来源は基岩大礫岩と河川に跨ると見られる。
- 第Ⅳ-2層. 砂利混じり粘土(灰黄褐色10YR5/2): 砂利の来源は基岩大礫岩と河川に跨ると見られる。
- 第Ⅳ-3層. 粘土(にぶい橙色5YR6/3): 砂利φ50mm.Ma微混。砂利の来源は基岩大礫岩と河川に跨ると見られる。
- 基岩大礫岩(暗青灰色~灰色): マトリックスは砂質~泥質で酸化状態(橙色); 含礫はφ200mm.前後の大礫級硬質砂岩が主体で, 泥質岩も見られる。大型粒子の形状は亜円~亜角の範囲が多く, 少礫級粒子では円礫も見られる。

図1 B区 南境の地層

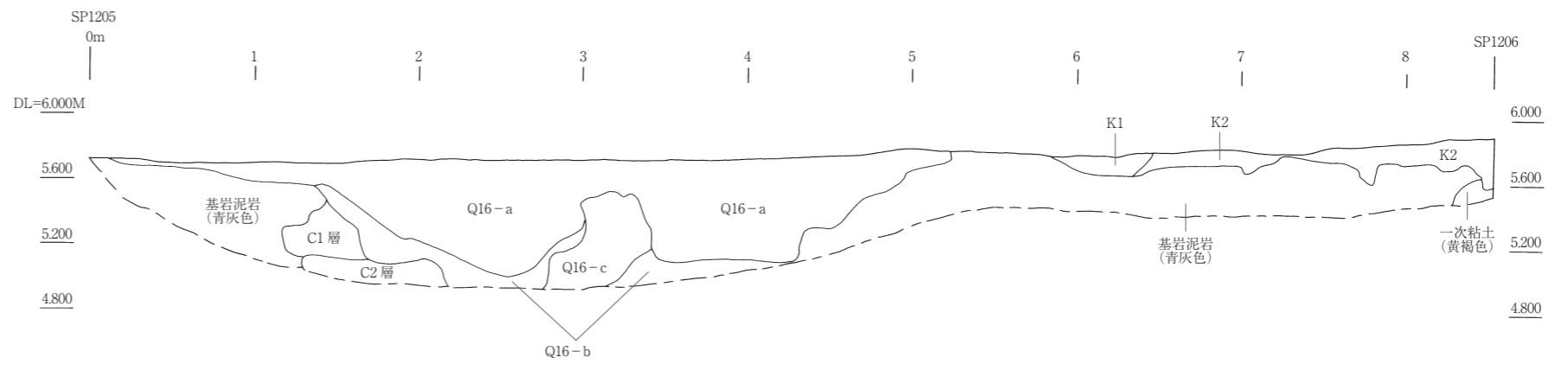
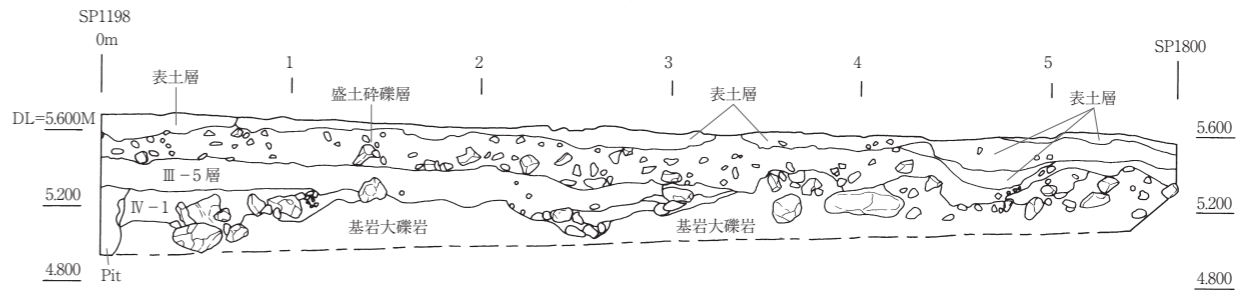
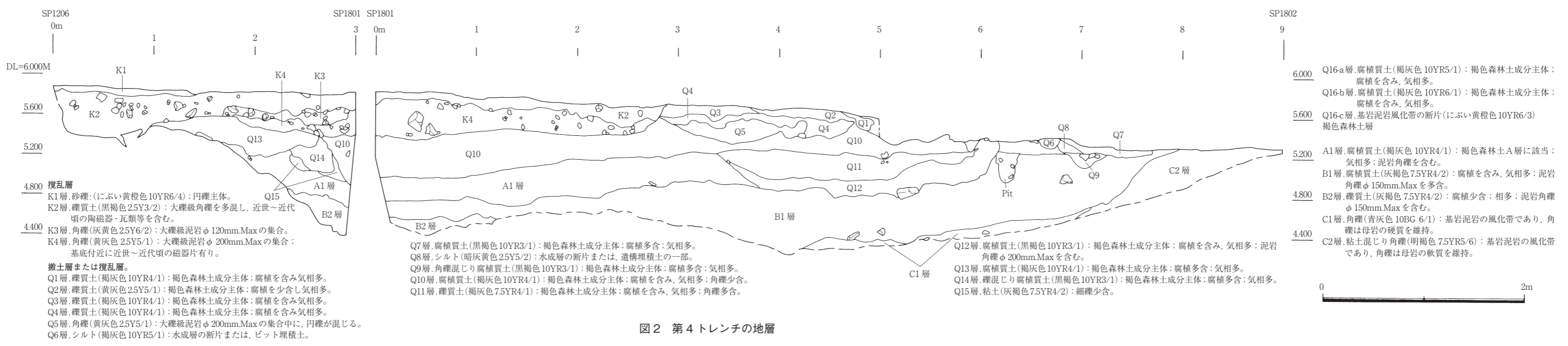


図2 第4トレンチの地層



- 攪乱層**
- K1層. 砂礫:(にぶい黄褐色10YR6/4): 円礫主体。
 - K2層. 礫質土(黒褐色2.5Y3/2): 大礫級角礫を多混し, 近世~近代頃の陶磁器・瓦類等を含む。
 - K3層. 角礫(灰黄色2.5Y6/2): 大礫級泥岩φ120mm.Maxの集合。
 - K4層. 角礫(黄灰色2.5Y5/1): 大礫級泥岩φ200mm.Maxの集合; 基底付近に近世~近代頃の磁器片有り。
- 搬土層または攪乱層。**
- Q1層. 礫質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み気相多。
 - Q2層. 礫質土(黄灰色2.5Y5/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を少し気相多。
 - Q3層. 礫質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み気相多。
 - Q4層. 礫質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み気相多。
 - Q5層. 角礫(黄灰色2.5Y5/1): 大礫級泥岩φ200mm.Maxの集合中に, 円礫が混じる。
 - Q6層. シルト(褐灰色10YR5/1): 水成層の断片または, ビット埋積土。
 - Q7層. 腐植質土(黒褐色10YR3/1): 褐色森林土成分主体; 腐植多含; 気相多。
 - Q8層. シルト(暗灰黄色2.5Y5/2): 水成層の断片または, 遺構埋積土の一部。
 - Q9層. 角礫混じり腐植質土(黒褐色10YR3/1): 褐色森林土成分主体; 腐植多含; 気相多。
 - Q10層. 腐植質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み, 気相多; 角礫少含。
 - Q11層. 礫質土(褐灰色7.5YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み, 気相多; 角礫多含。
 - Q12層. 腐植質土(黒褐色10YR3/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み, 気相多; 泥岩角礫φ200mm.Maxを含む。
 - Q13層. 腐植質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土成分主体; 腐植多含; 気相多。
 - Q14層. 礫混じり腐植質土(黒褐色10YR3/1): 褐色森林土成分主体; 腐植多含; 気相多。
 - Q15層. 粘土(灰褐色7.5YR4/2): 細礫少含。
- 6.000 Q16-a層. 腐植質土(褐灰色10YR5/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み, 気相多。
 - Q16-b層. 腐植質土(褐灰色10YR6/1): 褐色森林土成分主体; 腐植を含み, 気相多。
 - 5.600 Q16-c層. 基岩泥岩風化帯の断片(にぶい黄褐色10YR6/3) 褐色森林土層
 - 5.200 A1層. 腐植質土(褐灰色10YR4/1): 褐色森林土A層に該当; 気相多; 泥岩角礫を含む。
 - B1層. 腐植質土(灰褐色7.5YR4/2): 腐植を含み, 気相多; 泥岩角礫φ150mm.Maxを多含。
 - B2層. 礫質土(灰褐色7.5YR4/2): 腐植少含; 相多; 泥岩角礫φ150mm.Maxを含む。
 - C1層. 角礫(青灰色10BG 6/1): 基岩泥岩の風化帯であり, 角礫は母岩の硬質を維持。
 - 4.400 C2層. 粘土混じり角礫(明褐色7.5YR5/6): 基岩泥岩の風化帯であり, 角礫は母岩の軟質を維持。

Fig.109 B区 南境の地層・第4トレンチの地層 (S:1/40)

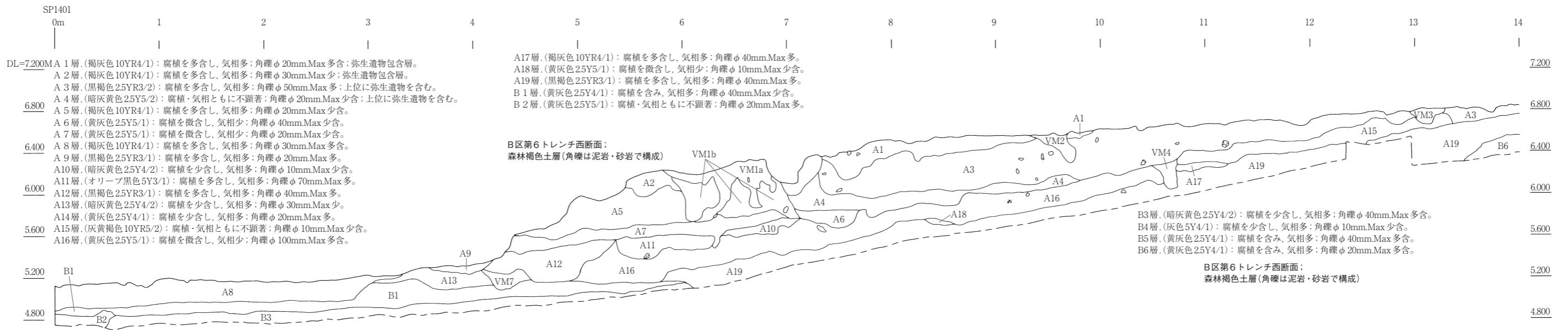


図1-a B区第6トレンチ西断面

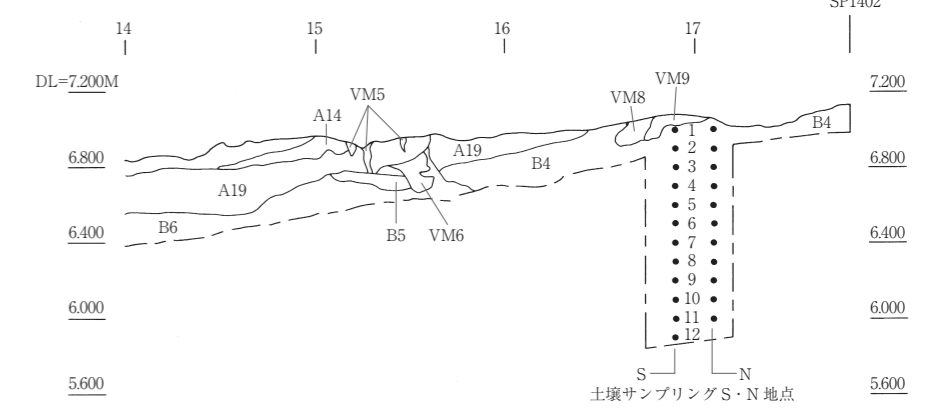


図1-b B区第5トレンチ東断面
(図1-aの上方に接続)

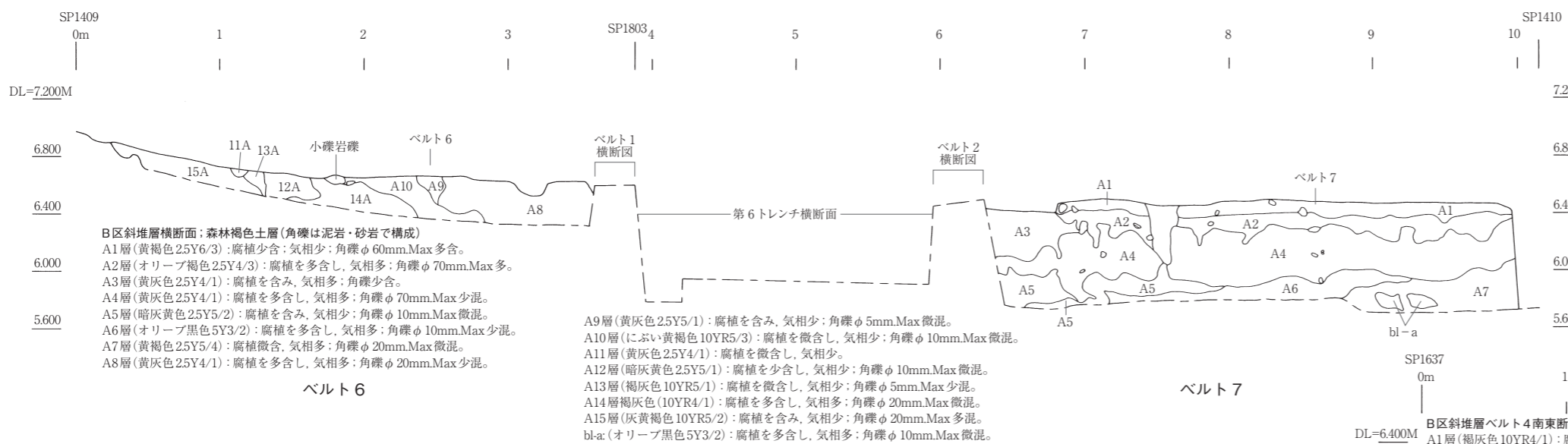


図1 B区斜堆層横断面

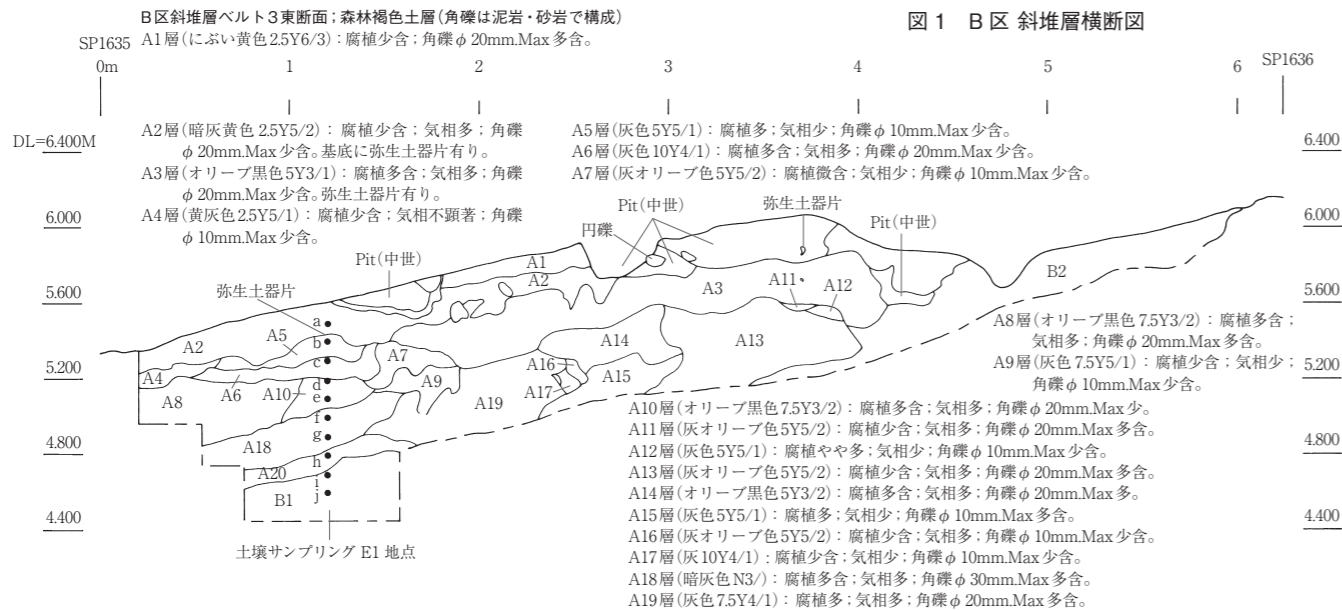


図3 B区斜堆層ベルト3東断面

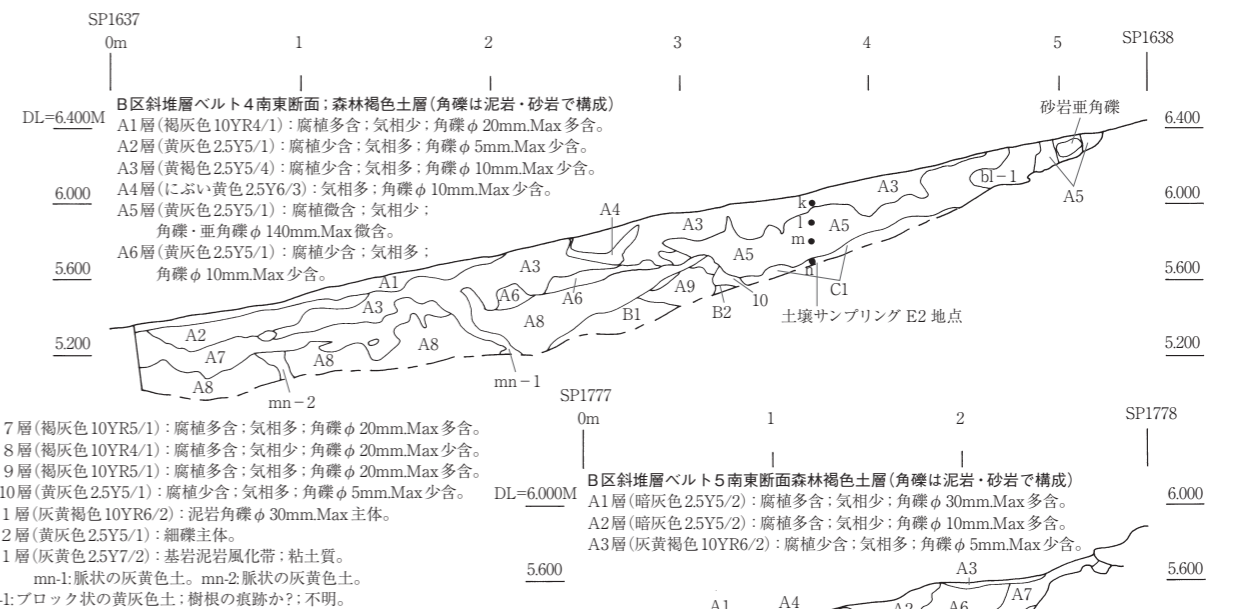


図4 B区斜堆層ベルト4南東断面

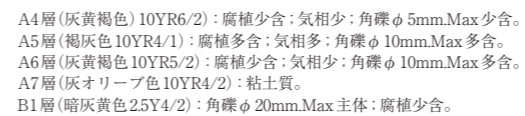


図5 B区斜堆層ベルト5南東断面

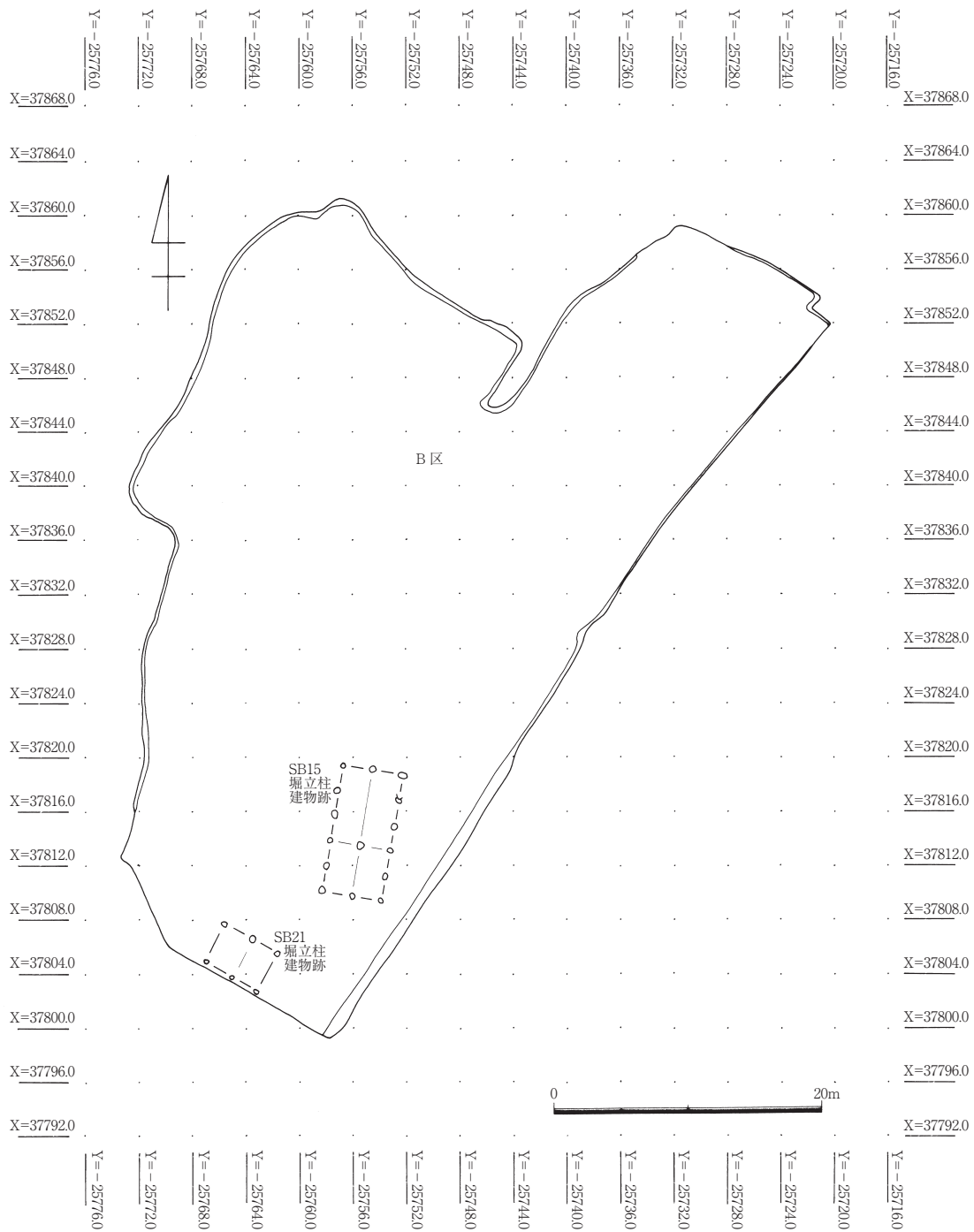


Fig. 111 B区掘立柱建物跡検出図 (S : 1/500)

2) SB21 掘立柱建物跡 (Fig.113) : SB21 は、調査区南境に接する状態で検出した建物跡であり、調査区外に延續する可能性を持つ。検出範囲では、東西 2 間×南北 1 間の規模であり、北側柱筋は西から 29.35°北に寄る (W29.35° N)。南北各 1 間の平均方位は北偏東 28.27° (N° 28.27° E) を測る。柱筋交角の平均は 97.2°の最大値を持ち、ゆがみの大きさを示している。総合的に判断すると東西 2 間は 1 間 7 尺 5 寸の等間、南北 1 間は 10 尺と見当する。東西および南北柱間の 1 間平均値は、順次 2.23250m・3.09333m を測る。これを先の見当で割ると、1 尺あたりの平均逆算値は 0.30349m の

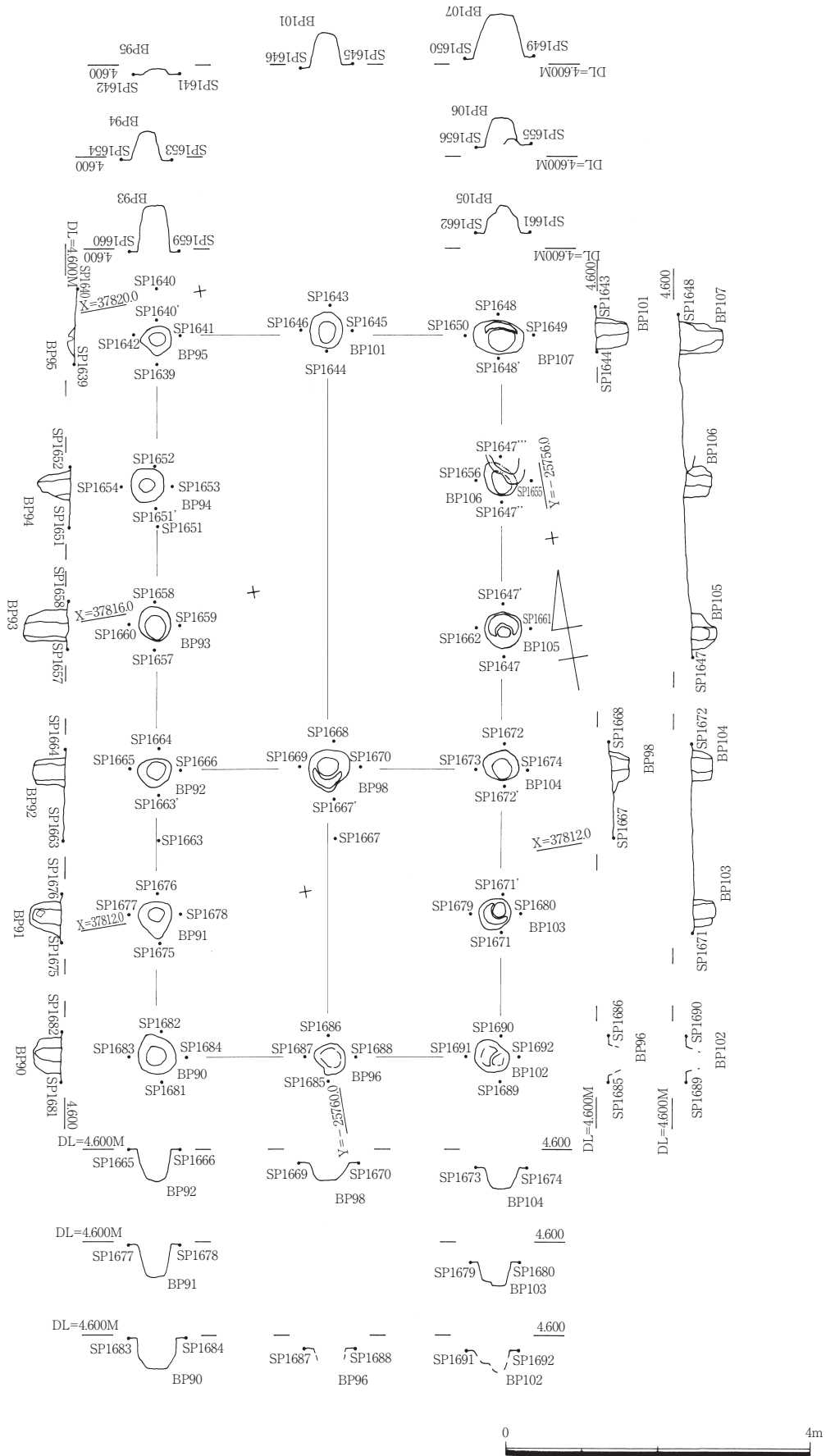


Fig. 112 B区 SB15 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

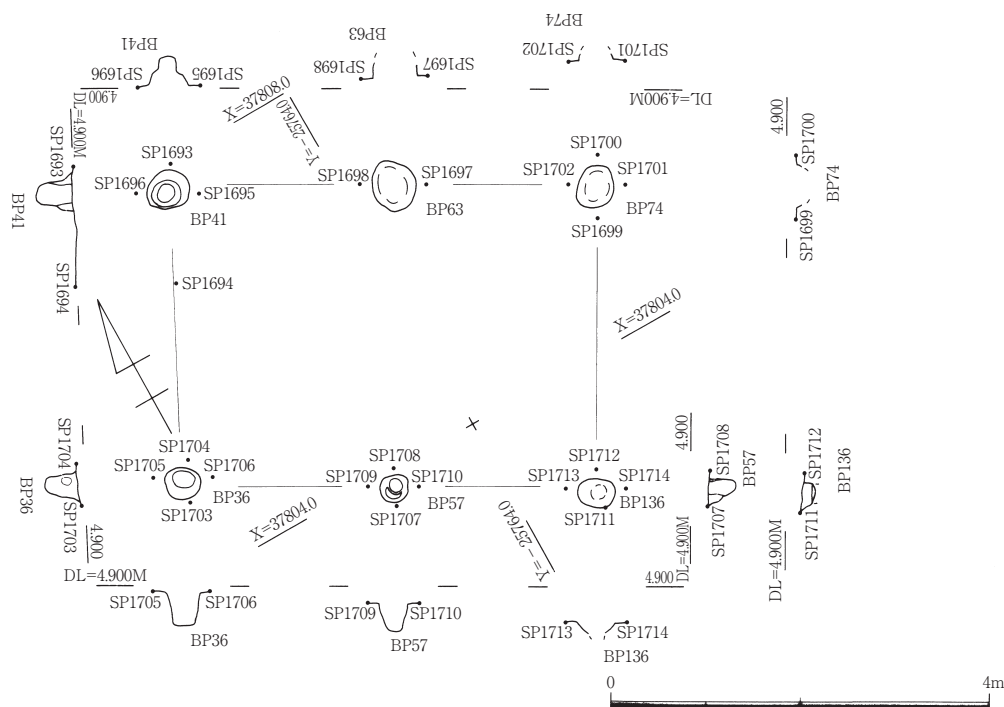


Fig. 113 B区 SB21 掘立柱建物跡 (S : 1/80)

柱筋柱間	桁行第1筋	計測m	見当尺	桁行第2筋	計測m	見当尺	桁行第3筋	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
B区SB21	柱の痕跡			柱の痕跡			柱の痕跡						
梁間第1筋	BP41	2.40	7.5	BP63	2.17	7.5	BP74	4.57m	2間	2.285m	7.5尺	0.30467m	W28.7° N
柱の痕跡	柱痕有り												
計測m 見当尺	3.04 10			3.12 10			3.16 10						
梁間第2筋	BP36	2.24	7.5	BP57	2.12	7.5	BP136	4.36	2間	2.180m	7.5尺	0.29067m	W30° N
柱の痕跡				柱痕有り									
柱筋直線長	3.04			3.08m			3.16m	総延18.21m	計4間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	1間			1間			1間	計3間	総計7間	2.23250m	尺		平均方位
1間平均値	3.04			3.08m			3.16m	総平均	3.09333m	不等間	総合	0.29767m	
1間見当尺	10尺			10尺			10尺	尺度規格	尺	総合	尺×尺系	総合1尺値	W29.35° N
1尺逆算値	0.304m			0.308m			0.316m	1尺平均逆算値	0.30933m	総合1尺値	総合1尺値	0.30349m	平均交角
柱筋方位	N25.8° E			N29.0° E			N30.0° E	柱筋	平均方位	—	N° 28.27° E	平均交角	97.2°

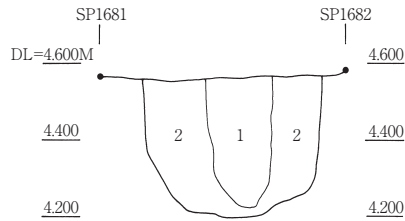
表 84 B区 SB21 柱筋計測表

値となる。構成する柱穴6基の平面検出は、実際には標高5.10～4.54mの傾斜面で行なった。それゆえ、柱穴間の相対深度に大幅な落差を生じている。左記条件下における柱穴径は0.50m前後である。この建物跡至近の地層は、Fig.109-図1の上段中央に表われている。堆積層の層理は東傾斜(断面図左手に傾斜)であり、傾向として等標高では西側(山丘側)の柱穴がより古い。なお、同図にはこの建物跡を構成する柱穴は含まれない。

2. 土坑跡 (Fig.119-Fig.122)

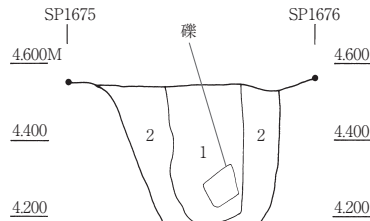
B区検出の遺構には、年代・性格の両面で画然としない例が多い点は冒頭で指摘したが、整理を行なう中で土坑跡に分類したものの大部分は、それらの例に属す。以下に順記する土坑跡もその例外ではないが、いずれも明瞭な掘り込みの形跡を伴うものである。

1) SK31土坑 (Fig.119) : SK31は、B区北西部で検出したやや大型の掘り込みであり、2.46mの長径は東西を指す。平面形は西部がやや方形に張り出し、その位置に最大値約2.00mの短径が所



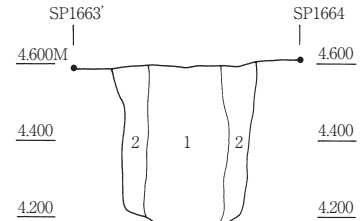
1. 粘土(橙色 7.5YR6/6) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物を含む。
2. シルト質粘土(暗灰黄色 2.5Y5/2) : 泥岩碎屑物を含む。

図1 SB15-BP90
半裁断面



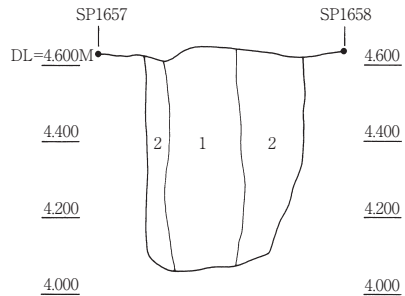
1. シルト質粘土(にぶい橙色 7.5YR7/4) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物を含む。
2. シルト質粘土(暗灰黄色 2.5Y5/2) : 礫 φ 15mm.Maxを含む。

図2 SB15-BP91
半裁断面



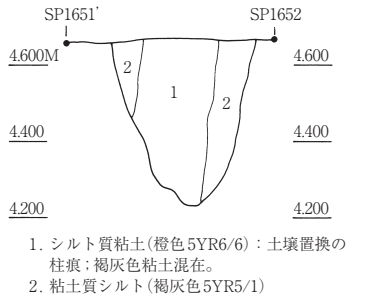
1. 粘土(にぶい橙色 7.5YR7/4) : 土壤置換の柱痕 ; 炭化物多含。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 泥岩碎屑物・炭化物を含む。

図3 SB15-BP92
半裁断面



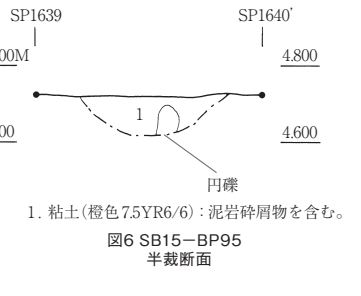
1. 粘土(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物・炭化物多含。
2. シルト質粘土(黄褐色 2.5YR5/3)

図4 SB15-BP93
半裁断面



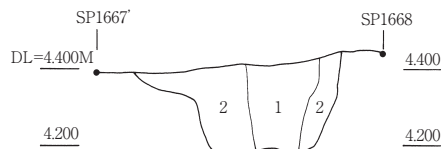
1. シルト質粘土(橙色 5YR6/6) : 土壤置換の柱痕 ; 褐灰色粘土混在。
2. 粘土質シルト(褐灰色 5YR5/1)

図5 SB15-BP94
半裁断面



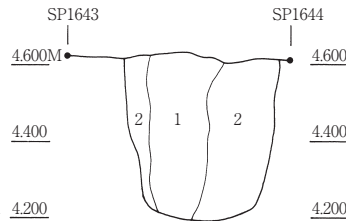
1. 粘土(橙色 7.5YR6/6) : 泥岩碎屑物を含む。

図6 SB15-BP95
半裁断面



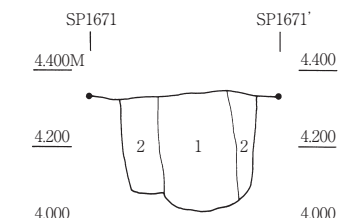
1. シルト質粘土(褐灰色橙色 7.5YR4/1) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物を含む。
2. シルト質粘土(暗灰黄色 7.5YR5/1) : 泥岩碎屑物・炭化物少含。

図7 SB15-BP98
半裁断面



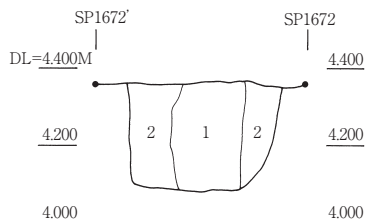
1. 粘土(黄灰色 2.5Y4/1) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物・炭化物多含。
2. シルト質粘土(黄褐色 2.5Y4/1) : 泥岩碎屑物・炭化物を含む。

図8 SB15-BP101
半裁断面



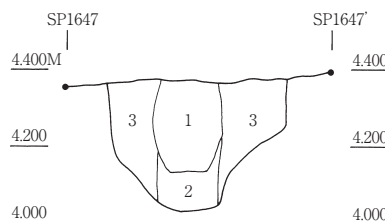
1. シルト質粘土(にぶい橙色 7.5Y7/4) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物多混 ; 土器片を含む。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 泥岩碎屑物 φ 30mm.Max少混。

図9 SB15-BP103
半裁断面



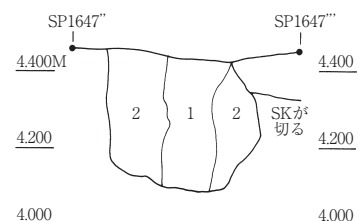
1. シルト質粘土(黄灰色 2.5Y4/1) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物多混。
2. 粘土質シルト(暗灰黄色 2.5Y4/2) : 泥岩碎屑物少混。

図10 SB15-BP104
半裁断面



1. シルト(橙色 5YR7/6) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物・炭化物多含。
2. 粘土(褐灰色 7.5YR4/1) : 土壤置換の柱痕。
3. 粘土質シルト(褐灰色 7.5YR5/1)

図11 SB15-BP105
半裁断面



1. 粘土(黄灰色 2.5Y4/1) : 土壤置換の柱痕 ; 泥岩碎屑物・炭化物多含。
2. シルト質粘土(黄灰色 2.5Y4/1)

図12 SB15-BP106
半裁断面



Fig. 114 B区 掘立柱建物跡SB15の柱穴 (S : 1/20)

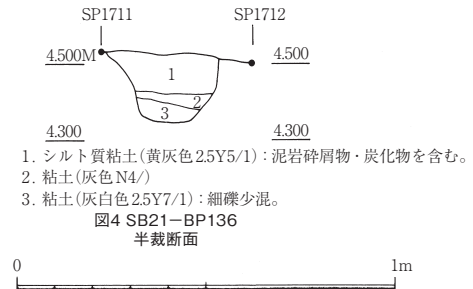
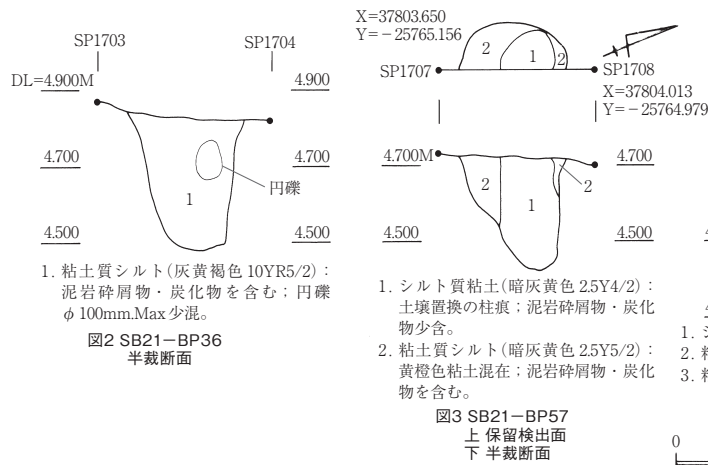
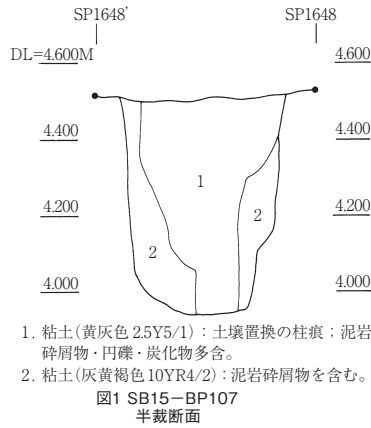
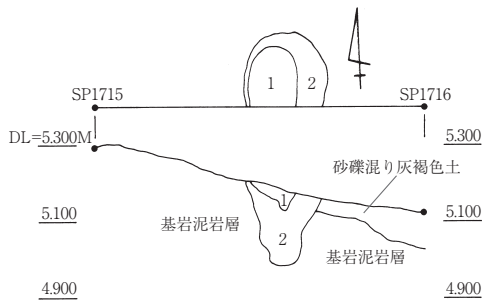


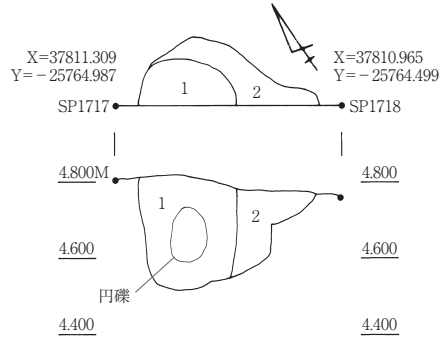
Fig. 115 B区 掘立柱建物跡SB15・SB21の柱穴 (S : 1/20)

在する。一方、中～東部は半円状を呈す。東微傾斜の検出面は、標高 6.64 ～ 6.50m の水準圏にある。検出平面形に相似する形状の底面は、短径最大値付近で東に -0.32m の段差を持つ。この段差を挟む東西の底面は、いずれも水平であるが、低位側(中～東部)の周縁には深度 3cm 前後の浅い掘り込みが壁溝状に回る。底面の段差を挟んで遺構基盤の地層も二相に分断する。段差底付近では基岩泥岩が露出する一方、西部にかけての上位側は基岩泥岩の風化帯(C層)となっている。土坑内埋積層は 10 の土層に細分される。上位の 1～4 において土坑埋積後の再掘削を示唆する不整合の層理が見られるものの、土坑全体を二分する規模の不整合面は確認されない。特に下層の 8 は段差を跨いで東西に連続しており、直下の 9 は底層の 10 に対して平行を維持する。10 に分けた埋積層のうち、3・7・8 の土性はいずれも砂質シルト級であり、気相は目立たず灰色系の還元色を呈する。上位層が泥岩風化帯の二次堆積碎屑物(礫質)を主体とし、概ね酸化状態にある状況とは異質であり、人為的に敷設された可能性が非常に強い。7・8 の層は、平面においても土坑壁に沿って帯状に連続・連結(4 が一部を切断)する点から、漏止め機能を担うものと考えている。上位の 3 も同質の還元土壌であり、径を 1/3 程度低減する形状で 8 に連結する。おそらくは降雨後に背面山丘の基岩から湧出する伏流水の貯水槽として、中断期をはさみ浅く掘削した結果、二枚の漏り止め層を遺留した



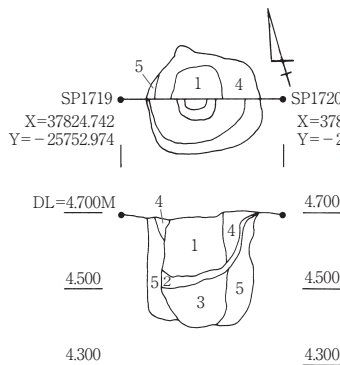
1. 礫混り灰色土(N5/)：礫は泥岩碎屑物；炭化物φ5mm.Max微含。
2. 礫混り黄褐色土(2.5Y5/4)：礫は泥岩碎屑物；基岩泥岩内に埋積。

図1 BP10
上 保留検出面
下 半裁断面



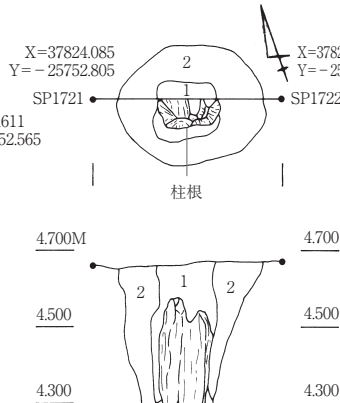
1. 粘土質シルト(褐灰色10YR4/1)：土壤置換の柱痕；炭化物を多含。
2. 粘土質シルト(褐灰色10YR5/1)：礫φ5mm.Max混在。

図2 BP54
上 保留検出面
下 半裁断面



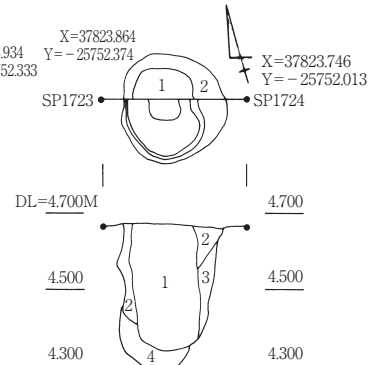
1. シルト(黄灰色2.5Y5/1)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物少混；炭化物微含。
2. 粘土(灰色N5/)：砂脈状。
3. 粘土(灰色N5/)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物微混。
4. 砂質シルト(灰色5Y5/1)：泥岩碎屑物微混。
5. シルト質粘土(黄灰色2.5Y4/1)：炭化物φ10mm.Max微含。

図3 BP248
上 保留検出面
下 半裁断面



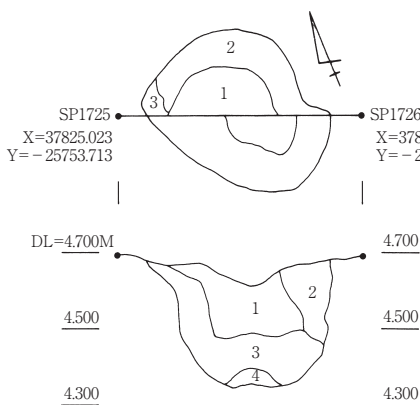
1. 粘土質シルト(暗灰黄色2.5Y5/2)：土壤置換の柱痕；炭化物φ5mm.Max少含。
2. 粘土質シルト(灰黄色2.5Y6/2)：炭化物φ5mm.Max微含。
3. 粘土(灰色N5/)：炭化物φ5mm.Max少含。柱根遺存。

図4 BP249
上 保留検出面
下 半裁断面



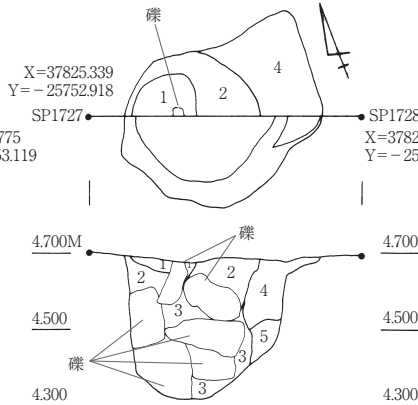
1. シルト質粘土(褐灰色10YR6/1)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物・炭化物φ5mm.Max微含。
2. シルト(黄灰色2.5Y4/1)：泥岩碎屑物混在。
3. シルト質粘土(灰黄色2.5Y6/2)：泥岩碎屑物微混。
4. 粘土(灰色5Y4/1)：炭化物φ10mm.Max多混。

図5 BP250
上 保留検出面
下 半裁断面



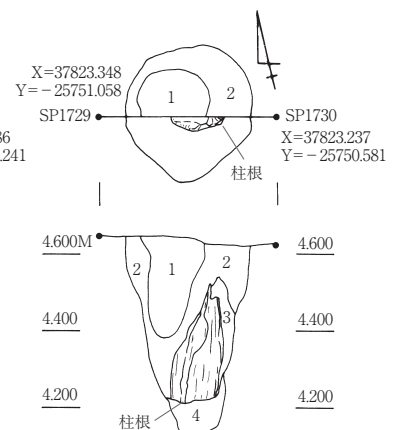
1. シルト(灰色5Y4/1)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物少混；炭化物φ20mm.Max多含。
2. シルト(黄灰色2.5Y5/1)：泥岩碎屑物φ50mm.Max多混。
3. シルト質粘土(灰色5Y5/1)：泥岩碎屑物微混。
4. 粘土(黄灰色2.5Y5/1)：泥岩碎屑物微混。

図6 BP261
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 砂礫(灰色5Y4/1)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物主体；炭化物多。
2. シルト(灰黄色2.5Y5/2)：土壤置換の柱痕；泥岩碎屑物多；炭化物少。
3. 大礫：礫置換の柱痕；色砂岩円礫φ210mm.Maxが主体；間隙をシルトが充填。
4. 粘土質シルト(暗灰黄色)：泥岩碎屑物少含。
5. 粘土質シルト(灰黄色2.5Y6/2)：炭化物φ10mm.Max微含。

図7 BP265
上 保留検出面
下 半裁断面



1. 粘土質シルト(にぶい橙色7.5YR6/3)：泥岩碎屑物少含。
2. シルト(にぶい橙色7.5YR6/3)：泥岩碎屑物・炭化物少含。
3. 粘土(灰色7.5Y4/1)：分解未了の組織分布；柱根遺存。
4. 粘土(灰色N5/1)

図8 BP367
上 保留検出面
下 半裁断面



Fig. 116 B区柱穴 (S : 1/20)

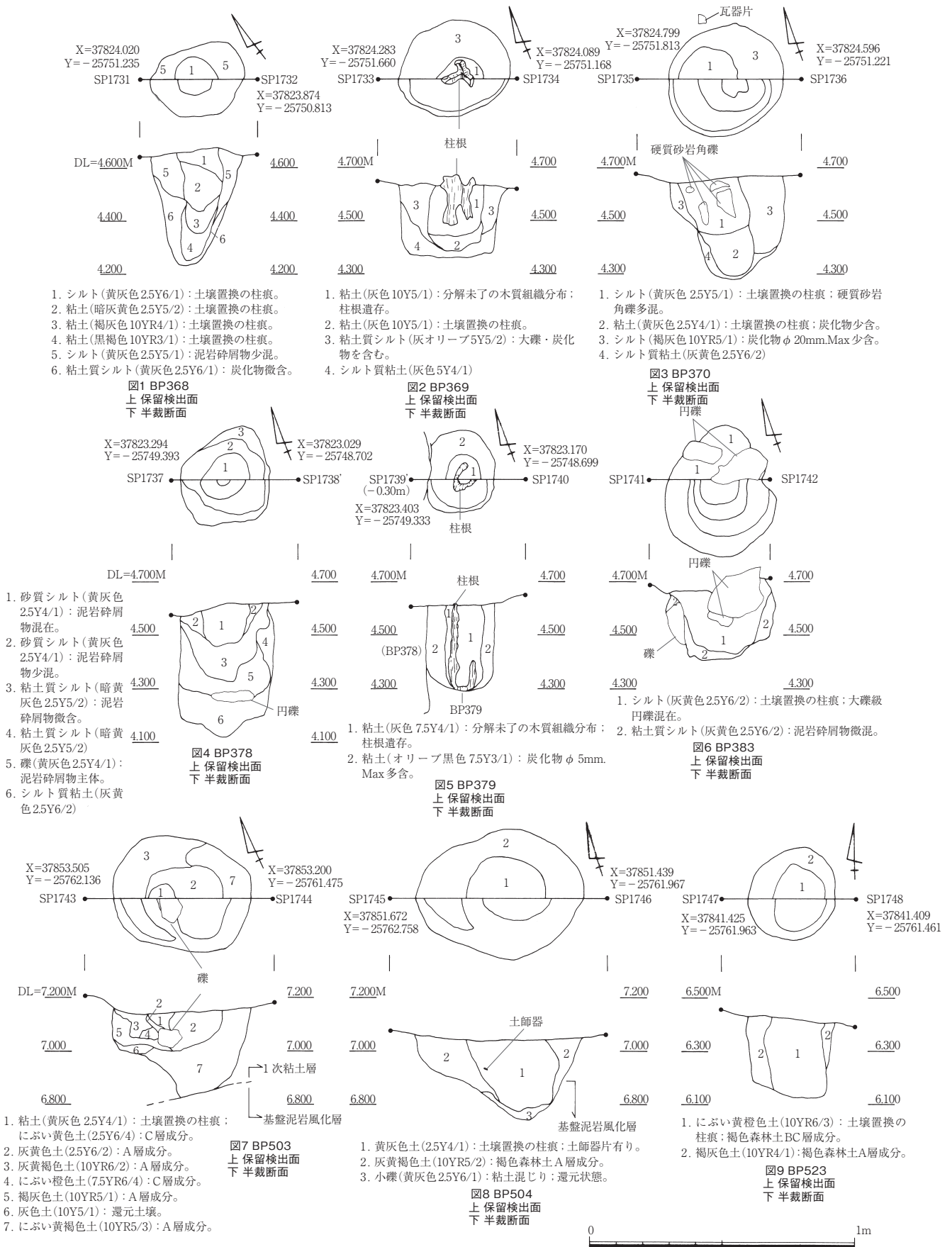


Fig. 117 B区柱穴 (S : 1/20)

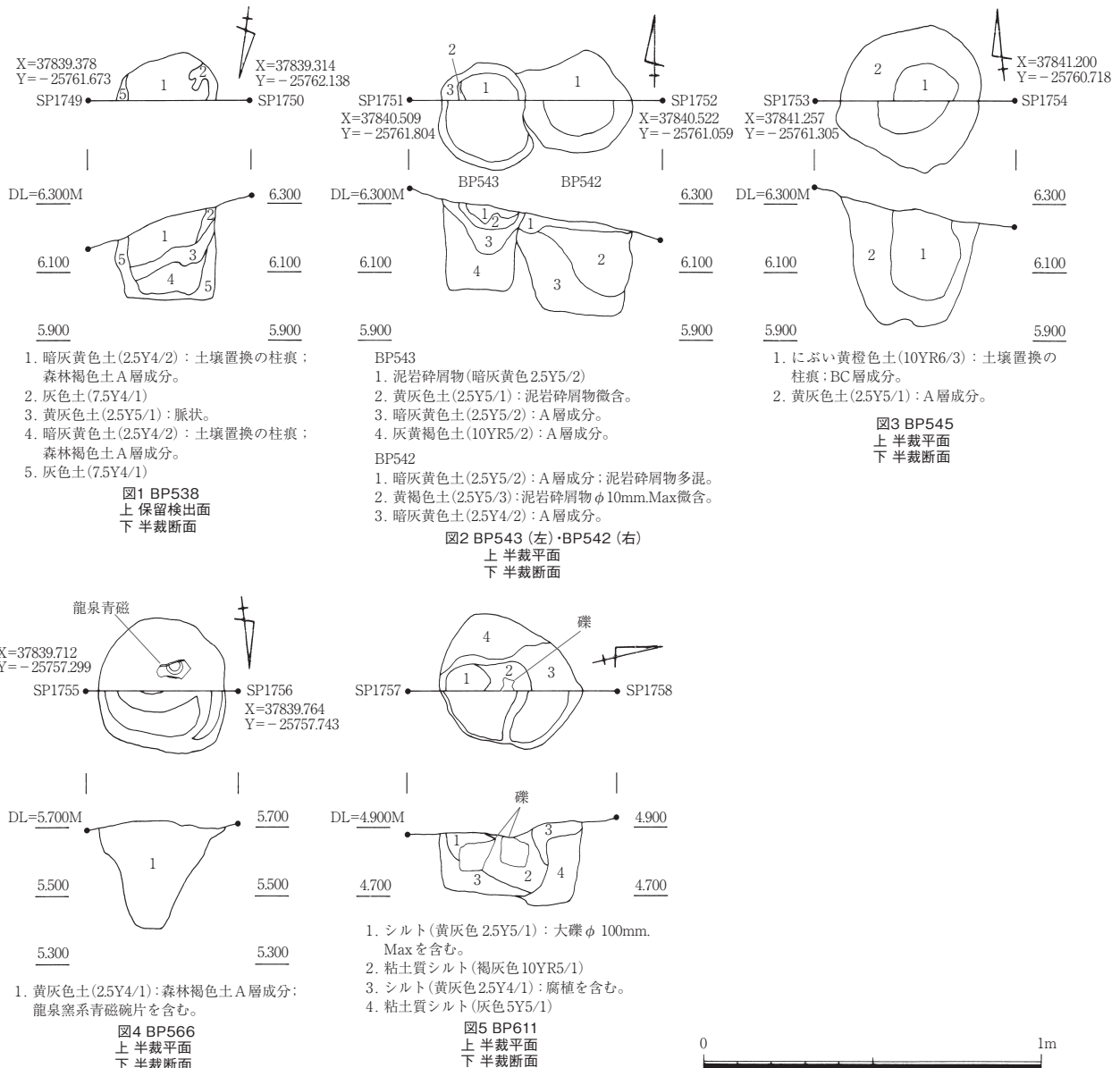
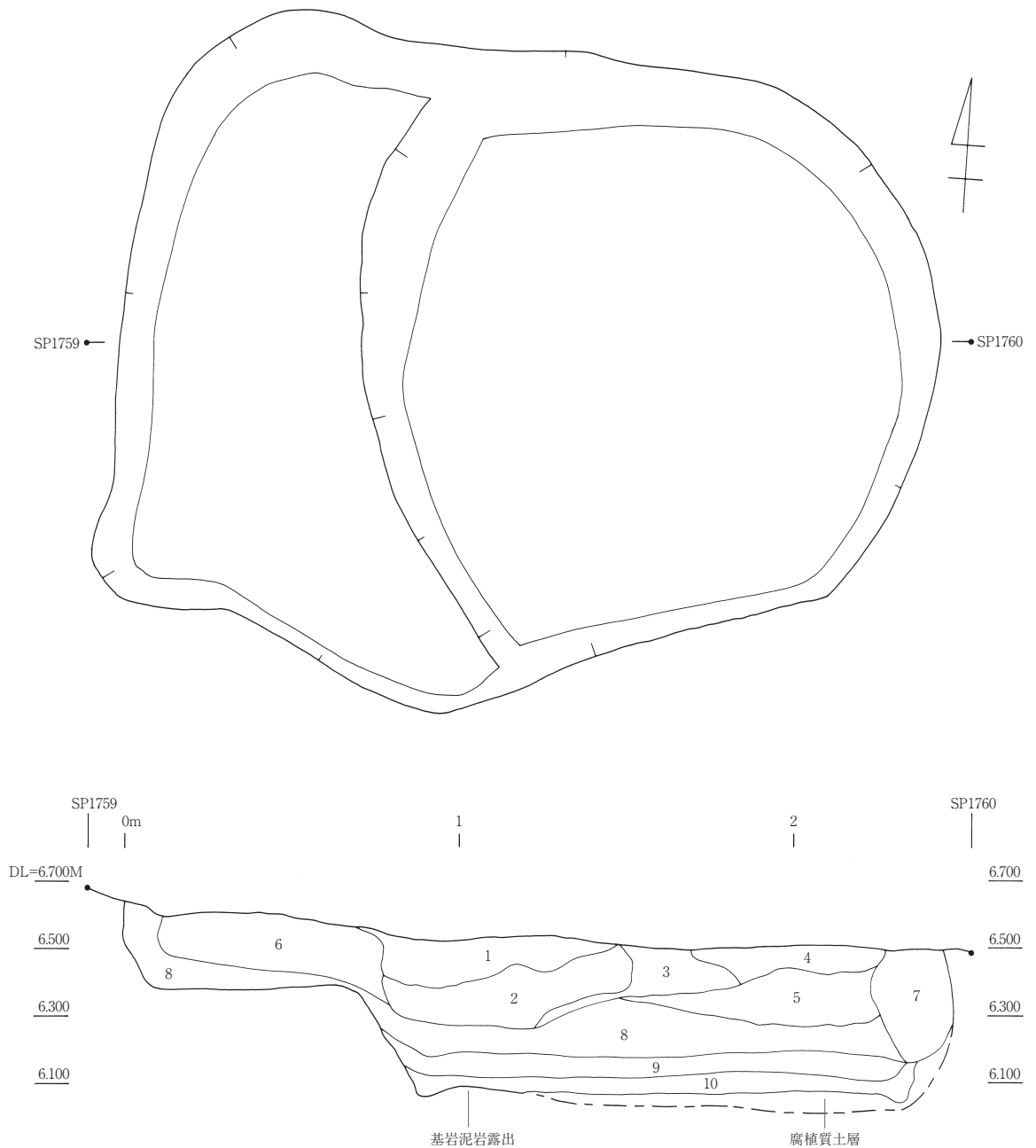


Fig. 118 B区柱穴 (S : 1/20)

ものと推定する。この推定に立つと、深度の浅い西側平坦部は一種の足場かと思われる。土坑内では遺物を検出しておらず、上面は近代前後の攪乱層に覆われていた。弥生・中世の包含層が近辺に遺存する状況に照らした場合、これらの削失後に土坑が掘り込まれた可能性が強まり、比較的新しい年代のものかと思われる。

2)SK42(Fig120- 図2)：SK42は、B区中北部の斜面裾末端で検出した岩盤掘り込みの土坑であり、表面の標高は5.65～5.60mの範囲にある。この部分では、旧時の造成により岩盤を覆う褐色森林土を削失しており、ほぼ岩盤面で平面像を捉えている。不整円形を呈し、遺存深度は12cmに過ぎない。縁部からは完形の土師器1点が出土した。付近には岩盤面に達する遺構が少なからず存在する。



1. 灰黄褐色土(10YR5/2)：森林褐色土に近似；φ 100mm.Maxの角礫を多含する；気相少；腐植を含む。
2. 褐灰色土(10YR5/1)：森林褐色土成分を主体とし，φ 30mm.Maxの角礫を少含する；気相多；腐植多含。
3. 砂質シルト(灰色N5/)：φ 30mm.Maxの角礫を少含する；7・8に酷似。
4. 灰黄褐色土(10YR5/2)：森林褐色土に近似；φ 60mm.Maxの角礫を多含する；気相少；腐植を含む。
5. 灰黄褐色土(10YR5/2)：森林褐色土に近似；φ 30mm.Maxの角礫を多含する；気相少；腐植を含む。
6. にぶい黄褐色土(10YR5/3)：森林褐色土に近似；φ 50mm.Maxの角礫を多含する；気相少；腐植を含む。
7. 砂質シルト(灰色N5/)：φ 10mm.Maxの角礫を少含する；3・8に酷似。
8. 砂質シルト(灰色N5/)：φ 20mm.Maxの角礫を少含する；3・7に酷似。
9. 褐灰色土(10YR4/1)：森林褐色土成分を主体とし，φ 20mm.Maxの角礫を少含する；気相多；腐植多含。
10. 褐色土(7.5YR4/4)：森林褐色土成分を主体とし，φ 20mm.Maxの角礫を少含する；気相多；腐植少含。

Fig. 119 B区 SK31 土坑 (S : 1/20)

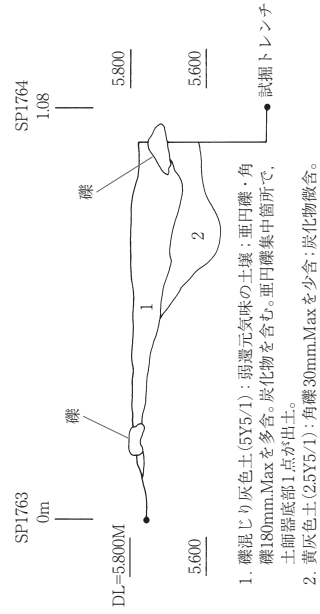
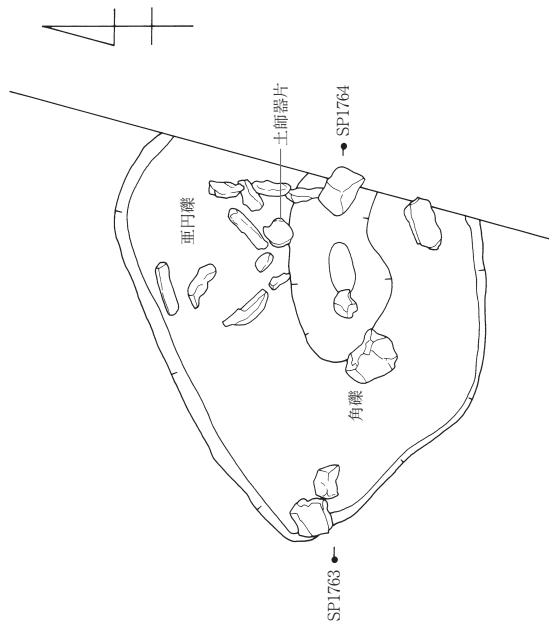


図1 BP813

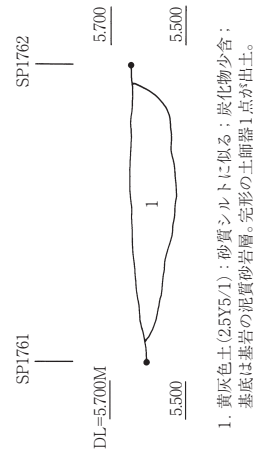
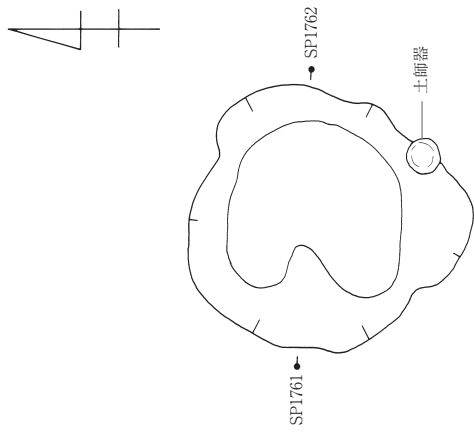


図2 SK42 土坑

Fig. 120 B区 BP813・SK42土師器出土状況図 (S : 1/20)

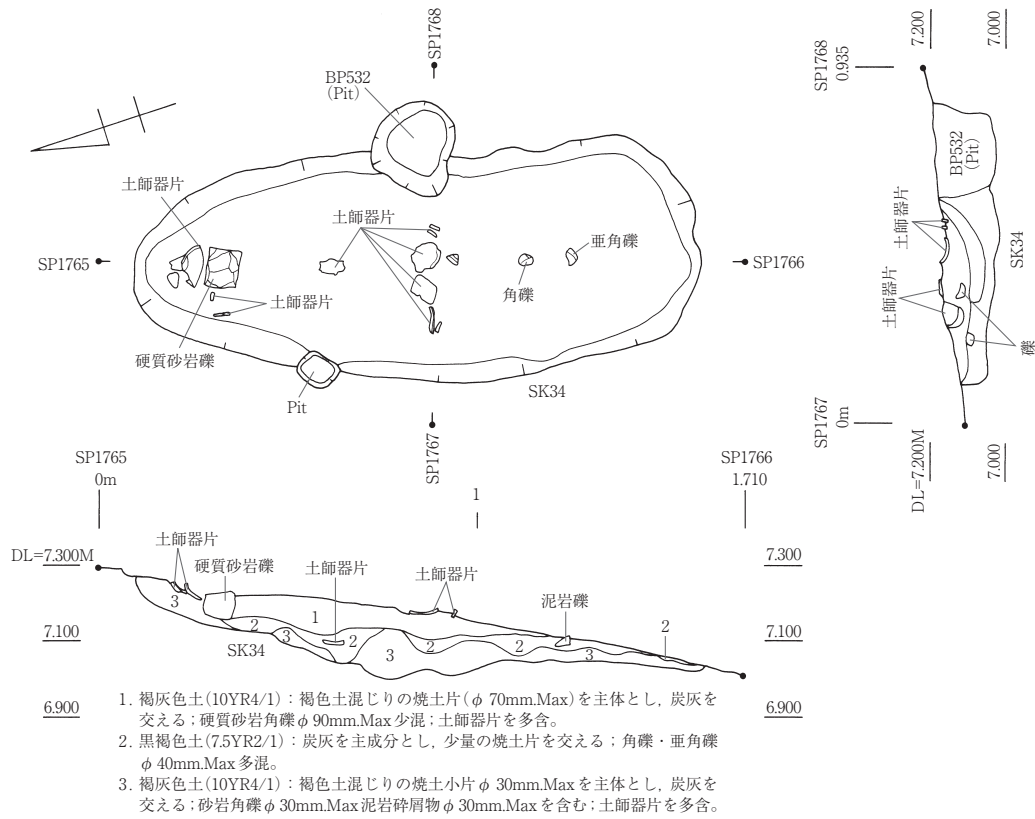


図1 B区 SK34

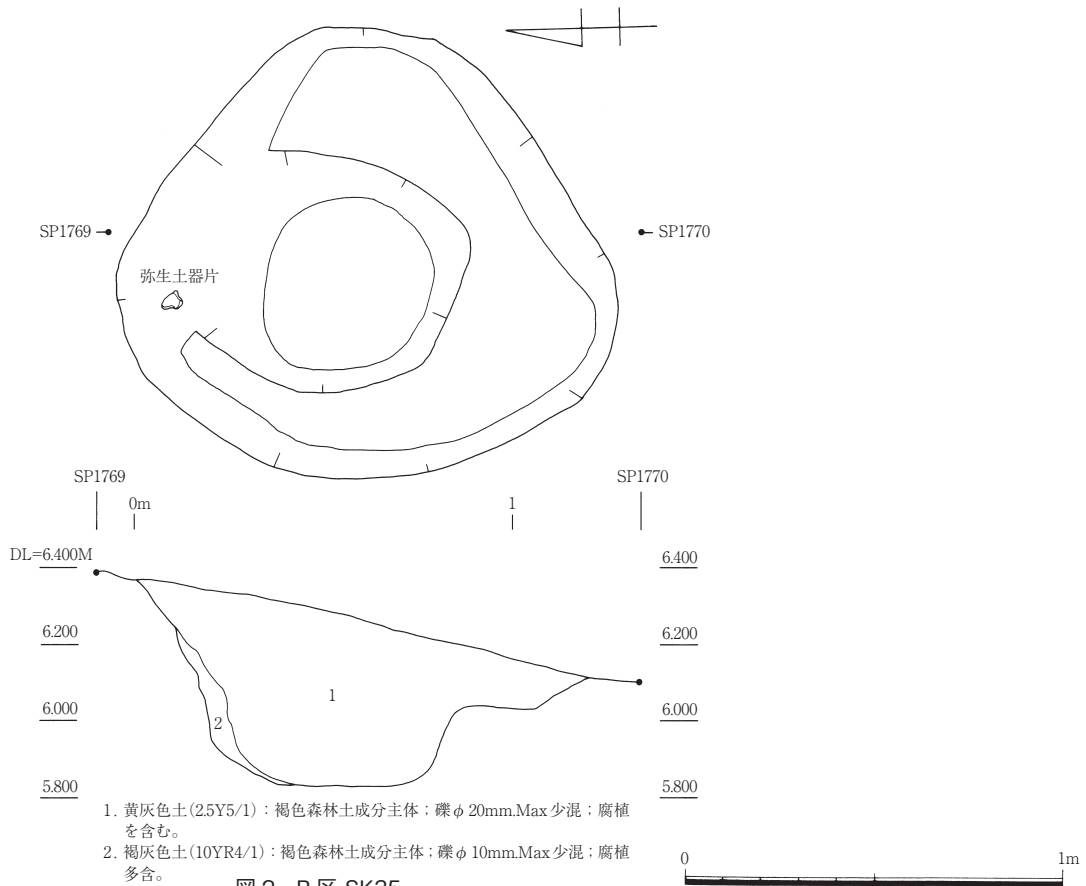


図2 B区 SK35

Fig. 121 B区 SK34・SK35土坑 (S : 1/20)

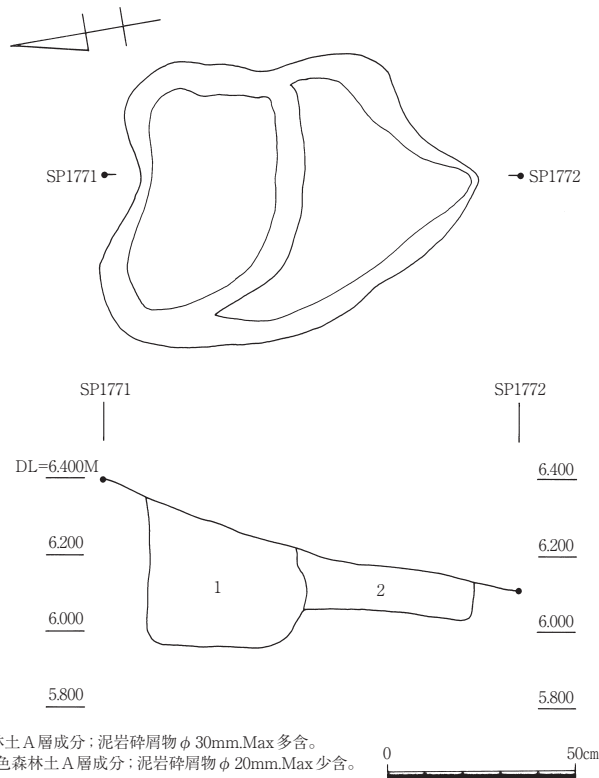
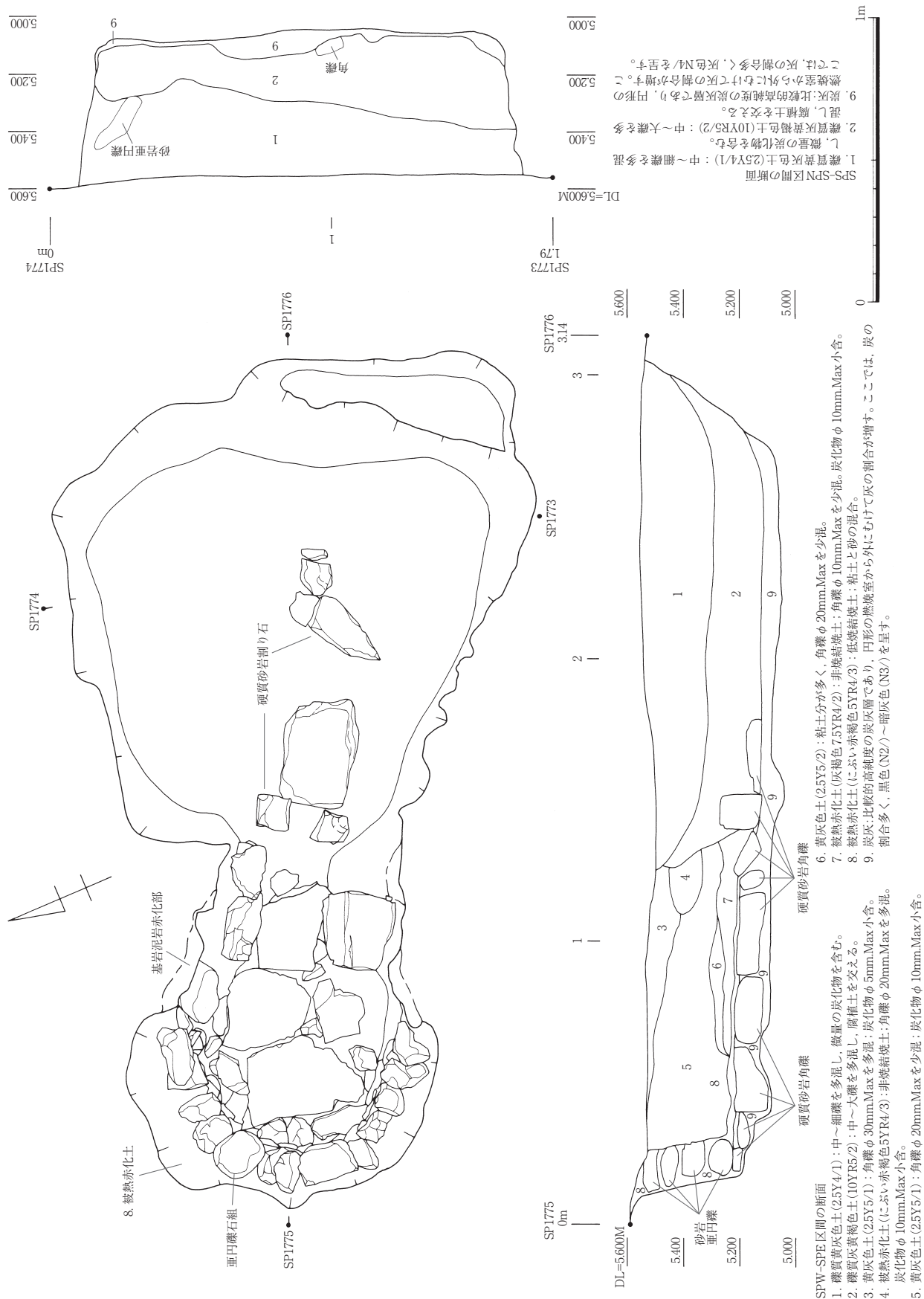


Fig. 122 B区 SK36 土坑 (S : 1/20)

3) SK34 土坑 (Fig.121- 図 1) : SK34 は、B 区北西部で検出した中世の焼土坑であり、旧屋敷地造成時の岩盤切削をわずかに免れたものである。土師器焼成坑の底部遺存である可能性が強いが、焼成以外の燃焼痕跡としての性格も排除できないため、土坑に類した。その検出と遺存状況は次のとおりである。

土坑の北端は岩盤切削面の寸前において標高 7.27m の水準に現れた。遺存部は岩盤ないし岩盤風化帯を楕円形に掘り込む部分のみであり、等高線と斜交して南傾斜する検出面主軸（長径 1.50m）は北偏東 17°を指す。その勾配は 9.0°を測るが、同線下の土坑底勾配は北半の南傾斜 17.4 度に対し、南半では逆の北傾斜 10.2°に転じた後、ほぼ水平となる。一方、横断軸（短径 0.60m）では検出面の西傾斜 8°に対し、土坑底はほぼ水平である。検出面に現れた土坑全体の平面像は、被熱赤化した岩質地盤の輪郭内に多量の炭と焼土塊や土師器が斑紋のように入り混じる極鮮明なものであった。土坑内調査は十字ベルト保留の掘削による。その断面における土坑内部の状態と観察の大枠は以下の状況である。

土坑内埋積物は大きく三層に分かれ、上から順に 1・2・3 とする。それらの主体は、1 が焼土ブロック、2 が炭、3 が焼土ブロックである。ごく大まかな把握では、上下の焼土塊層に炭層が挟まる図式となる。礫の分布と土師器の分布は、ともに 1・2 の層に集中し、特に土師器で 3 に属するものは確認し得ない。主軸線下の断面では、2 と 3 の層理面が大きく波打つため、その面を土師器焼成坑



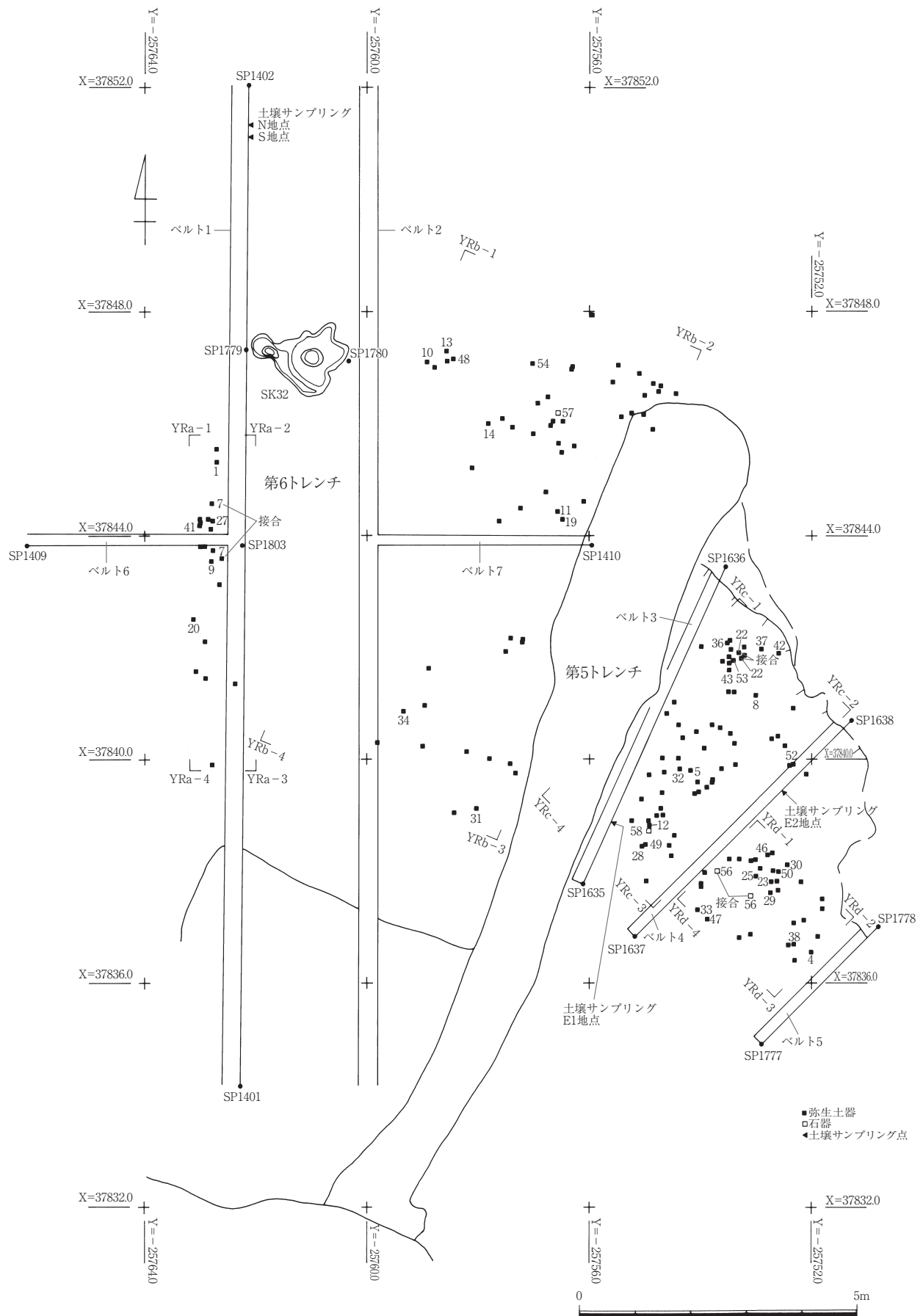
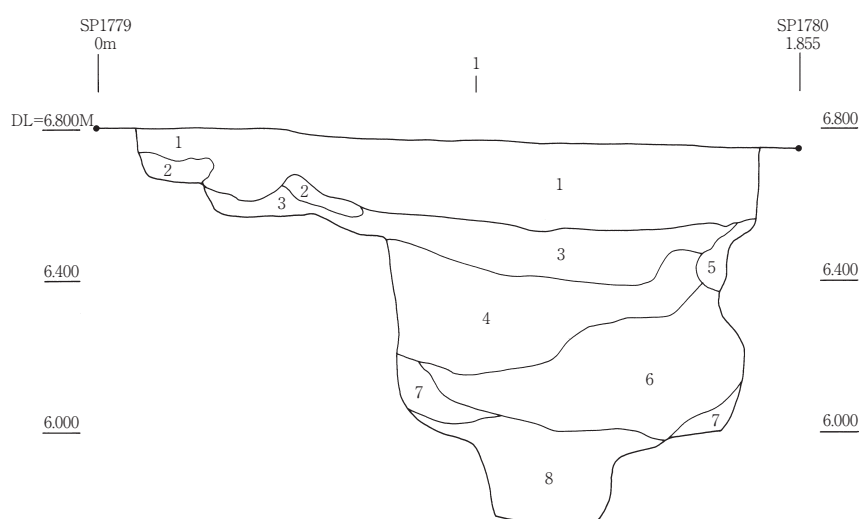
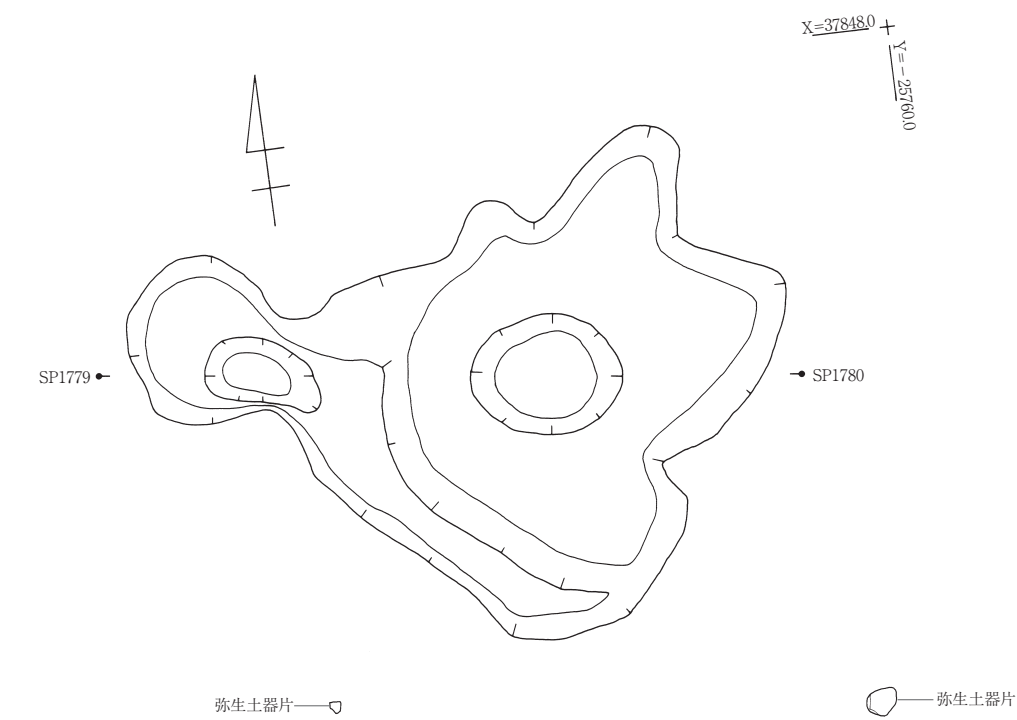


Fig. 124 B区 斜堆部弥生文化面検出全図 (S : 1/100)



1. 礫質オリブ灰色土(2.5GY5/1)：森林褐色土成分を主体とし、φ 30mm.Maxの角礫を多含；炭化物・腐植少含。
2. 灰黄褐色土(10YR5/2)：森林褐色土成分を主体とし、φ 10mm.Maxの角礫を少含する；締まり強；炭化物・腐植微少含。
3. 礫質灰色土(5Y4/1)：森林褐色土成分を主体とし、φ 20mm.Maxの角礫を多含する；締まり強；炭化物少含・腐植微少含。
4. 暗灰黄色土(2.5Y4/1)：森林褐色土成分を主体とし、φ 20mm.Maxの角礫を多含する；気相多；を含む。
5. 暗灰黄色土(2.5Y4/2)：森林褐色土成分を主体とし、φ 20mm.Maxの角礫を多含する；気相多；腐植を含む。
6. 灰褐色土(10YR5/2)：森林褐色土に近似；φ 40mm.Maxの角礫を多含する；気相多；腐植多含。
7. 黒褐色土(2.5Y3/1)：φ 40mm.Maxの角礫を多含する；気相多；炭化物・腐植多含。
8. 黄灰色土(2.5Y4/1)：φ 30mm.Maxの角礫を多含する；気相多；炭化物・腐植微含。

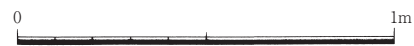


Fig. 125 B区 斜堆部SK32土坑跡 (S : 1/20)

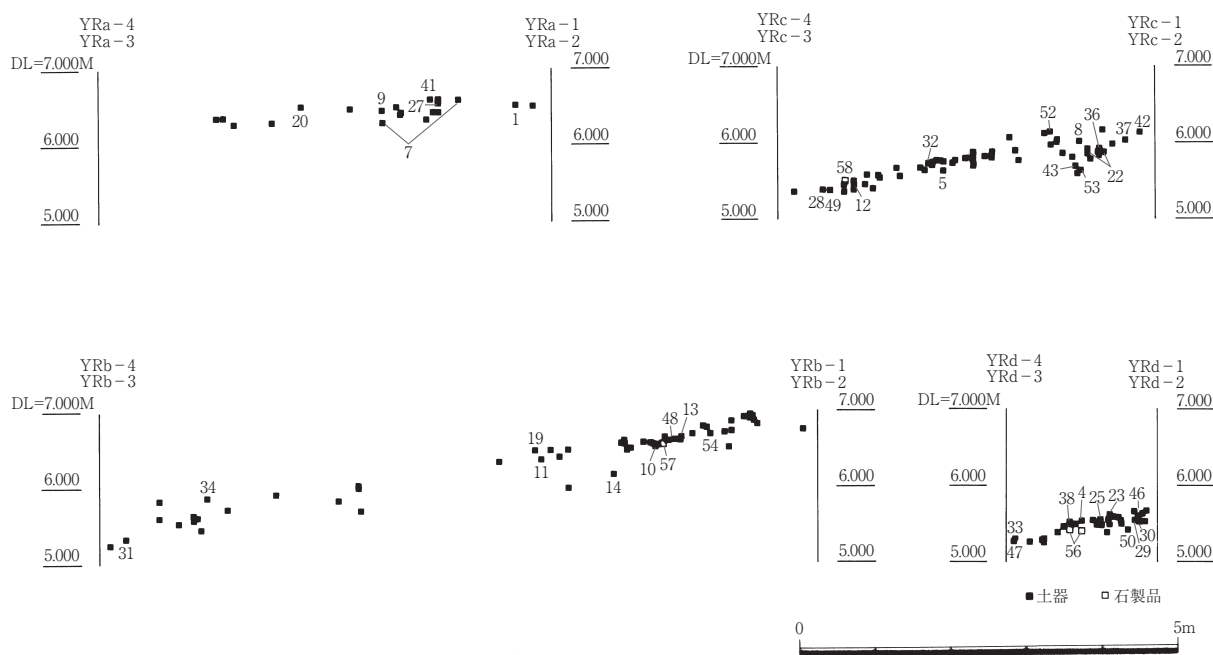


Fig. 126 B区 斜堆層検出の弥生遺物高度分布 (S : 1/100)

の床面と見なすことはできない。更に、これらの起伏は1・2間の層理面にも影響している。また、2と3における礫と土師器の混在も焼成当時の遺留としては、かなり不自然である。これらの状況を総合すると、いずれの埋積層も原位置を保たない、あるいは運搬の結果として、そこにあると考えざるを得ない。

一方、特に壁面の被熱は瞭然としており、内部で燃焼した点に疑問の余地はない。また、岩盤や岩盤風化帯を半地下式溝状に掘りこむ方式も、須恵器窯で多見する築窯手法の一つである。焼成温度を抑制すれば、穴窯でも土師器生産は可能である。この関連で無視し得ない点は、土坑SK34の底面北半が山丘斜面沿い17.4°の勾配を持つ点と、低位側の南端部底面を平坦に掘削する点である。傾斜17.4°は、傾斜式窯基において安定した熱蓄積を可能とする傾斜圏の中央に近い。また、焚口床や前庭面は平坦とするのが通常である。遺存底面の最深部において岩盤表面との落差は19cmを測る。このような斜面岩盤の掘削を必用とする燃焼行為を半地下式穴窯以外に想定するのも、暗中模索の感を禁じ得ない。

以上の諸要素により、土坑SK34の性格に関しては「焼土坑」として分類するに止めるが、一つの推定として、半地下式の小型穴窯に解体の手を加えた痕跡とも見られる点を指摘しておきたい。

4) SK35土坑 (Fig.121- 図2) : SK35は、B区北西部の森林褐色土層で検出した小型の土坑であり、南傾斜12.5°で不整四辺の平面形を検出した。1.33mの長径は概ね南北方位を指し、短径は1.18mの規模である。検出面の標高圏は6.35～6.11mである。標高5.83m前後の底部は平坦で、北を除く三方に1段の平坦面が付く。土坑の北壁面で径約5cmの土器片1点を検出したが、上位の土坑壁をなす弥生遺物包含層から露出した可能性もある。埋積層の大部分は中礫級以下の泥岩碎屑物を主体とする単調な相を示し、北壁側では下位に腐植質土壌を含む薄層が見られる。

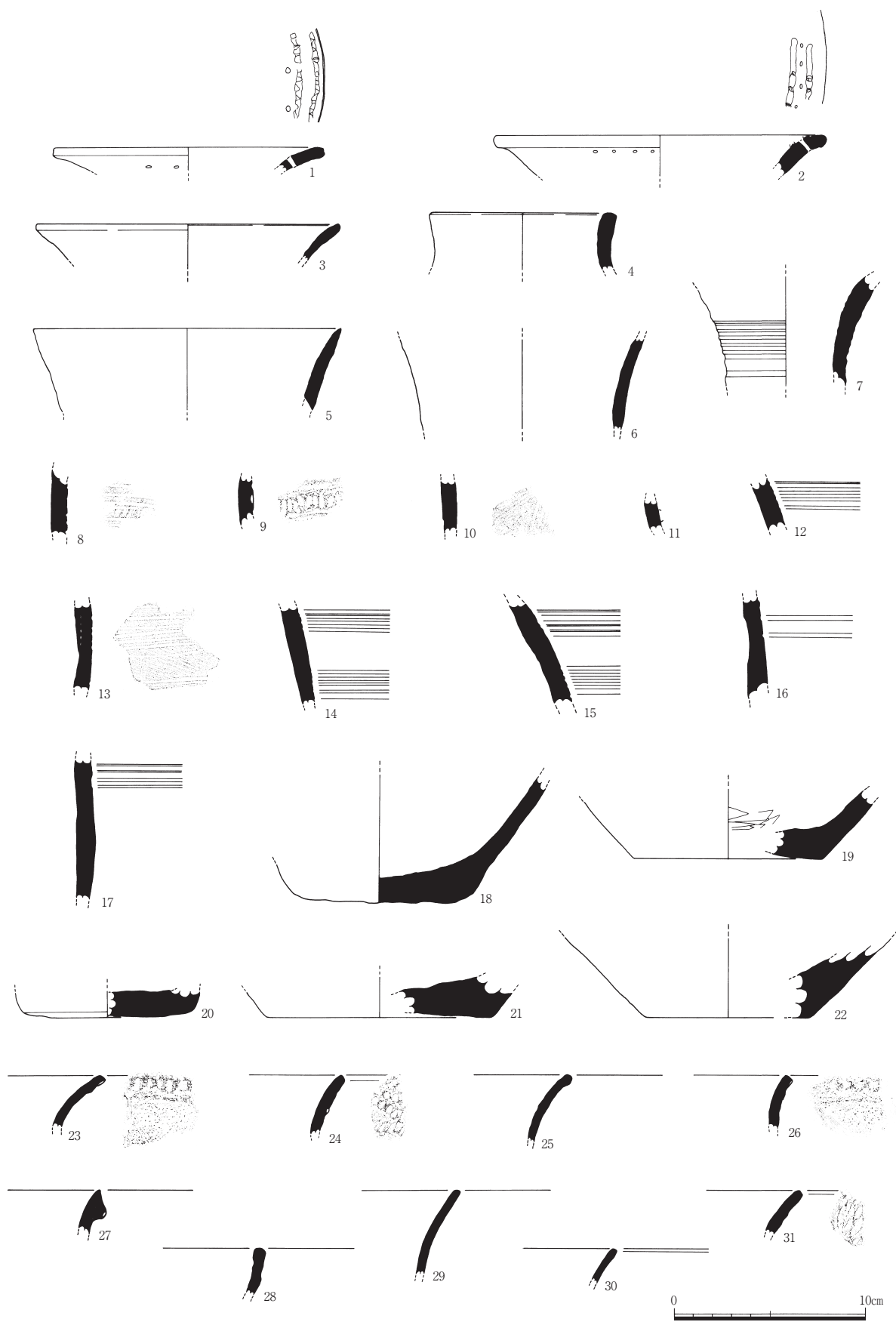


Fig. 127 B区出土遺物 1 (S : 1/3)

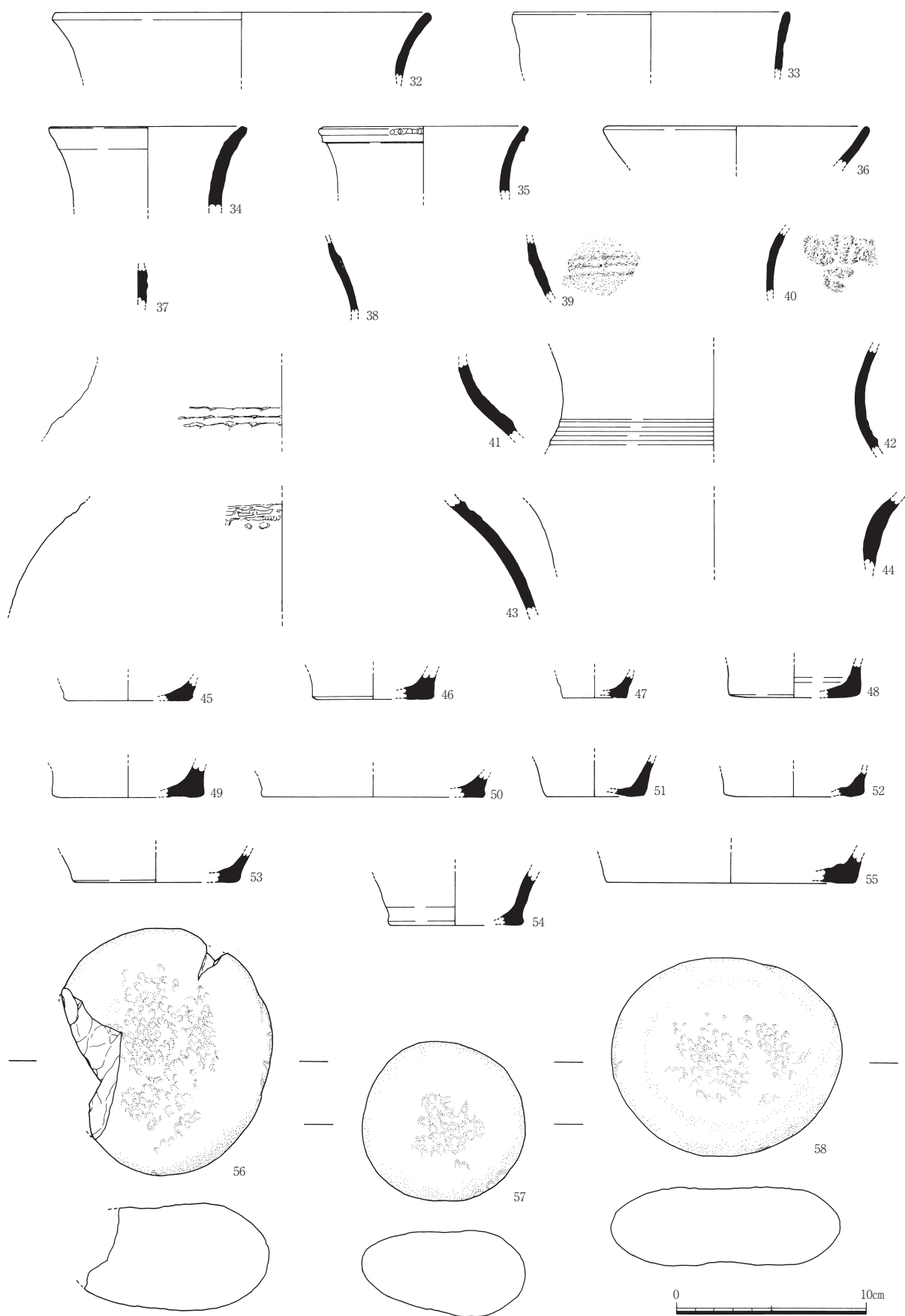


Fig. 128 B区出土遺物 2 (S : 1/3)

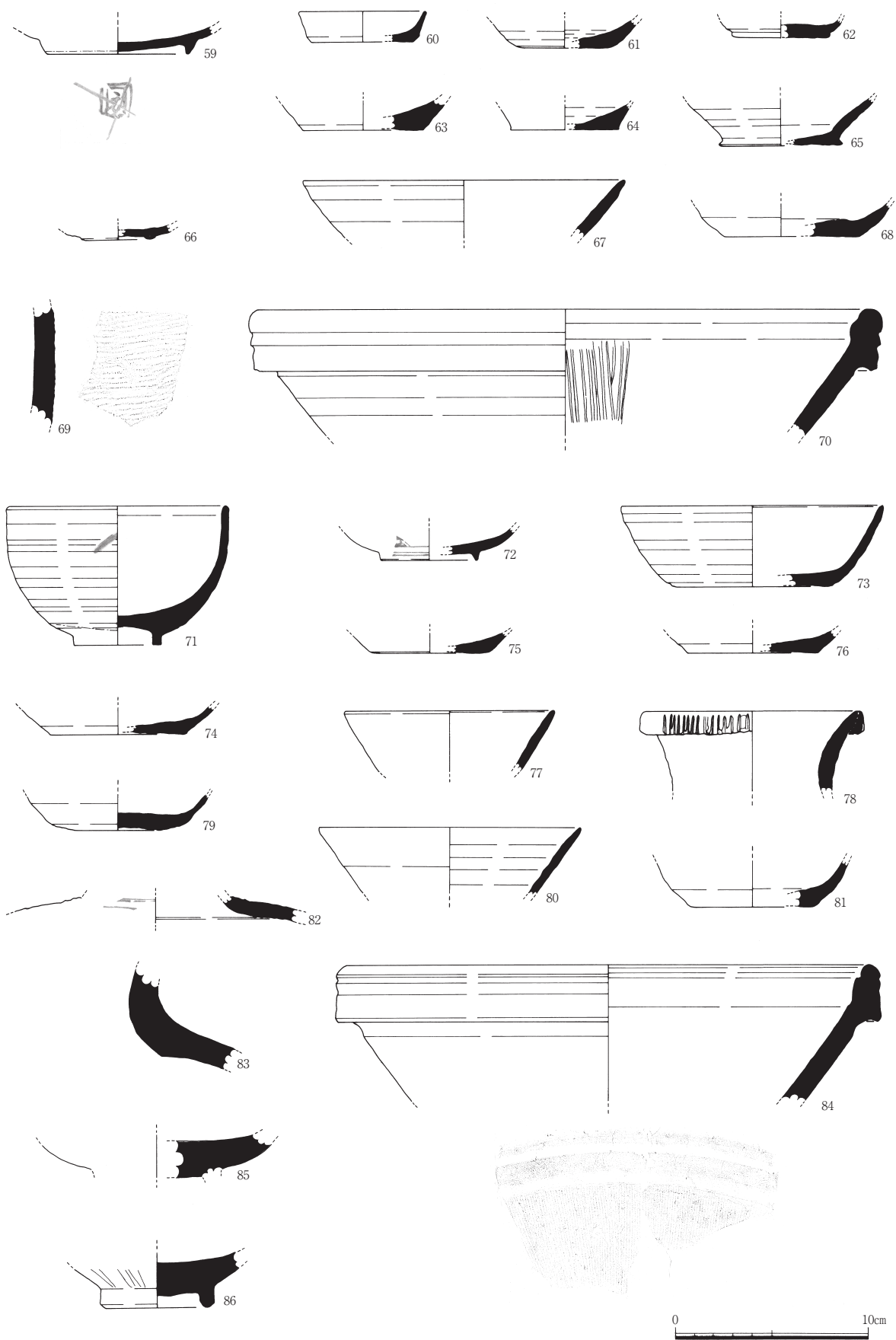


Fig. 129 B区出土遺物 3 (S : 1/3)

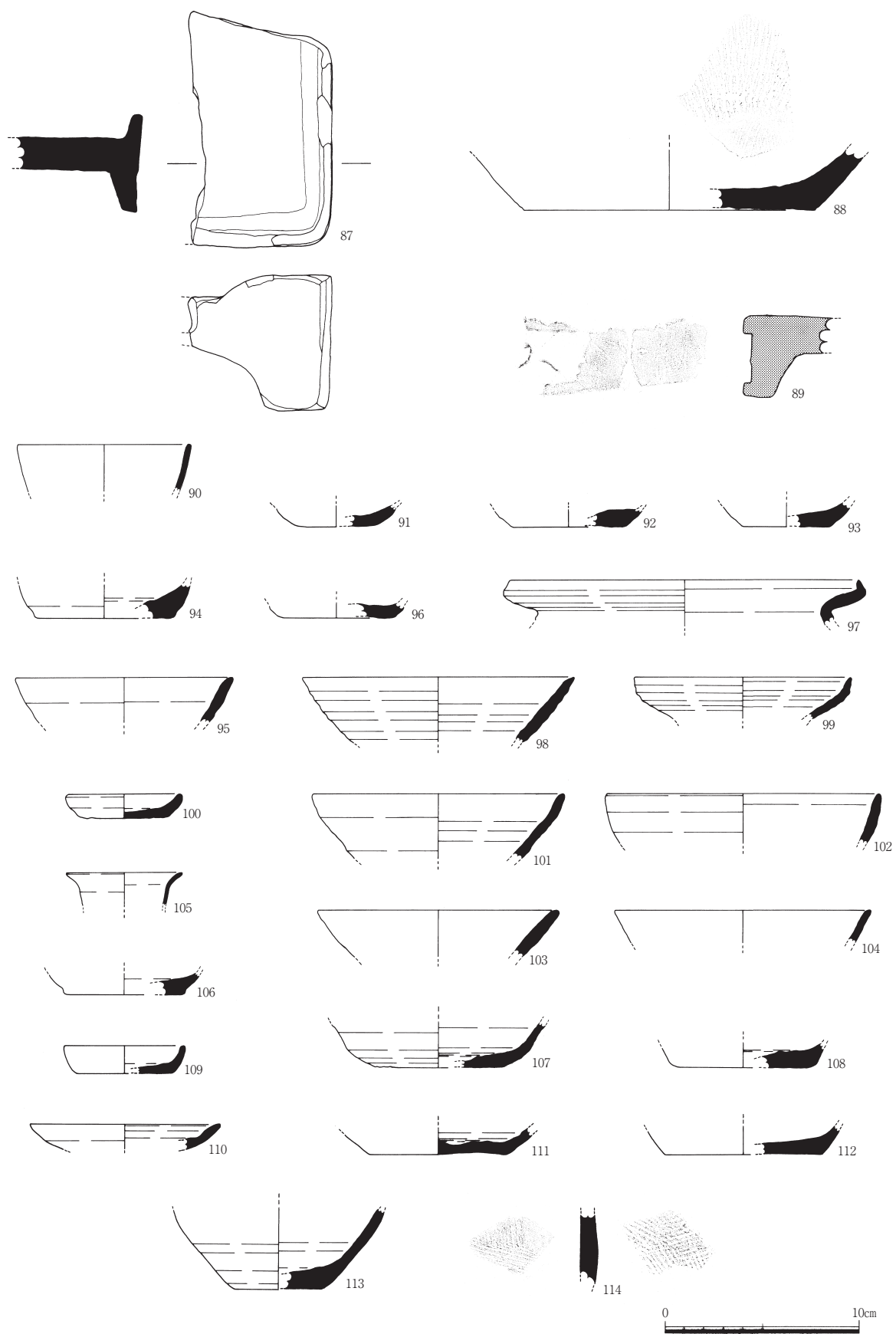


Fig. 130 B区出土遺物 4 (S : 1/3)

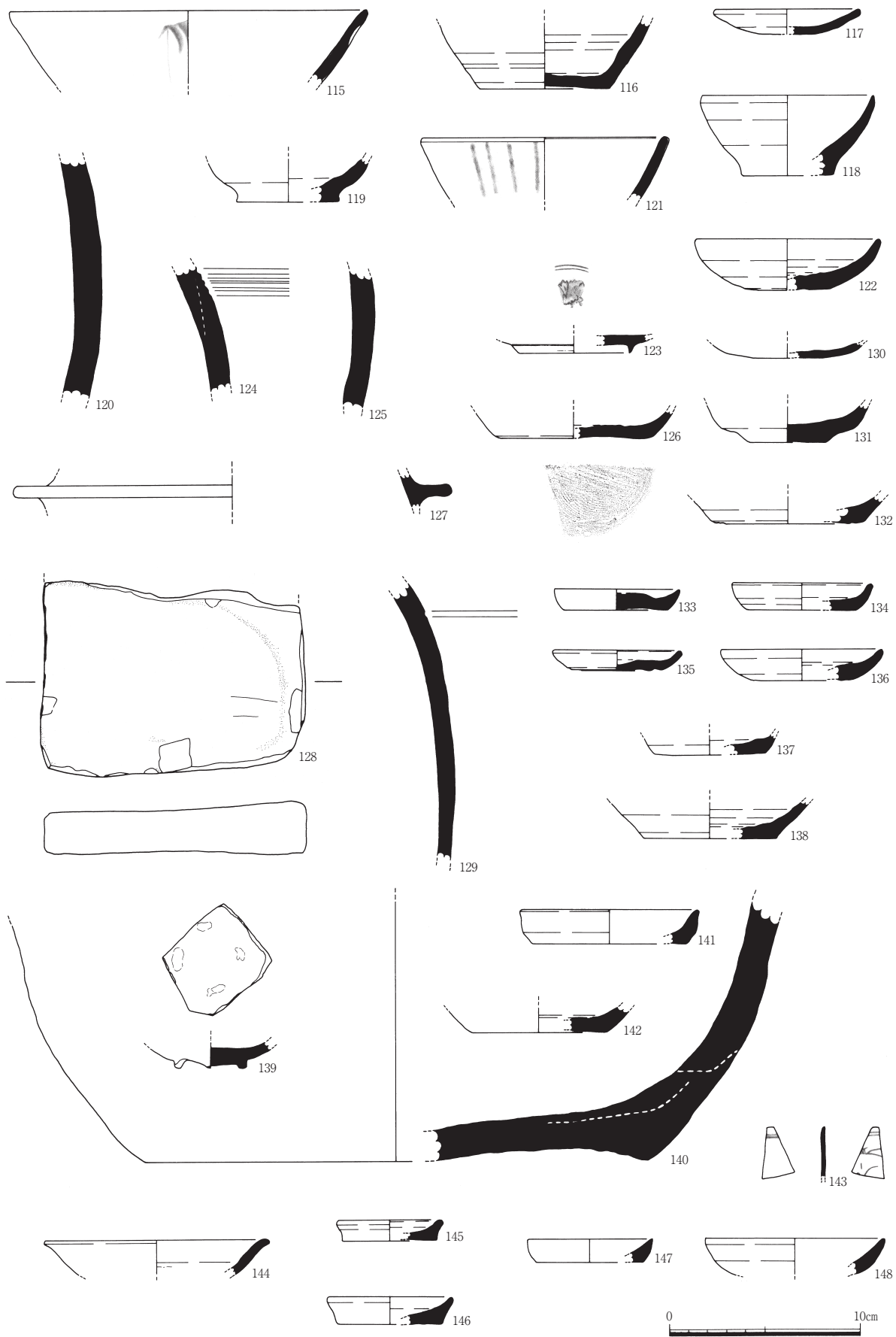


Fig. 131 B区出土遺物 5 (S : 1/3)

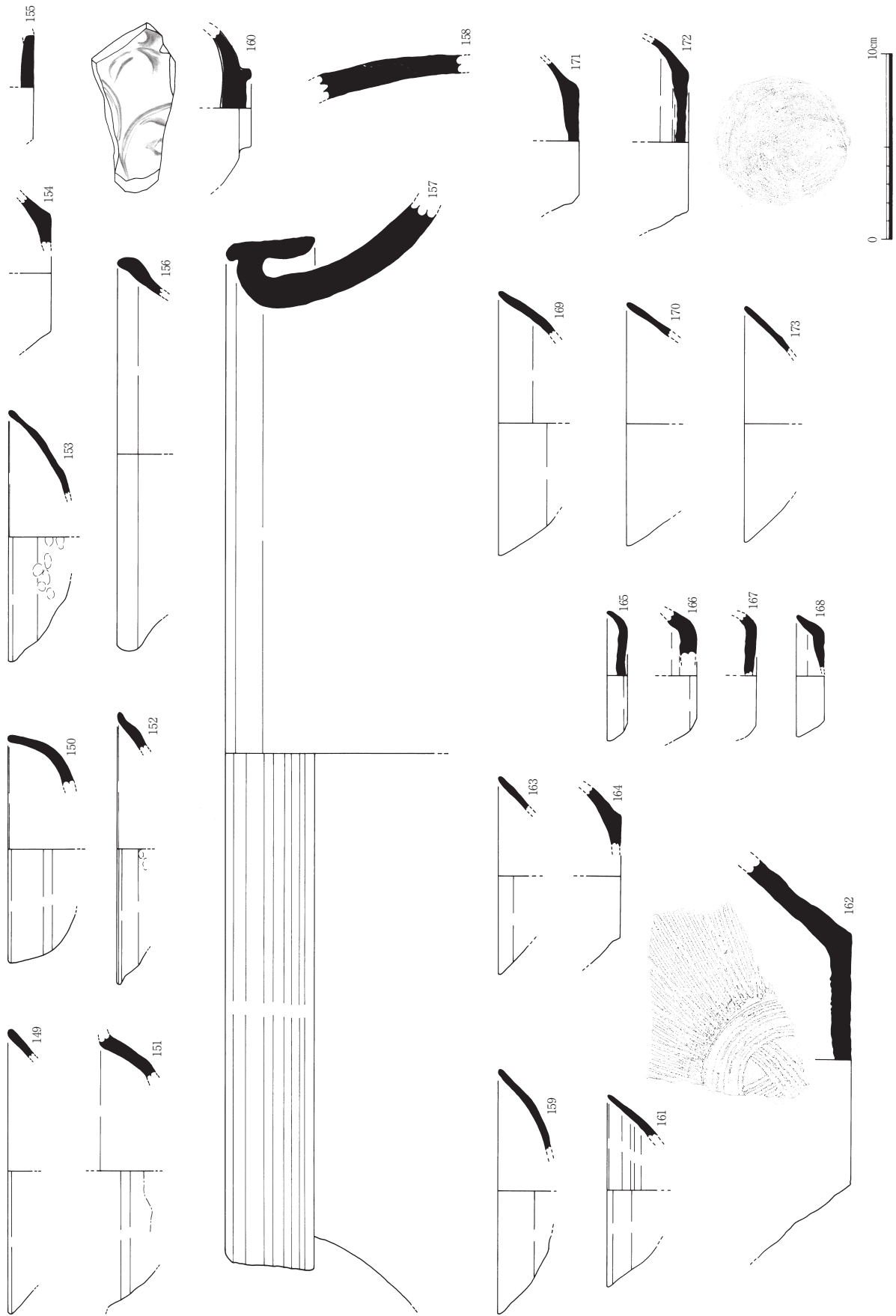


Fig. 132 B区出土遺物 6 (S : 1/3)

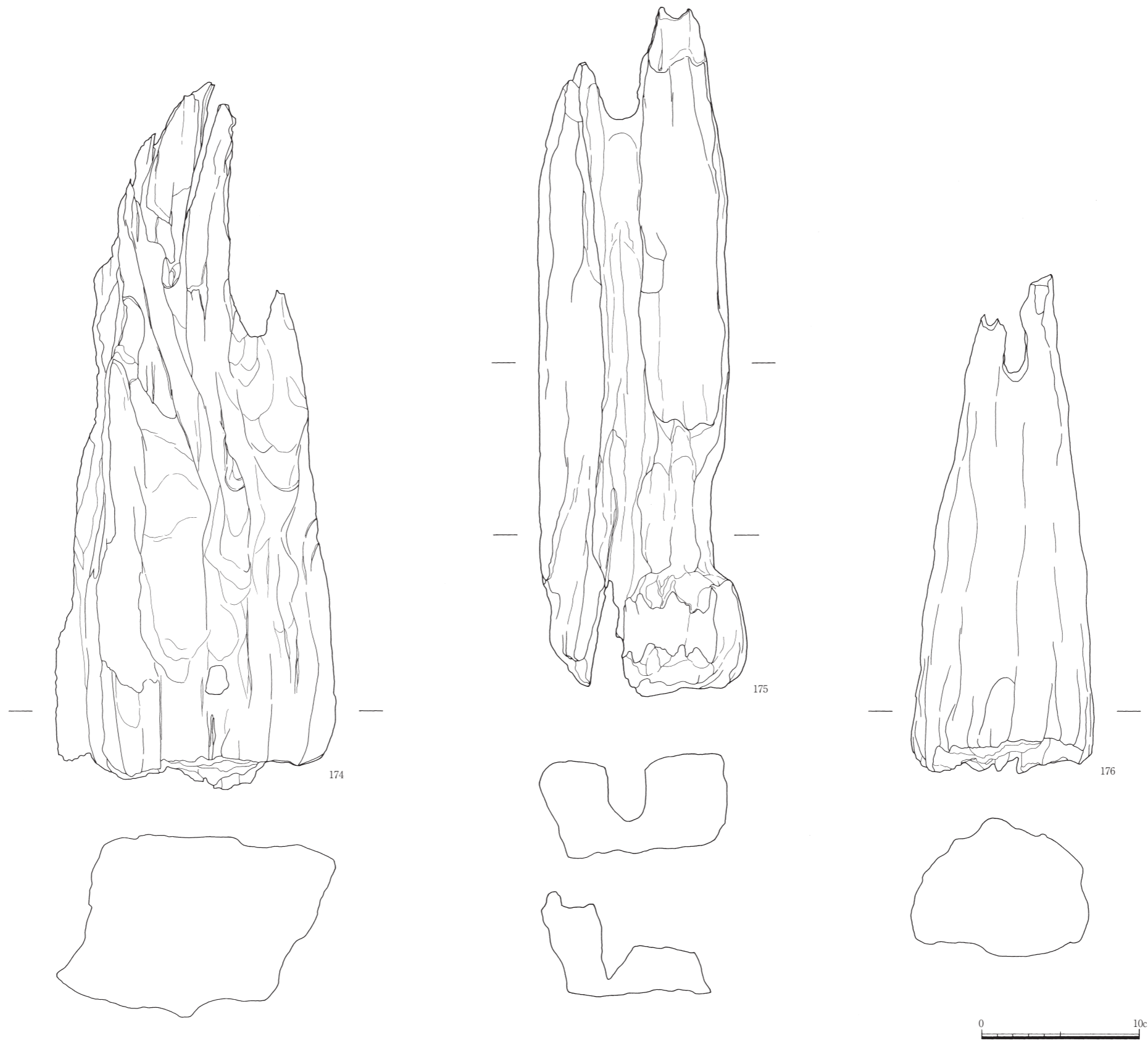


Fig.133 B区出土遺物7 (S:1/3)

5) SK36 土坑 (Fig.122) : B 区北西部の標高 6.35 ~ 6.13m 付近の標高圏で検出したやや小型の土坑であり、二段の底部はいずれも平坦である。

6) SX1 性格不明遺構 (Fig.123) : SX1 は、B 区中北部で検出した、炉状の構造を持つ円礫組・角礫敷きの遺構であるが、年代・用途ともに判然としないため、性格不明遺構に類した。過去の岩盤掘削により段状に切削された岩盤平坦部表面で検出しており、その標高は 5.53m 付近に集中する。達磨形を呈する平面形の主軸は、西から 23°北に寄る西北西を指し、主軸の長さは 3.06m を測る。構造は二つの部分からなり、達磨形の頭部が燃焼室、頸部付近が焚口、胴部は前庭の機能を担う部分と見られる。両部分を通じ、底面岩盤はほぼ無傾斜の平坦面に掘削されており、その水準は標高 5.08m 付近に集中する。したがって、現存する岩盤表面からの深度も 0.45m 付近に集中することとなる。両部分の平面規模と構造は次のとおりである。

i . 燃焼室 : 平面規模は主軸径 1.05m, 横断径 1.10m を測る。底面には最大径 40cm 以下の扁平な角礫 (割り石) を敷き詰める。石敷きと岩盤の間は炭灰混じりの焼土 (厚さ 5 ~ 1cm) が挟まる。79°傾斜の岩盤壁面は径 20cm 前後の円礫組み (約 4 ~ 5 段) で覆い、壁面間と各円礫間は焼土がつなぎとなっている。被熱・赤化は岩盤壁面の表部に及ぶ。

ii . 焚口 : 幅 60cm の狹隘部左右に角礫を 3 段程度積み、吸気口を若干絞る。この部分下位のつなぎ焼土は特に分厚い。

iii . 前庭 : 主軸径は約 1.71m を測る。西を上底、東を下底とする台形を呈し、西辺約 1.00m, 東片約 1.65m を測る。焚口に近い側では底面を焼土混じりの炭灰薄層が覆う。また、数個の角礫が分布するが、それらの原位置は不明である。

現整理段階では、燃焼に用いたこの遺構の機能は不明と言わざるを得ない。内部の被熱は全て酸化状態であり、燃料に用いたと見られる植物灰のガラス化を来していない点から、比較的低火度による燃焼を繰り返したものと見られる。また、燃焼機能上の主体部すべてを岩盤下に設ける構造は、通常の生活に用いる部類とは、相当に隔たりが大きいように思われる。この部分の基岩泥岩は、粒子が非常に細かいうえ密度も高く、対水遮断性が高い。上屋構造で覆わない限り、浸水の頻発は不可避であるが、周辺にその種の痕跡をみることはできない。遺構内はほぼ無遺物であり、埋積層半裁の初期段階において検出面直下から出土した燻瓦片 1 点を数えるのみである。その燻瓦にしても、本来遺構内部に含むべきものか微妙な水準における検出であり、遺物面からの年代比定が可能な状況ではない。ただ、この遺構付近から北側にかけては、特に近世以後の攪乱や掘り込みの多い区域であり、新しい年代に属す可能性が強いと思われる。

7) SK32 土坑跡 (Fig.124) : B 区北西部の森林褐色土層において、標高 6.80 ~ 6.75m の水準で検出した比較的大形の土坑であり、最大深度は 1.03m を測る。この検出面は弥生土器の分布面と重なり、後世の攪乱や遺物の混入が見られない点や、本遺跡の量的主体を占める中世の遺構を通じて、井戸跡以外でこれに匹敵する深度のものを見ない等の点から、弥生期の土坑と推定している。内部の埋積層は、森林褐色土と類似するが、含礫量は少なく土色が若干暗い。長径は東西を向き、1.75m を測る。この長径にそって、浅い段状の張り出しを掘り込んでいる。全体の形状は不整形であり、中央底が一段窪む。土坑全体にわたり内部は無遺物である。

表85 B区遺構計測表 1

遺構No.	検出位置	規模	高さ	形態	出土遺物	備考
B P1	B5-4	42 ×	38	31.6	不整長方形	
B P2	B5-4	20 ×	18	6.1	楕円形	
B P3	B5-9	32 ×	32	12.9	不整方形	
B P4	B5-9	48 ×	42	28.1	不整楕円形	
B P5	B5-4	108 ×	60	49.3	楕円形	
B P6	B5-4	34 ×	26	28.8	楕円形	
B P7	B5-4	φ24		35.3	円形	
B P8	B5-4	32 ×	[16]	—	円形	
B P9	B5-4	—	—	—	—	
B P10	B4-24	40 ×	[36]	39.9	円形	
B P11	B5-4	[32] ×	28	—	—	90
B P12	B5-9	φ48		50.1	円形	
B P13	B5-9	φ48		59.3	円形	
B P14	B5-8	44 ×	44	42.0	不整方形	土師器×2
B P15	B5-9	36 ×	24	3.0	不整楕円形	
B P16	B5-9	44 ×	26	20.0	不整楕円形	
B P17	B5-13	φ38		20.8	円形	
B P18	B5-13	38 ×	30	27.1	楕円形	
B P19	B5-13	40 ×	28	12.1	不整楕円形	
B P20	B5-13	47 ×	34	11.8	不整楕円形	
B P21	B5-18	40 ×	36	26.0	不整方形	磁器(染付)×1
B P22	B5-13	40 ×	29	33.3	楕円形	
B P23	B5-13	40 ×	37	21.5	楕円形	
B P24	B5-13	82 ×	32	7.2	不整長方形	
B P25	B5-14	φ32		19.0	円形	
B P26	B5-14	38 ×	30	4.1	楕円形	
B P27	B5-14	φ33		16.6	不整円形	
B P28	B5-14	46 ×	37	4.1	不整楕円形	
B P29	B5-14	52 ×	36	14.4	不整楕円形	
B P30	B5-14	φ28		3.4	円形	
B P31	B5-14	40 ×	32	8.2	不整長方形	
B P32	B5-14	28 ×	20	11.2	楕円形	
B P33	B5-14	φ40		37.2	円形	
B P34	B5-14	44 ×	32	11.9	楕円形	
B P35	B5-18	[44] ×	16	10.4	楕円形	南西壁
B P36	B5-19	40 ×	32	27.6	不整楕円形	SB21を構成する。
B P37	B5-19	36 ×	26	14.7	楕円形	
B P38	B5-19	φ28		19.2	不整円形	
B P39	B5-19	40 ×	34	9.8	楕円形	
B P40	B5-19	φ32		37.2	円形	土師器×2,須恵器×1
B P41	B5-19	44 ×	44	33.3	不整円形	SB21を構成する。
B P42	B5-19	36 ×	[20]	26.7	円形	南壁
B P43	B5-14	φ16		14.6	円形	
B P44	B5-14	32 ×	26	20.8	不整楕円形	
B P45	B5-14	φ32		14.7	円形	
B P46	B5-14	φ28		25.7	不整円形	
B P47	B5-14	φ24		9.3	円形	P48と接する。
B P48	B5-14	φ24		10.1	円形	
B P49	B5-14	φ21		12.1	不整円形	
B P50	B5-14	42 ×	32	38.8	楕円形	土師器×2
B P51	B5-14	40 ×	32	25.8	不整長方形	91,土師器×4
B P52	B5-15	φ24		13.2	円形	
B P53	B5-15	φ32		22.9	不整円形	土師器×5,炭化物
B P54	B5-14	44 ×	36	24.7	不整長方形	
B P55	B5-14	62 ×	40	13.1	不整楕円形	
B P56	B5-9	32 ×	28	21.8	楕円形	
B P57	B5-24	φ30		21.9	円形	SB21を構成する。
B P59	B5-19	36 ×	30	34.8	楕円形	
B P60	B5-20	φ38		37.1	円形	
B P61	B5-19	46 ×	36	49.9	楕円形	土師器×1

表86 B区遺構計測表 2

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
B P62	B5-19	36 ×	26	18.7	楕円形	土師器×2	
B P63	B5-20	52 ×	39	24.0	楕円形	SB21を構成する。	
B P64	B5-15	56 ×	40	20.3	楕円形	土師器×2	
B P65	B5-15	φ26		22.3	円形	92	
B P66	B5-9	24 ×	20	19.5	楕円形	土師器×1,炭化物	
B P67	B5-10	—	—	—		SD3に収束される。	
B P68	B5-10	—	—	—		SD3に収束される。	
B P70	B5-10	φ36		21.9	不整円形	土師器×2	
B P71	B5-10	38 ×	28	37.8	楕円形		
B P72	B5-10	39 ×	36	32.6	不整楕円形	鉄滓	
B P73	C5-6	φ60		14.1	不整円形		
B P74	B5-20	48	40	48.4	不整楕円形	SB21を構成する。	
B P75	B5-20	—	—	—		円礫を多く含む。	
B P76	B5-15	φ24		13.5	円形		
B P77	B5-15	φ40		35.7	円形		
B P78	B5-15	23 ×	23	16.6	隅丸方形		
B P79	B5-15	φ26		17.1	円形	93	
B P80	B5-15	φ28		14.9	円形	土師器×1	
B P81	B5-15	φ34		13.5	円形		
B P82	B5-15	φ28		18.9	円形	94,土師器×7	
B P83	B5-15	42 ×	39	51.7	不整円形	土師器×2	
B P85	B5-10	53 ×	40	43.0	楕円形	土師器×1	
B P86	B5-10	φ34		23.4	円形		
B P87	B5-10	42 ×	30	40.0	不整楕円形		
B P88	B5-10	52 ×	32	39.3	楕円形	土師器×1,陶器×1,銅製品×1,木片	
B P89	B5-10	44 ×	30	53.5	不整円形	陶器×1	
B P90	B5-15	57	53	48.7	楕円形	土師器×2,炭化物	SB15を構成する。
B P91	B5-10	48 ×	46	48.8	不整円形	土師器×1	SB15を構成する。
B P92	B5-10	φ46		47.0	円形	95,96,土師器×3	SB15を構成する。
B P93	B5-10	φ43		57.0	円形	97,98,土師器×8	SB15を構成する。
B P94	B5-5	46 ×	40	38.2	不整円形	土師器×2	P129と連なる。SB15を構成する。
B P95	B5-5	36	36	55.0	不整円形	土師器×3	SB15を構成する。
B P96	B5-15	41 ×	40	21.7	不整円形	土師器×2	SB15を構成する。
B P98	C5-6	56	52	27.6	不整円形	土師器×14,炭化物	SB15を構成する。
B P100	C5-1	56 ×	42	41.6	不整楕円形		
B P101	C5-1	48	44	52.8	楕円形	99,土師器×7	SB15を構成する。
B P102	C5-11	50 ×	38	16.6	不整楕円形	土師器×1,須恵器×1	SB15を構成する。
B P103	C5-11	φ44		32.2	円形	土師器×1	SB15を構成する。
B P104	C5-6	50 ×	48	27.7	不整円形	土師器×1	SB15を構成する。
B P105	C5-6	58 ×	48	35.9	楕円形		SB15を構成する。
B P106	C5-1	48 ×	[40]	38.7	—	土師器×3	SB15を構成する。
B P107	C5-1	φ64		59.5	円形	100,土師器×5	SB15を構成する。
B P108	C5-12	32 ×	32	14.5	不整円形	土師器×13	
B P109	C5-12					土師器×2	SK19内で切る。
B P110	C5-7	φ26		15.3	不整円形		
B P111	C5-7	36	32	27.5	不整楕円形		
B P114	C5-12	31 ×	30		不整円形		
B P115	C5-12	φ28		2.6	不整円形		
B P117	C5-8	48 ×	28	12.8	楕円形		
B P120	C5-13	18 ×	[11]		円形		
B P121	C5-18	38 ×	37		不整楕円形		
B P122	C5-8	54 ×	44	43.5	不整楕円形		
B P123	C5-4	φ46		50.5	円形	101~104,土師器×5,炭化物	
B P124	C5-15	20 ×	16	9.9	不整円形		
B P125	C5-15	28	25	7.4	楕円形		
B P126	C5-15	φ24		15.9	円形		
B P127	B5-15	φ16		4.2	円形		SK7を切る。
B P128	B5-5	58 ×	56	50.3	不整円形		
B P129	B5-5	44 ×	32	30.8	不整楕円形	土師器×1	

表87 B区遺構計測表 3

遺構No.	検出位置	規模	高さ	形態	出土遺物	備考
B P130	B5-10	38 ×	33	22.2	楕円形	
B P131	B5-10	50 ×	32	13.4	不整楕円形	
B P133	B5-10	84 ×	36	21.7	不整形	105
B P134	B5-18	28 ×	[26]	43.8	円形	柱根 南壁
B P135	B5-10	54 ×	[48]	22.2	不整円形	P89に切られる。
B P136	C7-20	φ39		18.1	円形	SB21を構成する。
B P137	B5-10	50 ×	40	23.1	不整円形	土師器×2
B P138	B5-10	φ28		15.5	円形	
B P139	B5-10	44	32	38.8	楕円形	土師器×5
B P140	B5-10	38	[34]	18.9	不整円形	土師器×2 P141に切られる。
B P141	B5-5	56	41	60.0	不整楕円形	
B P142	B5-5	37 ×	[26]	31.4	楕円形	P143に切られる。
B P143	B5-5	φ32 ×	40	21.7	楕円形	P142を切る。
B P145	B5-5	48 ×	36	25.2	楕円形	
B P146	B5-5	44	37	43.9	不整長方形	
B P147	B4-25	36 ×	28	44.0	不整楕円形	土師器×1
B P148	B4-25	44 ×	32	47.6	楕円形	106
B P149	C5-11	28 ×	18	9.7	楕円形	
B P150	C5-11	33	29	14.5	不整楕円形	
B P151	C5-11	φ18		7.9	円形	
B P152	C5-11	56	40	26.9	不整楕円形	
B P153	C5-11	36	32	23.0	楕円形	
B P154	C5-11	28	24	20.8	不整長方形	
B P155	C5-11	φ20		11.1	円形	
B P156	C5-11	24	14	5.5	不整楕円形	107,土師器×4 SK22に切られる。
B P157	C5-11	φ16		—	円形	
B P158	C5-6	φ28		18.5	不整円形	
B P159	B5-5	46 ×	32	64.6	楕円形	
B P160	B5-5	φ44		23.7	円形	108
B P161	B5-5	48	36	41.8	不整楕円形	
B P162	B5-5	50 ×	50	47.3	不整円形	
B P163	B5-5	φ48		38.2	円形	陶器×1
B P164	B5-5	40	35	43.4	楕円形	
B P165	B4-25	46 ×	38	—	楕円形	
B P166	B4-25	32	28	—	不整円形	
B P167	C5-1	38	38	22.4	不整形	
B P168	C5-1	φ40		27.4	円形	
B P169	C5-1	18	16	11.6	楕円形	
B P170	C5-1	44 ×	28	23.3	楕円形	瓦器×1
B P171	C5-6	φ66		22.3	不整円形	109,土師器×2
B P172	C5-16	φ28		16.0	円形	
B P173	C5-16	φ20		11.7	円形	
B P174	C5-17	23 ×	19	—	不整楕円形	土師器×1
B P175	C5-11	φ28		12.9	円形	110,土師器×1
B P176	C5-12	24 ×	16	8.9	不整楕円形	
B P177	C5-12	96 ×	28	12.0	長楕円形	
B P178	C5-12	—		—	—	
B P179	C5-12	52 ×	37	2.5	不整楕円形	
B P180	C5-12	34 ×	27	19.5	楕円形	
B P181	C5-12	—		—	—	P180に収束される。
B P182	C5-8	33 ×	21	2.0	楕円形	
B P184	C5-4	60 ×	52	44.7	楕円形	111~113,土師器×1
B P185	C5-4	44 ×	[40]	74.2	楕円形	土師器×4 東壁際
B P186	B4-25	36 ×	32	47.2	楕円形	
B P187	B4-25	28 ×	24	33.8	不整円形	
B P188	B4-25	22 ×	20	24.9	楕円形	P189を切る。
B P189	B4-25	[24] ×	24	17.4	楕円形	P188に切られる。
B P190	B4-25	38 ×	25	14.0	楕円形	
B P191	B4-25	φ30		14.3	円形	

表88 B区遺構計測表 4

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P192	B4-25	φ36	30.7	円形		
B P193	B4-25	φ28	—	円形		P165と連なる。
B P194	B4-25	33 ×	20	9.5	楕円形	
B P195	B4-25	42 ×	32	51.1	楕円形	
B P196	C4-21	49 ×	38	45.1	楕円形	土師器×1
B P197	C4-21	φ40	18.0	不整円形	114	P197と連なる。
B P198	C4-21	54 ×	46	49.3	楕円形	柱根
B P199	C4-21	40 ×	35	36.1	楕円形	土師器×1
B P200	C4-21	58 ×	29	31.5	不整楕円形	
B P201	C4-21	[26] ×	22	29.6	楕円形	P201と連なる。
B P202	C4-21	φ26	42.8	不整円形	瓦器×1	
B P203	C4-21	38 ×	32	36.8	不整楕円形	瓦器×1
B P204	B4-25	φ40	53.6	円形	炭化物	
B P205	B4-25	92 ×	72	67.2	隅丸長方形	
B P206	B4-25	28 ×	24	14.2	楕円形	
B P207	B4-20	[28] ×	26	35.1	楕円形	P208に切られる。
B P208	B4-20	φ60	26.4	円形		
B P209	B4-20	42 ×	40	41.8	不整円形	
B P210	B4-20	φ30	21.6	円形		
B P211	B4-20	32 ×	24	21.8	楕円形	
B P212	B4-20	45 ×	45	21.9	不整円形	
B P213	B4-20	26 ×	16	15.9	楕円形	
B P216	B4-25	56 ×	43	42.6	不整楕円形	
B P217	C4-21	24 ×	19	13.2	楕円形	
B P220	C4-21	φ32	37.3	不整円形	115,土師器×2,陶器×1	
B P221	C4-16	56 ×	46	46.1	不整楕円形	土師器×1
B P222	C4-16	φ36	33.6	円形	陶器×1	
B P223	C4-21	30 ×	28	25.8	不整円形	
B P224	C4-21	68 ×	56	39.6	楕円形	瓦器×1,瓦質土器×1
B P225	C4-21	24 ×	16	15.4	楕円形	礎
B P225	C5-4	72 ×	36	36.2	楕円形	
B P226	C4-21	20 ×	17	10.4	楕円形	
B P227	C4-21	22 ×	16	18.6	隅丸長方形	
B P228	C4-21	φ28	52.4	円形		
B P229	C5-1	46 ×	40	32.9	不整楕円形	
B P230	C4-21	59 ×	48	37.8	不整楕円形	
B P231	C5-1	30 ×	26	13.8	不整楕円形	
B P232	C5-7	φ66	11.3	円形	土師器×1	
B P233	C4-21	42 ×	34	9.9	不整楕円形	P232の一つ
B P234	C5-7	46 ×	32	32.9	楕円形	
B P235	C4-21	46 ×	36	39.3	楕円形	116,土師器×3
B P236	C4-21	φ28	13.8	円形	土師器×1	
B P237	C4-21	28 ×	25	28.9	楕円形	
B P238	C4-21	φ34	27.0	円形		
B P239	C5-1	40 ×	30	31.6	楕円形	土師器×1,瓦器×2
B P240	C4-21	38 ×	33	32.4	不整楕円形	
B P241	C4-21	44 ×	42	50.1	不整方形	117,土師器×1
B P242	C4-21	24 ×	[20]	23.2	不整形	
B P243	C4-22	[36] ×	36	45.8	不整円形	
B P244	C4-22	52 ×	44	45.4	楕円形	縄文土器?×1,土師器×2
B P245	C4-23	52 ×	[40]	78.9	楕円形	
B P246	C4-23	52 ×	[48]	37.3	円形	土師器×6
B P248	C4-17	36 ×	34	37.2	不整円形	
B P249	C4-17	φ44	66.5	不整円形		
B P250	C4-22	44 ×	35	54.2	楕円形	
B P251	C4-17	64 ×	57	53.8	楕円形	118
B P252	C4-12	64 ×	50	43.9	楕円形	119,120,土師器×3
B P253	C4-12	20 ×	18	18.5	楕円形	
B P254	C4-17	φ24	21.7	円形	土師器×1	

表89 B区遺構計測表 5

遺構No.	検出位置	規模	高さ	形態	出土遺物	備考	
B P256	C4-17	φ25	25.9	円形	土師器×1		
B P257	C4-17	24 ×	24	35.5	不整形		
B P258	C4-17	φ16	20.2	円形			
B P259	C4-17	φ16	10.3	円形			
B P261	C4-17	60 ×	56	38.7	不整形		
B P262	C4-17	49 ×	[32]	50.5	円形	121,土師器×5,釘×1,炭化物	P264に切られる。
B P263	C4-17	68 ×	52	31.2	不整形		礎
B P264	C4-17	φ29	41.0	円形	土師器×4,炭化物		P262を切る。
B P265	C4-17	60 ×	44	48.7	不整形		
B P266	C4-17	32 ×	26	45.1	楕円形		
B P267	C4-12	φ18	30.7	円形			
B P268	C4-12	φ32	48.8	円形			
B P269	C4-17	φ20	9.8	円形	122		
B P270	C4-13	60 ×	[36]	50.8	楕円形		
B P271	C4-17	52 ×	[46]	41.4	不整形		P272と連なる。
B P272	C4-17	40 ×	[34]	35.2	不整形		P271と連なる。
B P273	C4-17	23 ×	21	—	不整形		
B P274	C4-17	φ18	9.3	円形			
B P275	C4-16	28 ×	22	42.6	楕円形	柱根,炭化物	
B P276	C4-16	60 ×	56	42.6	不整形	土師器×2,瓦器×3,須恵器×1	
B P277	C4-17	18 ×	16	19.8	楕円形		
B P278	C4-17	φ25	33.2	円形	土師器×3,木片		
B P279	C4-17	24 ×	24	35.7	不整形	瓦器×1	
B P281	C4-16	24 ×	20	30.2	楕円形		
B P282	C4-16	38 ×	32	17.9	楕円形		
B P283	C4-16	φ14	14.6	円形			
B P284	C4-16	20 ×	18	12.2	不整形	瓦器×1	
B P286	C4-16	φ24	37.2	円形			
B P287	C4-11	32 ×	28	38.0	不整形	土師器×2,瓦	
B P288	C4-11	38 ×	32	54.9	楕円形	123	
B P289	C4-11	28 ×	18	16.7	楕円形		
B P290	C4-11	28 ×	20	18.6	楕円形		
B P291	C4-11	30 ×	28	25.9	不整形	土師器×3	
B P292	C4-11	[40] ×	32	33.0	楕円形		P293と連なる。
B P293	C4-16	[40] ×	32	30.8	楕円形	土師器×5	P292と連なる。
B P294	C4-17	φ18	28.9	円形			
B P295	C4-17	φ22	21.8	円形			
B P296	C4-12	28 ×	24	43.4	楕円形	土師器×1	
B P297	C4-17	44 ×	40	52.3	不整形	124,土師器×1	
B P298	C4-12	34 ×	26	45.7	楕円形	125	
B P299	C4-12	24 ×	22	38.2	不整形	弥生土器×1,土師器×2,瓦器×1	
B P300	C4-12	φ21	39.0	円形			
B P301	C4-16	φ18	12.1	円形	土師器×1		
B P302	C4-16	φ32	36.7	円形	土師器×1		
B P303	C4-16	33 ×	[28]	22.6	卵形		
B P304	C4-16	68 ×	34	26.3	楕円形		
B P305	C4-16	44 ×	36	7.6	楕円形		
B P306	C4-16	φ16	18.8	円形	土師器×1		
B P307	C4-16	40 ×	32	24.2	楕円形	柱根	
B P308	C4-16	66 ×	22	44.1	楕円形	弥生土器×1,土師器×19,瓦器×1,鉄滓	
B P309	C4-16	66 ×	50	39.9	不整形	土師器×1	P310を切る。
B P310	C4-16	16 ×	[10]	4.0	円形		P309に切られる。
B P311	C4-11	φ40	58.0	円形			SK25に掛る。
B P312	C4-11	27 ×	21	35.4	不整形		
B P313	C4-11	φ16	15.4	円形			
B P314	C4-11	φ18	37.2	円形			
B P316	C4-11	37 ×	32	52.5	楕円形		
B P317	C4-11	φ12	21.0	円形			
B P318	C4-16	84 ×	24	17.2	長楕円形		礎を含む。

表90 B区遺構計測表 6

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
B P319	C4-11	62 ×	52	44.2	不整楕円形	126,127,土師器×5,瓦器×1,土師質土器×1	
B P320	C4-11	28 ×	26	41.9	不整円形	土師器×2	
B P321	C4-11	φ24		52.4	円形		SK28を切る。
B P322	C4-12	φ28		44.6	円形		SK28を切る。
B P323	C4-12	φ16		35.0	不整円形		
B P324	C4-12	φ17		31.2	不整円形		
B P325	C4-12	28 ×	26	18.7	不整円形		
B P326	C4-12	φ20		41.8	円形		
B P327	C4-12	φ29		44.3	円形		
B P328	C4-12	φ28		43.4	円形		
B P329	C4-12	22 ×	18	64.6	楕円形	土師器×2,土師質土器×1,青磁×1	SK28に切られる。
B P330	C4-12	28 ×	24	—	円形	土師器×1	SK28を切る。
B P332	C4-12	20 ×	16	21.5	楕円形		礎
B P333	C4-12	φ24		27.9	円形	128,129,陶器×1	
B P335	C4-12	29 ×	32	49.4	隅丸方形		
B P336	C4-11	24 ×	21	13.1	楕円形		
B P325	C4-12	28 ×	26	18.7	不整円形		
B P337	C4-17	18 ×	12	19.9	楕円形		
B P338	C4-17	34 ×	[24]	40.0	不整楕円形		P339と連なる。
B P339	C4-17	20 ×	16	16.7	楕円形		P338と連なる。
B P340	C4-17	37 ×	24	20.3	楕円形		
B P341	C4-17	φ24		41.5	不整円形		
B P342	C4-12	75 ×	61	—	不整形		P443に収束する。
B P343	C4-17	φ20		31.5	円形	土師器×1	
B P344	C4-12	28 ×	26	51.6	不整円形		
B P345	C4-12	48 ×	24	7.5	楕円形		
B P346	C4-12	24 ×	23	51.9	隅丸方形		
B P347	C4-12	φ27		36.9	円形		
B P348	C4-12	76 ×	34	40.9	不整楕円形		
B P349	C4-12	[40] ×	29	17.6	楕円形		P350に切られる。
B P350	C4-12	[56] ×	32	64.9	隅丸長方形		P349を切る。
B P351	C4-12	φ32		46.7	円形	131,132,土師器×10	
B P352	C4-12	—	—	—	—	土師器×2,炭化物	
B P354	C4-17	32 ×	22	21.8	楕円形	土師器×1	
B P355	C4-17	56 ×	49	36.6	長楕円形		
B P356	C4-17	70 ×	58	64.2	不整長方形	133~138,土師器×23,炭化物	
B P357	C4-17	38 ×	30	35.4	楕円形		
B P358	C4-17	18 ×	14	15.5	楕円形		
B P358	C4-3	34 ×	30	31.3	不整円形		
B P359	C4-17	60 ×	30	21.0	楕円形		
B P359	C4-12	32 ×	18	46.1	楕円形		
B P360	C4-17	—	—	—	土師器×1		P359に収束する。
B P361	C4-17	36 ×	24	20.3	楕円形		P359とP360に接する。
B P362	C4-16	φ73		49.7	円形	土師器×2	
B P363	C4-16	28 ×	[16]	5.1	円形		P362に切られる。
B P364	C4-17	56 ×	52	64.9	不整円形		
B P365	C4-23	32 ×	22	20.7	楕円形		
B P366	C4-23	20 ×	17	14.6	隅丸長方形		
B P367	C4-23	40 ×	36	52.5	楕円形		
B P368	C8-24	[40] ×	36	17.4	不整楕円形		P369と連なる。
B P369	C8-24	φ44		34.9	円形		
B P370	C8-24	45	41	38.3	不整円形	139,土師器×1	
B P371	C8-24	φ18		25.3	円形		
B P372	C4-23	22 ×	19	9.5	楕円形		
B P373	C4-23	52 ×	20	13.6	楕円形		
B P374	C4-23	24 ×	16	19.7	楕円形		
B P376	C4-23	44 ×	32	54.0	楕円形	土師器×1	P374とP377とに連なる。
B P377	C4-23	36 ×	24	22.9	不整形	140	P374とP376とに連なる。

表91 B区遺構計測表 7

遺構No.	検出位置	規模	高さ	形態	出土遺物	備考
B P378	C4-23	42 ×	40	51.8	楕円形	
B P379	C4-23	36 ×	[26]	54.9	楕円形	柱根
B P380	C4-23	φ40		18.5	円形	
B P381	C4-23	46 ×	44	26.5	不整円形	141,142,土師器×20,炭化物
B P382	C4-23	32 ×	30	6.4	隅丸方形	土師器×2
B P383	C4-23	51 ×	44	30.2	楕円形	陶器×1
B P384	C4-18	φ24		20.6	円形	
B P386	C4-18	φ28		42.6	円形	143
B P387	C4-18	40 ×	30	15.7	楕円形	
B P388	C4-18	36 ×	32	34.0	楕円形	土師器×1,陶器×2
B P389	C4-18	φ32		—	円形	144
B P390	C4-13	22 ×	16	—	不整楕円形	
B P391	C4-13	16 ×	14	—	楕円形	
B P392	C4-13	φ20		24.1	不整円形	
B P393	C4-13	φ24		13.1	円形	
B P394	C4-13	φ18		16.1	円形	
B P395	C4-13	49 ×	42	—	不整楕円形	
B P396	C4-13	40 ×	28	37.3	楕円形	
B P397	C4-13	72 ×	40	42.8	楕円形	土師器×5
B P398	C4-18	39 ×	36	47.7	不整円形	木片×1
B P399	C4-18	36 ×	22	53.1	不整楕円形	145,146,土師器×1
B P400	C4-18	58 ×	22	36.4	不整楕円形	
B P401	C4-13	φ32		40.6	楕円形	
B P402	C4-13	13 ×	11	—	不整円形	土師器×2
B P403	C4-13	30 ×	24	33.9	不整楕円形	土師器×1
B P404	C4-13	φ14		14.5	円形	
B P405	C4-22	φ40		28.3	不整楕円形	
B P411	C4-18	φ32		18.4	円形	147,土師器×7,炭化物
B P412	C5-3	84 ×	52	41.7	不整楕円形	土師器×3
B P413	C5-3	46 ×	38	22.6	楕円形	土師器×1
B P414	C5-13	21 ×	15	—	楕円形	土師器×1
B P415	C5-3	32 ×	24	32.1	楕円形	
B P418	C5-3	52 ×	40	16.3	楕円形	
B P419	C4-12	53 ×	[28]	30.7	楕円形	陶器×1
B P420	C4-12	[32] ×	36	51.9	円形	
B P421	C4-12	28 ×	25	15.1	楕円形	
B P422	C4-18	82 ×	46	50.2	三日月形	土師器×1
B P423	C4-18	32 ×	28	19.3	楕円形	
B P424	C4-18	24 ×	20	15.5	円形	
B P425	C4-19	28 ×	20	19.9	楕円形	
B P426	C4-19	28 ×	24	44.0	不整楕円形	148,須恵器×1
B P427	C4-18	104 ×	[32]	34.8	楕円形	
B P428	C4-13	30 ×	20	28.7	楕円形	
B P429	C4-13	φ28		33.0	円形	
B P430	C4-13	φ24		22.7	円形	
B P431	C4-13	56 ×	[46]	27.5	楕円形	
B P432	C4-13	28 ×	28	47.6	楕円形	土師質土器×4,瓦質土器×1
B P433	C4-12	44 ×	41	40.9	楕円形	陶器×1
B P434	C4-12	40 ×	34	58.2	円形	
B P435	C4-7	42 ×	32	51.0	楕円形	
B P436	C4-12	φ21		—	円形	
B P437	C4-12	20 ×	18	36.8	不整楕円形	
B P438	C4-19	28 ×	[20]	43.1	円形	
B P439	C4-19	38 ×	28	47.5	不整円形	
B P440	C4-19	20 ×	16	4.6	楕円形	
B P441	C4-19	28 ×	22	20.6	楕円形	
B P442	C4-19	φ16		7.2	円形	
B P443	C4-12	72 ×	52	39.0	不整楕円形	
B P445	C4-12	48 ×	26	47.5	溝状	

表92 B区遺構計測表 8

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P446	C4-12	40 ×	32	44.3	溝状	
B P447	C4-12	18 ×	16	20.1	楕円形	
B P448	C4-12	48 ×	48	51.0	不整形	149
B P449	C4-19	32 ×	25	28.0	不整楕円形	
B P450	C4-19	28 ×	24	16.7	不整形	
B P451	C4-19	24 ×	20	16.3	不整楕円形	150
B P452	C4-13	23 ×	[16]	31.7	楕円形	
B P453	C4-13	46 ×	28	12.4	不整楕円形	磔
B P454	C4-18	—	—	—	—	
B P455	C4-18	24 ×	16	15.2	楕円形	
B P456	C4-19	—	—	—	—	
B P457	C4-24	[44] ×	42	21.8	不整楕円形	
B P458	C4-24	[30] ×	25	7.9	楕円形	
B P459	C4-24	18 ×	16	5.4	楕円形	
B P460	C4-24	φ40		14.5	円形	
B P461	C4-7	48 ×	45	36.8	楕円形	土師器×3
B P462	C4-7	43 ×	40	34.9	不整形	瓦器×1
B P463	C4-6	44 ×	44	23.8	不整形	土師器×1
B P464	C4-6	45 ×	[32]	26.9	楕円形	
B P465	C4-6	80 ×	40	33.6	不整楕円形	
B P466	C4-6	60 ×	48	17.6	不整楕円形	
B P467	B4-20	36 ×	[32]	14.9	円形	陶器×1
B P468	B4-20	52 ×	24	29.4	楕円形	
B P469	B4-20	36 ×	22	34.5	不整楕円形	
B P470	B4-20	28 ×	20	35.4	不整楕円形	
B P471	B4-20	[48] ×	44	33.8	楕円形	土師器×1
B P472	C4-16	φ48		26.5	円形	陶器×1,須恵器×1
B P474	C4-16	24 ×	22	16.3	不整形	
B P475	C4-16	37 ×	33	39.3	楕円形	
B P476	C4-23	36 ×	24	13.2	楕円形	土師器×2
B P476	C4-16	52 ×	36	37.7	隅丸長方形	
B P477	C4-11	40 ×	36	71.9	楕円形	弥生土器×2,土師器×1,瓦器×5,陶器×1, 鉄滓
B P478	C4-6	φ20		39.3	円形	
B P479	C4-6	37 ×	32	31.0	楕円形	瓦
B P480	C4-6	33 ×	28	53.1	楕円形	
B P481	B4-10	26 ×	24	30.9	楕円形	
B P482	B4-10	54 ×	42	18.6	不整楕円形	
B P483	C4-6	φ16		15.7	円形	
B P484	B4-10	62 ×	48	30.2	不整形	
B P485	B4-10	48 ×	42	46.1	不整楕円形	
B P486	B4-10	36 ×	40	39.5	不整形	
B P490	C4-6	24 ×	16	16.3	不整楕円形	
B P491	C4-6	28 ×	28	29.3	不整楕円形	P493と接する。
B P491	C5-4	56 ×	[24]	30.4	円形	東壁
B P492	C5-4	56 ×	[24]	30.4	円形	東壁
B P493	C4-6	60 ×	28	36.5	不整楕円形	P491と接する。
B P494	C4-6	68 ×	24	29.9	不整長楕円形	
B P495	C4-16	48 ×	44	41.6	楕円形	
B P496	C4-16	38 ×	[36]	46.4	楕円形	
B P497	B4-10	53 ×	48	41.0	不整形	
B P498	B4-10	φ32		42.5	円形	土師器×1
B P499	B4-10	32 ×	22	50.4	楕円形	
B P501	B4-10	φ40		14.0	円形	
B P502	B3-10	76 ×	54	16.2	不整長方形	
B P503	C4-6	54 ×	44	19.3	楕円形	
B P504	B3-15	66 ×	52	40.9	楕円形	
B P505	B3-15	φ44		49.9	円形	鉄滓
B P506	B3-15	54 ×	44	37.7	不整楕円形	

表93 B区遺構計測表 9

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
B P507	B3-20	21 ×	18	40.0	楕円形		
B P508	B3-19	42 ×	32	14.5	楕円形	木製品(柱?)	
B P509	B3-14	27 ×	18	17.9	不整楕円形		
B P510	C3-11	52 ×	52	9.6	不整円形	磁器(染付)×1	磔
B P513	B3-19	20 ×	17	41.8	楕円形		
B P514	B3-19	56 ×	31	41.0	不整楕円形		
B P515	B3-19	φ56		53.8	円形		
B P516	C3-11	φ15		37.5	円形		
B P517	C3-16	φ28		49.6	円形		
B P518	C3-21	34 ×	30	58.3	楕円形	土師器×1	
B P519	C3-21	24 ×	24	38.8	不整円形	152	
B P520	C3-21	28 ×	25	45.0	不整円形	153	
B P521	B3-25	40 ×	32	33.3	楕円形		
B P522	B3-25	32 ×	32	21.8	不整円形		
B P523	B3-25	φ36		54.2	円形	土師器×2,炭化物	
B P524	B3-25	40 ×	36	68.6	不整楕円形	154	
B P525	B3-25	44 ×	34	64.8	不整楕円形		
B P526	B3-25	41 ×	26	39.0	不整楕円形		
B P527	B4-5	35 ×	35	62.2	不整方形		
B P528	C3-21	33 ×	28	40.3	楕円形		
B P532	C3-17	[24] ×	14	16.0	楕円形	鉄製品×1	
B P533	C3-12	24 ×	22	32.3	不整楕円形		
B P534	C3-17	52 ×	[40]	17.8	不整形		
B P535	C3-12	56 ×	[50]	18.3	不整楕円形		
B P536	C3-12	60 ×	42	6.2	不整楕円形		
B P537	C3-12	40 ×	34	8.9	楕円形	L形鉄製品×1,陶器×1	
B P538	B4-5	32 ×	28	51.7	不整円形	炭化物	
B P539	B4-5	48 ×	36	66.5	不整楕円形	弥生土器×1,土師器×1	
B P540	B4-5	40 ×	37	45.2	不整円形		
B P542	B3-25	32 ×	32	39.4	不整形		
B P543	B3-25	[28] ×	32	46.4	円形		
B P544	B3-25	50 ×	41	19.3	不整形		
B P545	B3-25	φ28		45.7	円形		
B P549	C3-21	40 ×	36	34.8	楕円形		
B P550	C4-11	72 ×	32	56.6	楕円形	瓦器×1,炭化物	SK25に関わる。
B P551	C4-11	44 ×	36	58.7	不整楕円形		
B P552	C4-11	22 ×	20	21.7	不整方形	土師器×2	
B P553	C4-11	52 ×	36	43.3	楕円形	土師器×1,棒状鉄製品×1	
B P554	C4-11	16 ×	14	14.3	楕円形	155,156	
B P555	C4-11	24 ×	16	22.3	楕円形		
B P558	C4-11	φ16		25.9	円形		
B P559	C4-11	18 ×	[16]	18.3	不整円形		P320に切られる。
B P560	B3-25	[32] ×	15	19.9	楕円形	157,158,陶器×1,炭化物	SK34に切られる。
B P561	B3-25	φ13		—	円形		SK34に切られる。
B P562	C4-1	56 ×	36	15.5	不整楕円形		
B P563	C3-21	φ54		60.5	円形		
B P564	C4-1	36 ×	30	57.7	楕円形	159,土師器×2	
B P565	C3-21	33 ×	31	49.8	不整円形		
B P566	C4-1	41 ×	36	54.3	不整方形	160,土師器×6,瓦器×4,瓦質土器×2	
B P567	C4-1	φ25		28.7	円形		
B P568	C4-1	22 ×	20	36.4	楕円形		
B P569	C4-1	39 ×	36	57.0	不整方形		
B P570	C4-1	42 ×	24	30.9	不整楕円形		P571を切る。
B P571	C4-1	[16]	16	10.6	楕円形		P570に切られる。
B P572	C4-1	18 ×	14	31.9	楕円形		
B P573	C4-1	34 ×	26	17.9	楕円形		
B P574	C4-2	32 ×	28	7.4	不整楕円形		
B P575	C4-2	61 ×	44	12.6	不整楕円形		
B P577	C4-13	32 ×	31	46.6	不整方形		

表94 B区遺構計測表 10

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P579	C4-1	21 ×	20	16.7	不整円形	
B P580	C4-1	φ28		28.8	円形	
B P581	C4-10	φ20		13.8	円形	
B P583	D3-10	33 ×	20	19.8	楕円形	
B P584	D3-15	24 ×	22	18.2	楕円形	
B P587	D3-15	20 ×	[12]	7.6	楕円形	東壁
B P588	D3-15	44 ×	29	16.8	楕円形	東壁際
B P589	D3-15	33 ×	24	16.0	不整楕円形	
B P590	D3-15	42 ×	37	22.1	不整楕円形	161,土師器×2,陶器×1
B P591	D3-10	28 ×	28	43.5	不整方形	
B P593	D3-9	56 ×	44	64.6	楕円形	
B P594	D3-9	32 ×	24	41.6	不整楕円形	
B P595	D3-9	44 ×	40	21.2	楕円形	
B P596	D3-14	φ33		22.5	不整円形	
B P597	D3-14	φ25		15.0	不整円形	
B P598	D3-14	42 ×	33	25.3	楕円形	
B P599	D3-10	38 ×	33	41.3	不整楕円形	土師器×1,瓦器×1
B P600	D3-15	29 ×	26	28.3	不整円形	土師器×2
B P601	D3-19	26 ×	20	13.5	楕円形	
B P602	D3-9	33 ×	32	37.3	楕円形	
B P603	D3-9	32 ×	30	46.0	不整楕円形	
B P604	D3-14	45 ×	45	24.9	不整円形	
B P605	D3-19	φ20		17.1	円形	
B P606	D3-19	21 ×	[16]	20.1	楕円形	東壁
B P607	D3-15	28 ×	24	37.6	楕円形	
B P608	D3-9	28 ×	20	12.6	楕円形	
B P609	D3-14	29 ×	25	16.8	不整楕円形	
B P610	D3-14	52 ×	37	17.9	不整楕円形	
B P611	D3-3	42 ×	38	52.6	不整円形	
B P612	D3-3	36 ×	24	—	楕円形	
B P614	D3-8	φ37		35.4	円形	162
B P615	D3-8	27 ×	26	21.7	不整円形	
B P616	D3-13	36 ×	29	24.2	楕円形	土師器×1
B P617	C3-11	φ28		12.6	円形	
B P618	C3-11	φ17 ×	18	23.0	円形	
B P619	C3-11	19 ×	16	16.4	楕円形	
B P620		22 ×	17	—	楕円形	土師器×1
B P621	C4-5	28 ×	16	16.2	楕円形	
B P622	C4-5	32 ×	24	12.0	不整楕円形	
B P623	C4-5	22 ×	18	14.1	楕円形	
B P624	D4-1	28 ×	20	11.1	楕円形	
B P625	D3-21	26 ×	26	9.9	不整円形	
B P626	D3-16	24 ×	18	—	楕円形	
B P627	D3-17	48 ×	36	38.9	不整楕円形	
B P628	D3-12	38 ×	32	15.5	不整楕円形	釘? ×2
B P629	D3-12	28 ×	20	6.0	不整楕円形	
B P630	D3-7	36 ×	29	17.2	不整楕円形	
B P631	D3-8	18 ×	[16]	10.2	楕円形	土師器×2 P632に切られる。
B P632	D3-8	60 ×	52	23.6	不整円形	P631を切る。
B P633	D3-13	φ21		11.9	円形	
B P634	D3-13	φ28		9.9	不整円形	
B P635	D3-13	32 ×	19	16.7	不整楕円形	
B P636	D3-13	20 ×	17	15.8	楕円形	
B P637	D3-13	33 ×	28	23.9	楕円形	
B P638	D3-13	42 ×	38	20.8	不整楕円形	
B P639	D3-13	φ26		8.0	円形	
B P640	D3-14	50 ×	36	23.5	不整楕円形	
B P641	D3-18	20 ×	20	7.6	不整円形	炭化物
B P643	D3-22	24 ×	24	8.7	不整円形	

表95 B区遺構計測表 11

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P644	D3-18	25 ×	23	6.7	不整円形	
B P645	D3-22	30 ×	30	29.9	不整方形	P646を切る。
B P646	D3-22	24 ×	[18]	10.5	円形	
B P647	D3-23	29 ×	28	4.1	不整円形	
B P648	D3-22	24 ×	20	9.5	楕円形	
B P649	D3-19	28 ×	24	16.5	楕円形	
B P650	D3-22	24 ×	24	16.7	不整楕円形	
B P651	D3-22	28 ×	21	12.3	不整楕円形	土師器×1,鉄滓
B P652	D3-23	26 ×	20	12.3	楕円形	
B P653	D3-23	28 ×	22	19.7	楕円形	
B P654	D4-2	φ22		11.0	円形	
B P655	D4-2	φ16		19.7	円形	
B P656	D3-23	32 ×	28	11.3	不整楕円形	
B P657	D4-2	φ26		24.2	円形	
B P659	D4-6	28 ×	24	6.2	楕円形	
B P660	D4-6	36 ×	28	31.9	楕円形	
B P661	D4-6	44 ×	34	36.5	楕円形	
B P662	D3-15	30 ×	24	26.0	不整楕円形	土師器×1,瓦器×1
B P663	D3-15	36 ×	34	36.6	楕円形	
B P664	D3-15	31 ×	25	27.5	不整楕円形	青磁×1
B P665	D3-15	40 ×	37	16.8	不整方形	
B P666	D3-9	φ26		31.8	円形	
B P667	D3-9	38 ×	30	27.8	不整楕円形	163,結晶片岩
B P668	D3-9	88 ×	[40]	21.9	—	北端トレンチ
B P669	C4-6	60 ×	39	27.2	楕円形	土師器×2,炭化物
B P670	C4-6	36 ×	32	42.3	楕円形	
B P671	C4-6	32 ×	24	23.2	楕円形	
B P672	C4-6	[44] ×	40	25.1	不整形	P672を切る。
B P673	C4-6	32 ×	[25]	28.7	円形	P673を切り、P671に切られる。
B P674	D4-7	18 ×	16	12.7	楕円形	P672に切られる。
B P675	D3-22	38 ×	28	21.0	楕円形	
B P676	D4-6	24 ×	20	49.9	楕円形	
B P677	D4-6	φ20		9.9	円形	
B P678	D4-6	17 ×	13	10.0	楕円形	
B P679	D4-6	φ28		28.2	円形	
B P680	D4-6	φ20		14.6	円形	鉄滓
B P681	D4-11	16 ×	13	14.9	楕円形	
B P682	D4-11	32 ×	12	13.5	楕円形	
B P683	D4-11	φ20		13.9	円形	
B P684	D4-11	φ24		10.3	円形	
B P685	D4-11	32 ×	26	12.0	楕円形	
B P686	D3-8	36 ×	29	10.4	不整円形	
B P687	D3-8	30 ×	26	23.8	楕円形	
B P688	D3-8	28 ×	28	15.2	不整円形	
B P689	D3-7	φ17		—	円形	
B P690	D3-7	22 ×	20	20.2	楕円形	
B P691	D3-7	φ16		5.9	円形	
B P692	D3-7	[18] ×	18	19.5	楕円形	
B P693	D3-12	[28] ×	22	22.1	楕円形	
B P694	D3-12	φ14		9.9	円形	
B P695	D3-13	29 ×	16	15.3	楕円形	
B P696	D3-13	32 ×	[18]	10.9	楕円形	
B P697	D3-13	44 ×	34	22.6	楕円形	
B P698	D3-13	φ20		7.3	不整円形	
B P699	D3-13	φ18		6.0	円形	
B P700	D3-13	φ16		30.8	円形	
B P701	D3-13	φ22		14.9	円形	
B P702	D3-12	21 ×	20	6.3	不整楕円形	
B P703	D3-12	32 ×	32	24.7	不整楕円形	

表96 B区遺構計測表 12

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P704	D3-17	44 × 40	33.1	不整円形		
B P705	D3-24	[24] × [20]	17.7	楕円形	164	
B P706	D3-23	28 × 24	31.1	楕円形		
B P707	D3-23	18 × 16	7.8	楕円形		
B P708	D3-23	32 × [12]	15.3	楕円形		
B P709	D3-23	26 × 20	13.8	不整円形		
B P710	D3-22	φ21	11.7	不整円形		
B P711	D3-22	φ12	11.0	円形		
B P712	D3-22	22 × 17	9.7	楕円形		
B P713	D3-22	φ13	10.6	円形		
B P714	D3-22	φ14	10.9	円形		P715を切る。
B P715	D3-22	[20] × [12]	5.9	楕円形		P716を切り、SK46とP714に切られる。
B P716	D3-22	32 × [20]	11.9	円形	土師器×2	P715に切られる。
B P718	D3-22	φ16	11.3	円形		
B P719	D3-22	40 × 36	23.8	不整楕円形	鉄滓	Sk46を切り、SK55に切られる。
B P720	D3-22	φ13	7.1	円形		SK46を切る。
B P721	D4-2	φ22	11.0	円形	土師器×2,鉄滓	
B P722	D3-15	28 × 22	15.1	楕円形		
B P723	D4-1	16 × [12]	20.1	楕円形		礫
B P724	D4-2	21 × 17	18.3	楕円形		
B P725	D3-21	φ36	23.4	円形	土師器×3,土師質土器×1,鉄滓	
B P726	D4-1	[16] × 22	8.5	楕円形		
B P727	D3-10	φ15	—	円形		
B P728	D3-10	25 × [20]	—	楕円形		北とレンヂ
B P729	D3-3	φ24	33.9	円形		
B P730	D3-3	φ10	9.4	円形		
B P731	D3-3	32 × 20	22.8	不整楕円形	土師器×5	
B P732	D3-3	36 × 34	31.1	不整円形		
B P733	D3-8	16 × 12	6.9	楕円形		
B P734	D3-8	32 × 18	17.9	長楕円形		
B P735	D4-3	44 × [20]	19.6	不整方形		
B P736	D4-3	25 × 22	23.0	楕円形		
B P737	D4-7	φ26	36.7	円形		
B P738	D4-7	20 × 18	34.1	楕円形		P739を切る。
B P739	D4-7	24 × [19]	37.9	楕円形		P738に切られる。
B P740	D4-7	φ26	39.0	円形	土師器×1	
B P741	D4-7	33 × 32	31.6	不整円形	土師器×6	
B P742	D4-6	φ16	17.2	円形		
B P743	D4-6	24 × 18	28.9	楕円形		
B P744	D4-6	36 × 22	18.4	楕円形	土師器×1	
B P745	D4-6	φ24	24.6	円形		
B P746	D4-11	30 × 30	41.6	不整円形		
B P747	D4-11	24 × [16]	25.8	円形	鉄滓	東壁
B P749	D4-2	φ24	12.3	円形	土師器×3	
B P750	D4-2	18 × 17	4.3	不整円形	土師器×1	
B P752	D4-7	32 × 26	18.2	楕円形	165,土師器×11	
B P753	D4-2	32 × [24]	15.6	楕円形		東壁
B P754	D4-2	20 × 18	14.2	楕円形		
B P755	D4-2	[12] × [10]	3.5	円形		東壁際,P754に切られる。
B P756	D4-2	[25] × 22	28.4	不整楕円形	土師器×2	
B P757	D4-2	φ18	21.8	不整円形	瓦器×1	SK54を切る。
B P758	D4-2	32 × 18	25.8	楕円形		SK54を切る。
B P759	D4-2	38 × 33	29.6	不整楕円形	土師器×3,瓦質土器×2,鉄滓	SK54を切る。
B P760	D4-2	φ22	24.0	円形	166,土師器×4,弥生土器×2	P759に切られる。
B P761	D4-2	36 × [32]	41.6	—	167~169,土師器×15,炭化物	
B P762	D4-2	24 × 21	19.1	楕円形		
B P763	D3-23	φ88	—	円形	土師器×2鉄滓	集石
B P764	D3-23	φ20	7.1	円形		

表97 B区遺構計測表 13

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B P765	D3-22	φ16	10.2	円形		
B P766	D4-11	21 ×	17	43.3	不整楕円形	
B P767	D4-11	32 ×	26	13.7	楕円形	P768を切る。
B P768	D4-11	[28] ×	28	16.9	不整楕円形	P767に切られる。
B P769	D4-11	18 ×	[14]	20.0	不整楕円形	東壁際
B P770	D4-7	22 ×	20	26.4	楕円形	
B P771	D4-2	26 ×	23	20.3	楕円形	
B P772	D4-6	52 ×	[32]	14.5	楕円形	
B P773	D4-6	22 ×	[18]	13.1	円形	東壁
B P774	D4-7	22 ×	20	8.5	不整円	
B P775	D4-6	24 ×	12	8.6	楕円形	
B P778	D4-6	34 ×	32	33.2	不整円形	土師器×1
B P779	D4-2	φ20	6.8	円形		
B P780	D4-2	φ21	28.9	不整円形	土師器×7	SK50に関わる。
B P781	D4-2	φ22	13.3	円形		
B P782	D4-2	40 ×	[20]	19.7	楕円形	東壁
B P783	D4-2	12 ×	12	11.2	不整円形	
B P784	D4-2	32 ×	30	3.3	楕円形	
B P785	D3-13	φ16	10.5	円形		
B P786	D3-13	φ20	37.8	円形	170,土師器×2,瓦器×1	
B P787	D4-2	34 ×	28	9.7	不整楕円形	SK56を切る。
B P788	D4-2	28 ×	24	23.4	楕円形	SK56を切る。
B P789	D4-2	φ27	21.4	不整円形		SK53を切る。
B P790	D4-6	φ22	10.5	円形		
B P791	D4-6	24 ×	20	31.3	楕円形	
B P792	D4-6	26 ×	24	19.9	楕円形	
B P793	D4-1	φ14		円形		
B P794	D3-8	28 ×	23	35.6	不整楕円形	土師器×1
B P795	D3-8	16 ×	12	1.0	楕円形	
B P796	D3-13	φ20	6.7	円形		
B P797	D4-6	36 ×	33	15.2	不整方形	
B P798	D3-22	24 ×	18	18.4	楕円形	
B P799	D3-22	φ16	9.3	円形		
B P800	D3-22	22 ×	17	19.9	楕円形	
B P801	D3-17	16 ×	12	10.9	楕円形	
B P802	D3-17	φ16	11.0	円形		
B P803	D3-17	φ18	6.5	円形		
B P804	D3-13	φ20	9.8	円形		
B P805	D3-13	25 ×	20	3.6	楕円形	
B P806	D3-13	20 ×	14	4.6	不整楕円形	
B P807	D3-18	30 ×	28	10.7	楕円形	
B P808	D3-18	40 ×	32	11.4	不整楕円形	青磁×1
B P809	D3-12	24 ×	18	15.7	楕円形	青磁×1
B P810	D3-8	36 ×	32	12.8	楕円形	
B P811	D3-13	48 ×	40	44.5	不整円形	
B P812	D3-23	48 ×	36	6.1	楕円形	
B P814		39 ×	30	—	楕円形	
B P815	C3-21	[60] ×	50	—	不整形	SK35に切られる。
B P821					土師質土器×2	
B P823	B5-5	φ36	31.6	円形	青磁×1	
B P824	C3-21	28 ×	28	27.3	不整円形	土師器×1,瓦器×1
B P825	C4-16	52 ×	36	37.7	隅丸長方形	
B P826	C4-12	14 ×	10	9.6	楕円形	

表98 B区遺構計測表 14

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考	
B SK1	B5-13	120 ×	104	17.4	不整楕円形		
B SK2	B5-13	80 ×	[56]	19.3	不整円形		
B SK3	B5-15	60 ×	56	17.2	不整方形	土師器×12	
B SK4	B5-9	80 ×	60	29.8	不整楕円形		
B SK5	B5-15	φ72		31.2	円形	60,土師器×7	
B SK6	B5-15	112 ×	114	20.9	不整方形	土師器×10	
B SK7	B5-10	124 ×	108	13.0	楕円形	61,62,土師器×20,瓦器×1	
B SK8	B5-10	166 ×	128	31.6	不整楕円形	土師器×31,瓦器×3,炭化物	
B SK9	B5-18	56 ×	[28]	35.0	楕円形		
B SK10	B5-5	90 ×	60	28.0	楕円形		
B SK11	C5-1	86 ×	60	26.9	不整長方形	63,土師器×17	
B SK12	C5-1	112 ×	72	38.7	楕円形	64,土師器×12,瓦器×1陶器×1	P106と連なる。
B SK13	C4-16	168 ×	104	57.9	隅丸方形	土師器×1,炭化物	P214とP215を取り込む。
B SK14	C5-7	φ60		16.3	円形		
B SK15	C5-12	50 ×	32	16.1	楕円形		
B SK16	C5-7	124 ×	112	12.2	楕円形	土師器×9	SK18を切る。
B SK17	C4-21	φ72		52.4	円形		P228と連なる。
B SK18	C5-12	82 ×	84	9.0	不整円形	土師器×2	SK14・19を切り、SK16に切られる。
B SK19	C5-12	108 ×	102	16.3	楕円形	土師器×3	
B SK20	C4-21	112 ×	56	67.3	楕円形		
B SK21	C5-12	108 ×	[78]	18.8	円形	65,土師器×5	SK22・23を切り、SK19に切られる。
B SK22	C5-11	120 ×	[84]	19.3	円形	土師器×7	SK21・23に切られる。
B SK23	C5-11	80 ×	[30]	15.7	円形	土師器×2	SK22を切り、SK21に切られる。
B SK24	C4-23	φ100		27.3	不整円形	土師器×5	
B SK25	C4-11	96 ×	80	53.9	隅丸方形	66,土師器×1,瓦器×1,陶器×1	
B SK26	C4-7	116 ×	104	18.1	不整円形	土師器×2	
B SK27	C4-7	76 ×	71	32.1	不整円形		
B SK28	C4-12	164 ×	92	48.7	隅丸長方形	67~69,土師器×4,瓦器×2,炭化物	P321・322・329・330・335に関わる。
B SK29	B4-10	[204] ×	204	28.5	不整円形	陶器×1,青磁×1	
B SK30	C3-11	92 ×	80	18.8	楕円形	磁器(色絵)×1,煙管×1	
B SK31	B3-24	244 ×	196	58.2	不整長方形	70,71	
B SK32	B3-20	128 ×	120	57.0	不整形	弥生土器×2	
B SK33	B3-16	156 ×	144	29.9	不整長方形	72,磁器(染付)×1	
B SK34	C3-12	148 ×	60	24.9	不整楕円形	73~77,土師器×121	
B SK35	C3-21	132 ×	120	60.0	不整円形	土師器×8,炭化物	
B SK36	C3-21	102 ×	80	33.3	不整形	78,瓦器×1,炭化物	
B SK37	B3-25	108 ×	88	41.2	楕円形		
B SK38	C3-22	68 ×	68	33.2	不整円形		
B SK39	C3-22	108 ×	80	8.6	不整楕円形		
B SK40	C4-7	88 ×	72	10.3	楕円形		
B SK41	C4-13	φ32		14.7	円形		
B SK42	C4-14	76 ×	72	10.3	楕円形	79	
B SK44	D3-22	52 ×	48	17.1	不整楕円形	土師器×1	
B SK45	D3-22	73 ×	56	3.7	楕円形		
B SK46	D3-22	88 ×	[84]	12.8	不整円形	軽石	P715・716を切り、P718・719・720に切られる。
B SK47	D3-22	128 ×	[70]	15.9	円形	土師器×6,須恵器×1,鉄滓	SK46に切られる。
B SK48	D4-2・D3-22	112 ×	104	35.8	不整円形		
B SK49	D4-2	108 ×	88	15.0	不整楕円形	土師器×2	SK53に切られる。
B SK50	D4-2	128 ×	116	32.3	不整楕円形	80,土師器×4	P780に切られる。
B SK51	D4-1	164 ×	[100]	13.7	円形	土師器×8,染付×1,鉄滓	SK56に切られる。
B SK52	D4-1・2	84 ×	[72]	26.6	楕円形	土師器×4	SK56に切られる。
B SK53	D4-2	128 ×	100	19.1	楕円形		SK49を切る。
B SK54	D4-2	152 ×	120	22.2	不整楕円形		恐らく、二重の輪郭を有する。
B SK55	D3-22	φ108		15.7	円形	81,土師器×18,鉄滓	P719を切り、P675に切られる。

表99 B区遺構計測表 15

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
B SK56	D4-2	184 × 160	14.9	楕円形	土師器×5,土師質土器×3	SK51とSK52を切る。
B SK57	D4-11	168 × [136]	19.5	円形		
B SK58	C4-10・15	φ184	51.1	円形	82~89,陶器×2,瓦	
B SK59	D4-6	184 × 176	44.6	円形	土師器×1,瓦質土器×1,瓦	
B SX1	C4-9・14	296 × 104	50.2	前方後方形	青磁×1,須恵器×1,瓦	炉跡、SK43として整理
B SE1	D4-11	124 × [80]	87.7		土師器×1	西壁際
B SD1	B5-9	108 × 17	3.3	N-29°-E		
B SD2	B4-24・ B5-4・9	1,300 × 28~70	8.3	N-6°-W		
B SD3	B5-10・15	324 × 34	6.5	N-53°-W		
B SD4	C4-18・19	320 × 64	17.1	N-18°-E	59	
B SD5	B5-4	256 × 36	10.9	N-12°-E		

表100 B区遺物観察表 1

遺物 No.	図版 No.	出土地点	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	脚径	底径	特徴			備考		
											調整等	胎土	焼成		他	内面
1	127	B-10	IV	弥生土器	壺	口縁部	14.1	[1.3]				口縁は大きく外反する。口唇は直立する面を成す。口縁に円孔と2条?の刻目突帯を貼付する。(外) ナデ	にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、橙7.5YR7/4	弥生前期末	
2	127	D-12	V	弥生土器	壺	口縁部	17.1	[2.1]				口縁は外反する。口唇は丸く修める。口縁下にφ2mmの円孔を穿ち上下に刻目突帯を貼付する。(外) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	弥生前期末	
3	127	C-12	IV	弥生土器	壺	口縁部	15.8	[1.9]				口縁は外反する。口唇は丸くを成す。(内・外) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/4	弥生前期末	
4	127	D-12	IV	弥生土器	壺	口縁部	9.4	[3.0]				口縁は緩く外反する。口唇は平らな面を成す。(内・外) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	黄灰2.5Y6/1	弥生前期末	
5	127	D-12	IV	弥生土器	壺	口縁部	16.0	[3.8]				口縁は緩く外反する。口唇は細く修める。(内) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	弥生前期末	
6	127	C-12	IV	弥生土器	壺	頸部		[4.8]				口縁は外反する。(外) 沈線1条	にぶい、黄橙10YR8/4	灰5Y5/1	弥生前期末	
7	127	B-10	IV	弥生土器	壺	頸部		[5.7]				頸部は外反する。(内) ナデ (外) ヘラ描き沈線帯、一部では沈線間を刺突刺に刻む	橙5YR6/8	オリープ褐2.5Y4/3	弥生前期末	
8	127	D-11	V	弥生土器	壺	胴部		[2.9]				頸部は直立する。(内) ナデ (外) ヘラ描き沈線帯、断面台形の刻み目突帯、ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	橙5YR7/6	弥生前期末	
9	127	B-11	IV	弥生土器	壺	胴部		[2.5]				沈線間に断面鐘形の粘土帯を貼付し、上位を籠先で刻む。	黒N2/	黒N2/	弥生前期末	
10	127	C-10	IV	弥生土器	壺	胴部		[2.7]				(内) ナデ? (外) ハケ	灰黄2.5YR6/2	にぶい、橙7.5YR6/4	灰黄2.5YR6/2	弥生前期末
11	127	C-10	IV	弥生土器	壺	胴部		[1.6]				胴部に直径7mmの円形浮紋	にぶい、黄橙10YR7/4	橙5YR6/6	にぶい、黄橙10YR7/4	弥生前期末
12	127	D-12	IV	弥生土器	壺	胴部		[2.8]				胴部は内湾する。(内) ナデ、凹凸面 (外) ハケ、ヘラ描き沈線帯	黄灰2.5Y4/1	灰黄褐10YR5/2	にぶい、黄橙10YR6/3	弥生前期末
13	127	C-10	IV	弥生土器	壺	胴部		[4.4]				(内) ナデ、凹凸面 (外) ヘラ描き沈線帯、ハケ	黄灰2.5Y4/1	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	弥生前期末
14	127	E-12	IV	弥生土器	壺	胴部		[5.0]				胴部上位は内湾する。(内) ナデ、凹凸面 (外) ハケ、ヘラ描き沈線帯	にぶい、黄褐10YR6/3	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1	弥生前期末
15	127	C-10	III	弥生土器	壺	胴部		[5.1]				胴部上位は内湾する。(内) ナデ、凹凸面 (外) 5条以上の沈線帯×2	灰黄2.5YR6/2	橙5YR7/6	橙2.5YR6/6	弥生前期末
16	127	C-10	IV	弥生土器	壺	胴部		[5.3]				胴部は緩く内湾する。(内) ナデ、押圧痕 (外) ナデ、沈線	褐灰7.5YR5/1	にぶい、褐7.5YR5/3	にぶい、橙7.5YR7/4	弥生前期末
17	127	C-11	IV	弥生土器	壺	胴部		[7.2]				胴部は緩く内湾する。(内) ナデ、凹凸面 (外) ハケのちナデ、沈線	褐灰10YR5/1	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	弥生前期末
18	127		V	弥生土器	壺	底部		[6.7]	9.4			平底の端部は丸味を持つ。胴部は内湾気味に立ち上がる。(内) ナデ	灰5Y5/1	浅黄橙7.5YR8/6	灰オリーブ7.5Y6/2	弥生前期末
19	127		IV	弥生土器	壺	底部		[3.6]				平底 胴部は直線的に立ち上がる。(内) ナデ (外) ナデ	灰5Y4/1	淡黄2.5Y8/3	灰5Y6/1	弥生前期末
20	127	B-11	IV	弥生土器	壺	底部		[1.4]				底部は緩い凸面を成す。	灰黄褐10YR6/2	灰黄褐10YR6/2	灰5Y4/1	弥生前期末
21	127	D-12	V	弥生土器	壺	底部		[2.1]	11.6			広い平底 (外) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/3	にぶい、黄橙7.5YR7/4	灰5Y6/1	弥生前期末
22	127	D-12	V	弥生土器	壺	底部		[4.2]	8.6			平底 胴部は内湾気味に立ち上がる。(内) ナデ	にぶい、黄橙10YR7/4	橙7.5YR7/6	灰5Y4/1	弥生前期末

表101 B区遺物観察表 2

遺物 図版 No.	出土地点 No. fig.	遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
23	127	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	[2.2]	[2.2]			口縁は外反する。口縁外側に2条の刻目突起が付く。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	弥生前期末
24	127	C-11	V	弥生土器	甕	口縁部	[3.0]	[3.0]			口縁は外反する。口縁外側に2条の刻目突起が付く。外面に斜位の突起を配し、刺突風の刻みを施す。(内・外) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR5/3	灰黄褐10YR4/2	灰黄褐10YR4/2	灰黄褐10YR4/2	
25	127	D-12	IV	弥生土器	甕	口縁部	[4.0]	[4.0]			口縁は緩やかに外反する。口縁外側に突起が付く。(内・外) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	灰10Y4/1	灰10Y4/1	弥生前期末
26	127	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	[2.8]	[2.8]			口縁は緩く外反する。口縁外側に刻目突起と断面三角形の低い突起が付く。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄2.5Y6/4	黄灰2.5Y4/1	黄灰2.5Y4/1	黄灰2.5Y4/1	
27	127	D-12	IV	弥生土器	甕	口縁部	[2.1]	[2.1]			口縁は外反する。口縁下に断面三角形の突起を貼付し刻みを施す。		胎土	焼成		オリーブ黒5Y3/1	オリーブ黒5Y3/1	オリーブ黒5Y3/1	オリーブ黒5Y3/1	弥生前期末
28	127	D-12	IV	弥生土器	甕	口縁部	[2.4]	[2.4]			口縁は内湾して立ち上がる。口唇は平らな面を成す。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/4	暗灰N3/	暗灰N3/	暗灰N3/	弥生前期末
29	127	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	[4.3]	[4.3]			口縁は緩やかに外反する。口唇は丸く修める。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/3	黒N2/	黒N2/	黒N2/	弥生前期末
30	127	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	[1.8]	[1.8]			口縁は外反する。口縁外側に低い刻目突起が付く。(外) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		灰黄2.5Y7/2	黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y5/1	黒N2/	
31	127	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	[2.7]	[2.7]			口縁は外反する。外面に縦位の微隆起帯を貼付し刻みを施す。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	灰黄褐10YR5/2	弥生前期末
32	128	D-12	IV	弥生土器	甕	口縁部	19.5	[3.4]			口縁は緩く外反する。口唇は外傾する面を成す。		胎土	焼成		灰5Y4/1	にぶい黄橙10YR7/4	灰5Y4/1	灰5Y4/1	弥生前期末
33	128	D-12	V	弥生土器	甕	口縁部	14.4	[3.2]			口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	
34	128	C-11	IV	弥生土器	甕	口縁部	9.9	[4.2]			口縁は外反する。口唇は丸く修める。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR6/3	灰10YR5/1	灰10YR5/1	
35	128	D-12	IV	弥生土器	甕	口縁部	10.5	[3.5]			口縁は緩く外反する。口唇は平らな面を成す。口縁下の外面に2条の粘土帯を貼付し(下位は断面三角形を呈す)、刻みを施す。(内) ナデ 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR5/3	にぶい黄橙10YR5/3	黒褐10YR3/2	黒褐10YR3/2	弥生前期末
36	128	D-11	V	弥生土器	鉢?	口縁部	13.5	[2.0]			口縁は緩く内湾する。口唇は丸味を帯った面を成す。(内) ナデ 粗さを多く含む。器壁は薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR5/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末
37	128	D-11	V	弥生土器	甕	肩部		[1.8]			肩部上位は数条の微隆起帯(刻み?)を施す。(内) ナデ (外) ナデ		胎土	焼成		にぶい黄褐10YR6/3	にぶい黄褐10YR6/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末
38	128	D-12	IV	弥生土器	甕	肩部		[3.6]			肩部上位は内湾する。粘土の貼付による微隆起帯の上位を刻む。器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄褐10YR5/3	にぶい黄褐10YR5/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末
39	128	B-11	IV	弥生土器	甕	肩部		[2.9]			肩部は外反する。(外) 頸部下に3条の微隆起帯 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	暗灰N3/	暗灰N3/	
40	128	D-12	V	弥生土器	甕	頸部		[3.2]			頸部は外反する。(外) 縦位の微隆起帯 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR7/4	
41	128	D-12	IV	B 弥生土器	甕	頸部		[3.3]			頸部上位は内湾する。頸部下に3条の指頭押圧により刻みを施した微隆起帯 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR6/4	にぶい黄橙10YR6/4	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1	
42	128	D-11	V	弥生土器	甕	頸部		[5.3]			頸部は外反する。(内) ナデ (外) ナデ、3条以上の微隆起帯		胎土	焼成		浅黄2.5Y7/3	にぶい黄橙10YR7/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末
43	128	D-11	V	弥生土器	甕	肩部		[5.8]			肩部上位は内湾する。頸部下に微隆起帯を貼付し、腕状の工具端で押圧する。円から不整形の浮設列 (内) ナデ (外) 縁付着 器壁を薄く仕上げる。		胎土	焼成		にぶい黄橙10YR7/4	灰黄褐10YR6/2	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1	弥生前期末
44	128	C-11	IV	弥生土器	甕	頸部		[3.6]			頸部は外反する。(内) ナデ (外) ナデ、凹凸面		胎土	焼成		灰褐7.5YR6/2	灰褐7.5YR6/2	黒N2/	黒N2/	

表102 B区遺物観察表 3

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・グランド	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考		
45	128	D-12	V	弥生土器	甕	底部	[1.1]	6.4	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	灰白N8/0	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄灰2.5Y5/1	にぶい黄橙10YR7/4		
46	128	D-12	V	弥生土器	甕	底部	[1.4]	6.4	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	灰白N8/0	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄灰2.5Y5/1	にぶい黄橙10YR7/3		
47	128	D-12	V	弥生土器	甕	底部	[1.2]	6.4	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	灰白N8/0	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄灰2.5Y4/1	黄灰2.5Y4/1		
48	128	C-10	IV	弥生土器	甕	底部	[1.7]	6.8	平底	体部は緩く外反して立ち上がる。(内)ナデ	粗さを多く含む。器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	粗さを多く含む。	灰白N8/0	黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	黒10YR2/1	弥生前期末	
49	128	D-12	V	弥生土器	甕	底部	[1.7]	8.0	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	灰白N8/0	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄褐2.5Y5/3	黄灰10YR4/1	黄灰10YR4/1		
50	128	D-12	V	弥生土器	甕	底部	[1.2]	11.6	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ		(内)ナデ		灰白N8/0	黒N2/	黒N2/	黒N2/	黒N2/	黒N2/	黒N2/	黒N2/	弥生前期末	
51	128	E-12	IV	弥生土器	甕	底部	[1.9]	5.2	平底	体部は緩く外反する。(内)ナデ	粗さを多く含む。器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	粗さを多く含む。	灰白N8/0	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末	
52	128	D-12	IV	弥生土器	甕	底部	[1.3]	7.3	平底	体部は緩く外反して立ち上がる。(内)ナデ	粗さを多く含む。器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	粗さを多く含む。	灰白N8/0	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1	弥生前期末	
53	128	D-11	V	弥生土器	甕	底部	[1.5]	8.8	平底	胴部は緩く外反する。(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	器壁は薄く仕上げる。	灰白N8/0	黄褐10YR6/3	黄褐10YR6/3	黄褐10YR6/3	黄褐10YR6/3	黄褐10YR6/3	灰N4/	灰N4/	弥生前期末	
54	128	C-10	IV	弥生土器	甕	底部	[2.8]	7.0	平底	やや反り気味に体部は立ち上がる。(内)ナデ		(内)ナデ		灰白N8/0	黄褐5YR4/1	黄褐5YR4/1	黄褐5YR4/1	黄褐5YR4/1	黄褐5YR4/1	灰7.5Y5/1	灰7.5Y5/1	弥生前期末	
55	128	D-12	IV	弥生土器	甕	底部	[1.6]	13.0	平底	(内)ナデ	粗さを多く含む。器壁は薄く仕上げる。	(内)ナデ	粗さを多く含む。	灰白N8/0	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黄褐10YR5/3	黒N2/	黒N2/	弥生前期末	
56	128	D-12	V	石器・石製 品	叩石	重量	全長13.0 全幅11.1	全厚5.6 全幅11.1	1,100g	重量	平面は楕円形を呈する河原石で一部を欠く。扁平な両主面に敲打痕を残す。側縁には部分的に敲打痕が残る。砂岩			灰白N8/0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
57	128	C-10	IV	石器・石製 品	叩石	重量	全長8.4 全幅8.6	全厚4.5 全幅4.2	450g	重量	平面は円形を呈する河原石。扁平な両主面の中央部と側縁に敲打痕を残す。砂岩			灰白N8/0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
58	128	D-12	IV	石器・石製 品	叩石	重量	全長10.4 全幅12.1	全厚4.2 全幅12.1	800g	重量	平面は楕円形を呈する河原石。扁平な両主面の中央部に多くの敲打痕を残す。側縁に敲打痕が巡る。砂岩			灰白N8/0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59	129	B SD4		磁器	皿	底部	[1.4]	7.4	緩く内湾する底部に断面三角形の高台が付く。(外)高台内に須による跡を施す。新土の透明釉を十字に刻む。				灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0	灰白N8/0		
60	129	B SK5		土師器	皿	底部	[1.5]	5.3	V.c.h2	u/u	P1			黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6		
61	129	B SK7		土師器	杯	底部	[1.5]	5.0	h3	u/tu.l	P2			黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6		
62	129	B SK7		土師器	杯	底部	[1.0]	5.0	il	u/u	P2			黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8	黄7.5YR7/8		
63	129	B SK11		土師器	杯	底部	[1.5]	6.3	h2	u/u	Q.O			黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6	黄7.5YR8/6		
64	129	B SK12		土師器	杯	底部	[1.3]	5.6	il	u/tu.l	P1			黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6	黄7.5YR7/6		
65	129	B SK21		土師器	杯	底部	[2.4]	6.4	j	u/tu.l	P2			黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	黄7.5YR8/4	器壁を薄く仕上げる。
66	129	B SK25		瓦器	桶	底部	[0.7]	3.2	l	u/u	A	K	M1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1	灰5Y7/1		

表103 B区遺物観察表 4

遺物 図版 No.	出土地点 遺構・グリップ	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	脚径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
67 129	B SK28		陶器	椀	口縁部	16.6	[3.0]			V.c	u/t			灰軸、平形		灰軸、平形	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄2.5Y6/3	灰黄2.5Y7/2	瀬戸美濃? (13C中頃)
68 129	B SK28		土師器	杯	底部		[1.7]			7.0	hl	u/ul	P1				にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4	浅黄橙10YR8/4		
69 129	B SK28		須恵器	壺	胴部		[6.0]							胴部は内湾する。(内) u (外) タタキ (焼成) K			灰N4/	灰N4/			
70 129	B SK31		陶器	楕鉢	口縁部	31.3	[6.5]							口縁は直線的に立ち上がり、内外面に肥厚する。外面は垂下する。(内) 口縁には沈線状の段が残り、体部には掃り目が施される。(外) 段部、ナデ			にぶい赤褐2.5YR5/3	にぶい赤褐2.5YR5/3	にぶい赤褐2.5YR5/3	備前 (近世)?	
71 129	B SK31		陶器	椀	口縁部	11.1	7.2			4.5				V.c高台は断面台形で内面を深く削り出す。灰軸 (内) u (外) 鉄絵、露胎 児器形			浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y8/3	京焼風18C	
72 129	B SK33		磁器	椀	底部		[1.7]			4.9				底部には断面三角形の高台が付く。(外) 網干?、二重圏線、貝須の焼色は不良			灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	肥前系 (18C後)	
73 129	B SK34		土師器	杯	底部	13.5	4.2			8.3	V.c,hl	u/tu,l	P1				橙7.5YR7/6	浅黄2.5Y7/4	橙7.5YR7/6		
74 129	B SK34		土師器	杯	底部		[1.4]			7.0	il	u/tu	P2				灰白5Y7/1	灰5Y6/1	灰白5Y7/1		
75 129	B SK34		土師器	皿	底部		[1.1]			6.2	h2	u/u	P3				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
76 129	B SK34		土師器	杯	底部		[1.1]			6.8	hl	u/tu,l	P2				黄橙10YR8/6	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
77 129	B SK34		土師器	杯	口縁部	10.8	[3.2]			V.c	u/u		P2				浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙10YR7/3	浅黄橙10YR8/4		
78 129	B SK36		弥生土器	壺	口縁部	11.1	[4.2]							口縁は外反して立ち上がる。外面に断面三角形の粘土帯を貼付し、籠状工具で縦位に連続的な刻みを施す。			灰褐7.5YR6/2	灰褐7.5YR6/2	灰N4/		
79 129	B SK42		土師器	皿	底部		[1.9]			5.5	h3	u/u	P2				浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		
80 129	B SK50		土師器	杯	口縁部	13.5	[3.4]				V	s/u	P1				にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		
81 129	B SK55		土師器	杯	底部		[2.4]			6.5	h2	u/tu	P1				浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙10YR8/3	黄灰2.5Y6/1		
82 129	B SK58		陶器	瓶子	胴部		[13.5]							胴部は内湾する。灰軸 (内) s (外) 区面沈線			灰オリーブ5Y4/2	灰オリーブ5Y5/2	灰5Y6/1		瀬戸美濃
83 129	B SK58		陶器	壺	頸部		[5.2]							(内・外) u (外) 胴部上位に帯が付着する。還元焰			褐灰10YR4/1	灰白7.5YR7/1	褐灰10YR5/1		
84 129	B SK58		陶器	楕鉢	口縁部	27.0	[7.0]							口縁は直線的に立ち上がり、上下に肥厚する。口縁下の外面に鉄いナデによる段を持つ。(内) 口縁に2条の沈線状段 体部に掃り目 (外) 2条沈線 体部は削りのナデ			黒褐5YR3/1	黒褐5YR3/1	明赤褐2.5YR5/6		
85 129	B SK58		青磁	椀	底部		[2.2]							体部は内湾して立ち上がる。青磁軸 高台内は露胎する。			オリーブ灰10Y6/2	オリーブ灰10Y6/2	灰白5Y7/1		龍泉窯
86 129	B SK58		青磁?	椀	底部		[2.8]			5.3				高台内をやや浅く削る。(外) 進弁紋 軸は白濁する。			灰白7.5Y7/2	浅黄5Y7/3	灰白5Y7/2		
87 130	B SK58		瓦質土器	火鉢	底部	全長 12.0	全幅7.4	全厚5.0						四隅にアーチ状の脚が付く。(外) 丁寧なナデ			暗灰N3/	暗灰N3/	灰白7.5YR8/1		
88 130	B SK58		陶器	楕鉢	底部	幅10.2	[3.1]			15.0				平らな底部端は屈折する。(内) 掃り目 (外) u			灰褐5YR4/2	にぶい褐7.5YR5/3	灰褐5YR4/2		備前

表104 B区遺物観察表 5

遺物 図版 No. fig.	出土地点 遺構・グリップ 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	調整等	胎土	特徴	他	色調		備考
												断面	外面	
89 130	B SK58	瓦	軒平瓦	瓦当	長さ4.2	高さ3.5	幅10.2			蔓草の一部が残る。		暗灰N3/	灰白5Y7/1	
90 130	B P.11	陶器	碗	口縁部	8.9	[2.4]				口縁は内湾気味に立ち上がる。口唇は丸く修める。灰軸		浅黄2.5Y7/3	灰白2.5Y8/2	京焼風陶器
91 130	B P.51	土師器	皿	底部		[1.1]	4.2	h3	u/u, l	P1		にぶい、橙7.5YR7/4	灰黄橙10YR5/2	にぶい、橙7.5YR7/4
92 130	B P.65	土師器	杯	底部		[1.0]	6.0	h2		O		にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、橙7.5YR6/4	にぶい、橙7.5YR6/4
93 130	B P.79	土師器	杯	底部		[1.3]	4.5	h1	u/u, l	P1		浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	にぶい、橙7.5YR7/4
94 130	B P.82	土師器	杯	底部		[1.7]	7.2	il	s/u	P1		にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4	にぶい、黄橙10YR7/4
95 130	B P.92	土師器	杯	口縁部	11.0	[2.3]		V.c	s/u	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	にぶい、橙7.5YR7/4
96 130	B P.92	土師器	杯	底部		[0.8]	6.0	i2	u/k	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	灰黄褐10YR5/2
97 130	B P.93	土師質土器	鍋	口縁部	17.9	[2.0]						橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6
98 130	B P.93	土師器	杯	口縁部	14.0	[3.2]		X.c, l	s/t	P1		橙7.5YR7/6	にぶい、黄橙10YR6/4	にぶい、黄橙10YR7/4
99 130	B P.101	土師器	杯	口縁部	11.1	[2.1]		X.c, l	su/t	o	精緻	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	褐灰10YR4/1
100 130	B P.107	土師器	皿		5.8	1.3	4.6	X.c	u/u	P1		にぶい、橙5YR7/4	にぶい、橙5YR7/4	にぶい、橙5YR7/4
101 130	B P.123	土師器	杯	口縁部	12.7	[3.3]		V.c	su/tu	P1		にぶい、黄橙10YR6/3	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
102 130	B P.123	土師器	杯	口縁部	14.0	[2.6]		X.c	u/u	P1		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6
103 130	B P.123	土師器	杯	口縁部	12.1	[2.4]		V.c	u/u	P1		にぶい、黄橙10YR7/3	にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、橙7.5YR7/4
104 130	B P.123	土師器	杯	口縁部	13.0	[1.7]		W.c	u/u	P1	器壁を薄く仕上げ	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
105 130	B P.133	磁器	小碗	口縁部	6.0	[1.8]						灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1
106 130	B P.148	土師器	杯	底部		[1.1]	6.3	il	s/u	P2		浅黄橙7.5YR8/6	橙5YR7/6	橙7.5YR7/6
107 130	B P.156	土師器	杯	底部		[2.3]	6.8	h3	su/tu	P1		橙7.5YR7/6	黄橙10YR8/6	橙7.5YR7/6
108 130	B P.160	土師器	杯	底部		[1.3]	6.6	h2	s/l	P2		黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	橙7.5YR7/6
109 130	B P.171	土師器	皿		6.0	1.8	5.0	X.c, h2	u/u	P2		橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6
110 130	B P.175	土師器	皿	口縁部	9.8	[1.3]		V.c	s/u	P1		にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、橙7.5YR7/4	にぶい、橙7.5YR7/4

表105 B区遺物観察表 6

遺物 図版 No.	出土地点 fig. 遺構・グリップ	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	調整等	特徴 胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
111 130	B.P.184	土師器	杯	底部	7.1	h1 s/u,l	O			体部下位に押圧痕	灰黄褐10YR5/2	こぶい橙7.5YR7/4	こぶい橙7.5YR7/4	こぶい橙7.5YR7/4	
112 130	B.P.184	土師器	杯	底部	8.0	h1 u/u	P1				こぶい黄橙10YR6/3	こぶい橙7.5YR7/4	こぶい黄橙10YR6/3		
113 130	B.P.184	土師器	杯	底部	4.5	X,c s/u,l	Q,O				浅黄橙7.5YR8/4	こぶい橙7.5YR7/3	こぶい橙7.5YR7/3		
114 130	B.P.197	須恵器	壺	胴部	[3.5]						灰N6/	灰N4/	灰7.5Y6/1		
115 131	B.P.220	青磁	椀	口縁部	18.7	[4.0]				明ナリープ灰5GY7/1	緑灰7.5GY6/1	灰白10Y8/1	灰白10Y8/1		龍泉窯(13C)初頭から前半)
116 131	B.P.235	土師器	杯	底部	6.8	h1 u/u,l	P1				橙5YR7/6	橙5YR7/6	橙5YR7/6		
117 131	B.P.241	瓦器	皿	口縁部	7.5	[1.3]	B2	L	N		こぶい黄橙10YR6/4	こぶい黄橙10YR6/4	こぶい黄橙10YR6/4		
118 131	B.P.251	土師器	杯	口縁部	9.0	[4.2]	X,c,h1	u/u	P1		淡黄2.5Y8/3	こぶい橙10YR7/4	灰白2.5Y8/2		
119 131	B.P.252	土師器	杯	底部	5.4	il	u/u	P2			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
120 131	B.P.252	陶器	壺	胴部	[12.0]						灰褐5YR5/2	暗赤灰10Y4/1	灰黄褐10YR5/2		備前
121 131	B.P.262	青磁	椀	口縁部	12.8	[3.2]					浅黄2.5Y7/3	灰7.5Y5/1	浅黄橙10YR8/3		龍泉窯(15C)
122 131	B.P.269	土師器	杯	底部	9.5	2.7	X,c,h1	u/u	P1		こぶい黄橙10YR7/3	こぶい黄橙10YR7/4	こぶい黄橙10YR7/3		
123 131	B.P.288	磁器	皿	底部	[0.9]						灰白10Y8/1	灰白10Y8/1	灰白7.5Y8/1		
124 131	B.P.297	陶器	壺	胴部	[6.7]						暗灰黄2.5Y5/2	こぶい黄橙10YR6/3	灰黄2.5Y7/2		
125 131	B.P.298	陶器	壺	胴部	[7.1]						灰5Y5/1	灰N4/	灰7.5Y5/1		
126 131	B.P.319	土師器	杯	底部	[1.4]		h2	su/u,l,k	P2		黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8	黄橙7.5YR7/8		
127 131	B.P.319	土師質土器	羽釜	鈎部	[1.8]	23.0					灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2	灰白2.5Y8/2		
128 131	B.P.333	石製品	台石	全長	13.9	全厚2.8					—	—	—		
129 131	B.P.333	陶器	壺	胴部	[13.8]						黄灰2.5Y5/1	赤灰2.5YR3/1	灰褐5YR5/2		備前
130 131	B.P.334	瓦器	皿	底部	[0.8]		u/g	B2	K	M	灰N4/	灰N4/	灰白7.5Y8/1		
131 131	B.P.351	土師器	杯	底部	[1.9]		il	u/u	P2		橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6		
132 131	B.P.351	土師器	杯	底部	[1.4]		h2	u/u,l,k	O		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		

表106 B区遺物観察表7

遺物 図版 No. fig. 遺構・グリップ	出土地点 No. 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
133 131	B P.356	土師器	皿		6.6	1.1	5.4	X.c.h1	su/u,k	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
134 131	B P.356	土師器	皿		7.2	1.4	5.8	X.c.h2	u/u	P1					にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	にぶい橙5YR6/4	
135 131	B P.356	土師器	皿		6.6	1.1	5.2	X.c.h2	u/u,l	O					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
136 131	B P.356	土師器	皿		8.4	1.7	5.1	X.c.h3	u/u	P2					橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	
137 131	B P.356	土師器	杯	底部	[1.0]		5.9	h1	su/u	P1					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
138 131	B P.356	土師器	杯	底部	[1.9]		7.0	i2	s/u	P2					橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	
139 131	B P.370	白磁	椀	底部	[1.4]		3.5	アーチ状高台	見込みに目痕が残る。透明釉						灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	灰白5Y8/1	
140 131	B P.377	陶器	甕	底部	[13.4]		25.4		底部は緩い凹面を成す。底部に黒胎が付着する。(内) ナデ (外) 縦位のナデ						にぶい褐7.5YR5/3	褐灰5YR4/1	灰褐5YR5/2	灰褐5YR5/2	備前
141 131	B P.381	土師器	皿		9.2	1.8	8.0	il	u/u	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
142 131	B P.381	土師器	杯	底部	[1.3]		7.0	h1	su/u,l	P1					橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	橙5YR6/6	
143 131	B P.386	磁器	椀	口縁部	[2.6]				口縁は内湾気味に立ち上がる。器壁は極薄く仕上げる。青花 (内) 二重墨線 (外) 二重墨線。雁?						灰白5GY8/1	灰白5GY8/1	灰白N8/	灰白N8/	景徳鎮
144 131	B P.389	白磁	皿	口縁部	11.6	[1.8]			口縁は外反する。底・体部の境に段を持つ。透明釉						灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	白磁 (13C?)
145 131	B P.399	土師器	皿		5.4	1.1	5.0	V.c.h1	u/u	P1					にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	
146 131	B P.399	土師器	皿		6.5	1.4	5.5	X	s/u,k	P1					浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	浅黄橙7.5YR8/6	
147 131	B P.411	土師器	皿		6.6	1.2	5.6	h2	u/u,l	P2					橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	
148 131	B P.426	土師器	皿	口縁部	9.4	[1.9]		V.c	u/u	P1					にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4	
149 132	B P.448	須恵器	椀	口縁部	15.2	[1.4]			口縁は直線的に立ち上がる。口唇は丸く修める。(内) ナデ (外) ナデ 鉄分が発泡する。還元焼						灰10Y6/1	灰7.5Y6/1	灰10Y6/1	灰10Y6/1	東播系 (12C末から13C初)
150 132	B P.451	陶器	椀	口縁部	12.2	[3.7]			口縁は内湾する。口唇は丸く修める。灰軸 (内) ナデ (外) ログロ目のちナデ						灰白5Y7/2	灰白5Y7/2	にぶい赤褐5YR5/4	近世?	
151 132	B P.473	陶器	皿	体部	[3.1]				折縁形 灰軸 (内) ナデ (外) ログロ目						灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2	灰白5Y8/2	灰白5Y8/2	瀬戸美濃
152 132	B P.519	瓦器	椀	口縁部	14.4	[1.6]		F.c	u/u,g	B1	K	M			灰N5/	灰N5/	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
153 132	B P.520	瓦器	椀	口縁部	13.6	[3.4]		G.c.C	u/u,g	B1	K	M			灰白N7/0	灰白N7/0	灰白7.5Y8/1	灰白7.5Y8/1	
154 132	B P.527	土師器	杯	底部	[1.6]		6.4	h2	u/u	P2					橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	

表107 B区遺物観察表 8

遺物 No.	図版 No.	出土地点 遺構・フリッド	器種	器形	部位	口径	法量 (cm) 器高	底径	形態	調整等	胎土	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
155 132	B P.554		土師器	杯	底部	[0.7]	5.6	s/l,k	P2					浅黄橙7.5YR8/6	橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	
156 132	B P.554		須恵器	こね鉢	口縁部	20.8	[2.5]							灰7.5Y6/1	灰7.5Y6/1		灰7.5Y6/1	東播系I期2段階 (12C末から13C初)
157 132	B P.560		陶器	甕	口縁部	54.4	[11.5]							灰褐7.5YR4/2	灰褐7.5YR4/2		黄灰2.5Y6/1	常滑 (14C後~15C前)
158 132	B P.560		陶器	甕	胴部		[8.0]							灰黄褐10YR5/2	にぶい赤褐2.5YR4/3		灰黄2.5Y7/2	信楽?
159 132	B P.564		瓦器	椀	口縁部	13.0	[2.9]	E,c,C	u/u,g	B2	K	M		灰白5Y8/2	灰白5Y8/2		灰白5Y8/2	
160 132	B P.566		青磁	椀	底部		[2.1]	4.2	高台は断面方形を呈し、内面を浅く削る。青磁釉 (内) 彫花紋					灰白7.5Y7/2	灰白7.5Y7/2		灰白7.5Y8/1	龍泉窯類1類 (12C中から後)
161 132	B P.590		土師器	杯	口縁部	10.4	[2.8]	V,c	u/u	PI				浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		浅黄橙10YR8/3	
162 132	B P.614		陶器	備鉢	底部		[5.8]	13.7	平らな底部から体部は直線的に立ち上がる。(内) 見込みは外周に凹形、中央に十字形の罫り目を施す。(外) 凹凸面					灰褐7.5YR5/2	にぶい褐7.5YR5/3		灰白N7/	備前
163 132	B P.667		瓦器	椀	口縁部	10.5	[1.7]	E,c,C	u/u,g	B1	L	M		灰7.5Y4/1	灰7.5Y4/1		浅黄橙10YR8/4	
164 132	B P.705		土師器	杯	底部		[1.9]	6.6	il	su/u	PI			にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
165 132	B P.752		土師器	皿	底部	6.9	1.1	5.1	V,c,h3	u/u,l	PI			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		にぶい橙7.5YR7/4	
166 132	B P.760		土師器	杯	底部		[1.6]	4.6	il	s/u,l	PI			にぶい橙7.5YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/4	
167 132	B P.761		土師器	皿	底部		[0.9]	5.4	h3	su/l	Q,O			浅黄橙7.5YR8/4	浅黄橙7.5YR8/4		浅黄橙7.5YR8/4	
168 132	B P.761		土師器	皿	底部	6.5	1.5	4.8	W,c,h2	u/u,l,k	Q,O			浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		浅黄橙10YR8/4	
169 132	B P.761		土師器	杯	口縁部	14.2	[3.1]	V,c	u/u	Q,O				橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	
170 132	B P.786		土師器	杯	口縁部	13.0	[2.4]	V,c	u/u	Q,O				にぶい橙7.5YR7/4	にぶい橙7.5YR7/4		灰灰10YR5/1	
171 132	B P.813		土師器	杯	底部		[1.8]	5.7	h2	/l	O			にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/4		にぶい黄橙10YR7/3	
172 132	B P.814		土師器	杯	底部		[2.2]	7.4	h1	su/u,l	PI			橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		橙7.5YR7/6	
173 132	B P.821		瓦器	椀	口縁部	12.6	[2.5]	E,c	u/	B2	L	M3		暗灰黄2.5Y5/2	橙5YR7/6		にぶい黄橙10YR6/4	

表108 B区遺物観察表 9 (木製品)

遺物 No.	図版 fig.	実測 No.	種類	遺物名・用途	出土地点	法量 (cm)	特徴・その他
						全長	全厚
174	133	8	柱根	柱	P163	45.1	17.8 11.6
175	133	35	柱根	柱	P249	44.0	13.2 6.9
176	133	36	柱根	柱	P367	31.9	11.6 8.8

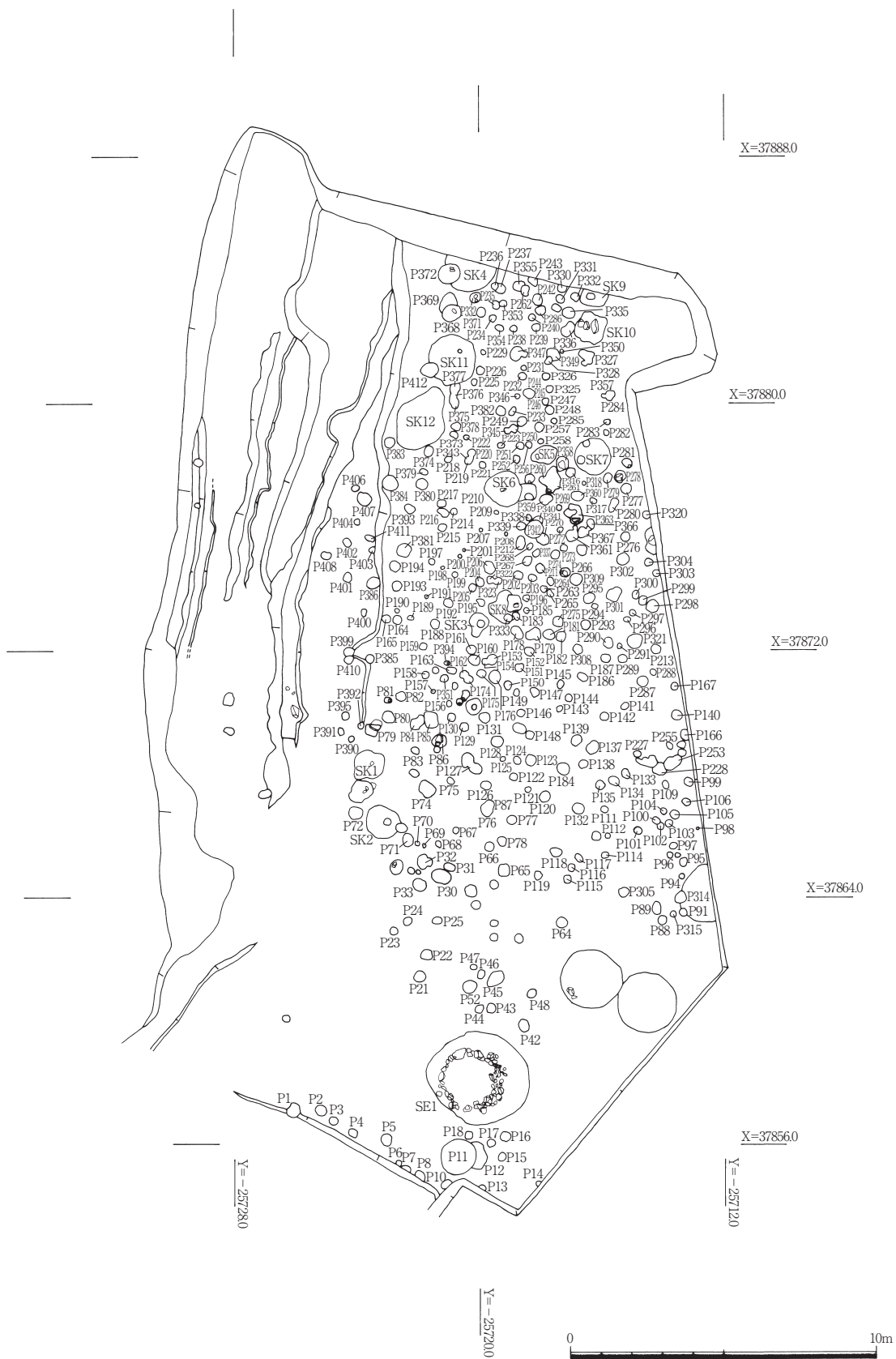


Fig. 134 坪ノ内遺跡E区全体図 (S : 1/200)

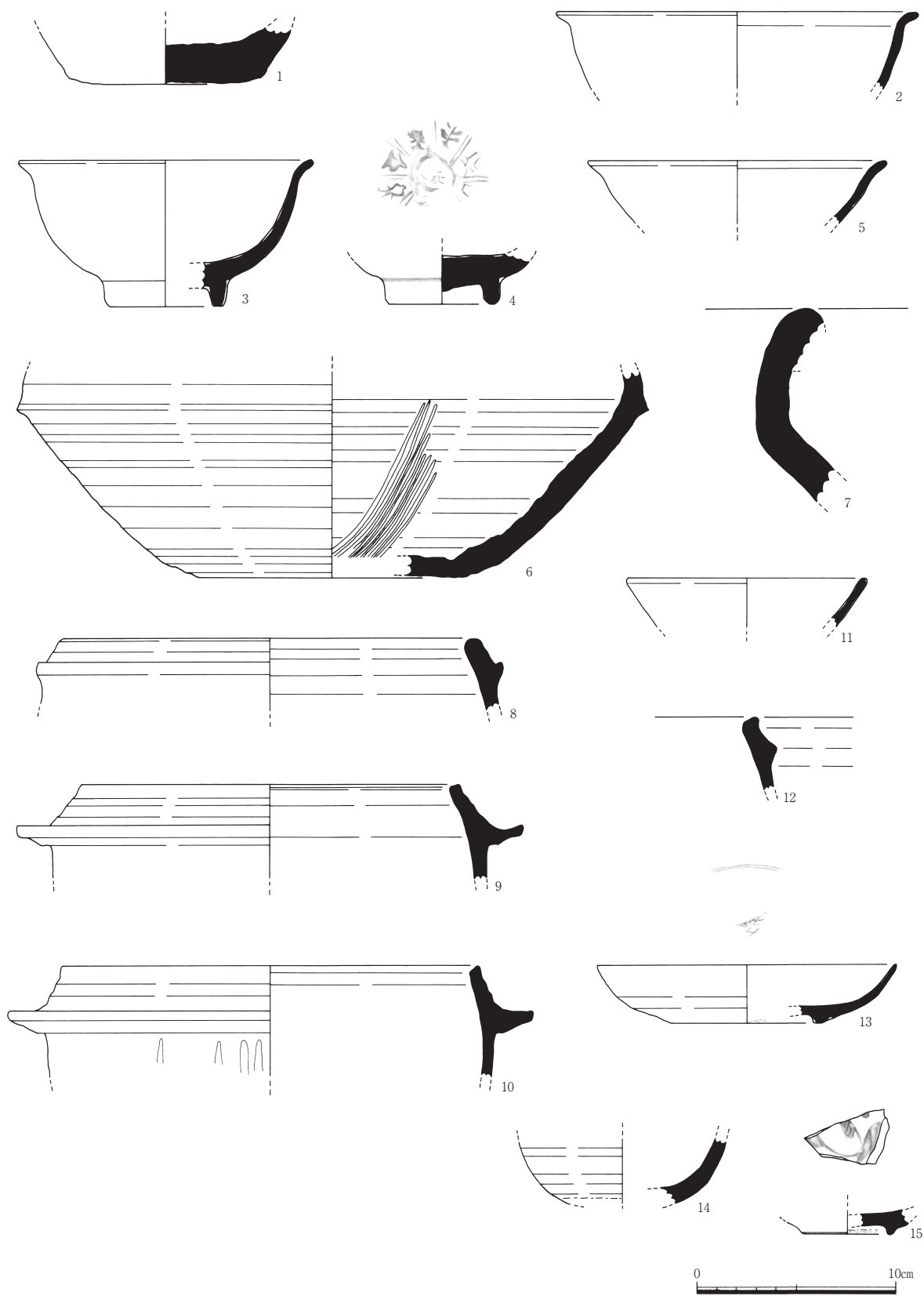


Fig. 135 E区出土遺物 1 (S : 1/3)

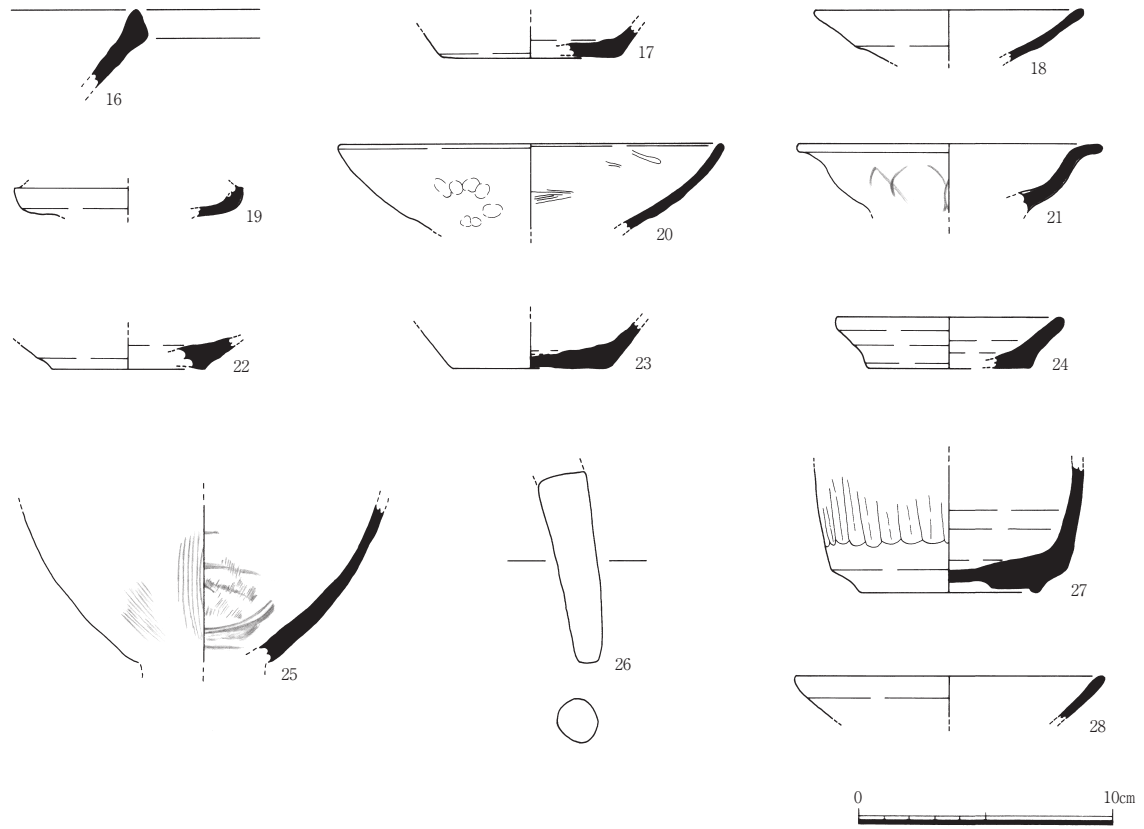


Fig. 136 E区出土遺物 2 (S : 1/3)

表109 E区遺構計測表 1

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P1	D3-4	φ28	33.5	円形		B-E区トレンチ北
E P2	D3-4	36 ×	32	楕円形		
E P3	D3-4	φ28	39.5	円形		
E P4	D3-4	30 ×	30	不整形		
E P5	D3-5	38 ×	34	不整形		
E P6	D3-10	[18] ×	18	楕円形		
E P7	D3-10	32 ×	[16]	楕円形		B-E区トレンチ北
E P8	D3-10	[28] ×	33	楕円形		B-E区トレンチ北
E P10	D3-10	[24] ×	32	不整形楕円形	土師器×1	東壁際
E P11	D3-10	118 ×	112	不整形		P12を切る
E P12	D3-10	88 ×	[36]	円形	土師器×14,白磁?×1	P11に切られる
E P13	E3-6	[16] ×	24	円形		
E P14	E3-6	17 ×	[12]	円形		
E P15	E3-6	29 ×	24	楕円形		
E P16	E3-1	33 ×	32	不整形		
E P17	E3-1	28 ×	26	楕円形		
E P18	D3-5	26 ×	26	円形		
E P19	D2-24	φ22	29.8	円形	鉄製品×2	
E P21	D2-25	φ38	39.0	不整形		
E P22	D2-25	φ36	36.3	不整形		
E P23	D2-25	28 ×	24	楕円形		
E P24	D2-25	32 ×	28	不整形		
E P25	D2-25	28 ×	28	不整形		
E P30	D2-20	64 ×	45	楕円形		
E P31	D2-20	36 ×	26	楕円形		
E P32	D2-20	28 ×	[16]	楕円形		
E P33	D2-20	φ41	25.4	円形		
E P34	D2-20	φ22	23.5	円形		
E P42	E3-1	44 ×	33	楕円形		
E P43	E2-21	φ32	34.7	不整形	瓦器×2	
E P44	D2-25	32 ×	24	不整形楕円形		
E P45	E2-21	64 ×	44	不整形楕円形	鉄滓	
E P46	D2-25	32 ×	22	楕円形		
E P47	D2-25	22 ×	16	楕円形		
E P48	E2-21	32 ×	28	不整形	土師器×1	
E P52	D2-25	44 ×	40	楕円形		
E P64	E2-21	φ36	9.9	円形		
E P65	E2-16	40 ×	36	隅丸長方形		
E P66	D2-20	φ28	8.4	円形		
E P67	D2-20	φ20	7.2	円形		
E P68	D2-20	24 ×	19	不整形楕円形		
E P69	D2-20	φ16	7.2	円形		
E P70	D2-20	φ14	7.5	円形		
E P71	D2-20	42 ×	36	楕円形	16,土師器×3,瓦器×2,釘×1	
E P72	D2-19	φ42	29.9	円形		
E P74	D2-20	60 ×	44	不整形楕円形		
E P75	D2-20	φ22	21.8	円形		
E P76	E2-16					P87と連結
E P77	E2-16	φ30	4.8	不整形		
E P78	E2-16	φ28		不整形		
E P79	D2-15	60 ×	44	不整形		礫混
E P80	D2-15	φ44	40.1	不整形		
E P81	D2-15	24 ×	18	隅丸長方形		
E P82	D2-15	φ32	47.8	円形		
E P83	D2-15	φ24	16.0	円形	鉄滓	
E P84	D2-15	56 ×	36	不整形楕円形		P85に切られる
E P85	D2-15	56 ×	44	隅丸長方形		P84を切る
E P86	D2-15	φ20	13.1	円形		
E P87	E2-16	52 ×	40	楕円形		
E P88	E2-22	φ30	21.6	円形		
E P89	E2-22	42 ×	30	楕円形		
E P91	E2-22	28 ×	24	楕円形		
E P94	E2-22	φ18	15.6	円形		
E P95	E2-22	30 ×	24	不整形		
E P96	E2-22	φ20	19.5	円形		

表110 E区遺構計測表 2

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P97	E2-22	φ25	24.5	円形	土師器×2,瓦器×1	
E P98	E2-22	φ10	9.0	円形		
E P99	E2-17	31 × 28	23.8	楕円形		
E P100	E2-17	26 × 22	29.2	楕円形		P102を切る
E P101	E2-17	φ26	19.7	円形	鉄滓	
E P102	E2-17	22 × [24]	19.3	楕円形		P100に切られる
E P103	E2-17	29 × 24	15.2	楕円形		
E P104	E2-17	φ21	23.8	円形		
E P105	E2-17	φ32	18.8	不整円形		
E P106	E2-17	28 × 22	26.4	楕円形		
E P109	E2-17	28 × 20	20.8	楕円形		
E P110	E2-12	62 × 40	17.0	楕円形		
E P111	E2-16	φ24	17.4	円形		
E P112	E2-17	16 × 16	7.8	隅丸方形		
E P113	E2-16	φ32	16.6	不整円形		
E P114	E2-1	φ22	15.1	円形		
E P115	E2-16	φ24	27.9	円形		
E P116	E2-16	φ26	15.3	不整円形		
E P117	E2-16	32 × 22	10.9	楕円形		
E P118	E2-16	36 × 30	15.2	楕円形		
E P119	E2-16	28 × 24	20.6	不整円形		
E P120	E2-16	40 × 32	26.7	楕円形		
E P121	E2-16	φ20	26.7	円形		
E P122	E2-16	φ24	15.8	円形		
E P123	E2-11	φ34	23.0	不整円形		
E P124	E2-11	φ24	15.9	円形		
E P125	D2-15	φ18	11.8	不整円形		
E P126	E2-16	φ28	22.5	不整円形		
E P127	D2-15	80 × 48	38.8	瓢箪形	17	
E P128	D2-15	φ40	20.1	不整円形	土師器×1	
E P129	D2-15	φ29	13.9	円形		
E P130	D2-15	φ25	10.9	不整円形		
E P131	E2-11	φ32	15.9	不整円形		
E P132	E2-16	34 × 34	27.2	隅丸方形		
E P133	E2-12	32 × 28	15.3	楕円形		
E P134	E2-17	38 × 28	13.9	楕円形		
E P135	E2-16	φ30	28.8	不整円形		
E P137	E2-11	46 × 36	31.0	楕円形		
E P138	E2-11	φ28	6.5	不整円形		
E P139	E2-11	36 × 30	12.5	楕円形		
E P140	E2-12	38 × 36	14.3	不整楕円形		
E P141	E2-12	28 × 21	37.7	楕円形		
E P142	E2-12	φ28	15.0	不整円形		
E P143	E2-11	24 × 20	9.7	楕円形		
E P144	E2-11	26 × 22	15.0	楕円形		
E P145	E2-11	28 × 25	30.8	不整楕円形		
E P146	E2-11	26 × 24	19.5	隅丸長方形		
E P147	E2-11	32 × 29	16.5	不整楕円形	瓦器×1	
E P148	E2-11	28 × 26	25.5	隅丸長方形	土師器×1	
E P149	E2-11	24 × 18	12.0	不整楕円形		
E P150	E2-11	28 × 24	24.5	不整楕円形		
E P151	E2-11	30 × 28	16.5	不整形		
E P152	E2-6	34 × 29	24.4	不整楕円形		
E P153	E2-11	φ33	35.9	円形	19,土師器×2,	P154と一部が重なる。
E P154	E2-11	20 × [20]	6.8	楕円形		P153と一部が重なる。
E P156	D2-15	φ20	23.9	不整円形		
E P157	D2-15	φ16	21.9	円形		
E P158	D2-15	φ24	31.4	円形		
E P159	D2-10	26 × 24	16.5	楕円形		
E P160	D2-15	φ40	41.7	円形		
E P161	D2-10	32 × 30	10.2	楕円形		
E P162	D2-15	φ28	35.9	不整円形		P174と一部で重なる。
E P163	D2-10	32 × 22	32.9	楕円形		
E P164	D2-10	φ29	22.1	円形		
E P165	D2-10	φ28	—	円形		

表111 E区遺構計測表 3

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P166	E2-12	36 × [24]	31.6	円形		東壁際
E P167	E2-12	φ24	10.6	円形		
E P170	E2-12	64 ×	38	23.2	不整形	P228を切る
E P174	D2-15	φ28	35.9	円形		P162と一部重なる。
E P175	D2-15	φ26	22.7	不整円形		
E P176	E2-11	46 ×	38	53.0	楕円形	
E P178	E2-6	48 ×	32	19.4	不整楕円形	瓦器×1
E P179	E2-6	49 ×	42	23.7	不整形	土師器×4,土師質土器×2
E P180	E2-6	28 × [20]	34.4	円形		P179と連結する。
E P181	E2-6	37 ×	34	41.7	不整楕円形	20,土師器×1
E P182	E2-6	32 ×	32	29.7	不整形	弥生土器×1,土師器×5
E P183	E2-6	29 ×	24	20.4	楕円形	
E P184	E2-11	φ40	28.2	円形		
E P185	E2-6	φ39	17.8	不整円形	土師器×2,瓦質土器×1	
E P186	E2-11	37 ×	27	30.3	楕円形	
E P187	E2-11	34 ×	28	13.6	隅丸長方形	土師器×2
E P188	D2-10	φ32	34.0	不整円形		
E P189	D2-10	20 ×	17	9.5	楕円形	
E P190	D2-10	φ16	11.2	円形		
E P191	D2-10	φ14	15.0	円形		
E P192	D2-10	32 ×	26	24.0	楕円形	
E P193	D2-10	36 ×	32	10.0	不整楕円形	
E P194	D2-10	φ32	24.0	不整円形		
E P195	E2-6	28 ×	24	14.3	不整楕円形	
E P196	E2-6	24 ×	24	16.6	不整形	土錘×1
E P197	D2-10	20 ×	20	12.2	隅丸方形	
E P198	D2-10	16 ×	12	13.6	楕円形	
E P199	D2-10	20 ×	18	8.1	楕円形	
E P200	D2-10	φ12	7.4	不整円形		
E P201	D2-10	φ12	7.5	円形		
E P202	E2-6	32 ×	24	14.8	不整長方形	
E P203	E2-6	φ24	18.3	不整円形	土師器×2	
E P204	E2-6	33 ×	30	12.3	楕円形	
E P205	D2-10	26 ×	24	8.5	不整長方形	
E P206	E2-6	44 ×	36	41.7	楕円形	
E P207	E2-6	φ16	6.4	円形		
E P208	E2-6	φ12	9.1	円形		
E P209	E2-1	32 ×	28	15.3	楕円形	
E P210	E2-1	18 ×	14	6.0	楕円形	
E P211	E2-6	φ32	15.8	不整円形		
E P212	E2-6	44 ×	30	19.0	楕円形	
E P213	E2-7	36 ×	30	18.5	楕円形	
E P214	D2-5	26 ×	22	16.4	楕円形	土師器×2,
E P215	D2-5	26 ×	24	17.2	不整形	21
E P216	D2-5	38 ×	22	8.7	不整楕円形	
E P217	D2-5	25 ×	25	16.3	隅丸方形	釘?×1
E P218	D2-5	26 ×	22	19.6	楕円形	
E P219	D2-5	28 ×	26	9.2	楕円形	P220と一部で重なる。
E P220	D2-5	φ22	14.9	円形	土師器×1	P219と一部で重なる。
E P221	D2-5	28 ×	26	10.5	楕円形	
E P222	D2-5	φ16	12.5	円形		
E P223	E2-1	φ20	9.4	不整円形	土師器×1	
E P225	D1-25	φ20	9.0	円形		
E P226	E1-21	28 ×	20	13.6	不整形	
E P227	E2-12	φ22	9.8	円形		
E P228	E2-12	45 ×	39	31.6	楕円形	P110とP170に切られる。
E P229	D1-25	φ20	18.0	円形		
E P230	E1-21	48 ×	38	13.9	楕円形	土師器×1
E P231	E2-1	φ16	9.1	円形		
E P232	E2-1	28 ×	26	10.9	円形	
E P233	E2-1	32 ×	20	15.7	不整楕円形	
E P234	E1-21	φ24	14.4	不整円形		
E P235	E1-21	φ28	15.8	円形		
E P236	E1-21	φ20	20.4	円形		
E P237	E1-21	56 ×	30	12.7	楕円形	P236に切られる。

表112 E区遺構計測表 4

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P238	E1-21	φ24	25.1	円形		
E P239	E1-21	φ24	23.1	不整円形		
E P240	E1-21	φ24	13.6	円形		
E P242	E1-21	φ36	15.9	不整円形		
E P243	E1-16	36 ×	[24]	6.6	不整楕円形	
E P244	E1-21					P244に収束される。
E P245	E1-21	40 ×	30	21.8	楕円形	
E P246	E1-21					P244に収束される。
E P247	E1-21	φ22	19.2	円形		
E P248	E2-1	φ28 ×	22.4	円形		
E P249	E2-1	36 ×	28	14.9	楕円形	
E P250	E2-1	φ26	8.5	円形		P345と一部で重なる。
E P251	E2-1	φ25	27.1	円形	土師器×1	
E P252	E2-1	φ24	13.4	円形	22	
E P253	E2-12	φ24	14.6	円形		P110で一部で重なる。
E P255	E2-12	25 ×	19	[21.9]	楕円形	
E P256	E2-1	20 ×	21	11.5	楕円形	
E P257	E2-1	30 ×	30	21.0	隅丸方形	
E P258	E2-1	20 ×	18	12.2	楕円形	土師器×1, 鉄滓
E P260	E2-1	φ20	52.1	不整円形		
E P261	E2-1	[40] ×	32	22.3	不整楕円形	土師器×2, 鉄製品×2
E P262	E1-21	36 ×	28	24.3	長方形	土師器×2
E P263	E2-6	φ22	21.6	不整円形	23, 土師器×2	
E P264	E2-6	28 ×	24	22.4	楕円形	瓦器×1
E P265	E2-6	26 ×	20	13.1	不整楕円形	
E P266	E2-6	φ29	10.0	円形		打割碟
E P267	E2-6	36 ×	29	20.5	不整楕円形	
E P268	E2-6	24 ×	19	7.7	楕円形	
E P269	E2-1	44 ×	52	52.1	不整楕円形	瓦質土器×1
E P270	E2-6	22 ×	14	12.0	楕円形	
E P271	E2-6				釘×1	P270に収束する。
E P272	E2-6					P270に収束する。
E P273	E2-6	φ22	17.6	円形		
E P274	E2-6	φ28	15.6	円形	土師器×1	
E P275	E2-6	32 ×	32	23.9	不整方形	24, 土師器×3
E P276	E2-7	φ32	16.7	円形		
E P277	E2-2	φ35	25.4	円形		
E P278	E2-2	42 ×	32	15.1	楕円形	土師器×1
E P279	E2-2	34 ×	28	15.9	楕円形	
E P280	E2-2	45 ×	21	18.8	瓢箪形	
E P281	E2-2	φ32	16.8	円形		
E P282	E2-2	φ20	16.6	不整円形		
E P283	E2-2	φ18	16.4	不整円形		
E P284	E1-21	36 ×	28	16.8	円形	
E P285	E2-1	φ22	7.6	不整円形		
E P286	E1-21	φ32	15.8	円形	土師器×1	
E P287	E2-12	φ32	14.7	円形		
E P288	E2-12	φ20	11.9	円形		
E P289	E2-12	30 ×	26	31.8	楕円形	
E P290	E2-7	φ34	32.1	円形		
E P291	E2-7	φ16	9.6	円形		
E P293	E2-6	φ32	33.5	円形		
E P294	E2-6	φ20	11.3	円形		
E P295	E2-6	40 ×	33	10.6	不整楕円形	
E P296	E2-7	φ18	26.0	円形		
E P297	E2-7	φ20	19.0	円形		
E P298	E2-7	φ40	28.9	円形		
E P299	E2-7	31 ×	26	30.0	不整楕円形	
E P300	E2-7	25 ×	20	26.4	楕円形	
E P301	E2-7	52 ×	42	23.9	不整形	
E P302	E2-7	φ40	25.3	不整円形		
E P303	E2-7	26 ×	[23]	27.3	不整形	東壁際
E P304	E2-7	28 ×	24	26.9	不整楕円形	
E P305	E2-17	36 ×	32	21.7	不整形	
E P308	E2-6	φ32	37.8	不整円形		

表113 E区遺構計測表 5

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P309	E2-6	φ41	16.8	円形		
E P314	E2-22	φ36	31.6	円形	土師器×2	
E P315	E2-22	φ20	15.8	円形		
E P316	E2-1	φ29	5.0	円形	弥生土器×2	
E P317	E2-1	φ20	24.1	円形		
E P318	E2-1	φ14	5.0	円形		
E P320	E2-2	29 × [20]	7.6	不整形		
E P321	E2-7	50 × 45	—	不整形		
E P322	E2-6	φ22	20.3	円形		P323と一部で重なる。
E P323	E2-6	φ22	20.3	円形		P322と一部で重なる。
E P325	E1-21	22 × 20	18.5	不整形		
E P326	E1-21	φ24	10.0	不整形		
E P327	E1-21	56 × 36	12.6	不整形		
E P328	E1-21	26 × 20	18.4	不整形		P349を切る。
E P330	E1-21	[28] × 28	11.4	不整形		
E P331	E1-21	φ28	6.3	不整形		
E P332	D1-20	40 × 34	16.4	楕円形		
E P333	E2-6	φ27	12.0	円形		
E P335	E1-21	40 × 36	4.9	不整形		
E P336	E1-21	56 × 36	5.9	不整形		
E P337	E2-6	32 × 20	9.0	不整形		
E P338	E2-1	φ20	18.7	不整形		
E P339	E2-1					P342に収束する。
E P340	E2-1	32 × [16]	18.7	円形		
E P341	E2-1					P340に収束する。
E P342	E2-1	62 × 58	46.2	円形		P340とP341を切る。
E P343	D2-5					P219に収束する。
E P345	E2-1	φ24	8.5	円形		P250と一部で重なる。
E P346	E1-21	20 × 16	4.2	楕円形		
E P347	E1-21	φ20	18.5	不整形		
E P349	E1-21	40 × 40	18.9	不整形		P328に切られる。
E P350	E1-21	18 × 14	8.5	不整形		
E P351	D2-15	φ28	30.6	円形		
E P353	E1-21	24 × 20	17.5	楕円形		P235に切られる。
E P354	E1-21	28 × 20	35.0	楕円形		
E P355	E1-21	40 × 40	18.9	不整形		P262に切られる。
E P357	E1-21	φ12	7.4	円形		P284と一部で重なる。
E P358	E2-1	44 × 38	14.7	不整形		
E P359	E2-1	46 × 32	11.3	不整形		
E P360	E2-1	40 × 32	14.2	不整形		
E P361	E2-6	56 × 36	13.2	不整形		
E P363	E2-1	72 × 58	22.0	不整形		
E P364	E2-1	φ16	13.1	不整形		
E P366	E2-1	36 × 22	17.0	不整形	弥生土器×1	
E P367	E2-6	34 × 32	16.9	不整形		
E P368	D1-25	50 × 64	19.2	楕円形	磁器（染付）×1,釘×2	
E P369	D1-25	72 × 52	33.0	楕円形		P368に切られる。
E P371	E1-21	32 × 28	23.0	楕円形		
E P372	D1-20	68 × 60	30.1	楕円形	土師器×2	
E P373	D2-5	28 × 20	26.0	楕円形		
E P374	D2-5	32 × 28	20.2	不整形	土師器×1	
E P375	D2-5	φ20	22.8	円形		
E P376	D1-25	φ28	22.3	円形		
E P377	D1-25	φ32	22.5	円形		
E P378	D2-5	40 × 28	23.3	不整形	土師器×1	
E P379	D2-5	32 × 20	23.3	楕円形		
E P380	D2-5	φ36	27.7	円形		
E P381	D2-10	44 × 44	26.5	楕円形		
E P382	E2-1	φ32	21.8	円形		
E P383	D2-5	φ32	12.8	不整形	鉄滓	
E P384	D2-5	φ52	35.1	不整形		
E P385	D2-15	φ32	13.6	円形		
E P386	D2-10	φ40	12.6	円形		
E P390	D2-14	φ20	28.6	円形		
E P391	D2-14	φ24	19.1	不整形		

表114 E区遺構計測表 6

遺構No.	検出位置	規模	深さ	形態	出土遺物	備考
E P392	D2-15	φ22	32.3	円形		
E P393	D2-5	36 ×	30	17.0	楕円形	
E P394	D2-15	20 ×	16	21.0	楕円形	
E P395	D2-14	φ26	11.8	不整円形		
E P399	D2-9	36 ×	[26]	26.6	不整円形	
E P400	D2-10	26 ×	18	10.5	楕円形	
E P401	D2-9	32 ×	26	32.5	楕円形	
E P402	D2-9	30 ×	24	14.6	楕円形	
E P403	D2-10	24 ×	20	13.3	楕円形	
E P404	D2-4	φ22	14.6	円形		
E P406	D2-4	φ22	—	円形		
E P407	D2-5	46 ×	44	31.2	不整形	
E P408	D2-9	36 ×	25	12.2	楕円形	28
E P410	D2-14	32 ×	28	41.1	楕円形	
E P411	D2-10	34 ×	18	17.0	楕円形	
E P412	D1-25	56 ×	48	21.8	楕円形	鉄製品×1
E P418						釘×1
E SK1	D2-15	96 ×	96	34.5	隅丸方形	
E SK2	D2-20	108 ×	98	13.5	楕円形	
E SK3	D2-10	80 ×	62	40.6	不整形	鉄滓
E SK4	D1-20	164 ×	[104]	20.0	円形	
E SK5	E2-1	80 ×	60	11.0	不整形	
E SK6	E2-1	168 ×	116	19.3	不整円形	11,土師質土器×1、柱根
E SK7	E2-1	φ116	12.6	円形	板状鉄製品	
E SK8	E2-6	108 ×	108	26.0	不整形	12,磁器(染付)×1、土師器×4、柱
E SK9	E1-21	80 ×	[52]	12.3	不整方形	北端
E SK10	E1-21	88 ×	88	25.3	不整方形	
E SK11	D1-25	φ156	26.8	円形	土師器×5	P412に切られる。
E SK12		220 ×	160	27.7	不整楕円形	13~15,土師器×2
E SE1	D3-5・E3-1	220 ×	200	—	円形	1~10,土師器×42,土師質土器×1,青磁×2,磁器×2,陶器×9,土鍾×2,鉄製品×1,鉄滓

表115 E区遺物観察表1

遺物 No.	図版 No.	出土地点	層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)	器高	胴径	底径	形態	調整等	胎土	特徴	焼成	他	内面	外面	色調	断面	備考
1	135	E SE1		弥生土器	壺	底部		[2.8]	9.7		9.7	平底は緩い凸面を成す。						にぶい黄2.5Y6/3	橙7.5YR7/6	灰白10Y7/1	にぶい黄2.5Y6/3	
2	135	E SE1		陶器	椀	口縁部	18.0	[3.9]				W,c	灰軸(白濁)	穿孔				灰白10Y7/1	灰白10Y7/1	灰白10Y7/1	灰白N7/	瀬戸美濃?
3	135	E SE1		青磁	椀		14.4	7.3			5.6	W,c	青磁軸				オリーブ灰10Y4/2	オリーブ灰10Y4/2	オリーブ灰10Y4/2	灰白N7/	龍泉窯	
4	135	E SE1		青磁	椀	底部		[2.5]	5.4		5.4	高台は断面方形を呈する。高台内に凹中を残す。青磁軸(内)印花紋(外)高台内軸削ぎ					緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1	灰白7.5Y8/1	龍泉窯	
5	135	E SE1		青磁	椀	口縁部	14.7	[3.2]				W,c	青磁軸				明オリーブ灰2.5GY7/1	明オリーブ灰2.5GY7/1	明オリーブ灰2.5GY7/1	灰白10Y8/1	龍泉窯(14C初頭から15C前半)	
6	135	E SE1		陶器	楕鉢	底部		[11.3]	13.9			口縁で外側に肥厚する。(内)1単位8条の櫛り目、su(外)u					橙5YR7/6	黄灰2.5Y5/1	黄灰2.5Y5/1	橙5YR7/6	橙5YR7/6	備前皿期
7	135	E SE1		陶器	壺	口縁部		[9.7]				W,a	u/u				にぶい赤褐5YR5/3	にぶい赤褐5YR5/3	にぶい赤褐5YR5/3	灰褐7.5YR5/2	備前皿期	
8	135	E SE1		土師質土器	羽釜	口縁部	20.6	[3.6]				口縁は内湾して立ち上がり、口唇は丸く修める。口縁下に短い鑄りが付く。(内)u(外)u、煤付着						黒褐7.5YR3/1	黒褐7.5YR3/1	黒褐7.5YR3/1	橙7.5YR6/6	
9	135	E SE1		土師質土器	羽釜	口縁部	19.0	[4.7]				口縁は直線的に内傾して立ち上がる。口唇は内傾する面を成す。鑄は口縁下にやや凹面を成して付く。(内)u(外)u						黄橙10YR7/4	褐灰10YR4/1	褐灰10YR4/1	にぶい黄橙10YR7/4	摂津型(15C)
10	135	E SE1		土師質土器	羽釜	口縁部	21.0	[5.6]				口縁は内湾気味に立ち上がり、口唇は内傾する面を成す。鑄は口縁下で水平に付く。(内)丁寧なナデ(外)沈線状の段、削り痕、煤付着						にぶい黄橙10YR7/3	灰黄褐10YR7/3	灰黄褐10YR7/3	にぶい黄橙10YR7/3	摂津型(15C)
11	135	E SK6		青磁	椀	口縁部	12.0	[2.4]				V,c	青磁軸				緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1	緑灰7.5GY6/1	灰白N8/	龍泉窯(11Cから12C前半)	
12	135	E SK8		土師質土器	羽釜	口縁部		[3.6]				口縁は内湾気味に立ち上がり、口唇は外側に肥厚して内傾する面を成す。口縁下に断面三角形の低い鑄りが付く。(内)u(外)u、煤付着						にぶい橙7.5YR6/4	にぶい橙7.5YR6/4	橙7.5YR6/6	橙7.5YR6/6	
13	135	E SK12		磁器	皿	体部	15.0	2.9			7.6	X,c、高台内を深く削り込む。透明軸(内)二重陶線					明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	灰白10Y8/1	肥前系	
14	135	E SK12		陶器	椀	体部		[3.3]				体部は内湾する。灰軸、外面は凸凹し、下位は露胎する。					灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2	灰オリーブ5Y6/2	にぶい橙7.5YR6/4		
15	135	E SK12		磁器	皿	底部		[1.2]	4.6			高台は断面台形で、内脚をやや深く削り込む。(内)凹須による草花紋					明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	明緑灰7.5GY8/1	灰白7.5Y8/1	肥前系?	
16	136	E P71		須臾器	こね鉢	口縁部		[3.5]				V,b	u/u				灰7.5Y6/1	灰N5/	灰N5/	灰5Y6/1	東播系11期2段階	
17	136	E P127		土師器	皿	底部		[1.3]	6.9	b2		u/u	P1				橙5YR7/8	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙5YR7/8		
18	136	E P136		瓦器	椀	口縁部	10.6	[2.0]				E,c	u/u,g	B2	L	N		橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	橙2.5YR6/6	
19	136	E P153		青磁	合子	口縁部	9.0	[1.2]				青磁軸					オリーブ灰5GY6/1	オリーブ灰5GY6/1	オリーブ灰5GY6/1	灰白7.5Y7/1	龍泉窯	
20	136	E P181		瓦器	椀	口縁部	15.0	[3.4]				G,c	m/u,g	B1	K	M		灰N6/1	灰N6/1	灰N6/1	灰白5Y8/2	
21	136	E P215		青磁	皿	口縁部	11.8	[2.7]				口縁は外反して鑄状を成す。c青磁軸(外)調花紋					オリーブ灰10Y6/1	オリーブ灰10Y6/1	オリーブ灰10Y6/1	灰白7.5Y7/1	龍泉窯(13C前半)	

表116 E区遺物観察表 2

遺物 No.	図版 fig.	出土地点 遺構・ゾリッド 層位	器種	器形	部位	口径	法量 (cm)		形態	調整等	特徴 胎土	焼成	他	内面	色調 外面	断面	備考
							器高	底径									
22	136	E.P.252	土師器	杯	底部		[1.2]	6.1	il	s/u	P1		浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3	浅黄橙10YR8/3		
23	136	E.P.263	土師器	杯	底部		[1.8]	6.0	h1	s/u, l	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		
24	136	E.P.275	土師器	皿		9.0	2.0	6.4	V, c, h2	u/t	P1		オリーブ黒5Y3/1	オリーブ黒5Y3/1	オリーブ黒5Y3/1		
25	136	E.P.313	青磁	椀	体部		[6.2]						オリーブ黄5Y6/3	オリーブ黄5Y6/3	灰白5Y7/1	同安楽 (12C中葉から後葉)	
26	136	E.P.389	瓦質土器	三足鍋	脚	全長 7.4	全幅 [1.6]	全厚 [1.3]					脚端部は緩く外反する。(外) u (焼成) K	灰黄2.5Y7/2	灰白2.5Y8/2		
27	136	E.P.405	磁器	香炉?	底部		[5.0]	7.0					蛇ノ目高台、腰折れ型 (内) u, 露胎 (外) u, 露胎 (外) 青磁軸、菊花線の蓮弁 灰白5Y7/1	明オリーブ灰5GY7/1	灰白5Y7/1	肥前系?	
28	136	E.P.408	土師器	杯	口縁部	12.2	[1.7]		X, c	u/u	P2		橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6	橙7.5YR7/6		

木組内部理積層			木組内部理積層			木組内部理積層					
M1-1	礫混じり 粘土(酸化)	にぶい黄褐色 10YR6/4	礫は円礫・角礫と泥岩砕屑物。 炭化物の20mm.Maxを含む。	M1-10	礫混じり シルト	オリーブ黒色 5Y3/1	礫はφ10mm.Maxの泥岩砕屑物主体。土壌基質に炭化物多。	M4-3	小礫混じり 粘土(還元)	暗青灰色 5B4/1	礫は垂角〜垂円φ110mm.Max主体。炭化物少含。
M1-2	細礫混じり シルト(酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	細礫は泥岩砕屑物が主体。 炭化物の30mm.Maxを含む。	M1-11	礫混じり シルト(酸化)	暗灰黄色 2.5Y4/2	礫はφ10mm.Maxの円礫と泥岩砕屑物で構成。	M5-1	粘土混じり 砂利(還元)	暗青灰色 5B3/1	主体の砂利は垂角〜垂円φ60mm.Max級。炭化物多。
M1-3	シルト質 シルト(酸化)	にぶい黄褐色 10YR4/3	橙色粘土少含。炭化物φ30mm.Max少含。	M2-1	粘土 (還元)	暗青灰色 5B4/1	円礫φ10mm.Maxを少含。土壌基質は炭化物に富む。	M5-2	粘土混じり 砂利(還元)	青黒色 5B2/1	φ150mm級円礫と円礫砕片に上下を挟まれて板材片出土。
M1-4	礫混じり 粘土(酸化)	橙色 7.5YR6/6	礫φ30mm.Maxは円礫と泥岩砕屑物から成り、後者が主体。	M2-2	大礫混じり 粘土(還元)	暗青灰色 5B4/1	礫は硬質砂岩垂角礫の主体。	M6-1	粘土混じり 砂利(還元)	青黒色 5B2/1	砂利φ50mm.Maxが主体。 炭質粘土が少混。木片多。
M1-5	大礫混じり シルト(酸化)	暗灰黄色 2.5Y4/2	硬質砂岩垂角礫φ330mm.Max多含。円礫・泥岩砕屑物を含む。	M2-3	小礫混じり 粘土(還元)	灰色 10Y4/1	礫は円礫と泥岩砕屑物で構成。	M6-2	砂利混じり 粘土(還元)	青黒色 5B2/1	炭化物を含み、砂利φ70mm.Maxを多混。木片を含む。
M1-6	礫混じり 粘土(酸化)	7.5YR6/6	円礫・泥岩砕屑物φ40mm.Max多含。炭化物φ5mm.Max少含。	M3-1	大礫混じり 粘土(還元)	オリーブ灰色 10Y4/2	礫は円礫φ10mm.Maxと泥岩砕屑物で構成。	M6-3	砂利混じり 粘土(還元)	青黒色 5B2/1	M6-2に類似するが、砂利の分量が増す。
M1-7	シルト質 粘土(酸化)	褐灰色 10YR4/1	橙色粘土微含。円礫・泥岩砕屑物φ40mm.Max少含。	M3-2	大礫混じり 粘土(還元)	灰オリーブ色 7.5Y4/2	礫は硬質砂岩垂角礫φ160mm.Max主体。炭化物・小木片有り。	M7-1	粘土混じり 砂利(還元)	暗青灰色 5B4/1	砂利φ60mm.Maxに粘土が混在。径約200mmの曲物出土。
M1-8	大礫混じり 粘土(酸化)	橙色 7.5YR6/6	硬質砂岩垂角礫φ250mm.Maxを含む。泥岩砕屑物微含。	M4-1	粘土(還元)	暗青灰色 5B4/1	礫は硬質砂岩垂角礫φ220mm.Max主体。炭化物・小木片少含。	M7-2	礫 (還元)	青黒色 5B2/1	硬質砂岩垂角礫φ120mm.Maxの間隙を砂利が充填。
M1-9	シルト質 粘土(酸化)	灰褐色 7.5YR4/2	硬質砂岩垂角礫φ250mm.Maxを含む。褐色粘土混在の下限。	M4-2	砂利混じり 粘土(還元)	青灰色 10B5/1	基質粘土は重層土織。砂利はφ30mm前後。炭化物少含。	M7-3	砂利 (還元)	青灰色 5B5/1	砂利φ60mm.Maxに微量の泥質物が混じる。
第VL層 (河成; 断面左)			第VL層 (河成; 断面左)			第VR層 (河成; 断面右)					
VL-1	砂礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	礫φ60mm.Maxが優勢で、粗砂が加わる。	UL-1	粘土質シルト (酸化)	褐灰色 10YR5/1	泥岩砕屑物φ30mm.Maxを少含。炭化物φ20mm.Max多含。	VR-1	礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	級化度の低いφ140mm.Maxの堆積。
VL-2	小礫 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y4/2	垂角〜垂円の少礫が主体。 微量の粗砂が混じる。	UL-2	礫混じり 質シルト(酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	礫は垂角礫主体で、分量多。 灰色シルト断片あり。	VR-2	礫混じり粗 砂(酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	混礫は、φ50mm.Maxの小礫。
VL-3	細砂 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	級化度の高い細粒砂の堆積。 細礫の混在は稀。	UL-3	砂利混じり シルト(酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	砂利φ90mm.Max多混。	VR-3	砂礫 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	級化度の低い砂と礫の混在。
VL-4	砂混じり 小礫(酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	少礫φ60mm.Maxの間隙を少量の砂が充填。	UL-4	シルト混じり シルト(酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	砂利φ60mm.Max少混。	VR-4	砂勝ち砂礫 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	級化度の低い砂と小礫から成る。
VL-5	小礫混じり 細砂(酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	細粒砂に少量の小礫が混じる。	UL-5	大礫混じり 粘土(還元)	灰色 N4/	硬質砂岩割石や垂角礫φ200mm.Maxが集中。砂利が分布。	VR-5	細砂 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	細粒砂の堆積であり、φ40mm.Maxの小礫が少散。
VL-6	細礫(酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	微量の砂が混じる。	UL-6	粘土(還元)	灰色 N4/	粘土基質中に砂利が混在。	VR-6	砂混じり小礫 (還元)	灰オリーブ色 5Y4/2	小礫φ40mm.Maxの間隙を砂が充填。
VL-7	砂混じり 小礫(還元)	灰色 5Y5/1	礫φ60mm.Maxに多量の砂が加わる。	UL-6S	砂利混じり 粘土(酸化)	褐色 10YR4/4	河成層と接する部分でUL-6層脚に生じた水酸化鉄塊集積。	VR-7	細砂 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	級化度の高い細粒砂の堆積であり、細礫の混在は稀。
VL-8	小礫 (還元)	灰色 7.5Y6/1	φ10mm前後の少礫から成り、級化度は高い。	UL-7	砂利 (還元)	青灰色 5B5/1	小礫級砂利φ20mm.Maxが堅固に詰まる。土の基質層。	VR-8	礫混じり粗砂 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	混礫はφ50mm.Maxの小礫級。
VL-9	礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	級化度の低い礫堆積。粒度は細礫からφ110mm級の範囲。	達土層L (断面左)			達土層R (断面右)				
VL-9S	礫 (酸化)	黄褐色 10YR5/6	達土層との接触帯で河成層脚に生じた水酸化鉄の殻状集積。	UR-1	礫混じり砂質 シルト(酸化)	暗灰黄色 2.5Y4/2	礫は大小の垂角〜垂円の硬質砂岩主体。土師器片散見。	VR-9	細砂 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	級化度の高い細粒砂の堆積。細礫混在は稀。VL-3に類似。
VL-10	細砂	灰白色 5Y7/1	級化度の高い細粒砂の薄層。 水酸化鉄の集積は軽度。	UR-2	礫混じり 砂質シルト	褐灰色 10YR4/1	礫は垂角〜垂円礫φ100mm.Maxで構成。	VR-10	小礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	小礫φ40mm.Maxの間隙を砂が充填。
								VR-11	細礫 (酸化)	灰黄色 2.5Y6/2	少量の粗砂が混じる。

VL-11	砂礫 (還元)	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	砂礫と粗砂が混合。 マンガン・水酸化鉄が交錯。	UR-3	砂利混じり 粘土(酸化)	褐灰色 10YR5/1	砂利はφ40mm.Max級で、少量。	VR-12	砂混じり礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	亜角〜亜円礫φ100mm.Max の形の隙間を砂が充填。
VL-11G	砂礫 (還元)	灰色 N5/	灰色 N5/	込土層との接合部で河成層 側に波及した還元部分。	UR-4	シルト混じり 礫(酸化)	褐灰色 10YR5/1	主体の礫は亜角〜亜円礫 φ100mm.Maxで構成。	VR-13	礫混じり砂 (酸化)	灰黄色 2.5Y6/2	亜角〜亜円礫が混在。
VL-12	少礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	φ30mm.Maxの小礫から成る。	UR-5	礫混じり砂質 シルト(酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	混礫は亜角〜亜円礫φ60mm. Maxで構成。	VR-14	小礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	小礫φ30mm.Maxに少量の 細礫が混じる。
VL-13	粗砂 (酸化)	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	二酸化マンガガンが集積	UR-6	砂礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y4/1	亜角礫φ80mm.Maxと粗砂で 構成。	VR-15	粗砂 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	シルトと細礫を少量。
VL-14	砂礫 (酸化)	明黄褐色 10YR6/6	明黄褐色 10YR6/6	礫φ70mm.Maxと粗砂の混合層 で、縁部に水酸化鉄が集積。	UR-7	シルト混じり 砂礫	褐灰色 10YR5/1	亜角〜亜円礫φ110mm.Maxと 砂が主体。シルトは還元状態。	VR-16	礫混じり細砂 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	小礫φ30mm.Maxを少量。
VL-15	砂礫 (酸化)	明黄褐色 10YR6/6	明黄褐色 10YR6/6	礫φ50mm.Maxと粗砂の混合層 に、水酸化鉄が集積。	UR-8	礫混じりシルト 質粘土(還元)	灰色 N5/	大礫群φ200mm.Maxと小礫間 に粒度差大。本組礫層の敷設。	VR-17	礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	亜角礫φ180mm級が突出。 他はφ200mm以下の粒度。
VL-16	粗砂 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	少礫φ10mmを少量。	UR-8S	礫混じりシルト 質粘土(酸化)	黄褐色 10YR5/6	河成層との接合部でUR-8層間 に生じた水酸化鉄の塊状集積。	VR-18	小礫 (酸化)	黄灰色 2.5Y6/1	小礫φ40mm.Maxに少量の 細礫が混じる。
VL-17	礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	φ70mm.Maxの亜角〜円礫で構 成。粒度分布の幅が広い。	UR-9	細礫 (還元)	青灰色 5B5/1	細礫は砂利で構成し、堅固。 込土の基底層を成す。	VR-19	砂礫 (酸化)	灰黄色 2.5Y6/2	砂〜大礫φ160mm.Maxの混 合。礫形は亜角〜亜円。
VL-18	礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	φ180mm.Maxの大礫が主体。 粗砂少量。					VR-20	礫 (酸化)	黄褐色 10YR5/6	小礫の堆積に水酸化鉄が集 積。
VL-19	細礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	堅固な薄層。					VR-21	粘土 (還元)	灰色 N6/	酸化度が高く、砂利を見ない。 本組構造基盤部の埋設基盤。
VL-20	少礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	堅固な薄層。					SK-16 埋積層掘削残部			
VL-21	砂礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	酸化度の低いφ120mm.Max の礫堆積。					1	シルト混じり 砂利(酸化)	黄灰色 2.5Y5/1	砂利はφ30mm.Max程度。
VL-22	礫 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	亜角〜円礫φ100mm.Maxで 構成。					2	砂利 (酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	φ20mm.Maxの砂利に、第IV 層層片φ50mm.Maxが混じる。
VL-23	粘土 (還元)	灰色 N6/	灰色 N6/	酸化度が高く、砂利を見ない。 本組構造基盤部の埋設基盤層。					3	シルト混じり 砂利(酸化)	暗灰黄色 2.5Y5/2	砂利はφ10mm.Max程度。

表117 D区SE1木組井戸跡の地層
D区SE1断面図 (Fig.64) 対照

柱筋柱間	梁間第1筋		梁間第2筋		梁間第3筋		梁間第4筋		梁間第5筋		梁間第6筋		柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺						
柱筋の類	DP155		DP165		DP166		DP168		DP328		DP357		10.75	全5間	2.150m	7尺	0.30714m	W16.0°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
計測m	2.06	7	2.05	7	2.18	7	2.06	7	2.15	7	2.08	7						
柱筋第2筋	DP157		DP162		DP350		DP351		DP352		DP356		10.77	全5間	2.154m	7尺	0.30771m	W16.0°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
計測m	2.16	7	2.22	7	2.26	(7)	2.20	7	2.19	7	2.18	7						
柱筋第3筋	DP240		DP241		DP242		DP353		DP354		DP355		10.74	全5間	2.148m	7尺	0.30686m	W15.6°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
柱筋直線長	4.22m		4.27m		4.44m		4.26m		4.34m		4.20m		総延58.05m	計15間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	全2間		全2間		全2間		全2間		全2間		全2間		計12間	総計27間	2.15067m	7尺単一		平均方位
1間平均値	2.110m		2.135m		2.220m		2.130m		2.170m		2.13m		総平均	2.14917m	2.14992m	総合	0.30724m	
1間見当尺	7尺		7尺		7尺		7尺		7尺		7尺		尺度規格	7尺単一	総合	7尺×7尺	総合1尺値	W15.87°N
1尺逆算値	0.30142m		0.30500m		0.31714m		0.30429m		0.31000m		0.30429m		1尺平均逆算値	0.30702m	総合1尺値	総合1尺値	0.30713m	交角
柱筋方位	N15.7°E		N14.7°E		N15.7°E		N16.0°E		N16.8°E		N16.3°E		柱筋	平均方位	—	N15.87°E	交角	90.0°

表118D区 SB2柱筋計測表

柱筋柱間	梁間第1筋		梁間第2筋		梁間第3筋		梁間第4筋		梁間第5筋		柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺						
柱筋の類	CP463		CP709		CP962		CP481		CP485		8.16	4間	2.040m	6尺5寸	0.31385m	W14.4°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
計測m	1.86	6	1.76	6	1.80	6	1.76	6	1.78	6						
柱筋第2筋	CP476		CP477		CP482		CP484		CP486		8.13	4間	2.033m	6尺5寸	0.31269m	W13.9°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
計測m	2.00	6.5	3.94	13	1.98	6.5	4.03		3.94							
柱筋第3筋	CP480		↓無検出→		CP483		—		↓無検出		3.98	2間	1.990m	6尺5寸	0.30615m	W13.5°N
柱筋の有無	柱筋有り		↓		柱筋有り		—		↓							
計測m	2.03	6.5	↓		2.02	6.5	↓		↓							
柱筋第4筋	CP637		CP497		CP499		CP500		CP502		8.24	4間	2.060	6尺5寸	0.31692m	W15.5°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
柱筋直線長	5.85m		5.70m		5.74m		5.75m		5.72m		総延57.27m	計14間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	3間		3間換算		3間		3間換算		3間換算		計15間	総計29間	2.03075m	6尺5寸		平均方位
1間平均値	1.950m		1.900m		1.913m		1.912m		1.907m		総平均	1.91640m	1.97358m	総合	0.31240m	
1間見当尺	6尺5寸		6尺5寸		6尺5寸		6尺5寸		6尺5寸		尺度規格	6尺5寸	総合	6尺5寸系	総合1尺値	W13.83°N
1尺逆算値	0.30000m		0.29231m		0.29436m		0.29487m		0.29333m		1尺平均逆算値	0.29497m	総合1尺値	0.30369m	交角	
柱筋方位	N15.1°E		N14.3°E		N15.2°E		N13.6°E		N14.1°E		柱筋	平均方位	—	N14.46°E	交角	90.63°

表119 C区 SB5柱筋計測表

柱筋柱間	一間第1筋		一間第2筋		一間第3筋		一間第4筋		一間第5筋		柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺	計測m	見当尺						
柱筋の類	DP314		DP262		DP249		DP239		DP377		8.59m	全4間	2.14750m	7尺	0.30679m	W15.8°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
計測m	2.83	9尺半	2.82	9尺半	2.84	9尺半	2.84	9尺半	2.85	9尺半						
柱筋第2筋	CP45		CP72		CP74		CP751		DP197		8.50m	全4間	2.12500m	7尺	0.30357m	W16.2°N
柱筋の有無	柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り		柱筋有り							
柱筋直線長	2.83m		2.82m		2.84m		2.84m		2.85m		総延31.27m	計8間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	全1間		全1間		全1間		全1間		全1間		計5間	総計13間	2.13650m	7尺		平均方位
1間平均値	2.83m		2.82m		2.84m		2.84m		2.85m		総平均	2.83600m	不等間	総合	0.30518m	
1間見当尺	9尺半		9尺半		9尺半		9尺半		9尺半		尺度規格	9尺半	総合	9尺半×7尺系	総合1尺値	W16.00°N
1尺逆算値	0.29789m		0.29684m		0.29895m		0.29895m		0.30000m		1尺平均逆算値	0.29853m	総合1尺値	0.30186m	交角	
柱筋方位	N12.5°E		N15.3°E		N14.8°E		N16.0°E		N14.7°E		柱筋	平均方位	—	N14.66°E	交角	88.6°

表120 D区 SB10柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋 柱の痕跡	計測m	見当尺	桁行第2筋 柱の痕跡	計測m	見当尺	桁行第3筋 柱の痕跡	計測m	見当尺	桁行第4筋 柱の痕跡	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
梁間第1筋	CP266	1.92	6.5	CP730	2.00	6.5	CP269	2.00	6.5	CP300	5.90m	3間	1.967m	6.5	0.30256m	W12.0°N
柱の痕跡										柱痕有り						
計測m	見当尺	1.88	6.5	4.51	13		5.86	19.5		1.88	6.5					
梁間第2筋	CP294	5.96		→無検出↓	→		→無検出↓	→		CP593	5.96m	3間換算	1.987m	6.5	0.30564m	W12.0°N
柱の痕跡																
計測m	見当尺	1.96	6.5	↓	↓		↓	↓		↓	↓					
梁間第3筋	CP297	2.00	6.5	CP681	→		→無検出↓	→		削消	2.06m	1間	2.060m	6.5	0.31692m	W12.2°N
柱の痕跡																
計測m	見当尺	1.97	6.5	1.88	6.5		↓	↓		↓	↓					
梁間第4筋	CP322	1.92	6.5	CP682	2.08	6.5	CP327	19.6	6.5	CP335	5.96m	3間	1.987m	6.5	0.30564m	W12.3°N
柱の痕跡																
計測m	見当尺	2.16	6.5	1.99	6.5		2.04	6.5		1.96	6.5					
梁間第5筋	CP324	1.94	6.5	CP328	1.80	6.5	CP326	2.24	6.5	CP332	5.96m	3間	1.987m	6.5	0.30564m	W10.3°N
柱の痕跡																
柱筋直線長	7.97m			7.92m			7.88m			7.85m	総延m	計13間換算	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	4間			4間換算			4間換算			4間換算	計16間換算	総計29間換算	1.99760m	6.5尺		平均方位
1間平均値	1.993m			1.980m			1.970m			1.963m	総平均	1.97650m	1.98705m	総合	0.30728m	
1間見当尺	6.5尺			6.5尺			6.5尺			6.5尺	尺度規格	6.5尺	総合	6.5尺×6.5尺系	総合1尺値	W11.76°N
1尺逆算値	0.30654m			0.30462m			0.30308m			0.30192m	1尺平均逆算値	0.30404m	総合1尺値	0.30566m	平均交角	
柱筋方位	N12.2°E			N12.1°E			N13.5°E			N11.5°E	柱筋	平均方位	—	N12.33°E	平均交角	90.57°

表121 C区 SB13柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋 柱の痕跡	計測m	見当尺	桁行第2筋 柱の痕跡	計測m	見当尺	桁行第3筋 柱の痕跡	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
梁間第1筋	DP78	2.10	6.5尺	DP82	1.86	6.5尺	DP88	3.98m	全2間	1.990m	6.5尺	0.30615m	W8.3°N
柱の痕跡													
計測m	見当尺	2.00	7尺	2.06	7尺	2.08	7尺						
梁間第2筋	DP94	1.89	6.5尺	DP99	2.05	6.5尺	DP332	3.93m	全2間	1.965m	6.5尺	0.30231m	W9.3°N
柱の痕跡	柱痕有り												
計測m	見当尺	2.16	7尺	2.00	7尺	2.08	7尺						
梁間第3筋	DP106	1.98	6.5尺	DP109	1.97	6.5尺	DP115	3.92m	全2間	1.960m	6.5尺	0.30154m	W8.3°N
柱の痕跡	柱痕有り												
計測m	見当尺	2.02	7尺	2.12	7尺	2.18	7尺						
梁間第4筋	DP121	1.80	6.5尺	DP125	1.98	6.5尺	DP130	3.76m	全2間	1.880m	6.5尺	0.28923m	W10.4°N
柱の痕跡				柱痕有り									
柱筋直線長	6.14m			6.16			6.33	総延34.22m	計8間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	全3間			全3間			全3間	計9間	総計17間	m	尺		平均方位
1間平均値	2.04667m			2.05333m			2.11000m	総平均	不等間	不等間	総合	0.29981m	
1間見当尺	7尺			7尺			7尺	尺度規格	尺	総合	尺×尺系	総合1尺値	W9.08°N
1尺逆算値	0.29238m			0.29333m			0.30143m	1尺平均逆算値	0.29571m	総合1尺値	0.29776m	平均交角	
柱筋方位	N9.9°E			N12.8°E			N11.3°E	柱筋	平均方位	—	N11.33°E	平均交角	92.25°

表122 D区 SB14柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第2筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第3筋 柱の痕跡	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
梁間第1筋 柱の痕跡	BP95	2.24 7.5	BP101	2.31 7.5	BP107	4.54	2間	2.27000m	7.5尺	0.30267m	W8.6°N
計測m 見当尺	1.92 6		5.65 18.5		1.96 6						
梁間第2筋 柱の痕跡	BP94	4.67 15			BP106	4.67	2間換算	2.33500m	7.5尺	0.31133m	W9.2°N
計測m 見当尺	1.88 6				1.96 6						
梁間第3筋 柱の痕跡	BP93	4.52 15			BP105	4.52	2間換算	2.26000m	7.5尺	0.30133m	W10.0°N
計測m 見当尺	1.82 6				1.73 6						
梁間第4筋 柱の痕跡	BP92	2.27 7.5	BP98	2.25 7.5	BP104	4.52	2間	2.26000m	7.5尺	0.30133m	W9.0°N
計測m 見当尺	1.88 6		3.76 12.5		1.89 6						
梁間第5筋 柱の痕跡	BP91	4.52 15			BP103	4.52	2間換算	2.26000m	7.5尺	0.30133m	W9.6°N
計測m 見当尺	1.84 6				1.93 6						
梁間第6筋 柱の痕跡	BP90	2.30 7.5	BP96	2.22 7.5	BP102	4.52	2間	2.26000m 1.3. 6 4 5	7.5尺	0.30133m	W9.6°N
柱筋直線長	9.34m		9.55m		9.48m	総延55.66m	計12間換算	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	5間		5間換算		5間	計15間換算	総計27間換算	2.27417m	7.5尺		平均方位
1間平均値	1.868m		1.910m		1.896m	総平均	1.89133m	不等	総合	0.30322m	
1間見当尺	6尺		—		6尺	尺度規格	6尺系?	総合	不等	総合1尺値	W9.33°N
1尺逆算値	0.31133m		—		0.31600m	1尺平均逆算値		0.31367m	総合1尺値	0.30844m	平均交角
柱筋方位	N9.9°E		N9.7°E		N9.6°E	柱筋	平均方位	—	N9.73°E	平均交角	90.40°

表123 B区 SB15柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第2筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第3筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第4筋 柱の痕跡	柱間m:尺	桁行第5筋 柱の痕跡	柱筋直線長	検出間数(1間7.5尺)	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位		
梁間第1筋 柱の痕跡	無検出		CP648	5.76 19	→無検出→	→	→	→無検出→	→	→	CP657 (庇柱)	5.76m	底込2.533間換算	2.27398m	7.5尺	0.30316	W10.0°N
計測m 見当尺			2.20 7.5								2.18 7.5						
梁間第2筋 柱の痕跡	無検出		CP417	4.56 15	→無検出→	→	→	CP444	1.23 4	CP445 (庇柱)	5.76m	底込2.533間換算	2.27398m	7.5尺	0.30316	W9.8°N	
計測m 見当尺			2.27 7.5					2.38 7.5		16.22 52.5							
梁間第3筋 柱の痕跡	無検出		CP438	4.64 15	→無検出→	→	→	CP442		↓無検出	4.63m	主屋2間換算	2.31500m	7.5尺	0.30867	W10.1°N	
計測m 見当尺			4.67 15					2.40 7.5		↓							
梁間第4筋 柱の痕跡	CP462	5.76 19	↓無検出→	→	→	→無検出→	→	→	CP661		↓無検出	5.77m	底込2.533間換算	2.27793m	7.5尺	0.30368	W10.5°N
計測m 見当尺	6.91 22.5		↓					2.26 7.5		↓							
梁間第5筋 柱の痕跡	↓無検出		CP732	4.56 15	→無検出→	→	→	CP467		↓無検出	4.56m	主屋2間換算	2.28000m	7.5尺	0.30400	W9.9°N	
計測m 見当尺	↓		6.89 22.5					2.34 7.5		↓							
梁間第6筋 柱の痕跡	無検出		↓無検出			CP663	2.45 7.5	CP665		↓無検出	2.45m	主屋1間	2.45000m	7.5尺	0.32667	W10.8°N	
計測m 見当尺	↓		↓		2.36 7.5			4.60 15		↓							
梁間第7筋 柱の痕跡	CP733	3.44 11.5	↓無検出		CP734		↓無検出	↓無検出		3.44m	底込1.533間換算	2.24397m	7.5尺	0.29913	W11.1°N		
計測m 見当尺	2.30 7.5		↓		4.63 15		↓	↓									
梁間第8筋 柱の痕跡	CP669	1.20 4	CP666	4.47 15	↓無検出→	→	→	CP498		↓無検出	5.65m	底込2.533間換算	2.23056m	7.5尺	0.29737	W10.4°N	
計測m 見当尺	2.36 7.5		2.28 7.5		↓			2.36 7.5		↓							
梁間第9筋 柱の痕跡	CP667 (庇柱)	1.20 4	CP668	2.29 7.5	CP670	2.23 7.5	CP507	1.26 4	CP508 (庇柱)		↓	7.000m	底込3.066間換算	2.28311m	7.5尺	0.30571m	W10.4°N
柱筋直線長	11.57m		18.28m		6.97m		16.32m		18.40	総延116.56m	計19.731間換算	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋		
検出間数	5間換算		8間		3間換算		7間換算		8間	計31間換算	総計50.731間換算	2.29200m	7.5尺		平均方位		
1間平均値	2.31400m		2.28500m		2.32333m		2.33143m		2.30000m	総平均	2.31075m	2.30141m	総合	0.30573m			
1間見当尺	7.5尺		7.5尺		7.5尺		7.5尺		7.5尺	尺度規格	7.5尺	総合	7.5尺×7.5尺系	総合1尺値	W10.33°N		
1尺逆算値m	0.30853m		0.30467m		0.30978m		0.31086m		0.30667m	1尺平均逆算値		0.30810m	総合1尺値	0.30692m	平均交角		
柱筋方位	N10.4°E		N10.4°E		N10.4°E		N10.4°E		N10.4°E	柱筋	平均方位	—	N10.40°E	平均交角	90.07°		

表124 C区 SB16柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋	計測m	見当尺	桁行第2筋	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
	柱の痕跡			柱の痕跡						
梁間第1筋	CP735	3.50		CP489	3.50	1間	3.50	12尺	0.29167m	W10.8°N
	柱の痕跡									
計測m	見当尺	1.88		1.99						
梁間第2筋	CP736	3.56		CP492	3.56	1間	3.56	12尺	0.29667m	W12.5°N
	柱の痕跡									
計測m	見当尺	2.08		2.04						
梁間第3筋	CP373	3.64		CP639	3.64	1間	3.64	12尺	0.30333m	W11.3°N
	柱の痕跡									
計測m	見当尺	20.1		2.04						
梁間第4筋	CP611	3.70		CP642	3.70	1間	3.70	12尺	0.30833	W11.8°N
	柱の痕跡									
計測m	見当尺			2.00						
梁間第4筋				CP737						
	柱の痕跡									
計測m	見当尺			2.00						
梁間第4筋				CP738						
	柱の痕跡									
柱筋直線長	5.98m			10.13m	総延m	計間換算	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	3間			5間	計間	総計間換算	m	尺		平均方位
1間平均値	1.99333m			2.02600m	総平均	不等間	不等間	総合	m	
1間見当尺	6.5尺			6.5尺	尺度規格	尺	総合	尺×尺系	総合1尺値	W11.6°N
1尺逆算値	0.30667m			0.31692m	1尺平均逆算値		m	総合1尺値	m	平均交角
柱筋方位	N12.0°E			N10.3°E	柱筋	平均方位	—	N11.15°E	平均交角	89.55°

表125 C区 SB17柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋	計測m	見当尺	桁行第2筋	検出間数	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
	柱の痕跡			柱の痕跡				
梁間第1筋	CP561	2.03	7	CP244	1間	7	0.290m	W12.8°EN
	柱の痕跡							
計測m	見当尺	2.27	7	2.22				
梁間第2筋	CP288	1.98	(7)	CP286	1間	(7)	0.283m	W11.7°EN
	柱の痕跡							
計測m	見当尺	2.07	7	2.17				
梁間第3筋	CP579	2.24	(7)	CP287	1間	(7)	0.320m	W14.4°EN
	柱の痕跡							
柱筋直線長	4.34m			4.39	総延14.980m	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	2間			2間	総計7間	7尺		平均方位
1間平均値	2.170m			2.195m	総計2.140m	総合	0.29767m	
1間見当尺	7			7	尺度規格7尺	7尺×7尺系	総合1尺値	W12.97°N
1尺逆算値	0.310m			0.314m	0.312m	総合1尺値	0.30484m	平均交角
柱筋方位	N14.2°E			N12.9°E	柱筋平均方位	N13.55°E	平均交角	90.58°

表126 C区 SB18柱筋計測表

柱筋柱間		長辺第1筋		計測m	見当尺	長辺第2筋		柱筋の方位
		柱の痕跡				柱の痕跡		
短辺側第1筋		DP26		5.116	17尺	DP35		W19.2°N
柱の痕跡		柱痕有り						
計測m	見当尺	2.60	8.5			9.20	30	
短辺側第2筋		DP29				↓無検出		
柱の痕跡								
計測m	見当尺	6.75	21.5			↓		
短辺側第3筋		DP53		5.272	17尺	DP69		W18.2°N
柱の痕跡		柱痕有り						
柱筋の方位		N19.7°E				N18.7°E		

柱穴遺存は、隅柱跡と見られる4基と西側長辺中の1基のみ

長辺側30尺を仮定した 1尺逆算値の平均は、 0.30751m(上・右)	DP26	0.30094m	DP35
	0.30588m		
	DP29		0.30667m
	0.31395m		
	DP53	0.31012m	DP69

表127 D区 SB19柱筋計測表

柱筋柱間	桁行第1筋 (庇)	計測m	見当尺	桁行第2筋	計測m	見当尺	桁行第3筋	計測m	見当尺	桁行第4筋	計測m	見当尺	桁行第5筋 (庇)	柱筋直線長	検出間数	1間平均値	1間見当尺	1尺逆算値	柱筋方位
要間第1筋 (庇)	無検出			無検出			DP28 (庇)	3.04→	10→	→	→	DP36 (庇)	3.04m	底柱1間分	3.040m	底柱10尺	0.30400m	W19.3°N	
柱の痕跡																			
計測m	見当尺				1.18	4						3.46	11.5						
要間第2筋	無検出			DP30	2.25	7.5	DP32	1.83	6	DP33			無検出	4.24m	主屋2間	不等	7.5・6尺	0.31407m	W19.2°N
柱の痕跡																			
計測m	見当尺			2.32	7.5		8.28	27.5	3.04	2.29	7.5		↓						
要間第3筋	DP38 (庇)	1.08	4	DP39	4.27→	13.5→				DP43	1.18	4	DP45 (庇)	6.52m	全	不等	4・13.5・4尺	0.30326m	W19.2°N
柱の痕跡																			
計測m	見当尺	2.53	8.5	2.50	8.5		↓	↓		2.60	8.5		2.61	8.5					
要間第4筋	DP47 (庇)	1.08	4	DP49	4.18→	13.5→				DP51	1.22	4	DP64 (庇)	6.49m	全	不等	4・13.5・4尺	0.30186	W19.8°N
柱の痕跡																			
計測m	見当尺	2.28	7.5	2.24	7.5					2.17	7.5		3.35	11					
要間第5筋	DP52 (庇)	1.18	4	DP55	4.12→	13.5→	無検出	→	→	DP68			無検出	5.28m	底・主屋隅柱	不等	4・13.5尺	0.30171m	W18.8°N
柱の痕跡																			
計測m	見当尺	1.04	3.5				↑						↓						
要間第6筋 (庇)	DP56 (庇)	3.28→	11.5→	無検出	→	→	DP65	3.10→	10→	無検出	→	→	DP70	6.32m	底柱2間分	不等	底柱11・10尺	0.29885m	W20.0°N
柱の痕跡																			
柱筋直線長	5.86m			7.07m			9.46m			7.06m			9.40m	総延70.74m	計6間	総平均	尺度規格	1尺平均逆算値	柱筋
検出間数	底2間手相当			主屋3間			棟筋主屋・庇			主屋3間			底3間	計11間手	総計17間手	不等	4・6・7.5・8.5	平均方位	
1間平均値	2.28・2.53m			2.28・2.50m			—			2.23・2.60m			2.61m	総平均	不等	不等	総合	0.30314m	↓
1間見当尺	7.5尺・8.5尺			7.5尺・8.5尺			7.5尺・8.5尺			7.5尺・8.5尺			7.5尺・8.5尺	尺度規格	4・6・7.5	総合	4・6・7.5・8.5	総合1尺値	W19.4°N
1尺逆算値	0.30051m			0.30085m			0.30032m			0.30043m			0.30323m	1尺平均逆算値	0.30227m	総合1尺値	0.30215m	交角	
柱筋方位	N17.6°E			N19.3°E			N18.8°E			N19.0°E			N18.1°E	柱筋平均方位	—	N18.7°E	交角	89.3°	

表128 D区 SB20柱筋計測表

考察1 掘立柱建物跡データと木組井戸跡遺存資料の関係

坪ノ内遺跡の所在する中土佐町久礼の地名は、建長二年（1250）十一月日付の「九条道家初度惣処分状」に「土佐国幡多郡……加納久礼別符」と記すのがその初見と考えられている。ここに見る地名としての「久礼」の語源と意味合を確証するものではないが、古文書類が一般名詞として「久礼」を用いる場合には建築用木材の規格や木材製品の種類を指している。延暦十年（791）の太政官符では、長十二尺、広六寸、厚四寸の規格とする。仮に、この範疇の含意において13世紀半ば既に「久礼」と称されていたなら、林業や製材（薪を含む）が生業の中心であったことになる。この小論では、中世に盛んであった可能性のある木工に不可欠の尺度を主軸に、井戸跡木組遺構と掘立柱建物跡の関係を考察する。

- 1. 木組井戸跡について：**坪ノ内遺跡の調査では、D区井戸跡SE1において基部付近が完存する木組が出土している。これらの遺存は、実際に中世の土佐で用いられた木材規格（久礼）の一端を示す実物資料として極めて重要である。とりわけ隅柱に用いる方柱材4本は横断面のサイズが不等であるほか、北北東隅ⅢSHの基部に無用の柄穴を見る点などから、いずれも解体建築部材の転用・加工品であることが明白である。横棧と結合する隅柱縦列柄穴の平均間隔は0.67mであり、2尺2寸に相当する。その1尺値は0.30455mであり、現行曲尺値10/33mを僅か1.52mm上回るに過ぎない。また、総計12枚の縦板では、完存する基部幅の平均値が0.30483mであり、現行曲尺値との差は1.8mm程度に止まる。土中の変形や、実測時の含水条件等を考慮すれば、実差は更に短縮する可能性が強い。それを示唆する例は縦板ⅡTI-1とⅢTI-2における各幅0.304m・0.302mの数値であり、僅差の数値の中間に現行値が位置する。
- 2. 曲尺について：**従来曲尺には鉄尺（又四郎尺）と竹尺（享保尺）が両存して幕末に至るが、明治7年に両者間僅差の中間を採って折衷尺に統一される。竹尺は鉄尺より七厘（狩谷掖斎）あるいは四厘（清宮秀堅）長いとされ（『地方新書』）、僅差ながらメートル法への厳密な数値変換が困難な状況と見られる。中世においても、この種の複数系が存在したと見られるが、木工技術が伝承されて今日に至る状況を念頭におけば、いずれも現行曲尺とは極僅差に止まると思われる。本報告書の事実報告において、メートル法数値と寸法を併記する場合に「見当尺」とした理由は、厳密な変換端数が不明な点による。
- 3. 掘立柱建物跡と木組井戸跡の尺度関係について：**上の視点から、木組部材のサイズを評価するならば、井戸の木組構築に際しても地上建築の木工と同じ曲尺を用いた点に疑問はない。また、縦板・横板ともに転用材である可能性が強く、幅1尺が建築木工における板材規格の一つと考えられる。更に周辺の掘立柱建物跡および測量技術の点で注目に値するのは、この井戸跡木組の四側設置方位（北偏東15.6°）が、検出した掘立柱建物跡総計21基のうち11基（SB1～SB11、平均北偏東15.134°）、柵列総計5基のうち4基の方位と平行する点であり、いずれも直交方位の溝跡CD-Cの南で検出された点である。この地上建築群には重合部分が存在し、解体・建替え等を経て一定期間に同一機能を継続したと推定し得る。これら掘立柱建物跡11基の柱間を通じた1尺平均値は0.30497mと試算される。但し、個別に1尺平均値を見た場合、SB3の0.30432m、SB5の0.30369m、SB6の0.30428m、SB7の0.30415m等は、現行曲尺値との差が1mm前後に止まる結果となっている。これに関しても、本報告書で既述したような過去の地震による地盤の歪みを考慮するなら、より僅差であった可能性がある。いずれにしろ、掘立柱建物の建築に当って現行に近い曲尺を用いる点は、木組井戸跡の場合と同様に確実に考えられる。

参考文献：『図解 単位の歴史辞典』小泉袈裟勝編著、柏書房株式会社1989年



D区木組井戸跡SE1：隔柱ⅢSH基部の納穴(転用以前の納穴；外側を向く)



D区木組井戸跡SE1：隔柱ⅣSH基部

D区木組井戸跡SE1隔柱の基部

考察 2 B 区弥生文化層の堆積上の性格について

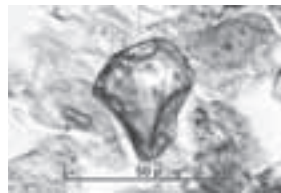
坪ノ内遺跡Ⅱの B 区で検出した弥生文化層は褐色森林土に属し、直上を覆う中世文化層とは概ね並行関係を保つ。問題は、斜面高位側における第二次大戦以前の岩盤削整工事が、その切面下斜面の両層に関与したか否かの点に集約する。以下は、土壤に含まれる鬼界カルデラ給源の火山ガラス (K-Ah) および植物珪酸体 (OP) を通じ、弥生遺物包含層から腐植低減層に下る地層全体の堆積像を探るものである。

- 1. 土壤資料：**土壤資料には、ベルト 1 (第 6 トレンチ西壁) 高位側 N 地点の 2～11, およびベルト 3 低位側 E1 地点の a～j を用いた。土壤採取の垂直間隔は各 10cm であり、上端・下端の標高値は N2～N11 において 6.90～6.00m ; E1a～E1j において 5.50～4.60m とする。採取資料の平面地点と断面位置は、それぞれ Fig.124 と Fig.110 に示している。N 地点の全資料は腐植低減帯の B 層に属し、E 地点では B 層の特徴を持つ下位の i・j 以外は腐植集積帯の A 層に属し、A 層上部では弥生土器片と叩石を包含する。
- 2. K-Ah の含有状況：**K-Ah は、N・E1 両地点を通じて全土壤資料中に検出される。火山ガラス片の表面に侵蝕は見られず、破泡面は鋭利を保つ。E1 地点の K-Ah 頻度最大値は E1g の 1000 粒中 14 であり、最低値は B 層 E1j の 1000 粒中 1 である。一方、N 地点では深部の N10 で 1000 粒中 12, N11 で 1000 粒中 10 を数え、A 層所属 E1g 最大値との頻度差は小幅に止まる。腐植と K-Ah の含量間に関係は認められず、K-Ah の頻度に突出するピークは存在しない。この頻度の面では、採取資料は全て降灰当時の層準から隔たる。K-Ah 混在面で一連の資料中に断絶は見られず、遊離・拡散した K-Ah 降灰前後の堆積物を継続混入した地層累重と推定される。そこには、総じて堆積環境の激変は窺えない。
- 3. OP の含有状況：**OP の含有も全土壤資料に認められる。総体的傾向として表面侵蝕が進行する点は、上記 K-Ah と対照的である。検出頻度は総じて K-Ah の 2 倍付近であるが、微量の域を出ない。K-Ah 頻度 14/1000 の E1g では、OP 頻度は 28/1000 である。また、同じ A 層の基底で採取した E1h の OP 頻度は、6/1000 を数える。一方、K-Ah 頻度が最低の E1j では OP 頻度に低減はなく、12/1000 の数値を示す。また、B 層深部の N11 でも左例に近い 10/1000 の頻度である。このように腐植含量と OP 頻度間にも関係を認め得ない。B 層微含の炭化物は、20～100 μ 級が優勢であり、OP 相似形が目立つ。これらの外観は、標本作成で灰化や脱炭処理が不十分な珪酸体の黒色粒子に酷似し、地層内植物組織の分解末期と捉える。B 層自体かつての腐植集積帯 A 層から有機組織分解により明色化したものと言える。資料中の OP は、10～150 μ 級のサイズが主流で、大部分はススキ珪酸体の種別と変異幅内にある。
- 4. 結論：**一連の土壤資料は、鬼界カルデラ噴火以後の林縁向陽地で植生を伴いつつ壘重した地層を反映しており、この堆積環境を断絶する要素を挟まない。また、特に近・現代の表層土壤や植生の混入に関しては、明治初期や第二次大戦前後の激動期を中心に帰化・繁殖した多種植物の珪酸体が、判定の手がかりとして有効となる。林縁の向陽地などを繁殖適地とし、県下でも広く野草化したイネ科植物の日本帰化例は、イヌムギ・カモガヤ (明治初期)・シナダレスズメガヤ (第二次大戦前)・セイバンモロコシ (第二次大戦前後)・メリケンカルカヤ (第二次大戦後)・タチスズメノヒエ (1958 年) ほか多種にのぼる。対象の土壤資料には、これらの特徴が明瞭な珪酸体は認められず、個体表面の侵蝕度合いは、むしろ大部分の土壤成分化が相当古い年代に属することを窺わせる。弥生土器付着の土壤と所属層準の土壤間でも火山ガラス・植物珪酸体両面で差異は見られず、弥生文化層は以上に述べた堆積像の一環と推定される。

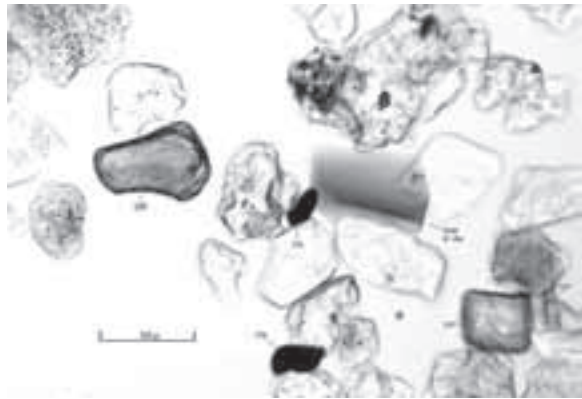
参考文献：「日本の野生植物。草本 I 単子葉類」平凡社 1982；「日本帰化植物写真図鑑」全国農村教育協会 2001



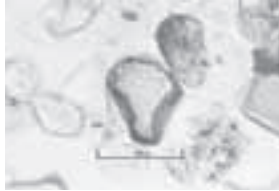
N8: ファン型珪酸体・K-Ah



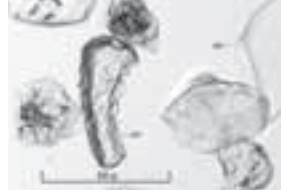
N10: ファン型珪酸体



E1g: ファン型珪酸体・K-Ah



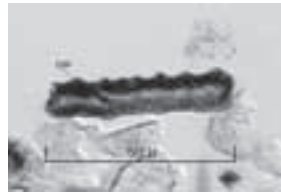
N11: ファン型珪酸体



E1b: ファン型珪酸体・バブル型火山ガラス



E1g: ファン型珪酸体



E1g: 棒状型珪酸体



弥生土器附着土壌：ポイント型珪酸体



E1i: ポイント型珪酸体



E1j: ファン型珪酸体



ススキ葉部珪酸体 /2007.10.6 筆山



ススキ葉部珪酸体 /2007.10.6 筆山



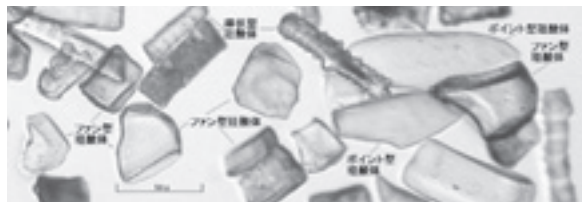
イトススキ葉部灰像 /2007.10.6 筆山



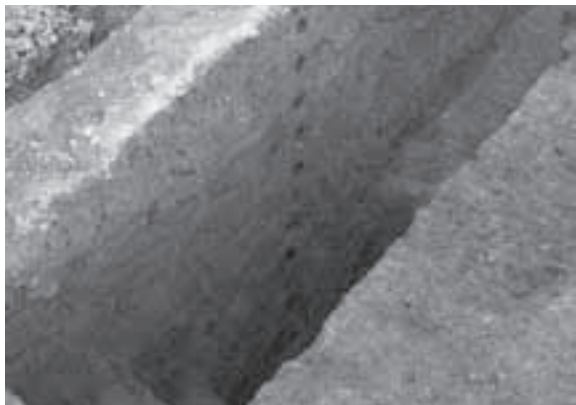
ススキ葉部珪酸体 /2007.10.6 筆山



イトススキ葉部珪酸体 /2007.10.6 筆山



イトススキ葉部珪酸体 /2007.10.6 筆山



B区E1地点(土壌サンプリング)



B区斜堆層のベルト設定状況

坪ノ内遺跡Ⅱ B区斜堆層中の植物珪酸体と火山ガラス；比較珪酸体標本写真

付 編

高知県坪ノ内遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は高知県坪ノ内遺跡から出土した食事具1点、部材6点、容器6点、用途不明品8点の21点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柁目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定（針葉樹5種、広葉樹2種）し、各種の解剖学的特徴を記す。

1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

(545) [写真 No.6]

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柁目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc.)

(539, 541, 548) [写真 No.5, 9, 13]

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柁目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(538, 552, 556) [写真 No.7, 16, 19]

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に接線方向に並んでいた。柁目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(537, 547, 549, 550, 551, 557, M) [写真 No.1, 4, 14, 15, 17, 20, 21]

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柁目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個あ

る。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

5) ヒノキ科クロベ属クロベ (*Thuja standishii* Carriere)

(543、546、553、554、555)〔写真 No.2、3、8、10、11〕

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2～6個ある。放射細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

6) ツツジ科スノキ属シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunberg)

(540)〔写真 No.12〕

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管（ $\sim 50\mu\text{m}$ ）が単独あるいは2～3個複合して散在する。柾目では道管は単穿孔、階段穿孔（バー数1～10）と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は凸レンズ形を呈する直立細胞の単列のもと、5～8細胞列で高さが極めて高い多列放射組織（ $\sim 2\text{mm}$ 以上）からなる。多列部には鞘細胞が見られる。シャシャンボは本州（関東南部、東海、石川以西）、四国、九州に分布する。

7) 広葉樹

(542)〔写真 No.18〕

環孔材である。木口では道管（ $\sim 100\mu\text{m}$ ）が単独で疎らに並んでいる。孔圏外の小道管（ $\sim 75\mu\text{m}$ ）が2～3個不規則に複合して分布している。柾目では道管は単穿孔を有し、放射組織は異性である。道管放射組織間壁孔は小さく多数見られる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ $\sim 0.3\text{mm}$ からなる。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

木村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

使用顕微鏡

Nikon

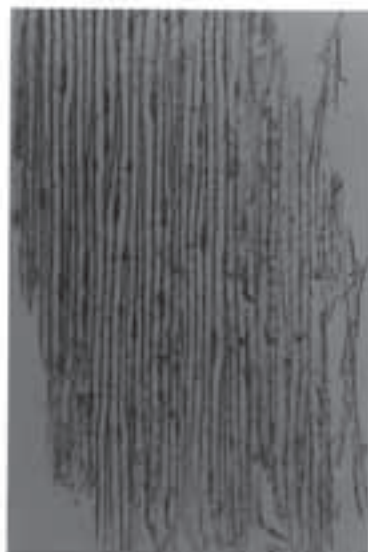
MICROFLEX UFX-DX Type 115

遺物No.	品名	樹種	木取り
549	箸	ヒノキ科アスナロ属	板目材
543	楔	ヒノキ科クロベ属クロベ	板目材
555	底板	ヒノキ科クロベ属クロベ	板目材
551	部材	ヒノキ科アスナロ属	板目材
541	楔	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	板目材
545	部材	マツ科モミ属	板目材
538	部材	スギ科スギ属スギ	桁目材
546	板	ヒノキ科クロベ属クロベ	板目材
539	板	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	板目材
553	蓋	ヒノキ科クロベ属クロベ	板目材
554	蓋	ヒノキ科クロベ属クロベ	桁目材
540	部材	ツツジ科スノキ属シャシャンボ	半裁
548	焦化材	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	板目材
550	焦化材	ヒノキ科アスナロ属	桁目材
537	部材	ヒノキ科アスナロ属	桁目材
556	底板	スギ科スギ属スギ	板目材
547	焦化材	ヒノキ科アスナロ属	板目材
542	部材	広葉樹	心持材
552	蓋	スギ科スギ属スギ	桁目材
557	曲物	ヒノキ科アスナロ属	桁目材
M	曲物	ヒノキ科アスナロ属	桁目材

No.1 ヒノキ科アスナロ属

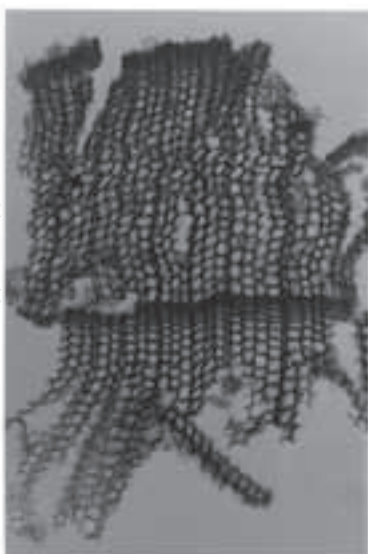


柁目 × 100



板目 × 40

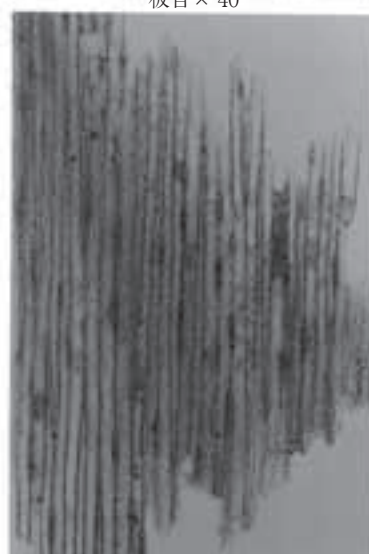
No.2 ヒノキ科クロベ属クロベ



木口 × 40

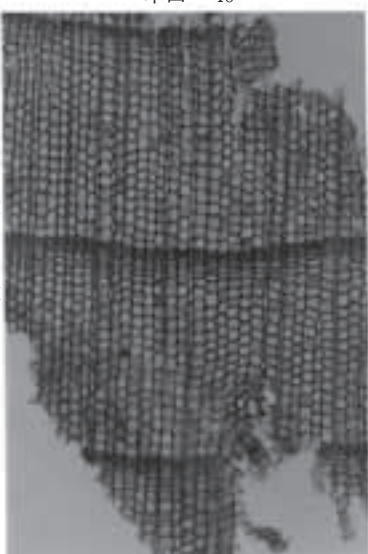


柁目 × 100



板目 × 40

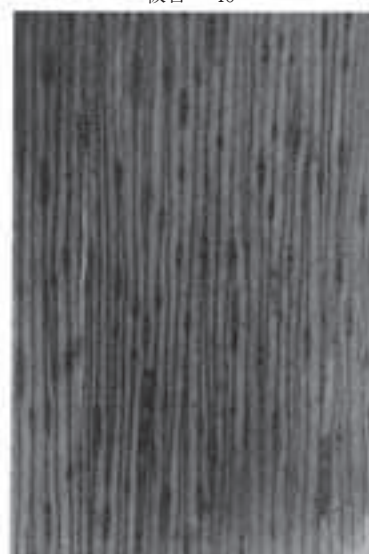
No.3 ヒノキ科クロベ属クロベ



木口 × 40

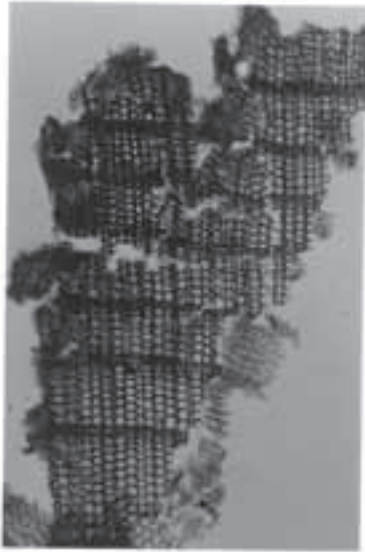


柁目 × 100

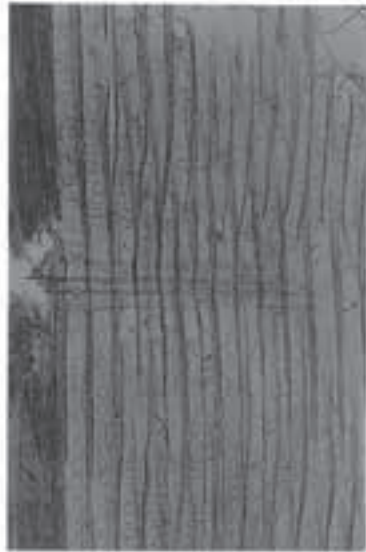


板目 × 40

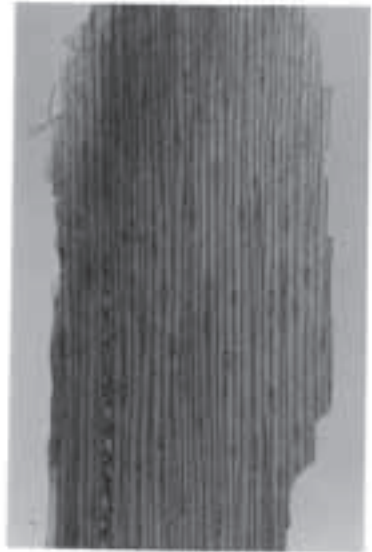
No.4 ヒノキ科アスナロ属



木口×40

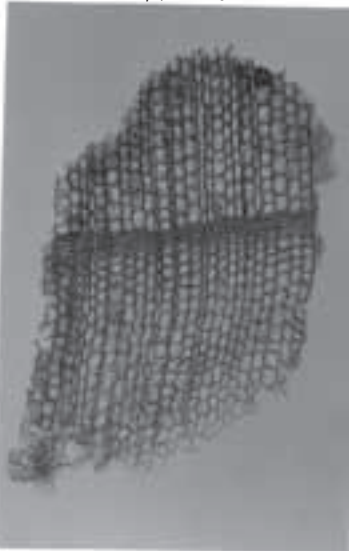


柁目×100



板目×40

No.5 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口×40



柁目×100

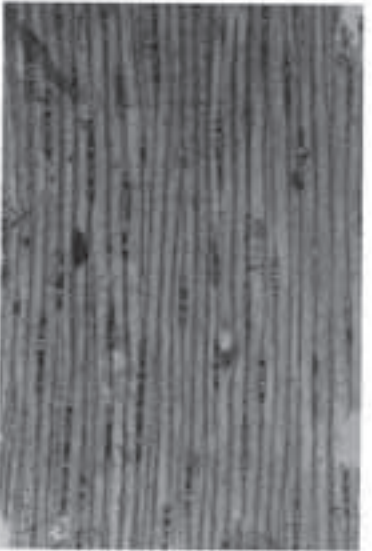


板目×40

No.6 マツ科モミ属

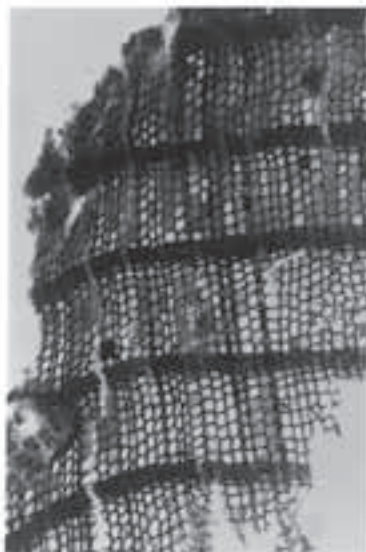


柁目×100

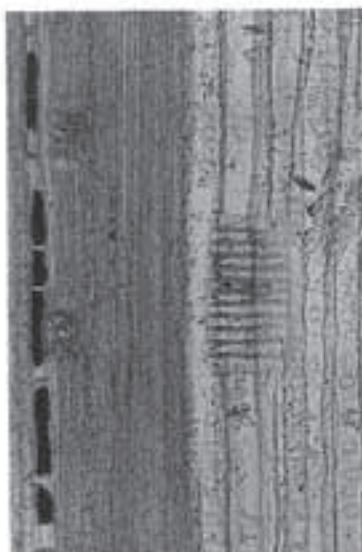


板目×40

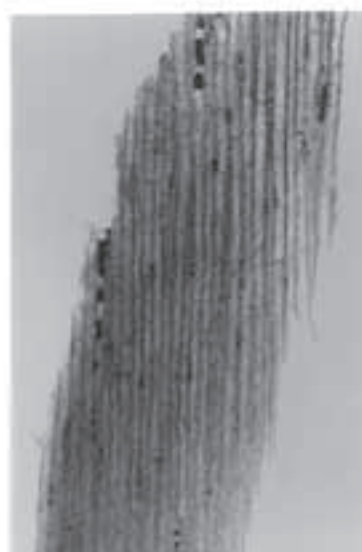
No.7 スギ科スギ属スギ



木口×40

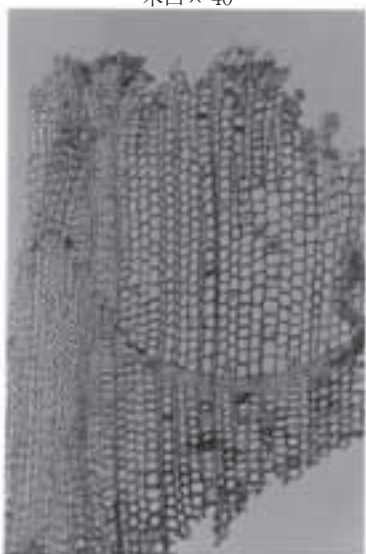


柁目×100



板目×40

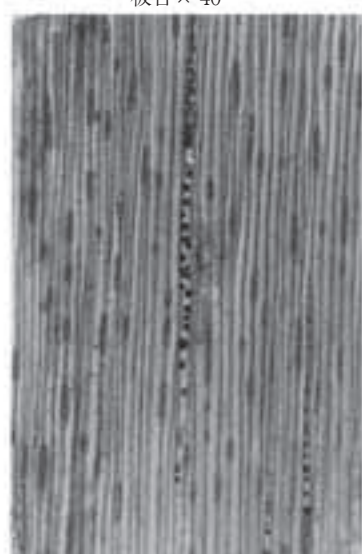
No.8 ヒノキ科クロベ属クロベ



木口×40

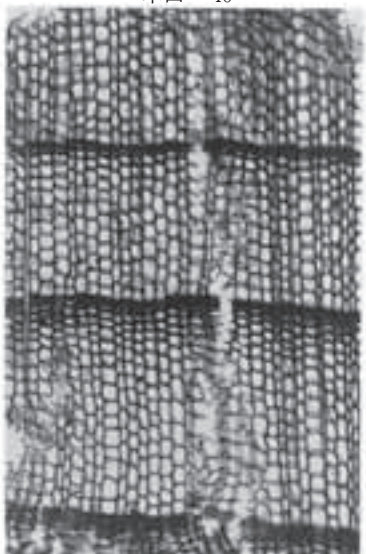


柁目×100



板目×40

No.9 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



木口×40

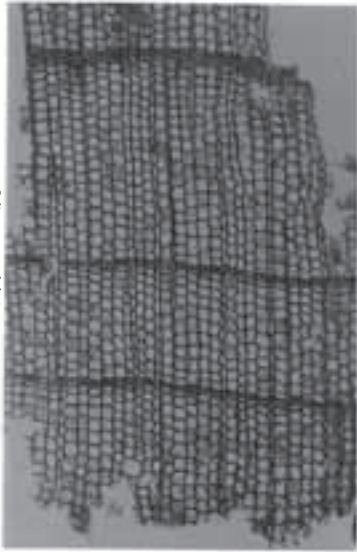


柁目×100



板目×40

No.10 ヒノキ科クロベ属クロベ



木口×40

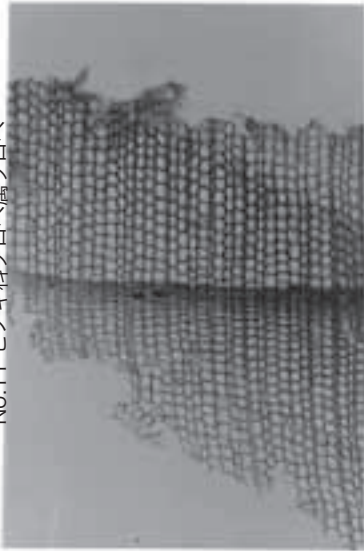


柁目×100



板目×40

No.11 ヒノキ科クロベ属クロベ



木口×40

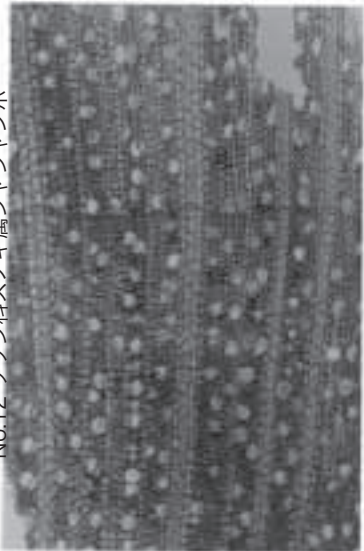


柁目×100



板目×40

No.12 ツツジ科スノキ属シャシャンボ



木口×40



柁目×40

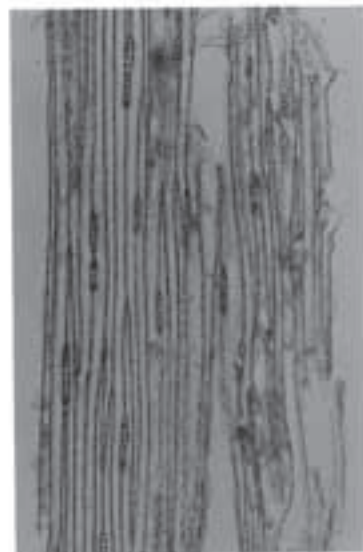


板目×40

No.13 コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ



柀目 × 100

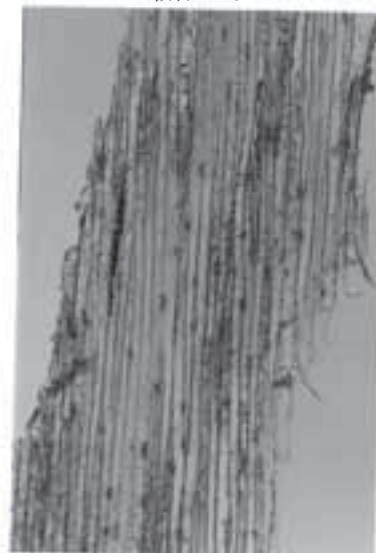


板目 × 40

No.14 ヒノキ科アスナロ属

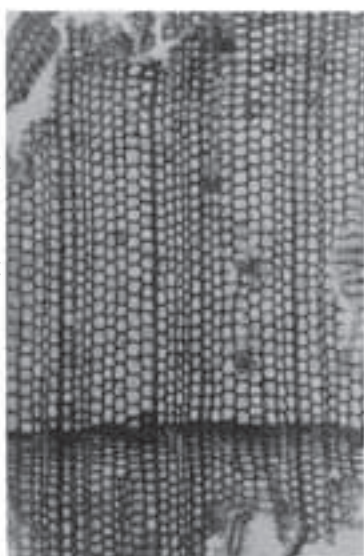


柀目 × 100



板目 × 40

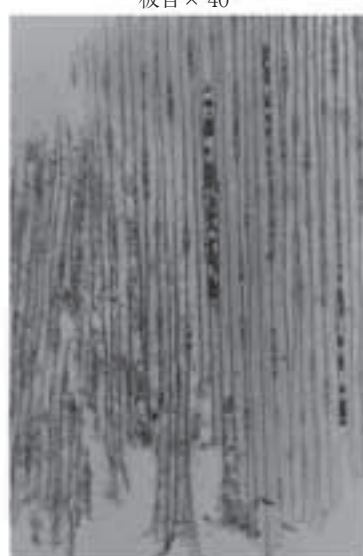
No.15 ヒノキ科アスナロ属



木口 × 40

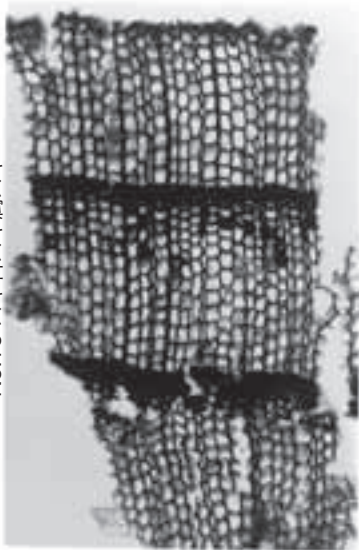


柀目 × 100



板目 × 40

No.16 スギ科スギ属スギ



木口×40



柁目×100



板目×40

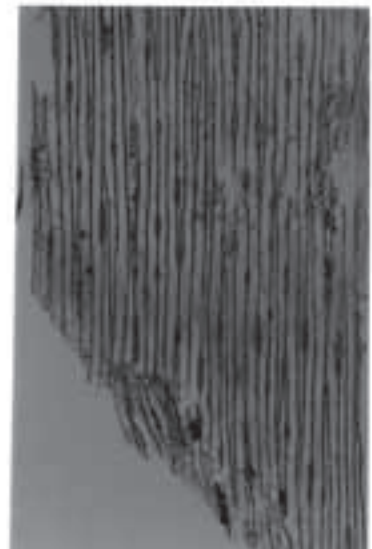
No.17 ヒノキ科アスナロ属



木口×40

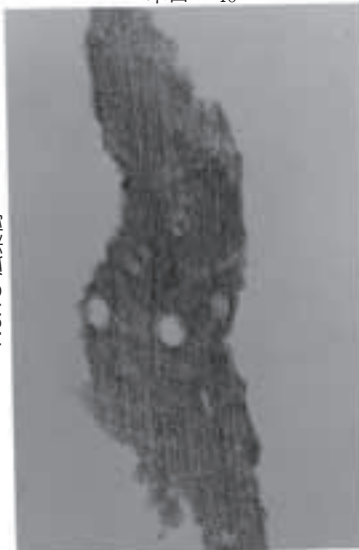


柁目×100



板目×40

No.18 広葉樹



木口×40

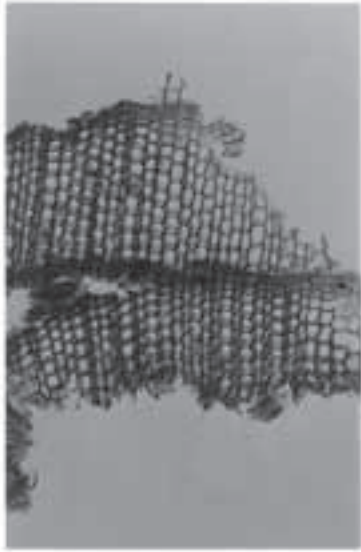


柁目×40



板目×40

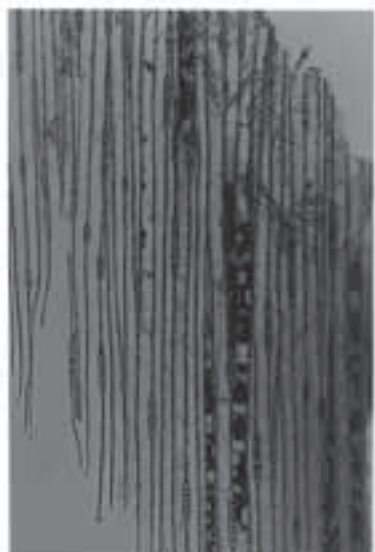
No.19 スギ科スギ属スギ



木口×40



柁目×100



板目×40

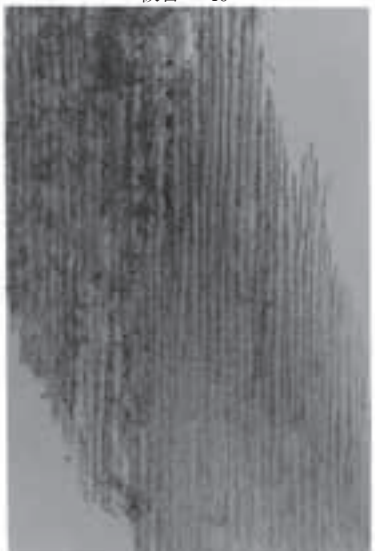
No.20 ヒノキ科アスナロ属



木口×40



柁目×100



板目×40

No.21 ヒノキ科アスナロ属



木口×40



柁目×100



板目×40

写真図版



C区の北半を東から



C区を南東から

PL2



C区の西北部を北から



C区の中央部を北から



C区の東部遺構検出状態を東から



C区の東部遺構検出状態を北から

PL4



C区の西南部を北から



SE1を西から



重機による掘削開始



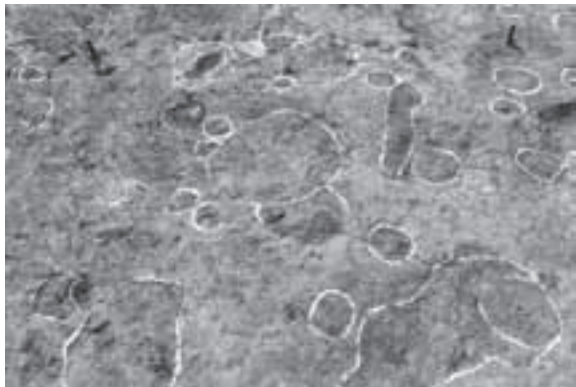
東壁の南東部



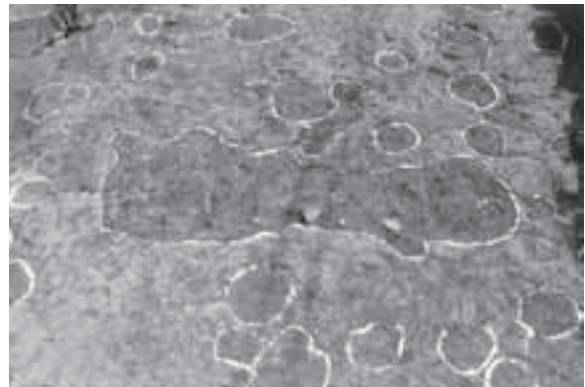
東壁



D7-21, D8-1グリッドの検出状態



C7-24・25グリッドの検出状態



SK1の検出状態



SK1の検出状態



SK1の検出状態

PL6



SK1の検出状態



SK1の検出状態



SK1の遺物出土状態



SK1の遺物出土状態



SK1の半裁状態



SK1の半裁状態



SK1



SK2の半裁状態

C区遺構 6



SK7の半裁状態（北東から）



SK7の半裁状態（北半を西から）



SK7の半裁状態（南半を西から）



SK11の半裁状態（北東から）



SK11の半裁状態（南から）



SK12の半裁状態（北西から）



SK17の半裁状態（北東から）



SK17の半裁状態（東から）



SK17の半裁状態（南東から）



SE1の半裁状態（東半を北から）



SE1の半裁状態（北半を西から）



SE1の半裁状態（東半を南から）



SE1の半裁状態（西半を南から）



SD3（西から）



遺物出土状態（677）



遺物出土状態（678）



遺物出土狀態 (左: 679, 右: 680)



遺物出土狀態 (684)



遺物出土狀態 (687)



遺物出土狀態 (690)



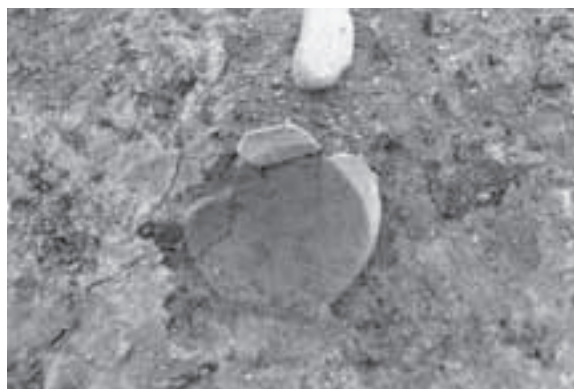
遺物出土狀態 (691)



遺物出土狀態 (693)

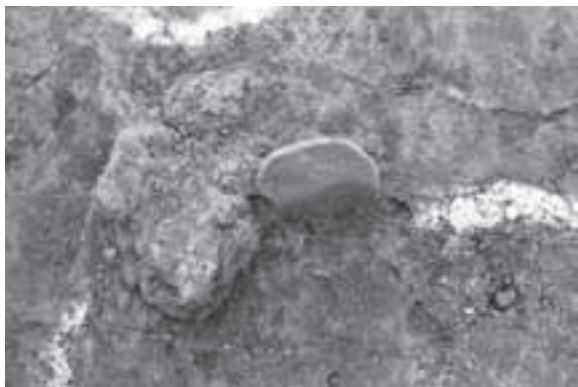


遺物出土狀態 (700)



遺物出土狀態 (701)

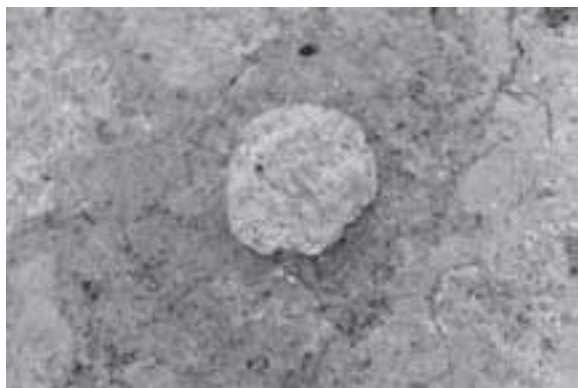
C区遺構 9



遺物出土状態 (704)



遺物出土状態 (669)



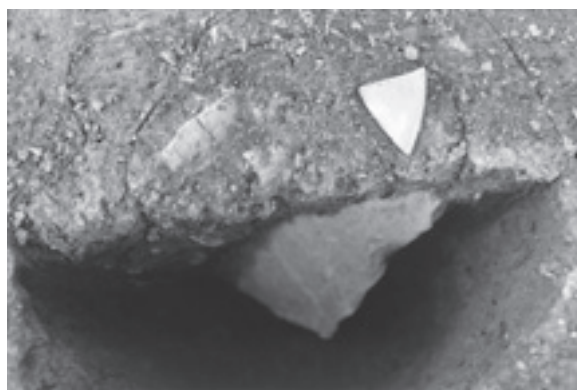
鉄滓の出土状態



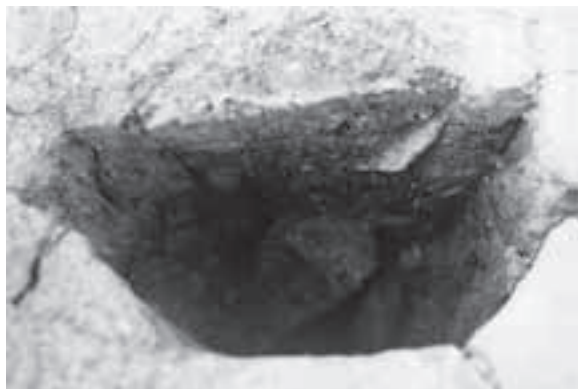
鉄滓の出土状態



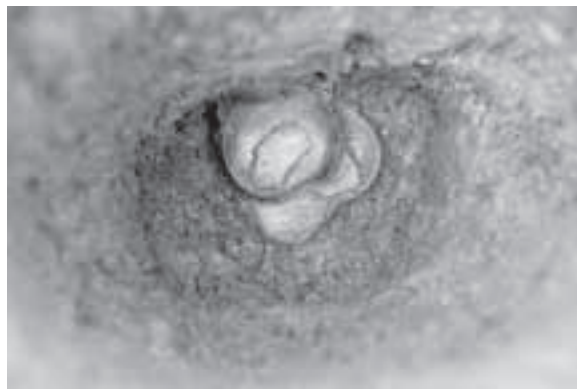
遺物出土状態 (707)



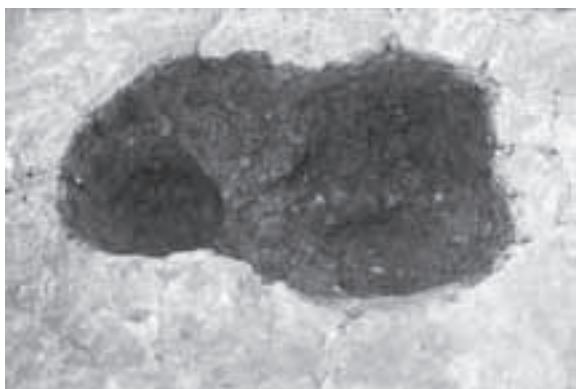
P1の半裁状態



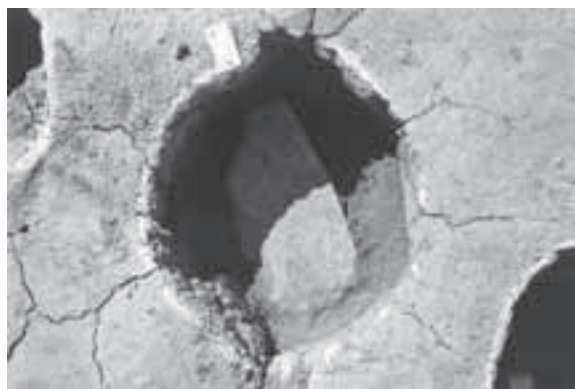
P4の半裁状態



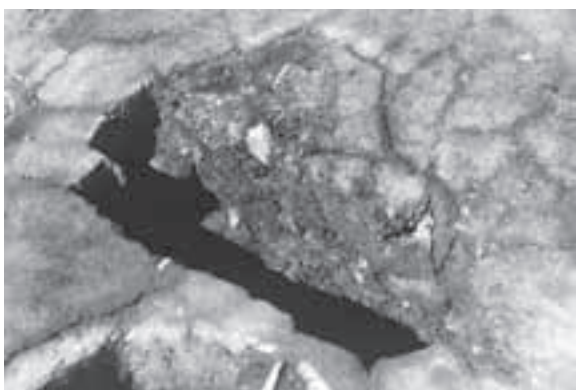
P15の遺物出土状態



右；P14, 左；P15



P19



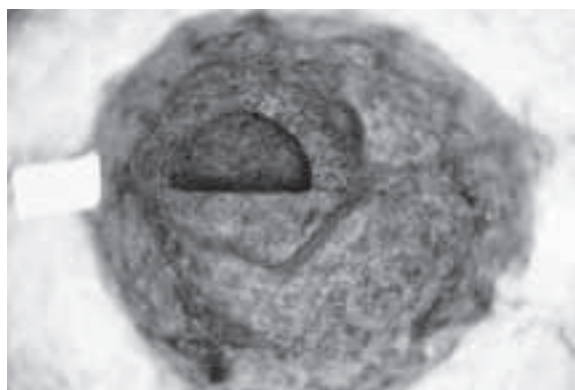
P20の半裁状態



左；P22, 右；P23の半裁状態



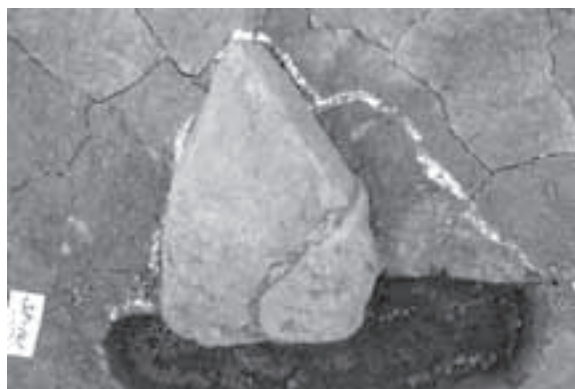
P30の半裁状態



P37の柱痕

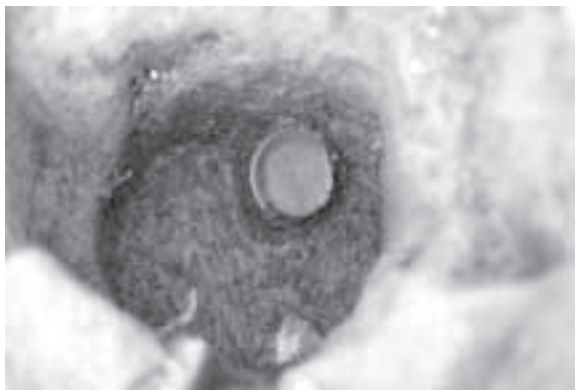


P43の半裁状態

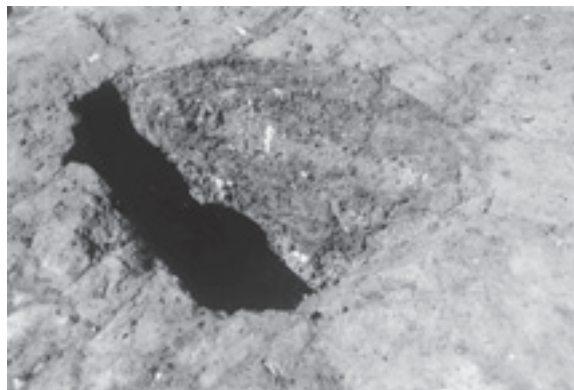


P49の半裁状態

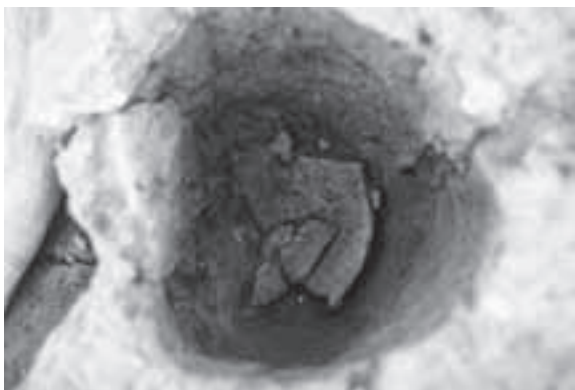
PL12



P79の遺物出土状態



P80の半裁状態



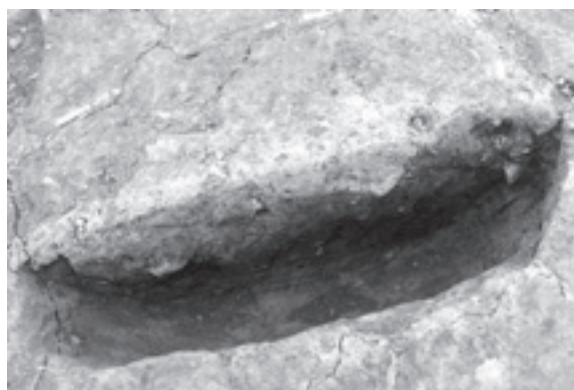
P81の遺物出土状態



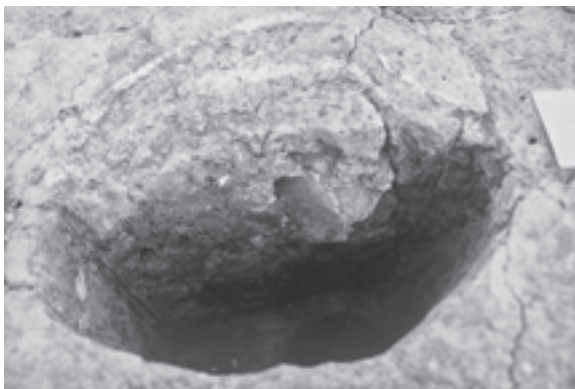
右；90, 左；102の半裁状態



P104の遺物出土状態 (383)



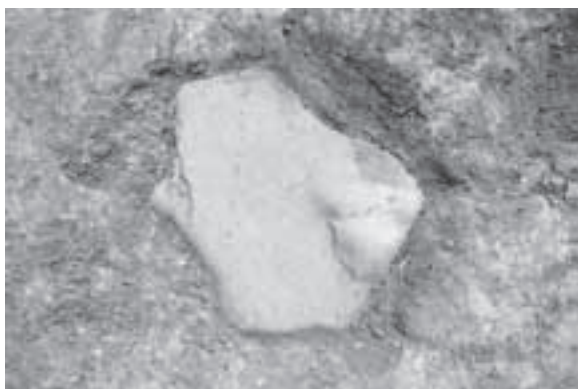
P106の半裁状態



P107の半裁状態



P120の出土状態



P132の検出状態



P143の半裁状態



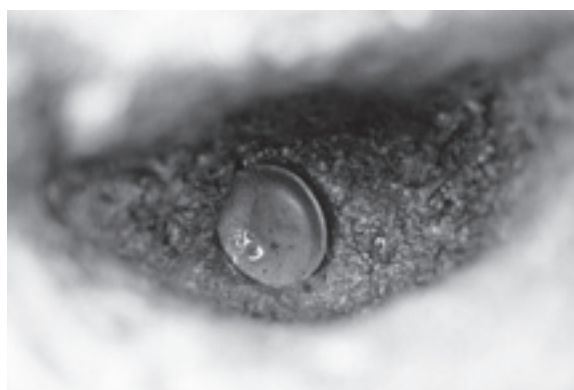
P143の出土状態



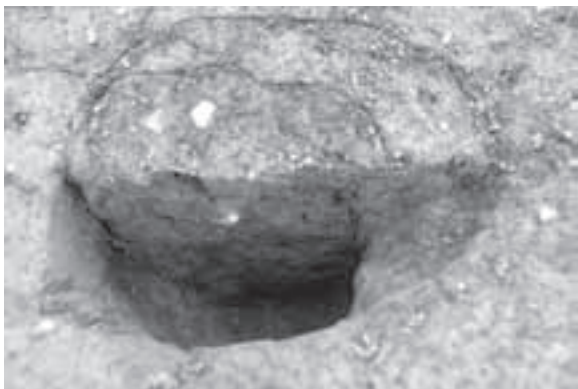
P144の半裁状態



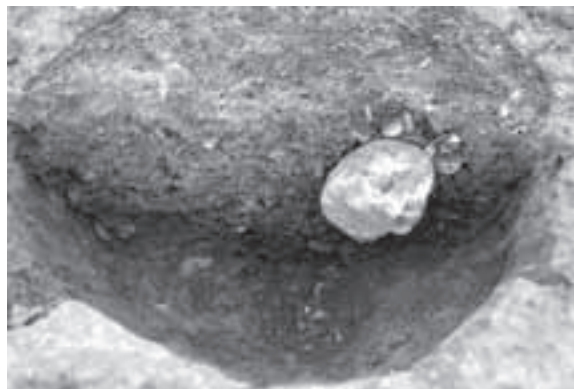
P145の半裁状態



P146の遺物出土状態



P147の半裁状態



P168の半裁状態

PL14



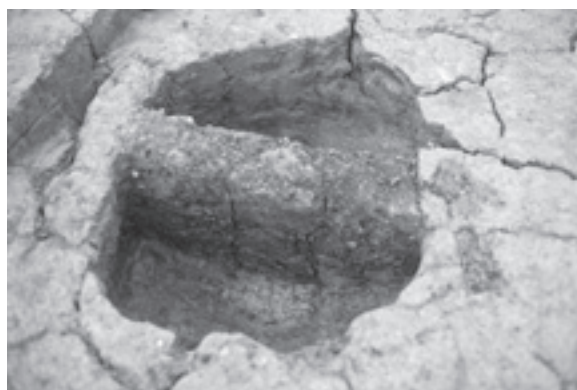
P171の半裁状態



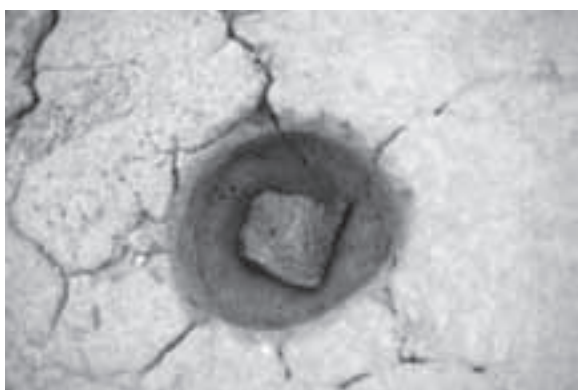
P180の半裁状態



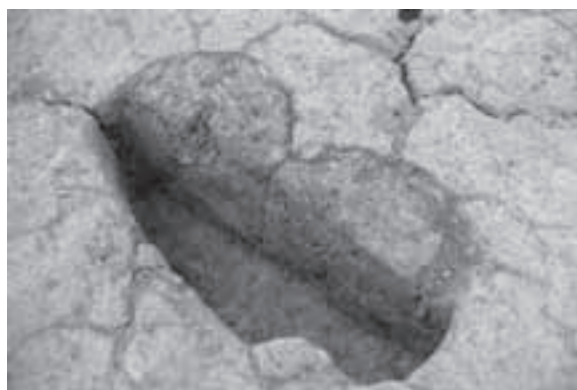
P185の半裁状態



P188の半裁状態



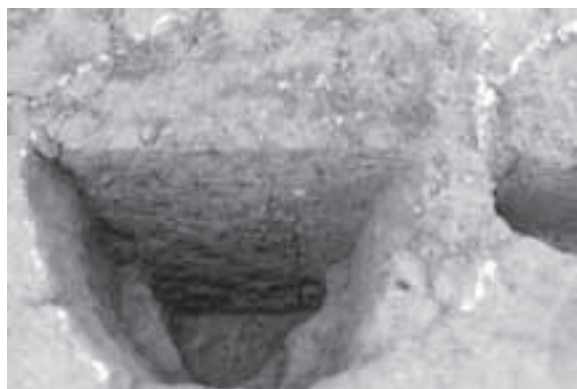
P189の出土状態



P190の半裁状態



P201の半裁状態



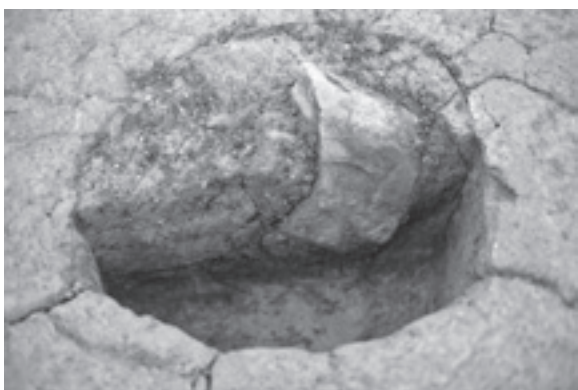
P212の半裁状態



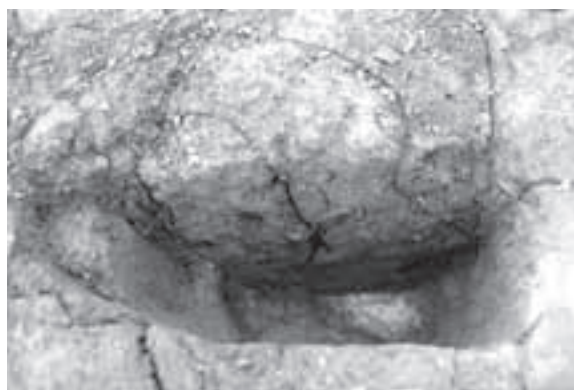
P237の半裁状態



右：P238, 左：P239の半裁状態



P240の半裁状態



P250の半裁状態



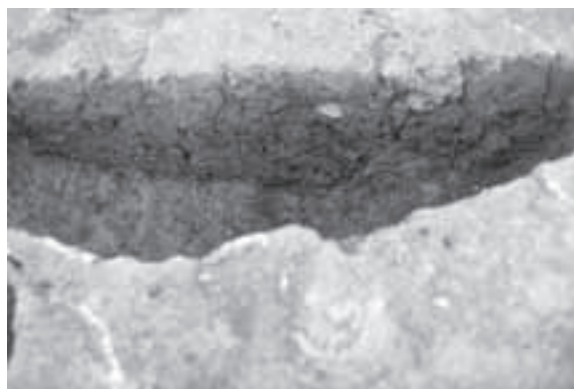
P251の半裁状態



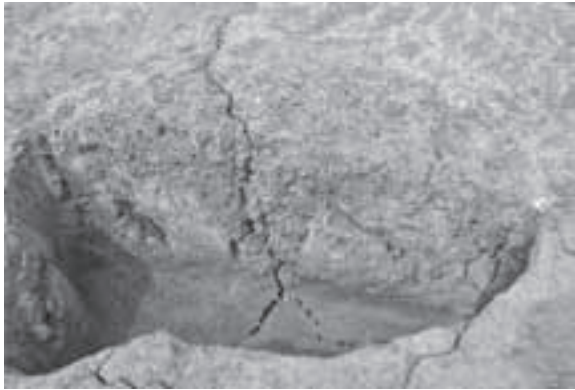
P255の半裁状態



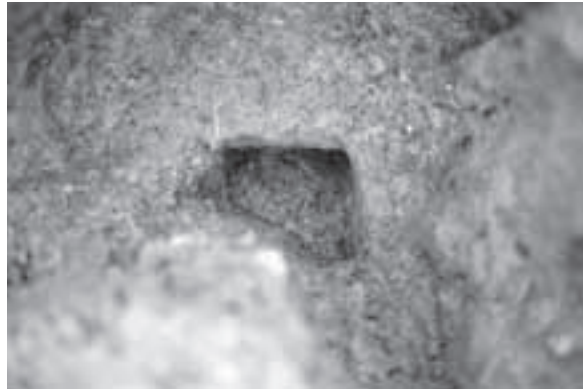
P257の半裁状態



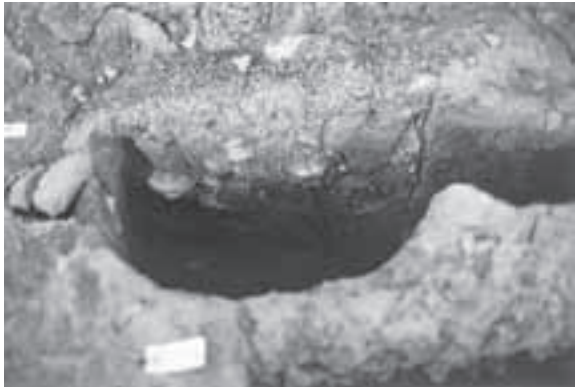
P312の半裁状態



P391の半裁状態



P393の柱痕



P398の半裁状態



P401の半裁状態



P402の半裁状態



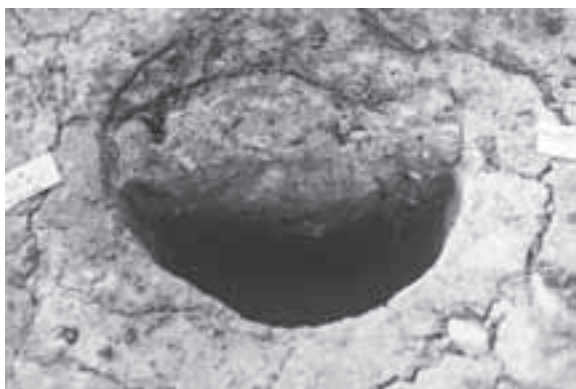
P403の半裁状態



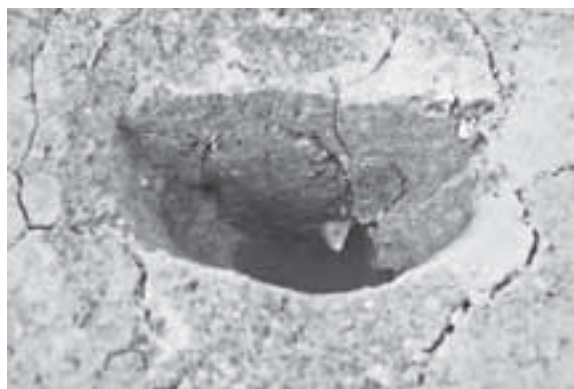
P404の半裁状態



P437の半裁状態



P438の半裁状態



P444の半裁状態



P448の半裁状態



P462の半裁状態



P476の半裁状態



P477の半裁状態



左；P479，右；P480の半裁状態



P479の半裁状態

PL18



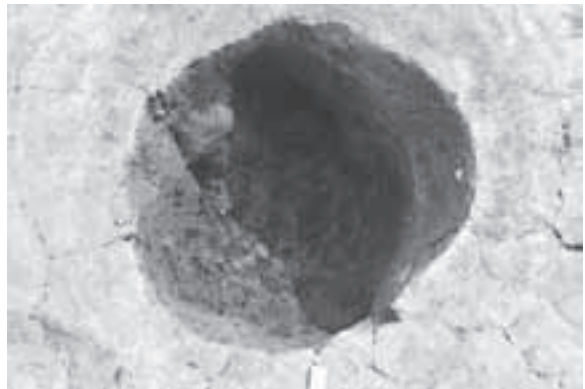
P480の半裁状態



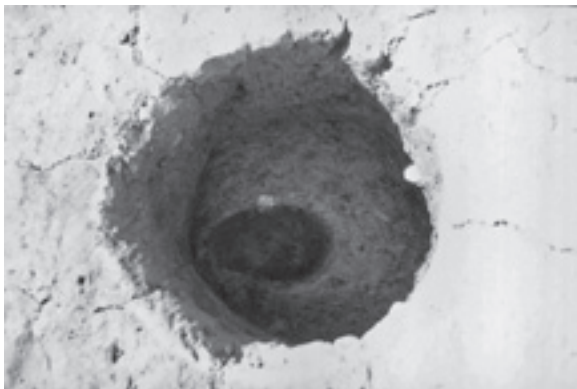
P481



P482



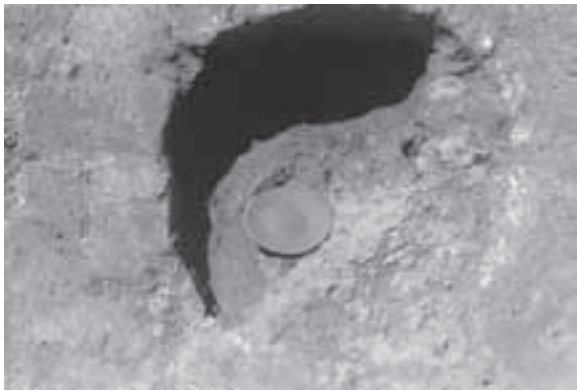
P484



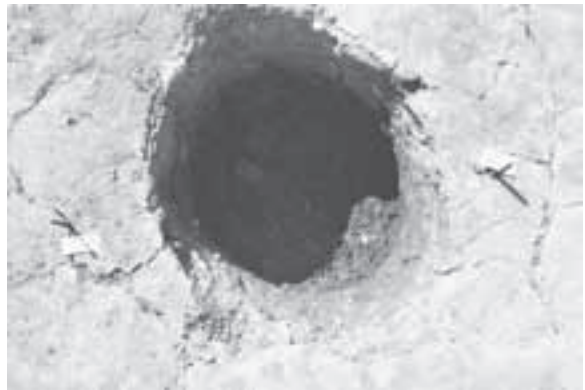
P485



P486



P487の遺物出土状態 (665)



P500



P502



P509の半裁状態



P509



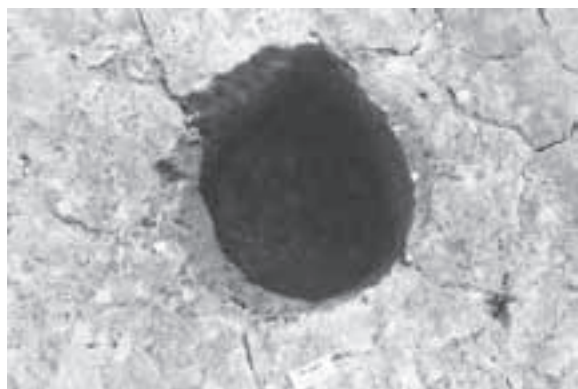
P533の半裁状態



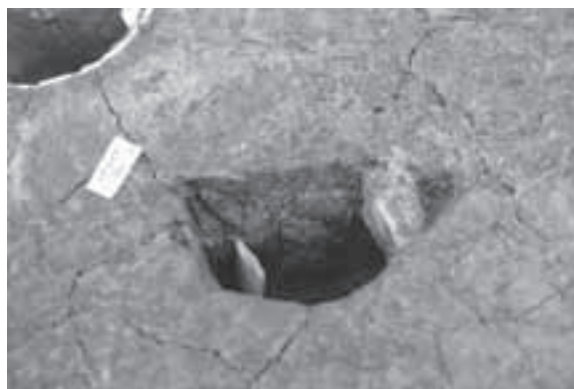
P540の半裁状態



P589の半裁状態



P662



P694の半裁状態

PL20



D区を南から



D区を北から



D区の南半を東から



D区の南半を西から



D区SE1を北から



D区SE1を南から



D区SE2を東から



D区SE2を西から



D区SK16・17を北東から



D区SK17を南西から



調査区より南側を望む



D区東壁を北から



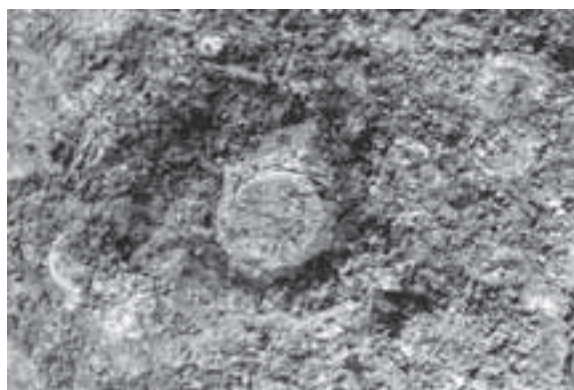
D区東壁北側を西から



D区東壁中北を西から



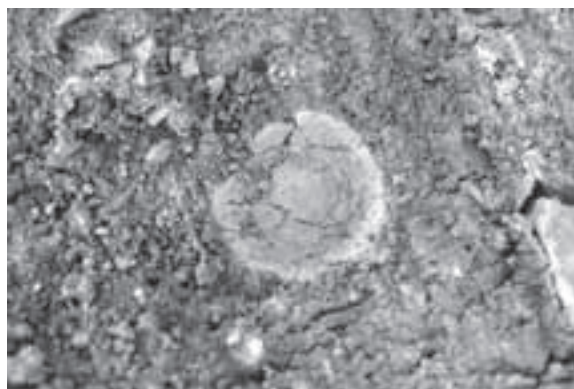
D区東壁中央を西から



包含層の遺物出土状態 (D7-11)

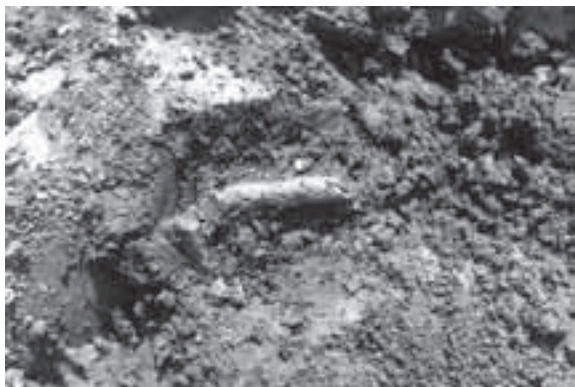


包含層の遺物出土状態 (C7-8)



包含層の遺物出土状態 (C6-23)

D区遺構 6



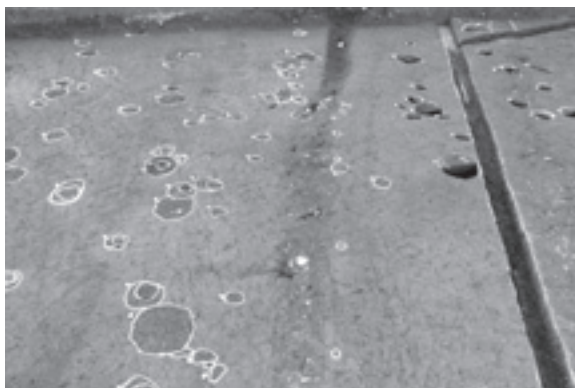
包含層の遺物出土状態 (C6-19)



包含層の遺物出土状態 (鉄刀)



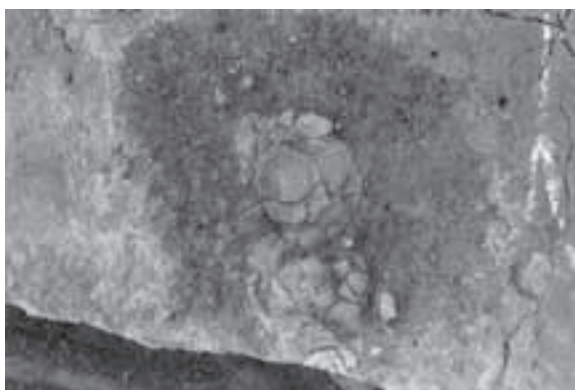
包含層の遺物出土状態 (D6-23)



SD-Cの遺物出土状態



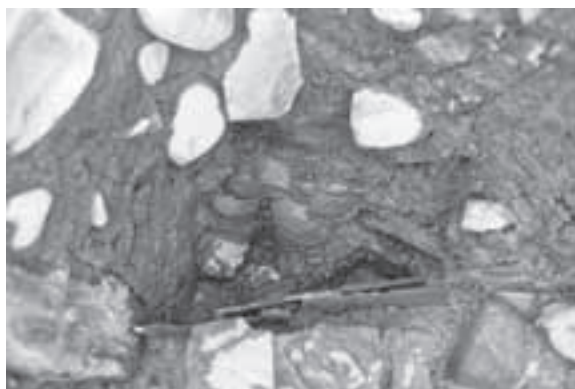
SD-Cの遺物出土状態 (31)



SD1遺物出土状態



SD2半裁状態



SE1遺物出土状態



SE1の井戸枠出土状態（縦板）



SE1の井戸枠出土状態



SE1の半裁状態



SE1の井戸枠出土状態



SE1の井戸枠出土状態



SE1の井戸枠出土状態（横棧）



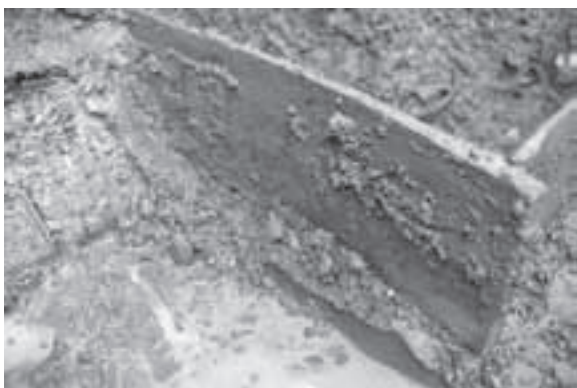
SE1の井戸枠出土状態（柱・横棧）



SE1の井戸枠出土状態（柱・横棧）



SE1の井戸枠出土状態



SE1の井戸枠出土状態（横板）



SE1の井戸枠出土状態（横板）



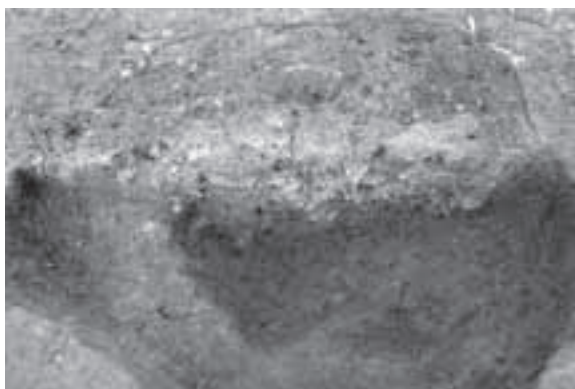
SE2の半裁状態



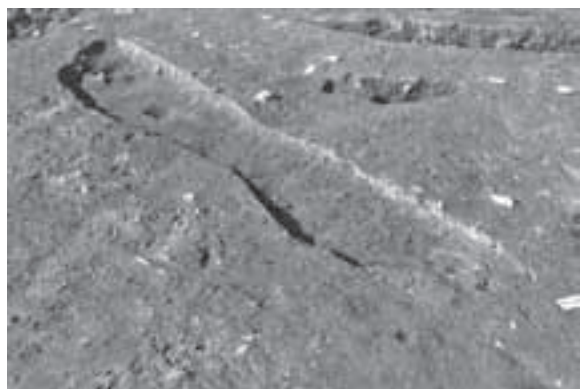
SE2の遺物出土状態（556）



SK1の半裁状態



SK2の半裁状態



SK4の半裁状態



SK5の半裁状態



SK6の半裁状態



SK8の半裁状態



SK9の半裁状態



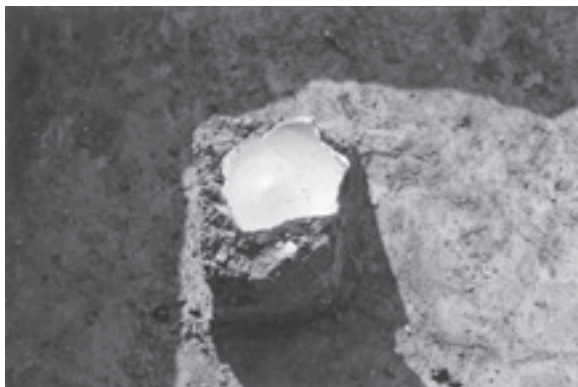
SK13の半裁状態



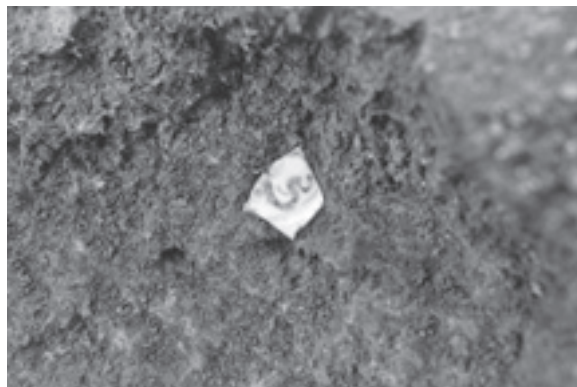
SK15の半裁状態



SK16の遺物出土状態



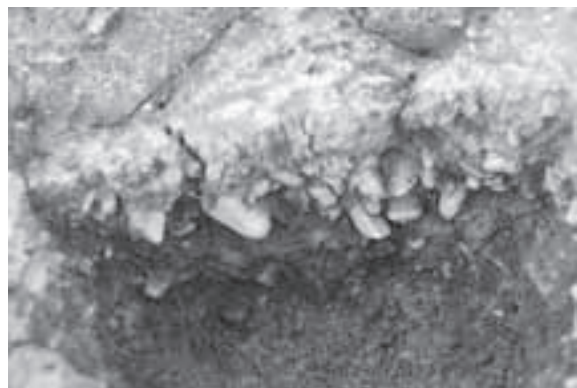
SK16の遺物出土状態



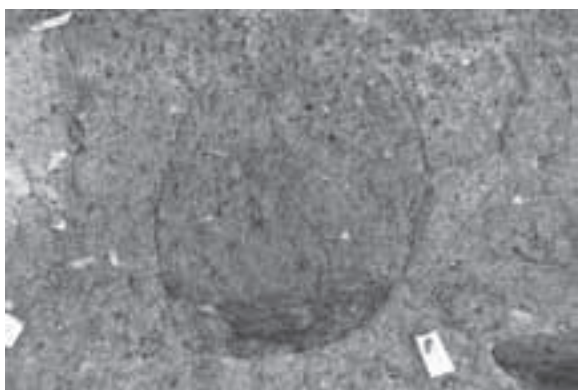
SK16の遺物出土状態



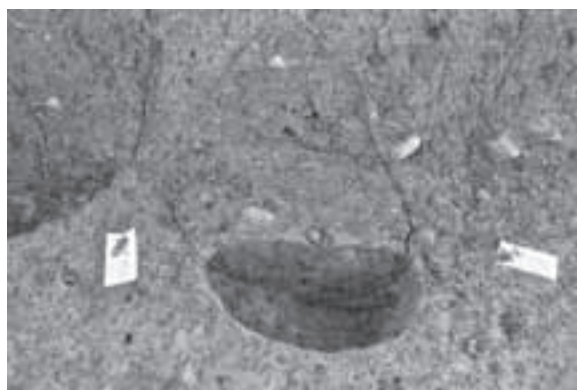
SK17の遺物出土状態



P1の半裁状態



P3の検出状態



P4の半裁状態



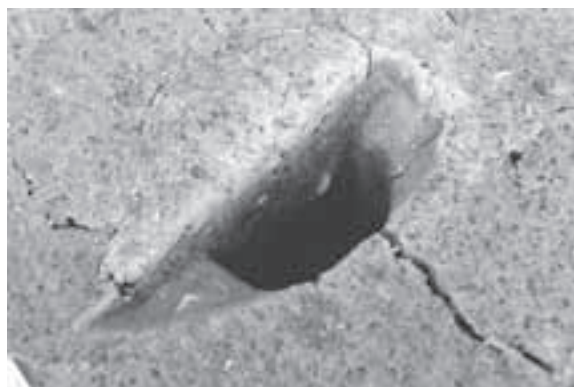
P5の半裁状態



P6の半裁状態



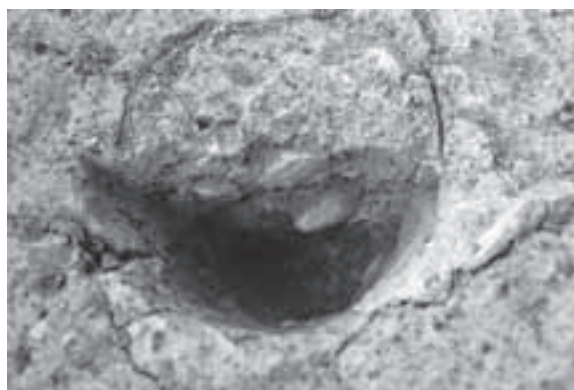
P7の半裁状態



P12の半裁状態



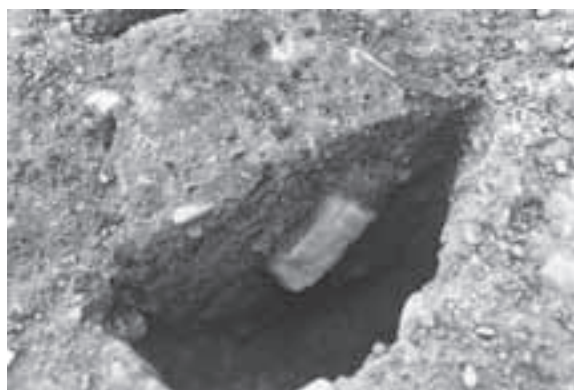
P15の半裁状態



P16の半裁状態



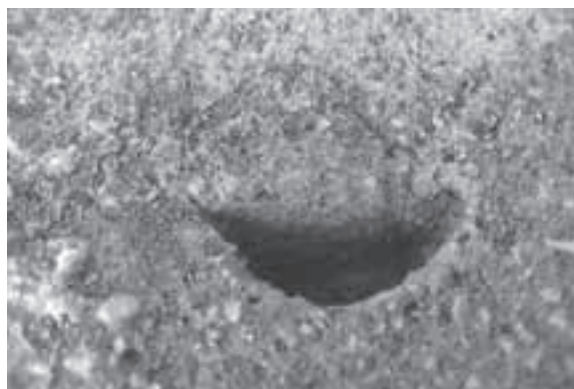
P18の半裁状態



P21の半裁状態



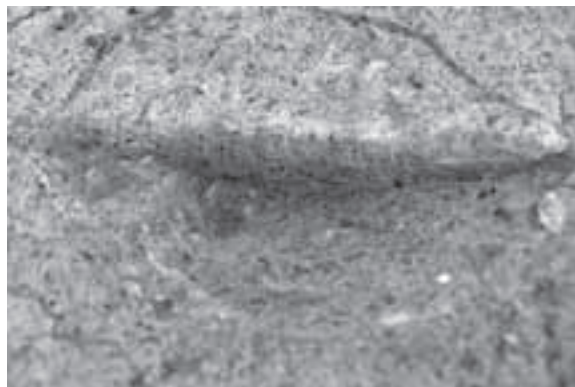
P22の半裁状態



P24の半裁状態



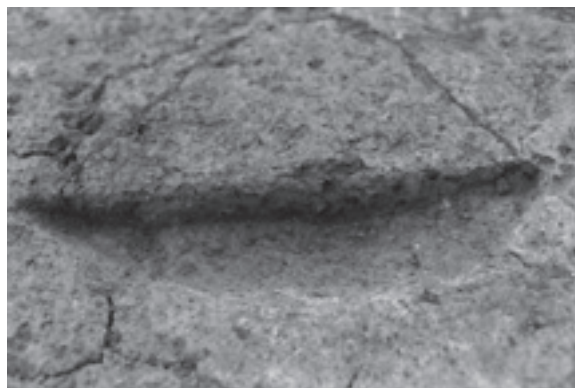
P27の半裁状態



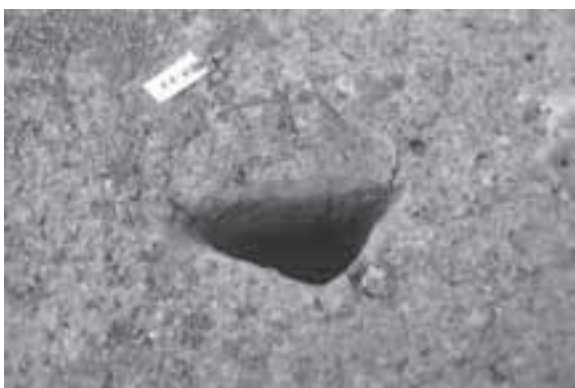
P28の半裁状態



P32の半裁状態



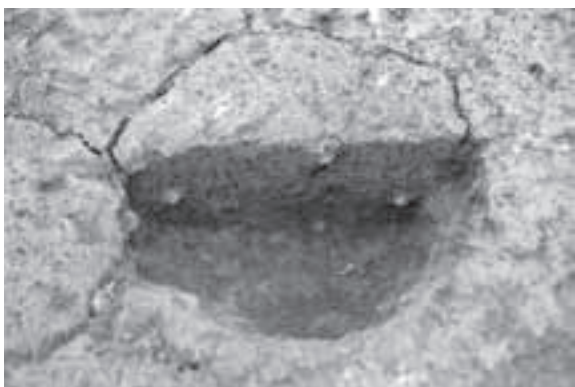
P36の半裁状態



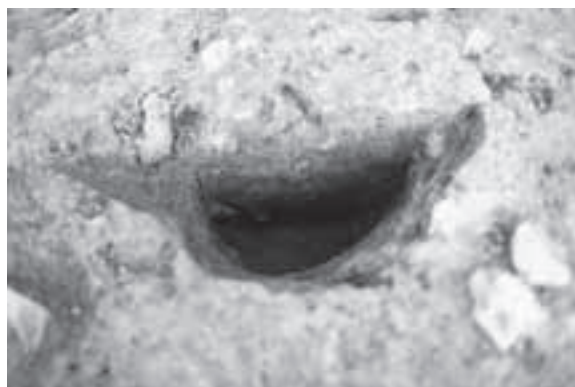
P39の半裁状態



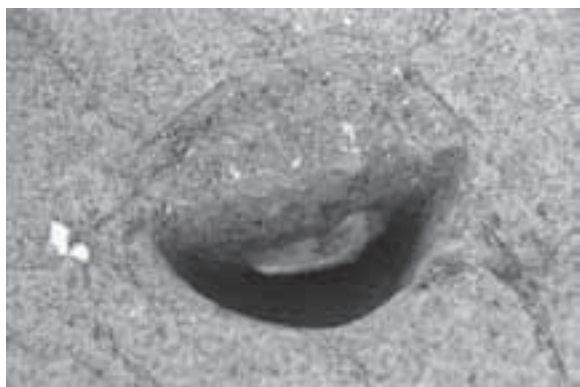
P45の半裁状態



P46の半裁状態



P51の半裁状態



P58の半裁状態



P62の半裁状態



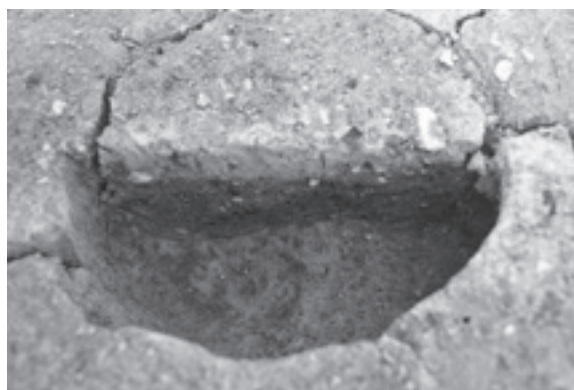
P65の半裁状態



P70の半裁状態



P76の半裁状態



P77の半裁状態



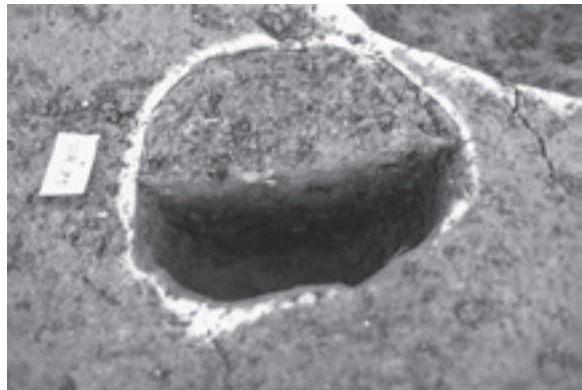
P78の半裁状態



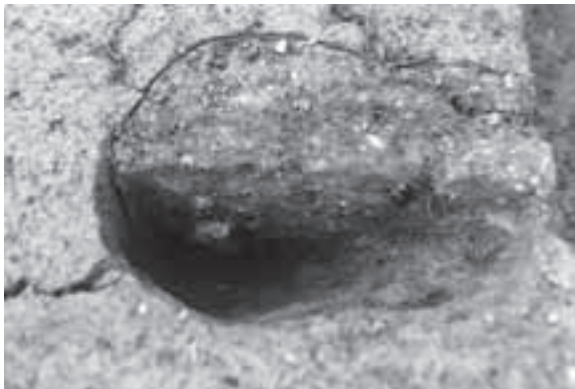
P80の半裁状態



P82の半裁状態



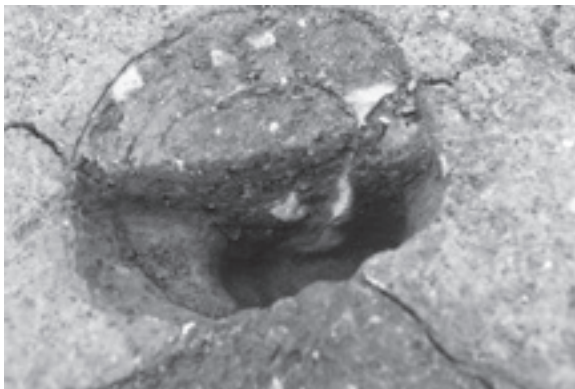
P84の半裁状態



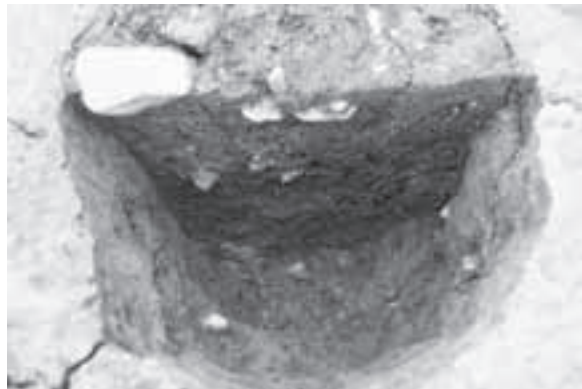
P87の半裁状態



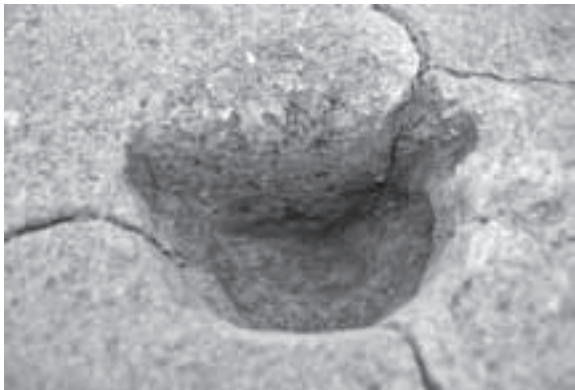
P88の半裁状態



P114の半裁状態



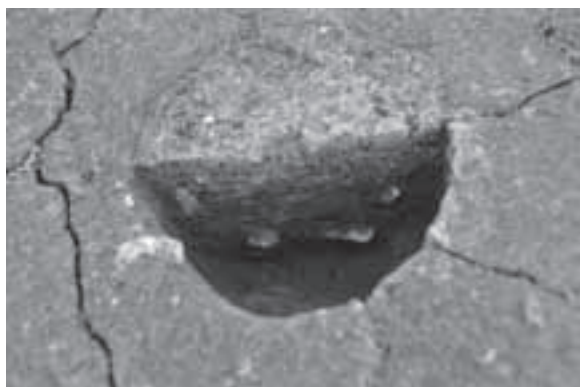
P115の半裁状態



P135の半裁状態



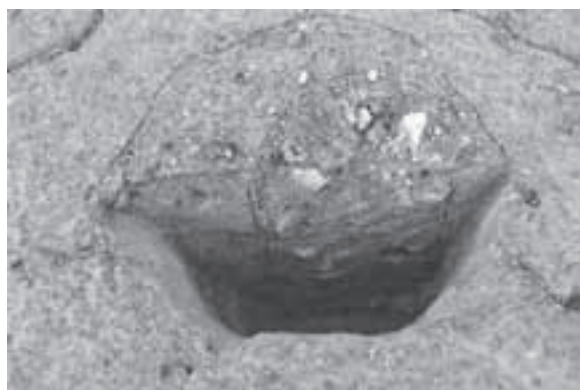
P139の半裁状態



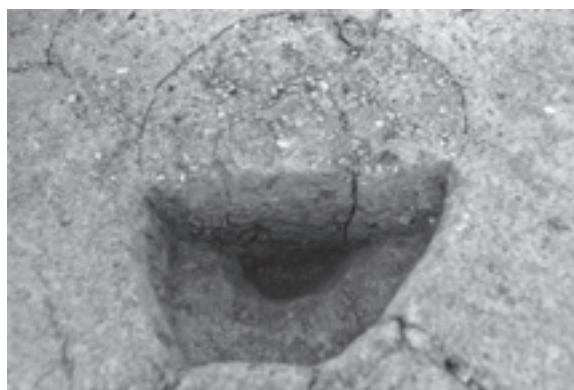
P144の半裁状態



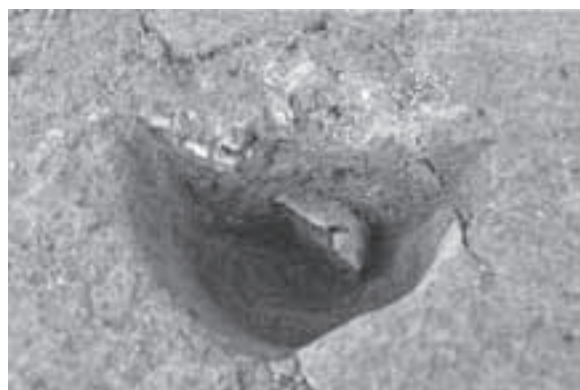
P145の半裁状態



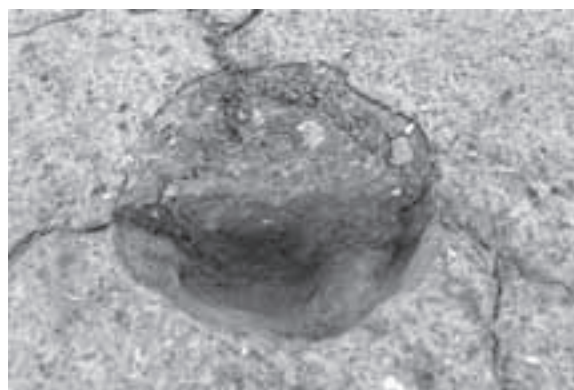
P146の半裁状態



P147の半裁状態



P148の半裁状態



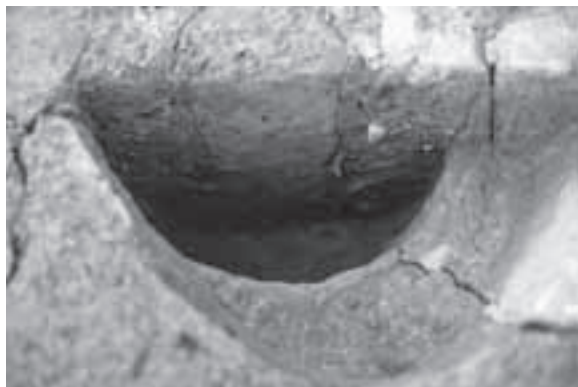
P149の半裁状態



P150の半裁状態



P154の半裁状態



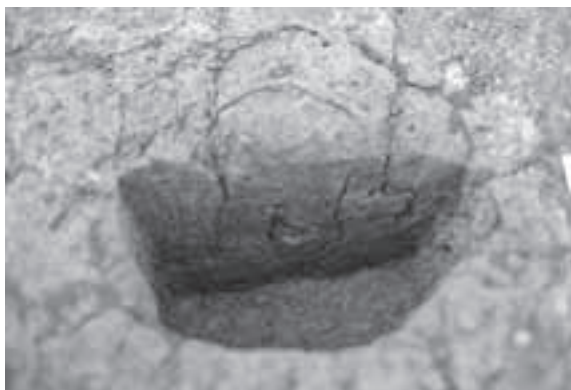
P159の半裁状態



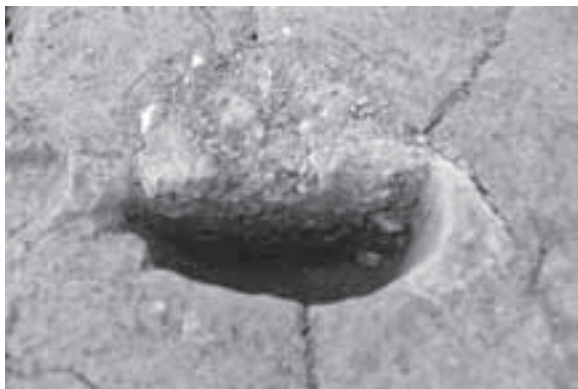
P161の半裁状態



P163の半裁状態



P167の半裁状態



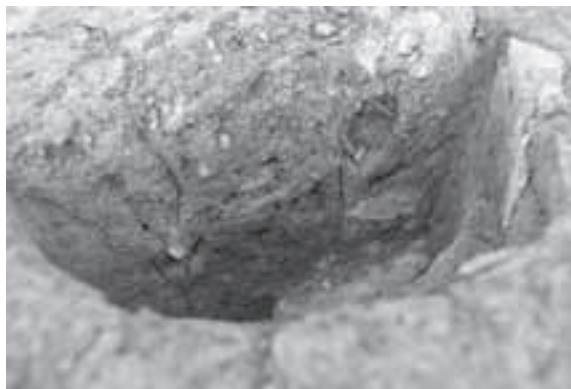
P169の半裁状態



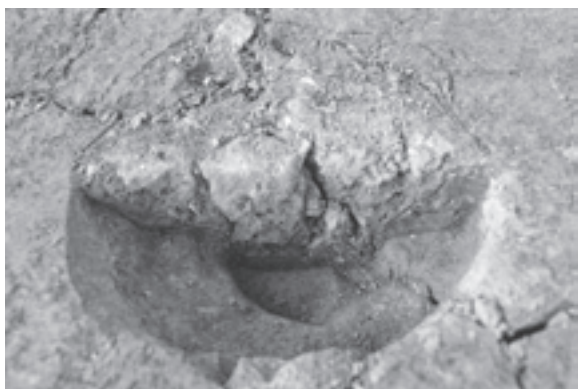
P230の出土状態



P231の半裁状態



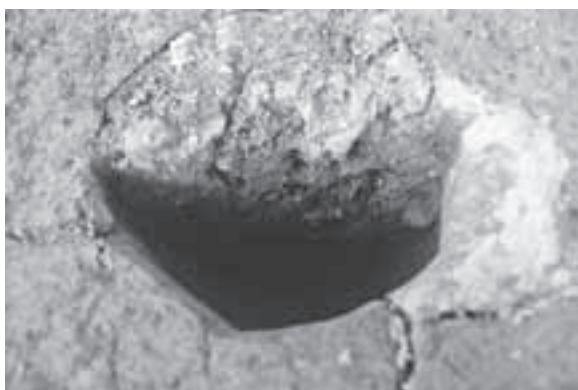
P240の半裁状態



P257の半裁状態



P260の半裁状態



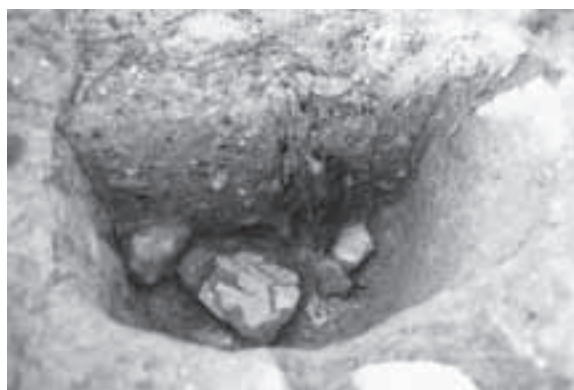
P261の半裁状態



P294の半裁状態



P295の半裁状態



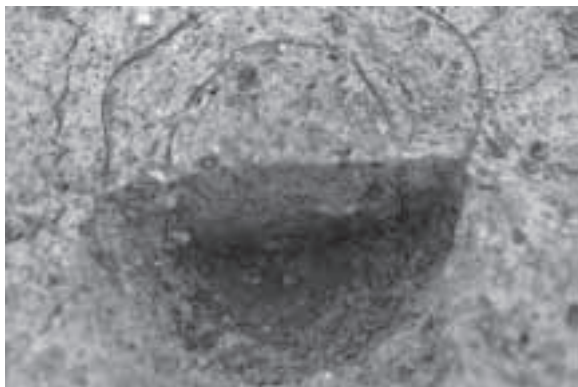
P331の半裁状態



P331の出土状態



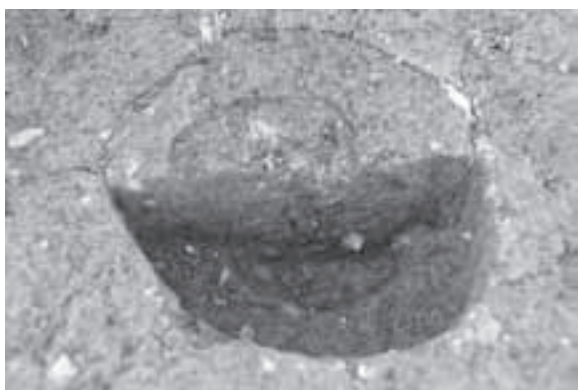
P332の半裁状態



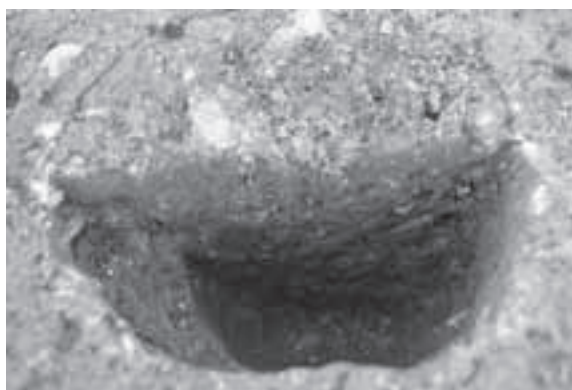
P341の半裁状態



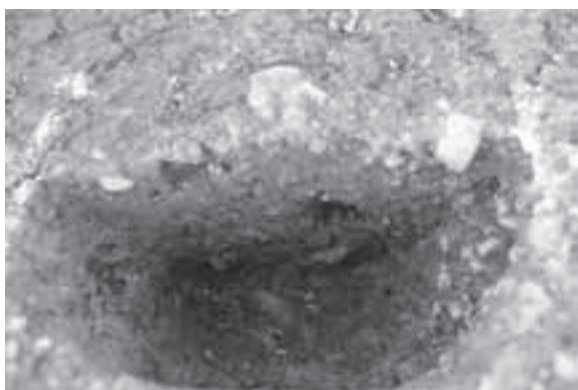
P344の半裁状態



P351の半裁状態



P352の半裁状態



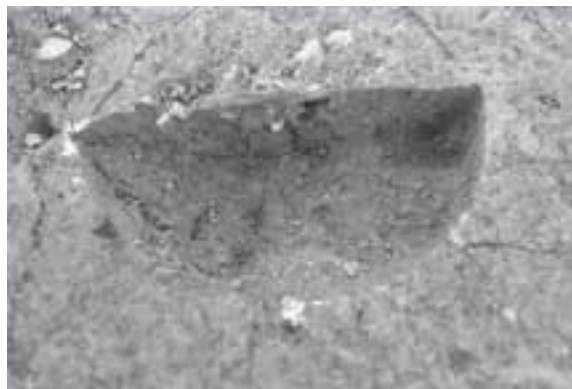
P355の半裁状態



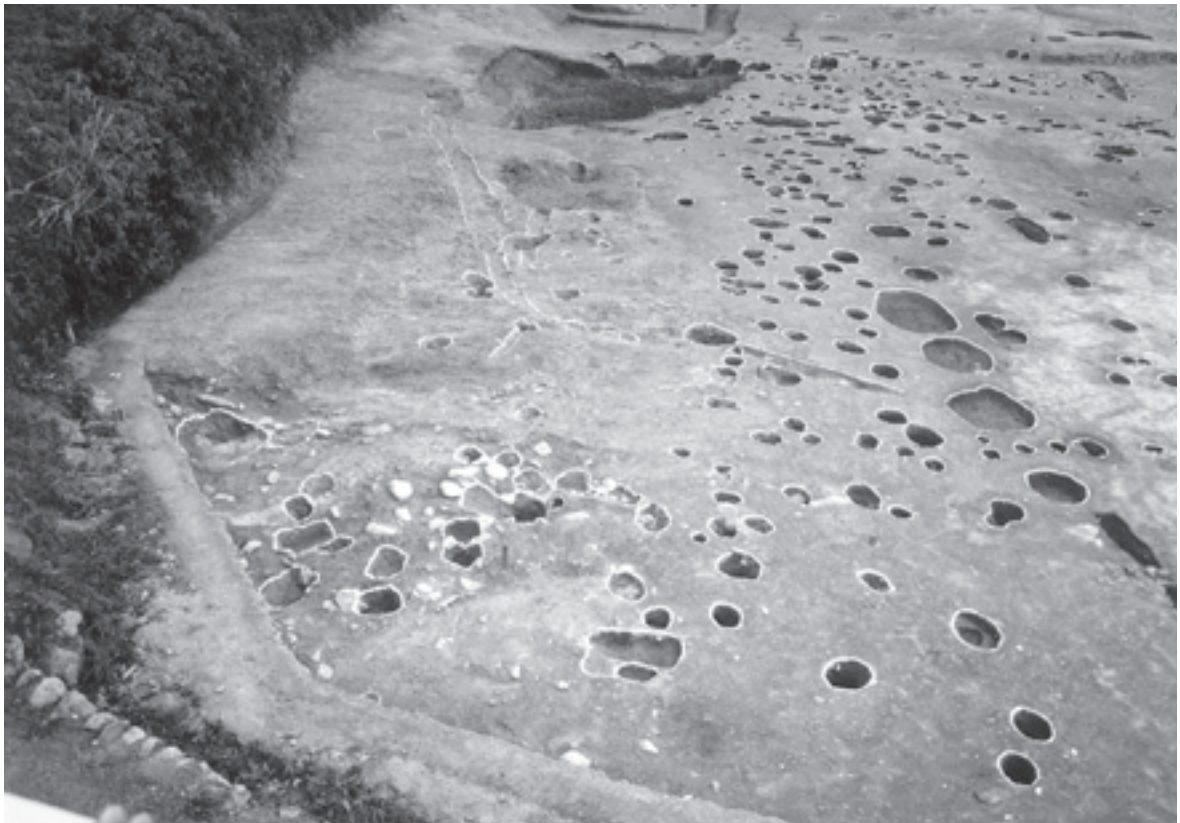
P356の半裁状態



P357の半裁状態



P359の半裁状態



B区の西南部を南から



B区の東南部を南から

PL40



B区の北半を東から



B区とE区を南から



B区の南半を北から



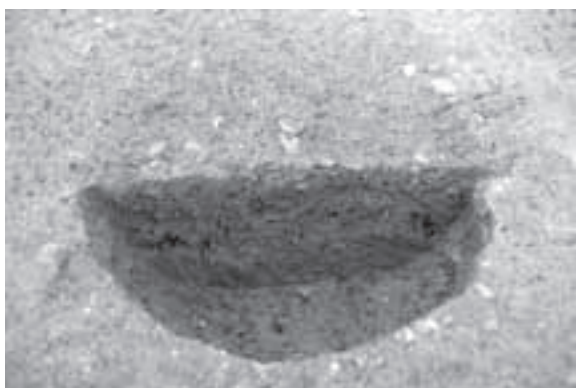
B区の北半を南から



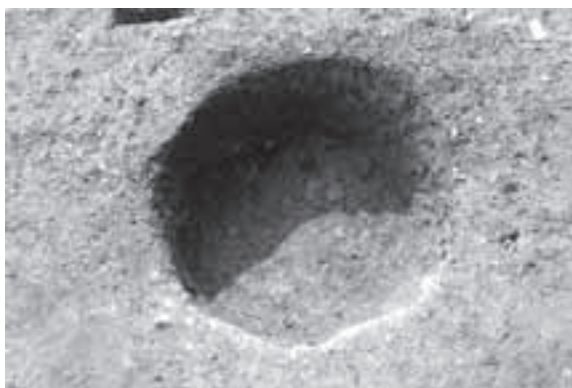
SD4の半裁状態



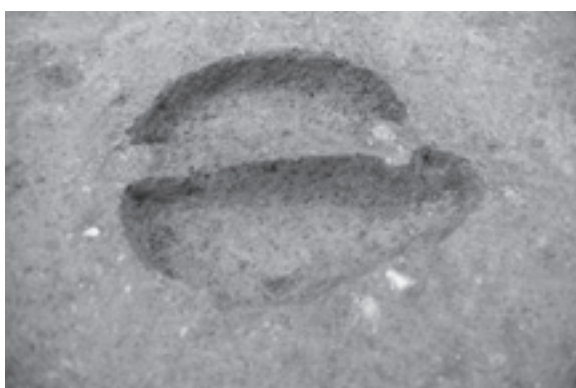
SD4北半の半裁状態



SK5の半裁状態



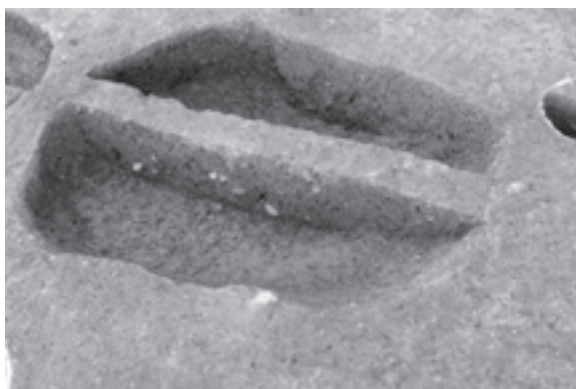
SK5



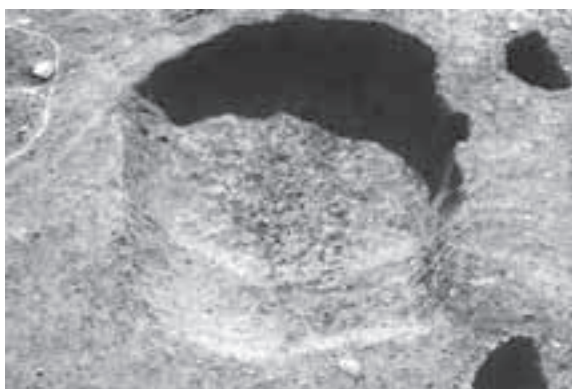
SK6の半裁状態



SK7の半裁状態



SK8の半裁状態



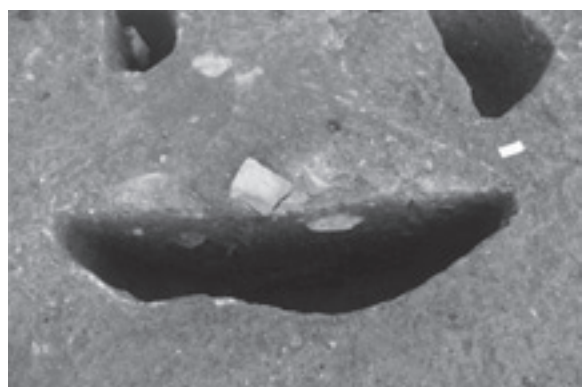
SK8



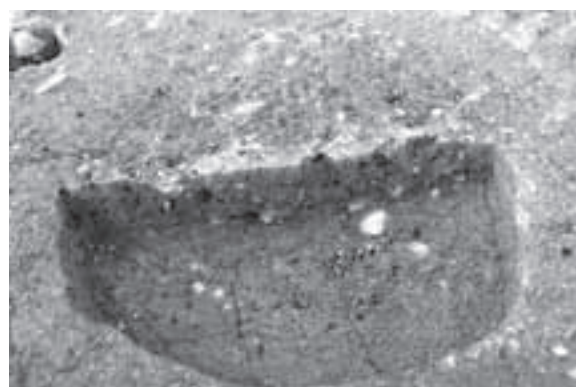
SK10の半裁状態



SK11の半裁状態



SK20の半裁状態



SK24の半裁状態



SK25の半裁状態



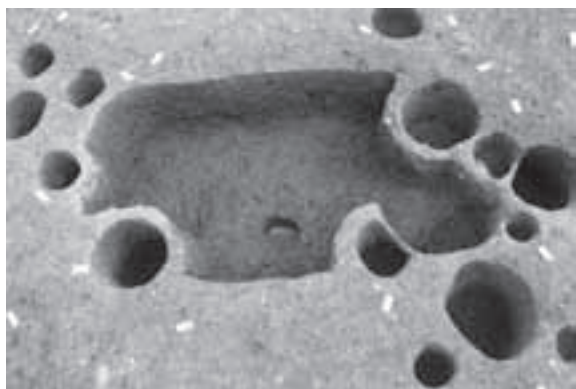
SK25



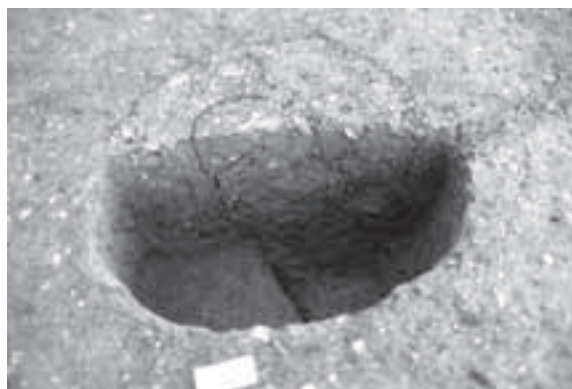
SK26の半裁状態



SK27の半裁状態



SK28



SK29の半裁状態



SK31



SK38の半裁状態



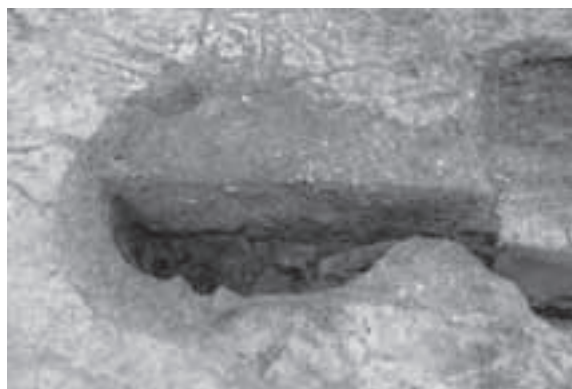
SK40の半裁状態



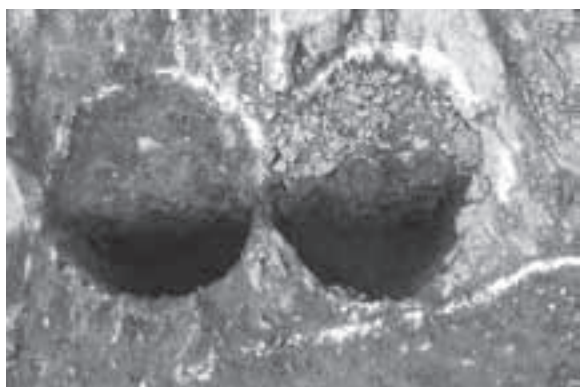
SX1の半裁状態（北西から）



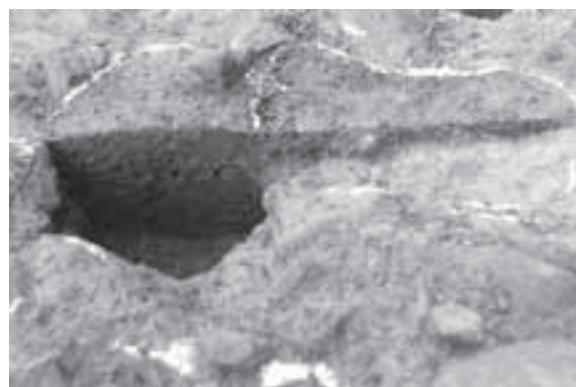
SX1の半裁状態（南東から）



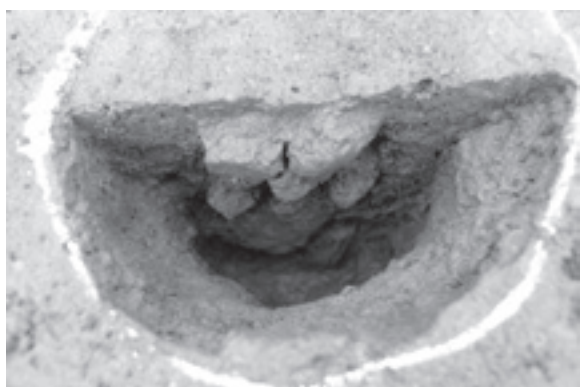
SX1の半裁状態（南から）



左：P12, 右：P13の半裁状態



右：P24, 左：P33の半裁状態



P41の半裁状態



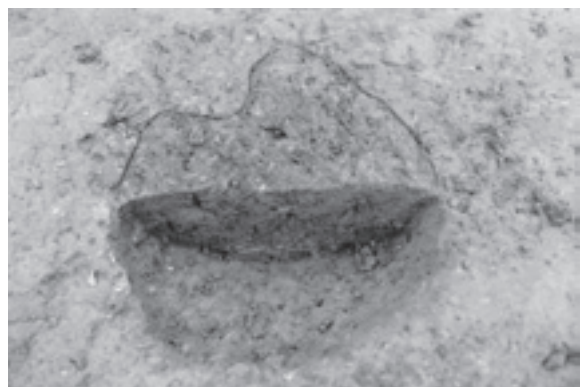
P50の半裁状態



P51の半裁状態



P61の半裁状態



P62の半裁状態



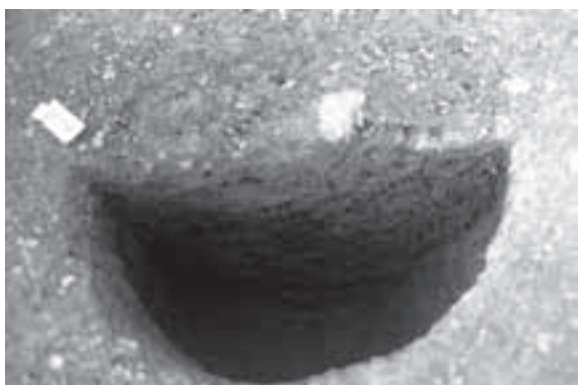
P90の半裁状態



P91の半裁状態



P92の半裁状態



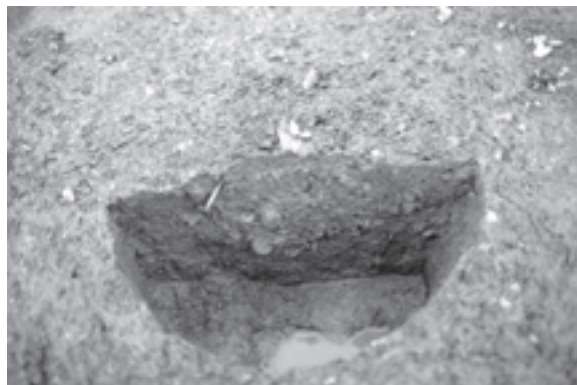
P93の半裁状態



P96の半裁状態



P98の半裁状態



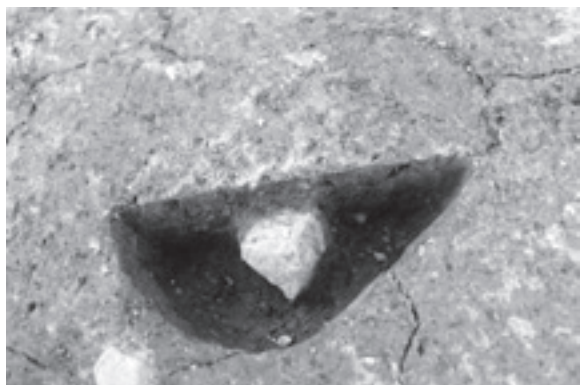
P104の半裁状態



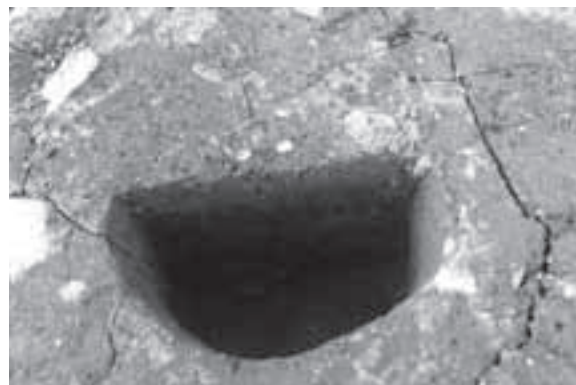
P105の半裁状態



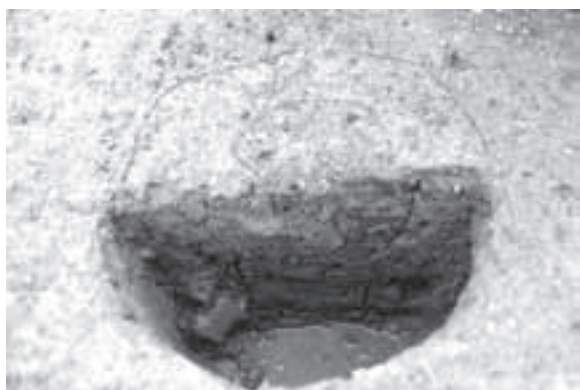
P107の半裁状態



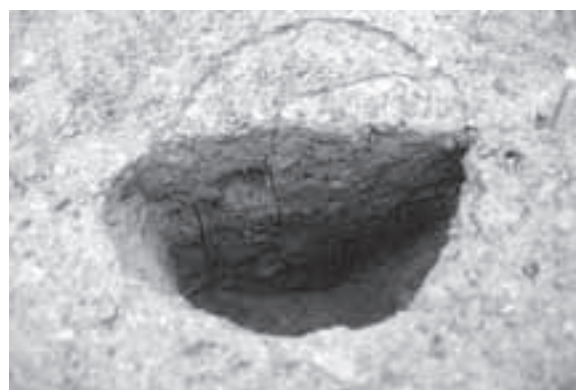
P108の半裁状態



P111の半裁状態



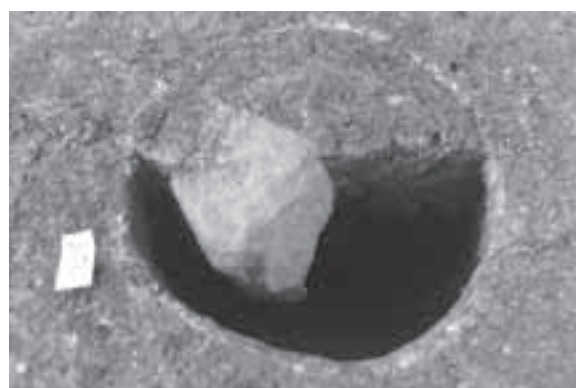
P122の半裁状態



P123の半裁状態



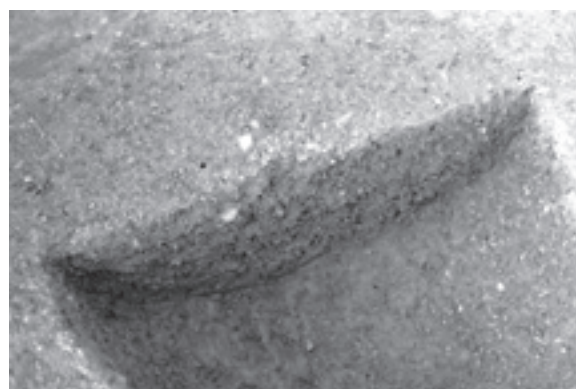
P159の半裁状態



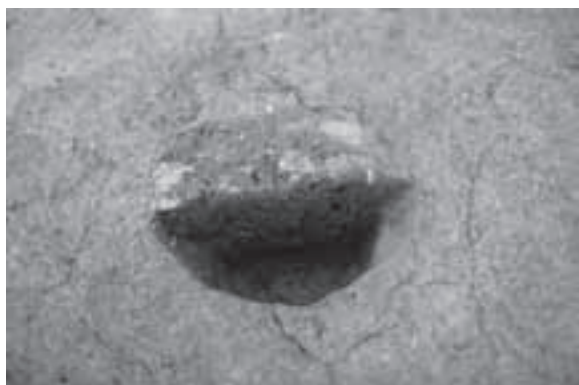
P168の半裁状態



P170の半裁状態



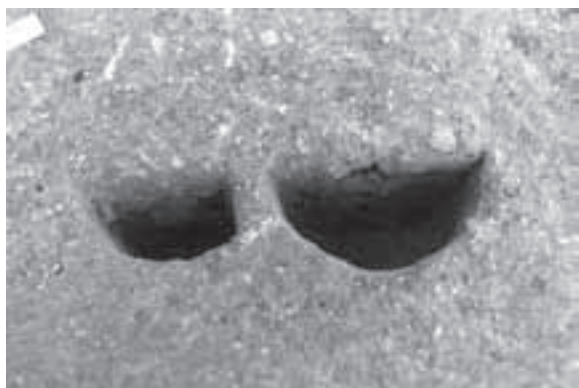
P171の半裁状態



P178の半裁状態



P184の半裁状態



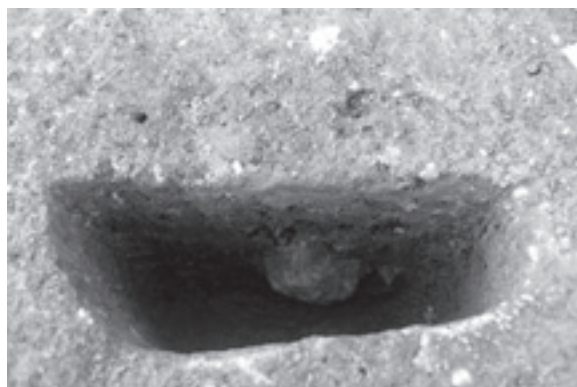
P189の半裁状態



P190の半裁状態



P193の半裁状態



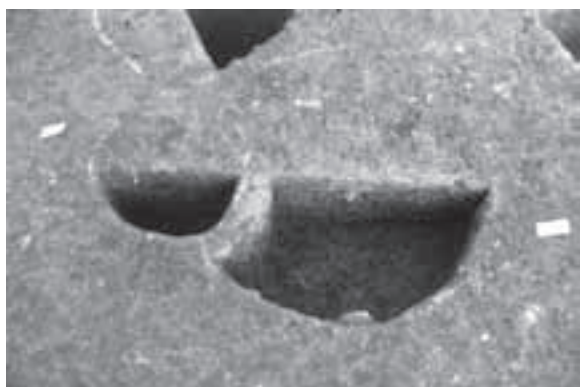
P196の半裁状態



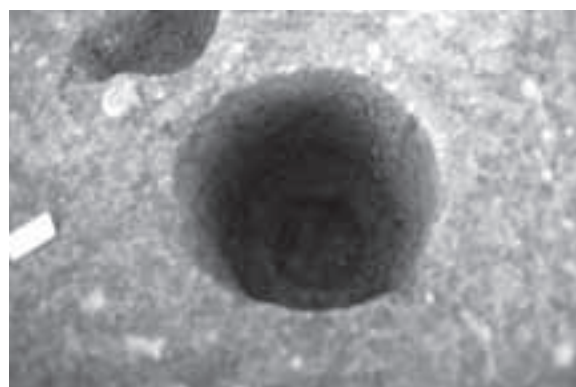
P199の半裁状態



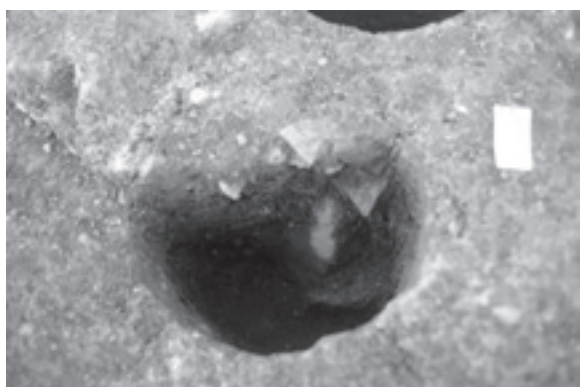
P205の半裁状態



右；P208, 左；P211の半裁状態



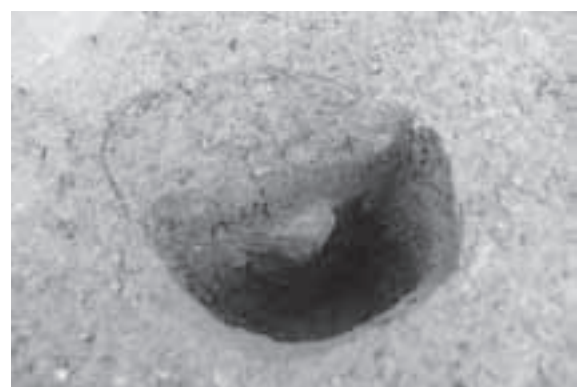
P220の半裁状態



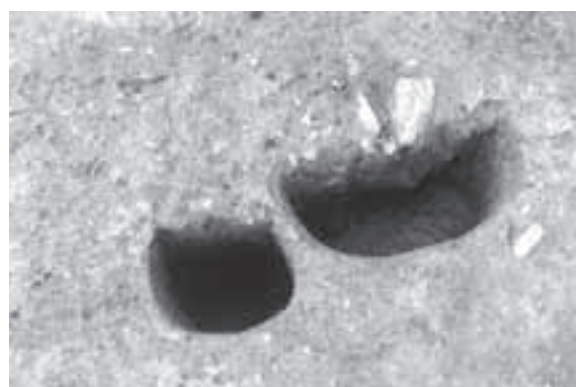
P223の半裁状態



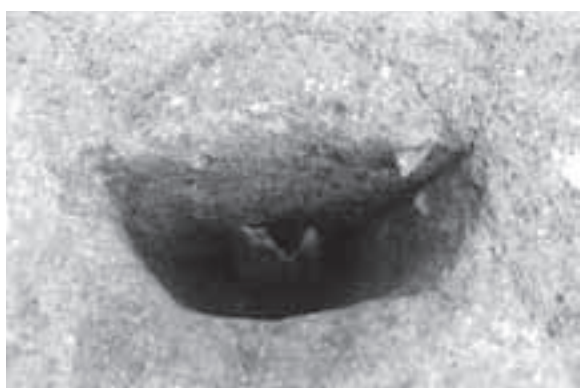
P238の半裁状態



P239の半裁状態



左；P245, 右；P246の半裁状態

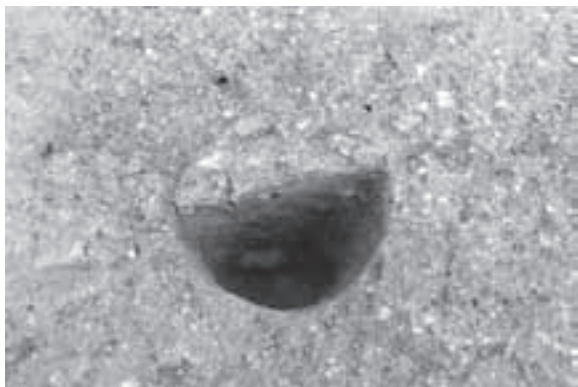


P249の半裁状態

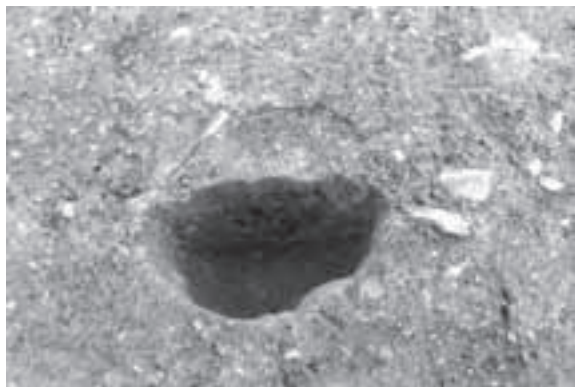


P251の半裁状態

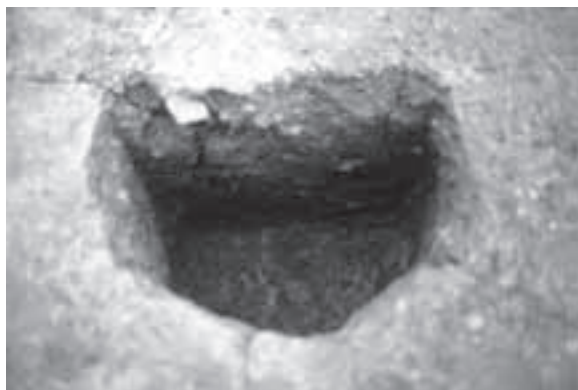
PL50



P258の半裁状態



P259の半裁状態



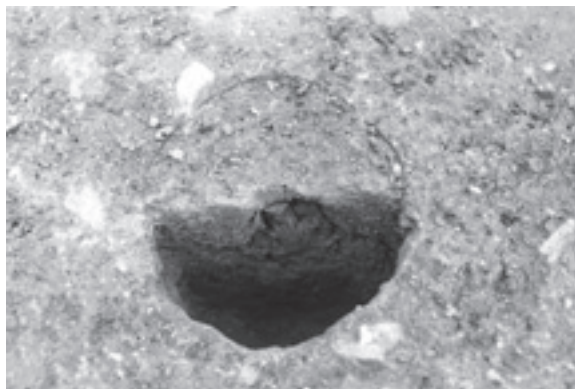
P263の半裁状態



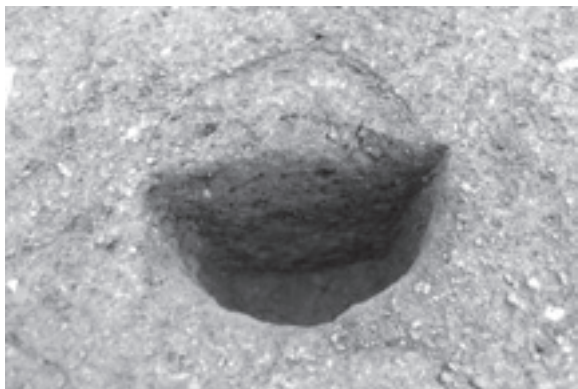
P265の半裁状態



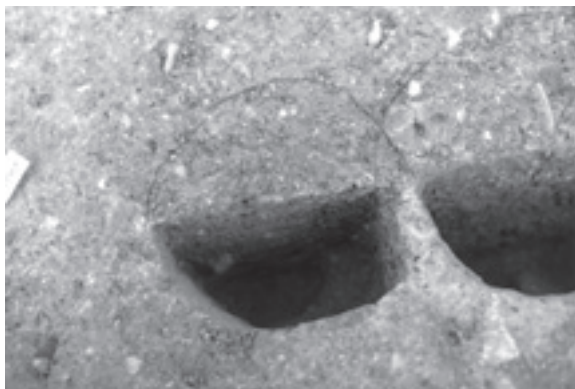
P266の半裁状態



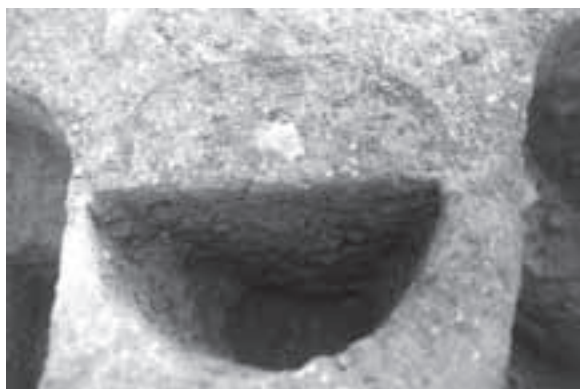
P267の半裁状態



P276の半裁状態



P286の半裁状態



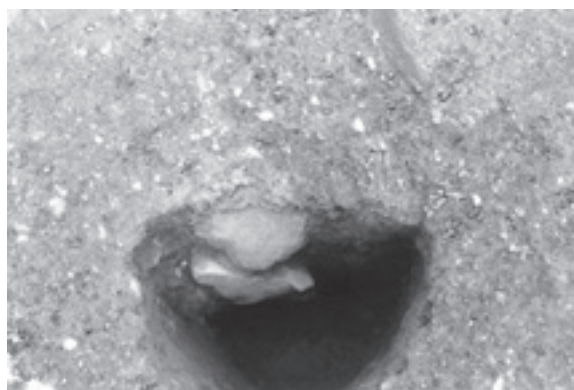
P288の半裁状態



P290の半裁状態



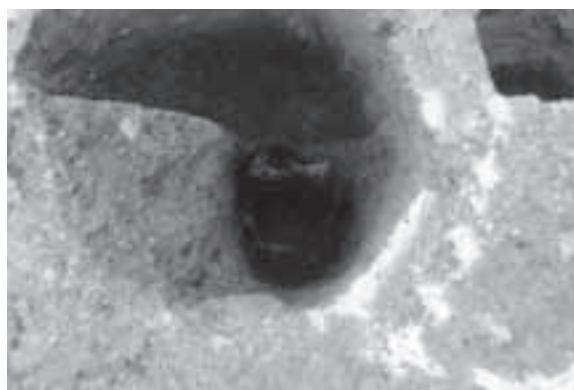
P291の半裁状態



P296の半裁状態



P297の半裁状態



P307の半裁状態



P308の半裁状態



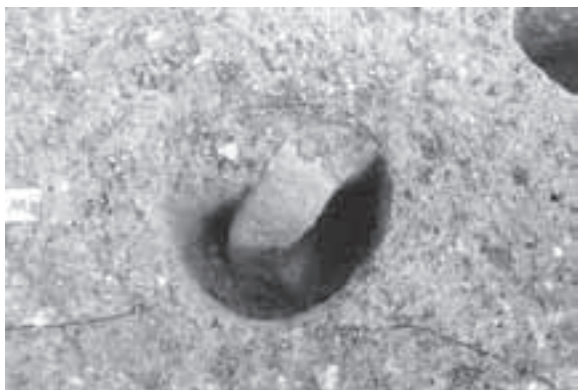
P309の半裁状態



P311の半裁状態



P319の半裁状態



P323の半裁状態



P324の半裁状態



P329の半裁状態



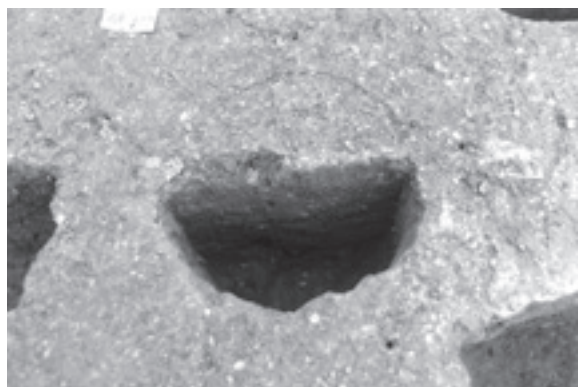
P332の半裁状態



P333の半裁状態



P335の半裁状態



P337の半裁状態



P340の半裁状態



P341の半裁状態



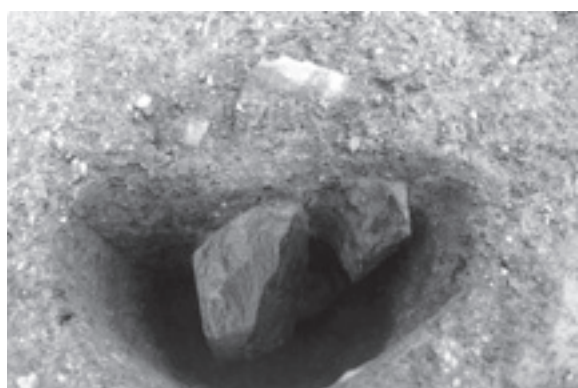
P344の半裁状態



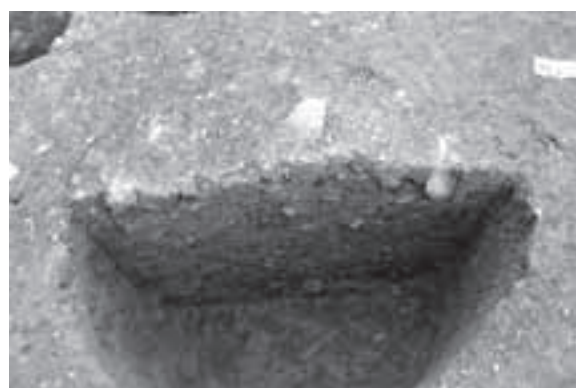
P345の半裁状態



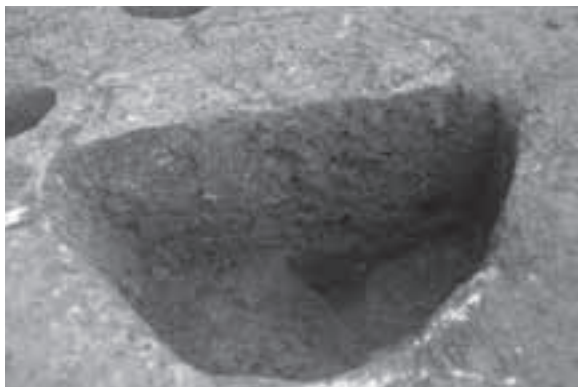
P351の半裁状態



P352の半裁状態



P354の半裁状態



P355の半裁状態



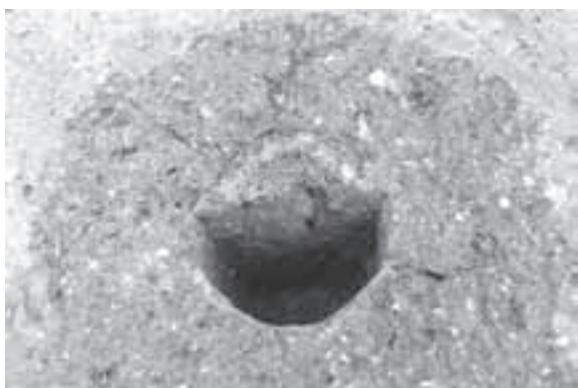
P362の半裁状態



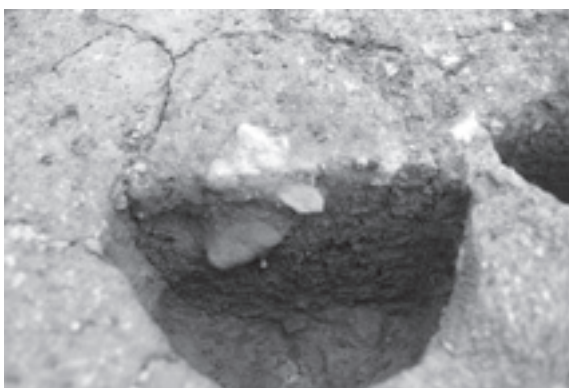
P368の半裁状態



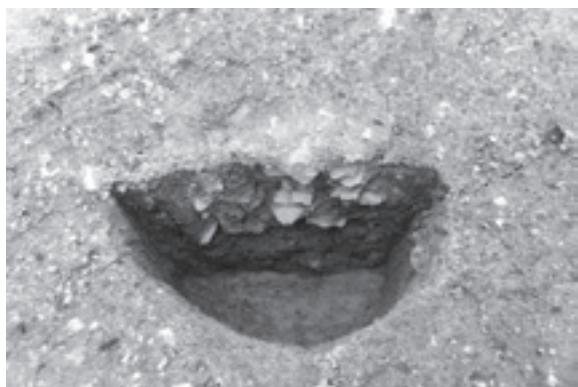
P369の半裁状態



P371の半裁状態



P376の半裁状態



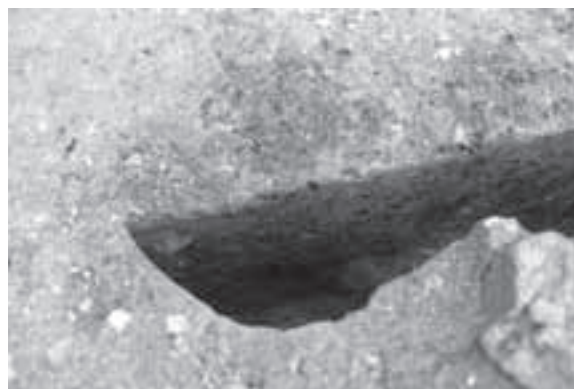
P381の半裁状態



P383の半裁状態



P384の半裁状態



P386の半裁状態



P387の半裁状態



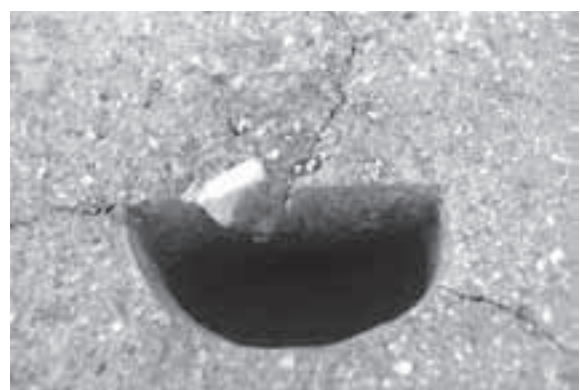
P388の半裁状態



P389の半裁状態



P394の半裁状態



P405の半裁状態

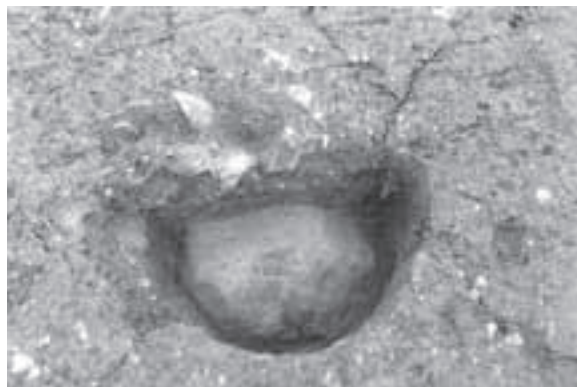


P406の半裁状態

PL56



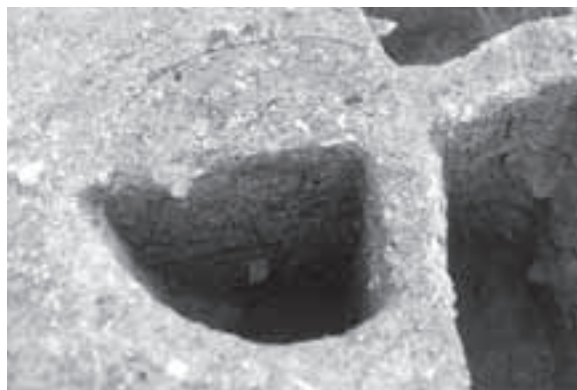
P407の半裁状態



P411の半裁状態



P412の半裁状態



P420の半裁状態



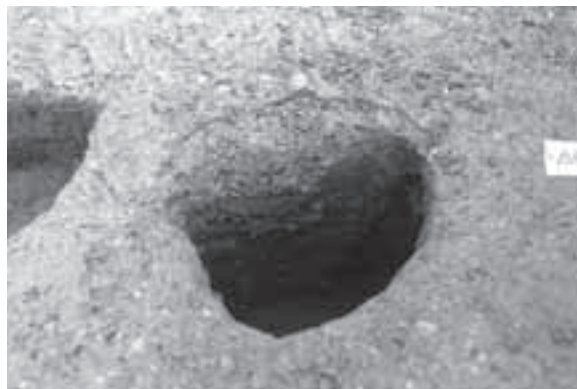
P431の半裁状態



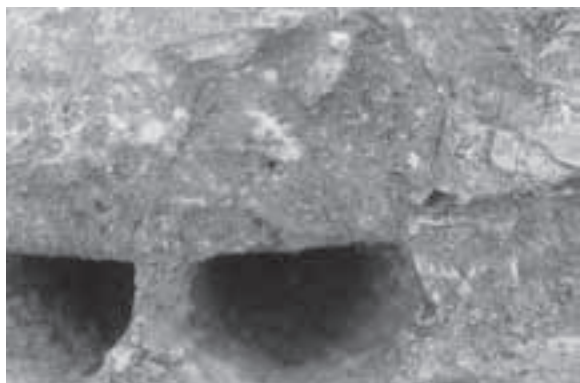
P435の半裁状態



P436の半裁状態



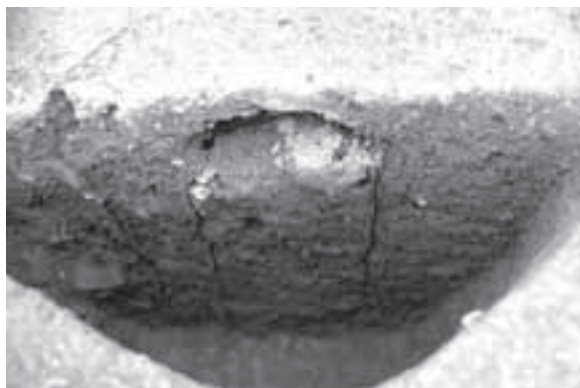
P437の半裁状態



P439の半裁状態



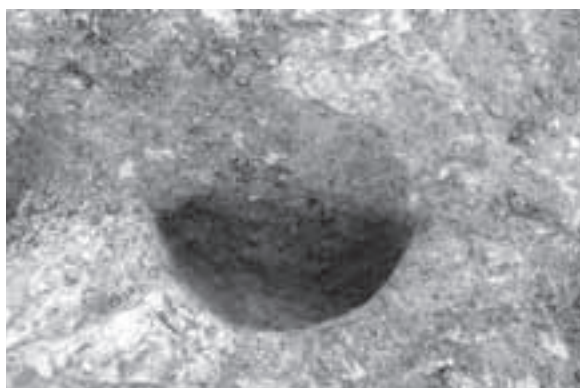
P441の半裁状態



P448の半裁状態



P449の半裁状態



P451の半裁状態



P457の半裁状態



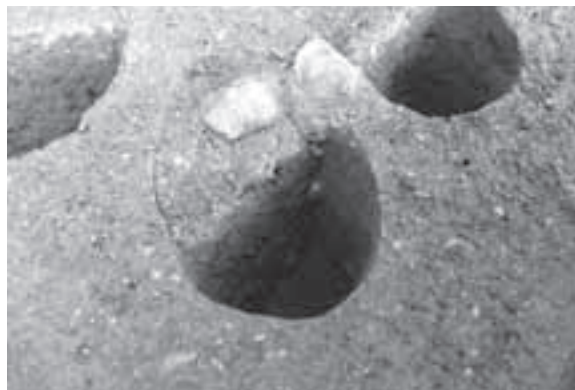
P461の半裁状態



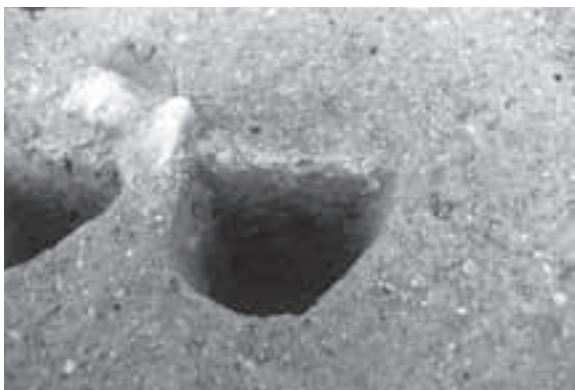
P462の半裁状態



P468の半裁状態



P469の半裁状態



P470の半裁状態



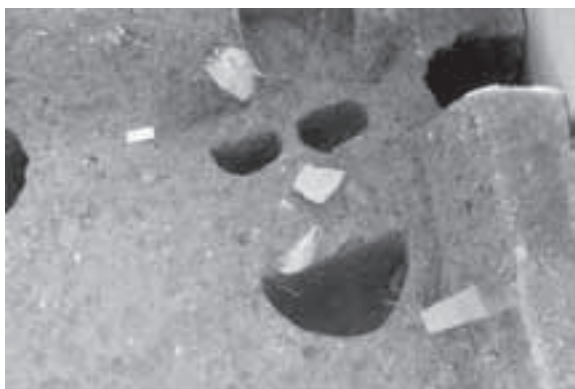
P471の半裁状態



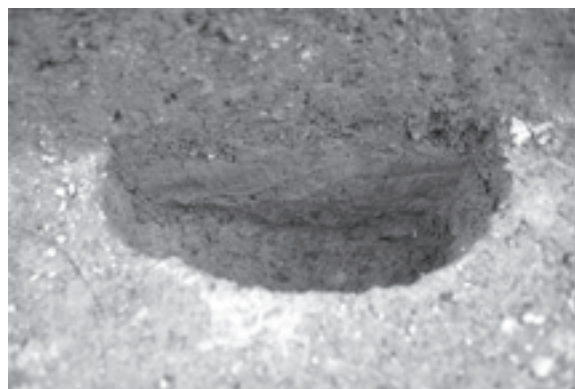
P475の半裁状態



P476の半裁状態



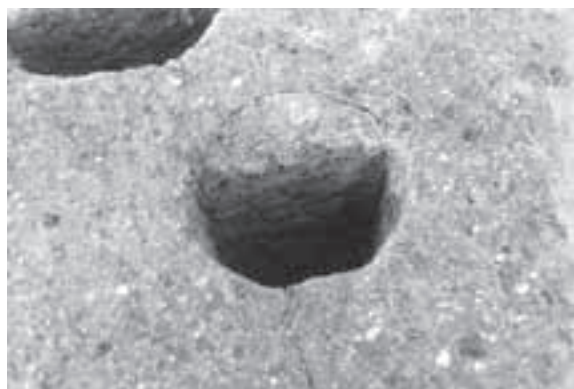
P477の半裁状態



P491の半裁状態



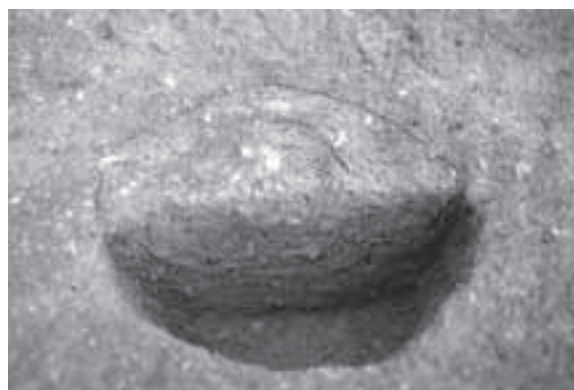
P491の半裁状態



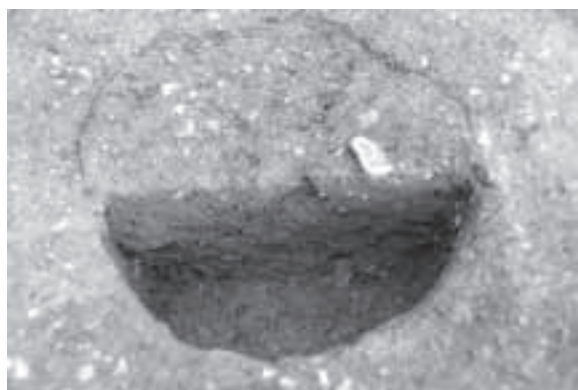
P496の半裁状態



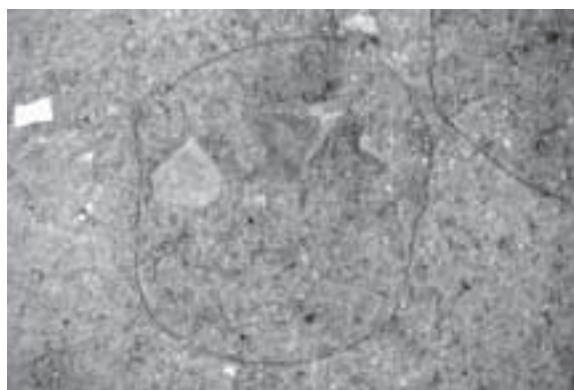
P504の半裁状態



P505の半裁状態



P515の半裁状態



P551の検出状態

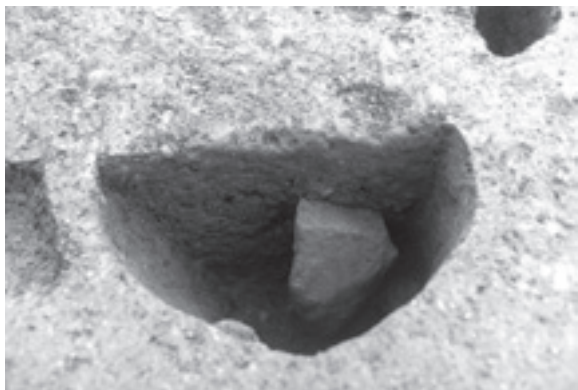


P551の半裁状態

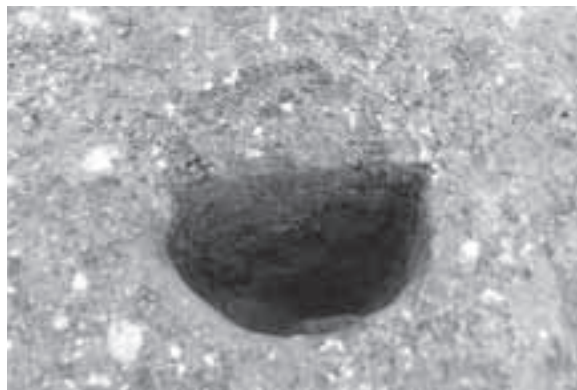


P552の半裁状態

PL60



P553の半裁状態



P558の半裁状態



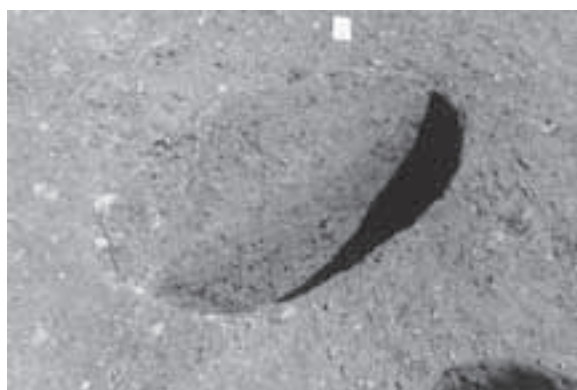
P569の半裁状態



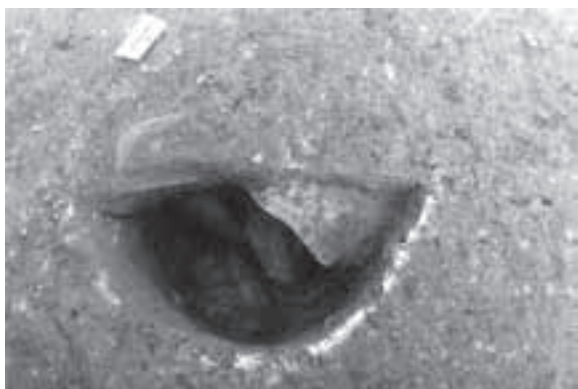
P595の半裁状態



P610の半裁状態



P669の半裁状態



P670の半裁状態



P671の検出状態



E区を南から



E区を南から

PL62



E区の北半を北東から



E区の北半を北東から



E区SE1を南東から



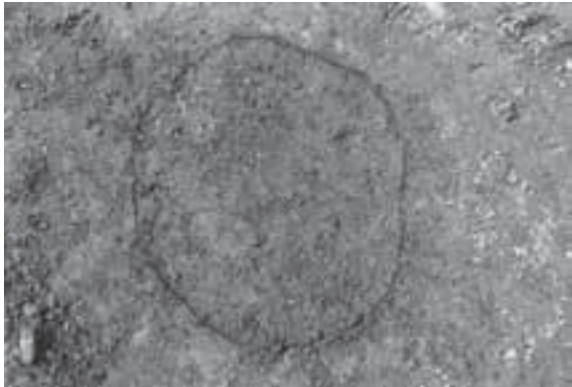
E区のSE1を北東から



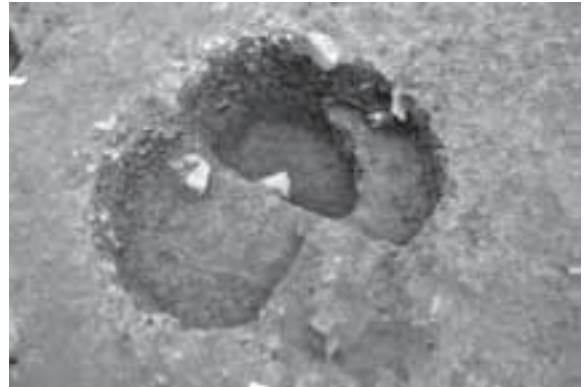
E区の調査風景



E区の西半



SK1の検出状態



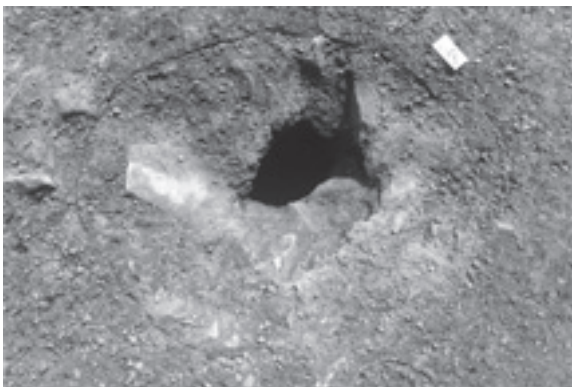
SK1



SK2の半裁状態



SK3の検出状態



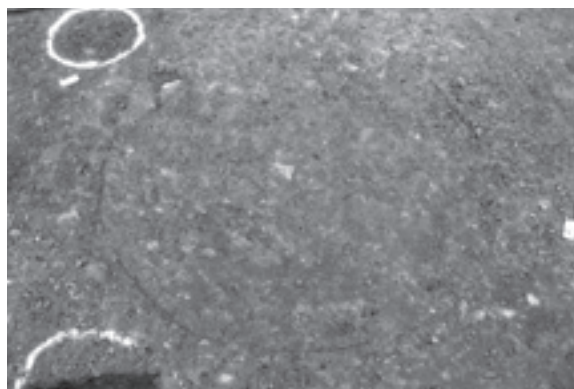
SK4の検出状態



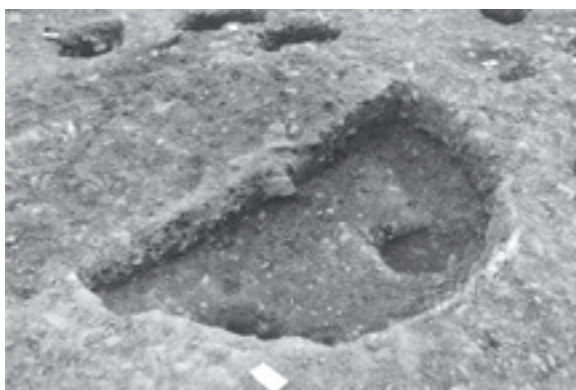
SK5の半裁状態



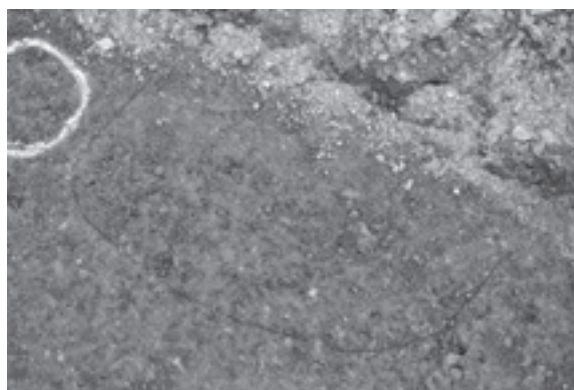
SK6の半裁状態



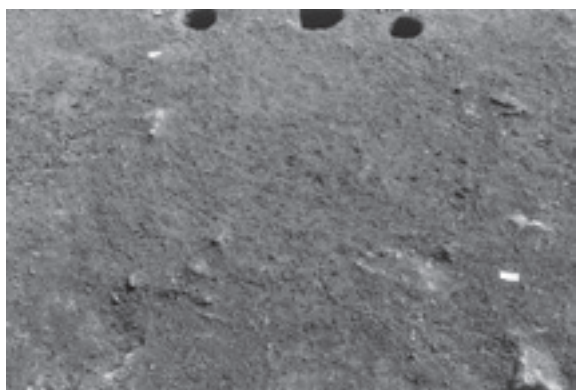
SK7の検出状態



SK7の半裁状態



SK9の検出状態



SK11の検出状態



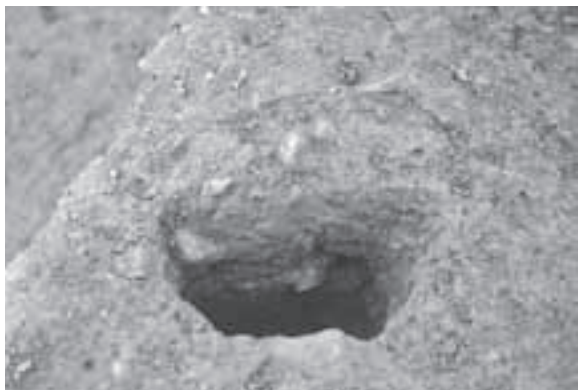
SE1の遺物出土状態 (4)



SE1の半裁状態 (南から)



SE1 (南から)



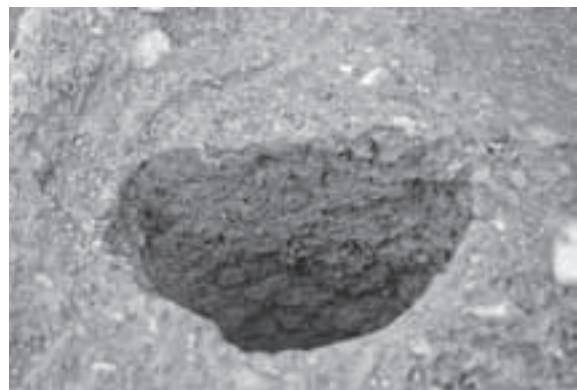
P1の半裁状態



P2の半裁状態



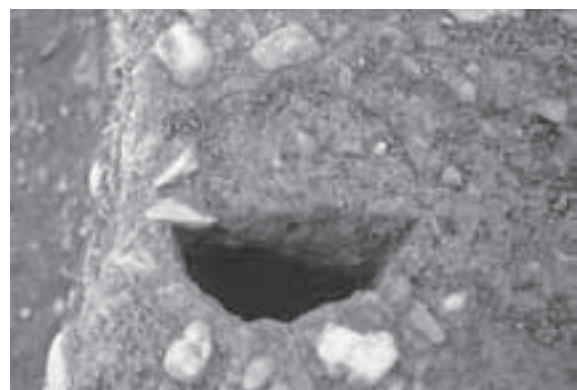
P3の半裁状態



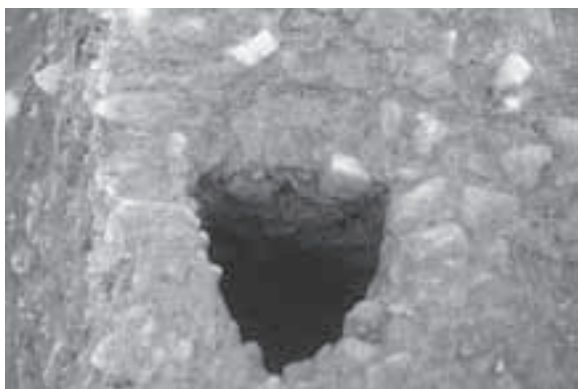
P4の半裁状態



P5の半裁状態



P7の半裁状態



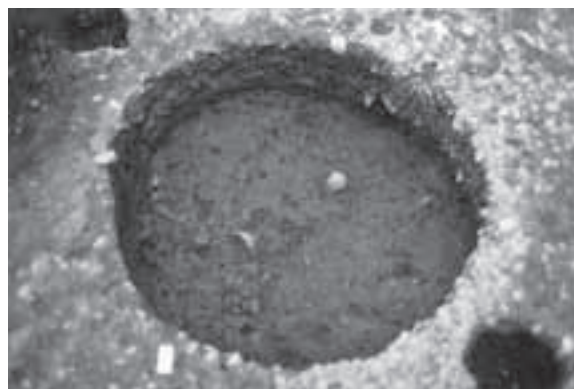
P9の半裁状態



P11, P12, P18の検出状態



P11の半裁状態



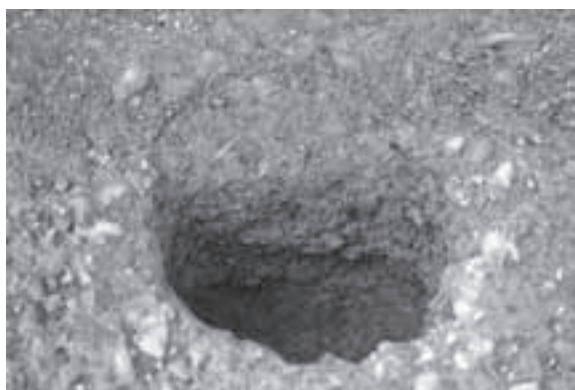
P11



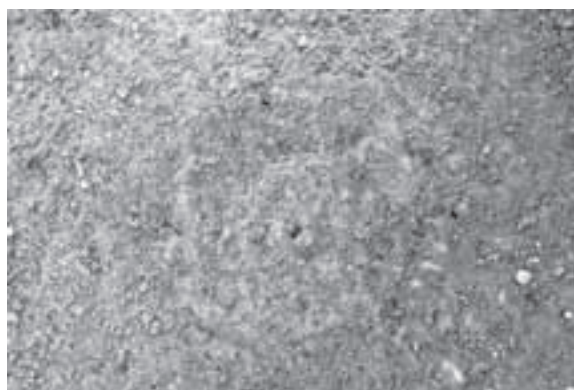
P15の半裁状態



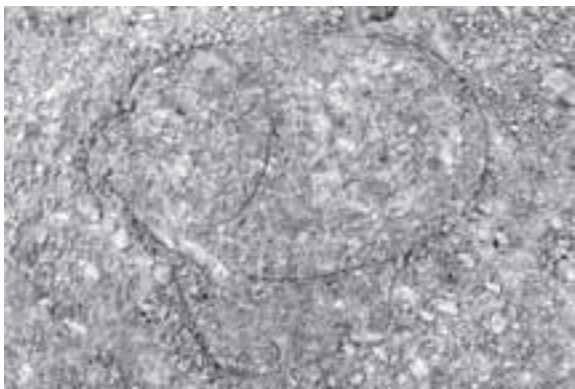
P16の半裁状態



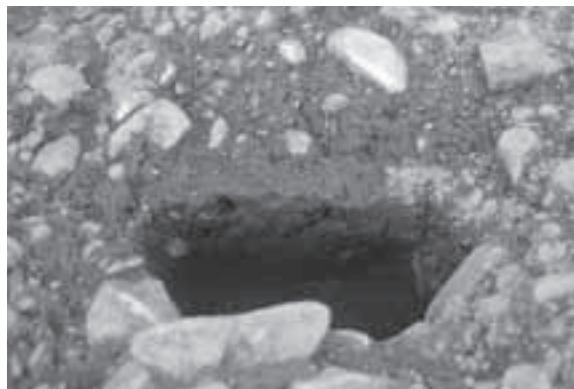
P24の半裁状態



P26の検出状態



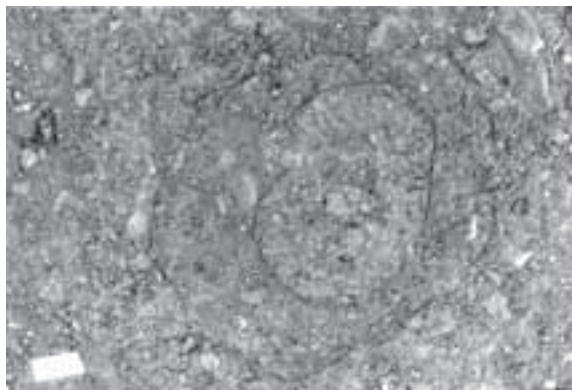
P27の検出状態



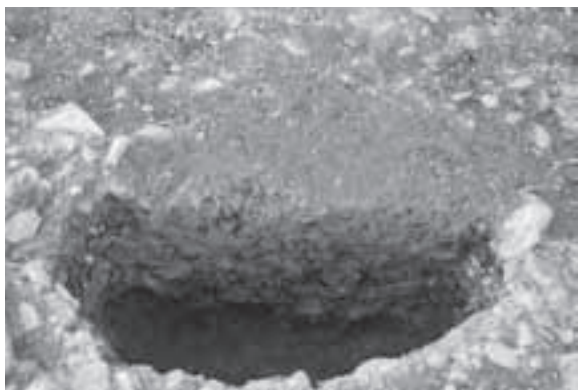
P29の半裁状態



P30の半裁状態



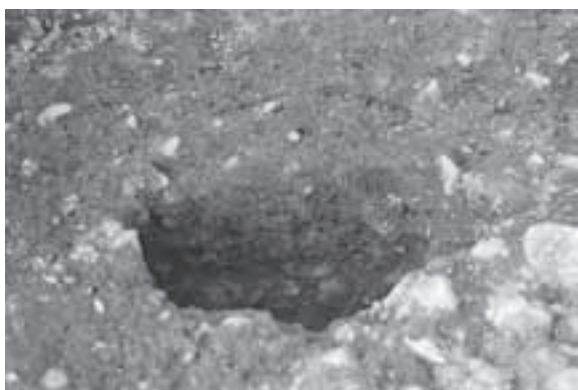
P33の検出状態



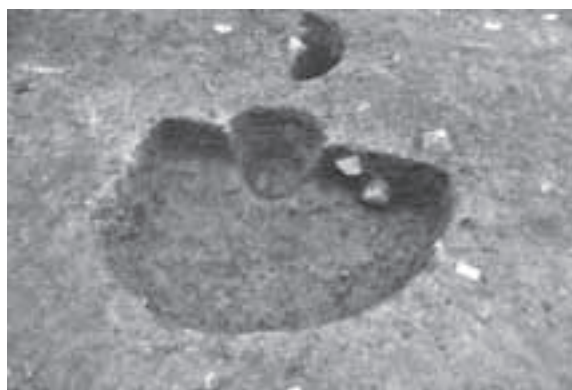
P33の半裁状態



左：P40, 右：P41の検出状態



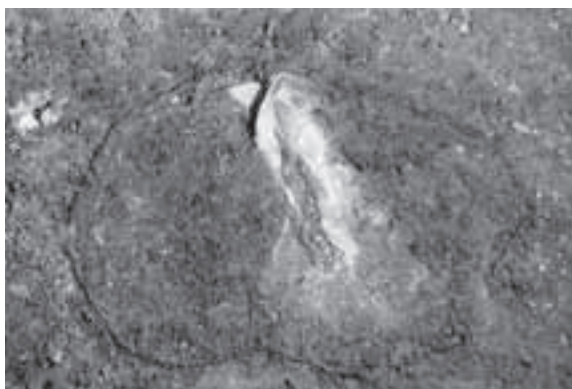
P44の半裁状態



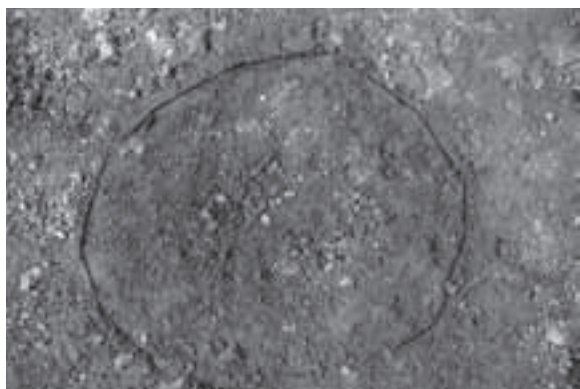
P71



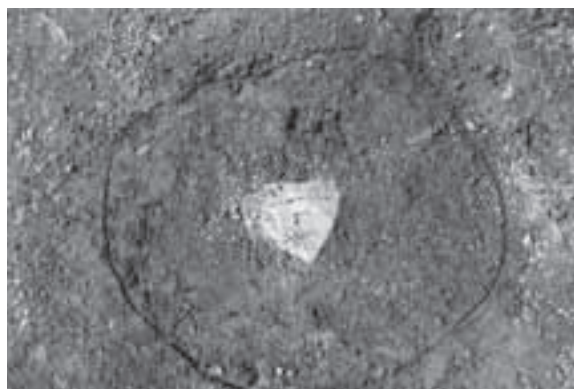
P73の半裁状態



P79の検出状態



P84の検出状態



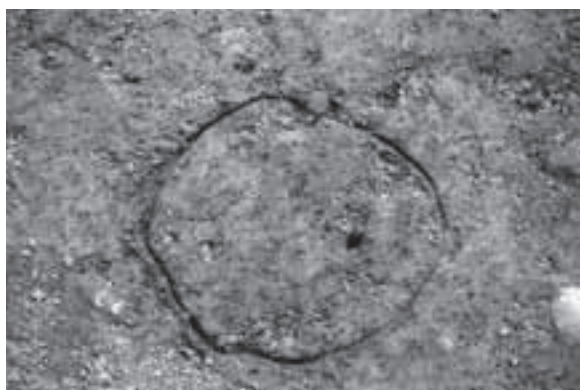
P85の検出状態



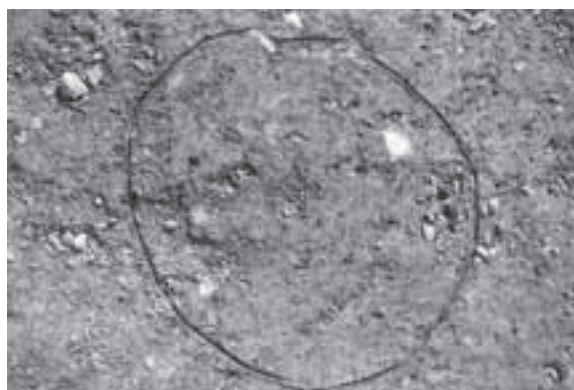
P85の半裁状態



P88の検出状態



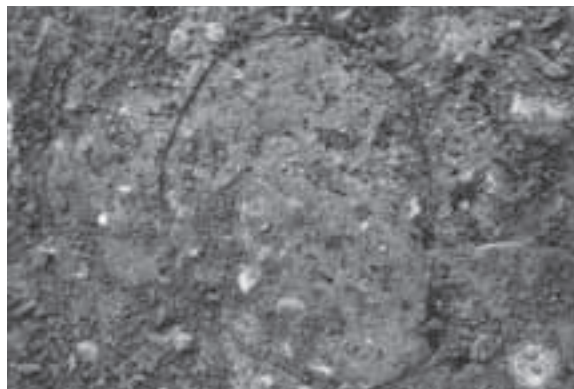
P96の検出状態



P105の検出状態

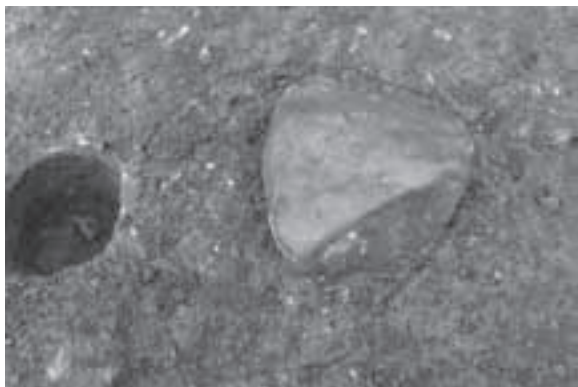


P106の検出状態



P134の検出状態

PL70



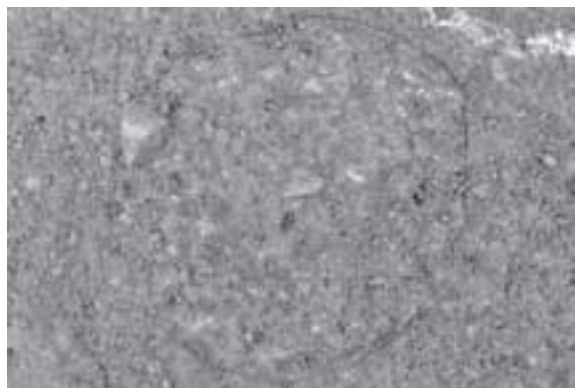
P168の検出状態



P168の出土状態



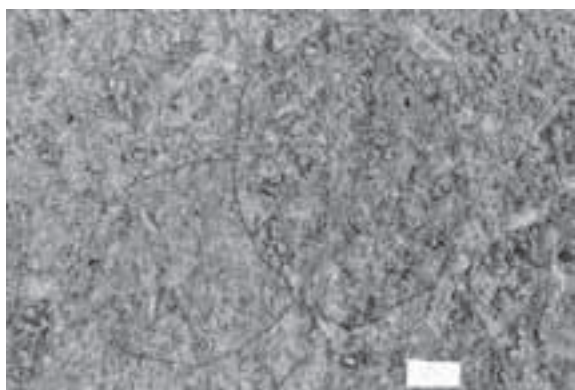
P173の半裁状態



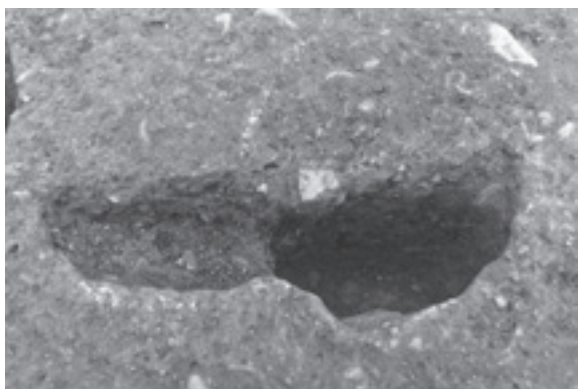
P177の検出状態



P177の半裁状態



左；P179， 右；P180の検出状態



左；P179， 右；P180の半裁状態



P181の半裁状態



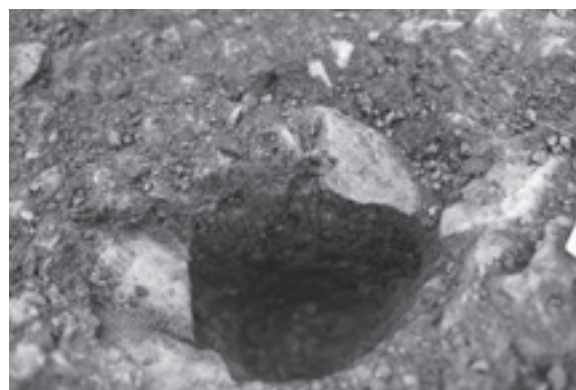
P202の半裁状態



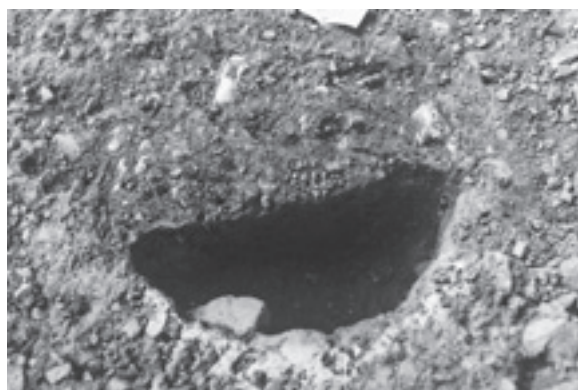
P210の遺物出土状態



P211の検出状態



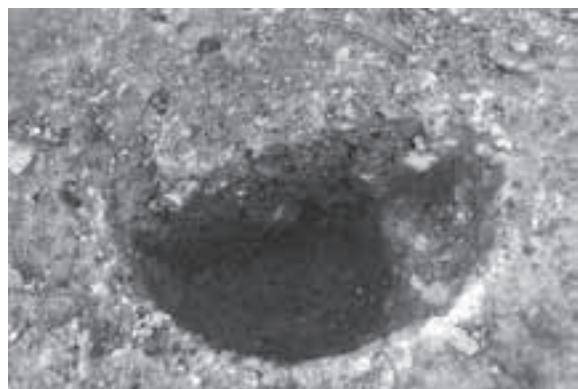
P246の半裁状態



P252の半裁状態



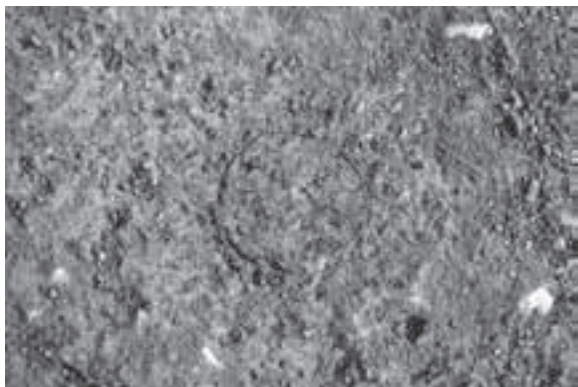
P256の半裁状態



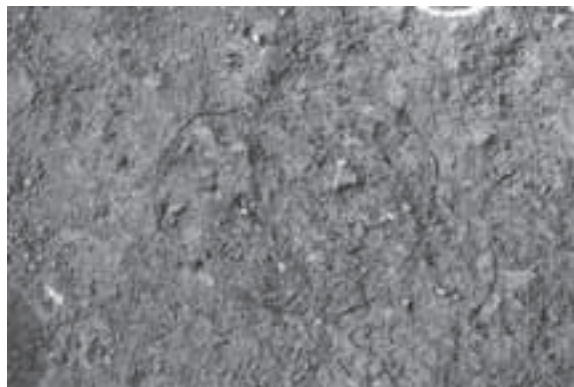
P257の半裁状態



P267の半裁状態



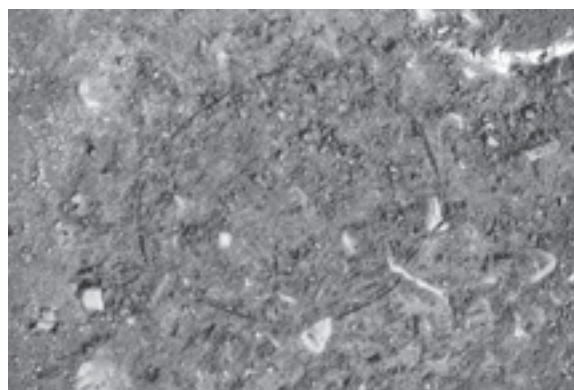
P269の検出状態



P270の検出状態



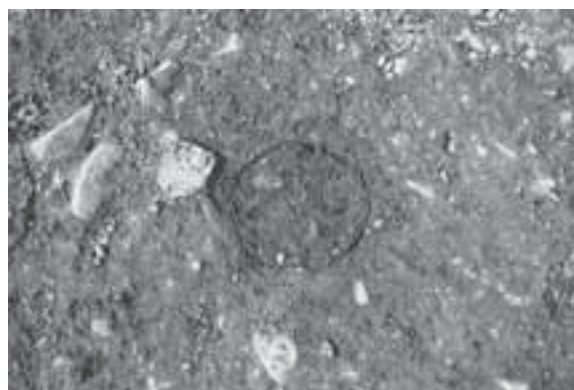
P272の検出状態



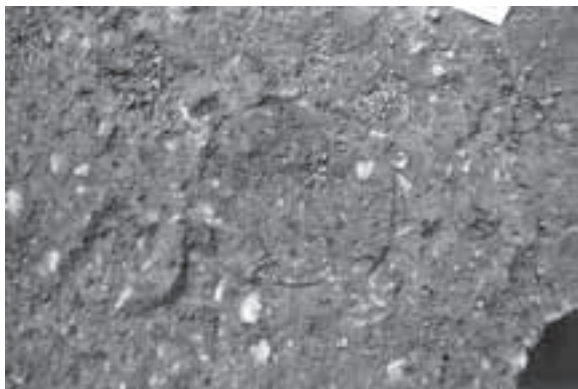
P274の検出状態



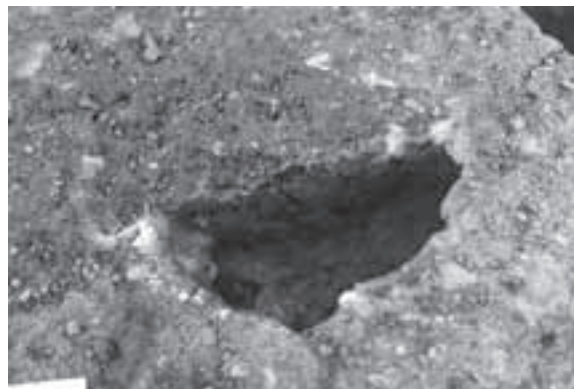
P275の遺物出土状態 (24)



P283の検出状態



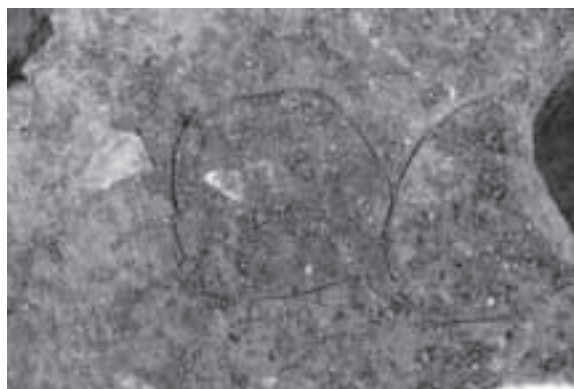
P285の検出状態



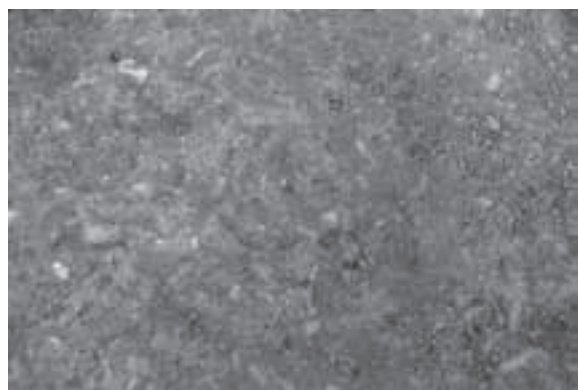
P285の半裁状態



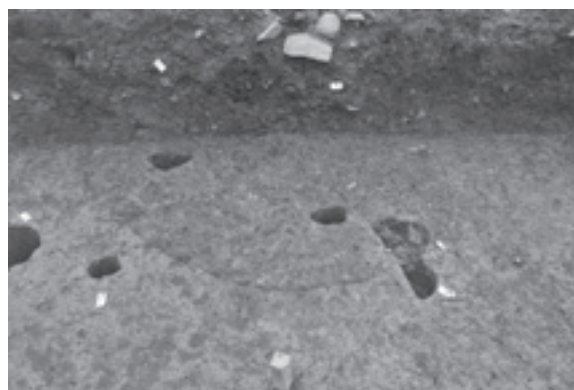
P287の検出状態



P307の検出状態



P312の検出状態



P313の検出状態



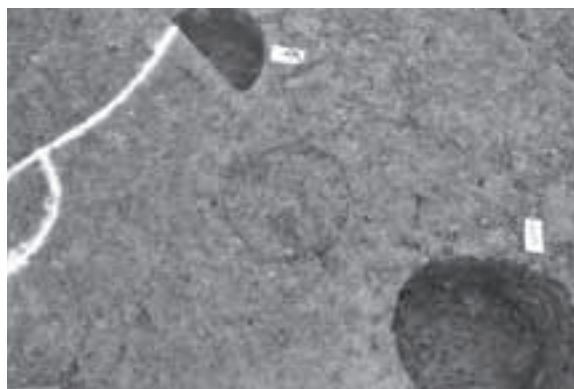
P313の遺物出土状態 (25)



P313



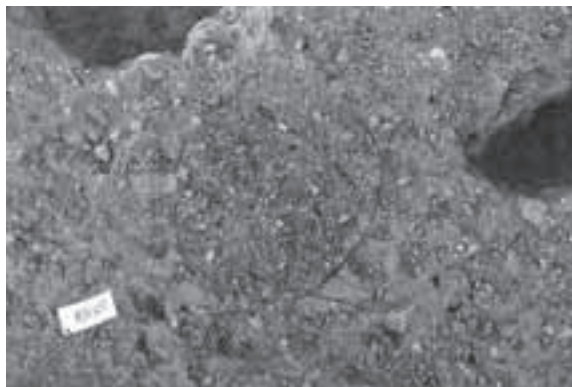
P314の半裁状態



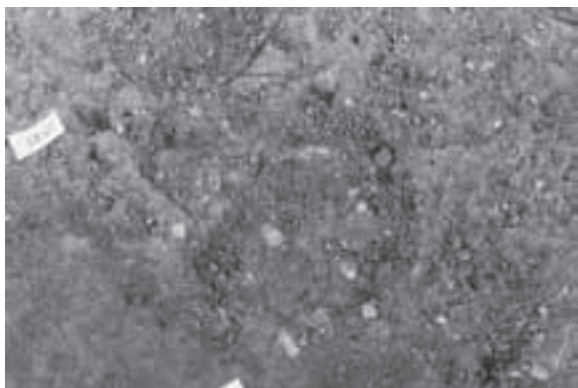
P315の検出状態



P316の半裁状態



P322の検出状態



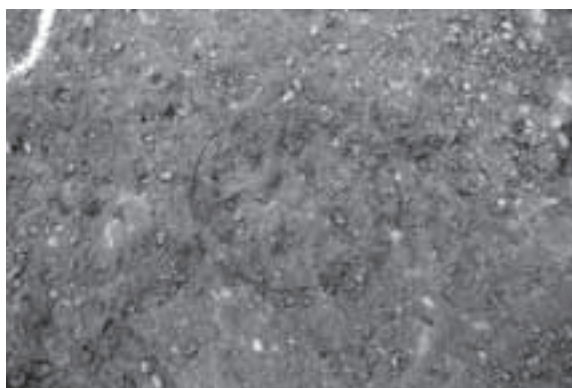
P323の検出状態



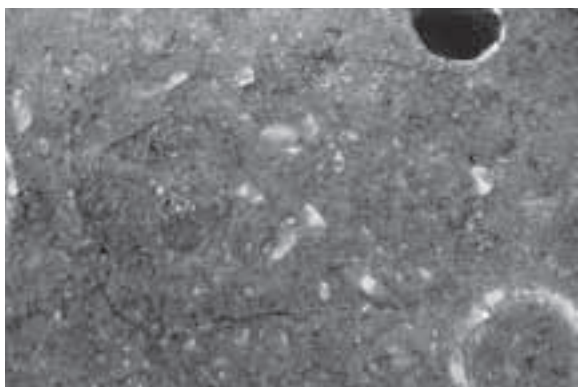
P326の半裁状態



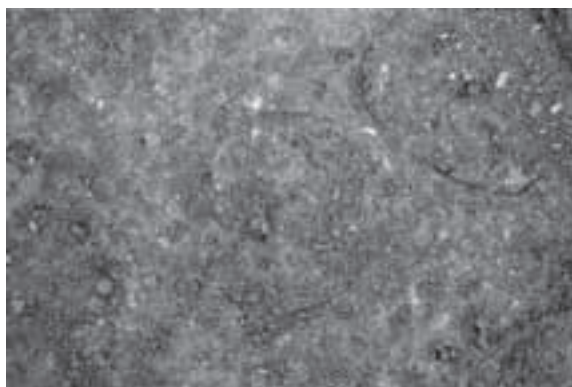
P327の半裁状態



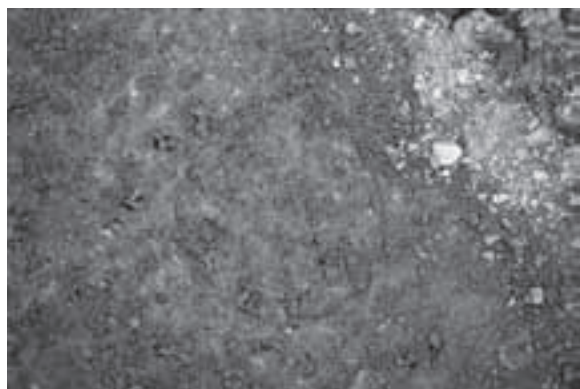
P328の検出状態



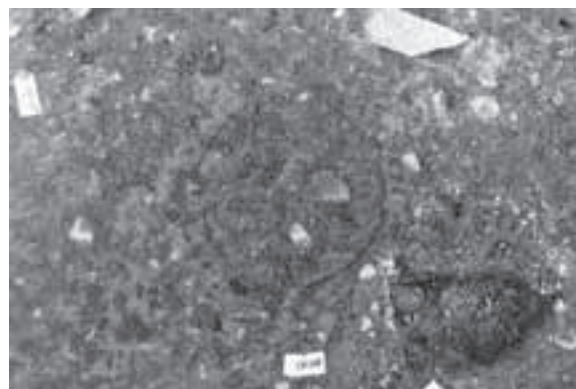
P329の検出状態



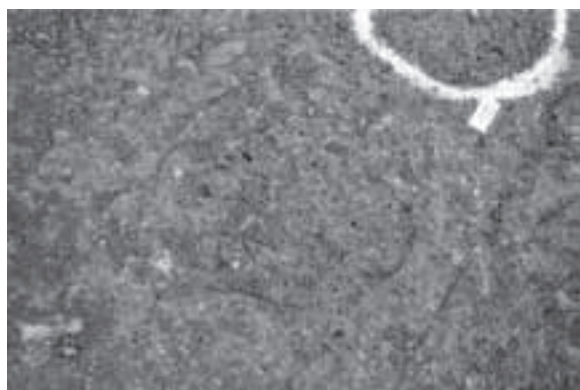
P331の検出状態



P332の検出状態



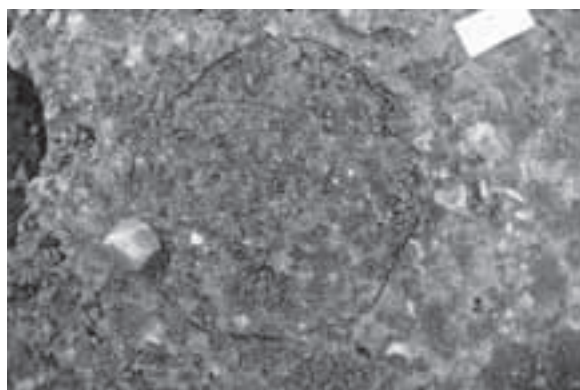
P333の検出状態



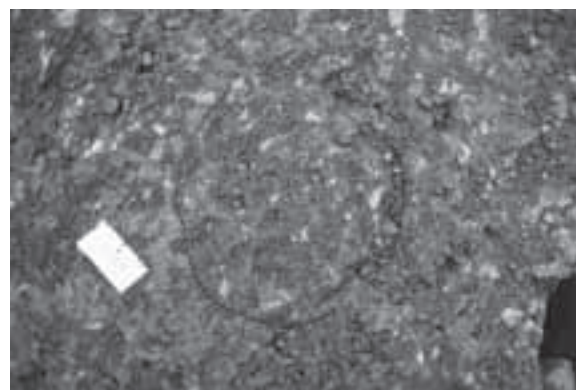
P336の検出状態



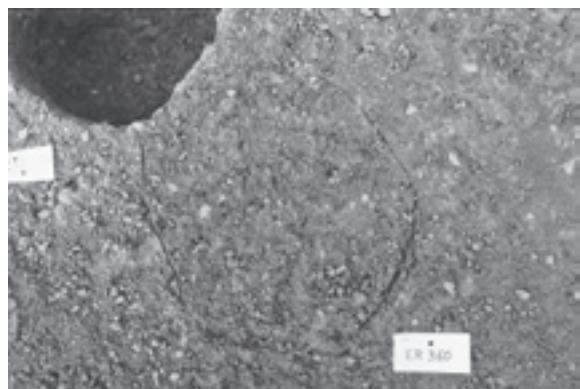
P339の検出状態



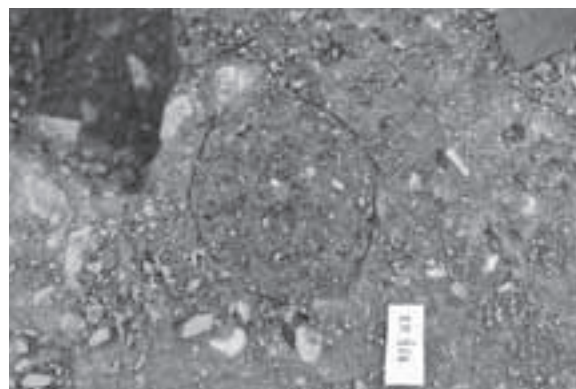
P351の検出状態



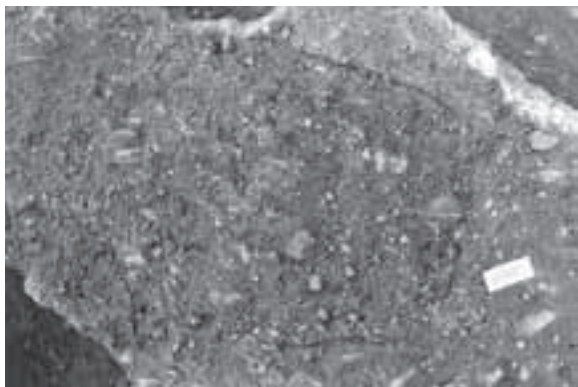
P352の検出状態



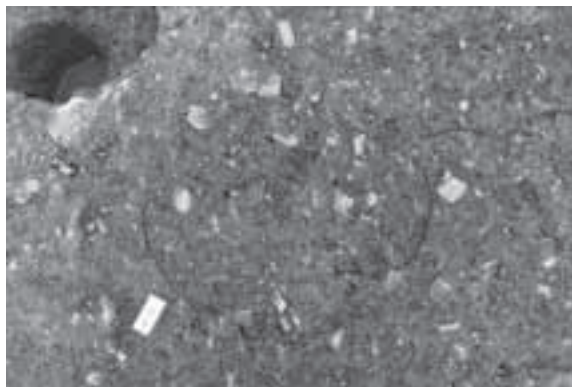
P353の検出状態



P357の検出状態



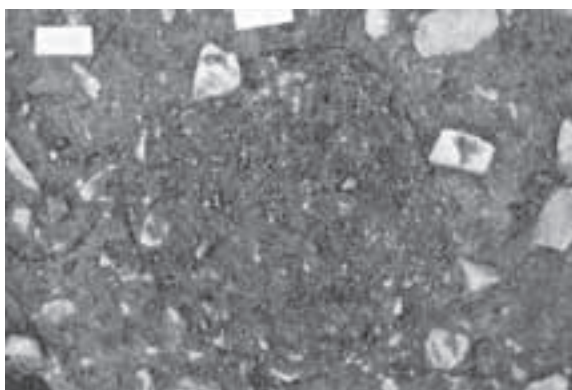
P358の検出状態



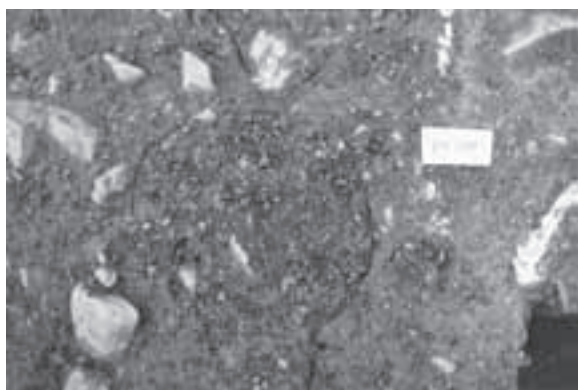
P359の検出状態



P359の半裁状態



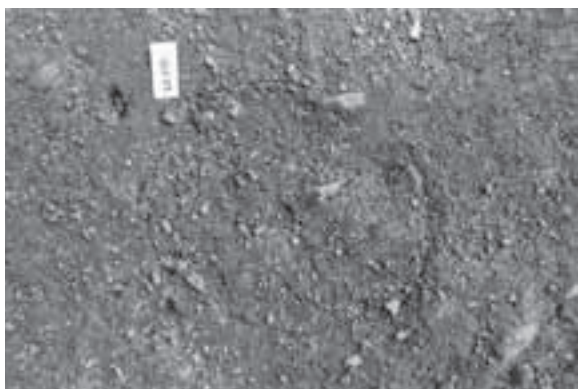
P362の検出状態



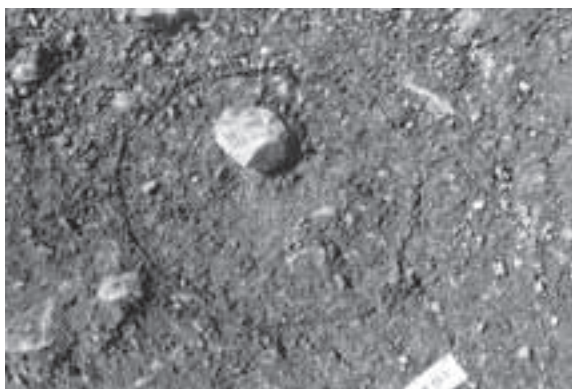
P363の検出状態



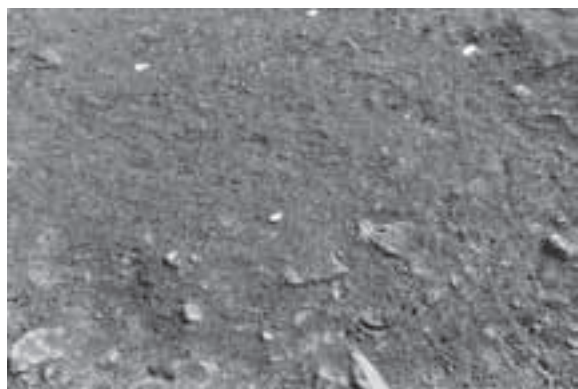
P368の遺物出土状態



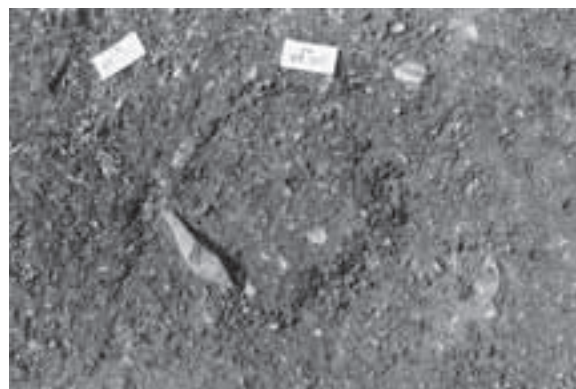
P371の検出状態



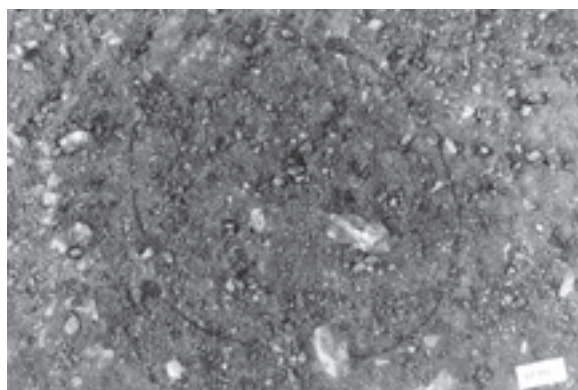
P374の検出状態



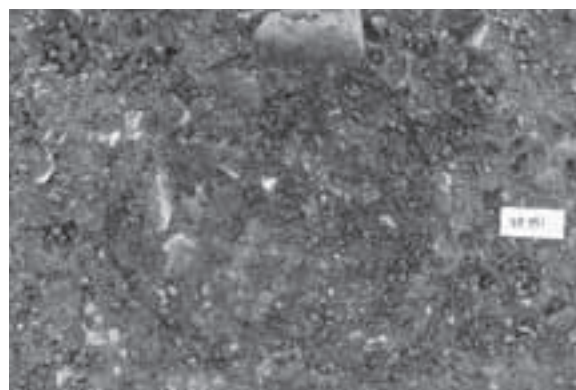
P375の検出状態



P378の検出状態



P381の検出状態



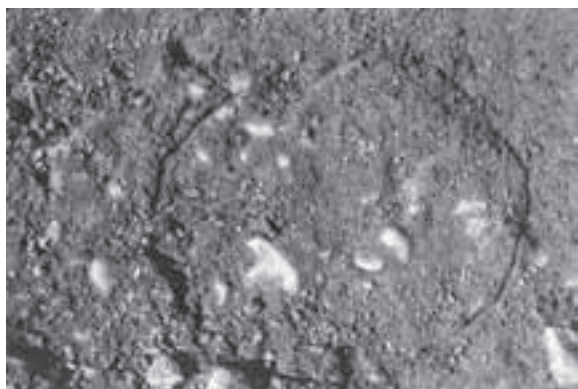
P382の検出状態



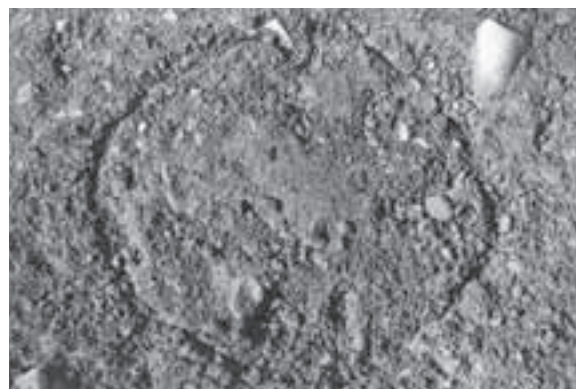
P385の検出状態



P386の検出状態



P388の検出状態



P389 の検出状態

PL78



出土遺物 1 (C区)



PL80



出土遺物 3 (C区)



PL82



出土遺物 5 (C区)



出土遺物 6 (C区)

PL84



出土遺物 7 (C区)



出土遺物 8 (C区・D区)









PL90



出土遺物 13 (D区)



558 (柱1)



559 (柱2)

PL92



560 (柱3)



561 (柱4)

出土遺物 15 (D区 SE1)



564 (縦板1面-2)



565 (縦板1面-3)



574 (縦板3面-2)



575 (縦板3面-3)



575 (縦板3面-3)

出土遺物 16 (D区 SE1)



573 (縦板3面-1)



573 (縦板3面-1)



578 (縦板4面-1)

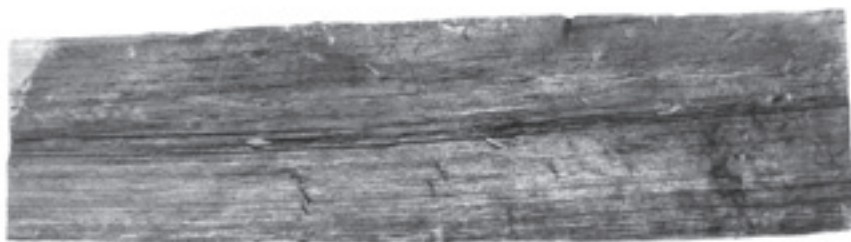


580 (縦板4面-3)

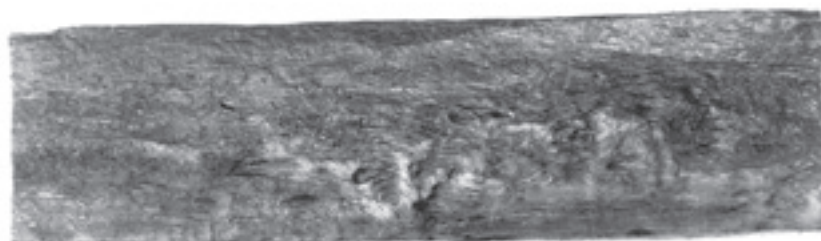


580 (縦板4面-3)

出土遺物 17 (D区 SE1)



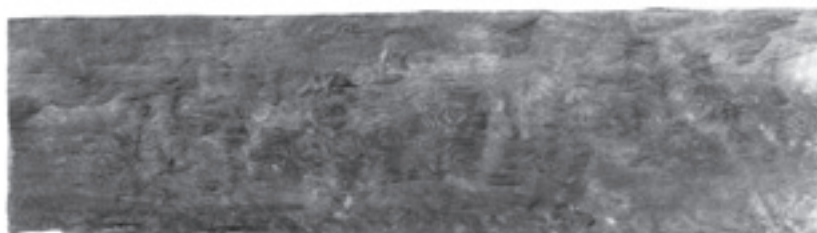
562 (横板1面)



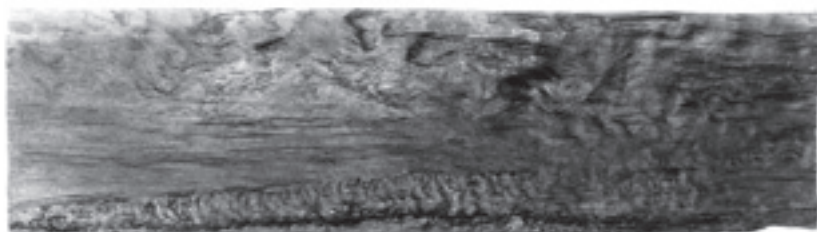
567 (横板2面)



572 (横板3面)



577 (横板4面)



577 (横板4面)

出土遺物 18 (D区 SE1)

PL96



566 (横棧)



571 (横棧)



576 (横棧)



581 (横棧)



583 (横棧)



585 (横棧)



586 (横棧)

出土遺物 19 (D区 SE1)



582 (横棧)



589 (横棧)



588 (横棧)



587 (横棧)



584 (縦板)



537



539



540



543



542



547



548



550



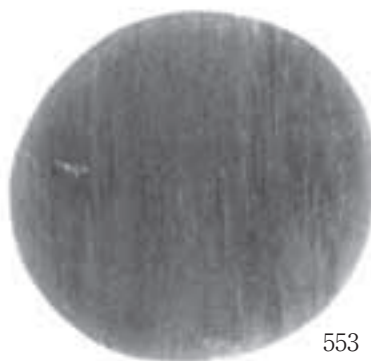
549



551



552



553



554



555



556

出土遺物 22 (D区)

PL100



D 545



D 546



D 557



B 174

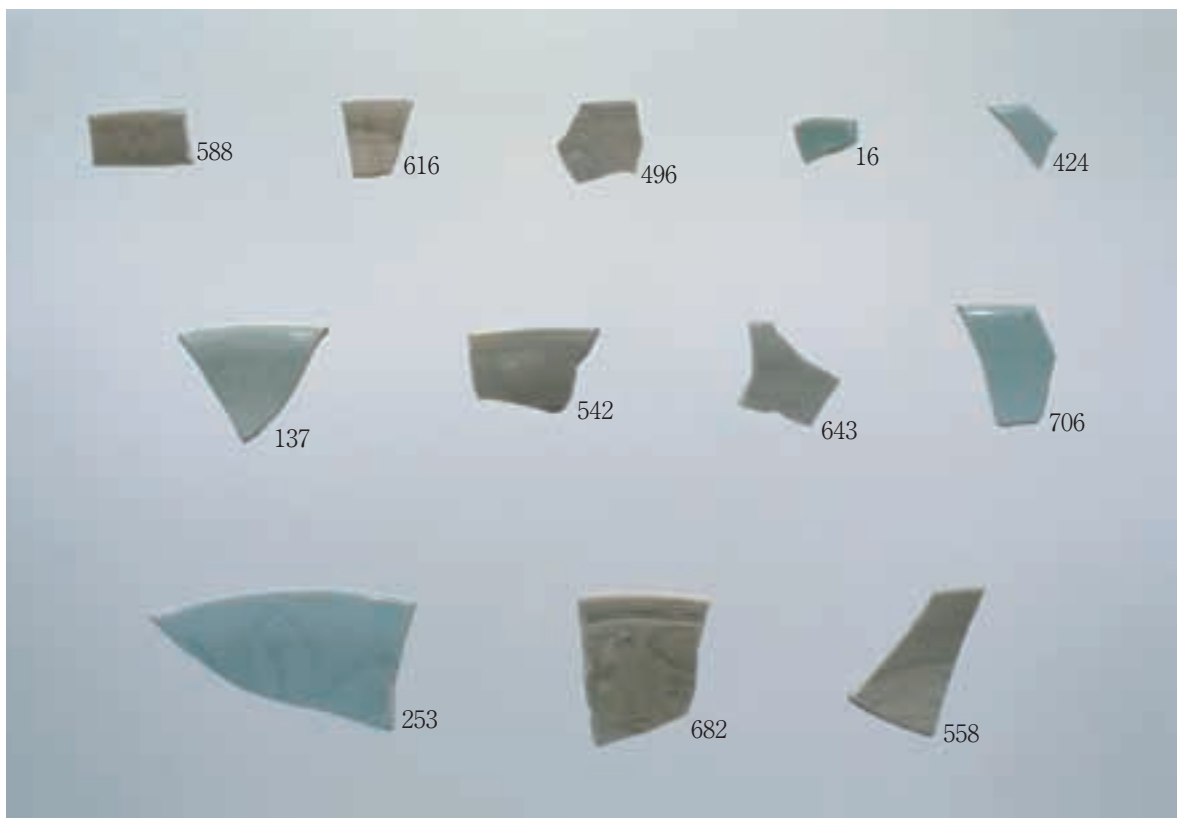
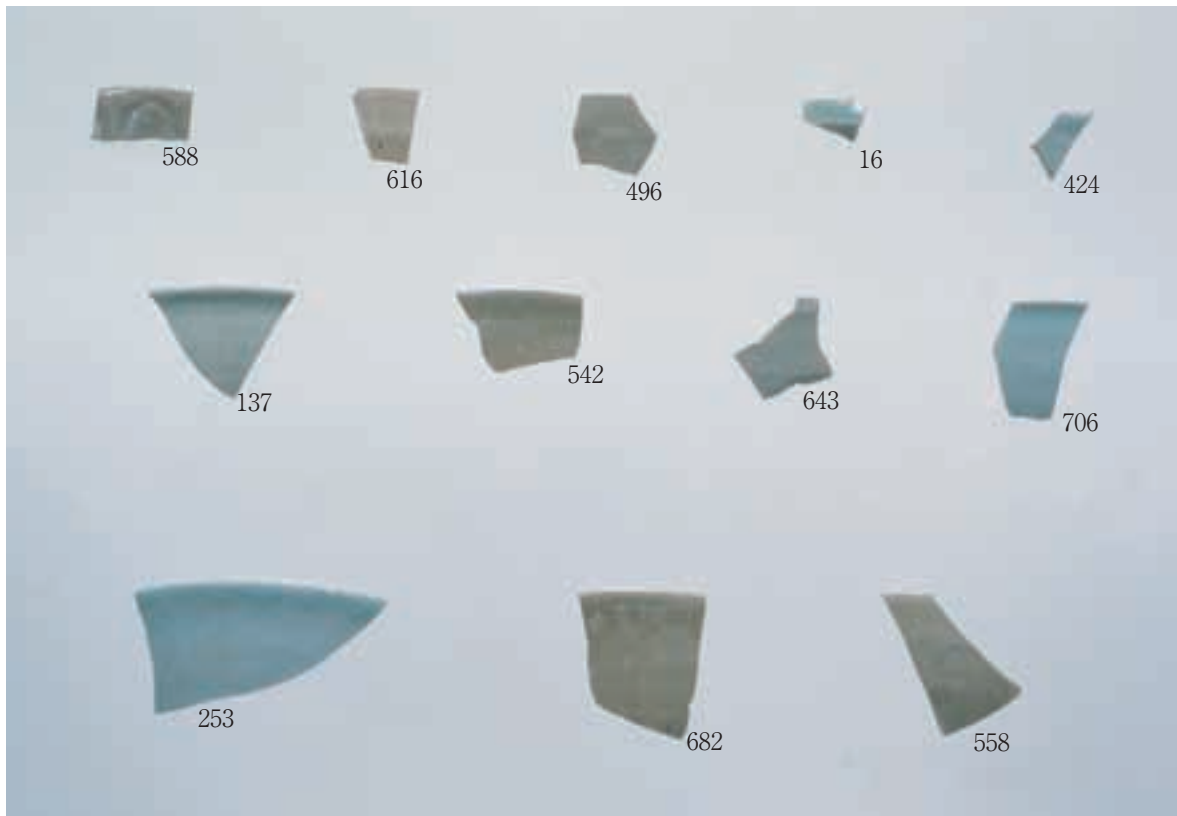


D 区SE1から出土した曲物 (M)



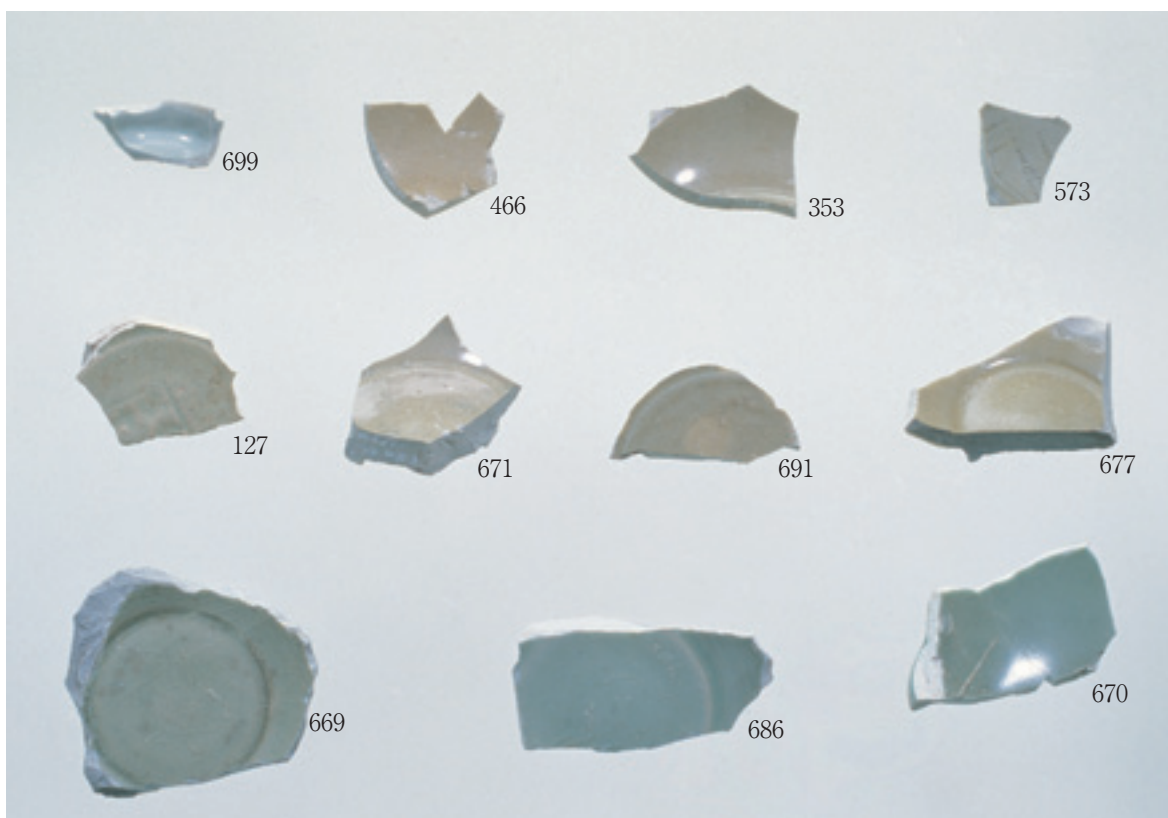
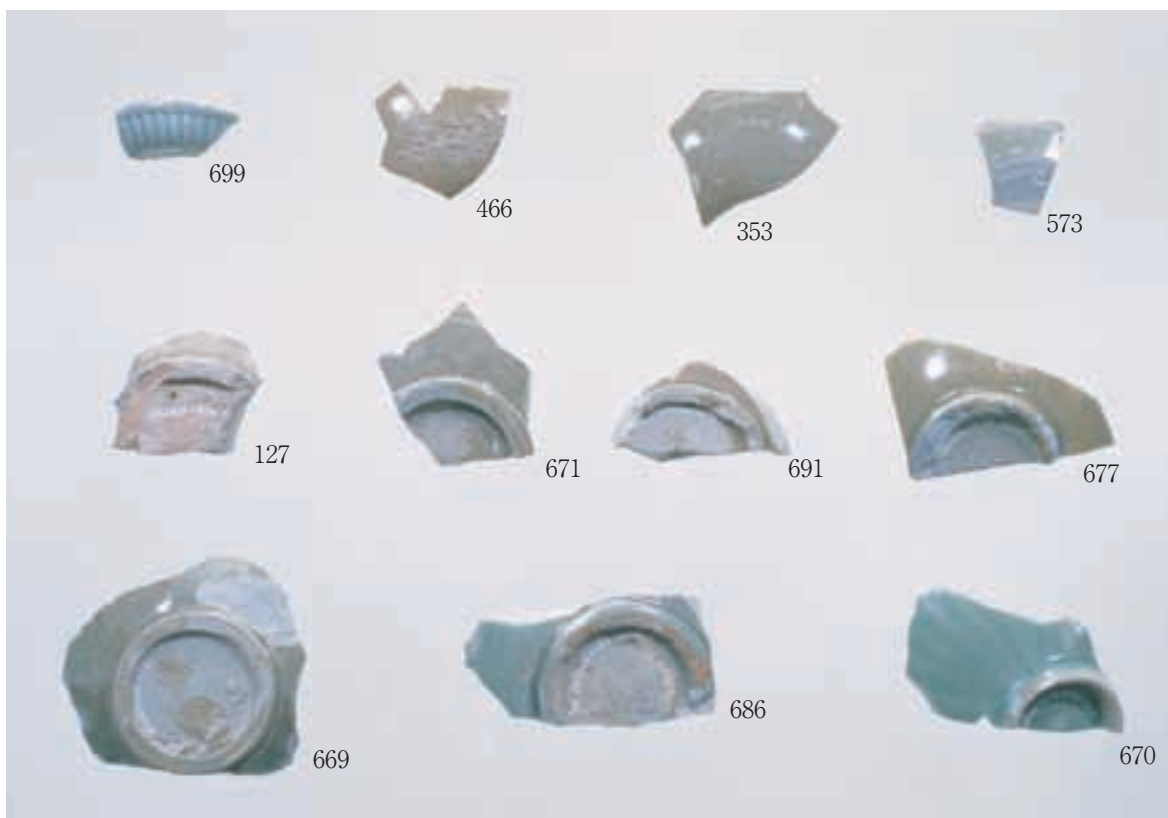
B 176

出土遺物 23 (D区・B区)



出土遺物24 (C区)

PL102



出土遺物25 (C区)

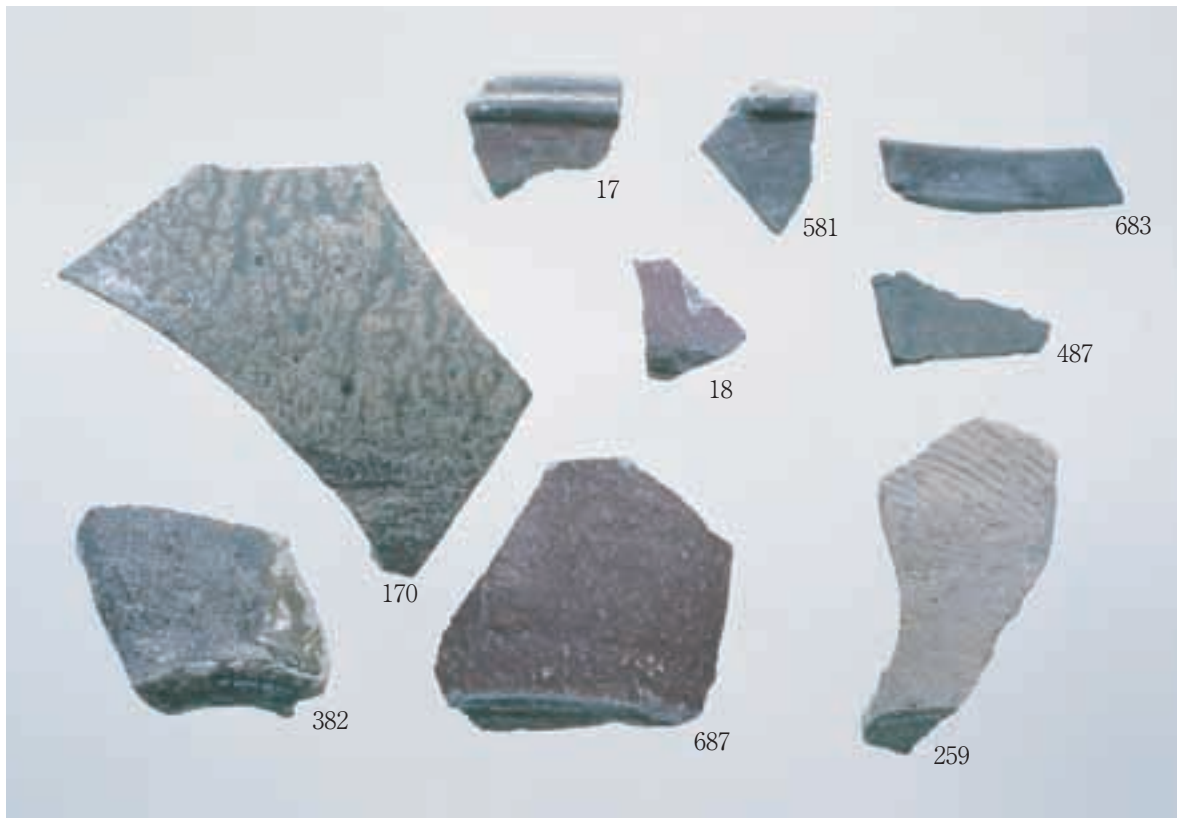


出土遺物26 (C区)

PL104

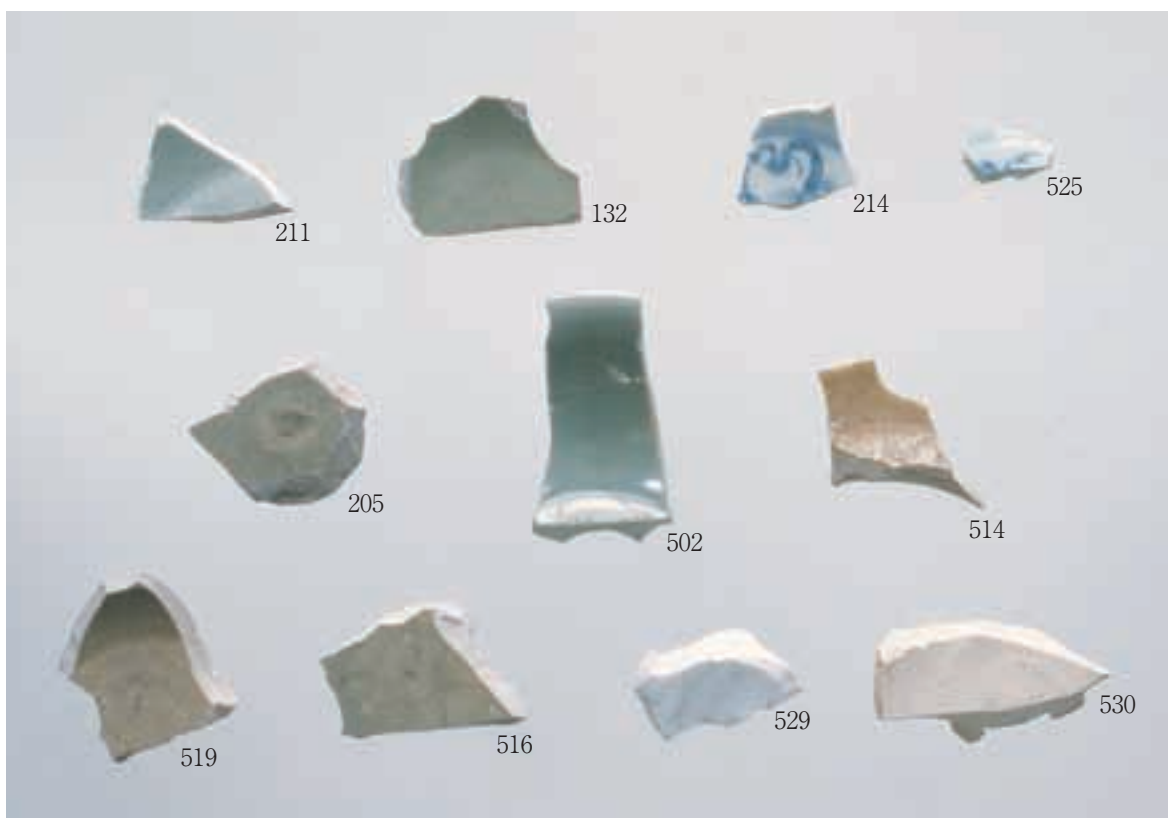
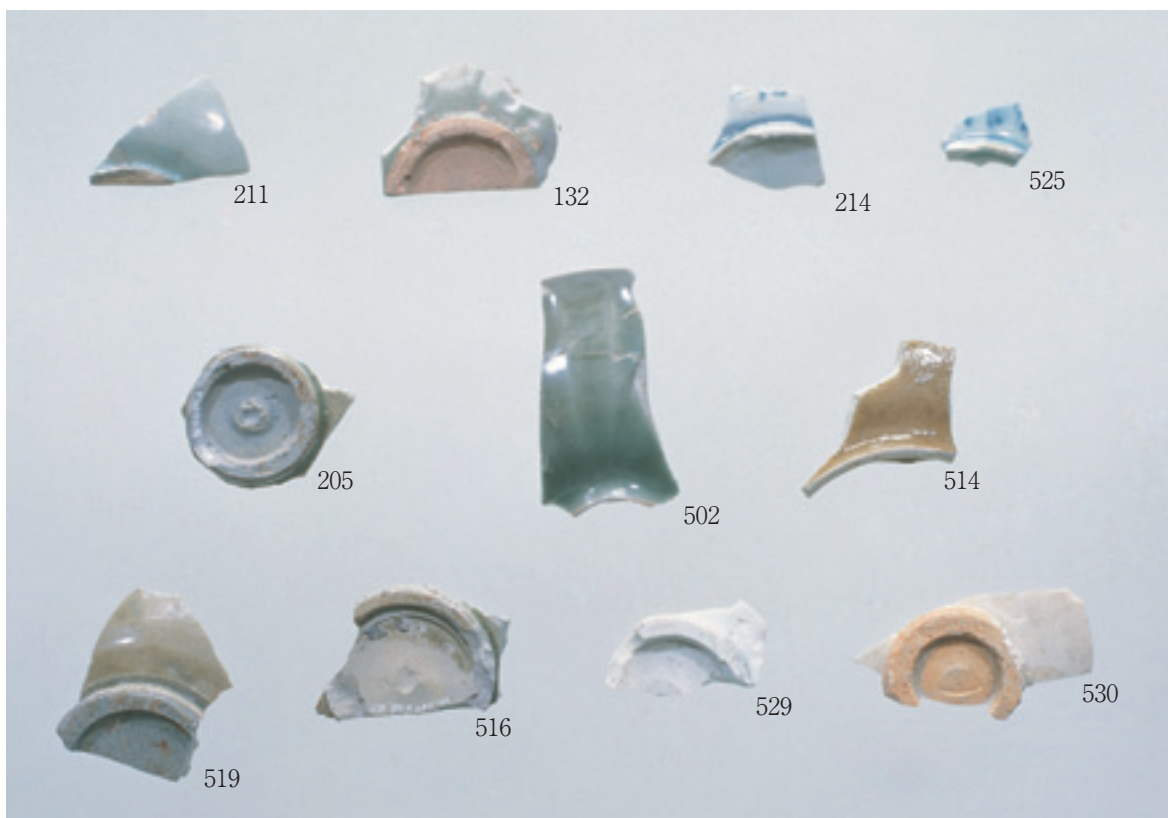


出土遺物27 (C区)

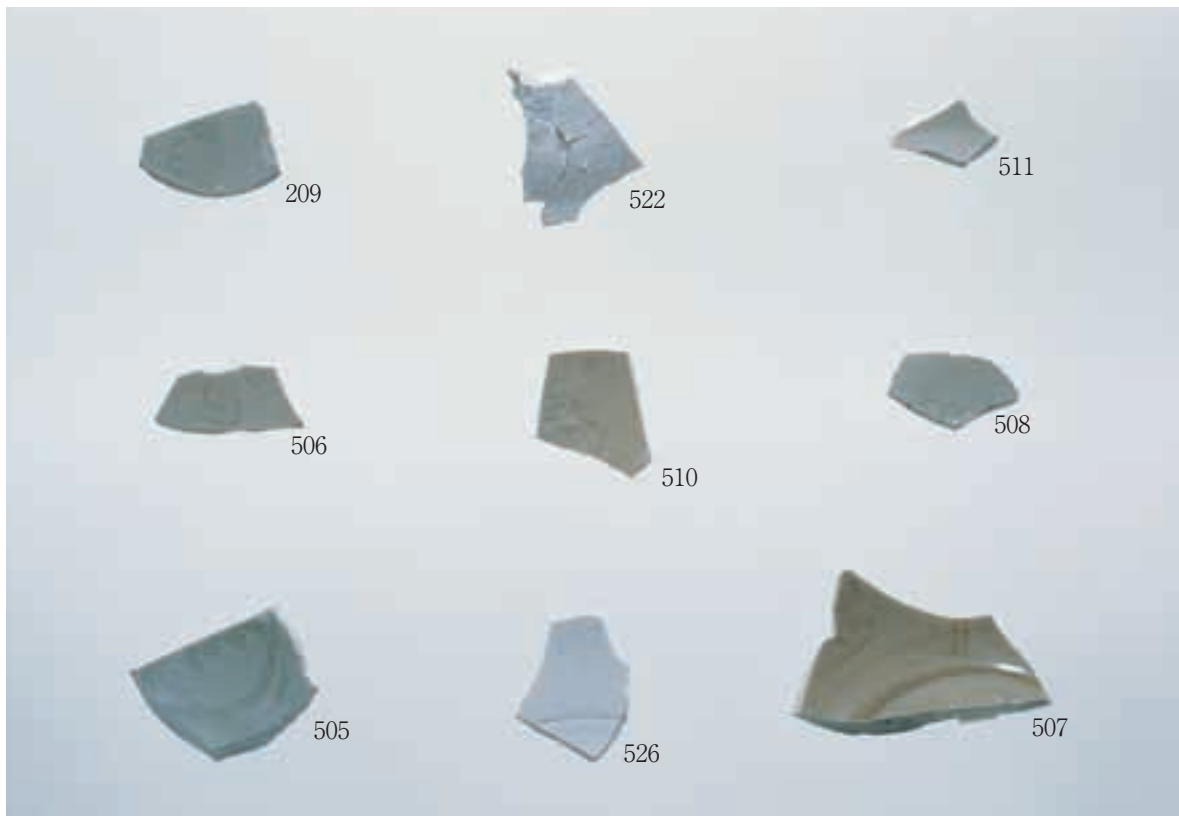
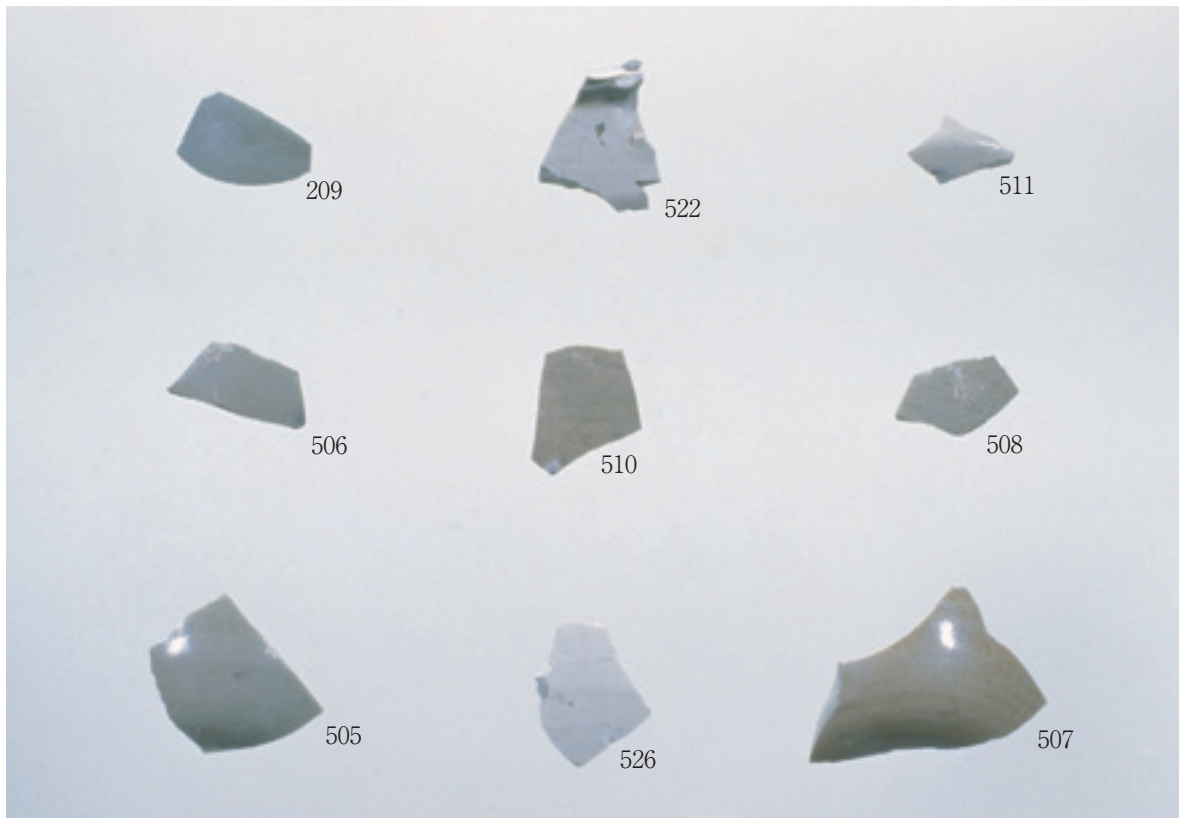


出土遺物28 (C区)

PL106

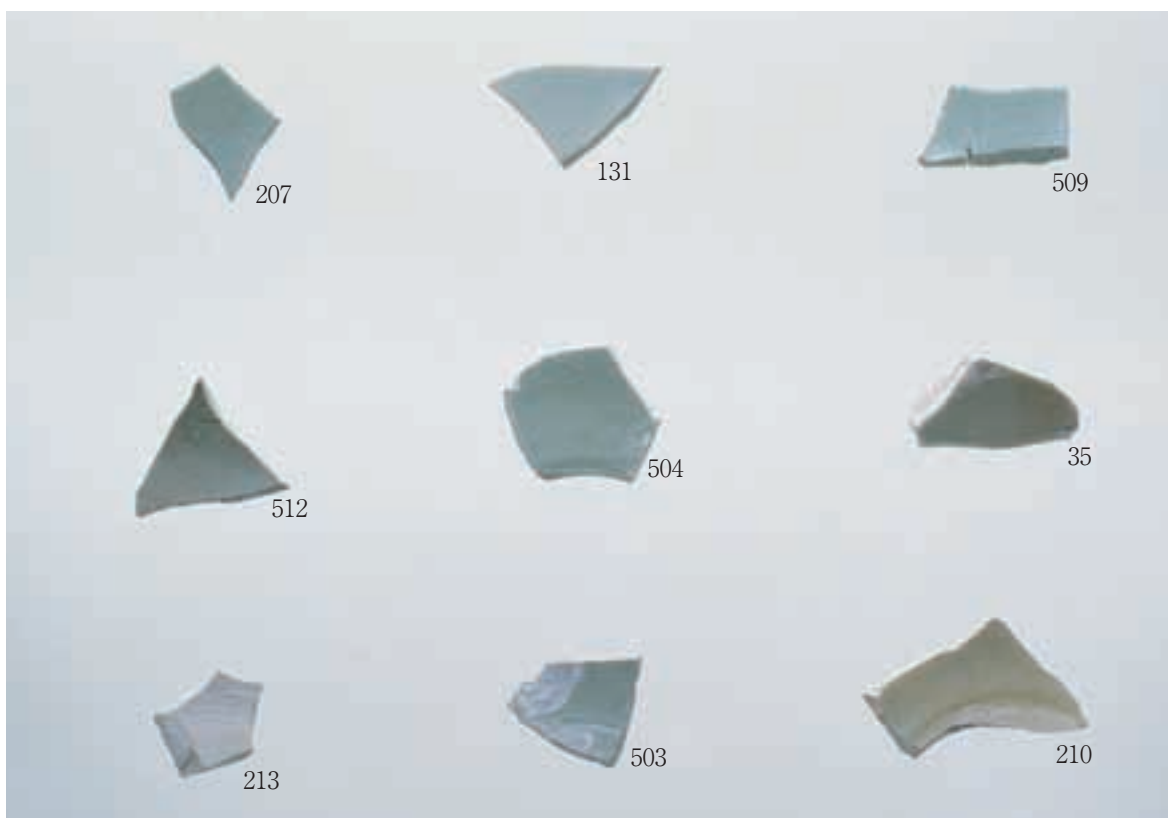
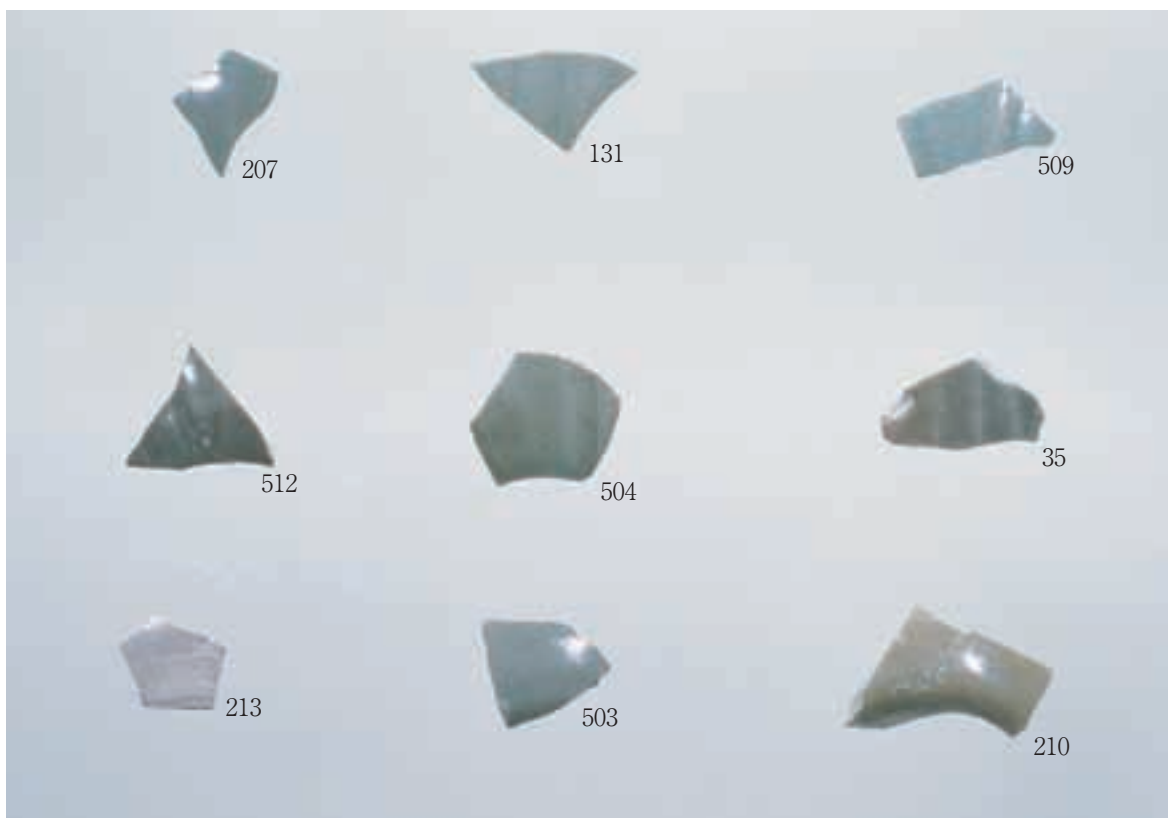


出土遺物29 (D区)

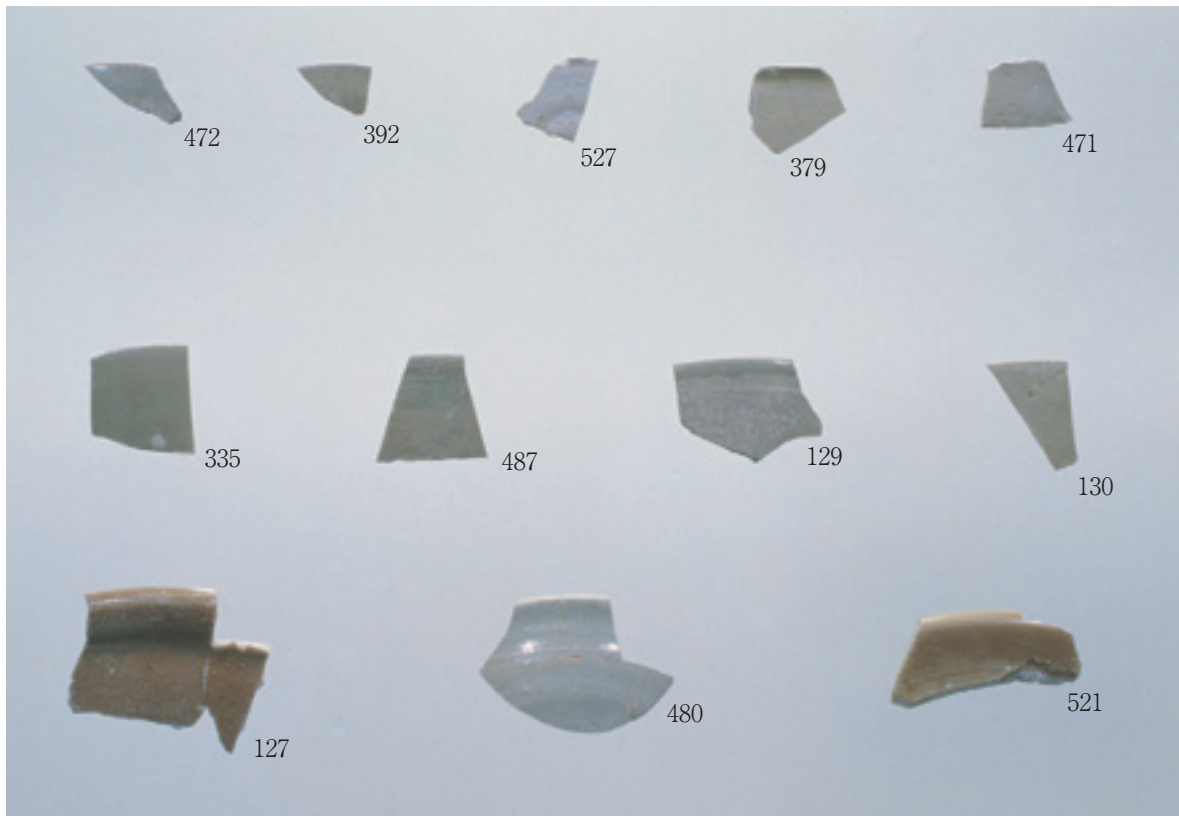


出土遺物30 (D区)

PL108

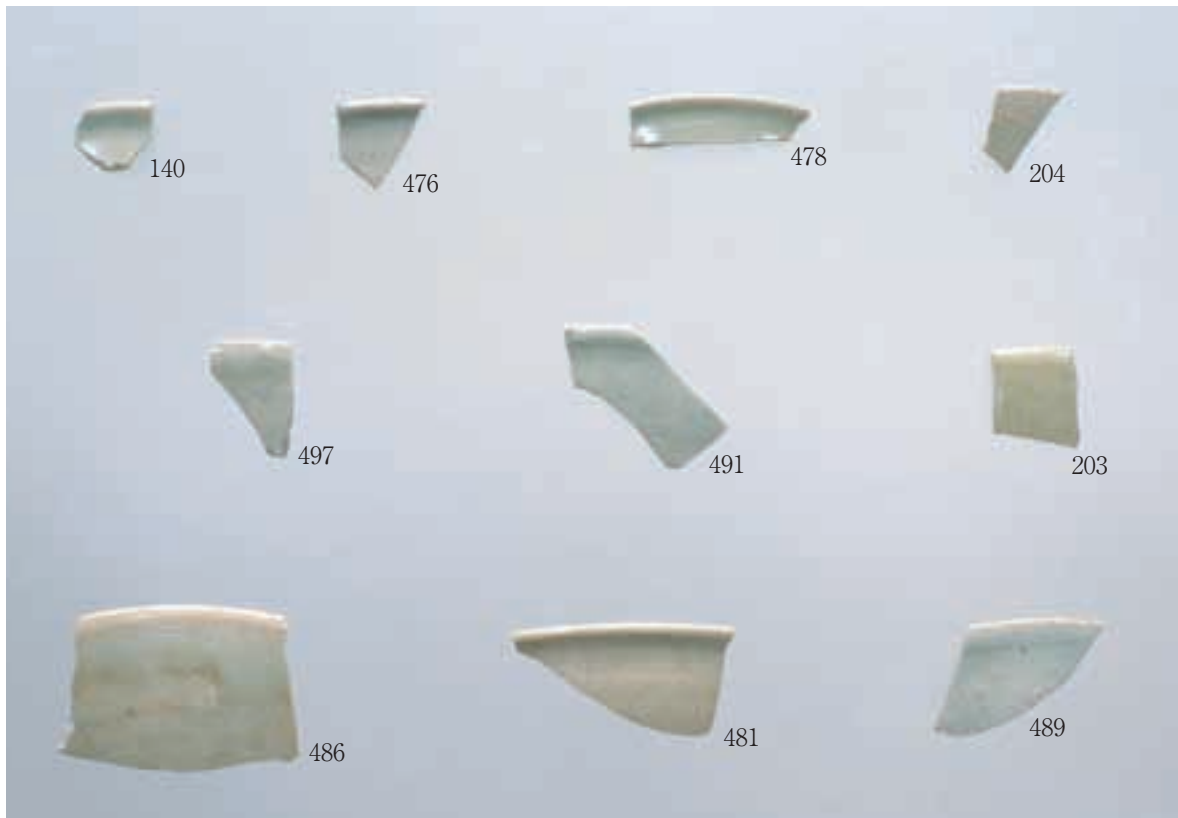


出土遺物31 (D区)

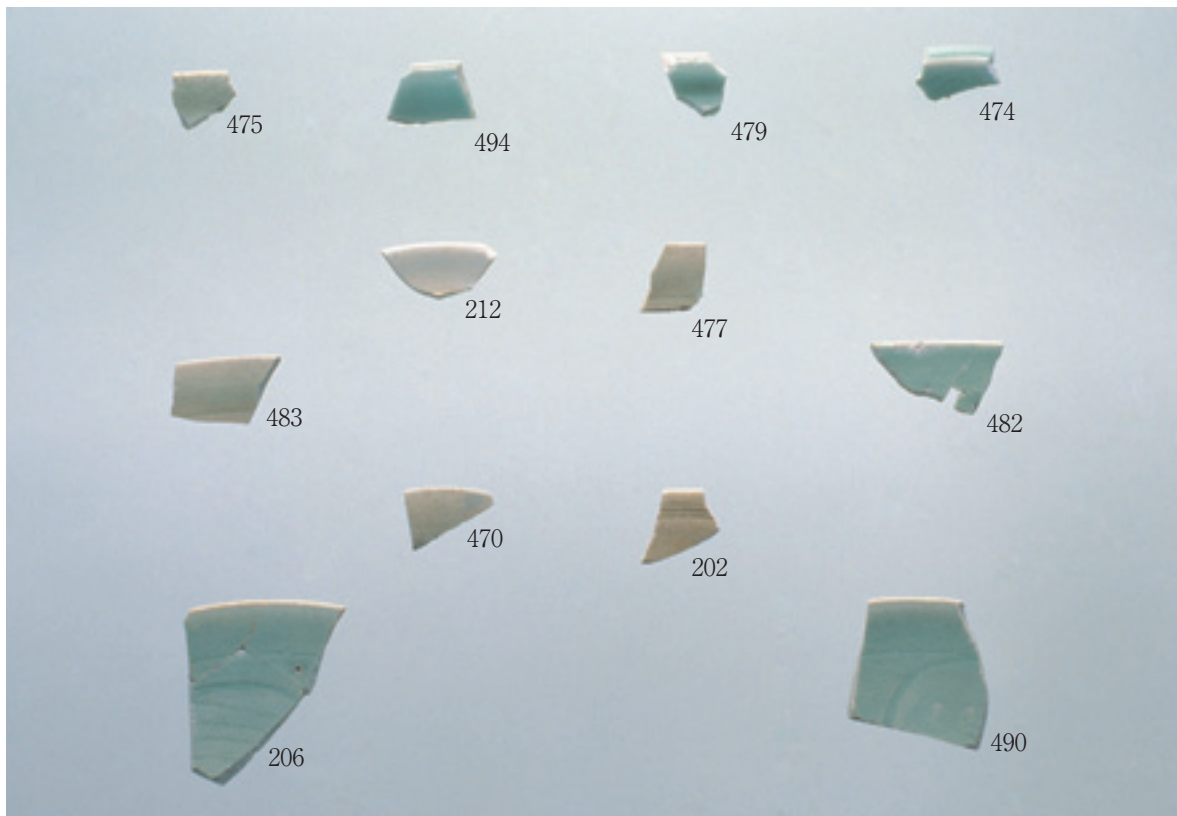
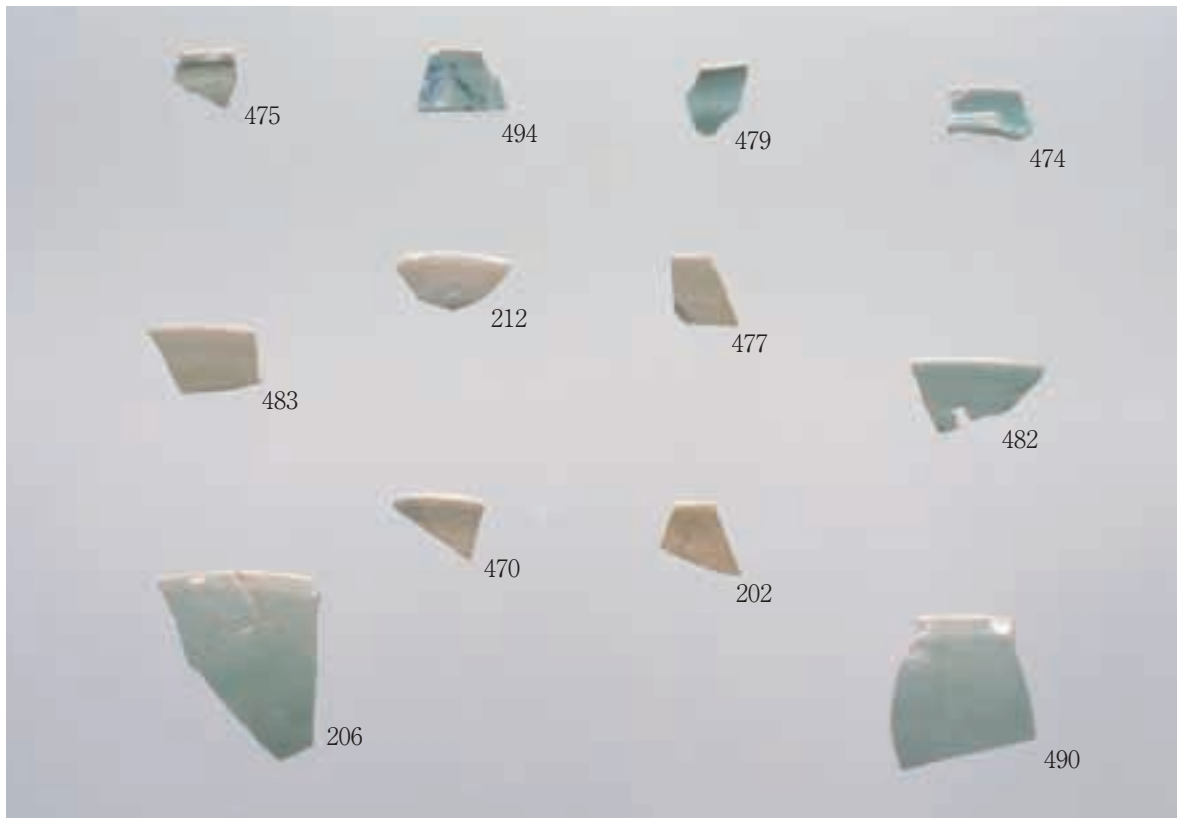


出土遺物32 (D区)

PL110



出土遺物33 (D区)

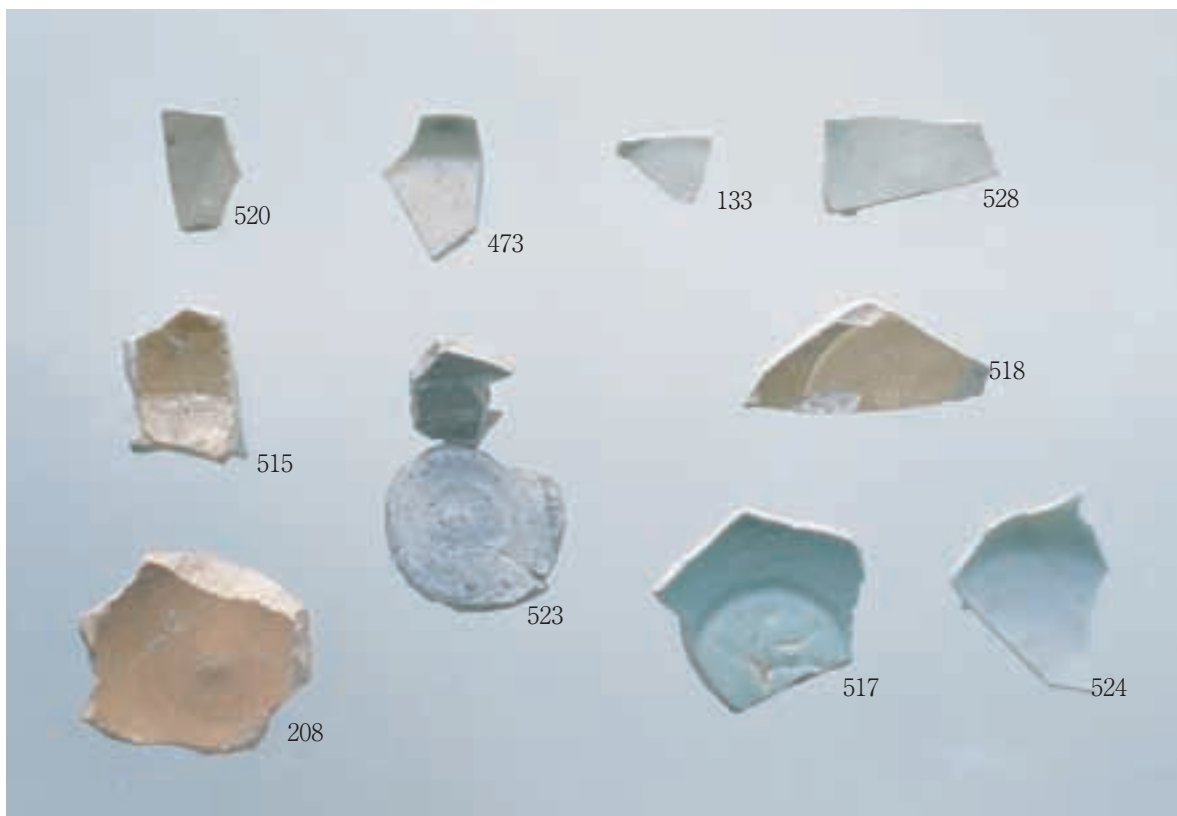


出土遺物34 (D区)

PL112

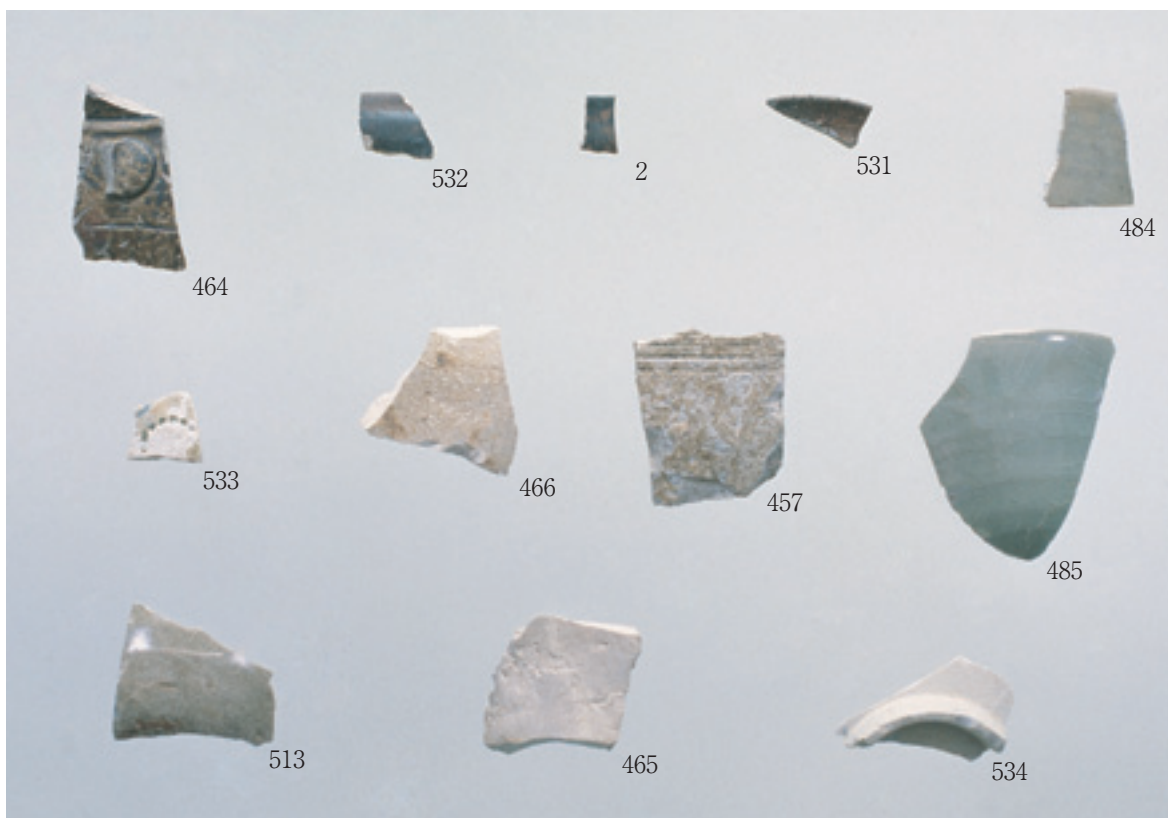


出土遺物35 (D区)



出土遺物36 (D区)

PL114



出土遺物37 (D区)



出土遺物38 (D区)

PL116

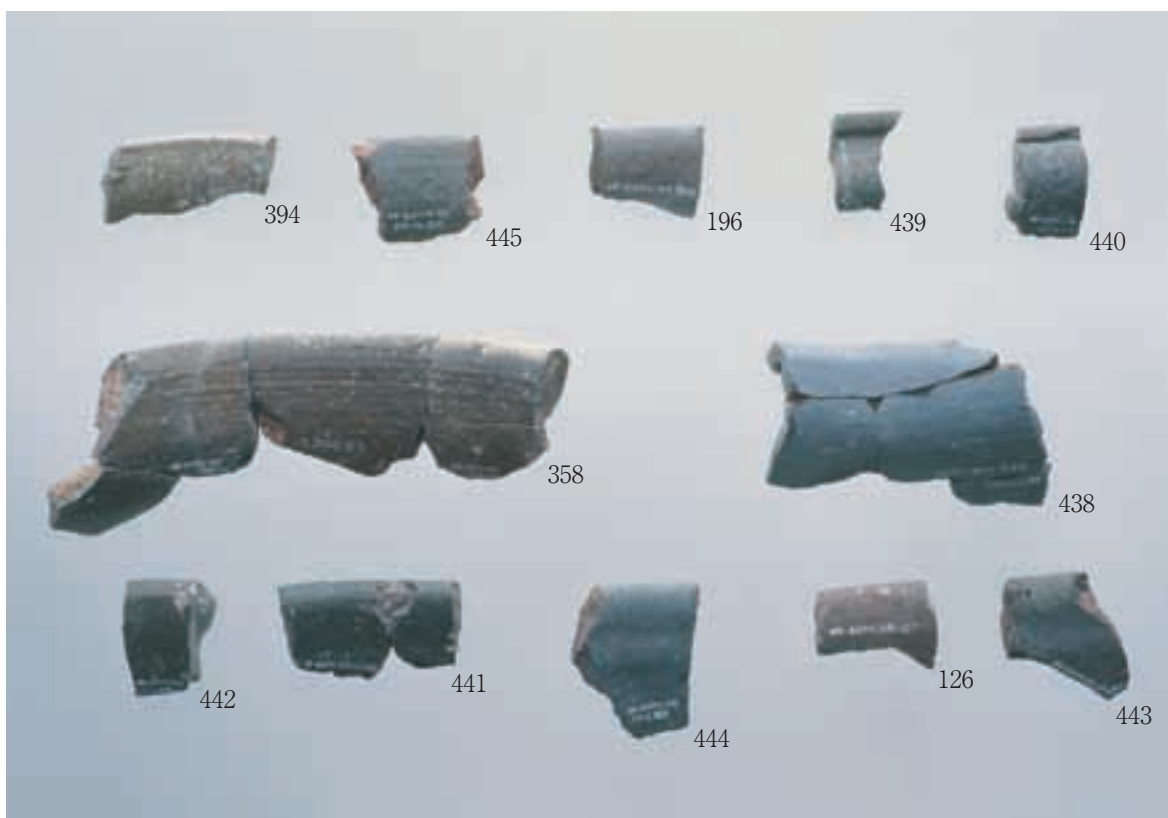


出土遺物39 (D区)

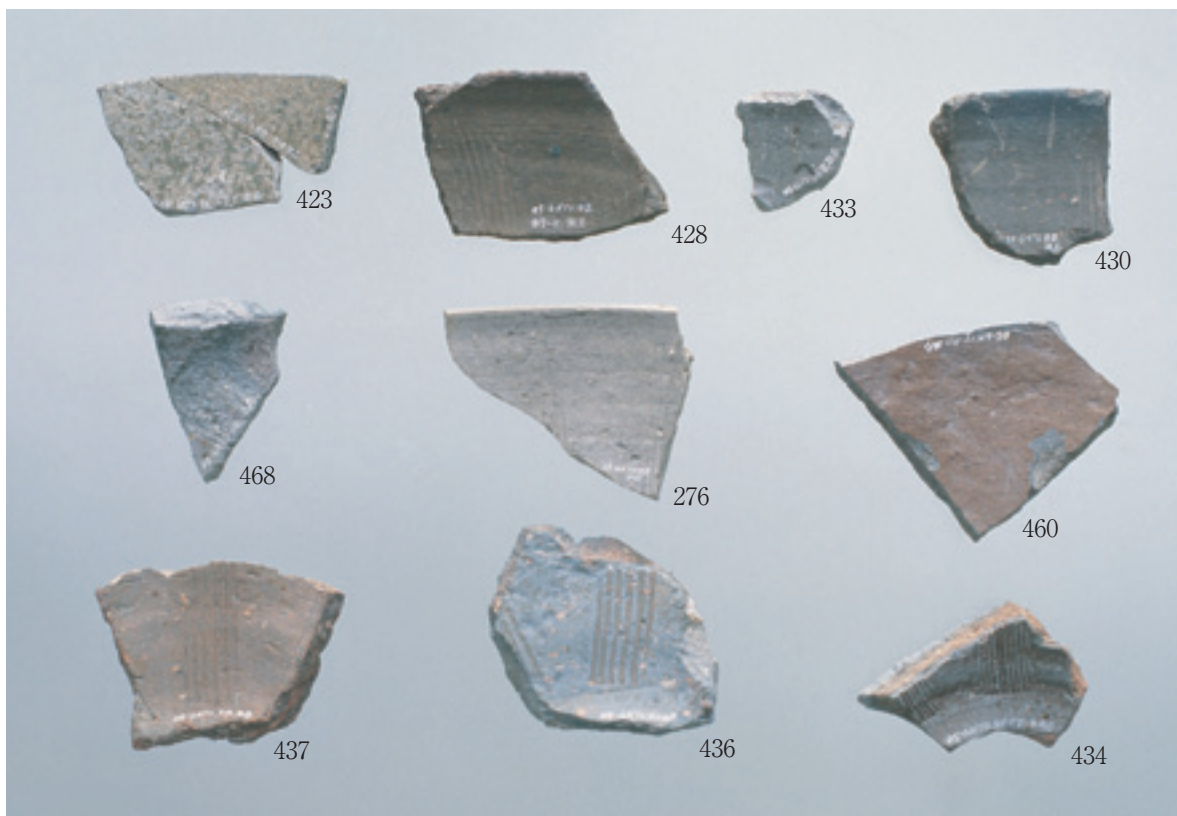
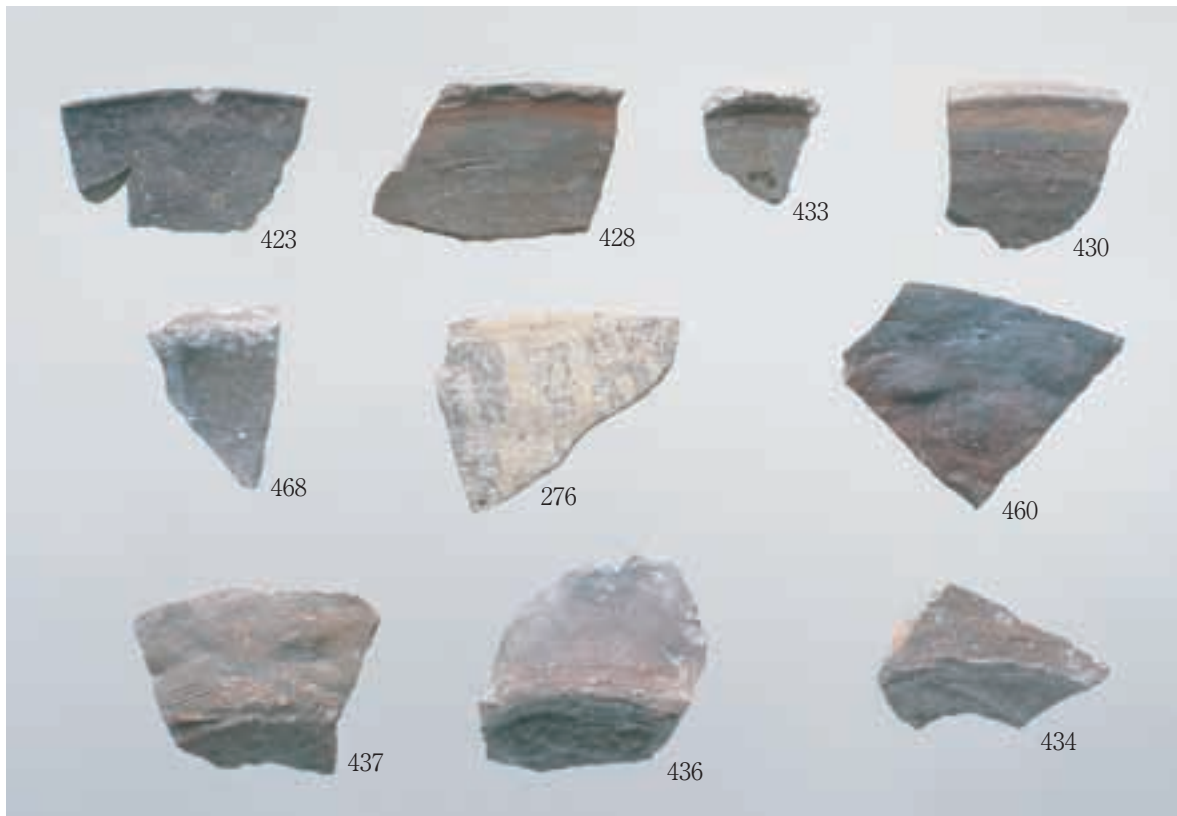


出土遺物40 (D区)

PL118

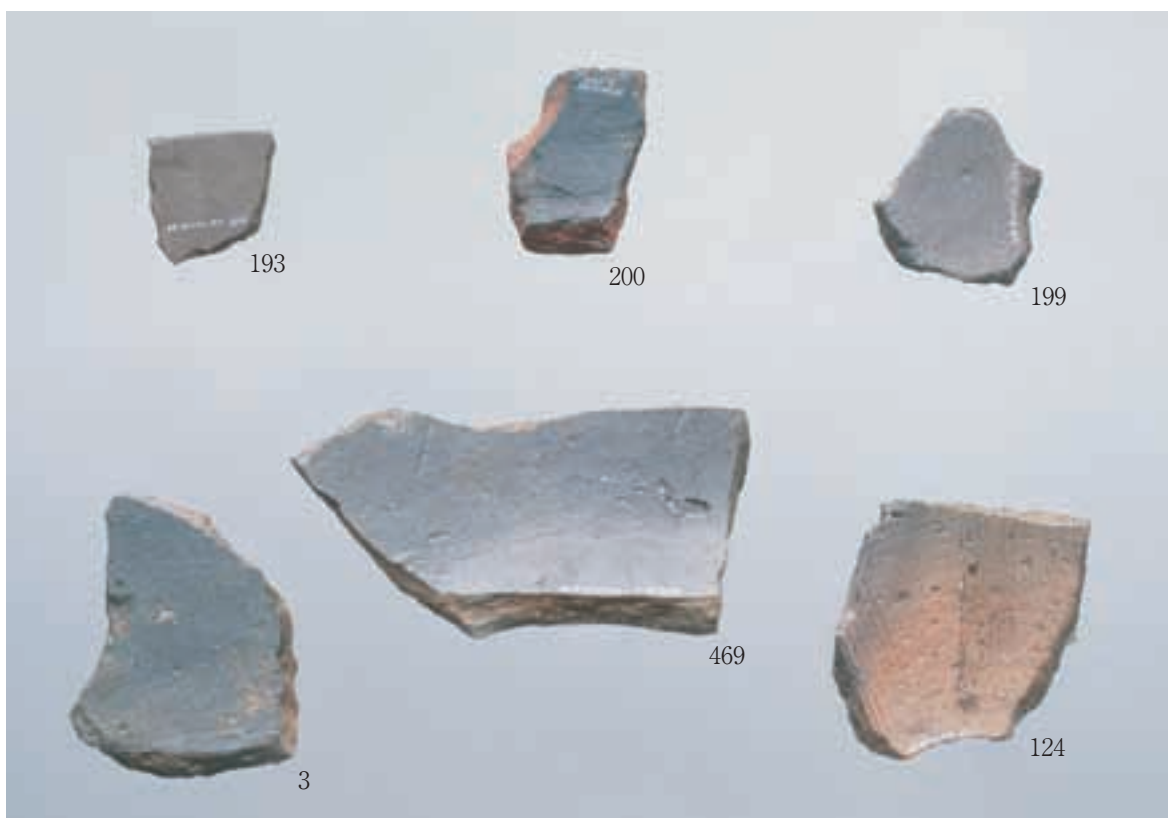


出土遺物41 (D区)



出土遺物42 (D区)

PL120

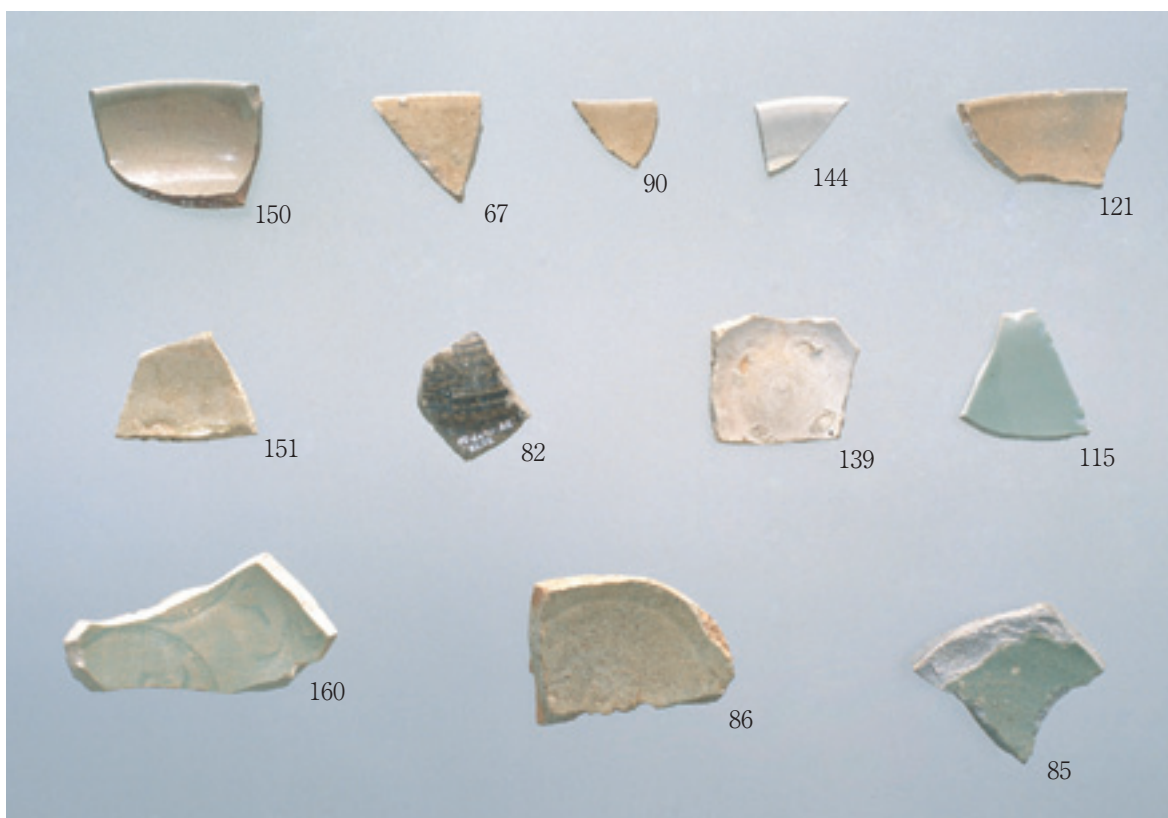


出土遺物43 (D区)



出土遺物44 (D区)

PL122



出土遺物45 (B区)



出土遺物46 (B区)

PL124



出土遺物47 (B区)



出土遺物48 (B区)

PL126



出土遺物49 (E区)



出土遺物50 (E区)



D区 SE1の調査1

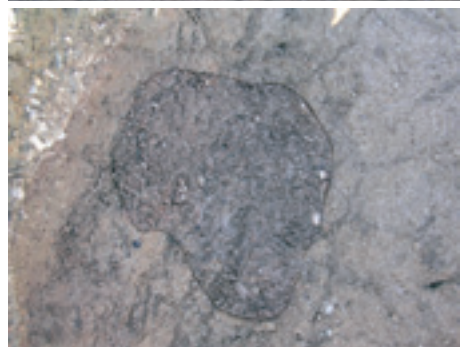
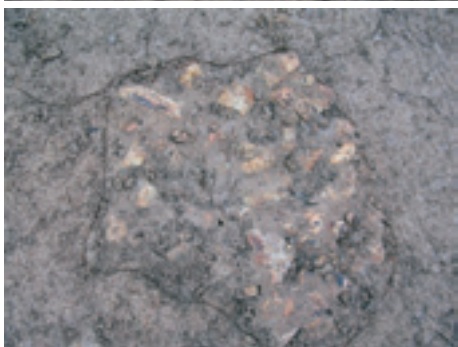
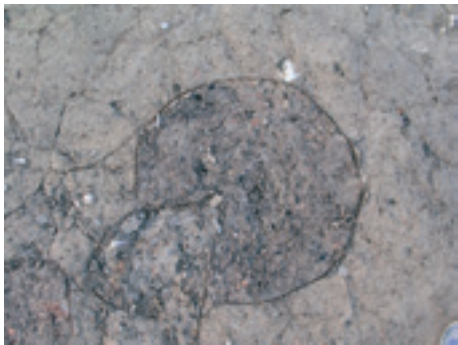


D区 SE1の調査2

PL130

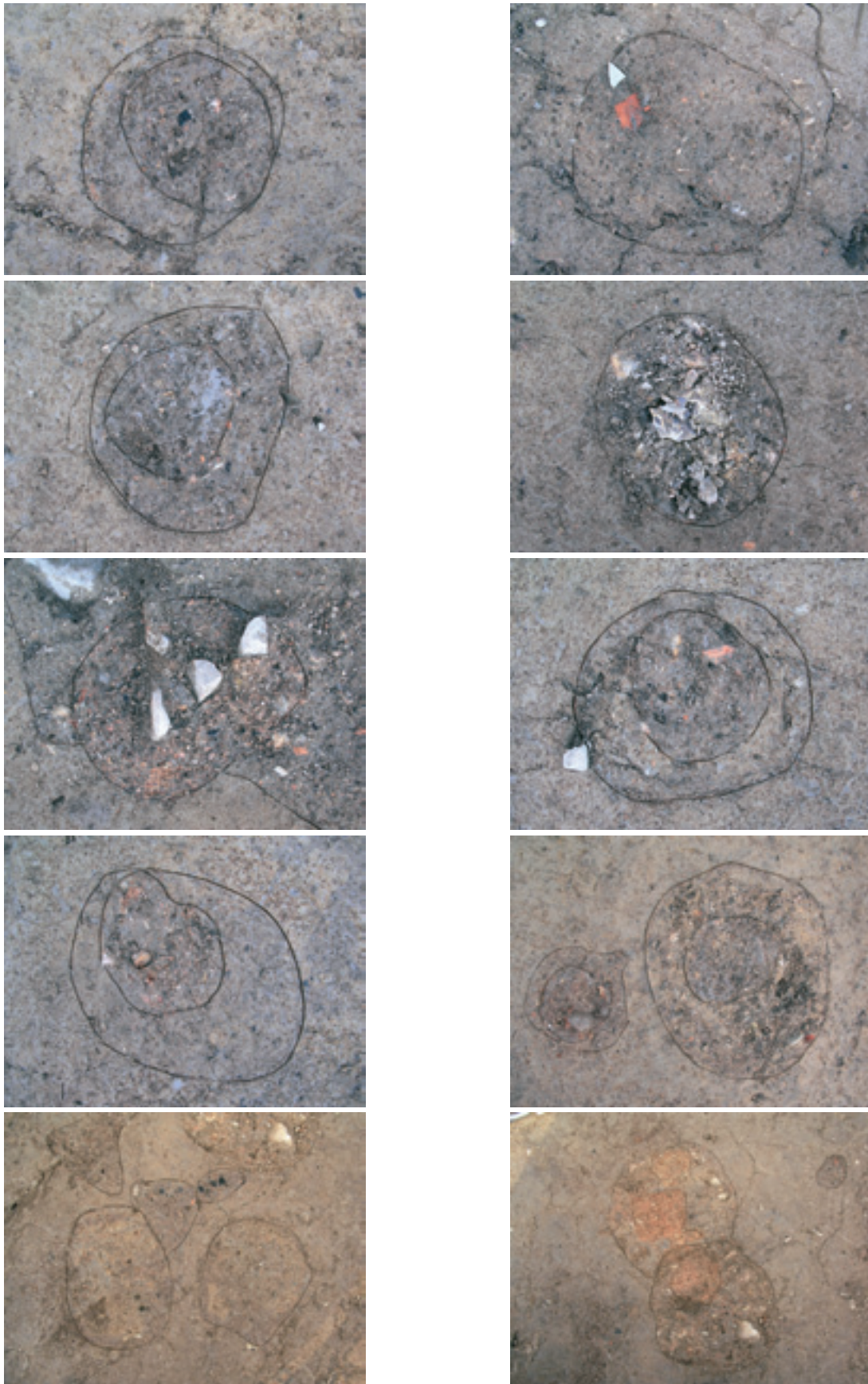


D区 SE1の調査3



C区 柱穴の検出

PL132



D区 柱穴の検出

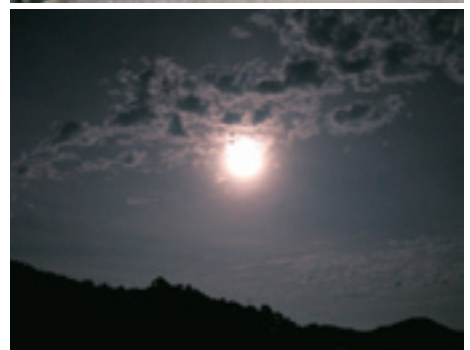


C区・D区の遺構

PL134



調査風景1



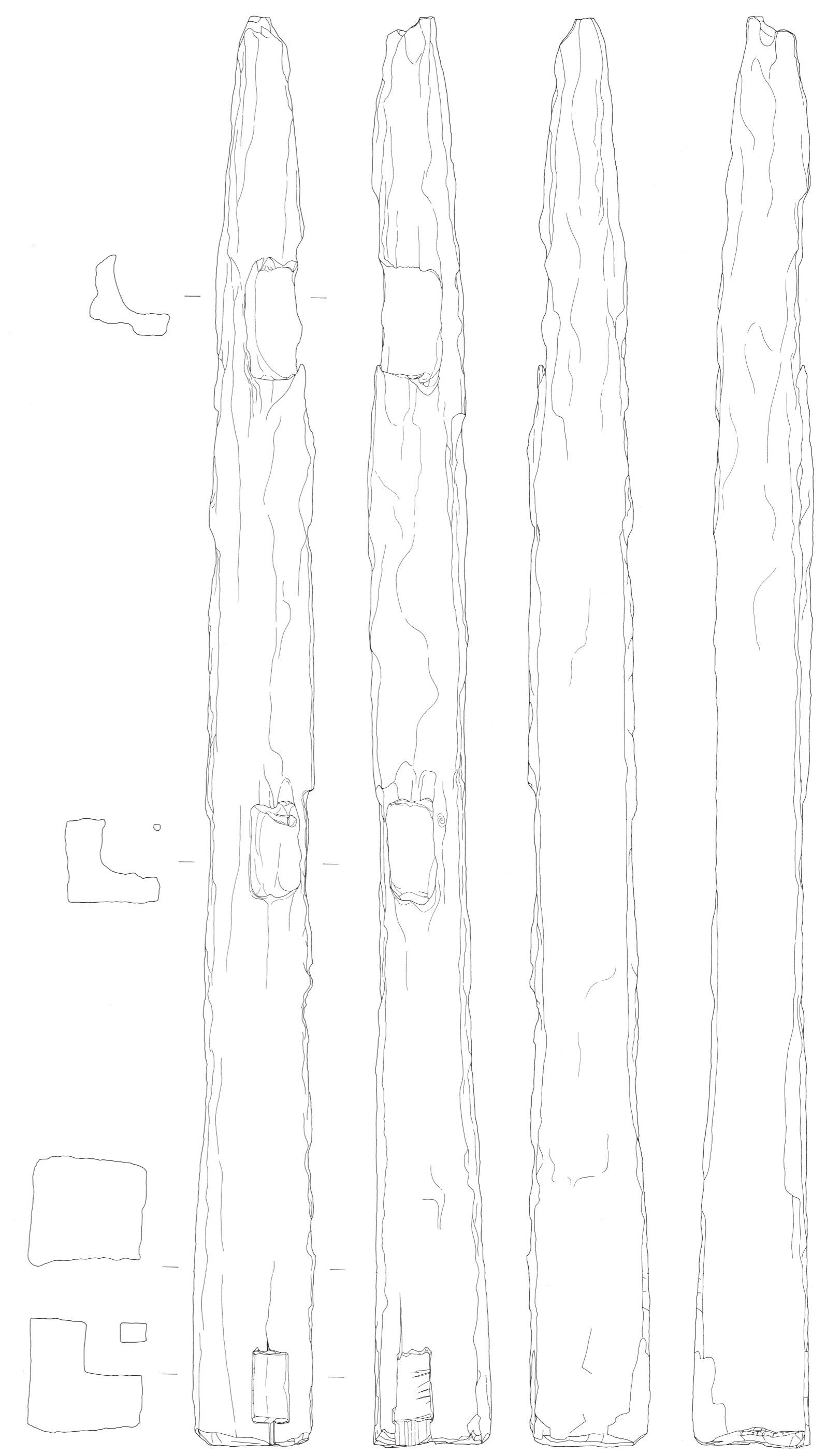
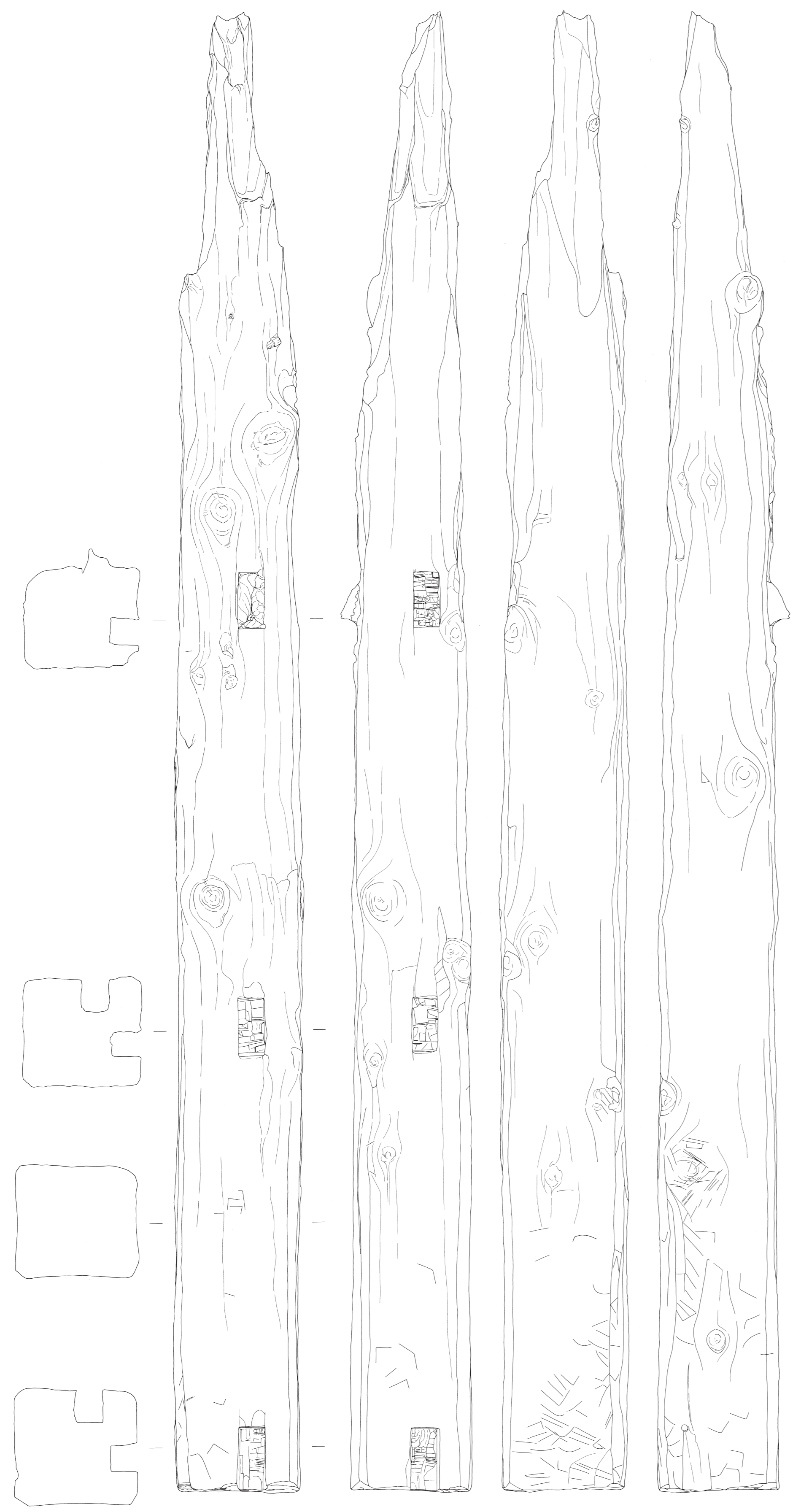
調査風景2



調査風景3

報告書抄録

ふりがな	つぼのうちいせき							
書名	坪ノ内遺跡Ⅱ							
副書名	四国横断自動車道(須崎～窪川間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅰ							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第105集							
編著者名	武吉眞裕・藤方正治							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL088-864-0671							
発行年月日	2008.3.31							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つぼのうちいせき 坪ノ内遺跡	〒783-0003 高知県中土佐町 くれみちのかわ 久礼道の川	39401	370026	33° 20' 32"	133° 13' 25"	2005.06.13 ～ 2006.04.30	5,350 m ²	四国横断 自動車道 (須崎～窪 川間)建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
坪ノ内遺跡	集落	弥生時代 前期末 から後期 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	井戸跡 掘立柱建物跡 土坑		弥生土器 土師器 瓦器 須恵器 国産陶磁器 貿易陶磁			
要約	<p>道の川が形成する氾濫原から丘陵の裾部にかけて弥生時代の遺物が存在している。中世以降では、ここに掘立柱建物や井戸などを伴った集落が形成されていたものと考えられる。建物を構成したものと考えられる柱穴群は残存良好で幾度かの建て替えによるものであろうか重複の度合いが高い。井戸跡は数基が確認されている。素掘り井戸、木組井戸、石組井戸であり、このうち木組井戸については井戸枠の下部構造が良好に残されていた。遺物は、土師器の杯や皿、瓦器の椀や皿、常滑や備前産の甕、東播系須恵器、播鉢、瀬戸美濃産の陶器、白磁、同安系青磁、龍泉窯系青磁、建窯産天目茶碗などである。</p>							

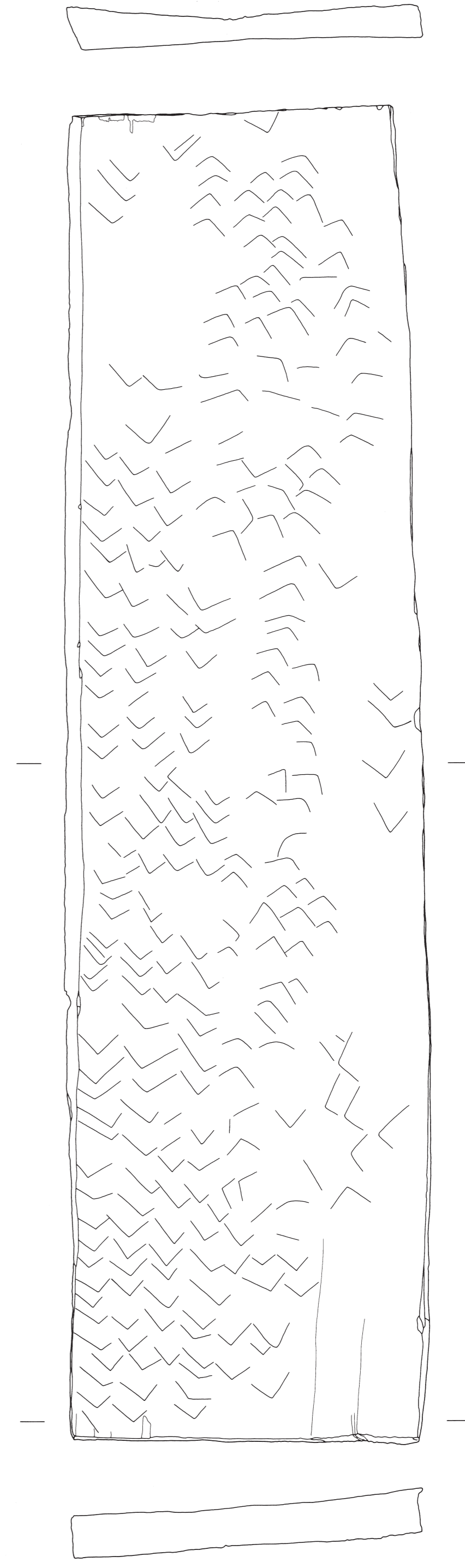
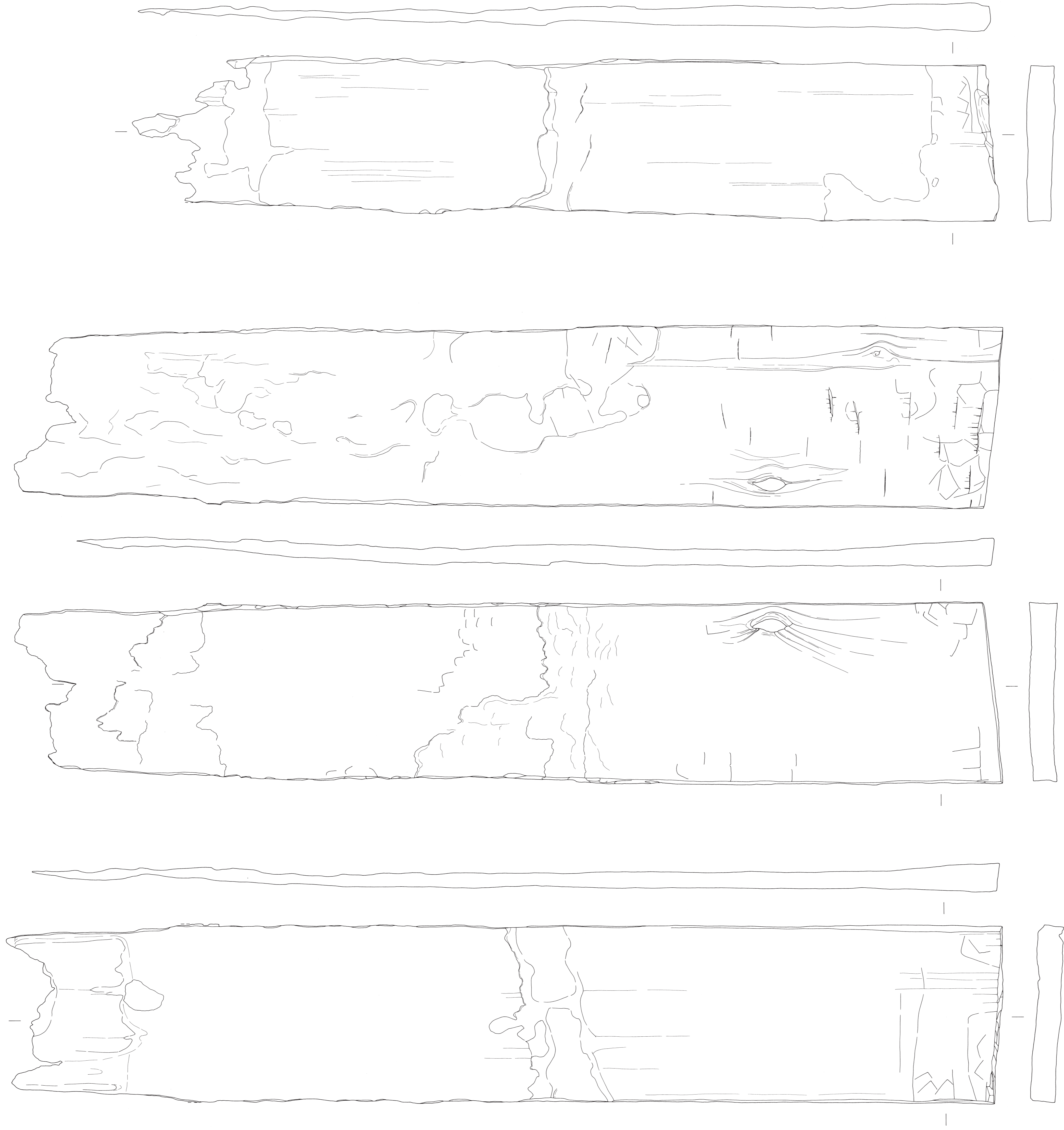


0 25cm

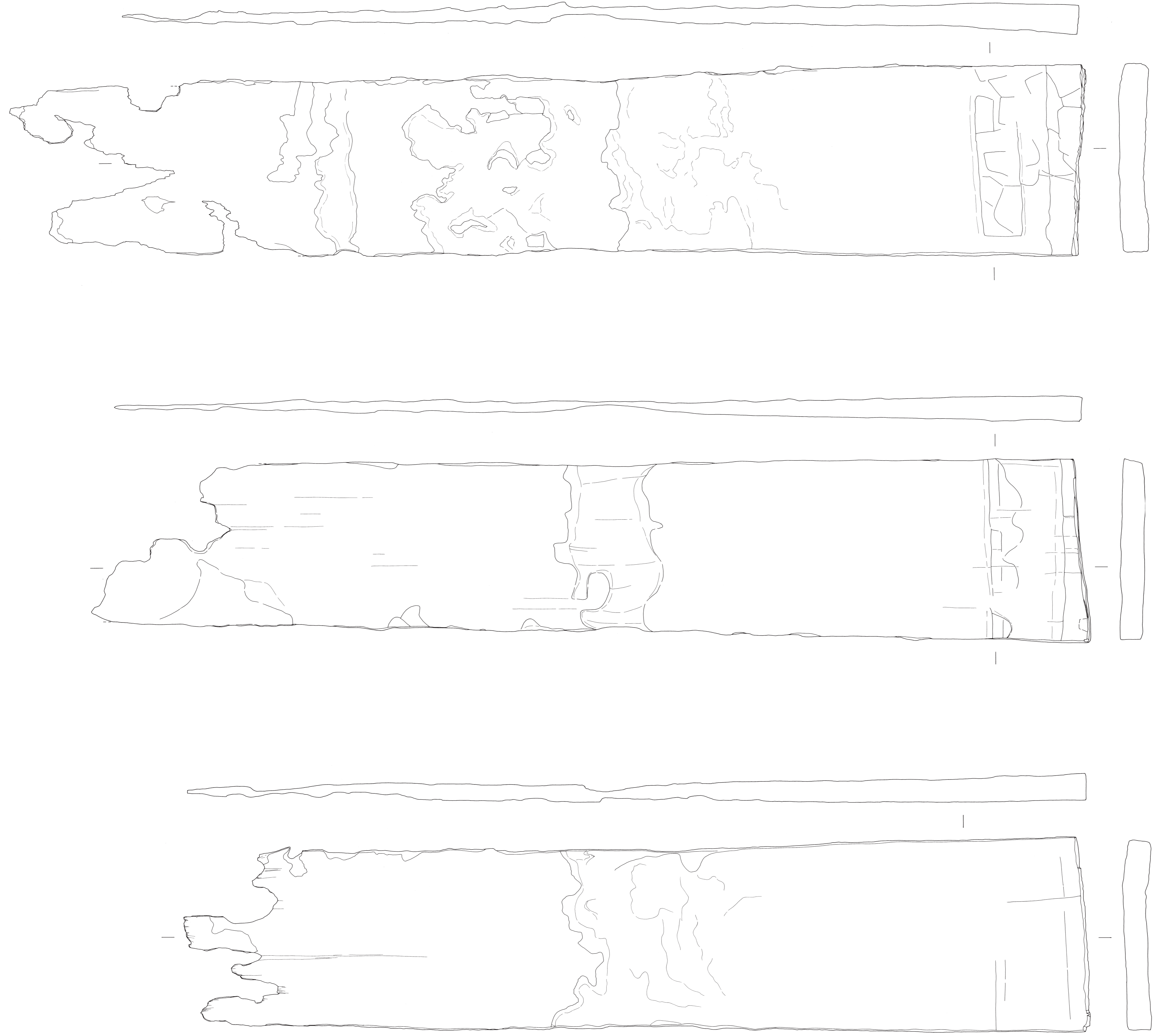
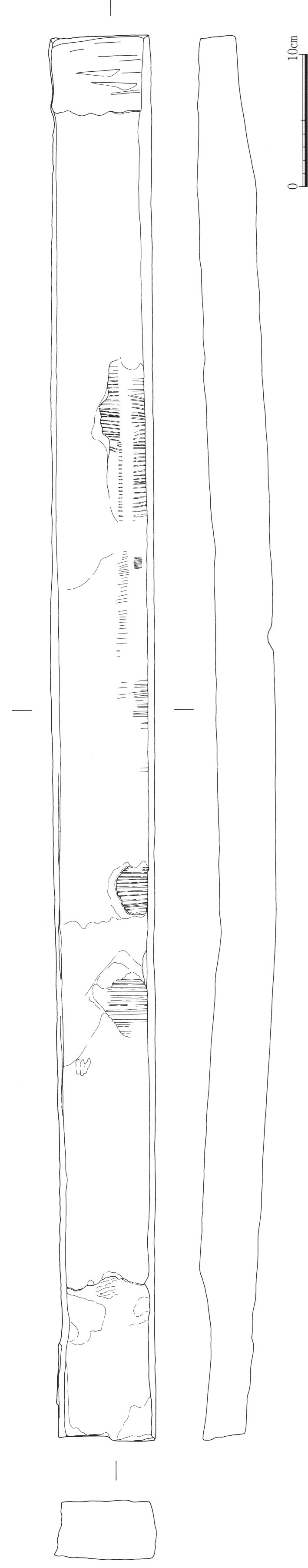
付図1 D区 SE1 木組井戸枠1 (柱1・2)



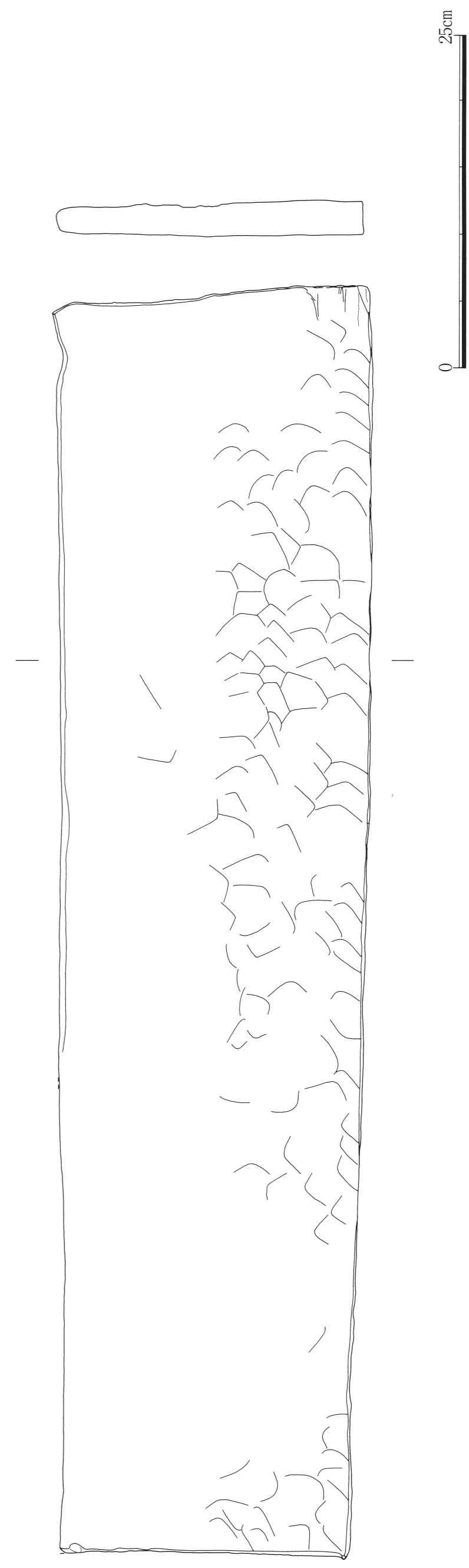
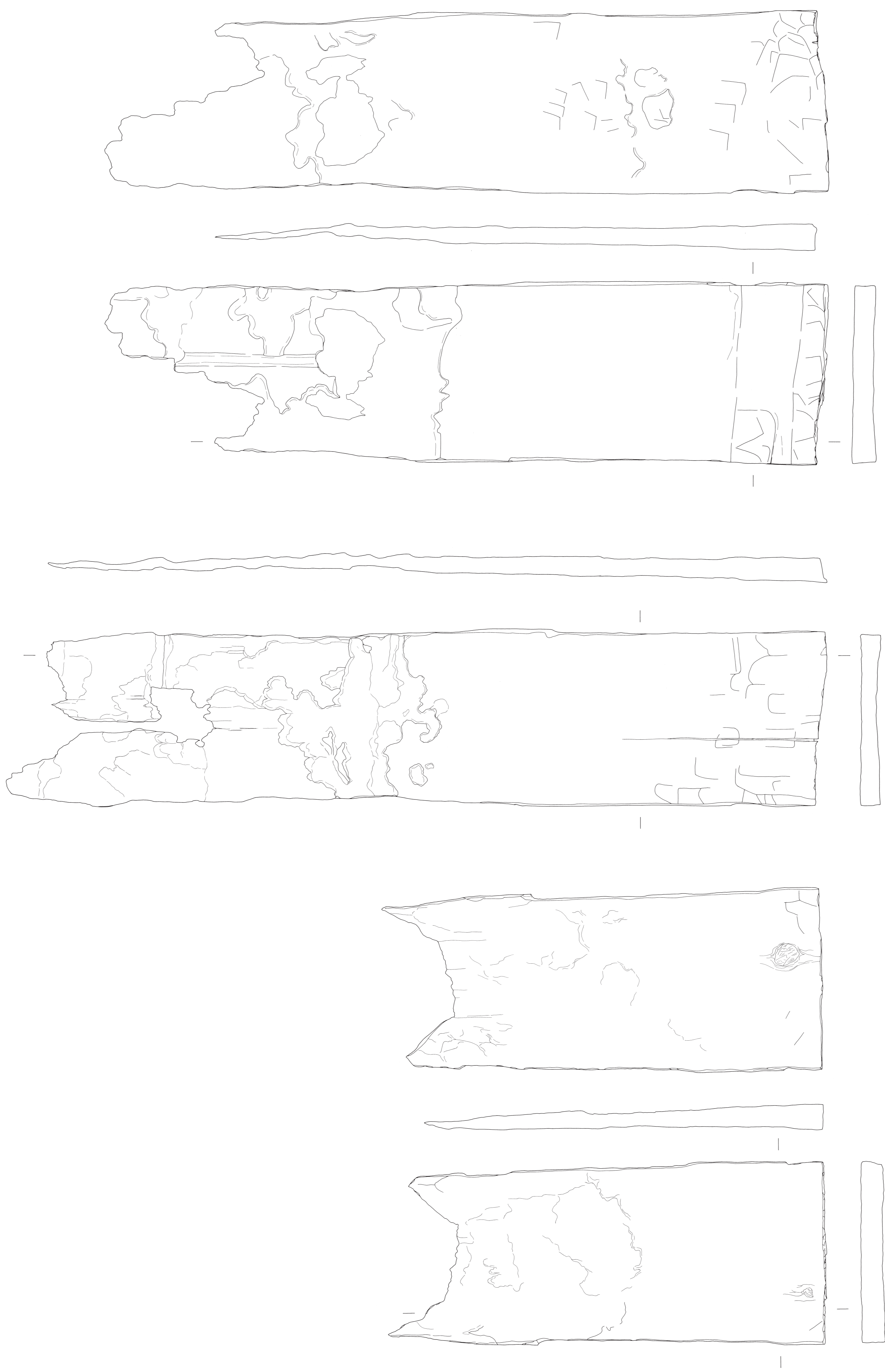
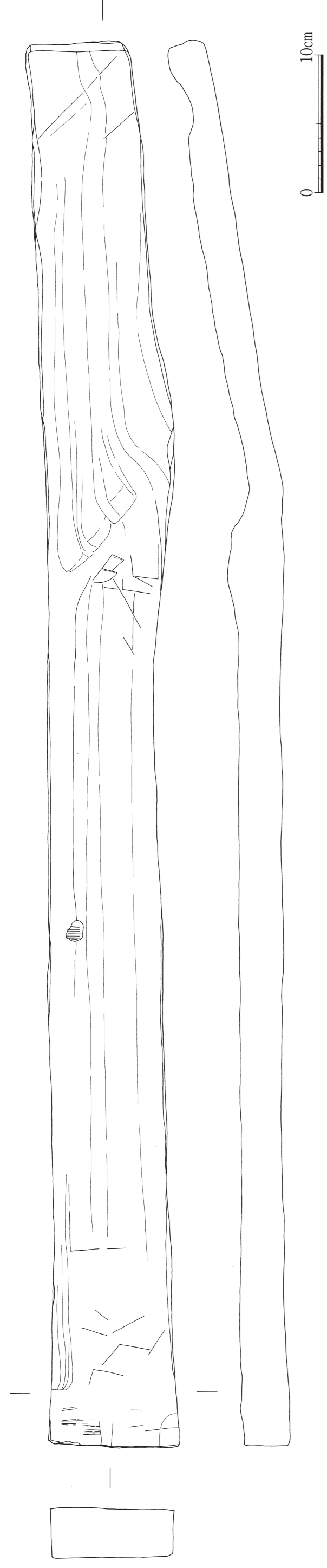
付図2 D区 SE1 木組井戸枠2 (柱3・4)



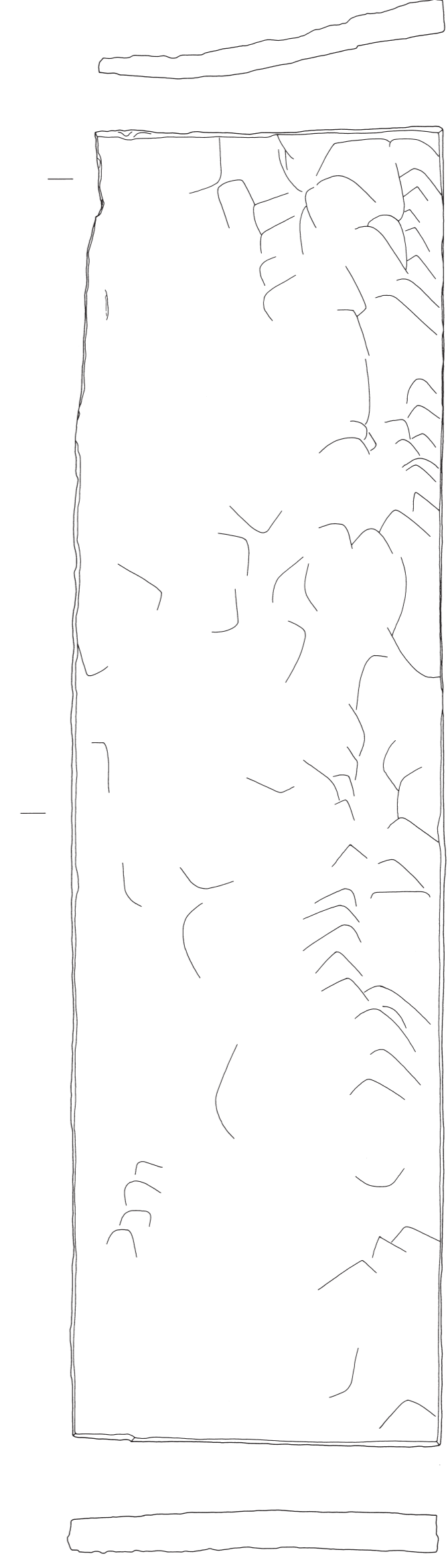
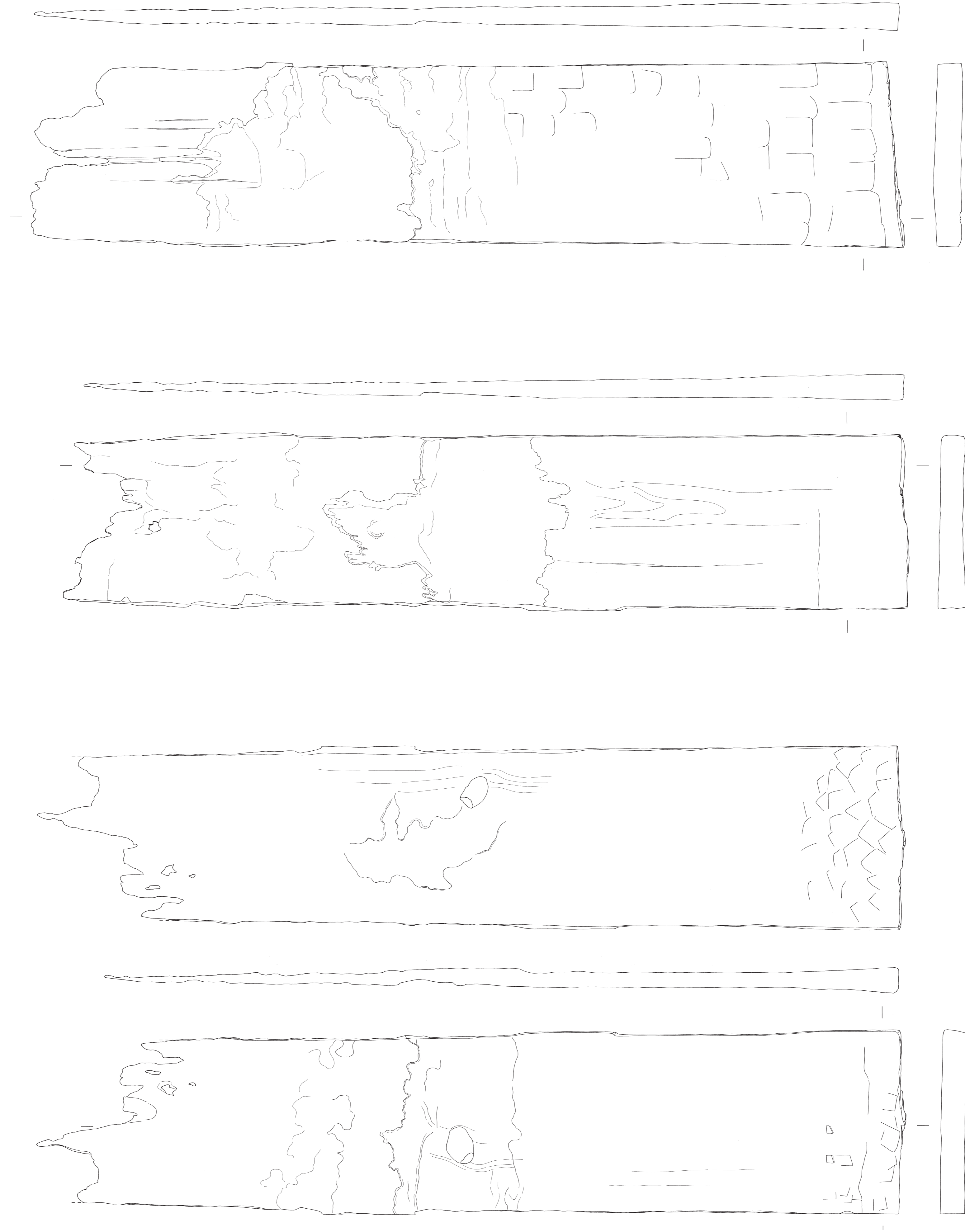
付図3 D区 SE1 木組井戸枠3 (1面)



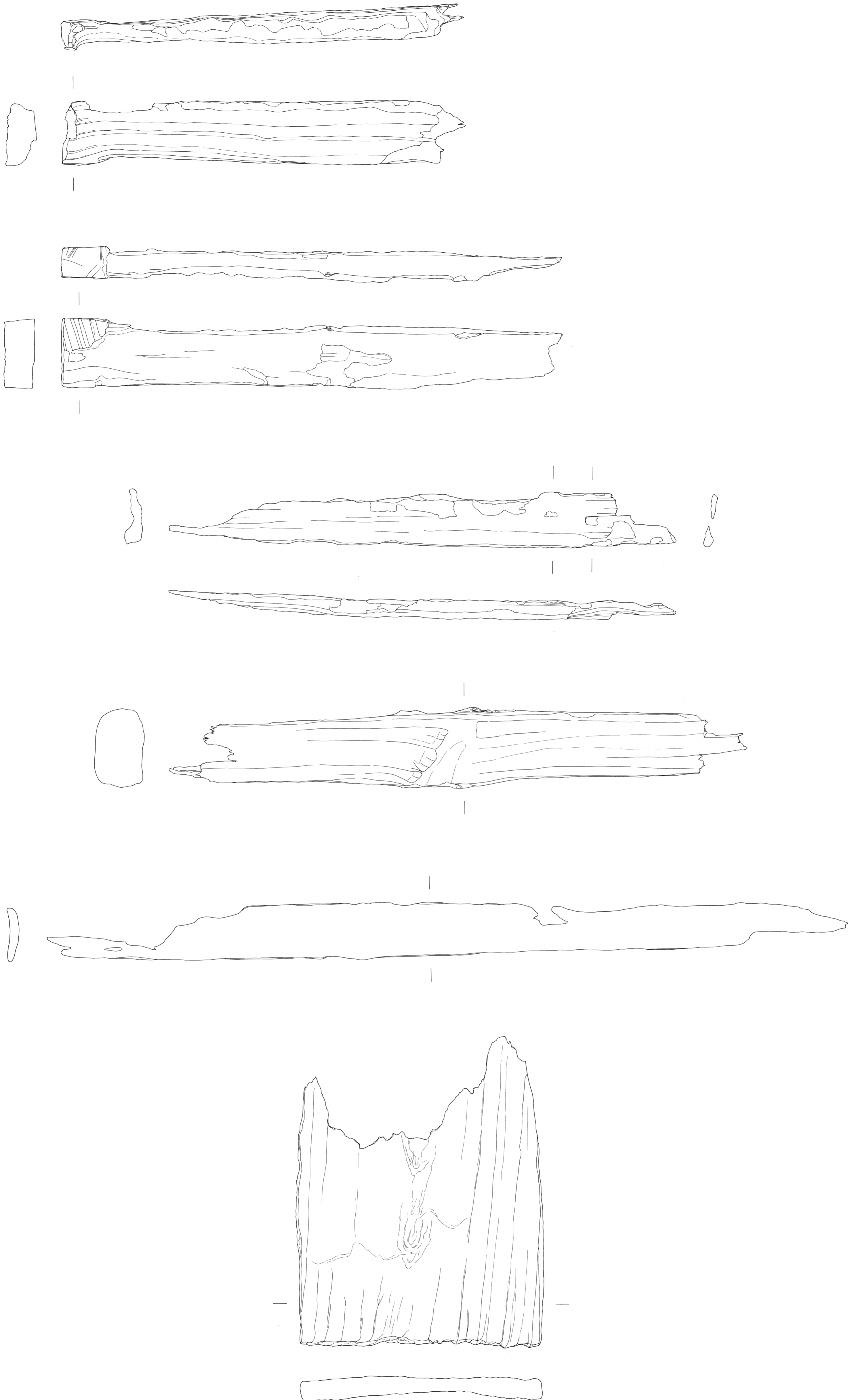
付图 4 D区 SE1 木組井戸枠4 (2面)



付図5 D区 SE1 木組井戸枠5 (3面)



付図6 D区 SE1 木組井戸枠6 (4面)



付図7 D区 SE1 木組井戸枠7

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第105集

坪ノ内遺跡Ⅱ

四国横断自動車道(須崎～窪川間)建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008年3月31日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原南泉1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社

